

江戸川区

介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画 改定のための基礎調査 報告書

平成23年(2011年)4月





報告書発刊にあたって

介護保険制度が施行されてから今年で12年目を迎えます。平成27年にはいわゆる「団塊の世代」も65歳以上となり、介護サービスの需要は今後もさらに高まっていくと見込まれています。

本報告書は「第5期介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画」策定のための基礎的な資料として、団塊の世代を含む区民の皆様の健康と生きがいに関する意識、介護保険サービスの利用状況、介護保険サービス提供者の現状などを幅広く調査・分析したものです。

発刊にあたり、調査にご協力いただいた熟年者及びご家族の方々、また、介護保険サービス事業者をはじめとする各関係機関の皆様に改めてお礼申し上げます。

平成23年4月

江戸川区

[目 次]

【1】 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
3. 報告書利用上の注意	4
4. 調査結果の分類・点数化	5
(1) 居住地(日常生活圏域)について	5
(2) 手段的日常生活動作(IADL)、日常生活動作(ADL)について	6

【2】 調査結果の詳細

第1章 健康と生きがいに関する調査

1. 基本的属性	11
(1) 性別、現在の満年齢	11
(2) 居住地(日常生活圏域)	12
(3) 世帯構成	13
(4) 住居の形態	14
(5) 居住階数、エレベーターの有無	15
(6) 本人と配偶者の収入源、年収	16
2. 健康について	17
(1) かかりつけ医の有無	17
(2) 健康状態	18
(3) 現在治療中の病気	19
3. 健康づくり・介護予防について	20
(1) 健康のために心がけていること	20
(2) 介護予防の理解度	21
(3) 健康づくり・介護予防の情報入手方法	22
(4) 健康づくり・介護予防の講座への参加状況、参加したことがない理由	23
(5) 介護予防の取り組み意向	24
4. 就労、社会参加、生きがいづくりについて	25
(1) 現在の就労状況	25
(2) 今後の就労意向	26
(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢	28
(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動	29
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動	30
(6) 取り組んでみたいボランティア活動	31
(7) インターネットの利用状況	32
5. 地域とのかかわりについて	33
(1) 近所の人とのつきあいの程度	33

(2) 家族等との会話の頻度	34
6. 今後の暮らしや介護について	35
(1) 将来の生活で不安を感じること	35
(2) 今後介護を受けたい場所	36
(3) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	39
(4) 健康サポートセンターの認知度、利用経験	40
(5) 地域包括支援センターの認知度	41
(6) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由	42
(7) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響	43
7. 介護状況について	44
(1) 介護経験の有無、介護した人の続柄	44
(2) 介護をするうえで困ること	45
(3) 介護者にとって必要な支援	46
8. 江戸川区の熟年者施策について	47
(1) 区の熟年者施策の充実度	47
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	48
(3) 区への意見・要望	49

第2章 熟年者の健康と生きがいに関する調査

1. 基本的属性	55
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢	55
(2) 居住地(日常生活圏域)	56
(3) 世帯構成	57
(4) 日中独居の状況	59
(5) 住居の形態	60
(6) 居住階数、エレベーターの有無	62
(7) 本人と配偶者の収入源、年収	63
2. 健康について	64
(1) 健康状態	64
(2) かかりつけ医の有無	65
(3) 現在治療中の病気	66
(4) 飲んでいる薬の種類	67
3. 介護予防について	68
(1) 介護予防のための取り組み状況	68
(2) 介護予防に取り組みやすくするための条件	70
(3) 今後取り組みたい活動	71
4. 日常生活の状況について	73
(1) 手段的日常生活動作(IADL)・日常生活動作(ADL)の自立度	73
(2) 生活機能の状況	80
(3) 外出頻度	88

(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと.....	89
(5) 現在の生活で不安に感じること.....	91
5. 就労、社会参加、生きがいつくりについて.....	92
(1) 現在の就労状況.....	92
(2) 今後の就労意向.....	93
(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢.....	95
(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動.....	96
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動.....	98
(6) 取り組んでみたいボランティア活動.....	100
(7) インターネットの利用状況.....	102
6. 地域とのかかわりについて.....	103
(1) 近所の人とのつきあいの程度.....	103
(2) 家族等との会話の頻度.....	105
7. 今後の暮らしや介護について.....	107
(1) 今後介護を受けたい場所.....	107
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと.....	110
(3) 健康サポートセンターの認知度、利用経験.....	111
(4) 地域包括支援センターの認知度.....	112
(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由.....	113
(6) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響.....	114
8. 江戸川区の熟年者施策について.....	115
(1) 区の熟年者施策の充実度.....	115
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと.....	116
(3) 区への意見・要望.....	117

第3章 介護予防に関する調査

1. 基本的属性.....	123
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢.....	123
(2) 居住地(日常生活圏域).....	124
(3) 世帯構成.....	125
(4) 日中独居の状況.....	127
(5) 住居の形態.....	128
(6) 居住階数、エレベーターの有無.....	129
2. 健康について.....	130
(1) かかりつけ医の有無.....	130
(2) 現在治療中の病気.....	131
(3) 飲んでいる薬の種類.....	132
(4) 医療処置の状況.....	133
3. 介護予防について.....	134
(1) 介護予防の印象.....	134

(2) 介護予防相談の状況、相談に行かなかった理由	135
(3) 介護予防事業の参加状況	137
(4) 介護予防事業に参加してよかったこと	138
(5) 介護予防事業に参加しなかった理由	139
(6) 今後取り組みたい活動	140
(7) 介護予防に取り組みやすくするための条件	142
4. 日常生活の状況について	143
(1) 手段的日常生活動作(IADL)・日常生活動作(ADL)の自立度	143
(2) 生活機能の状況	146
(3) 外出頻度	151
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	152
(5) 現在の生活で不安に感じる事	153
5. 地域とのかかわりについて	154
(1) 近所の人とのつきあいの程度	154
(2) 家族等との会話の頻度	155
6. 今後の暮らしや介護について	156
(1) 今後介護を受けたい場所	156
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	158
(3) 健康サポートセンターの認知度、利用経験	159
(4) 地域包括支援センターの認知度	160
(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由	161
7. 江戸川区の熟年者施策について	162
(1) 区の熟年者施策の充実度	162
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	163
(3) 区への意見・要望	164

第4章 介護保険サービス利用に関する調査

1. 基本的属性	169
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢	169
(2) 居住地(日常生活圏域)	171
(3) 世帯構成	172
(4) 日中独居の状況	174
(5) 住居の形態	175
(6) 居住階数、エレベーターの有無	176
(7) 本人と配偶者の収入源、年収	177
2. 要介護度及び健康について	178
(1) 要介護度	178
(2) 支援や介護が必要となった原因	179
(3) かかりつけ医の有無	181
(4) 現在治療中の病気	182

(5) 飲んでいる薬の種類	183
(6) 医療処置の状況	184
3. 日常生活の状況について	186
(1) 手段的日常生活動作(IADL)・日常生活動作(ADL)の自立度	186
(2) 生活機能の状況	194
(3) 外出頻度	202
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	203
4. 介護保険サービスの利用状況について	205
(1) 介護保険サービスの利用状況	205
(2) サービスを利用していない理由	206
(3) 在宅の介護保険サービスの利用状況、満足度	208
5. 今後の暮らしや介護について	215
(1) 今後利用したい介護保険サービス	215
(2) 今後利用したい介護保険外サービス	217
(3) 今後介護を受けたい場所	219
(4) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	221
(5) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響	222
(6) 地域包括支援センターの認知度	223
(7) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由	224
6. 介護者の状況について	225
(1) 家族介護の状況	225
(2) 主な介護者の年齢	227
(3) 介護をするうえで困ること	228
(4) 介護者にとって必要な支援	229
7. 江戸川区の熟年者施策について	230
(1) 区の熟年者施策の充実度	230
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	232
(3) 区への意見・要望	233

第5章 区民向け4調査間の比較結果

1. 基本的属性	239
(1) 居住地(日常生活圏域)	239
(2) 世帯構成	240
2. 健康・介護予防について	241
(1) 健康状態	241
(2) かかりつけ医の有無	242
(3) 介護予防に取り組みやすくするための条件	243
3. 日常生活の状況について	244
(1) 手段的日常生活動作(IADL)の自立度	244
(2) 日常生活動作(ADL)の自立度	244

(3) 生活機能の状況	245
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと.....	249
4. 就労状況、参加活動、生きがいつくりについて.....	250
(1) 今後の就労意向と就労を継続したい年齢.....	250
(2) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動.....	251
(3) 取り組んでみたいボランティア活動.....	252
5. 地域とのかかわりについて	253
(1) 近所の人とのつきあいの程度	253
6. 今後の暮らしや介護について	254
(1) 今後介護を受けたい場所.....	254
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと.....	255
(3) 介護保険サービスの利用に対する考え	256
(4) 介護保険料の家計への影響	256
7. 江戸川区の熟年者施策について	257
(1) 区の熟年者施策の充実度	257
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと.....	258

第6章 介護保険サービス事業者調査

1. 基本事項について	261
(1) 事業所の所在地	261
(2) 事業所の法人組織	262
(3) 実施している介護サービス事業.....	263
(4) 提供実績、従業者数.....	264
2. 事業の経営について	265
(1) 昨年度の収支が黒字であったサービス.....	265
(2) 縮小・撤退を考えているサービス.....	266
(3) 縮小・撤退を考えている理由	267
(4) 事業の拡大・新規参入を考えているサービス.....	268
(5) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの参入意向	269
(6) 複合型サービスの参入意向.....	270
3. サービスの質の確保について.....	271
(1) 自己評価の実施状況、自己評価を行っていない理由	271
(2) 利用者評価の実施状況、利用者評価を受けていない理由.....	272
(3) 第三者評価の実施状況、第三者評価を受けていない理由.....	273
(4) 評価以外の質の向上のための取り組み状況.....	274
(5) 苦情やトラブルの内容、苦情やトラブルへの対応.....	275
(6) 医療との連携に関する課題	277
4. 人材の確保や雇用管理について	278
(1) 人材確保や雇用管理に関する課題.....	278
(2) キャリアパスの設定状況、今後設ける予定の有無.....	279

(3) 介護職員処遇改善交付金申請状況	280
(4) 人材確保のための東京都等の施策の活用状況	281
5. 区に対する要望について	282
(1) 区に充実・支援してほしいこと	282
(2) 今後力を入れるべき江戸川区の熟年者施策	283
(3) 区への意見・要望	284
6. 居宅介護支援事業について(居宅介護支援事業者向け設問).....	285
(1) 連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者.....	285
(2) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み.....	286
7. 居宅サービス事業について(居宅サービス・地域密着型サービス事業者向け設問) 287	
(1) 居宅介護支援事業者について問題と感ずること.....	287
(2) 地域包括支援センターについて問題と感ずること.....	288
(3) 地域包括支援センターに対する意見・要望.....	289
(4) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み.....	290
8. 施設・居住系サービス事業について(施設・居住系サービス事業者向け設問).....	291
(1) 力を入れている取り組み.....	291
(2) 虐待を防止するための取り組み状況.....	292
(3) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み.....	293

第7章 介護支援専門員調査

1. 勤務先の概要	297
(1) 勤務先	297
(2) 勤務地及び法人形態	298
(3) 勤務先の併設事業の有無	299
2. 基本的属性	300
(1) 本人の性別、現在の満年齢	300
(2) 介護支援専門員としての実務年数	301
(3) 主任介護支援専門員の割合、経験年数	302
(4) 介護支援専門員以外の保有資格	303
(5) 現在の勤務形態、兼務している業務	304
(6) 介護支援専門員業務の比率	305
3. ケアマネジメント業務の状況	306
(1) 担当している利用者数	306
(2) 支援や対応に困難を感じている利用者数.....	307
(3) 支援や対応に困難を感じているケースの状況	308
(4) ケアプランへの利用者等の要望・意向の反映状況	309
(5) 家族の不安や悩み等について感ずること	310
(6) 主治医等の医療機関との連携状況.....	311
(7) 地域包括支援センターとの連携状況.....	312
(8) 地域包括支援センター機能に対する評価.....	313

(9) 地域包括支援センターに対する意見・要望等	314
(10) サービス提供事業所に関する情報収集方法	315
4. 業務に関する課題等について	316
(1) 不足していると感じる介護保険サービス	316
(2) 充実すべき区の保健福祉サービス	317
(3) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要と思われる利用者数	318
(4) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要な利用者のイメージ	319
(5) ケアマネジメント業務を行ううえで必要な情報	321
(6) 負担に感じるケアマネジメント業務	322
5. 質の確保等について	323
(1) 研修の参加状況	323
(2) 研修に参加していない理由	324
(3) 希望する研修の内容	325
(4) 利用者や家族からの苦情の内容	327
6. 業務の満足度と今後の意向について	328
(1) 現在の勤務先での在職年数	328
(2) 業務及び勤務先に対する満足度	329
(3) ケアマネジメント業務に関するストレスの有無	331
(4) ケアマネジメント業務に関するストレスの内容	332
(5) 転職意向	333
(6) 介護支援専門員としての就労意向	334
7. 今後の区の施策等について	335
(1) 在宅生活の継続に必要な条件	335
(2) 区に支援・充実してほしいと思うこと	336
(3) 区への要望・意見	337

【3】参考資料 調査票

(1) 健康と生きがいに関する調査	341
(2) 熟年者の健康と生きがいに関する調査	348
(3) 介護予防に関する調査	356
(4) 介護保険サービス利用に関する調査	364
(5) 介護保険サービス事業者調査	374
(6) 介護支援専門員調査	382

【1】調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成24年度～平成26年度を計画期間とする「第5期介護保険事業計画」及び「熟年しあわせ計画」の改定の基礎資料として用いるために実施した。

2. 調査の概要

調査名	健康と生きがいに関する調査	熟年者の健康と生きがいに関する調査	介護予防に関する調査
調査方法	郵送配付、郵送回収		
調査対象者	60歳以上65歳未満の要介護認定を受けていない区民 (平成22年11月1日現在)	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成22年11月1日現在)	65歳以上の二次予防事業の候補者・決定者となっている区民 (平成22年11月1日現在)
抽出元及び抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	住民基本台帳より無作為抽出	住民基本台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)
調査期間	平成22年11月22日～12月15日		
対象者及び回収率	対象者数：2,000 有効回収数：1,219 有効回収率：61.0%	対象者数：2,500 有効回収数：1,753 有効回収率：70.1%	対象者数：1,000 有効回収数：803 有効回収率：80.3%

調査名	介護保険サービス利用に関する調査	介護保険サービス事業者調査	介護支援専門員調査
調査方法	郵送配付、郵送回収		
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 (平成22年11月1日現在)	区内すべての介護保険サービス事業者 (平成23年1月1日現在)	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会に加入し、介護支援専門員として従事している会員
抽出元及び抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)	介護保険事業者名簿	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会会員名簿
調査期間	平成22年 11月22日～12月15日	平成23年1月11日～1月31日	
対象者及び回収率	対象者数：2,500 有効回収数：1,607 有効回収率：64.3%	対象者数：336 有効回収数：220 有効回収率：65.5%	対象者数：381 有効回収数：244 有効回収率：64.0%

3. 報告書利用上の注意

○百分率について

百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

○図表の単位について

本文中に掲載したグラフ及びクロス集計の単位は、特にことわりのないかぎり、「%」であらわしている。

○単純集計及び分析について

各質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を百分率(%)の大きなものから小さなものへと並びかえた「ランキング集計」を行っている場合がある。

○クロス集計及び分析について

本報告書では、各調査の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、性別、年齢別、要介護度別等のクロス集計グラフまたはクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

本報告書の分析に用いているクロス集計グラフ及びクロス集計表に関しては、分析の柱である性別、年齢別、要介護度別等について、「無回答」の掲載を省略しているため、分析軸(タテ軸)の回答者数の合計値と「全体」が一致していない場合がある。

○クロス集計表の網掛けについて

クロス集計表は、「全体」を上回るものに対して網掛けを行っている。ただし、表頭の「無回答」は除いている。

○共通項目の比較について

第1章から第4章までの4調査間における共通質問については、【比較調査〇〇参照】のように、第5章における参照ページを示し、結果について比較を行っている場合がある。

4. 調査結果の分類・点数化

(1)居住地(日常生活圏域)について

居住地(日常生活圏域)は、以下の7つの日常生活圏域別に分類し、集計を行っている。

圏域名	該当する町名
区民課	中央、松島、松江、東小松川、西小松川町、大杉、西一之江、春江町4丁目、上一色、本一色、一之江、西瑞江4丁目1~2・10~27、江戸川4丁目15~25、松本、興宮町
小松川	小松川、平井
葛西北	春江町5丁目、西瑞江5丁目、江戸川5・6丁目、一之江町、二之江町、船堀、宇喜田町、東葛西1~3丁目、西葛西1丁目、中葛西1・2丁目、北葛西
葛西南	東葛西4~9丁目、西葛西2~8丁目、中葛西3~8丁目、南葛西、清新町、臨海町、堀江町
小岩	東小岩、西小岩、南小岩、北小岩
東部	春江町2・3丁目、東瑞江、西瑞江2・3丁目・4丁目5~9、江戸川1~3丁目・4丁目1~14、谷河内2丁目、下篠崎町、篠崎町3~6丁目、南篠崎町、東篠崎町、東篠崎、瑞江
鹿骨	新堀、春江町1丁目、谷河内1丁目、鹿骨町、鹿骨、上篠崎、篠崎町1・2・7・8丁目、西篠崎、北篠崎、東松本

※ただし、本調査においては、西瑞江4丁目及び江戸川4丁目は、すべて区民課圏域に分類・集計を行っている

(2) 手段的日常生活動作(IADL)、日常生活動作(ADL)について

本調査では、厚生労働省が推奨する「日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目に準じ、高齢者の生活機能を評価するため、手段的日常生活動作（IADL）、日常生活動作（ADL）の自立度の把握を行っている。

①手段的日常生活動作(IADL)の点数化

手段的日常生活動作（IADL）とは、交通機関の利用、家事、金銭管理など、日常生活を送るために必要な比較的高次の動作のことである。

本報告書においては、手段的日常生活動作（IADL）に関する以下の5項目への回答を、合計が5点満点となるよう配点・点数化し、集計を行っている。

項目	配点	選択肢
①バスや電車で一人で外出する	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
②日用品の買い物をする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
③自分で食事の用意をする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
⑤請求書の支払いをする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」
⑥預貯金の出し入れをする	1	「1. している」または「2. できるがしていない」
	0	「3. できない」

※丸付き数字は調査票における選択肢の番号

②日常生活動作(ADL)の点数化

日常生活動作（ADL）とは、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴など、日常生活を送るために必要な基本的な身体動作のことである。

本報告書においては、日常生活動作（ADL）に関する次ページの10項目への回答を、ADL評価指標として広く用いられているバーセルインデックスの評価方法に従って、合計が100点満点となるよう配点・点数化し、集計を行っている。

目安として、40点以下ならほぼすべての動作に介助が必要、60点以下では起居移動（寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、立位、歩行）動作を中心に介助が必要だと推測でき、完全に自立している場合は100点になる。

項目	配点	選択肢
⑦ 自分でご飯を食べる	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑧ ベッド(寝床)へ移動する	15	「1. できる」
	10	「2. 介助があればできる」
	5	「3. できない」 (⑩座っていることが「1. できる」「2. 支えが必要」の場合)
	0	「3. できない」(⑩座っていることが「3. できない」の場合)
⑨ 洗面や歯磨きをする	5	「1. できる」
	0	「2. 介助があればできる」 または 「3. できない」
⑪ トイレで排泄をする	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑫ 自分で入浴をする	5	「1. できる」
	0	「2. 介助があればできる」 または 「3. できない」
⑬ 50メートル以上歩く	15	「1. できる」
	10	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑭ 階段を昇り降りする	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑮ 自分で着替えをする	10	「1. できる」
	5	「2. 介助があればできる」
	0	「3. できない」
⑯ 大便の失敗	10	「1. ない」
	5	「2. ときどきある」
	0	「3. よくある」
⑰ 小便の失敗	10	「1. ない」
	5	「2. ときどきある」
	0	「3. よくある」

※丸付き数字は調査票における選択肢の番号

【2】調査結果の詳細

第 1 章

健康と生きがいに関する調査

< 調査概要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	60歳以上65歳未満の要介護認定を受けていない区民（平成22年11月1日現在）
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	平成22年11月22日～12月15日
対象者数 及び 回収率	対象者数：2,000 有効回収数：1,219 有効回収率：61.0%

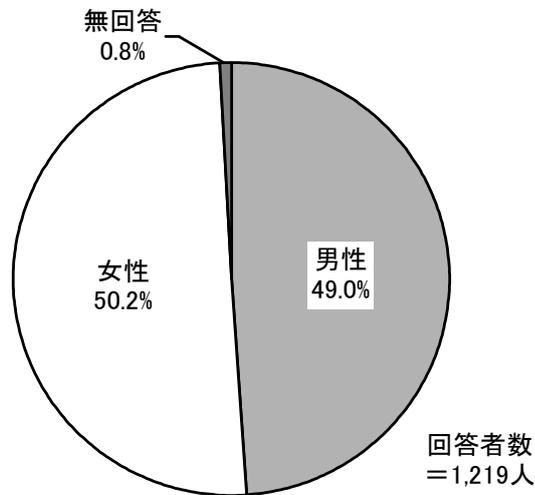
1. 基本的属性

(1) 性別、現在の満年齢

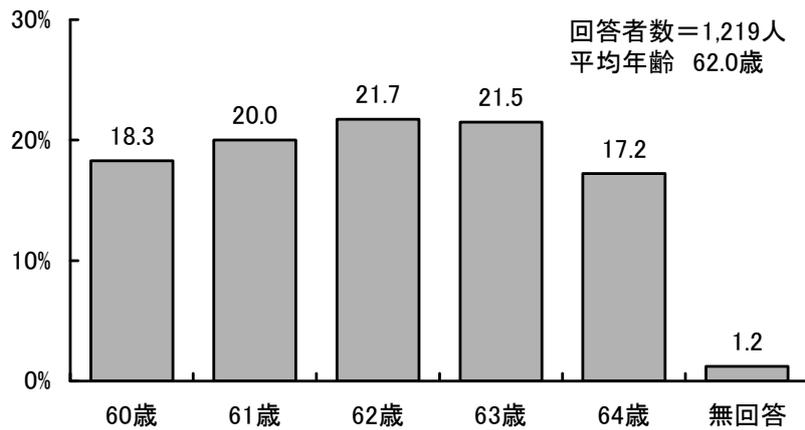
問1 あなたの性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

性別は、「男性」49.0%、「女性」50.2%と、ほぼ半数ずつである。
年齢は、各歳2割前後を占め、平均62.0歳となっている。

図表1-1 性別(単数回答)



図表1-2 年齢(単数回答)

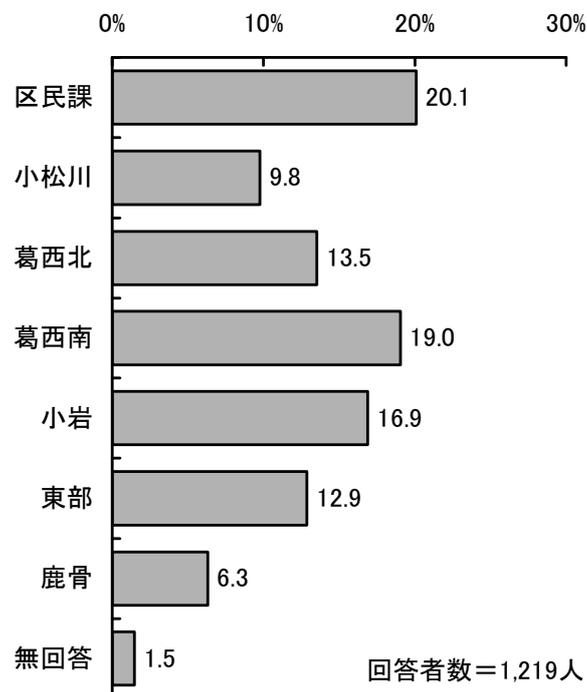


(2)居住地(日常生活圏域)

問2 あなたのお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)をみると、「区民課」20.1%、「葛西南」19.0%、「小岩」16.9%、「葛西北」13.5%、「東部」12.9%、「小松川」9.8%、「鹿骨」6.3%の順となっている。もっとも割合の高い「区民課」ともっとも低い「鹿骨」の差は、13.8ポイントである。

図表1-3 居住地(日常生活圏域)(単数回答)



(3) 世帯構成

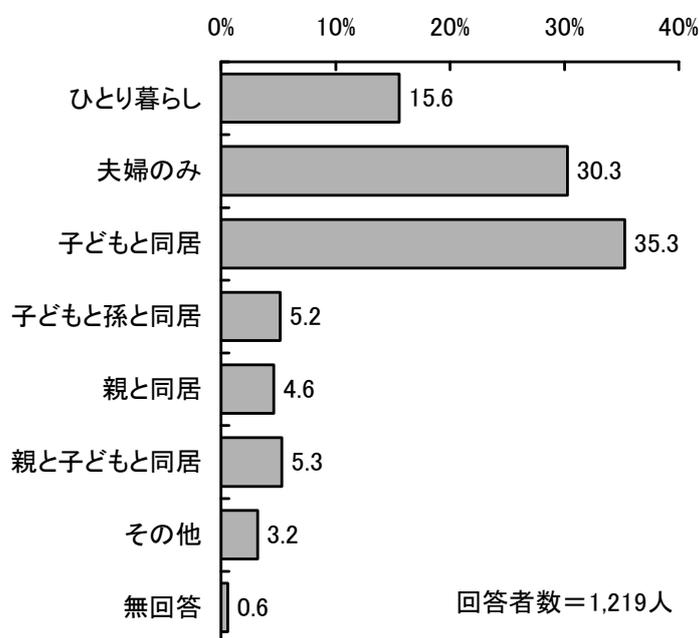
問3 あなたの現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

【比較調査 240 参照】

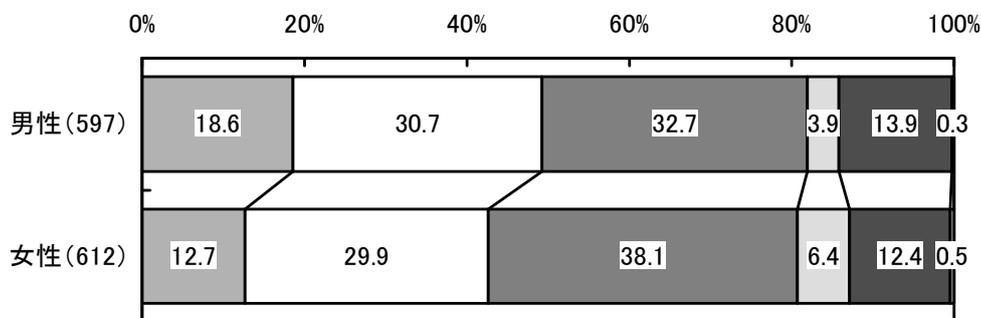
世帯構成は、「子どもと同居」35.3%がもっとも高く、次いで「夫婦のみ」30.3%、「ひとり暮らし」15.6%の順となっている。「親と同居」4.6%、「親と子どもと同居」5.3%をあわせた親と同居している世帯は全体の約1割を占める。

性別にみると、「ひとり暮らし」の割合は、男性18.6%、女性12.7%と、男性の方が高くなっている。

図表1-4 世帯構成(単数回答)



図表1-5 世帯構成



()は回答者数 □ひとり暮らし □夫婦のみ ■子どもと同居 □子どもと孫と同居 ■その他 □無回答

※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

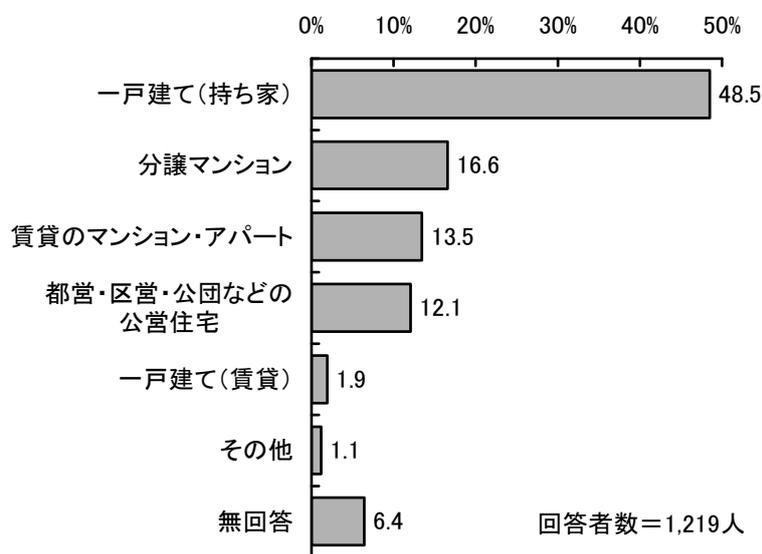
(4)住居の形態

問4 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て（持ち家）」が48.5%と半数近くを占める。次いで、「分譲マンション」16.6%、「賃貸のマンション・アパート」13.5%、「都営・区営・公団などの公営住宅」12.1%と続いている。

日常生活圏域別にみると、区民課、小岩、東部、鹿骨は「一戸建て（持ち家）」が5～6割台を占めており、他に比べて一戸建て（持ち家）の割合が高い。一方、葛西南は、「分譲マンション」「都営・区営・公団などの公営住宅」の割合が高く、「一戸建て（持ち家）」は1割台となっている。

図表1-6 住居の形態(単数回答)



図表1-7 住居の形態

		回答者数(人)	一戸建て(持ち家)	分譲マンション	賃貸のマンション・アパート	都営・区営・公団などの公営住宅	一戸建て(賃貸)	その他	無回答
全体		1,219	48.5	16.6	13.5	12.1	1.9	1.1	6.4
日常生活圏域別	区民課	245	62.0	8.6	16.3	1.2	2.0	1.6	8.2
	小松川	119	38.7	20.2	10.9	21.0	1.7	3.4	4.2
	葛西北	165	46.7	20.6	9.7	15.2	1.8	0.6	5.5
	葛西南	232	15.1	36.6	12.5	26.3	1.7	0.9	6.9
	小岩	206	61.7	8.3	17.0	3.4	1.5	1.5	6.8
	東部	157	65.6	8.3	10.2	10.8	1.3	0.0	3.8
	鹿骨	77	54.5	5.2	18.2	10.4	5.2	0.0	6.5

(5) 居住階数、エレベーターの有無

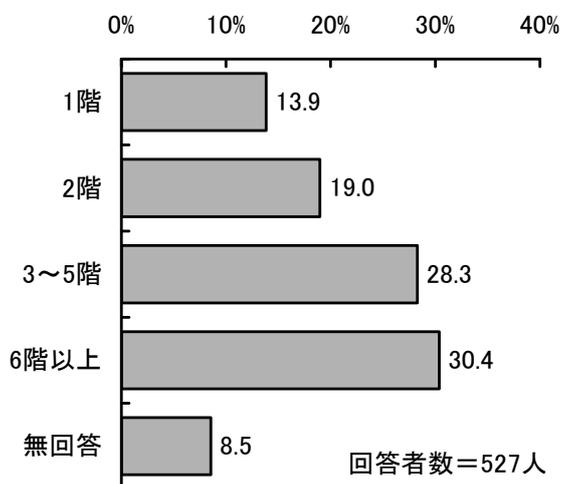
マンションやアパート等にお住まいの方(問4で3~6に○)におうかがいします。

問4-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

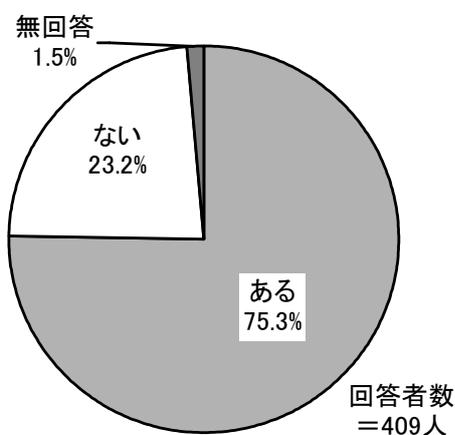
マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「6階以上」が30.4%と約3割を占める。次いで、「3~5階」28.3%、「2階」19.0%、「1階」13.9%となっている。

2階以上に居住している場合のエレベーターの有無をみると、75.3%と約4人に3人が「ある」と回答している。

図表1-8 居住階数(単数回答)



図表1-9 エレベーターの有無(単数回答)



(6) 本人と配偶者の収入源、年収

問5 あなたと配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。

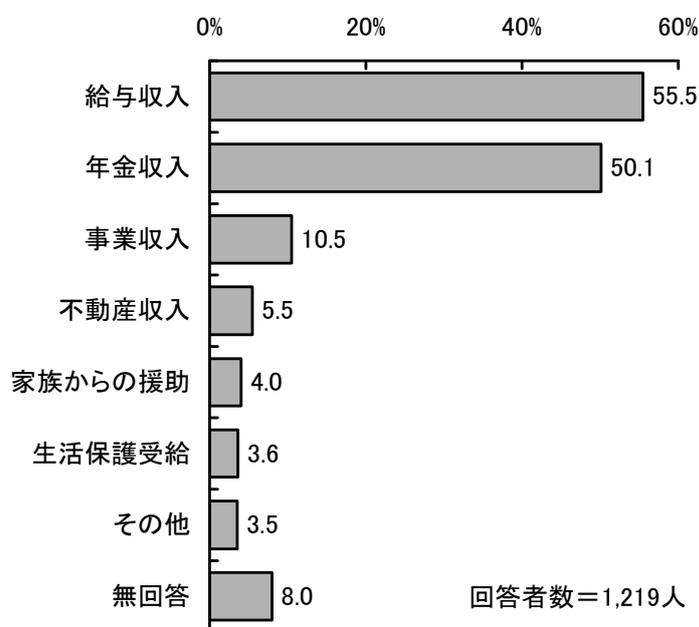
(あてはまるものすべてに○)

問6 あなたと配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。(1つに○)

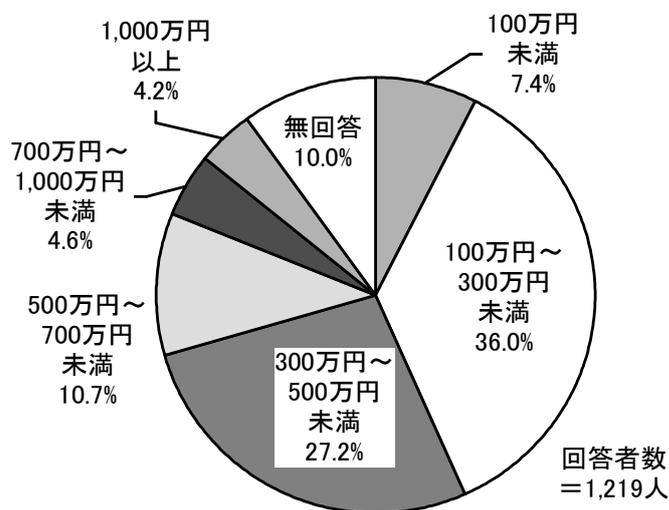
本人と配偶者の収入源は、「給与収入」が55.5%、「年金収入」が50.1%などとなっている。

本人と配偶者の税込みの年収の合計は、「100万円～300万円未満」36.0%がもっとも高く、次いで「300万円～500万円未満」27.2%であり、500万円未満である人の割合が約7割を占める。

図表1-10 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表1-11 本人と配偶者の年収(単数回答)



2. 健康について

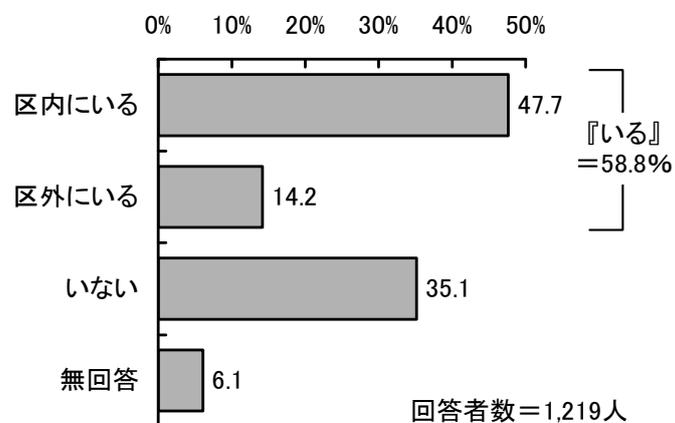
(1) かかりつけ医の有無

問7 あなたには、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 242 参照】

かかりつけ医の有無は、「区内にいる」が47.7%、「区外にいる」が14.2%であり、58.8%が『いる』と回答している。

図表1-12 かかりつけ医の有無(複数回答)



※『いる』=100% - 「いない」 - 「無回答」

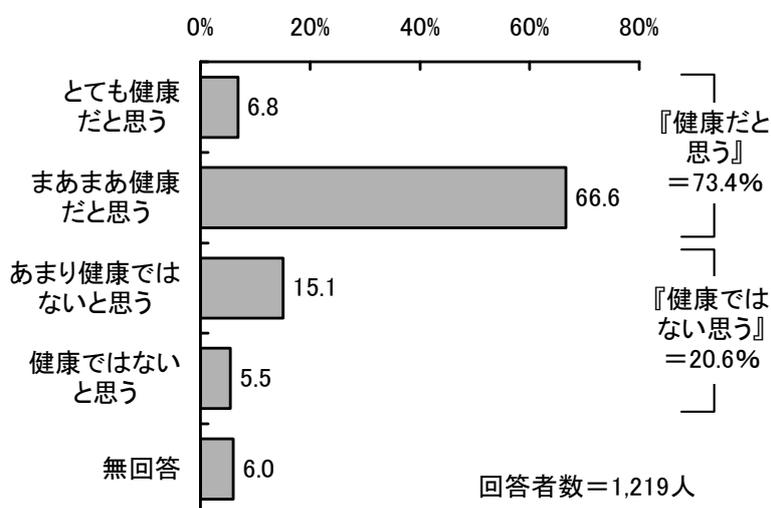
(2)健康状態

問 8 あなたは、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。(1つに○)

【比較調査 241 参照】

健康状態については、「まあまあ健康だと思う」66.6%、「とても健康だと思う」6.8%をあわせた『健康だと思う』が73.4%を占める。一方、「あまり健康ではないと思う」は15.1%、「健康ではないと思う」は5.5%であり、これらをあわせた約2割が『健康ではないと思う』と回答している。

図表1-13 健康状態(単数回答)



※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

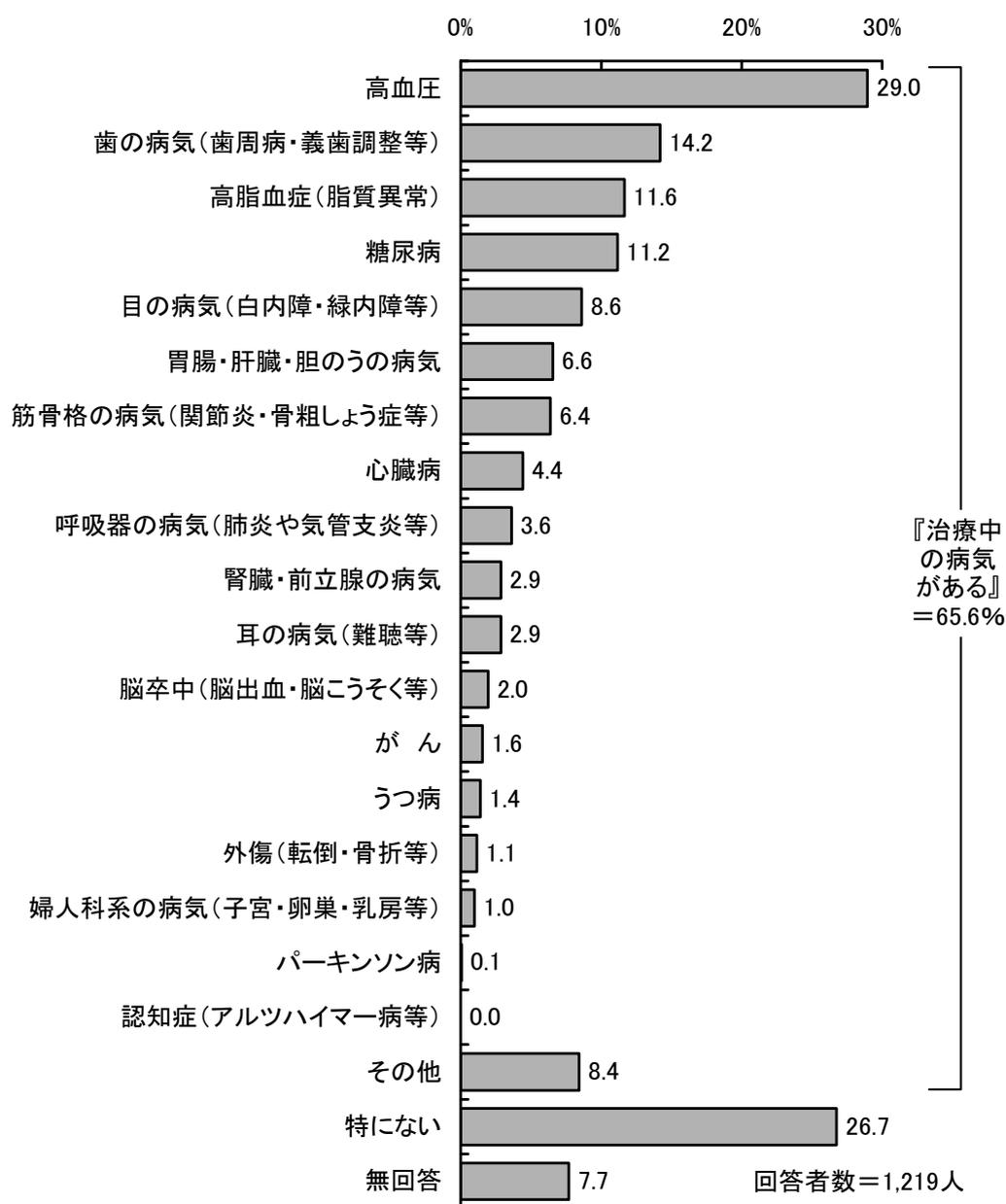
(3) 現在治療中の病気

問9 あなたは、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気をみると、65.6%が『治療中の病気がある』と回答している。具体的には、「高血圧」29.0%がもっとも高く、次いで「歯の病気(歯周病・義歯調整等)」14.2%、「高脂血症(脂質異常)」11.6%、「糖尿病」11.2%の順となっている。

図表1-14 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』=100%－「特にない」－「無回答」

3. 健康づくり・介護予防について

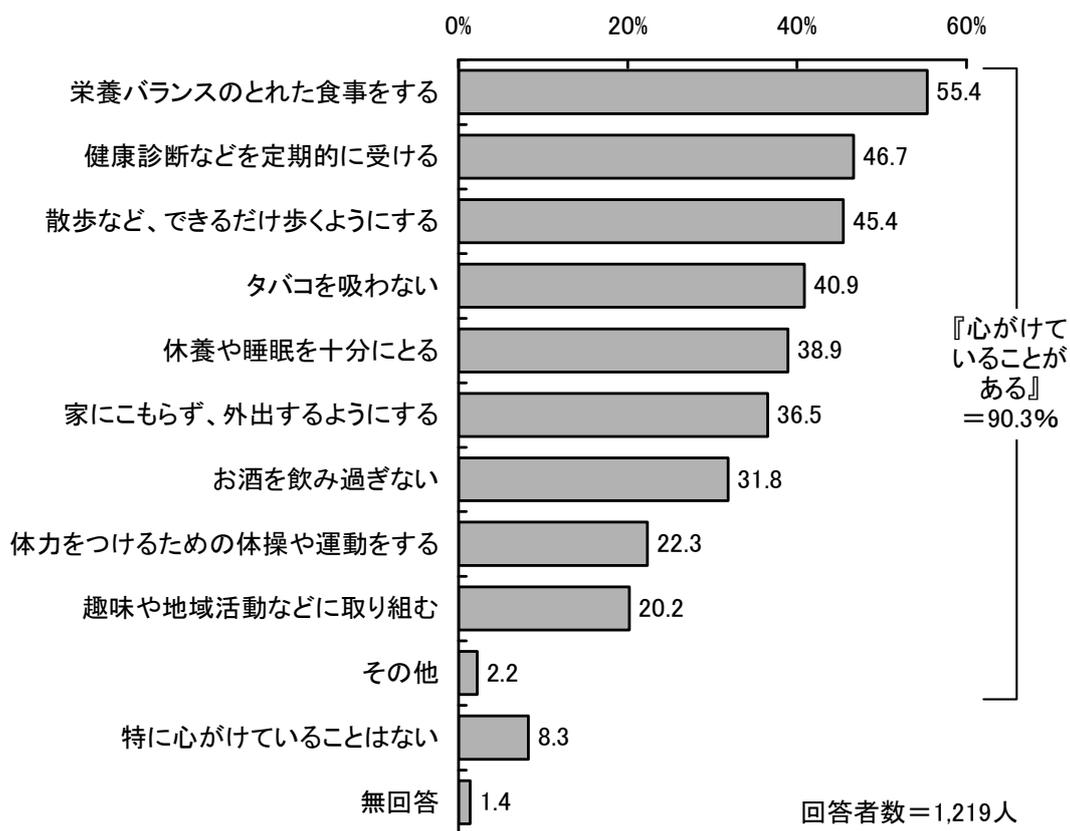
(1) 健康のために心がけていること

問 10 あなたは、健康な生活を送るために、日ごろから心がけていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

健康のために心がけていることをみると、90.3%と約9割が『心がけていることがある』と回答している。具体的な取り組みとしては、「栄養バランスのとれた食事をする」55.4%がもっとも高く、次いで「健康診断などを定期的に受ける」「散歩など、できるだけ歩くようにする」「タバコを吸わない」が4割台、「休養や睡眠を十分にとる」「家にこもらず、外出するようにする」「お酒を飲み過ぎない」が3割台となっている。

図表1-15 健康のために心がけていること(複数回答)



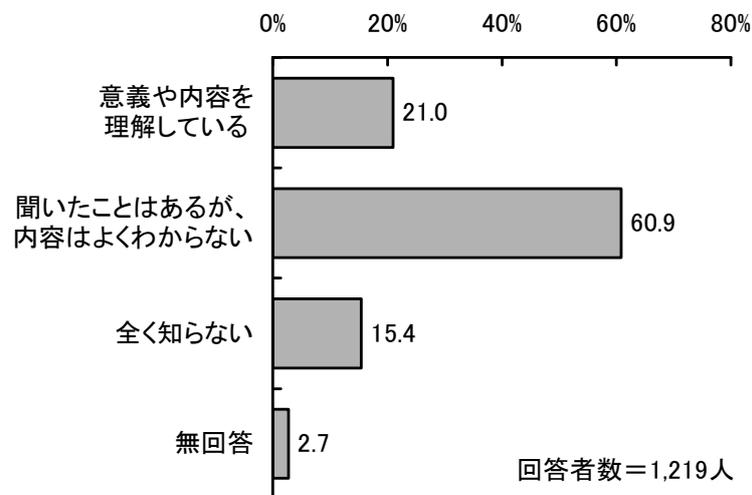
※『心がけていることがある』 = 100% - 「特に心がけていることはない」 - 「無回答」

(2)介護予防の理解度

問 11 あなたは「介護予防」について、どのくらい知っていますか。(1つに○)

介護予防の理解度は、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が60.9%と約6割を占める。「意義や内容を理解している」は21.0%であり、15.4%が「全く知らない」と回答している。

図表1-16 介護予防の理解度(単数回答)



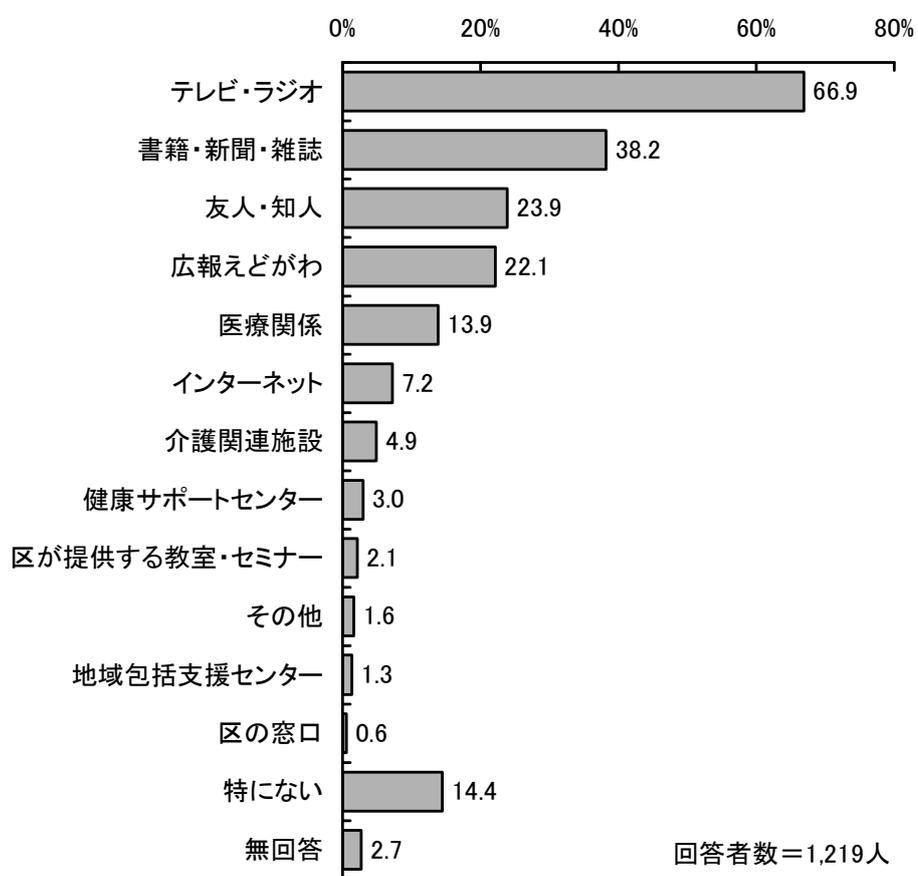
(3)健康づくり・介護予防の情報入手方法

問 12 あなたは、健康づくりや介護予防について、どちらから情報を得ていますか。

(あてはまるものすべてに○)

健康づくりや介護予防の情報入手方法としては、「テレビ・ラジオ」66.9%、「書籍・新聞・雑誌」38.2%、「友人・知人」23.9%が上位3項目となっている。次いで、「広報えどがわ」22.1%、「医療関係」13.9%と続いている。

図表1-17 健康づくり・介護予防の情報入手方法(複数回答)



(4) 健康づくり・介護予防の講座への参加状況、参加したことがない理由

問 13 区では健康づくりや介護予防のためのセミナーや講座、イベントなどを実施していますが、あなたは参加したことがありますか。(1つに○)

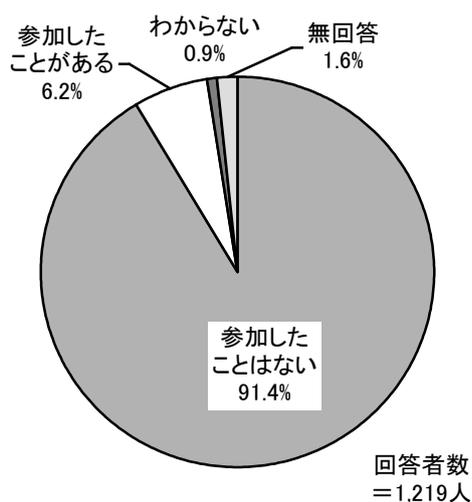
参加したことがない方(問 13 で 1 に○)におうかがいします。

問 13-1 参加したことがない理由は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

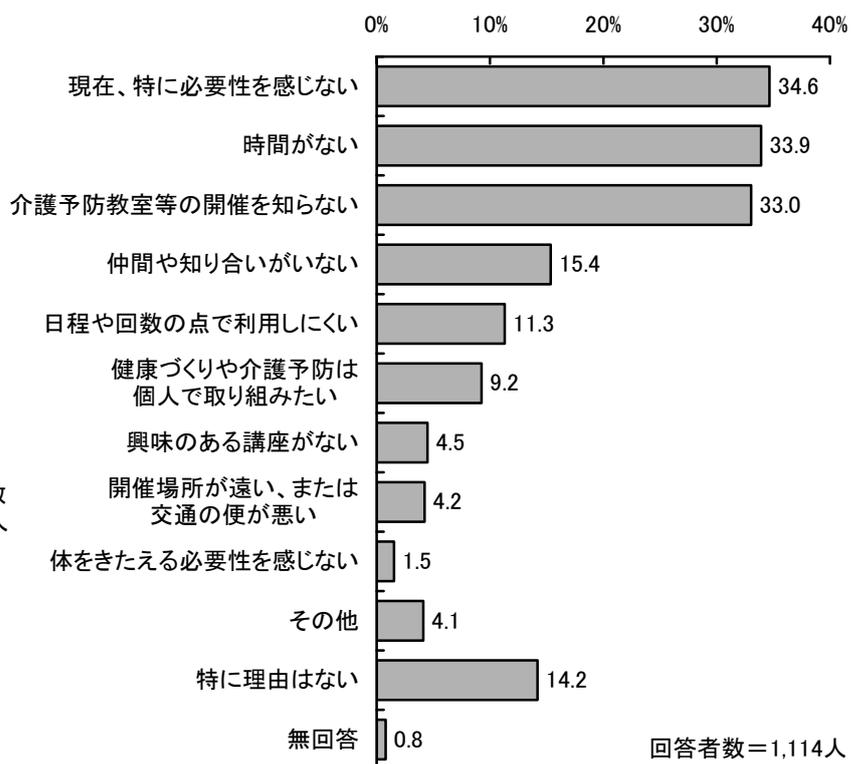
区の健康づくり・介護予防の講座への参加状況をみると、「参加したことはない」が 91.4%を占め、「参加したことがある」は 6.2%であった。

参加したことがない理由は、「現在、特に必要性を感じない」34.6%、「時間がない」33.9%、「介護予防教室等の開催を知らない」33.0%が上位3項目となっている。

図表1-18 参加状況(単数回答)



図表1-19 参加したことがない理由(複数回答)



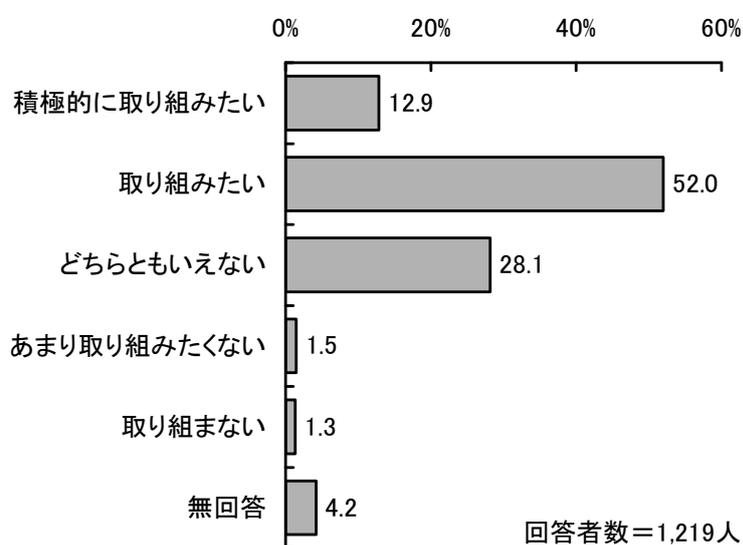
(5) 介護予防の取り組み意向

問 14 あなたは、今後、自分らしく介護を必要としない健康な生活を送るための「介護予防」の取り組みを、していきたいと考えていますか。(もっとも近い考え1つに○)

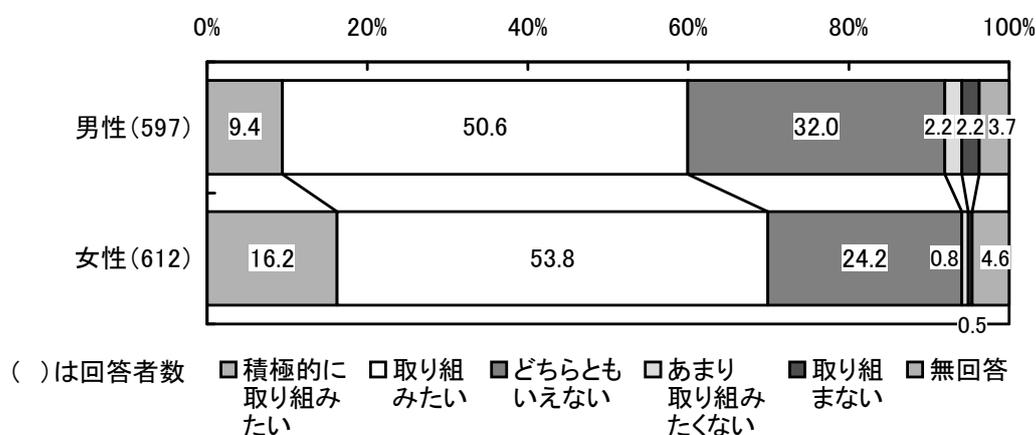
介護予防の取り組み意向をみると、「取り組みたい」52.0%、「積極的に取り組みたい」12.9%をあわせた64.9%が取り組み意向を示している。

性別にみると、「積極的に取り組みたい」「取り組みたい」をあわせた取り組み意向を示している人の割合は、男性60.0%、女性70.0%と、女性の方が10ポイント高い。

図表1-20 介護予防の取り組み意向(単数回答)



図表1-21 介護予防の取り組み意向



4. 就労、社会参加、生きがいづくりについて

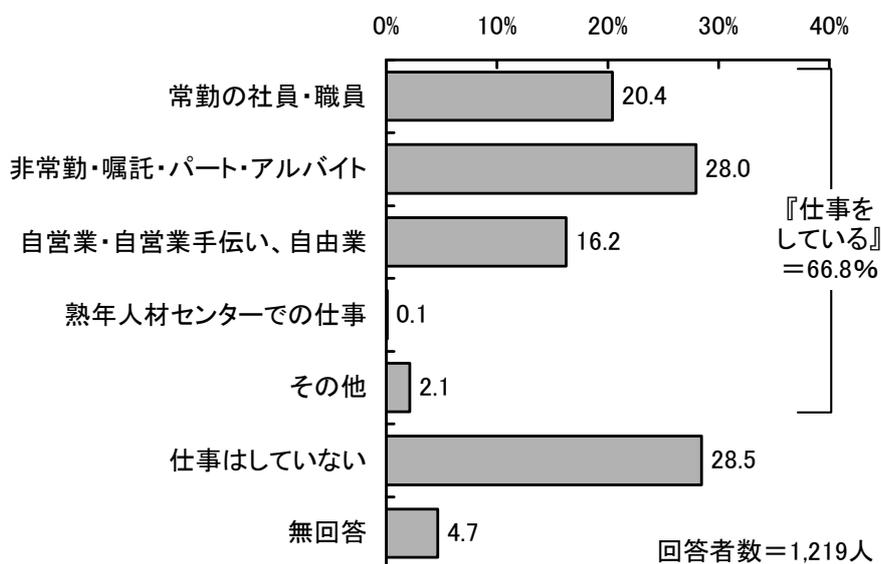
(1) 現在の就労状況

問 15 あなたは、現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況を見ると、『仕事をしている』人の割合は全体の66.8%を占める。具体的には、「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」28.0%、「常勤の社員・職員」20.4%、「自営業・自営業手伝い、自由業」16.2%の順となっている。

性別にみると、『仕事をしている』は、男性75.6%、女性58.5%となっている。男性は「常勤の社員・職員」、女性は「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」の割合がもっとも高い。

図表1-22 現在の就労状況(単数回答)



図表1-23 現在の就労状況

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事はしていない	無回答	『仕事をしている』
全体		1,219	20.4	28.0	16.2	0.1	2.1	28.5	4.7	66.8
性別	男性	597	32.2	21.4	19.3	0.2	2.5	19.9	4.5	75.6
	女性	612	8.8	34.3	13.6	0.0	1.8	36.8	4.7	58.5

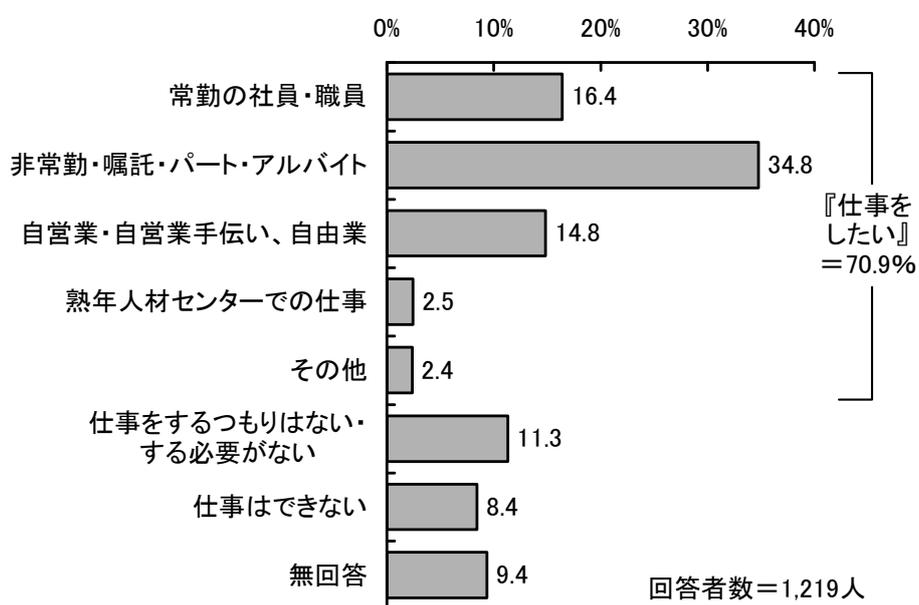
※『仕事をしている』=100%－「仕事はしていない」－「無回答」

(2) 今後の就労意向

問 16 あなたは、今後、収入のある仕事をしたい・続けたいと考えていますか。(1つに○)
【比較調査 250 参照】

今後の就労意向をみると、70.9%が『仕事をしたい』と回答している。希望する就労形態は、「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」34.8%、「常勤の社員・職員」16.4%、「自営業・自営業手伝い、自由業」14.8%の順で続いている。

図表1-24 今後の就労意向(単数回答)



※『仕事をしたい』 = 100% - 「仕事をするつもりはない・する必要がない」
- 「仕事はできない」 - 「無回答」

性別にみると、男性の77.2%、女性の64.8%が『仕事をしたい』と回答している。男性が希望する就労形態は、「常勤の社員・職員」「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」が各26.1%、女性は「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」が42.8%を占める。

現在の就労状況別にみると、常勤の社員・職員は「常勤の社員・職員」69.9%に次いで、16.1%が「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」を希望している。非常勤・嘱託・パート・アルバイト及び自営業・自営業手伝い、自由業の人は8割台が現状の仕事の継続を希望している。また、現在、仕事はしていない人では、36.3%が『仕事をしたい』と回答している。

図表1-25 今後の就労意向

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事をするつもりはない・する必要がない	仕事はできない	無回答	『仕事をしたい』
全体		1,219	16.4	34.8	14.8	2.5	2.4	11.3	8.4	9.4	70.9
性別	男性	597	26.1	26.1	19.1	3.2	2.7	8.0	5.9	8.9	77.2
	女性	612	7.0	42.8	10.9	1.8	2.1	14.5	10.9	9.8	64.8
現在の就労状況別	常勤の社員・職員	249	69.9	16.1	1.6	2.0	0.8	4.0	0.0	5.6	90.4
	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	341	4.4	86.5	0.9	1.8	0.9	1.5	0.0	4.1	94.4
	自営業・自営業手伝い、自由業	198	0.5	1.5	84.3	1.0	0.0	2.5	2.0	8.1	87.4
	熟年人材センターでの仕事	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	26	7.7	26.9	3.8	0.0	23.1	15.4	15.4	7.7	61.5
	仕事はしていない	347	2.0	22.8	1.7	4.6	5.2	32.9	27.1	3.7	36.3

※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢

今後仕事をしたいと考えている方(問 16 で 1～5 に○)におうかがいします。

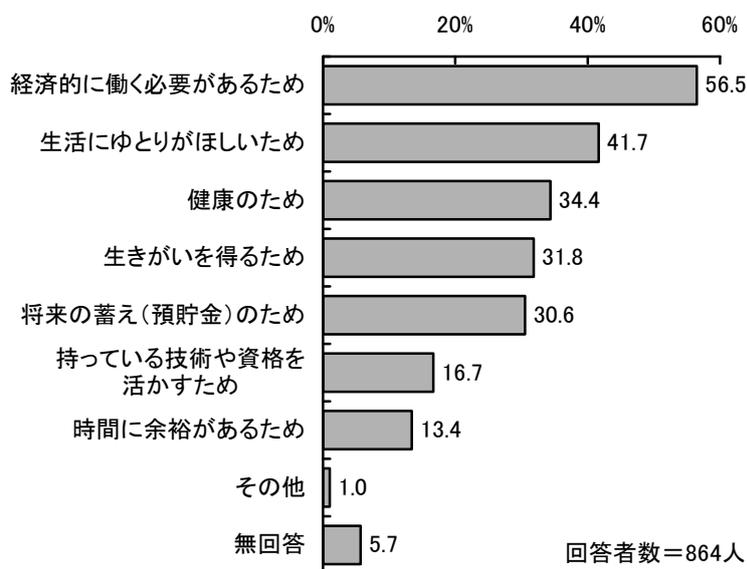
問 16-1 それほどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

問 16-2 何歳くらいまで働きたいと思いますか。(1つに○)【比較調査 250 参照】

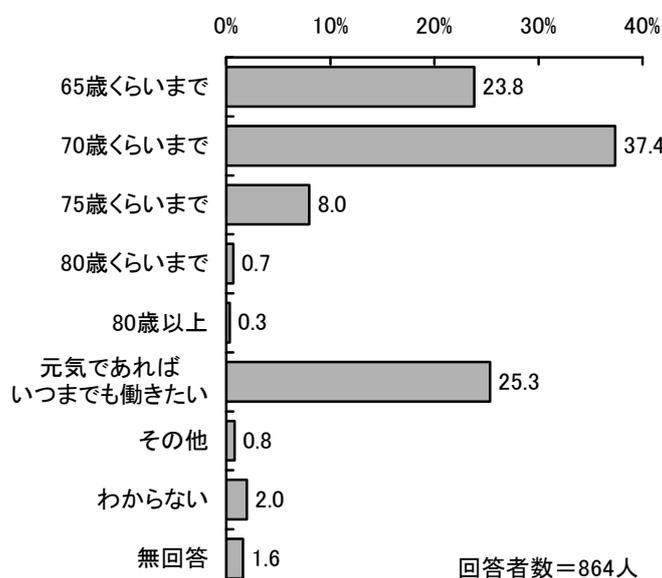
『仕事をしたい』と回答した人が今後就労を希望する理由は、「経済的に働く必要があるため」56.5%がもっとも高く、次いで「生活にゆとりがほしいため」41.7%、「健康のため」34.4%、「生きがいを得るため」31.8%、「将来の蓄え(預貯金)のため」30.6%と続いている。

就労を継続したい年齢は、「70歳くらいまで」37.4%がもっとも高く、次いで「元気であればいつまでも働きたい」が25.3%、「65歳くらいまで」が23.8%となっている。

図表1-26 今後就労を希望する理由(複数回答)



図表1-27 就労を継続したい年齢(単数回答)



(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動

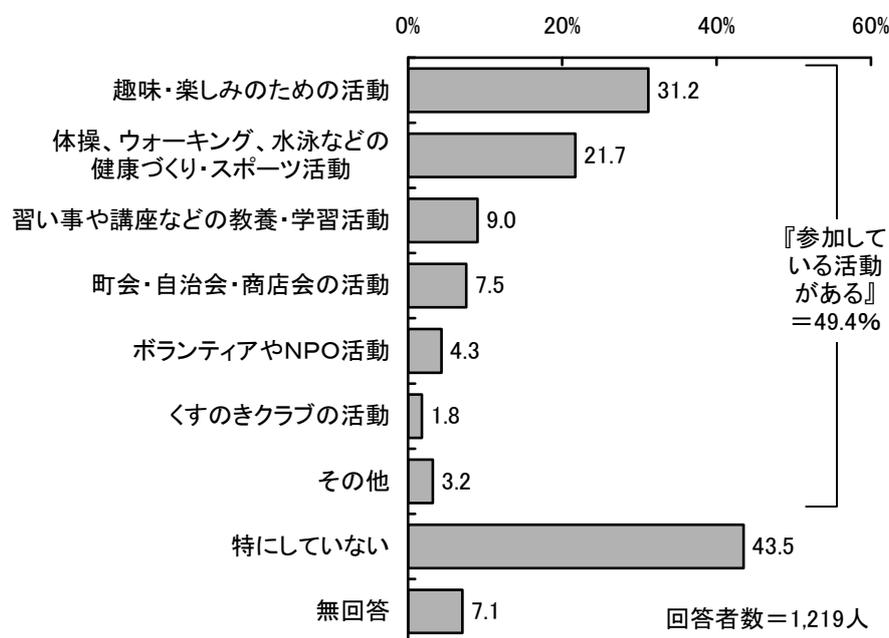
問 17 あなたは、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は49.4%と約半数を占める。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」31.2%がもっとも高く、次いで「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」21.7%、「習い事や講座などの教養・学習活動」9.0%、「町会・自治会・商店会の活動」7.5%と続いている。

性別にみると、『参加している活動がある』は、男性47.6%、女性51.0%となっている。

図表1-28 現在参加している余暇活動・社会参加活動(複数回答)



図表1-29 現在参加している余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	町会・自治会・商店会の活動	ボランティアやNPO活動	くすのきクラブの活動	その他	特にしていない	無回答	『参加している活動がある』
全体		1,219	31.2	21.7	9.0	7.5	4.3	1.8	3.2	43.5	7.1	49.4
性別	男性	597	30.7	19.6	3.2	8.5	2.3	0.5	3.4	45.9	6.5	47.6
	女性	612	31.4	23.7	14.7	6.5	6.4	3.1	2.9	41.5	7.5	51.0

※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

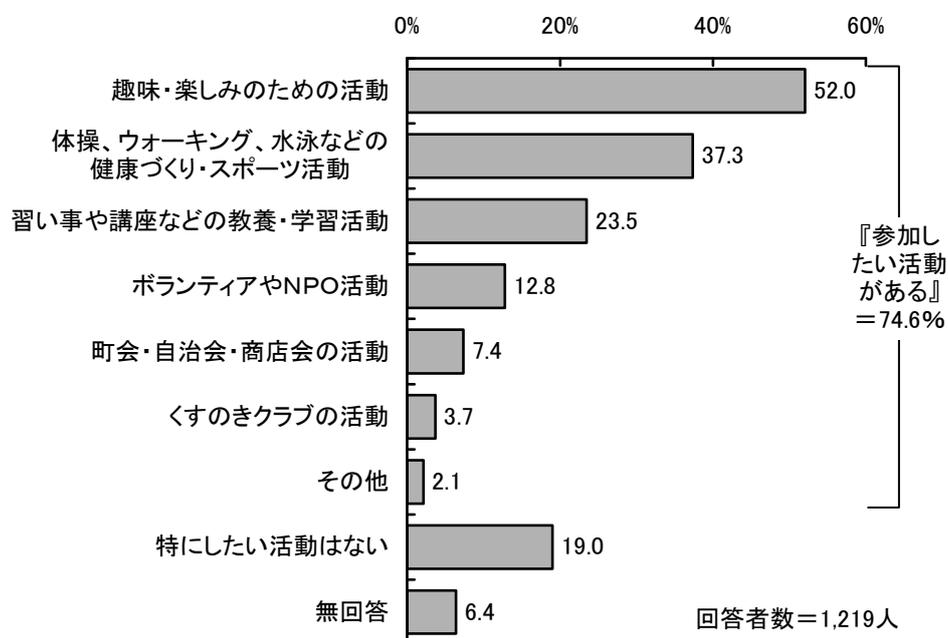
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

問 18 あなたは、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○) 【比較調査 251 頁参照】

今後参加したい余暇活動・社会参加活動をみると、74.6%が『参加したい活動がある』と回答している。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」に 52.0%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」に 37.3%、「習い事や講座などの教養・学習活動」に 23.5%、「ボランティアやNPO活動」に 12.8%が参加意向を示している。

性別にみると、『参加したい活動がある』割合は、男性 69.7%、女性 79.4%と、女性の方が約 10 ポイント高くなっている。

図表1-30 今後参加したい余暇活動・社会参加活動(複数回答)



図表1-31 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	ボランティアやNPO活動	町会・自治会・商店会の活動	くすのきクラブの活動	その他	特にしたい活動はない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,219	52.0	37.3	23.5	12.8	7.4	3.7	2.1	19.0	6.4	74.6
性別	男性	597	49.6	30.8	13.7	10.1	9.0	1.5	2.3	24.6	5.7	69.7
	女性	612	54.4	43.8	33.2	15.4	5.7	5.9	2.0	13.6	7.0	79.4

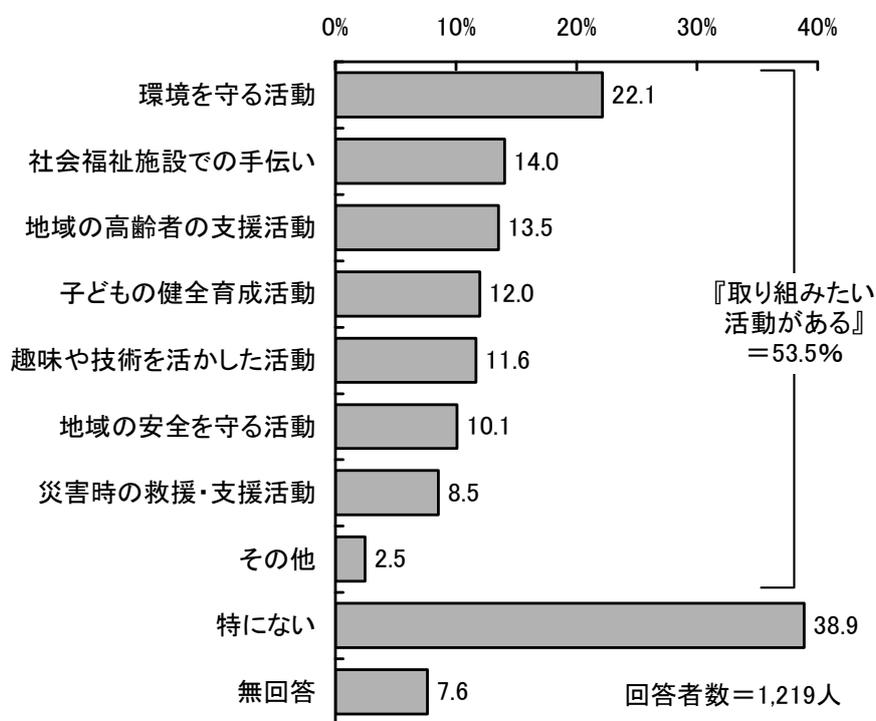
※『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「無回答」

(6) 取り組んでみたいボランティア活動

問 19 次のようなボランティア活動について、あなたが取り組んでみたいと思う活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 252 頁参照】

取り組みたいボランティア活動をみると、53.5%と半数強が『取り組みたい活動がある』と活動意向を示している。具体的には、「環境を守る活動」22.1%、「社会福祉施設での手伝い」14.0%、「地域の高齢者の支援活動」13.5%、「子どもの健全育成活動」12.0%の順で続いている。

図表1-32 取り組んでみたいボランティア活動(複数回答)



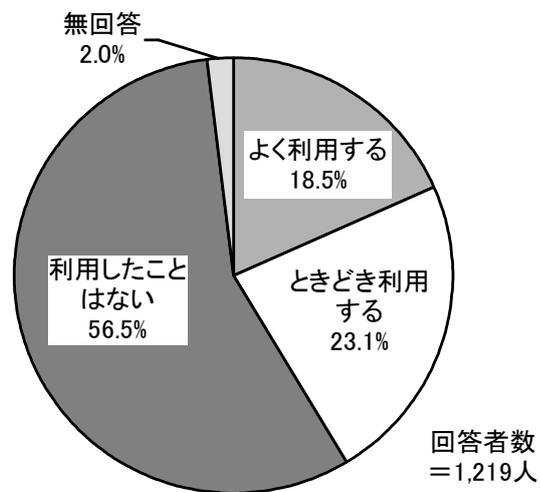
※『取り組みたい活動がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(7) インターネットの利用状況

問 20 あなたは、趣味や生活に必要な情報を得るために、パソコンなどのインターネットを利用することがありますか。(1つに○)

インターネットの利用状況については、「ときどき利用する」23.1%、「よく利用する」18.5%をあわせた41.6%が利用していると回答している。

図表1-33 インターネットの利用状況(単数回答)



5. 地域とのかかわりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

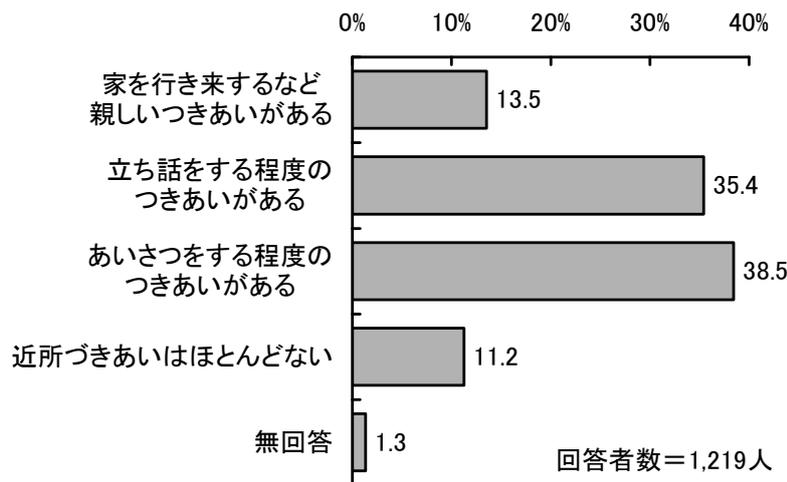
問 21 あなたは、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

【比較調査 253 参照】

近所の人とのつきあいの程度をみると、「あいさつをする程度のつきあいがある」が 38.5%と最も高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいがある」35.4%となっている。「家を行き来するなど親しいつきあいがある」は 13.5%であった。

性別にみると、男性は「あいさつをする程度のつきあいがある」が 47.9%と約半数を占め、14.4%が「近所づきあいはほとんどない」と回答している。女性は「立ち話をする程度のつきあいがある」41.7%が最も高い。

図表1-34 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



図表1-35 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		1,219	13.5	35.4	38.5	11.2	1.3
性別	男性	597	7.4	29.0	47.9	14.4	1.3
	女性	612	19.8	41.7	29.1	8.3	1.1

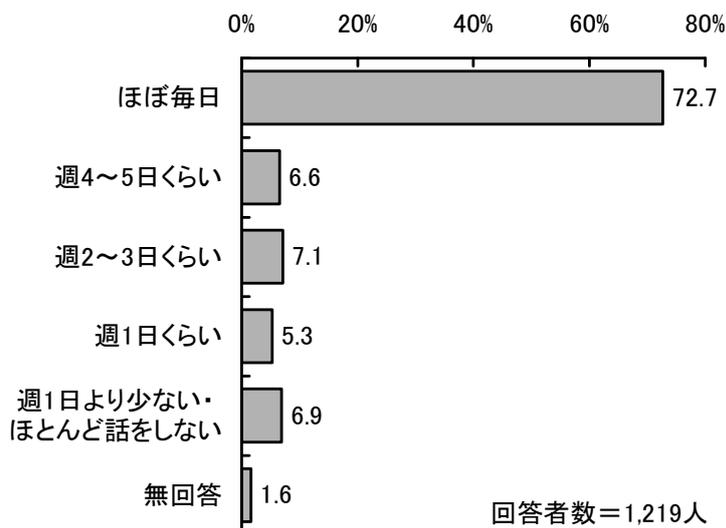
(2) 家族等との会話の頻度

問 22 あなたは、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

家族等との会話の頻度は、「ほぼ毎日」が72.7%を占めている。一方、「週1日くらい」5.3%、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」6.9%をあわせた12.2%は会話の頻度が週に1回以下となっている。

性別にみると、「ほぼ毎日」会話をする人の割合は、女性77.6%に対して男性は67.5%と低い。また、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」は男性11.4%と、女性の約4倍になっている。

図表1-36 家族等との会話の頻度(単数回答)



図表1-37 家族等との会話の頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4~5日くらい	週2~3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない・ほとんど話をしない	無回答
全体		1,219	72.7	6.6	7.1	5.3	6.9	1.6
性別	男性	597	67.5	7.0	7.4	5.4	11.4	1.3
	女性	612	77.6	6.2	6.7	5.2	2.6	1.6

6. 今後の暮らしや介護について

(1) 将来の生活で不安を感じること

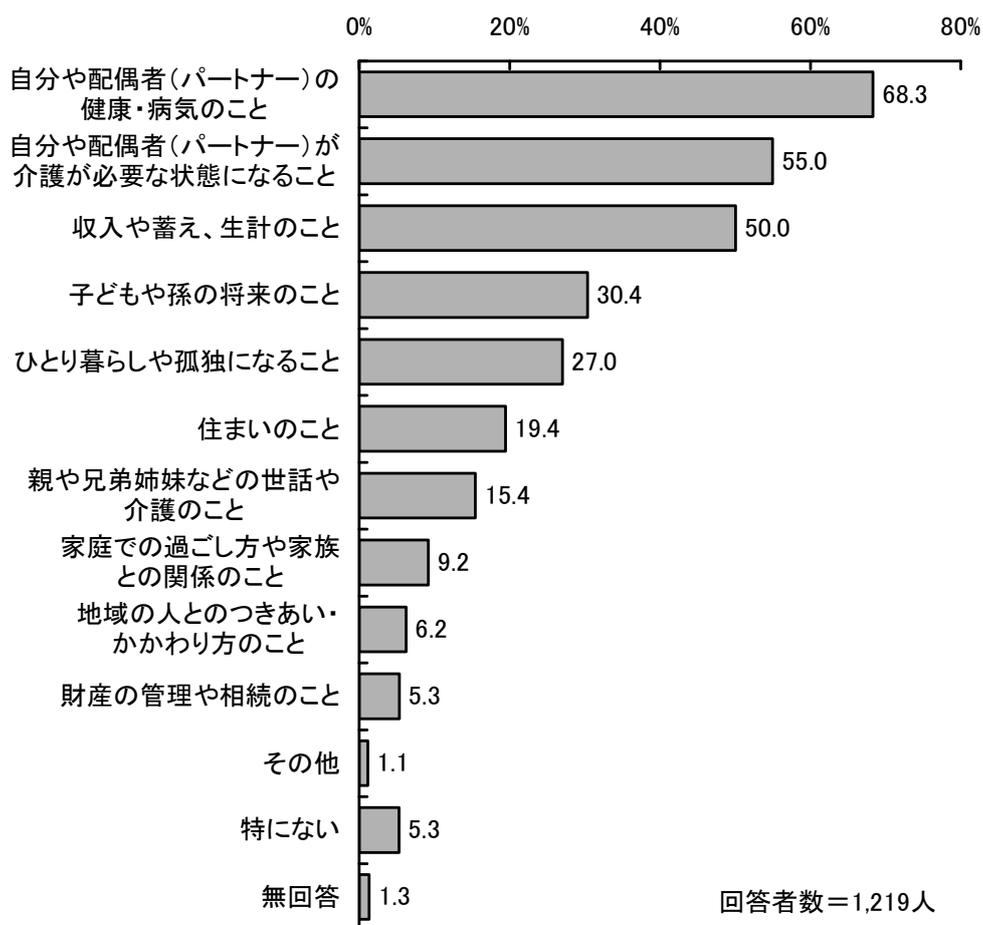
問 23 あなたは、将来の生活で不安を感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

将来の生活で不安を感じることとしては、「自分や配偶者（パートナー）の健康・病気のこと」68.3%、「自分や配偶者（パートナー）が介護が必要な状態になること」55.0%、「収入や蓄え、生計のこと」50.0%が上位3項目であり、いずれも半数以上からあげられている。

次いで、「子どもや孫の将来のこと」30.4%、「ひとり暮らしや孤独になること」27.0%、「住まいのこと」19.4%が続いている。

図表1－38 将来の生活で不安を感じること(複数回答)



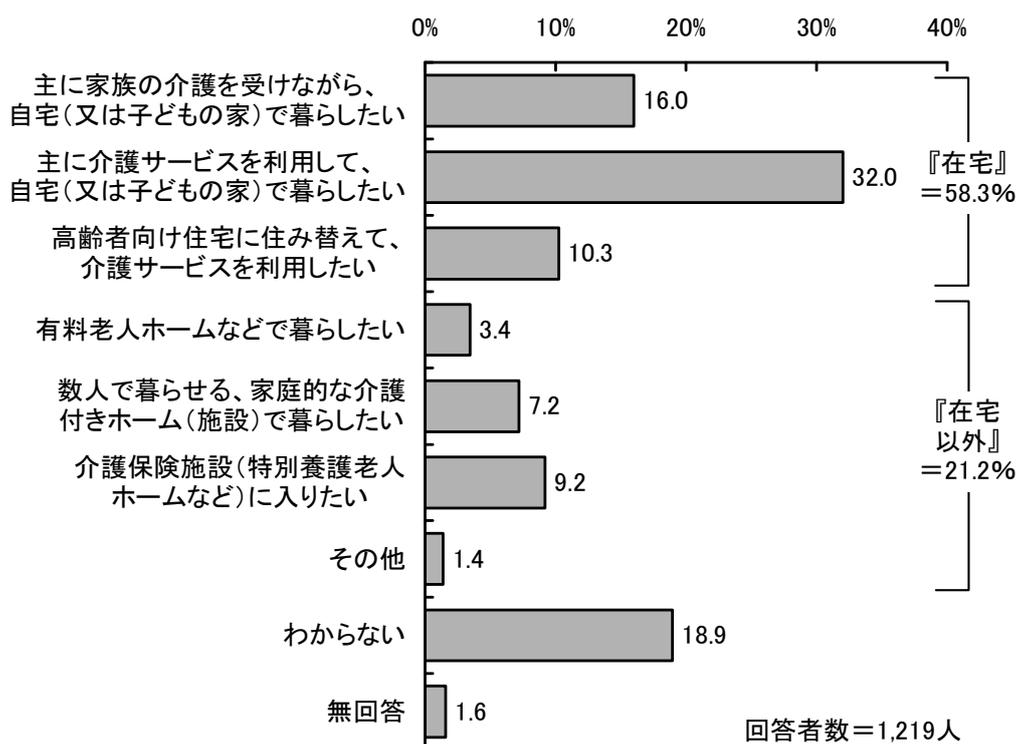
(2) 今後介護を受けたい場所

問 24 あなたは、将来介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○) 【比較調査 254 参照】

今後介護を受けたい場所をみると、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」32.0%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」16.0%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」10.3%の順であり、これらをあわせた58.3%が『在宅』での暮らしを希望している。

一方、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」9.2%、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」7.2%、「有料老人ホームなどで暮らしたい」3.4%などをあわせた『在宅以外』は21.2%となっている。

図表1-39 今後介護を受けたい場所(単数回答)

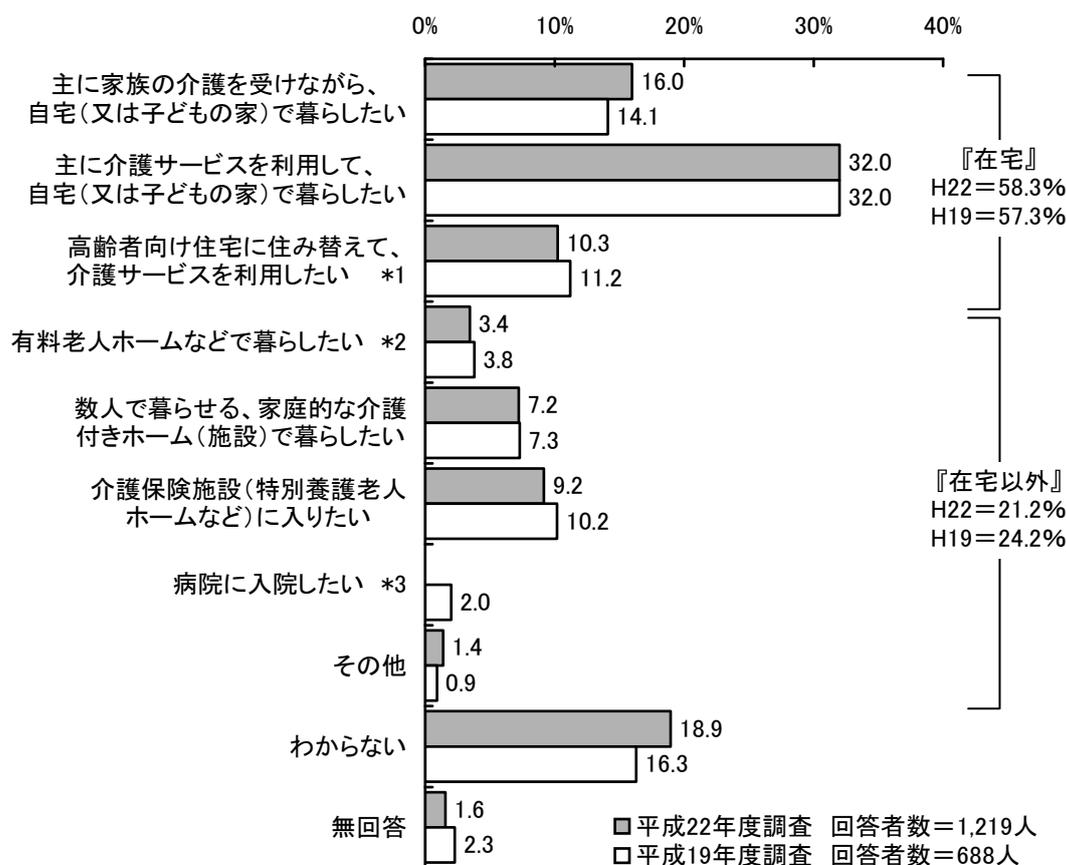


※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
+ 「その他」

今後介護を受けたい場所について、平成19年度調査と比較してみると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、『在宅』を希望している人が1.0ポイント増加し、『在宅以外』が3.0ポイント減少している。その内訳をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が1.9ポイント増加し、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」が1.0ポイント減少している。

図表1-40 今後介護を受けたい場所<平成19年度調査との比較>



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 + 「病院に入院したい」
 + 「その他」

※*1 の選択肢は平成19年度調査では「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」

※*2 の選択肢は平成19年度調査では「有料老人ホームに入りたい」

※*3 「病院に入院したい」の選択肢は平成19年度調査のみ

※平成19年度調査の対象者は55歳～64歳

性別にみると、男女とも「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」がもっとも高いが、男性は女性に比べて「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」と回答した人の割合が高くなっている。

世帯構成別にみると、『在宅』を希望する割合は、夫婦のみの人では約6割、子どもや孫との同居世帯の人では6割を超えている。ひとり暮らしの人では、他に比べて「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」の割合が高くなっている。

図表1-41 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,219	16.0	32.0	10.3	3.4	7.2	9.2	1.4	18.9	1.6	58.3	21.2
性別	男性	597	19.8	27.1	10.1	3.4	6.9	8.5	1.7	21.3	1.3	57.0	20.5
	女性	612	12.3	36.8	10.3	3.6	7.5	9.8	1.1	17.0	1.6	59.4	22.0
世帯構成別	ひとり暮らし	190	5.8	19.5	14.2	2.6	8.9	12.1	2.6	32.6	1.6	39.5	26.2
	夫婦のみ	369	19.5	26.8	13.6	3.8	7.6	8.9	0.8	18.2	0.8	59.9	21.1
	子どもと同居	430	17.2	37.9	7.4	4.2	7.0	7.9	1.2	15.6	1.6	62.5	20.3
	子どもと孫と同居	63	19.0	44.4	4.8	4.8	7.9	3.2	1.6	12.7	1.6	68.2	17.5
	その他	160	15.6	38.1	8.1	1.3	5.0	11.9	1.9	16.3	1.9	61.8	20.1

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(3) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

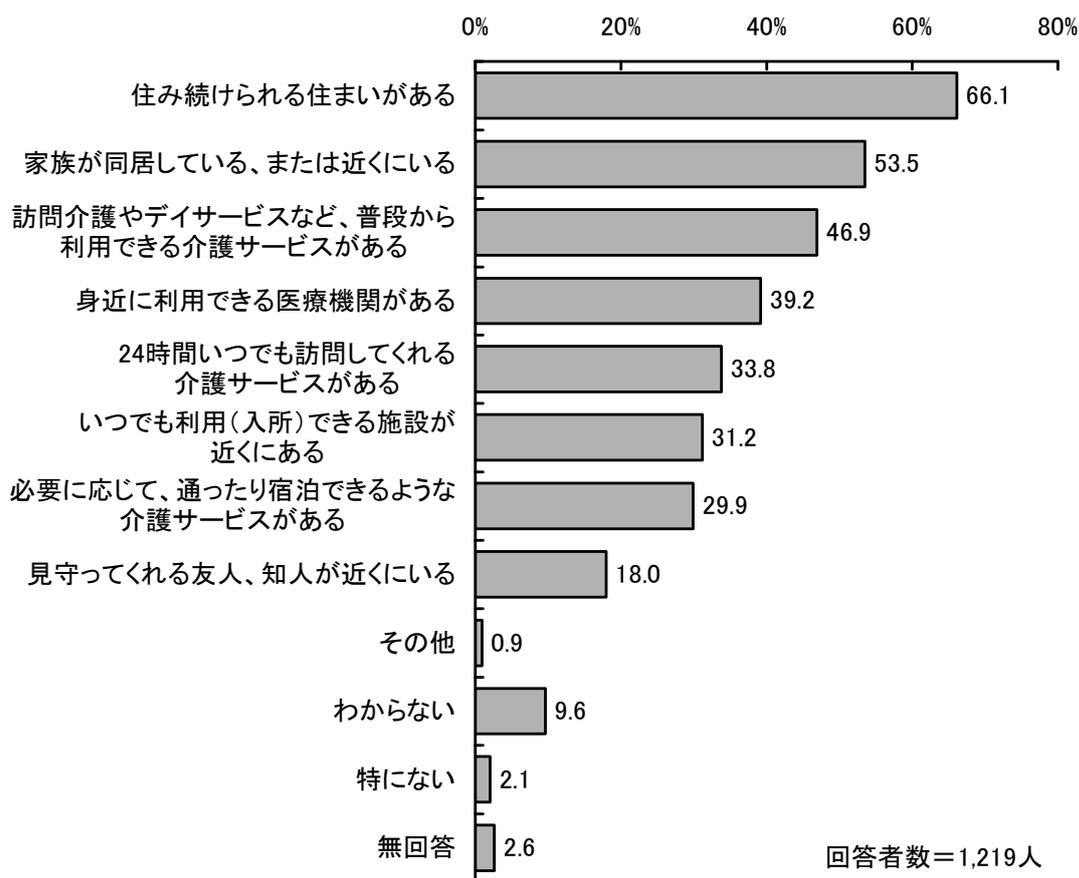
問 25 あなたは、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことであると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うことをみると、「住み続けられる住まいがある」66.1%、「家族が同居している、または近くにいる」53.5%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」46.9%と、住まい、家族、普段から利用できる介護サービスが上位3項目となっている。

次いで、「身近に利用できる医療機関がある」「24時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある」「いつでも利用(入所)できる施設が近くにある」が3割台で続いている。

図表1-42 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)



(4)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問 26 あなたは、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

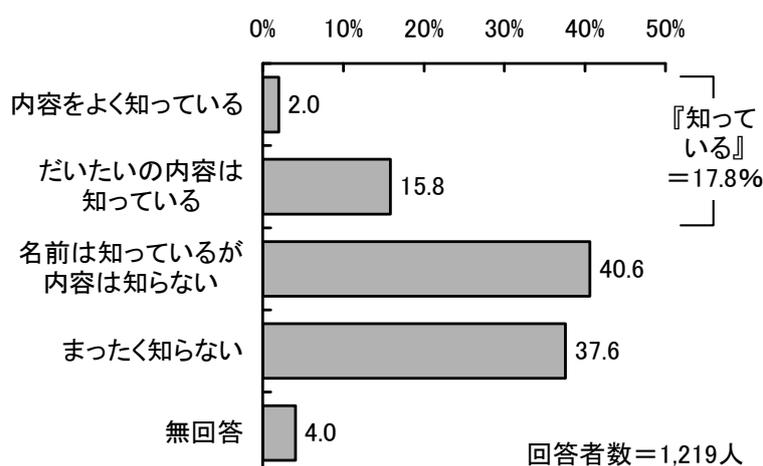
内容や名前を知っている方(問 26 で 1～3 に○)におうかがいします。

問 26-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」2.0%、「だいたいの内容は知っている」15.8%をあわせた『知っている』は17.8%であり、「名前は知っているが内容は知らない」40.6%、「まったく知らない」37.6%となっている。

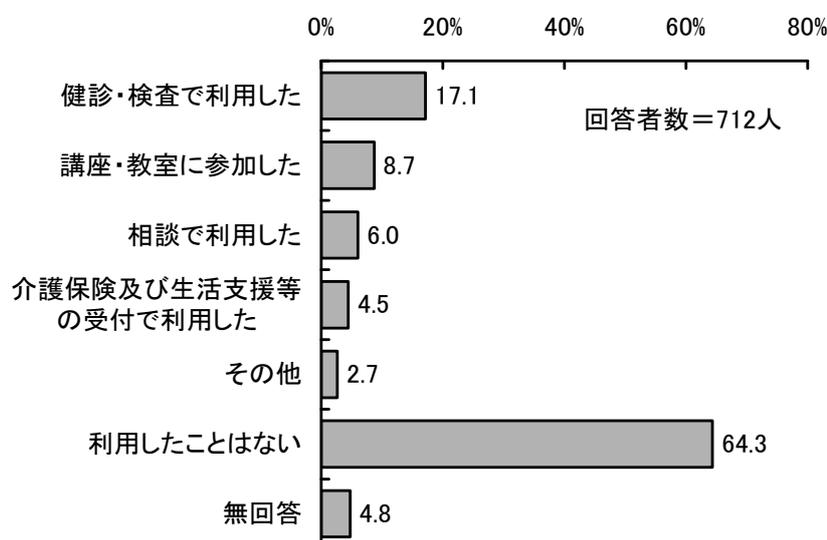
内容や名前を知っている人の利用経験としては、「利用したことはない」が64.3%であり、利用した場合としては、「健診・検査で利用した」17.1%、「講座・教室に参加した」8.7%、「相談で利用した」6.0%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」4.5%となっている。

図表1-43 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表1-44 健康サポートセンター利用経験(複数回答)

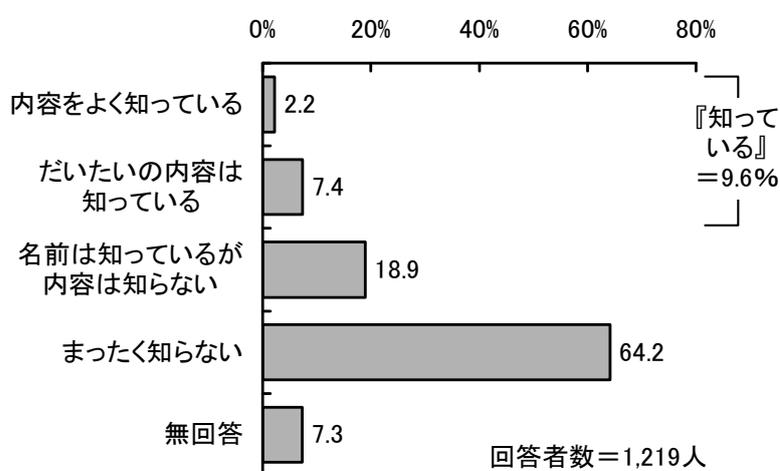


(5) 地域包括支援センターの認知度

問 27 あなたは、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターについて、「内容をよく知っている」2.2%、「だいたいの内容は知っている」7.4%をあわせた『知っている』は9.6%と約1割である。「まったく知らない」が64.2%であり、次いで「名前は知っているが内容は知らない」18.9%となっている。

図表1-45 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

(6) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 27 で 1～3 に○)におうかがいします。

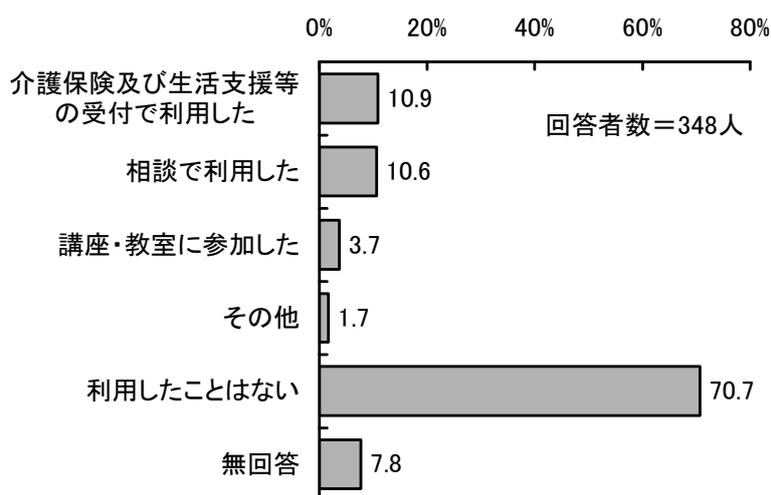
問 27-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 27-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

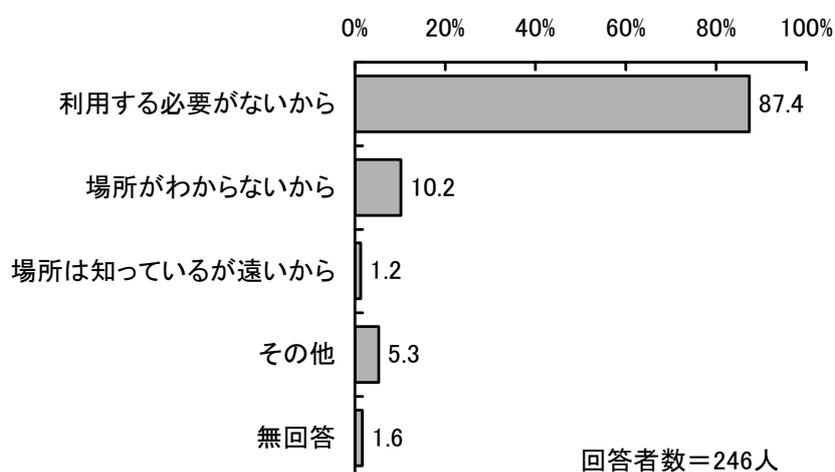
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことはない」が 70.7%を占める。利用した場合としては、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」10.9%、「相談で利用した」10.6%、「講座・教室に参加した」3.7%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が 87.4%と 9 割近い。「場所がわからないから」は 10.2%、「場所は知っているが遠いから」は 1.2%となっている。

図表 1-46 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表 1-47 利用したことがない理由(複数回答)



(7) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

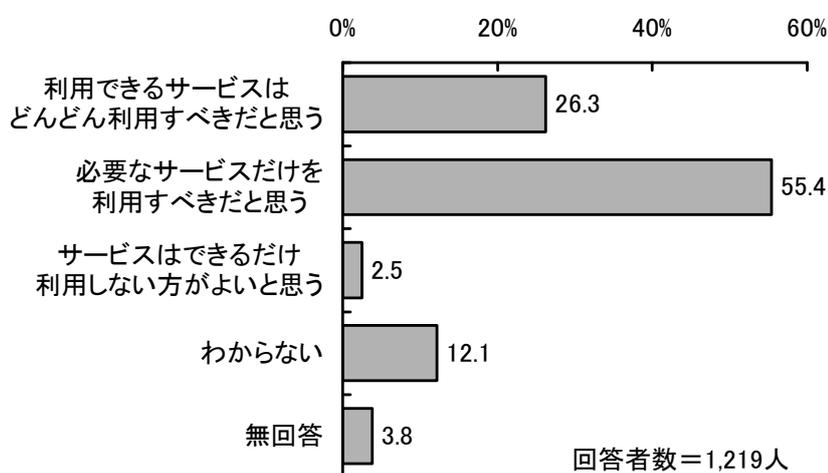
問 28 あなたは、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

問 29 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)【比較調査 256 参照】

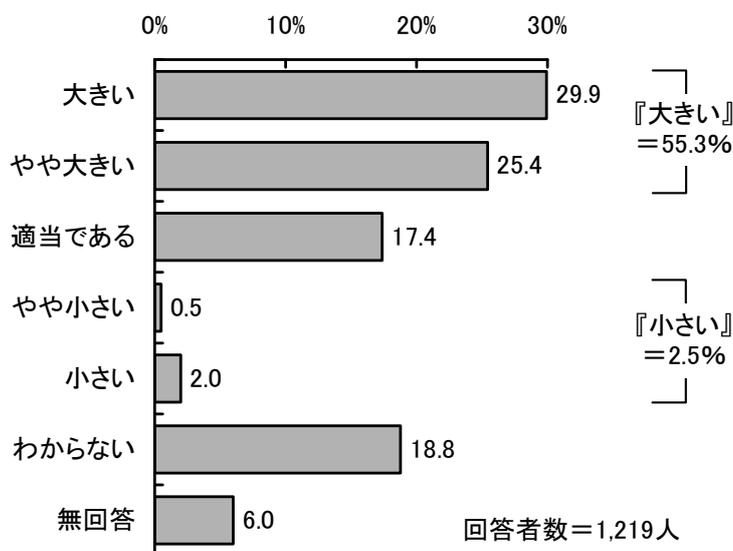
介護保険サービスの利用に対する考え方は、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が 55.4%と過半数を占め、次いで「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」26.3%となっている。

介護保険料の家計への影響をみると、「大きい」29.9%、「やや大きい」25.4%をあわせた『大きい』が 55.3%と 5 割台を占める。

図表1-48 介護保険サービスの利用に対する考え(単数回答)



図表1-49 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

※『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

7. 介護状況について

(1) 介護経験の有無、介護した人の続柄

問 32 あなたは、ご家族またはご親族の介護をしたことがありますか。(1つに○)

介護経験がある方(問 32 で 1 または 2 に○)におうかがいします。

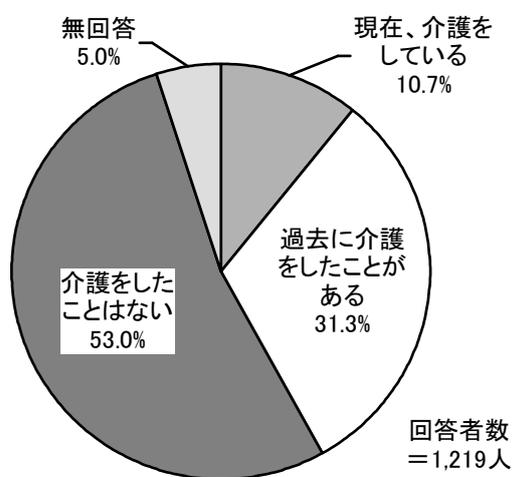
問 32-1 どなたを介護していますか、またはしましたか。あなたからみた続柄でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

介護経験の有無をみると、「現在、介護をしている」が 10.7%、「過去に介護をしたことがある」が 31.3%と、これらをあわせた 42.0%が介護経験があると回答している。

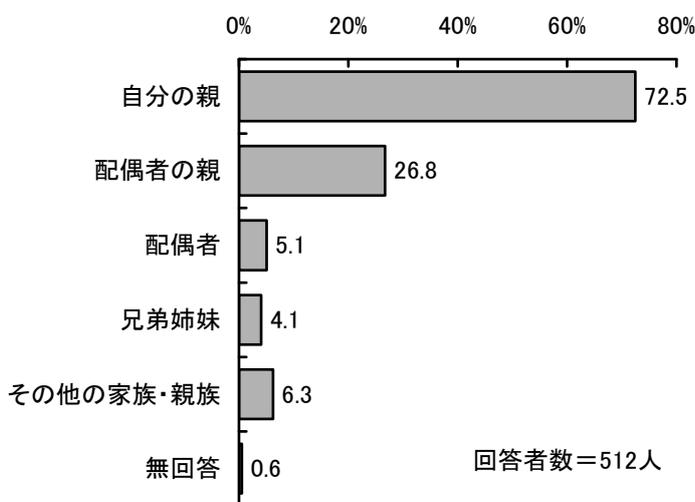
介護経験がある人が介護した人の続柄は、「自分の親」72.5%がもっとも高く、次いで「配偶者の親」26.8%となっている。

介護経験の有無を性別にみると、介護経験がある人の割合は男性 35.0%に対して、女性は 48.9%と約半数を占める。

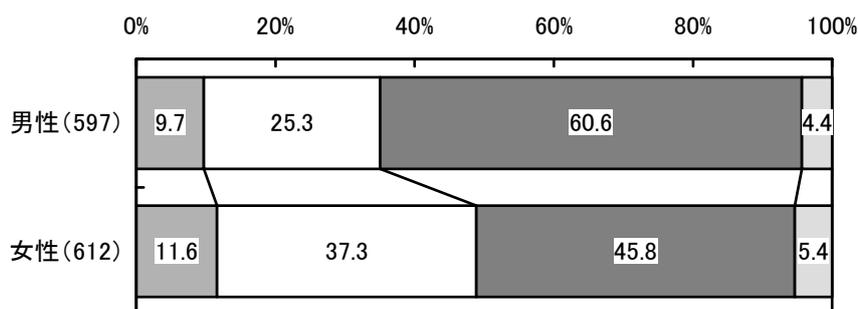
図表1-50 介護経験の有無(単数回答)



図表1-51 介護した人の続柄(複数回答)



図表1-52 介護経験の有無



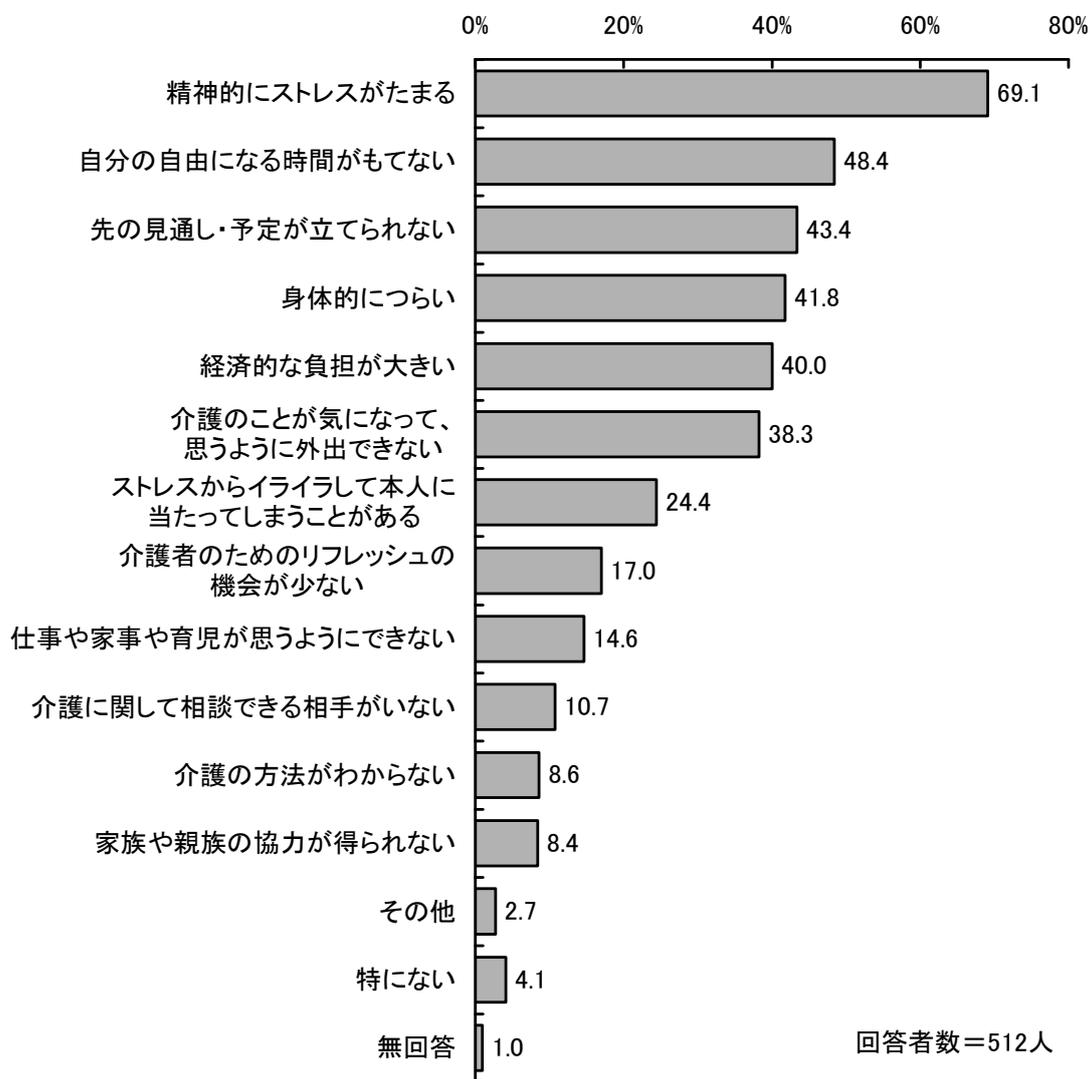
()は回答者数 □ 現在、介護をしている □ 過去に介護をしたことがある ■ 介護をしたことはない □ 無回答

(2) 介護をするうえで困ること

問 32-2 介護をするうえで、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護をするうえで困ることは、「精神的にストレスがたまる」69.1%がもっとも高く約7割からあげられている。次いで、「自分の自由になる時間がもてない」「先の見通し・予定が立てられない」「身体的につらい」「経済的な負担が大きい」が4割台で続いている。

図表1-53 介護をするうえで困ること(複数回答)

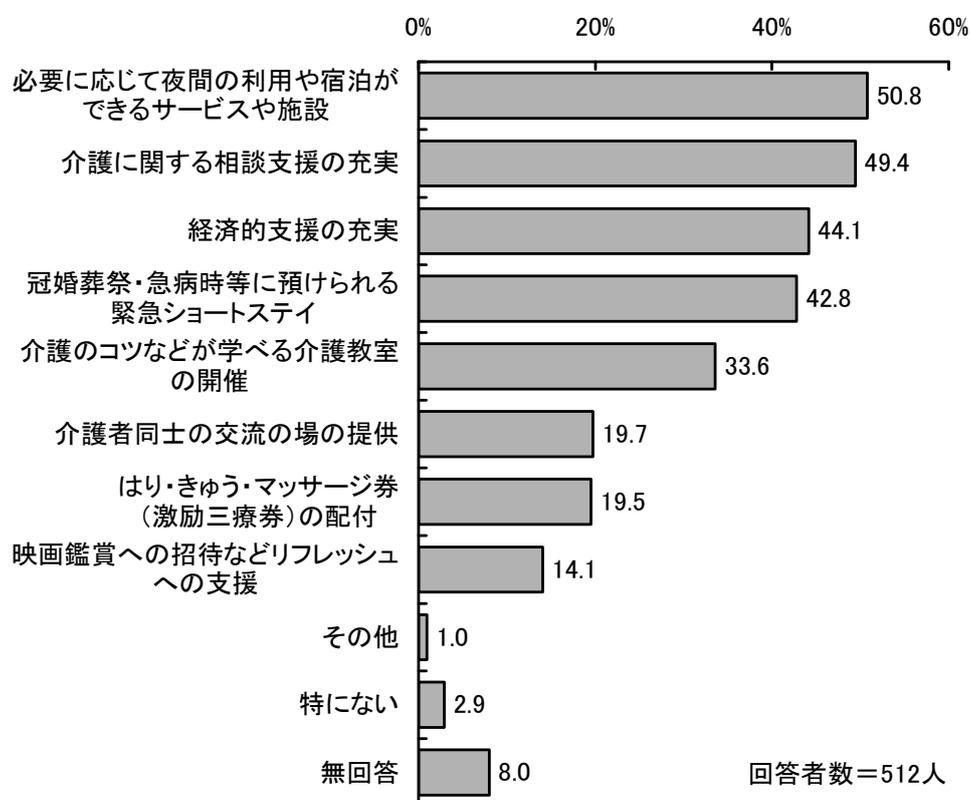


(3) 介護者にとって必要な支援

問 32-3 介護をしているご家族に対して、どのような支援やサービスがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護者にとって必要な支援としては、「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」50.8%に次いで、「介護に関する相談支援の充実」49.4%、「経済的支援の充実」44.1%、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」42.8%などとなっている。

図表1-54 介護者にとって必要な支援(複数回答)



8. 江戸川区の熟年者施策について

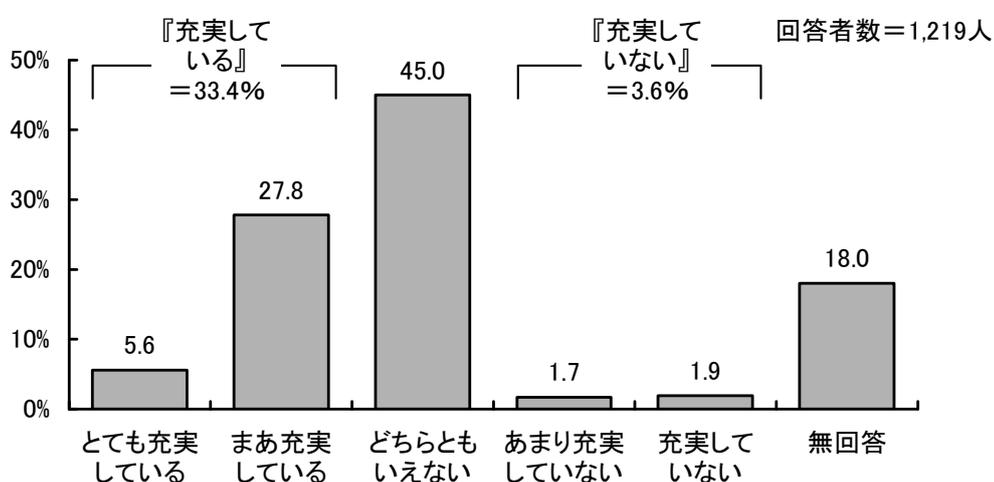
(1) 区の熟年者施策の充実度

問 30 江戸川区の熟年者施策について、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」は5.6%、「まあ充実している」は27.8%と、これらをあわせた『充実している』は33.4%となっている。「あまり充実していない」1.7%、「充実していない」1.9%をあわせた『充実していない』は3.6%であった。

図表1-55 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：35件より抜粋して記載)

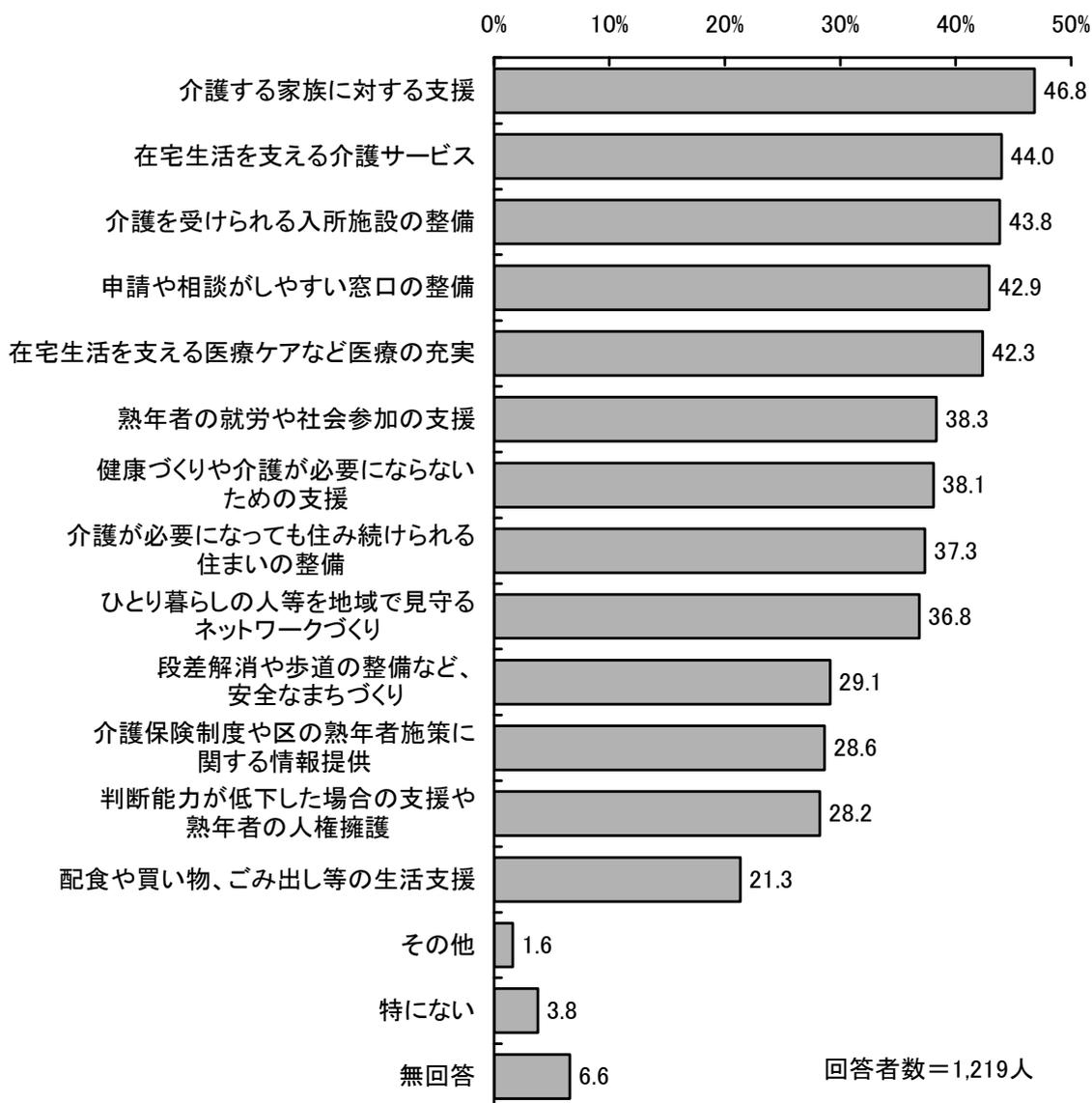
- ・高齢者施設をもっと充実してほしい。順番待ちの人が多数いる。
- ・必要な人が必要な時、いつでも安心して利用できる所や物がないような気がする。
- ・何かあった時に、どこへ、どのようなことを、どのように相談したらいいかわからない。
- ・施策の内容がわからない。積極的に知ろうとしない面があるが、広報にも問題があるのではないか。
- ・これからは医療費が大きな負担になる。子ども手当や医療費の負担などと同じく、熟年者への細やかな配慮がすぐにでも必要と思う。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 31 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」が一番多い。次いで、「在宅生活を支える介護サービス」「介護を受けられる入所施設の整備」「申請や相談がしやすい窓口の整備」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」と続いております、いずれも4割を超えている。

図表1-56 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



(3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(395 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(135 件より抜粋)

- ・ひとり暮らしで身体が不自由な場合など、介護を必要とする人が保険制度を利用するための手続きをとることが困難な場合がある。もっと利用しやすくしてほしい。
- ・介護保険の申請から、実際にサービスを受けるまでの期間について、もっと短期間に認定、通知と進む事を強く望む。
- ・介護を必要とする時に相談しやすい窓口をつくってほしい。
- ・地域包括支援センターについて、そういうセンターがあることさえ分からなかった。もう少し積極的に広報活動をしてほしい。
- ・「くらしの便利帳」は今まで便利に使っていたが、歳とともに面倒になってきている。電話で「助っ人電話」みたいな便利窓口があるとよい。
- ・介護保険料が高すぎる。生活が苦しくなる。
- ・介護保険料の現行水準はできるだけ維持してほしい。
- ・ヘルパーの資格を持っているが、家に介護する人がいて働けない。そういう人のために、介護仕事量に応じた支援金制度があったらと思う。
- ・国民年金生活者でも安心して生活できる施設がほしい。
- ・特別養護老人ホームなど、公的介護施設の増設を希望したい。
- ・特別養護老人ホームへ入れず、有料老人ホームへ入所するしかない場合は、所得制限をした上で補助金を出していただきたい。
- ・ショートステイや宿泊できる施設、ホームをこれからも増やしてほしい。
- ・近い将来、所得の低い高齢者が入居可能な施設の供給が必要不可欠になるので、増設を希望する。
- ・地域の人たちのグループホームをつくり、介護の手助けのできる元気な高齢者やボランティアの人たちの助けを借りる。その繰り返しで、ひとり暮らしの人や子どもの世話になれない人などをお世話したらよいと思う。
- ・ショートステイ、デイサービスなど、各施設との個別の契約があらかじめ必要などところが大変不便を感じる。ケアマネジャーを通じて、どの施設でも空いていれば利用できるようなったらよい。
- ・デイサービスの送り迎えに家人が必要だと、家人がフルタイム勤務だとサービスを活用できない。送り迎えなしでもひとりで自宅にいられる場合、家人がいなくてもよいのではと思う。
- ・同居人（世話をする人がいる）がいると、要介護状態区分が軽くなるようだ。その分、家族の負担が多くなるので、家族への何らかのサービスがあってもいいのではないか。
- ・家族の負担にならない介護が絶対必要と思う。行政でできることからどんどんやってほしい。
- ・介護する家族に対する支援を充実してほしい。
- ・介護士の方たちの賃金を、仕事内容に見合ったものにすることが急務だと思う。

【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(94 件より抜粋)

- ・江戸川区の区報の紙面を工夫してほしい。「医療面」「介護面」等のコーナーをわかりやすく、読みやすく掲載してほしい。
- ・高齢者のみの家庭が急速に多くなって、新聞を取らない家庭が増えている。区報の配布方法を

検討してほしい。

- ・ 今回の調査で、初めて江戸川区のホームページを見た。かなりのボリュームがあるが、ポイントが不明（目的が不明確）なものが散見される。
- ・ インターネットがかなり普及しているが、我々の世代以上では少ないと思う。もっと別の広報についても検討してほしい。
- ・ 区民への情報提供は、地区別、回覧等もあったらよいと思う。
- ・ 「健康サポートセンター」「地域包括支援センター」などを利用するにあたって、情報が少ない。
- ・ いろいろな申請の手続きを、わかりやすくしてほしい。
- ・ これから歳をとってくると事務手続きが大変になる。いろいろな手続きが1か所で済むようなシステムにしてほしい。
- ・ 西小岩地区に公共施設が少ないため、不公平感がある。
- ・ 大きな病院が少ない。
- ・ 訪問診療をしてくれる医院の充実を希望する。訪問診療を明記していても、実際にはなかなか出向いてもらえず、無理して病院に通っていた。
- ・ マンションの1室などを借りるなどし、もっと身近で気軽に利用できる「場（目的は様々あるが）」の整備も必要ではないか。マンションに住む高齢者が益々多くなることも考え、マンション等の施設で、福祉、医療、健康、社会参加等への活用を。
- ・ 家の近くのアパートに、ひとり暮らしのおばあさんがいて、近所で声かけをしたり、食事を届けたりしていた。町会で助け合いができるような仕組みをつくらないと。民生委員に任せるより、近隣の人たちの方が目が届くのではないか。
- ・ 歳をとって、体が不自由になった人にやさしい区であってほしい。高齢者にもっと手当を出してほしい。
- ・ 福祉や生活保護ばかりに目を向けなくて、まじめに働き続けた方々にもゆとりの生活が維持できるように希望する。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(31件より抜粋)

- ・ 現在グラウンドゴルフに参加しているが、指導者が親切で、楽しく運動している。このように高齢者が気軽に参加できる趣味、スポーツなどをたくさん計画してほしい。
- ・ 高齢者のパソコン教室がいつも同じ時間で参加できない。午後だけでなく、午前中にもやってほしい。
- ・ くすのきカルチャーセンターでパソコン教室をつくってほしい。
- ・ 私たちが高齢者になるころは、高齢者がすごく増えると思うので、元気な年寄りの生きがいのための活動の場をつくってほしい。
- ・ 狭い土地で野菜づくりをしていると、通りすがりの高齢の人たちが声をかけてくれる。そのほとんどが、田舎で畑仕事をやったことがあり、機会があればやりたいといっている。高齢者専用の貸し畑（農園）があればと思う。
- ・ 元気な高齢者をサポーターとして採用する事で活気づくかも知れない。
- ・ 江戸川区はボランティア育成に積極的に取り組まれ、成果も挙げていると思うが、ボランティアを必要とされている側としたい側とのコーディネートがいまだ弱いように思う。
- ・ 年齢を重ねるとともに活動範囲が狭くなっていくので、各種講座等を開いて、たくさんの人と知り合っていくことが大切だと思う。できるだけ情報を届ける工夫をしてほしい。
- ・ 余暇活動、社会参加活動など、これから進んで参加していきたいと考えているが、活動窓口、活動内容の分かる資料がほしい。
- ・ マンションの集会室について、熟年者のコミュニケーションの場、介護支援の場としての活用・支援を考えてほしい。
- ・ ボランティアのみではなく、高齢者がいつまでも働ける施設が多くあるとよい。

- ・ 65 歳以上の労働情報を提供してほしい。広報、またはホームページで。

【4】健康づくり・介護予防について(11 件より抜粋)

- ・ 心身ともに健康に暮らせるために、病院通いのない人へのごほうびがあれば、体に気をつける人はそれを励みに楽しみが増すと思う。
- ・ 現在、葛西健康サポートセンターで、ひざ、腰の痛みの改善教室に通っている。1 週間に 1 度だが、きちんと教えて頂き助かっている。
- ・ 健康を増進するための区の施設が、区内に均等に分布しているようには感じられない。葛西地区の施設設置が貧弱なように思われる。
- ・ 健康づくりに関する講演会等の開催は、公会堂大ホール中心ではなく、できるだけ各地域で行い、土日開催をより多くしてほしい。
- ・ 足腰のためにプール歩行をしたいが、少ないので増やしてほしい。
- ・ 介護予防として、陶芸、囲碁教室等があるとうれしい。

【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(64 件より抜粋)

- ・ 河川緑地、公園、野球場等があつて心が癒される。
- ・ 自転車道、または歩道専用道の整備。江戸川区は車道が広く、歩道には障害物が多い。歩道に電柱が多くある。
- ・ 車いすでどこでも行けるような、段差のない歩道の整備をお願いしたい。
- ・ 区内にマイクロバスのな、遠い所に行けるものがあるといい。
- ・ 小岩方面に施設や緑が少ないように思う。広々とした広場がほしい（公園はあるが狭い）。
- ・ 道路、公園等の整備が多く行われている。直さなくてもいいものまで整備している。優先順位が違うのでは。
- ・ 道路の交差点での交通マナーの啓発を続けてほしい（自転車の信号無視）。
- ・ 高齢になり、身体に不自由が生じて遠出が無理になった時、すぐ近くに自然環境の豊かな憩いの場所や、美術館、映画館、コンサートホール等があればと思う。
- ・ 歩道の清掃を徹底していただきたい。動物（犬猫）の汚物を必ず持ち帰って処理する事を徹底して、環境保護に関心を持つ人が増えるよう啓発することが大事と思う。
- ・ 電柱の地中化、歩道、公園の充実など、まち並みの改善に努めてもらいたい。
- ・ 病院に行くとき、交通の便をよくしてほしい。
- ・ 都営住宅や熟年者向け低家賃の住宅などの充実を望む。
- ・ ひとり住まい用の都営住宅をもっと増やして、入居しやすくして頂きたい。
- ・ 老後の住まいの事が不安。少子化で、空きのある学校などを、将来住めるように利用するとよいのではと思う。

【6】その他(60 件より抜粋)

- ・ 65 歳から国民年金をもらっても、介護保険、健康保険といろいろ引かれるものが多く、先の生活が不安である。
- ・ 便利で住みやすいと思う。一生過ごしたい。
- ・ まだ介護の経験がないので身にしみて感じない。
- ・ 治療費がかかり、老後はお金を持っていないと心配だ。
- ・ このようなアンケートはありがたい。切実に感じていることがありうれしかった。今後どのようになっているのか、期待している。

第 2 章

熟年者の健康と生きがい に関する調査

< 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成22年11月1日現在)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	平成22年11月22日～12月15日
対象者数 及び 回収率	対象者数 : 2,500 有効回収数 : 1,753 有効回収率 : 70.1%

1. 基本的属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

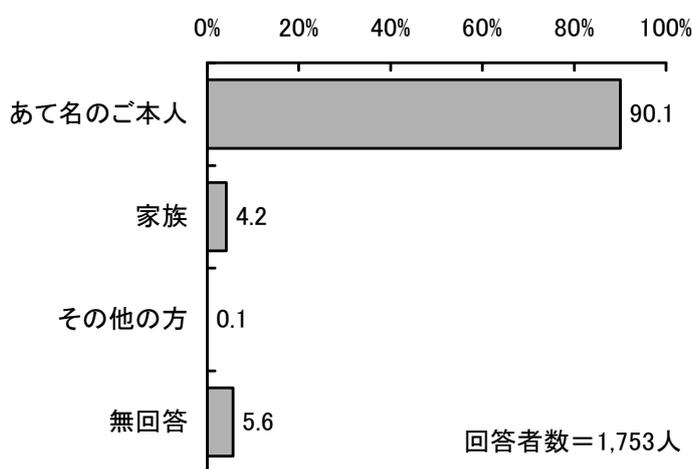
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」が90.1%を占める。

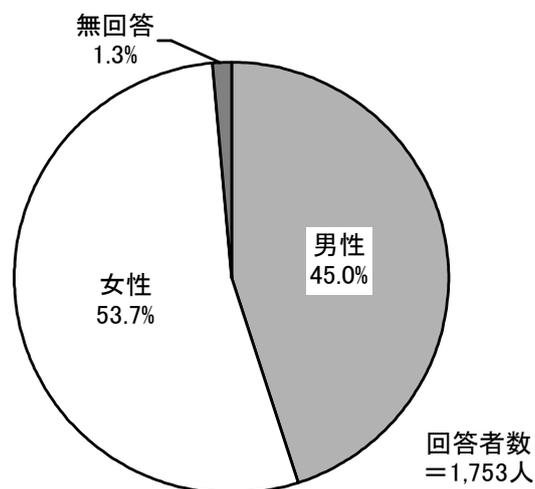
性別は、「男性」45.0%、「女性」53.7%と、女性の方が8.7ポイント高い。

年齢は「65～69歳」35.1%がもっとも高く、次いで「70～74歳」30.6%と、これらをあわせた前期高齢者が全体の65.7%を占める。平均年齢は72.7歳となっている。

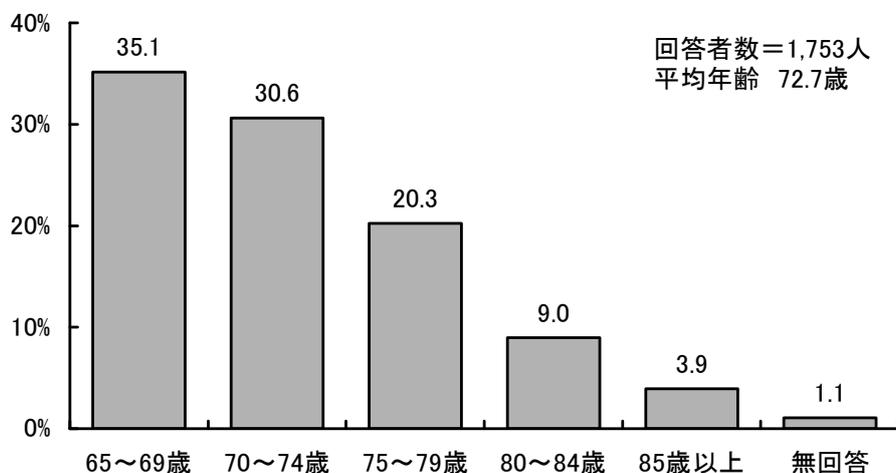
図表2-1 調査回答者(単数回答)



図表2-2 性別(単数回答)



図表2-3 年齢(単数回答)

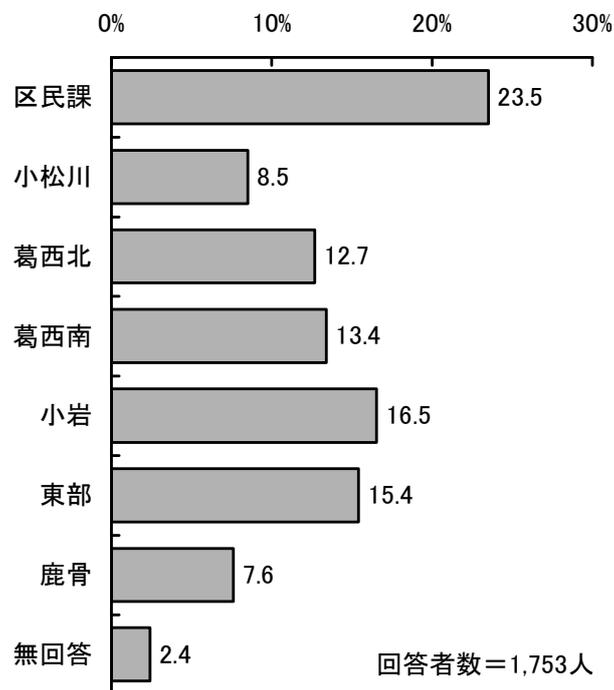


(2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」23.5%がもっとも高い。次いで、「小岩」16.5%、「東部」15.4%と続いている。もっとも割合の高い「区民課」ともっとも低い「鹿骨」の差は15.9ポイントとなっている。

図表2-4 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

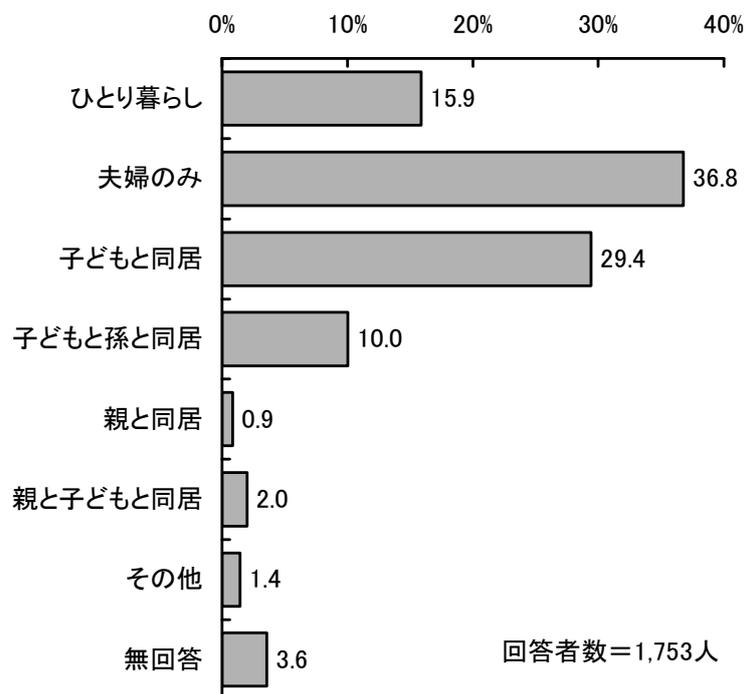


(3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)
【比較調査 240 参照】

世帯構成は、「夫婦のみ」がもっとも高い 36.8%、次いで「子どもと同居」が 29.4%、「ひとり暮らし」15.9%、「子どもと孫と同居」10.0%の順となっている。

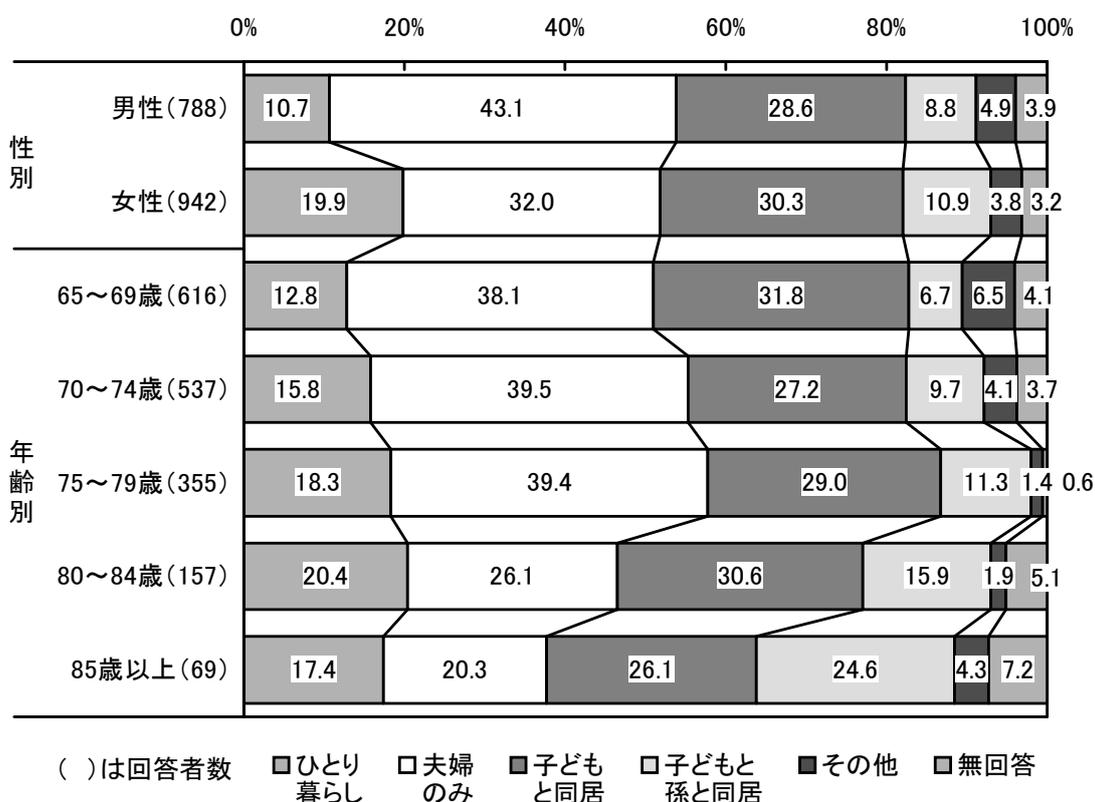
図表2-5 世帯構成(単数回答)



性別にみると、「ひとり暮らし」の割合は、男性 10.7%、女性 19.9%と、女性の方が約 10 ポイント高い。

年齢別にみると、65～79 歳の年齢層では「夫婦のみ」が 3 割台を占めてもっとも高い。80 歳以上では「子どもと同居」や「子どもと孫と同居」の割合が高くなり、「夫婦のみ」は 2 割台となっている。

図表2-6 世帯構成



※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 日中独居の状況

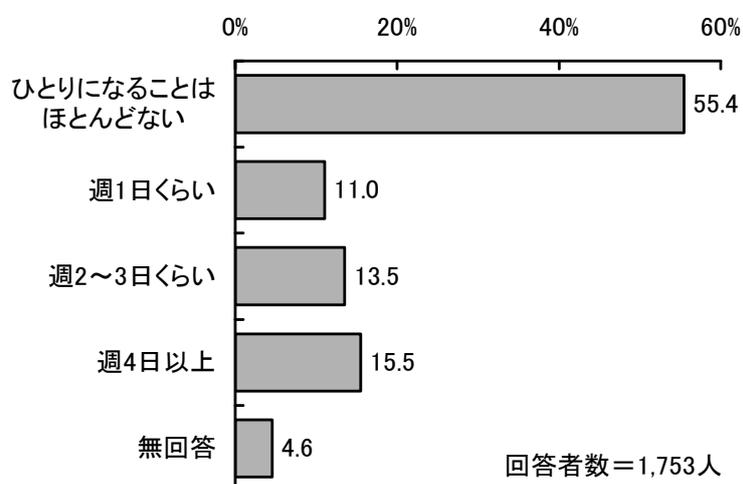
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

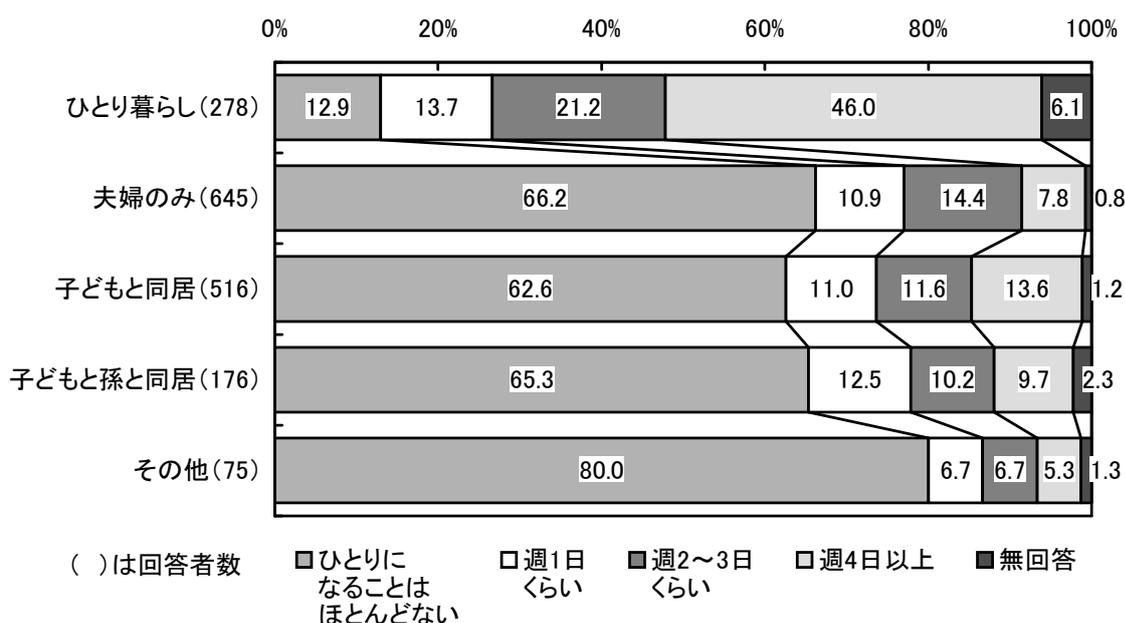
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」が55.4%と過半数を占める一方、「週4日以上」とする回答も15.5%と1割を超える。

世帯構成別にみると、夫婦のみや子どもや孫との同居世帯の人では「ひとりになることはほとんどない」が6割を超える。「週4日以上」ひとりでいる割合は、ひとり暮らしの人が46.0%、子どもと同居の人が13.6%、その他の世帯の人では1割を下回っている。

図表2-7 日中独居の状況(単数回答)



図表2-8 日中独居の状況



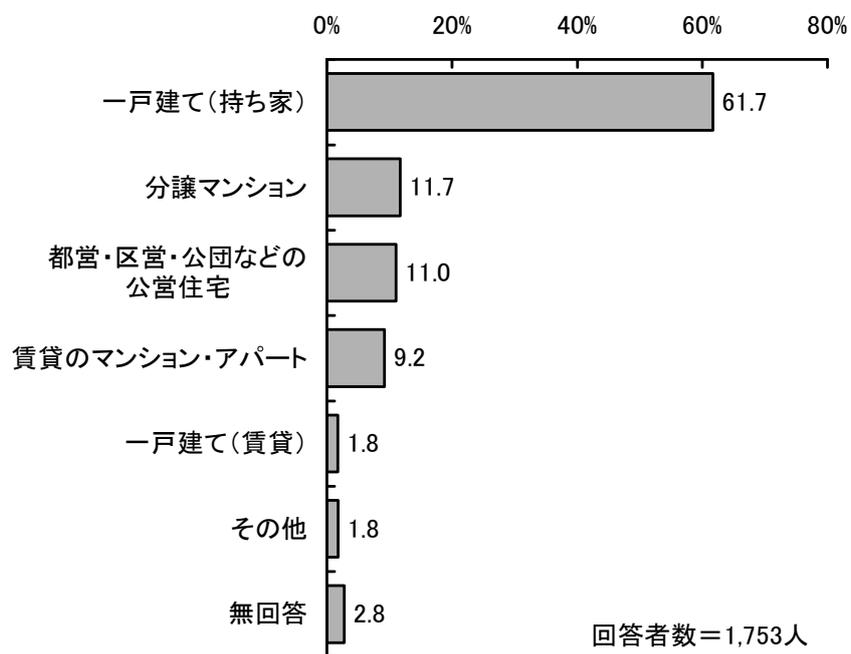
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(5)住居の形態

問 6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」61.7%がもっとも高く、次いで「分譲マンション」11.7%、「都営・区営・公団などの公営住宅」11.0%、「賃貸のマンション・アパート」9.2%と続いている。

図表2-9 住居の形態(単数回答)



日常生活圏域別にみると、区民課、小岩、東部、鹿骨は「一戸建て（持ち家）」が7割を超える。葛西南は「分譲マンション」が3割を超えてもっとも高い。

世帯構成別にみると、子どもや孫との同居世帯の人では「一戸建て（持ち家）」が7～8割台を占める。一方、ひとり暮らしの人は「一戸建て（持ち家）」は3割台であり、「賃貸のマンション・アパート」が27.0%、「都営・区営・公団などの公営住宅」が20.5%となっている。

図表2-10 住居の形態

		回答者数(人)	一戸建て(持ち家)	分譲マンション	都営・区営・公団などの公営住宅	賃貸のマンション・アパート	一戸建て(賃貸)	その他	無回答
全体		1,753	61.7	11.7	11.0	9.2	1.8	1.8	2.8
日常生活圏域別	区民課	412	74.8	8.0	3.4	7.3	2.4	1.9	2.2
	小松川	149	51.7	13.4	24.8	5.4	0.7	2.7	1.3
	葛西北	222	53.2	14.9	14.0	10.4	1.8	1.8	4.1
	葛西南	235	20.4	35.7	26.8	11.5	0.9	2.6	2.1
	小岩	290	75.2	4.5	1.7	11.0	3.4	0.7	3.4
	東部	270	71.9	5.9	11.5	5.9	1.5	1.5	1.9
	鹿骨	133	72.2	2.3	5.3	14.3	0.0	1.5	4.5
世帯構成別	ひとり暮らし	278	34.9	10.4	20.5	27.0	2.9	4.0	0.4
	夫婦のみ	645	60.9	16.3	14.1	6.2	1.1	1.4	0.0
	子どもと同居	516	72.7	11.0	6.6	6.4	2.3	0.8	0.2
	子どもと孫と同居	176	86.9	4.0	2.8	4.0	0.6	1.1	0.6
	その他	75	70.7	6.7	4.0	8.0	4.0	6.7	0.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(6) 居住階数、エレベーターの有無

マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3~6に○)におうかがいします。

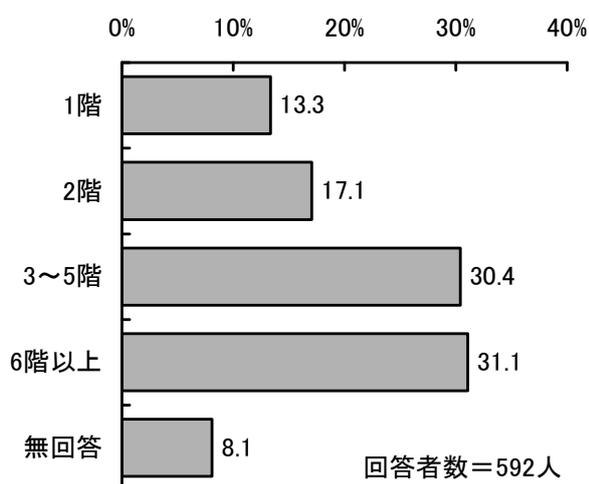
問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「6階以上」31.1%、「3~5階」30.4%と、3階以上が61.5%を占める。

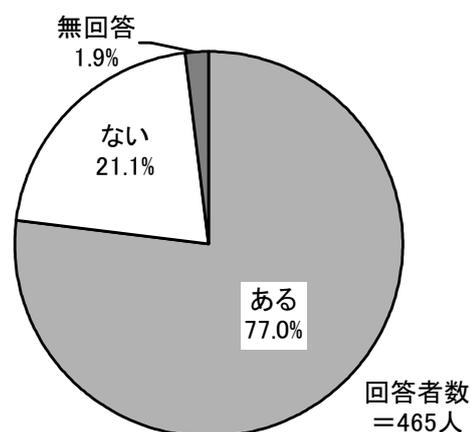
2階以上に居住している場合のエレベーターの有無をみると、「ある」が77.0%となっている。

居住階数を居住地別にみると、区民課、鹿骨は「2階」、葛西北、小岩、東部は「3~5階」、小松川、葛西南は「6階以上」居住者の割合が、それぞれもっとも高い。

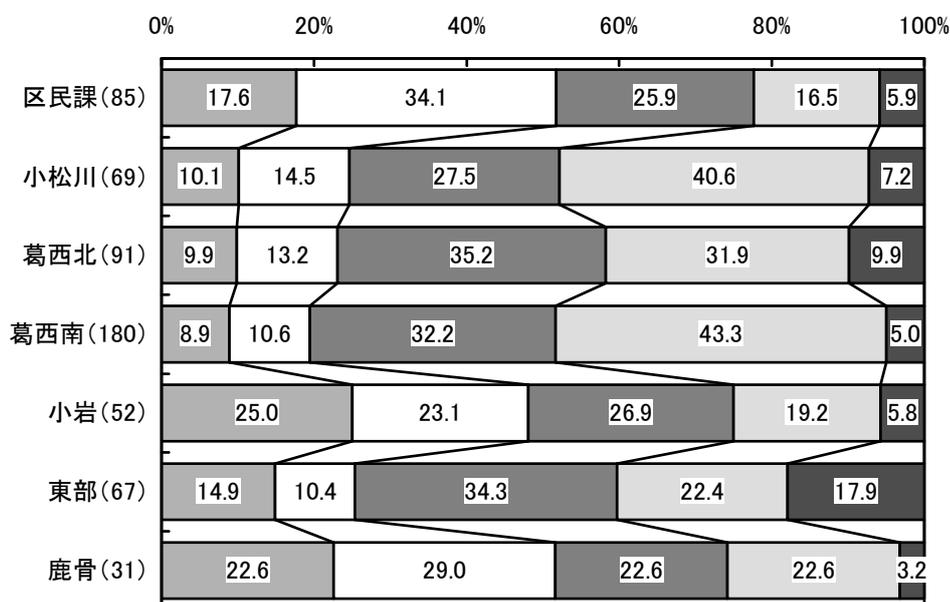
図表2-11 居住階数(単数回答)



図表2-12 エレベーターの有無(単数回答)



図表2-13 居住階数



()は回答者数 ■ 1階 □ 2階 ■ 3~5階 □ 6階以上 ■ 無回答

(7) 本人と配偶者の収入源、年収

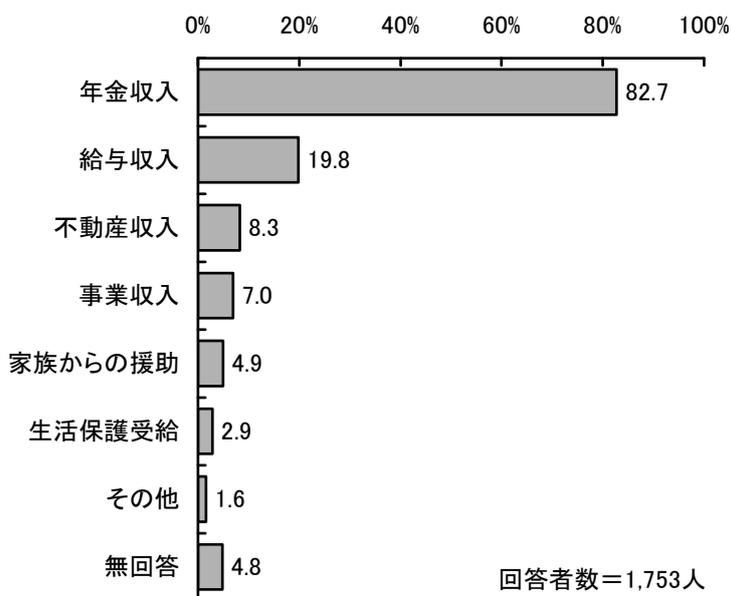
問7 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

問8 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。

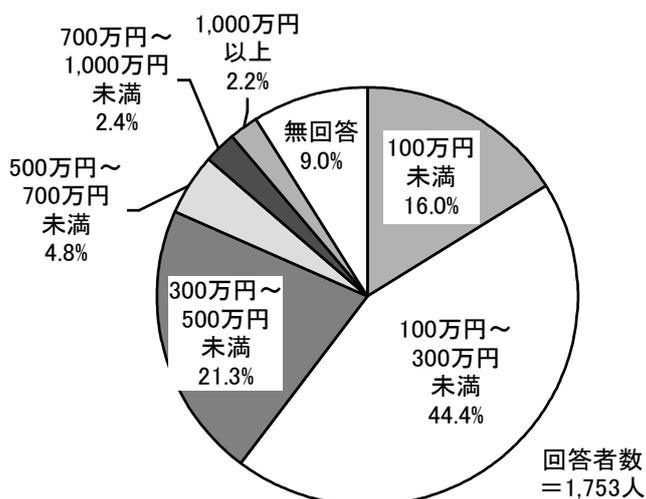
本人と配偶者の収入源は、82.7%が「年金収入」と回答している。「給与収入」がある人は19.8%と約2割である。

本人と配偶者の税込みの年収の合計は、「100万円～300万円未満」44.4%、「300万円～500万円未満」21.3%、「100万円未満」16.0%の順であり、300万円未満の人が約6割を占める。

図表2-14 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表2-15 本人と配偶者の年収(単数回答)



2. 健康について

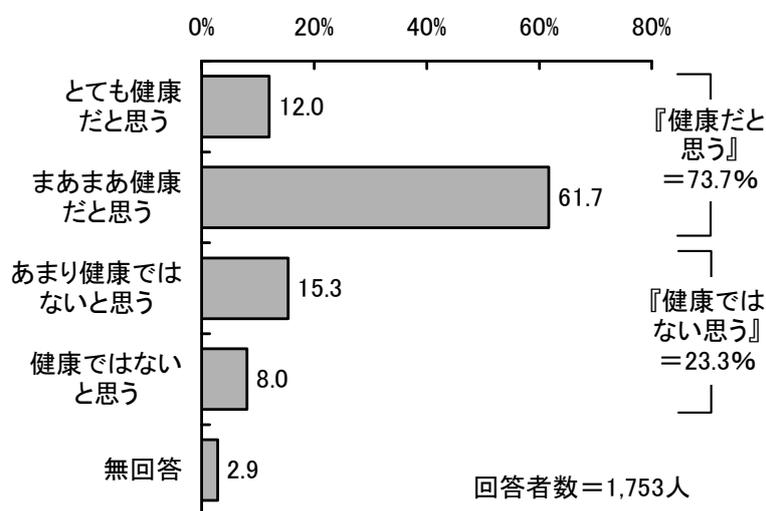
(1) 健康状態

問9 あなた(あて名のご本人)は、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。
(1つに○)【比較調査 241 参照】

健康状態は、「とても健康だと思う」12.0%、「まあまあ健康だと思う」61.7%をあわせた73.7%が『健康だと思う』と回答している。「あまり健康ではないと思う」15.3%、「健康ではないと思う」8.0%をあわせた『健康ではないと思う』は23.3%となっている。

年齢別にみると、65～79歳の年齢層では7割台が『健康だと思う』と回答している。

図表2-16 健康状態(単数回答)



図表2-17 健康状態

		回答者数(人)	とても健康だと思う	まあまあ健康だと思う	あまり健康ではないと思う	健康ではないと思う	無回答	『健康だと思う』	『健康ではないと思う』
全体		1,753	12.0	61.7	15.3	8.0	2.9	73.7	23.3
年齢別	65～69歳	616	11.5	66.2	13.1	5.8	3.2	77.7	18.9
	70～74歳	537	12.5	59.4	16.9	8.4	2.8	71.9	25.3
	75～79歳	355	14.4	60.6	13.8	10.4	0.8	75.0	24.2
	80～84歳	157	9.6	56.1	21.7	7.6	5.1	65.7	29.3
	85歳以上	69	10.1	59.4	14.5	13.0	2.9	69.5	27.5

※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

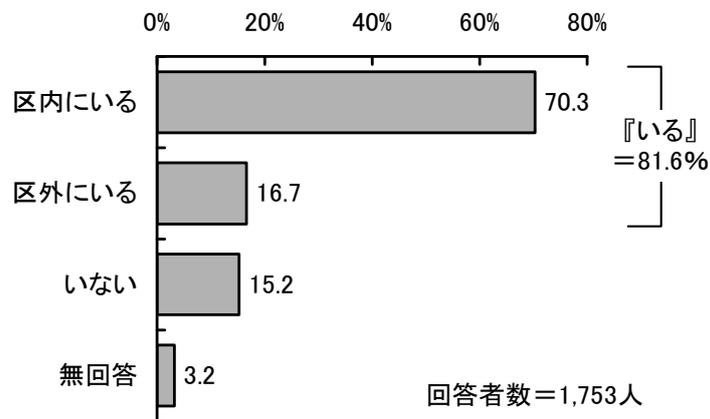
※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

(2) かかりつけ医の有無

問 10 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 242 頁参照】

かかりつけ医の有無については、「区内にいる」70.3%、「区外にいる」が16.7%であり、81.6%が『いる』と回答している。

図表2-18 かかりつけ医の有無(複数回答)



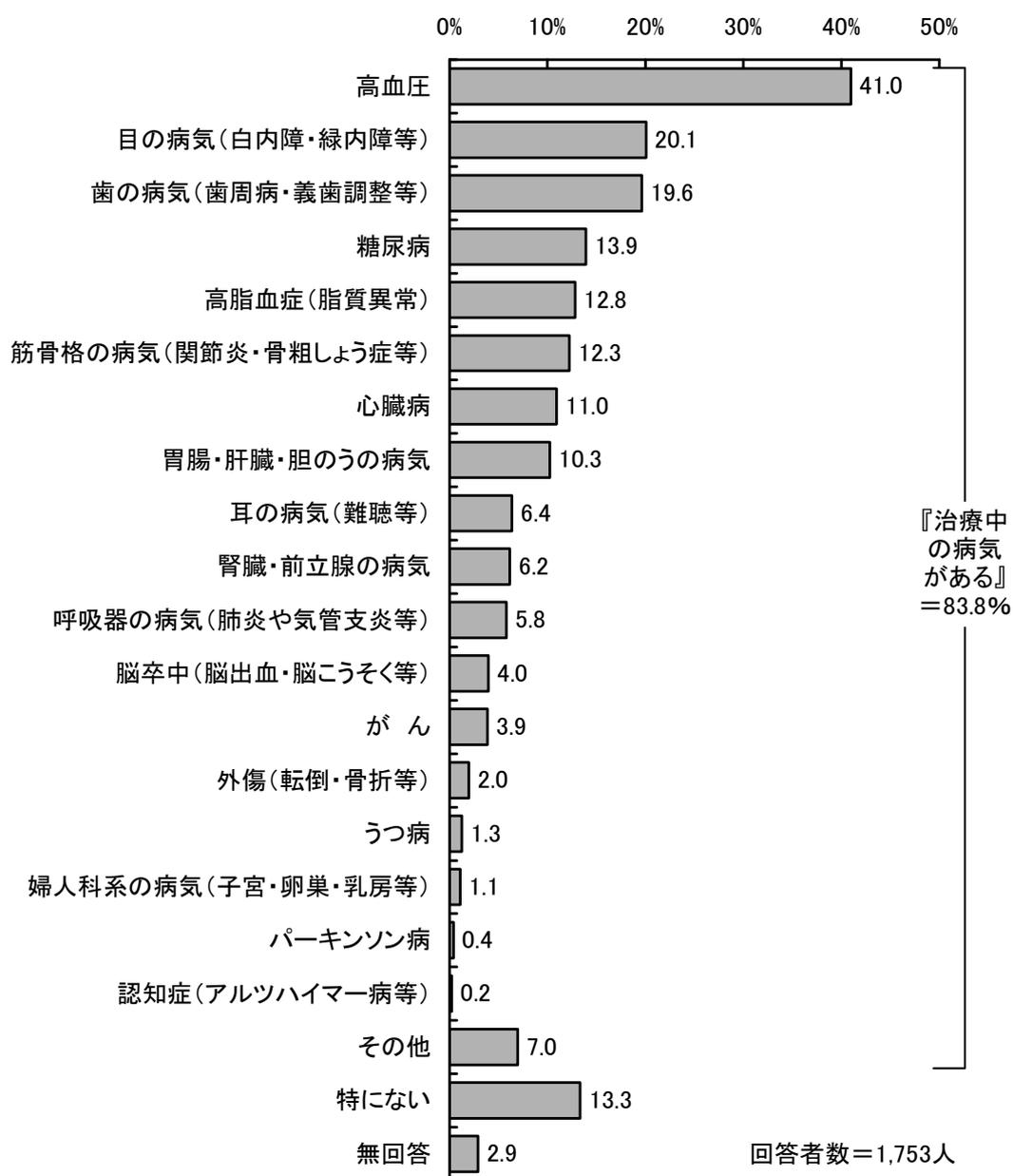
※『いる』=100% - 「いない」 - 「無回答」

(3) 現在治療中の病気

問 11 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気をみると、83.8%が『治療中の病気がある』と回答している。具体的には、「高血圧」41.0%に次いで、「目の病気(白内障・緑内障等)」20.1%、「歯の病気(歯周病・義歯調整等)」19.6%、「糖尿病」13.9%、「高脂血症(脂質異常)」12.8%の順となっている。

図表2-19 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(4) 飲んでいる薬の種類

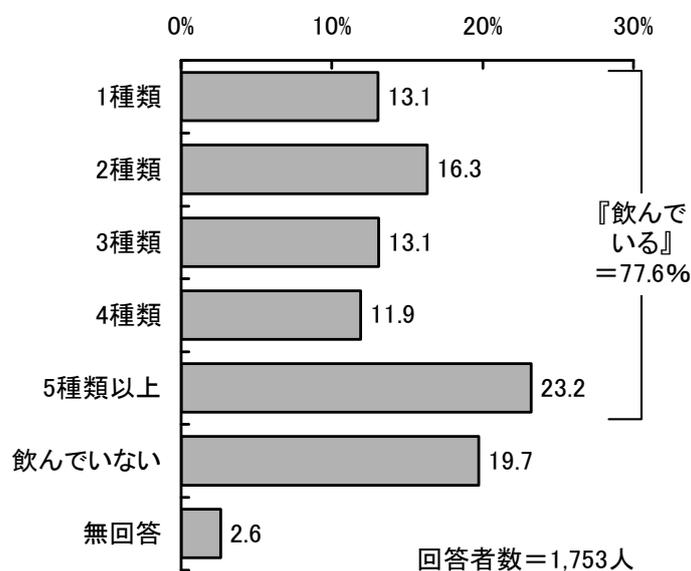
問 12 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類をみると、「5種類以上」がもっとも高く 23.2%を占め、一方「飲んでいない」は 19.7%と約 2 割であった。

年齢別にみると、75 歳以上では『飲んでいる』割合が 8 割を超え、85 歳以上では 91.2% になっている。

図表2-20 飲んでいる薬の種類(単数回答)



図表2-21 飲んでいる薬の種類

		回答者数(人)	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	飲んでいない	無回答	『飲んでいる』
全体		1,753	13.1	16.3	13.1	11.9	23.2	19.7	2.6	77.6
年齢別	65～69歳	616	15.3	16.7	11.4	10.4	17.2	27.1	1.9	71.0
	70～74歳	537	14.3	17.5	13.6	11.7	20.5	19.9	2.4	77.6
	75～79歳	355	11.0	14.4	15.2	12.1	31.5	12.7	3.1	84.2
	80～84歳	157	6.4	15.3	13.4	12.7	35.7	13.4	3.2	83.5
	85歳以上	69	10.1	17.4	10.1	26.1	27.5	5.8	2.9	91.2

※『飲んでいる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」 + 「5種類以上」

3. 介護予防について

(1) 介護予防のための取り組み状況

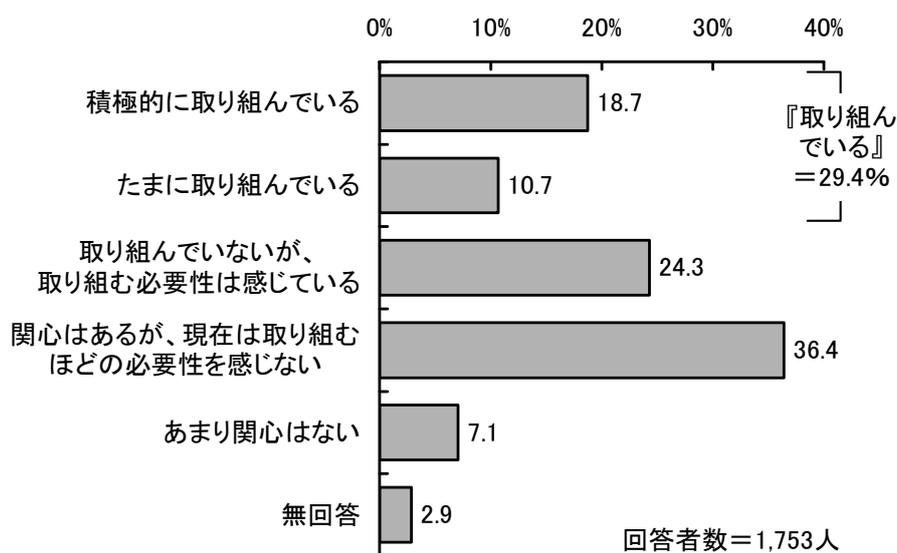
問 13 あなた(あて名のご本人)は、現在、介護予防のための取り組みをしていますか。

(1つに○)

介護予防のための取り組み状況をみると、「関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない」36.4%がもっとも高く、次いで「取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている」24.3%が続いている。

「積極的に取り組んでいる」18.7%、「たまに取り組んでいる」10.7%をあわせた『取り組んでいる』人の割合は約3割となっている。

図表2-22 介護予防のための取り組み状況(単数回答)



※『取り組んでいる』 = 「積極的に取り組んでいる」 + 「たまに取り組んでいる」

性別にみると、『取り組んでいる』は、男性 27.3%に比べて女性の方が 31.1%と高い。
 年齢別にみると、80～84 歳は他に比べて『取り組んでいる』割合が低い。80 歳以上の人は 79 歳以下の年齢層の人に比べて「取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている」が高くなっている。

図表2-23 介護予防のための取り組み状況

		回答者数(人)	積極的に取り組んでいる	たまに取り組んでいる	取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている	関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない	あまり関心はない	無回答	『取り組んでいる』
全体		1,753	18.7	10.7	24.3	36.4	7.1	2.9	29.4
性別	男性	788	16.9	10.4	24.0	37.7	8.2	2.8	27.3
	女性	942	20.2	10.9	24.6	35.7	5.9	2.7	31.1
年齢別	65～69 歳	616	18.3	10.6	25.8	35.4	8.0	1.9	28.9
	70～74 歳	537	19.9	11.2	22.3	38.5	6.0	2.0	31.1
	75～79 歳	355	18.9	12.1	22.8	37.7	5.6	2.8	31.0
	80～84 歳	157	15.3	7.6	27.4	34.4	9.6	5.7	22.9
	85 歳以上	69	20.3	8.7	30.4	30.4	5.8	4.3	29.0

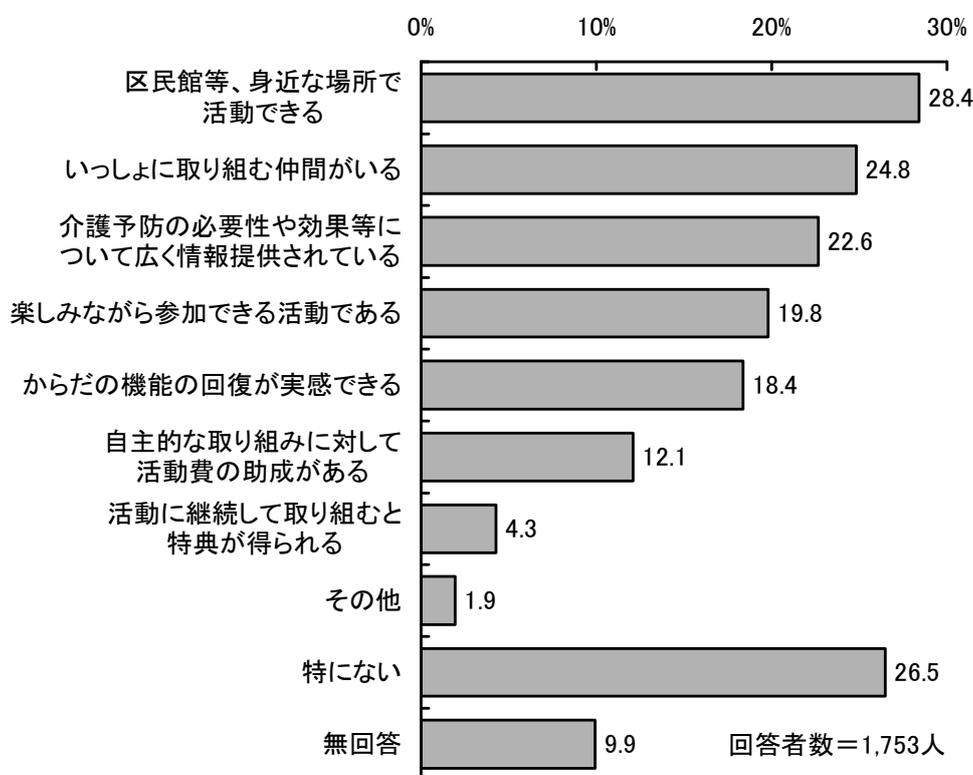
※『取り組んでいる』＝「積極的に取り組んでいる」＋「たまに取り組んでいる」

(2) 介護予防に取り組みやすくするための条件

問 14 介護予防に取り組みやすくするには、どのような環境・条件が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【比較調査 243 参照】

介護予防に取り組みやすくするための条件をみると、「区民館等、身近な場所で活動できる」28.4%、「いっしょに取り組む仲間がいる」24.8%、「介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている」22.6%と、身近に活動の場があること、仲間がいること、情報があることが上位3項目にあげられている。

図表2-24 介護予防に取り組みやすくするための条件(複数回答)

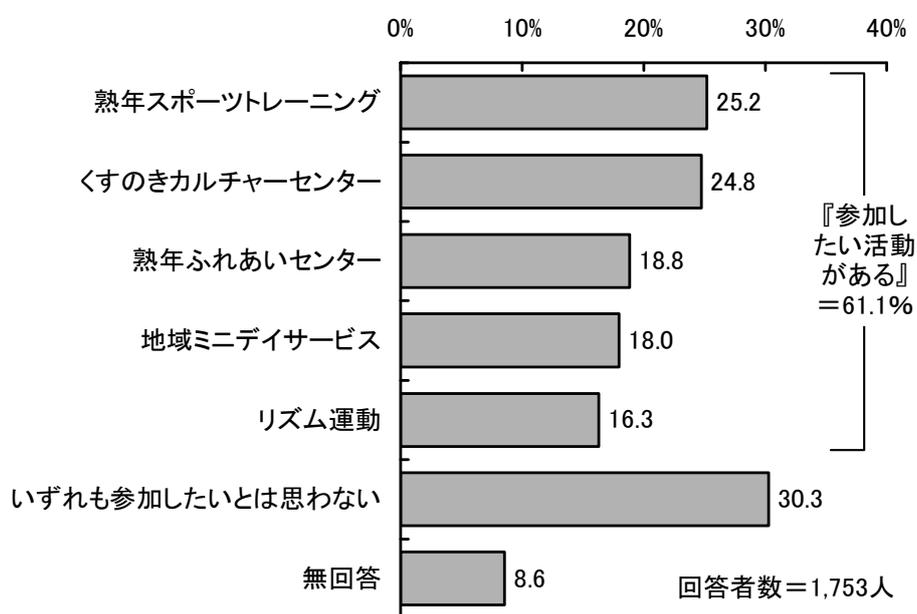


(3) 今後取り組みたい活動

問 15 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後取り組みたい活動をみると、61.1%が『参加したい活動がある』と回答している。具体的には、「熟年スポーツトレーニング」25.2%、「くすのきカルチャーセンター」24.8%、「熟年ふれあいセンター」18.8%の順となっている。

図表2-25 今後取り組みたい活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

性別にみると、『参加したい活動がある』は、男性 57.6%に比べて女性の方が 64.8%と高い。男性は「熟年スポーツトレーニング」、女性は「くすのきカルチャーセンター」をあげた人の割合がそれぞれもっとも高い。

年齢別にみると、65～74 歳は 6 割台が『参加したい活動がある』と回答している。年齢層が高くなるとこの割合は低下し、75～79 歳では 5 割台、80 歳以上では 4 割台となっている。

図表2-26 今後取り組みたい活動

		回答者数(人)	熟年スポーツトレーニング	くすのきカルチャーセンター	熟年ふれあいセンター	地域ミニデイサービス	リズム運動	いずれも参加したいとは思わない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,753	25.2	24.8	18.8	18.0	16.3	30.3	8.6	61.1
性別	男性	788	29.4	21.1	16.2	16.5	9.4	35.5	6.9	57.6
	女性	942	22.1	28.3	21.0	19.3	22.4	25.8	9.4	64.8
年齢別	65～69 歳	616	33.4	27.9	19.2	20.6	15.1	26.8	6.3	66.9
	70～74 歳	537	26.8	27.0	21.8	16.8	19.4	24.4	8.2	67.4
	75～79 歳	355	18.6	22.3	15.5	15.2	16.9	36.9	10.1	53.0
	80～84 歳	157	9.6	16.6	17.2	17.2	12.7	43.9	10.2	45.9
	85 歳以上	69	10.1	14.5	15.9	21.7	8.7	42.0	11.6	46.4

※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

4. 日常生活の状況について

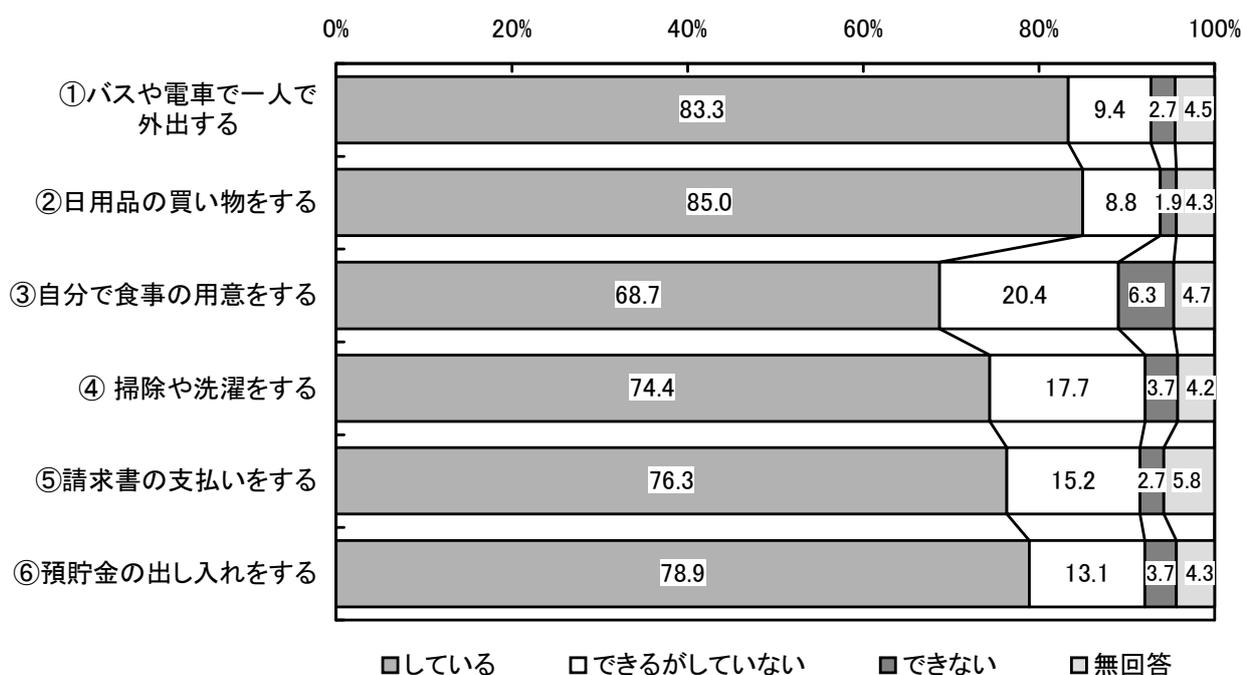
(1) 手段的日常生活動作 (IADL)・日常生活動作 (ADL) の自立度

問 16 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。①～⑦について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。【比較調査 244 参照】

①手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

手段的日常生活動作 (IADL) の自立度をみると、「している」割合は、“②日用品の買い物をする”“①バスや電車で一人で外出する”は8割台、“⑥預貯金の出し入れをする”“⑤請求書の支払いをする”“④掃除や洗濯をする”は7割台、もっとも自立度の低い“③自分で食事の用意をする”は68.7%となっている。

図表2-27 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度 (各単数回答)



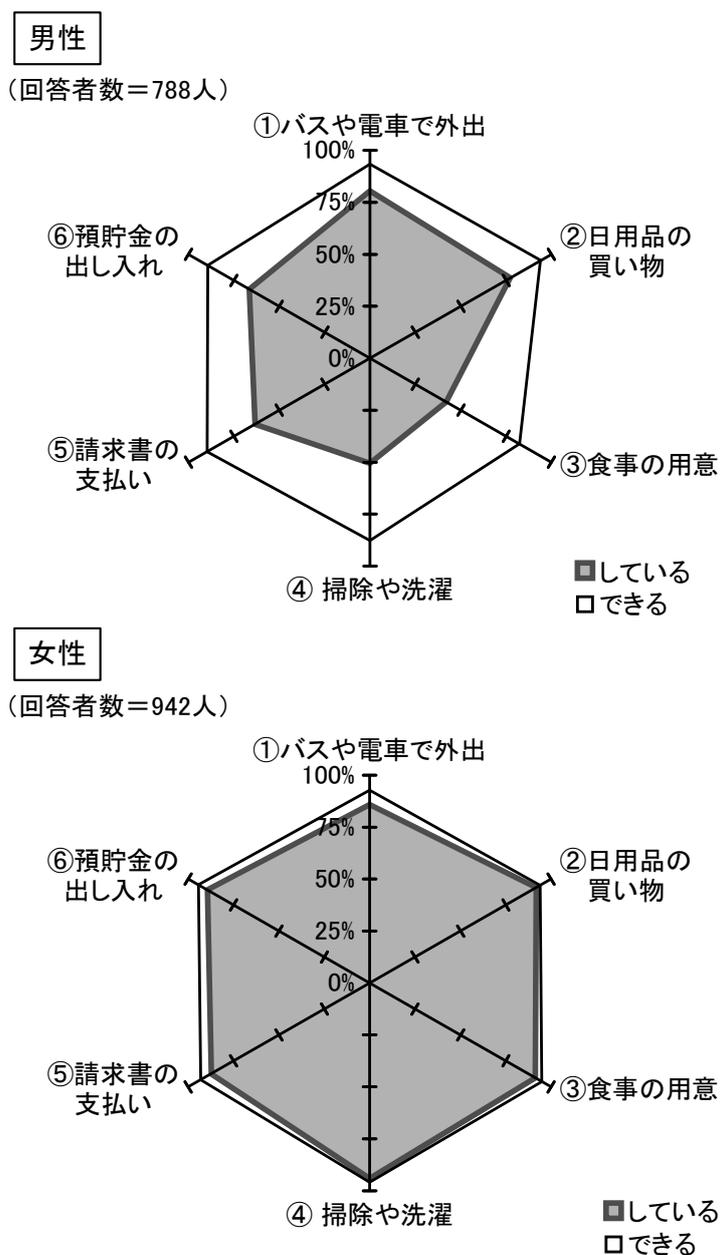
回答者数=1,753人

※手段的日常生活動作 (IADL) については、6 ページ参照

性別にみると、「している」割合（下図のグレーの網掛け部分）は、男性が女性を大きく下回っていることがわかる。女性はいずれも8～9割台であるのに対して、男性はもっとも割合が高い“①バスや電車で外出”が80.6%であり、“③食事の用意”は41.9%、“④掃除や洗濯”は50.5%にとどまっている。

「している」に「できるがしていない」をあわせた『できる』割合（下図の外側の枠）をみると、男性は①・②は9割台、③～⑥は8割台、女性はいずれの項目も9割台となっている。

図表2-28 性別手段的日常生活動作(IADL)の自立度



※各項目の「している」、「できる」(「している」+「できるがしていない」)割合を掲載している

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど概ね「している」割合は低くなっており、加齢に伴い手段的日常生活動作（IADL）の自立度が低くなることがわかる。

図表2-29 手段的日常生活動作(IADL)の自立度

		回答者数(人)	①バスや電車で外出			②日用品の買い物			③食事の用意		
			している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない
全体		1,753	83.3	9.4	2.7	85.0	8.8	1.9	68.7	20.4	6.3
性別	男性	788	80.6	12.8	1.6	77.2	16.9	1.1	41.9	40.6	11.8
	女性	942	85.9	6.8	3.4	91.9	2.1	2.3	91.3	3.5	1.6
年齢別	65～69歳	616	83.0	11.4	1.3	87.2	8.3	1.0	69.6	20.0	6.8
	70～74歳	537	88.1	6.3	0.9	86.4	7.8	1.1	71.3	18.8	5.0
	75～79歳	355	84.5	8.7	2.8	85.6	9.6	1.1	68.7	22.5	4.8
	80～84歳	157	77.1	9.6	7.6	76.4	12.1	5.1	62.4	21.7	8.3
	85歳以上	69	62.3	20.3	15.9	73.9	11.6	11.6	53.6	24.6	14.5

		回答者数(人)	④掃除や洗濯			⑤請求書の支払い			⑥預貯金のおし入れ		
			している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない	している	できないが していない	できない
全体		1,753	74.4	17.7	3.7	76.3	15.2	2.7	78.9	13.1	3.7
性別	男性	788	50.5	37.2	6.9	63.3	26.5	3.6	66.6	23.0	5.3
	女性	942	94.2	1.8	1.1	87.4	5.9	1.9	89.6	4.8	2.1
年齢別	65～69歳	616	75.2	19.5	1.9	78.6	15.1	1.9	79.9	14.1	2.3
	70～74歳	537	75.8	14.9	5.4	75.8	16.2	1.9	79.0	12.5	3.7
	75～79歳	355	71.3	21.1	2.8	78.0	14.1	3.1	80.0	13.0	3.7
	80～84歳	157	73.9	14.0	5.1	71.3	14.6	4.5	79.0	11.5	3.8
	85歳以上	69	71.0	18.8	8.7	66.7	17.4	10.1	71.0	14.5	13.0

※「無回答」は掲載を省略している

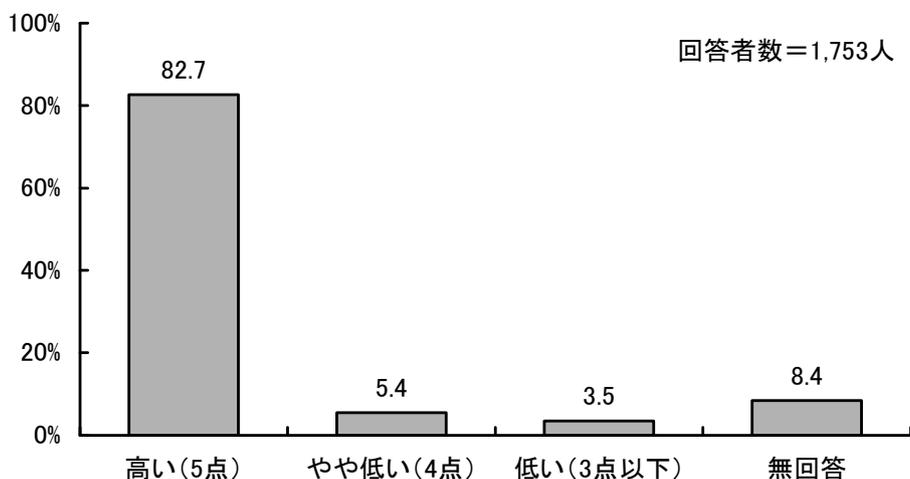
手段的日常生活動作（IADL）に関する①～③・⑤・⑥の項目を5点満点となるよう点数化し、集計したのが、下表である（点数化の基準については6ページ参照）。

結果は、自立度が「高い（5点）」が82.7%を占めており、「やや低い（4点）」が5.4%、「低い（3点以下）」が3.5%となっている。

性別にみると、「高い（5点）」は、男性75.8%、女性88.9%と、女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「高い（5点）」は、79歳までは8割台を占めるが、80～84歳では7割台、85歳以上では6割台と、80歳を境に大きく低下していることがわかる。

図表2-30 手段的日常生活動作(IADL)得点



図表2-31 手段的日常生活動作(IADL)得点

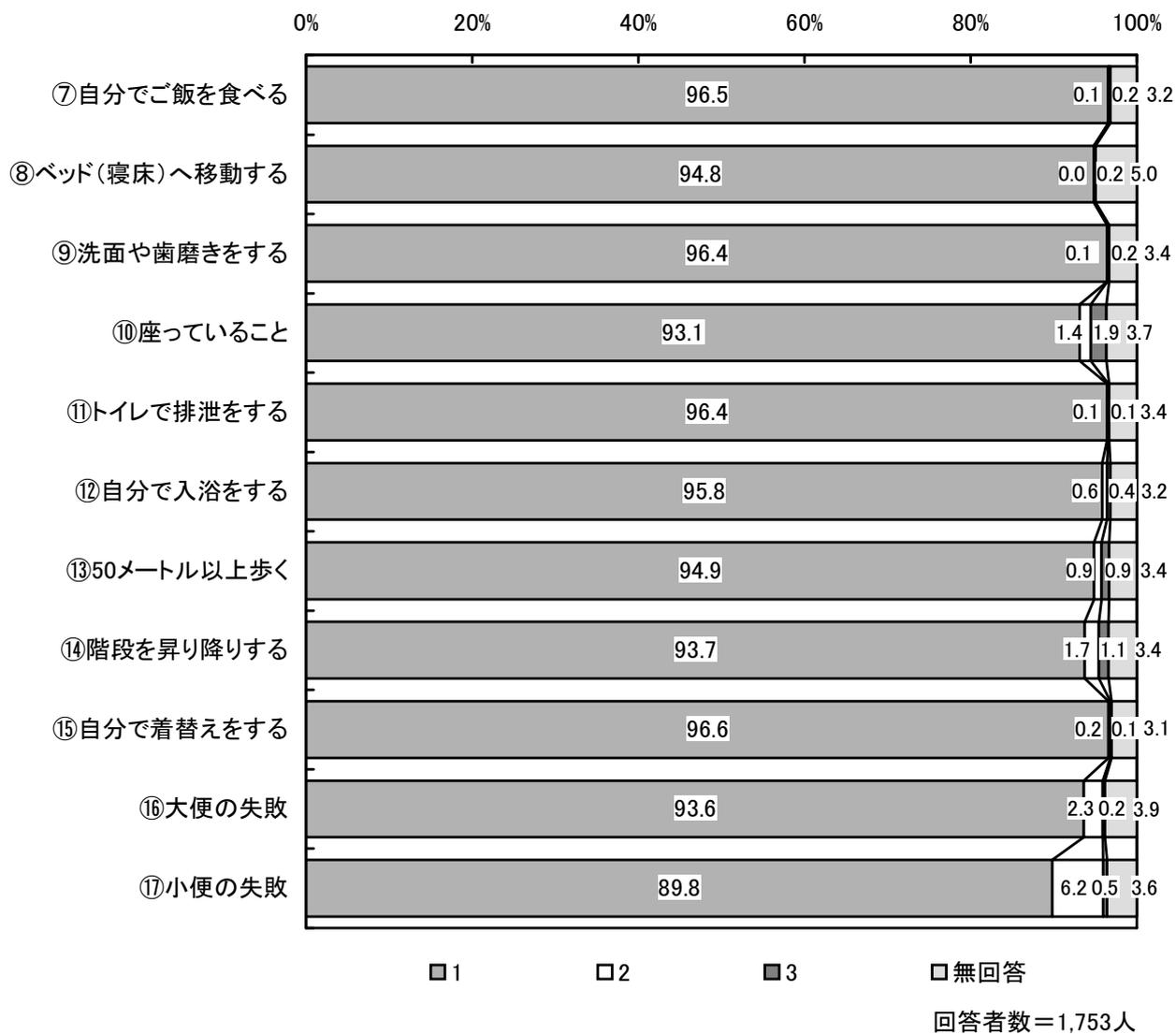
		回答者数(人)	高い(5点)	やや低い(4点)	低い(3点以下)	無回答	平均得点(点)
全体		1,753	82.7	5.4	3.5	8.4	4.82
性別	男性	788	75.8	9.9	4.2	10.2	4.76
	女性	942	88.9	1.7	2.8	6.7	4.88
年齢別	65～69歳	616	85.7	6.2	2.3	5.8	4.86
	70～74歳	537	84.9	4.8	2.4	7.8	4.88
	75～79歳	355	82.8	3.9	3.7	9.6	4.85
	80～84歳	157	72.6	7.6	5.7	14.0	4.67
	85歳以上	69	68.1	4.3	15.9	11.6	4.28

②日常生活動作(ADL)の自立度

日常生活動作(ADL)の自立度をみると、⑦～⑮の各項目については、いずれも「できる」が9割を超えている。また、“⑯大便の失敗”は93.6%、“⑰小便の失敗”は89.8%が「ない」と回答している。

年齢別にみると、“⑩座っていること”“⑫入浴”“⑬50メートル以上歩く”“⑭階段の昇り降り”“⑰小便の失敗”は、概ね年齢が高くなるほど「できる」(⑰については「ない」)割合が低くなっていることがわかる。

図表2-32 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



※⑦～⑨、⑪～⑮の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

⑩の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑯・⑰の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

※日常生活動作(ADL)については、6ページ参照

図表2-33 日常生活動作(ADL)の自立度

		回答者数(人)	⑦食事			⑧ベッドへの移動			⑨洗面や歯磨き			⑩座っていること		
			できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	支えが 必 要	できない
全体		1,753	96.5	0.1	0.2	94.8	0.0	0.2	96.4	0.1	0.2	93.1	1.4	1.9
性別	男性	788	96.2	0.3	0.3	94.2	0.0	0.3	96.1	0.0	0.3	94.3	0.9	0.9
	女性	942	97.1	0.0	0.0	95.8	0.0	0.1	97.0	0.1	0.0	92.6	1.7	2.5
年齢別	65～69歳	616	97.1	0.0	0.0	95.0	0.0	0.0	96.9	0.0	0.0	95.3	0.5	0.8
	70～74歳	537	96.3	0.0	0.2	94.2	0.0	0.6	96.1	0.0	0.2	92.4	1.9	1.9
	75～79歳	355	97.2	0.3	0.0	96.6	0.0	0.0	97.5	0.0	0.0	93.8	1.4	2.3
	80～84歳	157	95.5	0.6	0.0	94.3	0.0	0.0	95.5	0.0	0.0	89.2	1.3	3.8
	85歳以上	69	97.1	0.0	1.4	95.7	0.0	0.0	95.7	1.4	1.4	89.9	4.3	4.3

		回答者数(人)	⑪トイレでの排泄			⑫入浴			⑬50メートル以上歩く			⑭階段の昇り降り		
			できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない	できる	介助が あ れ ば で き る	できない
全体		1,753	96.4	0.1	0.1	95.8	0.6	0.4	94.9	0.9	0.9	93.7	1.7	1.1
性別	男性	788	96.1	0.1	0.1	95.9	0.4	0.3	94.9	0.6	0.8	94.5	1.0	0.6
	女性	942	97.1	0.1	0.0	96.1	0.7	0.4	95.1	1.1	1.0	93.3	2.3	1.5
年齢別	65～69歳	616	96.4	0.3	0.0	96.6	0.0	0.3	95.9	0.3	0.5	95.5	1.1	0.3
	70～74歳	537	95.9	0.0	0.2	95.5	0.4	0.4	94.6	0.4	1.1	93.7	0.9	1.1
	75～79歳	355	97.7	0.0	0.0	96.6	1.1	0.0	96.1	1.7	0.0	94.9	1.4	1.1
	80～84歳	157	95.5	0.0	0.0	94.9	1.3	0.0	93.0	1.3	1.3	89.2	5.1	1.9
	85歳以上	69	98.6	0.0	1.4	92.8	2.9	4.3	89.9	4.3	5.8	87.0	7.2	5.8

		回答者数(人)	⑮着替え			⑯大便の失敗			⑰小便の失敗		
			できる	介助が あ れ ば で き る	できない	ない	ある と き ど き	よくある	ない	ある と き ど き	よくある
全体		1,753	96.6	0.2	0.1	93.6	2.3	0.2	89.8	6.2	0.5
性別	男性	788	96.4	0.3	0.0	93.0	3.0	0.3	88.6	7.5	0.1
	女性	942	97.0	0.2	0.1	94.5	1.5	0.2	91.3	4.8	0.7
年齢別	65～69歳	616	96.9	0.2	0.2	95.6	0.8	0.2	95.1	1.5	0.2
	70～74歳	537	96.1	0.0	0.2	93.9	1.3	0.4	87.7	7.8	0.4
	75～79歳	355	97.5	0.3	0.0	93.5	3.4	0.0	89.3	8.2	0.3
	80～84歳	157	96.2	0.0	0.0	88.5	5.7	0.0	82.2	9.6	1.9
	85歳以上	69	97.1	2.9	0.0	91.3	5.8	1.4	82.6	14.5	1.4

※「無回答」は掲載を省略している

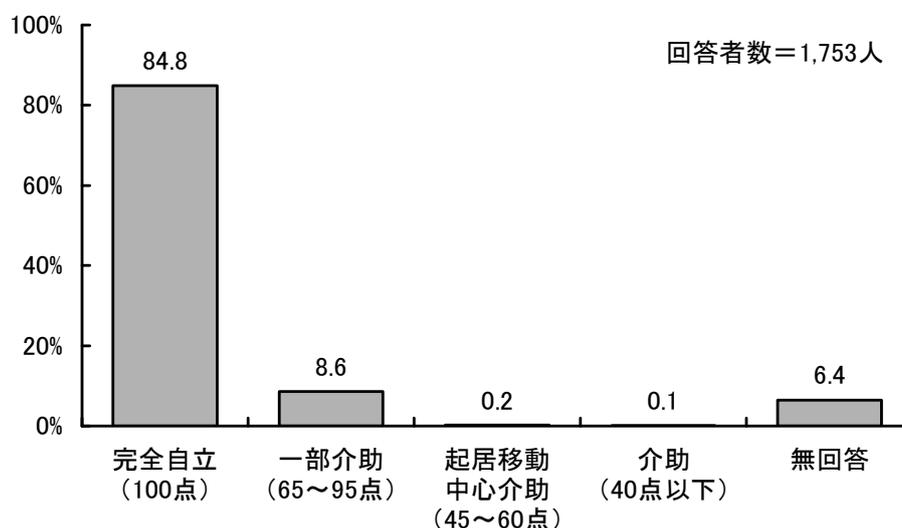
日常生活動作（ADL）の自立度に関する⑦～⑰の項目を100点満点となるよう点数化し、集計したのが、下表である（点数化の基準については6ページ参照）。

結果は、「完全自立（100点）」が84.8%を占めており、「一部介助（65～95点）」が8.6%、「起居移動中心介助（45～60点）」が0.2%、「介助（40点以下）」が0.1%となっている。

性別にみると、「完全自立（100点）」は、男性83.5%、女性86.4%と女性の方が若干高いが、平均得点は男性99.04点、女性98.94点と大きな差はない。

年齢別にみると、概ね年齢層が高くなるほど「完全自立（100点）」の割合が低くなり、平均得点も低下している。80～84歳では17.8%、85歳以上では24.6%が「一部介助（65～95点）」となっている。

図表2-34 日常生活動作(ADL)得点



図表2-35 日常生活動作(ADL)得点

		回答者数(人)	完全自立(100点)	一部介助(65~95点)	起居移動中心介助(45~60点)	介助(40点以下)	無回答	平均得点(点)
全体		1,753	84.8	8.6	0.2	0.1	6.4	98.99
性別	男性	788	83.5	9.3	0.1	0.1	7.0	99.04
	女性	942	86.4	8.0	0.2	0.0	5.4	98.94
年齢別	65~69歳	616	91.4	2.9	0.0	0.0	5.7	99.68
	70~74歳	537	84.2	8.6	0.2	0.0	7.1	99.10
	75~79歳	355	84.5	10.7	0.0	0.0	4.8	98.96
	80~84歳	157	73.2	17.8	0.6	0.0	8.3	97.78
	85歳以上	69	66.7	24.6	1.4	0.0	7.2	95.70

(2)生活機能の状況

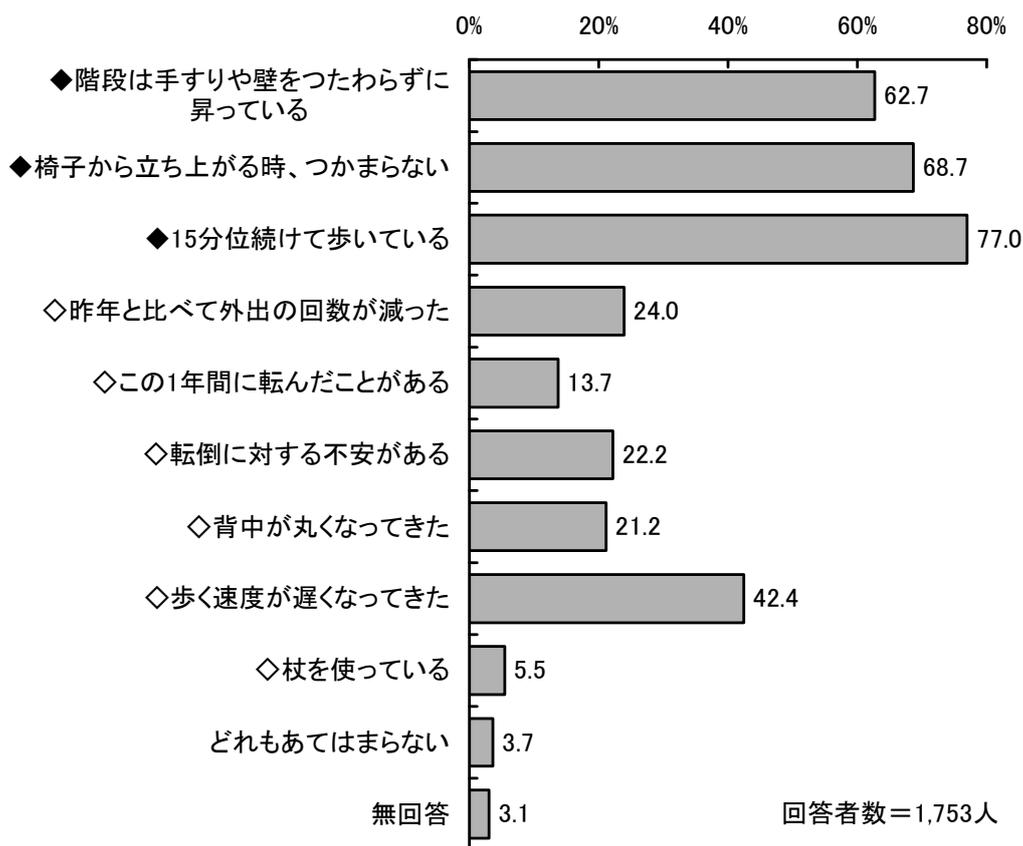
問 17 以下の①～④のすべてについて、あなた(あて名のご本人)に「あてはまる」ことに○をしてください。【比較調査 245～248 参照】

①運動や転倒の状況

運動や転倒の状況に関する質問の選択肢は、前半の3項目が肯定的、以降の6項目が否定的な内容となっている。

肯定的な内容である「15分位続けて歩いている」は7割台、「椅子から立ち上がる時、つかまらない」「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」は6割台となっている。否定的な内容は該当する人の割合が低くなっている中で、「歩く速度が遅くなってきた」は4割台となっている。

図表2-36 運動や転倒の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

性別にみると、肯定的な内容である「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」は男性、否定的な内容に関してはすべて女性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、肯定的な内容である「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」は年齢層が高くなるほど割合は低くなる。反対に、否定的な内容に関しては、すべて年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。特に、「歩く速度が遅くなってきた」は85歳以上では66.7%と、3人に2人があげている。

図表2-37 運動や転倒の状況

		回答者数(人)	階段は手すりや壁をつたわずに昇っている	椅子から立ち上がる時、つかまらない	15分位続けて歩いている	昨年と比べて外出の回数が減った	この1年間に転んだことがある	転倒に対する不安がある	背中が丸くなってきた	歩く速度が遅くなってきた	杖を使っている	どれもあてはまらない	無回答
全体		1,753	62.7	68.7	77.0	24.0	13.7	22.2	21.2	42.4	5.5	3.7	3.1
性別	男性	788	69.0	74.7	76.5	23.5	10.0	14.6	18.3	42.1	3.8	3.8	3.2
	女性	942	57.9	64.1	77.9	24.4	16.6	28.7	23.5	43.0	6.8	3.3	2.9
年齢別	65～69歳	616	72.1	72.7	78.1	18.5	10.1	14.3	17.2	30.4	1.6	4.5	3.6
	70～74歳	537	64.2	71.5	78.4	19.7	14.0	20.7	20.3	41.5	3.0	3.4	3.5
	75～79歳	355	60.6	69.6	77.7	25.1	14.6	29.3	20.8	52.4	7.3	3.9	1.1
	80～84歳	157	38.9	52.2	68.8	43.9	19.1	33.8	32.5	61.1	14.0	1.3	4.5
	85歳以上	69	36.2	52.2	79.7	52.2	27.5	42.0	36.2	66.7	29.0	0.0	0.0

②栄養や口腔機能の状況

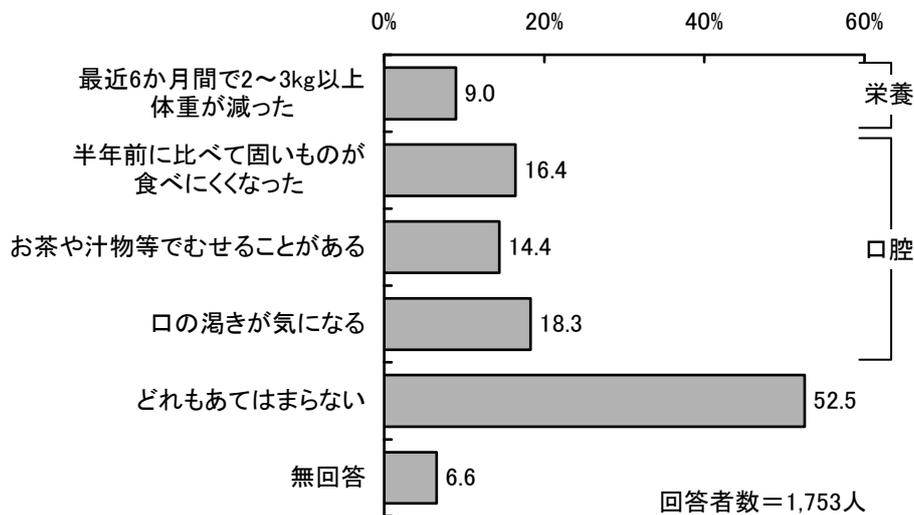
栄養や口腔機能の状況を見ると、栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は9.0%となっている。

また、口腔機能に関する「口の渇きが気になる」「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」「お茶や汁物等でむせることがある」はいずれも1割台となっている。

栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は、性別では男性、年齢別では年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。

口腔機能に関する3項目については、性別では「口の渇きが気になる」は女性の方が高いが、他の2項目の差は小さい。年齢別では、3項目とも概ね年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。

図表2-38 栄養や口腔機能の状況(複数回答)



図表2-39 栄養や口腔機能の状況

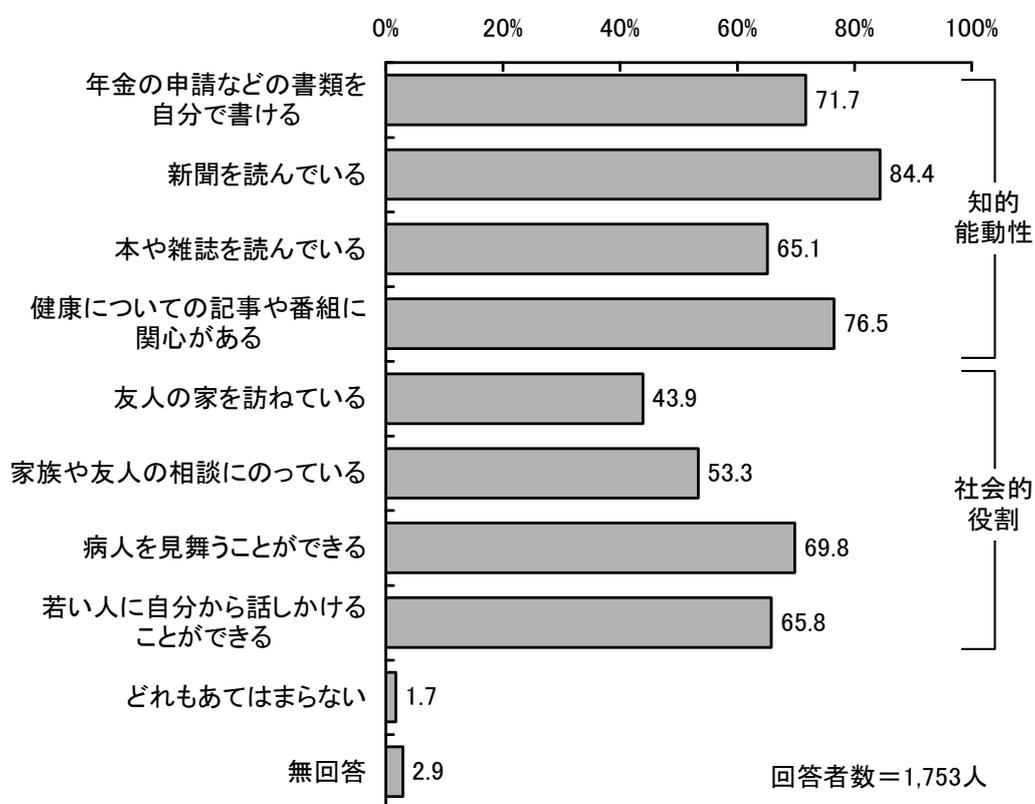
		回答者数(人)	3kg以上体重が減った	最近6か月間で2～3kg以上体重が減った	半年前に比べて固いものが食べにくくなった	お茶や汁物等でむせることがある	口の渇きが気になる	どれもあてはまらない	無回答
全体		1,753	9.0	16.4	14.4	18.3	52.5	6.6	
性別	男性	788	9.5	16.5	14.0	15.9	53.8	6.5	
	女性	942	8.7	16.3	14.8	20.2	51.5	6.5	
年齢別	65～69歳	616	7.1	13.3	13.1	15.4	56.2	6.7	
	70～74歳	537	7.6	16.9	13.6	18.4	52.5	7.8	
	75～79歳	355	9.9	16.6	14.6	20.3	53.0	3.7	
	80～84歳	157	14.6	19.1	15.9	17.2	50.3	6.4	
	85歳以上	69	18.8	30.4	26.1	30.4	29.0	7.2	

③社会活動の状況

前半 4 項目の知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）の状況をみると、「新聞を読んでいる」は 8 割台、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「健康についての記事や番組に関心がある」は 7 割台となっている。

後半 4 項目の社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）の状況は、知的能動性に比べて全体的に該当する人の割合が低い。「病人を見舞うことができる」「若い人に自分から話しかけることができる」が 6 割台となっている一方、「家族や友人の相談にのっている」は 5 割台、「友人の家を訪ねている」は 4 割台となっている。

図表2-40 社会活動の状況(複数回答)



知的能動性に関する4項目について性別にみると、「新聞を読んでいる」は男性、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「本や雑誌を読んでいる」「健康についての記事や番組に関心がある」は女性の方が高い。年齢別にみると、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「本や雑誌を読んでいる」は、概ね年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。

社会的役割に関する4項目について性別にみると、いずれの項目においても女性の方が高い。年齢別にみると、いずれの項目においても、概ね年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。

図表2-41 社会活動の状況

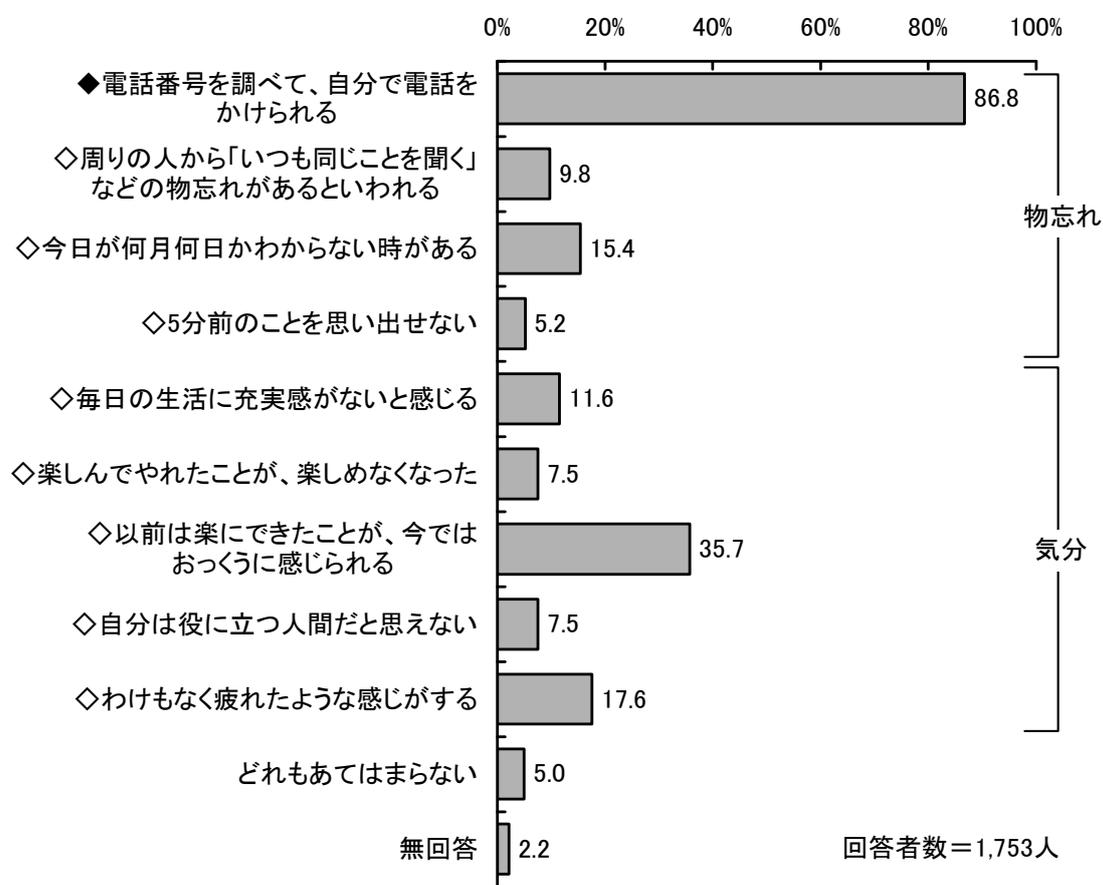
	回答者数(人)	知的能動性				社会的役割				どれもあてはまらない	無回答	
		年金の申請などの書類を自分で書ける	新聞を読んでいる	本や雑誌を読んでいる	健康についての記事や番組に関心がある	友人の家を訪ねている	家族や友人の相談にのっている	病人を見舞うことができる	若い人に自分から話しかけることができる			
全体	1,753	71.7	84.4	65.1	76.5	43.9	53.3	69.8	65.8	1.7	2.9	
性別	男性	788	70.6	89.1	64.1	69.3	31.5	45.7	68.8	61.5	1.6	3.0
	女性	942	73.0	80.9	66.2	83.0	54.6	60.2	71.1	70.0	1.7	2.8
年齢別	65～69歳	616	76.3	84.3	69.3	75.8	42.9	56.8	73.2	67.7	1.0	3.4
	70～74歳	537	70.2	84.2	65.0	75.8	48.0	54.2	72.4	66.1	1.9	3.9
	75～79歳	355	71.8	84.8	62.0	82.3	45.9	52.4	72.4	67.9	1.7	0.8
	80～84歳	157	66.9	86.6	67.5	72.6	35.0	47.1	55.4	62.4	2.5	3.2
	85歳以上	69	59.4	85.5	43.5	75.4	36.2	40.6	47.8	52.2	4.3	0.0

④物忘れや気分の状況

前半4項目の物忘れの状況に関する質問の選択肢のうち、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は8割台となっている。他の3つの否定的な内容の中では、「今日が何月何日かわからない時がある」15.4%がもっとも高くなっている。

後半5項目の気分の状況に関しては、「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」35.7%、「わけもなく疲れたような感じがする」17.6%の割合が高くなっている。

図表2-42 物忘れや気分の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

物忘れに関する4項目について性別にみると、「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は女性の方が高く、また、「今日が何月何日かわからない時がある」「5分前のことを思い出せない」は男性の方が高くなっている。年齢別にみると、「周りの人から“いつも同じことを聞く”などの物忘れがあるといわれる」「今日が何月何日かわからない時がある」は年齢層が高くなるほど、「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は、概ね年齢層が低いほど、割合が高くなっている。

気分に関する5項目について性別にみると、「毎日の生活に充実感がないと感じる」「楽しんでやれたことが、楽しめなくなった」「自分は役に立つ人間だと思えない」は男性、「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」「わけもなく疲れたような感じがする」は女性の方が割合が高い。年齢別にみると、いずれの項目においても、概ね年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。

図表2-43 物忘れや気分の状況

		回答者数(人)	物忘れ				気分					どれもあてはまらない	無回答
			電話番号を調べて、自分で電話をかけられる	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる	今日が何月何日かわからない時がある	5分前のことを思い出せない	毎日の生活に充実感がないと感じる	楽しんでやれたことが、楽しめなくなった	以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる	自分は役に立つ人間だと思えない	わけもなく疲れたような感じがする		
全体		1,753	86.8	9.8	15.4	5.2	11.6	7.5	35.7	7.5	17.6	5.0	2.2
性別	男性	788	86.0	9.8	15.9	6.5	13.3	7.9	33.8	8.6	17.4	5.1	2.7
	女性	942	88.1	9.9	15.1	4.0	10.2	7.1	37.4	6.5	17.7	4.6	1.7
年齢別	65～69歳	616	87.5	7.6	11.0	3.4	13.0	7.5	31.0	5.4	16.2	6.0	1.8
	70～74歳	537	86.8	9.1	14.3	4.5	11.0	6.9	32.8	7.6	15.6	6.0	1.5
	75～79歳	355	89.0	12.1	16.9	8.2	6.8	4.8	37.2	8.2	16.1	1.1	3.7
	80～84歳	157	86.0	13.4	23.6	7.0	12.7	12.1	48.4	7.0	25.5	5.1	0.6
	85歳以上	69	78.3	14.5	33.3	5.8	27.5	14.5	62.3	21.7	33.3	5.8	4.3

⑤その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

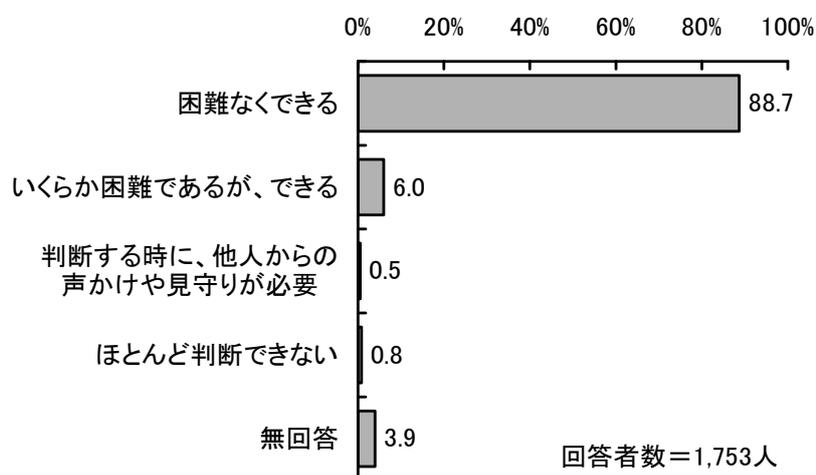
問 18 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問 19 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

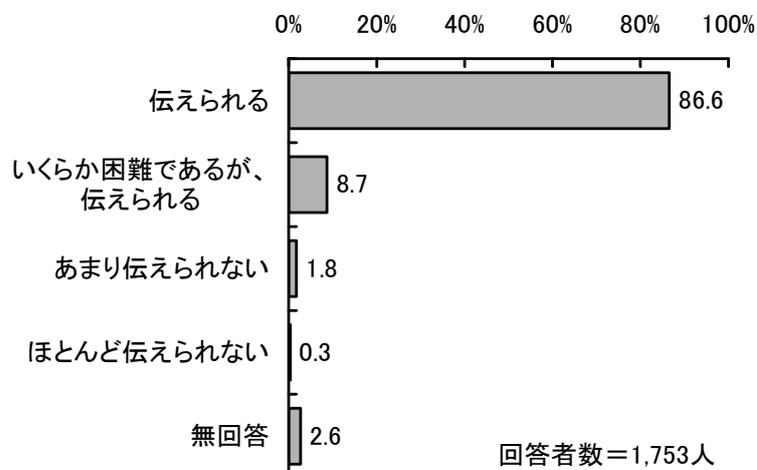
その日の活動の判断については、「困難なくできる」が 88.7%を占める。「いくらか困難であるが、できる」をあわせると、9割以上ができる状況にある。

意思の伝達については、「伝えられる」は 86.6%であり、「いくらか困難であるが、伝えられる」8.7%をあわせると、その日の活動の判断と同様に、9割以上ができる状況にある。

図表2-44 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表2-45 意思の伝達の可否(単数回答)



(3)外出頻度

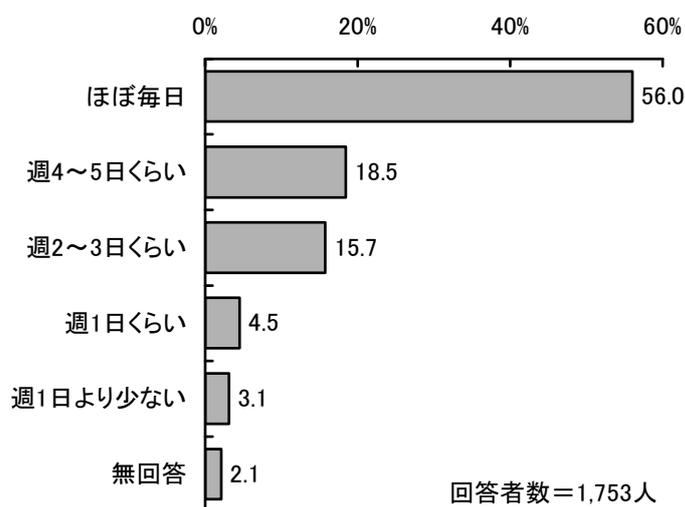
問 20 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」56.0%、「週4～5日くらい」18.5%となっており、これらをあわせた74.5%、約4人に3人は週4日以上外出していると回答している。閉じこもりリスクのある「週1日より少ない」は3.1%であった。

性別にみると、閉じこもりリスクのある「週1日より少ない」割合は、男性2.7%に比べて女性の方が3.6%と高い。

年齢別にみると、「ほぼ毎日」の割合は年齢層が高くなるほど低くなっており、「週1日より少ない」割合は、65～79歳の年齢層の2%台に対し、80歳以上の人では8%台となっている。

図表2-46 外出頻度(単数回答)



図表2-47 外出頻度

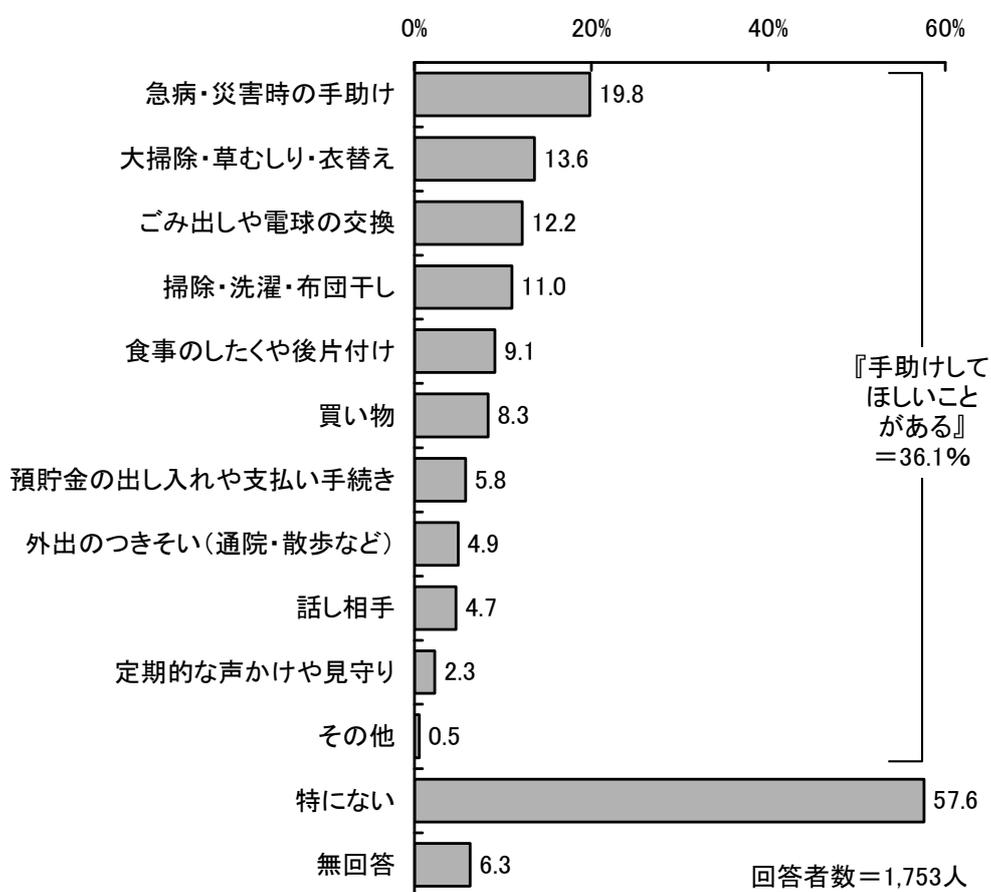
		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない	無回答
全体		1,753	56.0	18.5	15.7	4.5	3.1	2.1
性別	男性	788	58.1	17.6	14.5	4.6	2.7	2.5
	女性	942	55.1	19.5	16.2	3.9	3.6	1.6
年齢別	65～69歳	616	62.0	16.4	13.5	3.7	2.4	1.9
	70～74歳	537	57.7	19.6	15.1	4.1	2.4	1.1
	75～79歳	355	52.4	20.6	17.5	3.4	2.3	3.9
	80～84歳	157	46.5	17.2	19.7	6.4	8.3	1.9
	85歳以上	69	31.9	23.2	24.6	10.1	8.7	1.4

(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問 21 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 249 参照】

日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、36.1%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」19.8%、「大掃除・草むしり・衣替え」13.6%、「ごみ出しや電球の交換」12.2%が上位3項目となっている。

図表2-48 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

性別にみると、『手助けしてほしいことがある』割合は、女性は42.7%と男性の28.2%を大きく上回っている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど『手助けしてほしいことがある』割合が高くなり、85歳以上では6割台となっている。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人の50.4%、約半数が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」が34.2%と、他に比べて特に高い割合となっている。

図表2-49 日常生活の中で手助けしてほしいこと

		回答者数(人)	急病・災害時の手助け	大掃除・草むしり・衣替え	ごみ出しや電球の交換	掃除・洗濯・布団干し	食事のしたくや後片付け	買い物	預貯金の出し入れや支払い手続き	外出のつきそい(通院・散歩など)	話し相手	定期的な声かけや見守り	その他	特にない	『手助けしてほしいことがある』
全体		1,753	19.8	13.6	12.2	11.0	9.1	8.3	5.8	4.9	4.7	2.3	0.5	57.6	36.1
性別	男性	788	14.7	8.6	6.9	10.7	10.5	6.2	6.0	4.6	4.1	1.5	0.5	66.9	28.2
	女性	942	24.0	17.8	16.7	11.5	8.0	10.2	5.6	5.2	5.1	2.8	0.5	50.5	42.7
年齢別	65～69歳	616	14.4	8.9	8.6	7.5	7.8	4.4	4.1	2.6	3.6	1.1	0.0	65.9	28.9
	70～74歳	537	19.6	13.2	10.8	9.5	8.0	8.0	4.1	2.6	3.9	2.4	0.9	59.4	34.8
	75～79歳	355	23.9	14.4	14.1	13.0	8.2	7.3	7.0	5.1	4.2	1.7	0.6	53.5	39.2
	80～84歳	157	28.7	24.8	19.7	20.4	15.3	19.7	12.1	15.3	8.9	5.7	1.3	43.3	51.0
	85歳以上	69	29.0	27.5	29.0	24.6	20.3	26.1	13.0	17.4	14.5	5.8	0.0	27.5	63.8
世帯構成別	ひとり暮らし	278	34.2	14.7	16.2	11.5	7.2	8.3	4.7	5.0	8.3	6.1	0.7	44.2	50.4
	夫婦のみ	645	19.5	11.5	9.9	9.5	8.7	6.8	4.3	2.9	3.3	1.1	0.6	60.9	33.7
	子どもと同居	516	15.7	15.9	13.4	12.6	10.7	9.9	7.2	6.8	4.3	2.3	0.4	60.9	33.5
	子どもと孫と同居	176	15.3	13.6	11.4	10.8	10.2	11.9	7.4	7.4	8.0	1.7	0.6	58.5	33.5
	その他	75	13.3	6.7	9.3	9.3	9.3	5.3	8.0	4.0	2.7	1.3	0.0	62.7	25.3

※「無回答」は掲載を省略している

※『手助けしてほしいことがある』=100%－「特にない」－「無回答」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

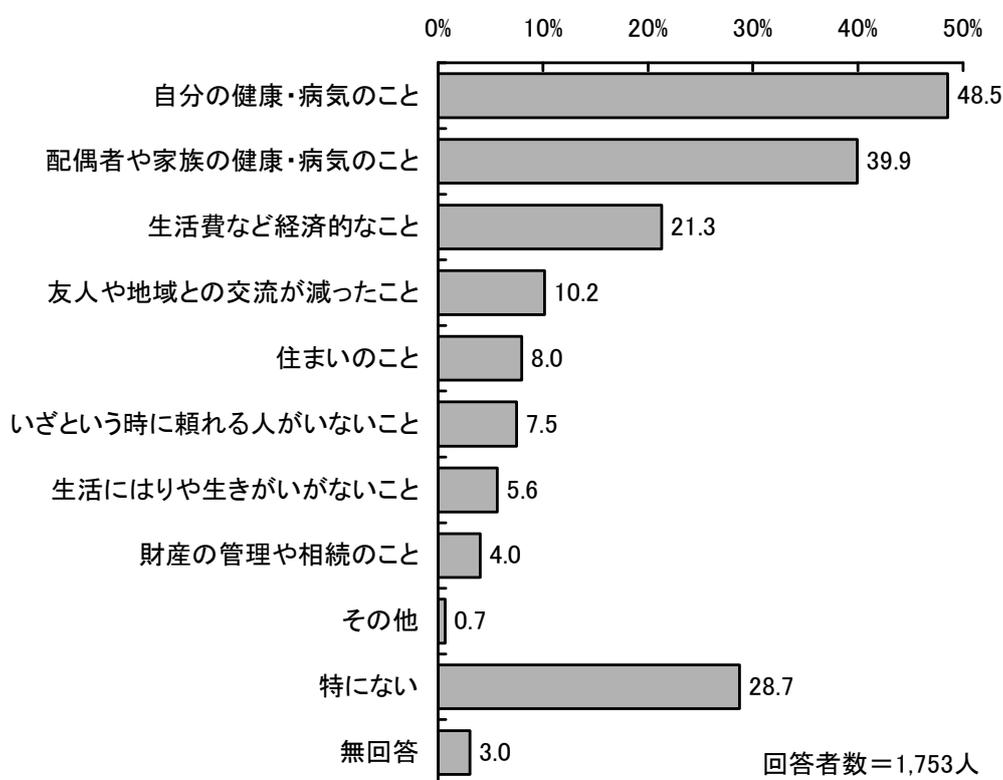
(5)現在の生活で不安に感じること

問 22 あなた(あて名のご本人)は、現在の生活で不安に感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で不安に感じることとしては、「自分の健康・病気のこと」48.5%、「配偶者や家族の健康・病気のこと」39.9%に次いで、「生活費など経済的なこと」21.3%が、上位3項目となっている。また、3割近くが「特にない」と回答している。

図表2-50 現在の生活で不安に感じること(複数回答)



5. 就労、社会参加、生きがいづくりについて

(1) 現在の就労状況

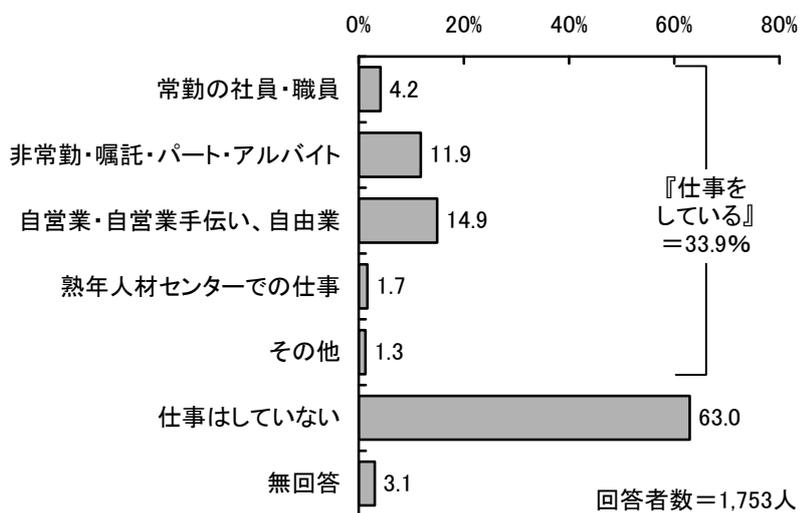
問 29 あなた(あて名のご本人)は、現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況をみると、『仕事をしている』人の割合は33.9%となっている。具体的には、「自営業・自営業手伝い、自由業」がもっとも高い14.9%、次いで「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」11.9%、「常勤の社員・職員」4.2%となっている。

性別にみると、『仕事をしている』割合は、男性が44.7%、女性は25.4%となっている。

年齢別にみると、『仕事をしている』割合は年齢層が低いほど高く、65～69歳では49.5%と約5割、70～74歳では3割台を占めている。

図表2-51 現在の就労状況(単数回答)



図表2-52 現在の就労状況

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事はしていない	無回答	『仕事をしている』
全体		1,753	4.2	11.9	14.9	1.7	1.3	63.0	3.1	33.9
性別	男性	788	7.5	13.8	19.2	3.3	0.9	52.5	2.8	44.7
	女性	942	1.4	10.5	11.5	0.3	1.7	71.4	3.2	25.4
年齢別	65～69歳	616	7.6	18.7	20.6	1.0	1.6	48.1	2.4	49.5
	70～74歳	537	3.5	13.6	14.7	1.7	1.3	63.3	1.9	34.8
	75～79歳	355	1.1	4.5	12.4	3.9	0.8	73.5	3.7	22.8
	80～84歳	157	0.6	1.3	7.0	0.0	0.6	82.8	7.6	9.6
	85歳以上	69	2.9	1.4	1.4	0.0	2.9	91.3	0.0	8.7

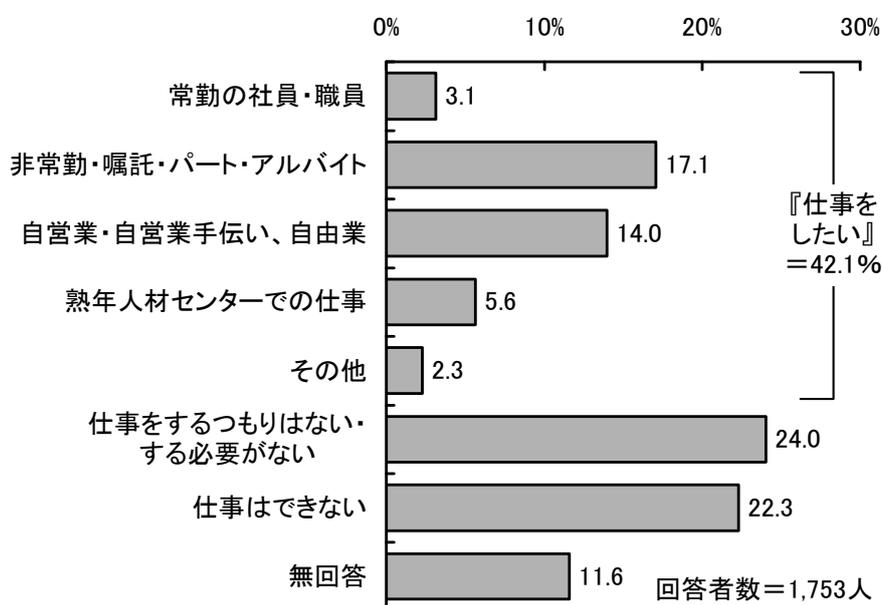
※『仕事をしている』=100%－「仕事はしていない」－「無回答」

(2) 今後の就労意向

問 30 あなた(あて名のご本人)は、今後、収入のある仕事をしたい・続けたいと考えていますか。(1つに○)【比較調査 250 参照】

今後の就労意向をみると、42.1%が『仕事をしたい』と回答しており、現在の就労状況と比べて 8.2 ポイント高くなっている。希望する就労形態は、「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」17.1%、「自営業・自営業手伝い、自由業」14.0%、「熟年人材センターでの仕事」5.6%などとなっている。

図表2-53 今後の就労意向(単数回答)



※『仕事をしたい』 = 100% - 「仕事をするつもりはない・する必要がない」
- 「仕事はできない」 - 「無回答」

性別にみると、男性の54.3%、女性の32.4%が『仕事をしたい』と回答している。

年齢別にみると、年齢層が低いほど就労意向が高く、65～69歳では約6割、70～74歳では4割台が『仕事をしたい』との意向を示している。

現在の就労状況別にみると、常勤の社員・職員の人6割台、非常勤・嘱託・パート・アルバイト、自営業・自営業手伝い、自由業及び熟年人材センターでの仕事をしている人の8割台が引き続き同じ就労形態での仕事を希望している。また、現在、仕事をしていない人の17.7%が『仕事をしたい』と回答している。

図表2-54 今後の就労意向

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事をするつもりはない・する必要がない	仕事はできない	無回答	『仕事をしたい』
全体		1,753	3.1	17.1	14.0	5.6	2.3	24.0	22.3	11.6	42.1
性別	男性	788	5.7	19.2	17.8	10.0	1.6	20.3	15.6	9.8	54.3
	女性	942	1.0	15.5	10.9	2.1	2.9	27.3	27.5	12.8	32.4
年齢別	65～69歳	616	5.8	27.3	19.2	5.2	3.1	19.8	12.7	7.0	60.5
	70～74歳	537	2.8	18.4	13.8	6.3	1.9	23.6	21.6	11.5	43.3
	75～79歳	355	0.8	6.8	11.3	8.2	2.3	30.1	25.6	14.9	29.4
	80～84歳	157	0.0	2.5	7.6	1.9	0.6	30.6	36.3	20.4	12.7
	85歳以上	69	1.4	1.4	1.4	0.0	1.4	20.3	60.9	13.0	5.8
現在の就労状況別	常勤の社員・職員	73	65.8	13.7	2.7	0.0	5.5	2.7	0.0	9.6	87.7
	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	208	1.4	87.0	1.4	3.8	0.0	3.4	0.5	2.4	93.7
	自営業・自営業手伝い、自由業	262	0.4	1.1	84.0	0.4	0.8	5.0	1.1	7.3	86.6
	熟年人材センターでの仕事	29	0.0	6.9	0.0	89.7	0.0	3.4	0.0	0.0	96.6
	その他	23	0.0	17.4	17.4	0.0	43.5	8.7	4.3	8.7	78.3
	仕事はしていない	1,104	0.2	8.4	1.2	5.7	2.2	35.3	34.0	13.0	17.7

※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

(3) 今後就労を希望する理由、就労を継続したい年齢

今後仕事をしたいと考えている方(問 30 で 1~5 に○)におうかがいします。

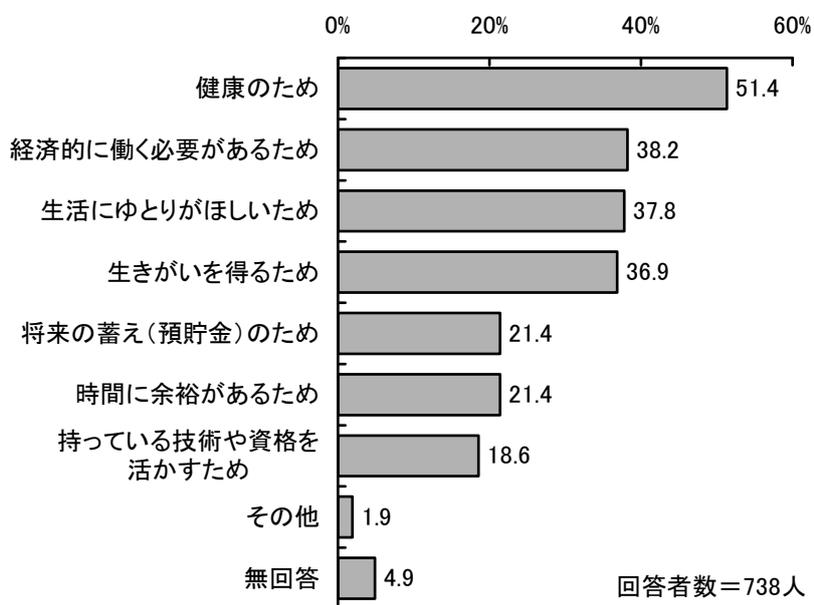
問 30-1 それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

問 30-2 何歳くらいまで働きたいと思いますか。(1つに○)【比較調査 250 頁参照】

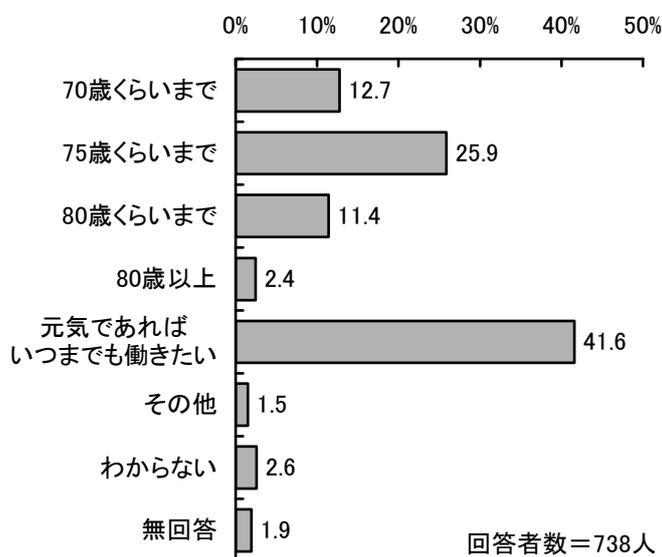
『仕事をしたい』と回答した人の、今後就労を希望する理由としては、「健康のため」51.4%がもっとも高い。次いで、「経済的に働く必要があるため」「生活にゆとりがほしいため」「生きがいを得るため」が3割台で続いている。

就労を継続したい年齢は、「元気であればいつまでも働きたい」が41.6%を占めるのに次いで、「75歳くらいまで」25.9%、「70歳くらいまで」12.7%となっている。

図表2-55 今後就労を希望する理由(複数回答)



図表2-56 就労を継続したい年齢(単数回答)

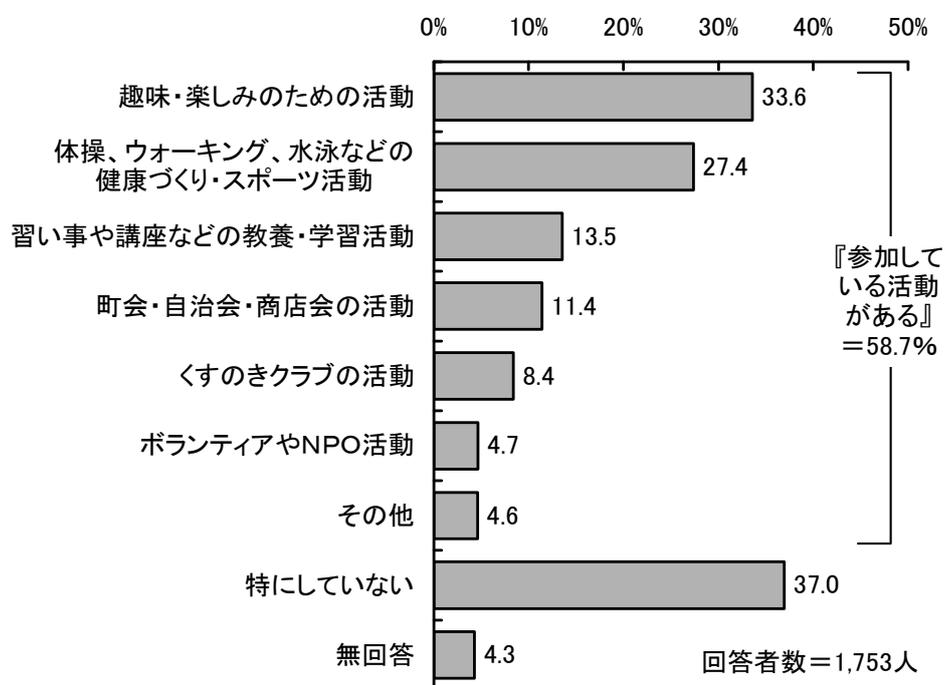


(4) 現在参加している余暇活動・社会参加活動

問 25 あなた(あて名のご本人)は、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は58.7%となっている。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」33.6%に次いで、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」27.4%、「習い事や講座などの教養・学習活動」13.5%と続いている。

図表2-57 現在参加している余暇活動・社会参加活動(複数回答)



※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

性別にみると、「習い事や講座などの教養・学習活動」「くすのきクラブの活動」は、男性に比べて女性の参加率が高い活動となっている。

年齢別にみると、『参加している活動がある』割合は年齢層が低いほど高く、65～74歳では6割台、85歳以上では約4割となっている。

図表2-58 現在参加している余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	町会・自治会・商店会の活動	くすのきクラブの活動	ボランティアやNPO活動	その他	特にしていない	無回答	『参加している活動がある』
全体		1,753	33.6	27.4	13.5	11.4	8.4	4.7	4.6	37.0	4.3	58.7
性別	男性	788	33.5	27.0	8.4	11.8	4.9	4.7	4.8	38.6	3.9	57.5
	女性	942	34.1	28.0	18.0	11.3	11.1	4.6	4.6	35.1	4.4	60.5
年齢別	65～69歳	616	33.4	32.0	13.5	12.2	6.3	5.7	5.0	36.0	2.8	61.2
	70～74歳	537	36.9	29.4	14.2	11.0	8.8	5.6	4.5	35.0	3.7	61.3
	75～79歳	355	32.7	22.8	13.8	11.8	9.0	3.9	5.1	36.6	5.1	58.3
	80～84歳	157	32.5	20.4	12.7	13.4	13.4	1.3	2.5	41.4	7.0	51.6
	85歳以上	69	20.3	13.0	8.7	2.9	8.7	1.4	5.8	53.6	5.8	40.6

※『参加している活動がある』=100%－「特にしていない」－「無回答」

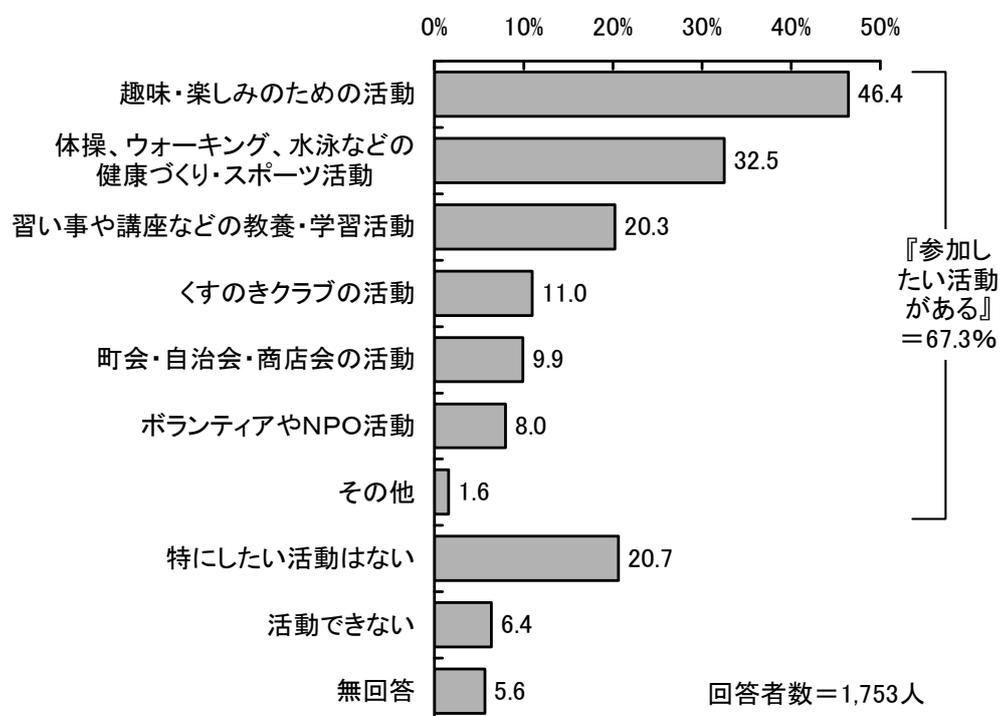
(5) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

問 26 あなた(あて名のご本人)は、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いませんか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査 251 参照】

余暇活動・社会参加活動について、今後『参加したい活動がある』人の割合は 67.3% であり、現在の活動状況に比べて 8.6 ポイント高くなっている。

具体的には、「趣味・楽しみのための活動」46.4%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」32.5%、「習い事や講座などの教養・学習活動」20.3%などとなっている。

図表2-59 今後参加したい余暇活動・社会参加活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「活動できない」 - 「無回答」

性別にみると、『参加したい活動がある』は男性、女性で差はあまりないが、女性は「習い事や講座などの教養・学習活動」「くすのきクラブの活動」に対する参加意向が、男性より高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど参加意向が高く、65～74歳の7割台、75～79歳の6割台が、『参加したい活動がある』と回答している。

図表2-60 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	くすのきクラブの活動	町会・自治会・商店会の活動	ボランティアやNPO活動	その他	特にしたい活動はない	活動できない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,753	46.4	32.5	20.3	11.0	9.9	8.0	1.6	20.7	6.4	5.6	67.3
性別	男性	788	47.3	33.0	15.2	7.6	10.7	9.1	1.5	22.5	5.1	4.6	67.8
	女性	942	46.2	32.6	24.8	13.7	9.4	7.0	1.7	19.0	7.2	6.3	67.5
年齢別	65～69歳	616	51.3	41.1	23.1	9.1	10.9	11.7	2.1	16.6	4.1	4.2	75.1
	70～74歳	537	50.3	34.5	24.2	11.5	10.4	8.0	0.9	20.5	4.7	3.7	71.1
	75～79歳	355	39.7	25.1	17.2	12.4	9.3	5.9	2.0	24.5	6.5	7.6	61.4
	80～84歳	157	40.8	17.8	8.9	13.4	10.2	1.9	0.6	23.6	12.7	10.2	53.5
	85歳以上	69	27.5	15.9	8.7	10.1	1.4	1.4	2.9	30.4	24.6	7.2	37.8

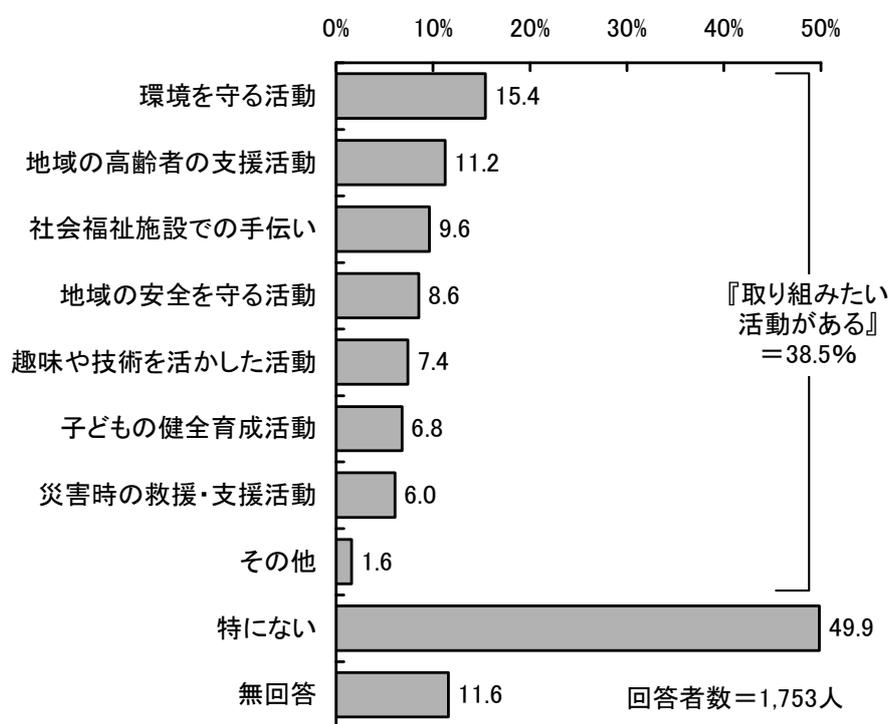
※『参加したい活動がある』=100%－「特にしたい活動はない」－「活動できない」－「無回答」

(6) 取り組んでみたいボランティア活動

問 27 次のようなボランティア活動について、あなた(あて名のご本人)が取り組んでみたいと思う活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 252 参照】

取り組んでみたいボランティア活動をみると、38.5%が『取り組みたい活動がある』と回答している。具体的には、「環境を守る活動」15.4%、「地域の高齢者の支援活動」11.2%、「社会福祉施設での手伝い」9.6%などとなっている。

図表2-61 取り組んでみたいボランティア活動(複数回答)



※『取り組みたい活動がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

性別にみると、『取り組みたい活動がある』割合は、男性 42.8%、女性 35.5%と男性の方が高い。男性は「環境を守る活動」や「地域の安全を守る活動」「災害時の救援・支援活動」、女性は「地域の高齢者の支援活動」に対する意向が、それぞれに比べて高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど取り組み意向が高く、65～69 歳の人では約 5 割が『取り組みたい活動がある』と回答している。「環境を守る活動」は各年齢層において、もっとも取り組み意向が高い。

図表2-62 取り組んでみたいボランティア活動

		回答者数(人)	環境を守る活動	地域の高齢者の支援活動	社会福祉施設での手伝い	地域の安全を守る活動	趣味や技術を活かした活動	子どもの健全育成活動	災害時の救援・支援活動	その他	特にない	無回答	『取り組みたい活動がある』
全体		1,753	15.4	11.2	9.6	8.6	7.4	6.8	6.0	1.6	49.9	11.6	38.5
性別	男性	788	18.0	9.8	9.0	13.8	8.4	7.5	8.9	1.4	48.1	9.1	42.8
	女性	942	13.4	12.5	10.2	4.4	6.8	6.3	3.8	1.8	51.2	13.3	35.5
年齢別	65～69 歳	616	19.2	13.8	12.5	12.3	9.7	9.1	8.1	2.3	42.5	8.4	49.1
	70～74 歳	537	16.2	11.4	10.4	8.8	7.1	7.1	6.3	1.5	47.9	10.1	42.0
	75～79 歳	355	14.4	11.3	7.9	5.1	7.3	5.4	4.5	0.6	54.1	14.9	31.0
	80～84 歳	157	5.7	5.1	3.2	3.8	3.2	2.5	2.5	1.9	66.9	15.3	17.8
	85 歳以上	69	4.3	4.3	2.9	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	73.9	15.9	10.2

※『取り組みたい活動がある』=100%－「特にない」－「無回答」

(7) インターネットの利用状況

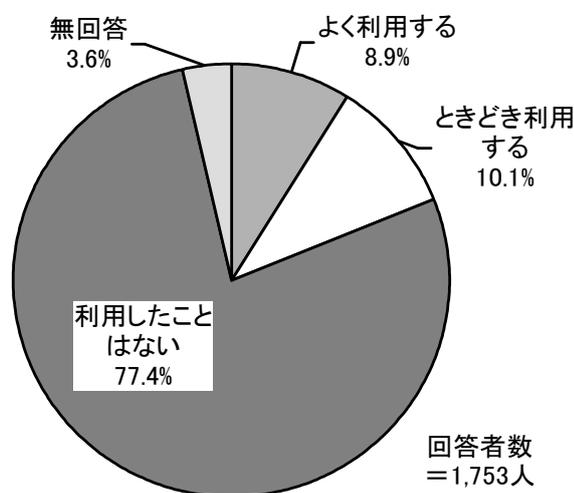
問 28 あなた(あて名のご本人)は、趣味や生活に必要な情報を得るために、パソコンなどのインターネットを利用することがありますか。

インターネットの利用状況については、「よく利用する」8.9%、「ときどき利用する」10.1%をあわせた19.0%、約2割が『利用している』と回答している。

性別にみると、『利用している』割合は、男性26.7%、女性12.7%と男性の方が高い。

年齢別にみると、年齢層が低いほど『利用している』割合が高く、もっとも高い65～69歳では27.3%となっている。

図表2-63 インターネットの利用状況(単数回答)



図表2-64 インターネットの利用状況

		回答者数(人)	よく利用する	ときどき利用する	利用したことはない	無回答	『利用している』
全 体		1,753	8.9	10.1	77.4	3.6	19.0
性別	男性	788	14.6	12.1	70.3	3.0	26.7
	女性	942	4.2	8.5	83.5	3.7	12.7
年齢別	65～69歳	616	13.8	13.5	70.0	2.8	27.3
	70～74歳	537	6.5	11.2	79.7	2.6	17.7
	75～79歳	355	6.5	6.5	82.5	4.5	13.0
	80～84歳	157	3.8	5.7	83.4	7.0	9.5
	85歳以上	69	7.2	1.4	91.3	0.0	8.6

※『利用している』＝「よく利用する」＋「ときどき利用する」

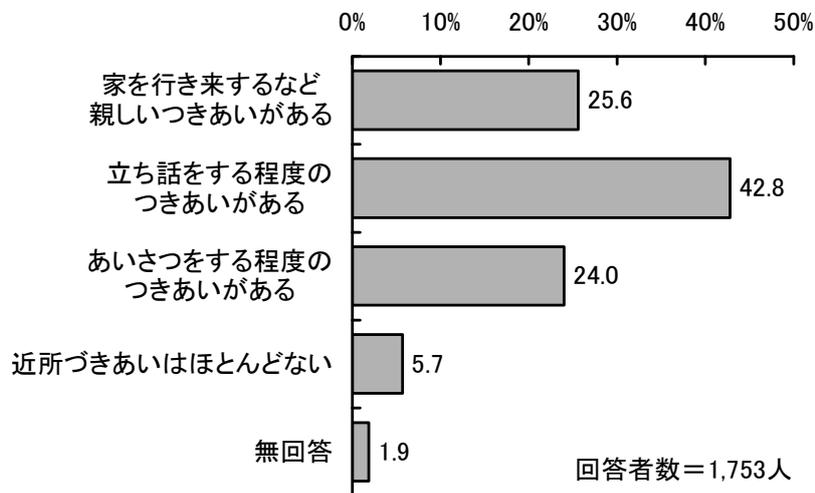
6. 地域とのかかわりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

問 23 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)【比較調査 253 参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「立ち話をする程度のつきあいがある」が42.8%ともっとも高く、次いで「家を行き来するなど親しいつきあいがある」25.6%、「あいさつをする程度のつきあいがある」24.0%となっている。

図表2-65 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



性別にみると、男性、女性ともに「立ち話をする程度のつきあいがある」がもっとも高く、次いで、男性は「あいさつする程度のつきあいがある」、女性は「家を行き来するなど親しいつきあいがある」となっており、女性の方が近所づきあいをよくしていることがわかる。

また、「近所づきあいはほとんどない」割合に注目すると、年齢別では85歳以上、日常生活圏域別では葛西南、世帯構成別ではひとり暮らしの人において高くなっている。

図表2-66 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		1,753	25.6	42.8	24.0	5.7	1.9
性別	男性	788	15.4	41.9	33.8	6.9	2.2
	女性	942	34.4	43.5	16.3	4.2	1.5
年齢別	65～69歳	616	25.0	39.3	27.8	6.3	1.6
	70～74歳	537	26.8	44.9	21.6	5.6	1.1
	75～79歳	355	26.5	44.5	22.8	3.4	2.8
	80～84歳	157	23.6	46.5	24.2	3.8	1.9
	85歳以上	69	23.2	43.5	18.8	11.6	2.9
日常生活圏域別	区民課	412	22.8	49.0	22.8	3.4	1.9
	小松川	149	32.9	42.3	18.8	4.7	1.3
	葛西北	222	26.6	41.0	24.8	6.3	1.4
	葛西南	235	25.5	31.5	26.4	14.9	1.7
	小岩	290	20.0	45.2	29.0	3.1	2.8
	東部	270	30.0	40.0	23.7	4.8	1.5
	鹿骨	133	28.6	47.4	19.5	3.0	1.5
世帯構成別	ひとり暮らし	278	23.4	38.5	25.9	11.9	0.4
	夫婦のみ	645	25.9	40.9	27.1	4.2	1.9
	子どもと同居	516	25.4	46.7	21.5	4.8	1.6
	子どもと孫と同居	176	32.4	45.5	16.5	4.5	1.1
	その他	75	21.3	44.0	24.0	4.0	6.7

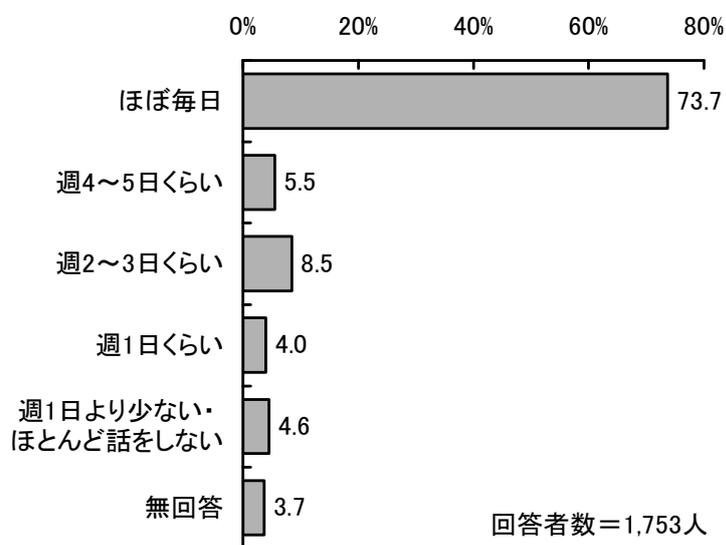
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(2) 家族等との会話の頻度

問 24 あなた(あて名のご本人)は、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

家族等との会話の頻度は、「ほぼ毎日」が 73.7%を占める。一方、「週 1 日くらい」は 4.0%、「週 1 日より少ない・ほとんど話をしない」は 4.6%であり、これらをあわせた 8.6%は会話の頻度が週に 1 回以下となっている。

図表2-67 家族等との会話の頻度(単数回答)



「週1日より少ない・ほとんど話をしない」人の割合に注目すると、性別では男性、年齢別では85歳以上、日常生活圏域別では葛西北、鹿骨、世帯構成別ではひとり暮らしの人において高くなっている。

図表2-68 家族等との会話の頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない・ほとんど話をしない	無回答
全体		1,753	73.7	5.5	8.5	4.0	4.6	3.7
性別	男性	788	73.7	4.6	7.9	4.2	5.8	3.8
	女性	942	74.4	6.4	9.0	3.8	3.1	3.3
年齢別	65～69歳	616	78.2	5.0	7.3	2.6	4.2	2.6
	70～74歳	537	74.1	7.1	7.8	3.4	4.8	2.8
	75～79歳	355	71.3	5.1	9.9	4.8	4.5	4.5
	80～84歳	157	68.8	4.5	10.2	7.0	3.8	5.7
	85歳以上	69	62.3	2.9	13.0	10.1	5.8	5.8
日常生活圏域別	区民課	412	78.4	5.3	7.3	2.4	4.4	2.2
	小松川	149	72.5	6.0	8.7	6.0	2.7	4.0
	葛西北	222	69.8	6.8	9.0	3.2	9.0	2.3
	葛西南	235	74.9	4.3	8.5	5.1	3.8	3.4
	小岩	290	76.2	3.8	8.6	3.8	2.8	4.8
	東部	270	70.7	6.7	8.9	4.4	4.1	5.2
	鹿骨	133	67.7	9.0	10.5	4.5	5.3	3.0
世帯構成別	ひとり暮らし	278	36.0	11.5	21.2	13.7	11.9	5.8
	夫婦のみ	645	79.5	4.8	7.0	2.3	3.7	2.6
	子どもと同居	516	82.8	3.7	4.8	2.1	3.1	3.5
	子どもと孫と同居	176	83.5	4.5	5.7	1.1	2.3	2.8
	その他	75	82.7	6.7	6.7	1.3	0.0	2.7

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

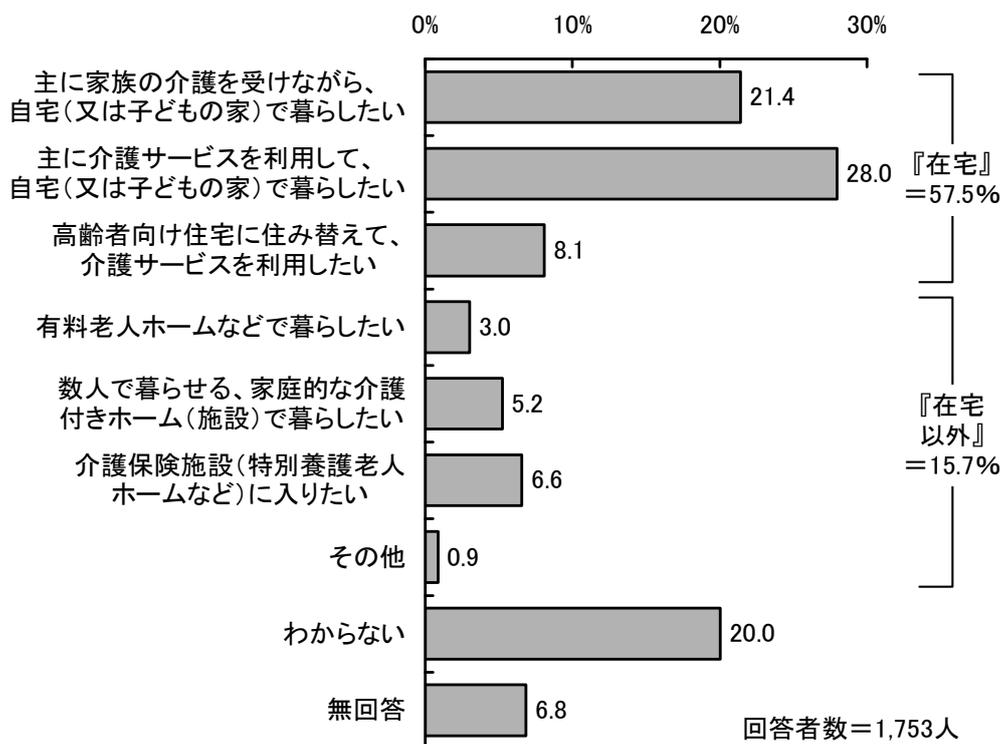
7. 今後の暮らしや介護について

(1) 今後介護を受けたい場所

問 31 あなた(あて名のご本人)は、将来介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○)【比較調査 254 参照】

今後介護を受けたい場所は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」28.0%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」21.4%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」8.1%の順であり、これらをあわせた『在宅』が57.5%を占める。『在宅以外』を希望する割合は15.7%となっている。

図表2-69 今後介護を受けたい場所(単数回答)

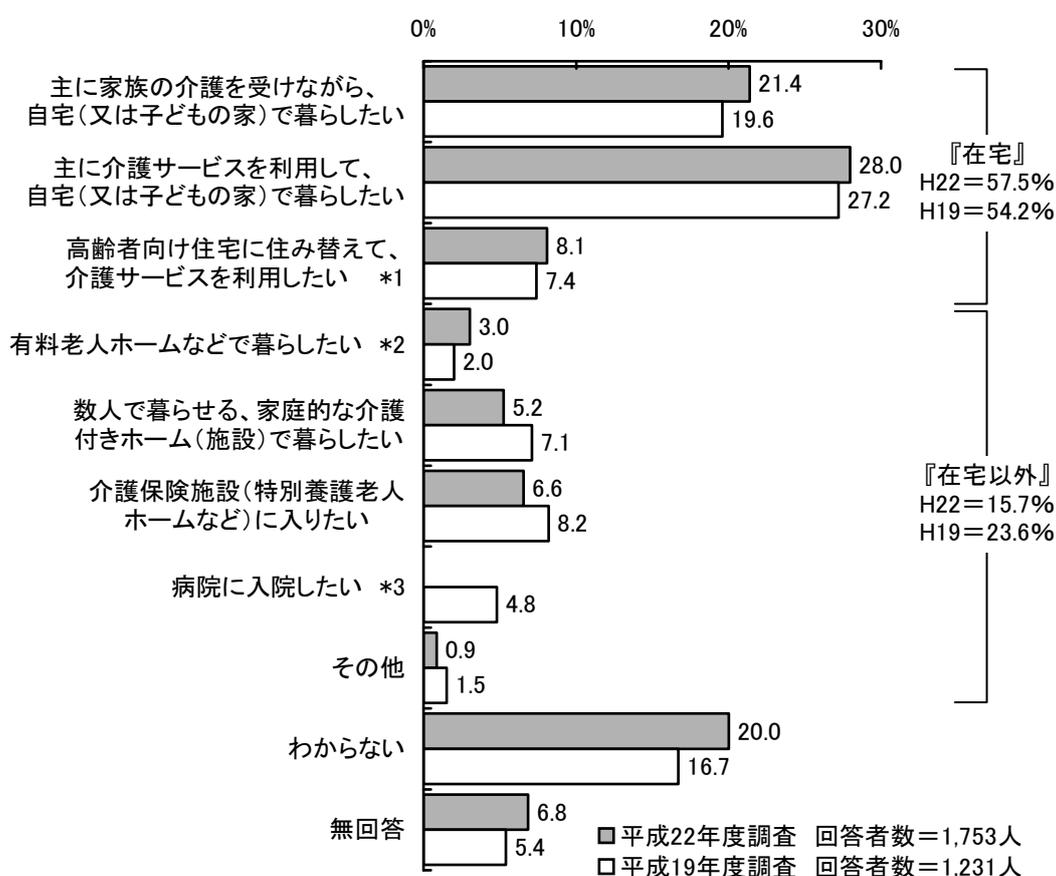


※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
+ 「その他」

今後介護を受けたい場所について、平成19年度調査と比較してみると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、『在宅』を希望している人が3.3ポイント増加し、『在宅以外』は7.9ポイント減少している。その内訳をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が1.8ポイント、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が0.8ポイント増加している。一方、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」は1.9ポイント減少している。

図表2-70 今後介護を受けたい場所<平成19年度調査との比較>



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 + 「病院に入院したい」
 + 「その他」

※*1の選択肢は平成19年度調査では「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」

※*2の選択肢は平成19年度調査では「有料老人ホームに入りたい」

※*3「病院に入院したい」の選択肢は平成19年度調査のみ

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」と希望する割合が高くなり、80歳以上の人では「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」を上回っている。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人は他に比べて自宅での介護を希望する割合は低く、「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」が高くなっている。

図表2-71 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,753	21.4	28.0	8.1	3.0	5.2	6.6	0.9	20.0	6.8	57.5	15.7
性別	男性	788	25.4	27.3	8.4	2.7	3.4	5.7	1.0	20.2	6.0	61.1	12.8
	女性	942	18.2	28.7	8.0	3.4	6.8	7.3	0.7	19.6	7.3	54.9	18.2
年齢別	65～69歳	616	19.0	29.2	7.0	2.9	5.8	6.7	0.5	22.9	6.0	55.2	15.9
	70～74歳	537	20.5	27.6	9.7	2.8	6.0	7.1	1.1	18.4	6.9	57.8	17.0
	75～79歳	355	22.8	29.3	9.0	3.9	4.2	5.1	1.1	16.9	7.6	61.1	14.3
	80～84歳	157	26.1	20.4	6.4	1.9	4.5	8.3	0.6	26.1	5.7	52.9	15.3
	85歳以上	69	36.2	31.9	5.8	4.3	2.9	4.3	1.4	4.3	8.7	73.9	12.9
世帯構成別	ひとり暮らし	278	10.1	17.6	13.3	3.6	8.6	8.6	0.7	28.4	9.0	41.0	21.5
	夫婦のみ	645	20.3	30.1	10.9	4.0	5.1	5.9	0.6	17.7	5.4	61.3	15.6
	子どもと同居	516	27.3	30.8	4.1	1.7	3.7	7.8	1.0	18.0	5.6	62.2	14.2
	子どもと孫と同居	176	29.5	30.7	2.8	2.3	3.4	4.5	0.6	19.3	6.8	63.0	10.8
	その他	75	20.0	22.7	6.7	2.7	6.7	4.0	1.3	20.0	16.0	49.4	14.7

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

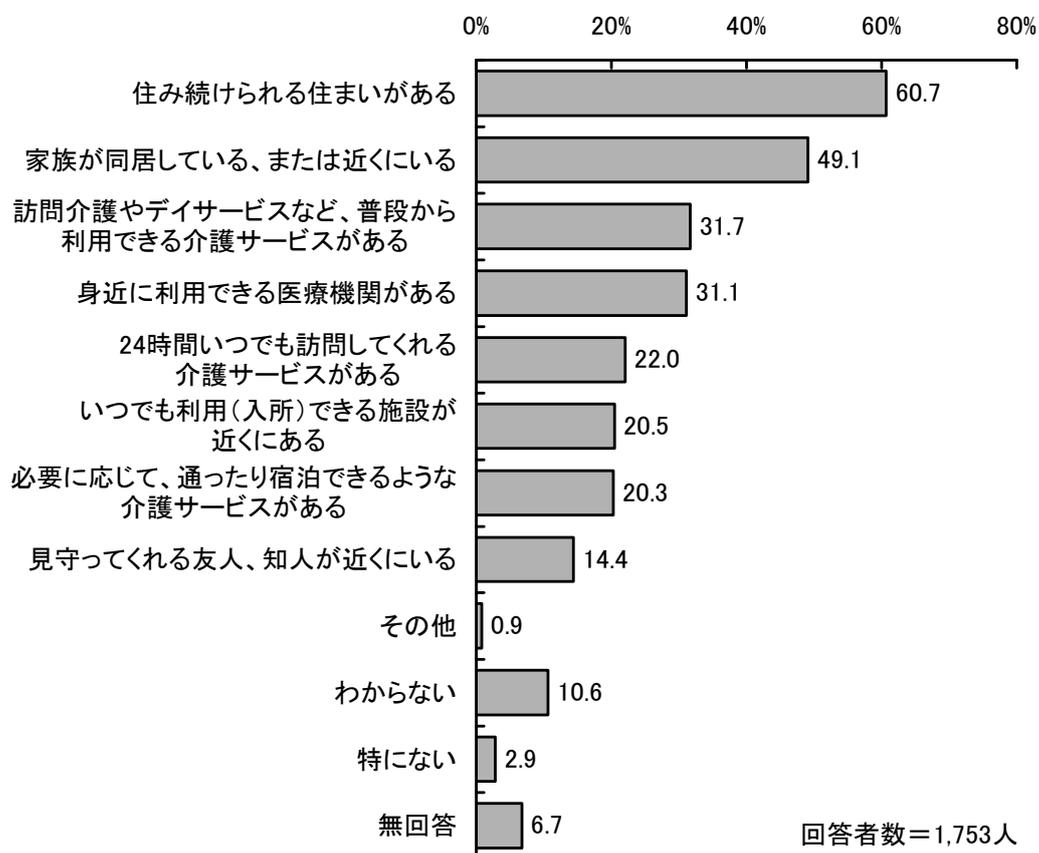
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

問 32 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うこととしては、「住み続けられる住まいがある」60.7%がもっとも高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」49.1%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」31.7%、「身近に利用できる医療機関がある」31.1%の順となっている。

図表2-72 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)



(3)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問 35 あなた(あて名のご本人)は、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

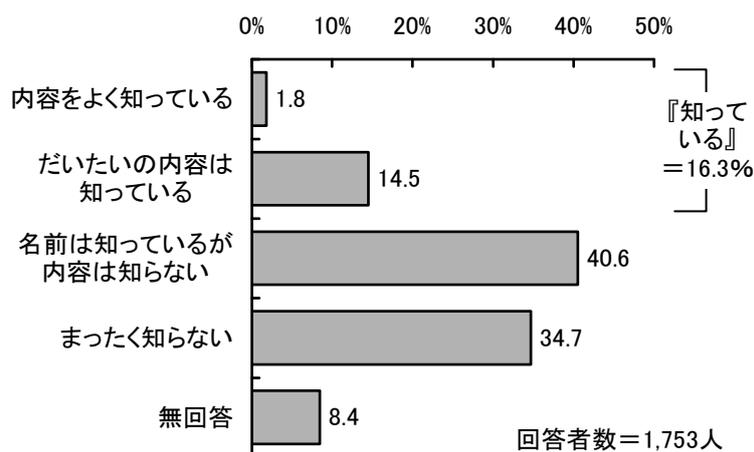
内容や名前を知っている方(問 35 で 1～3 に○)におうかがいします。

問 35-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」1.8%、「だいたいの内容は知っている」14.5%をあわせた『知っている』は16.3%となっている。「名前は知っているが内容は知らない」は40.6%、「まったく知らない」は34.7%を占めている。

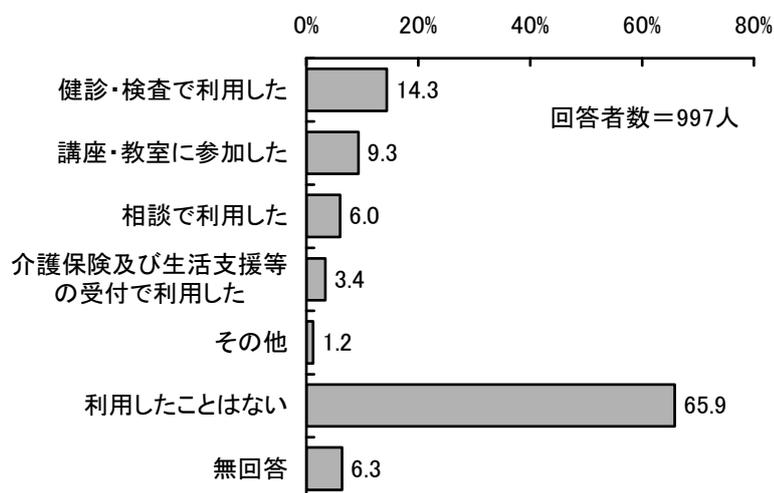
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が65.9%を占め、利用した場合としては、「健診・検査で利用した」14.3%、「講座・教室に参加した」9.3%、「相談で利用した」6.0%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」3.4%となっている。

図表2-73 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表2-74 健康サポートセンター利用経験(複数回答)

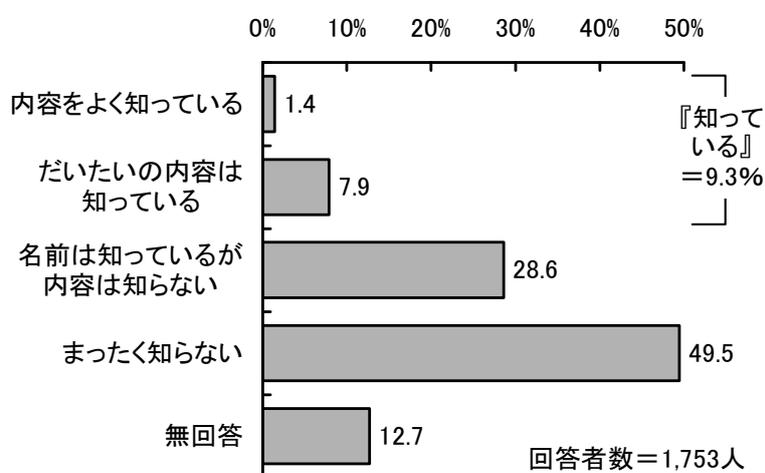


(4) 地域包括支援センターの認知度

問 36 あなた(あて名のご本人)は、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターについて、「内容をよく知っている」1.4%、「だいたいの内容は知っている」7.9%をあわせた『知っている』は9.3%と約1割であり、「まったく知らない」が49.5%、「名前は知っているが内容は知らない」が28.6%となっている。

図表2-75 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 36 で 1～3 に○)におうかがいします。

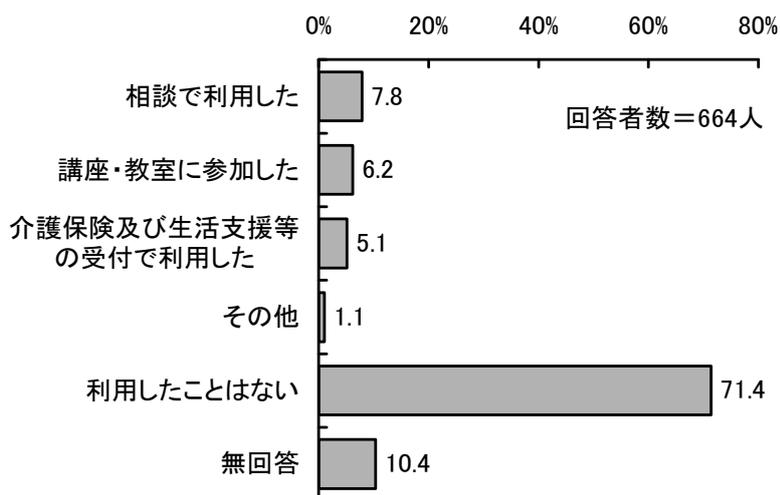
問 36-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 36-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

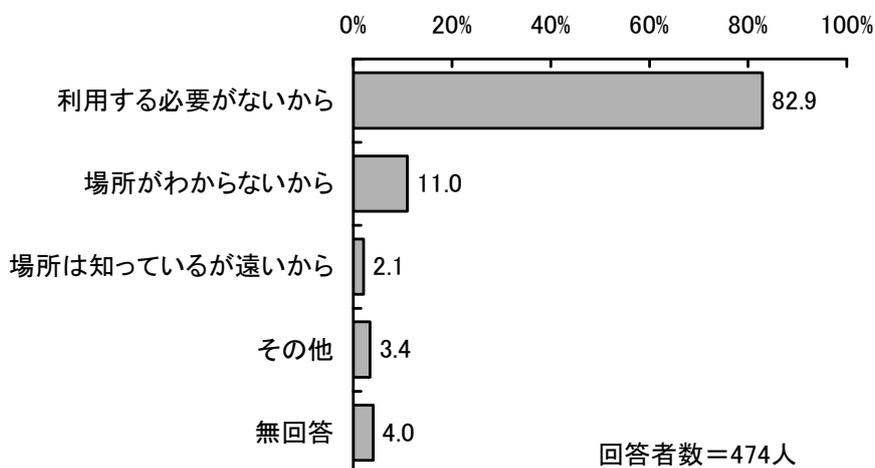
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことはない」が 71.4% を占める。利用した場合としては、「相談で利用した」7.8%、「講座・教室に参加した」6.2%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」5.1%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が 82.9%、次いで「場所がわからないから」11.0%、「場所は知っているが遠いから」2.1%となっている。

図表2-76 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表2-77 利用したことがない理由(複数回答)



(6) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

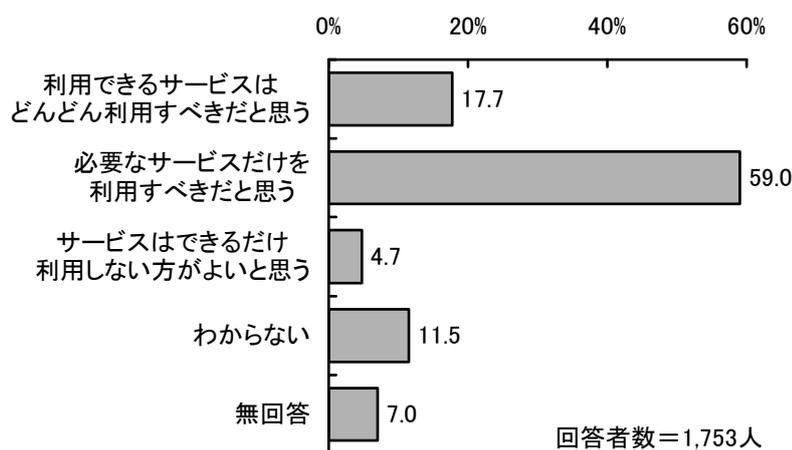
問 33 あなた(あて名のご本人)は、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

問 34 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)【比較調査 256 参照】

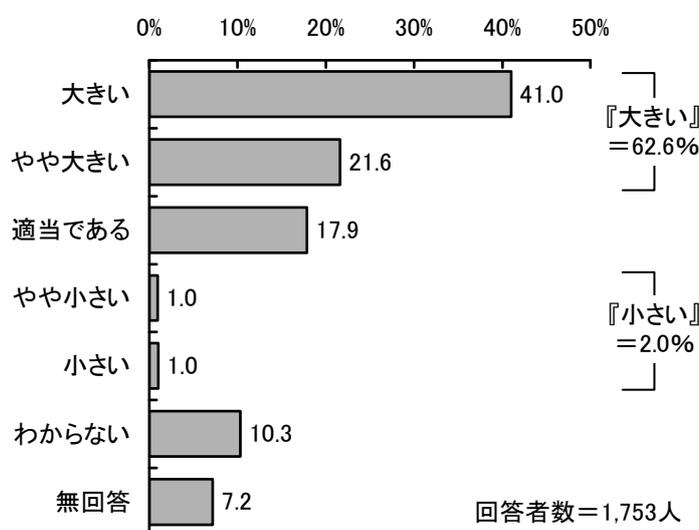
介護保険サービスの利用に対する考えをみると、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が 59.0%と約6割を占める。「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」は 17.7%、「サービスはできるだけ利用しない方がよいと思う」は 4.7%となっている。

介護保険料の家計への影響は、「大きい」が 41.0%を占め、「やや大きい」21.6%をあわせた 62.6%が『大きい』と回答している。次いで、「適当である」17.9%となっている。

図表2-78 介護保険サービスの利用に対する考え(単数回答)



図表2-79 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

※『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

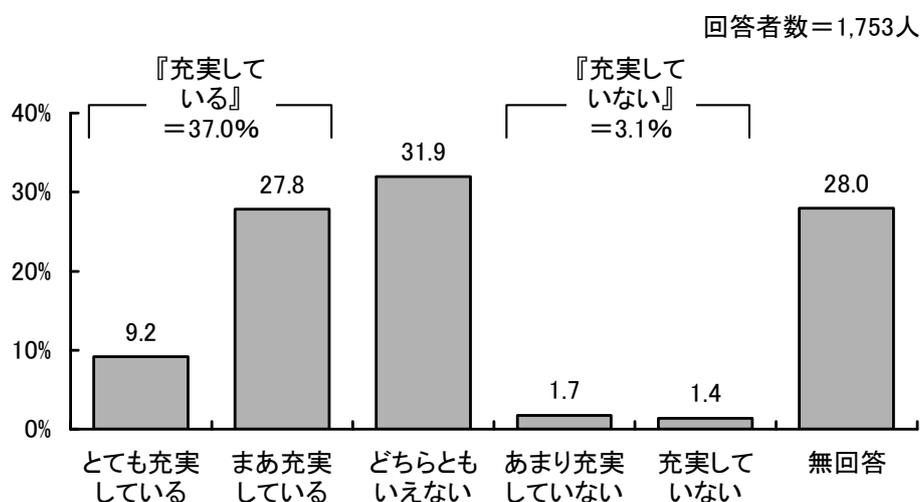
8. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

問 37 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。
(1つに○)【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」9.2%、「まあ充実している」27.8%をあわせた37.0%が『充実している』と回答している。「あまり充実していない」1.7%、「充実していない」1.4%をあわせた『充実していない』は3.1%であった。

図表2-80 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：31件より抜粋して記載)

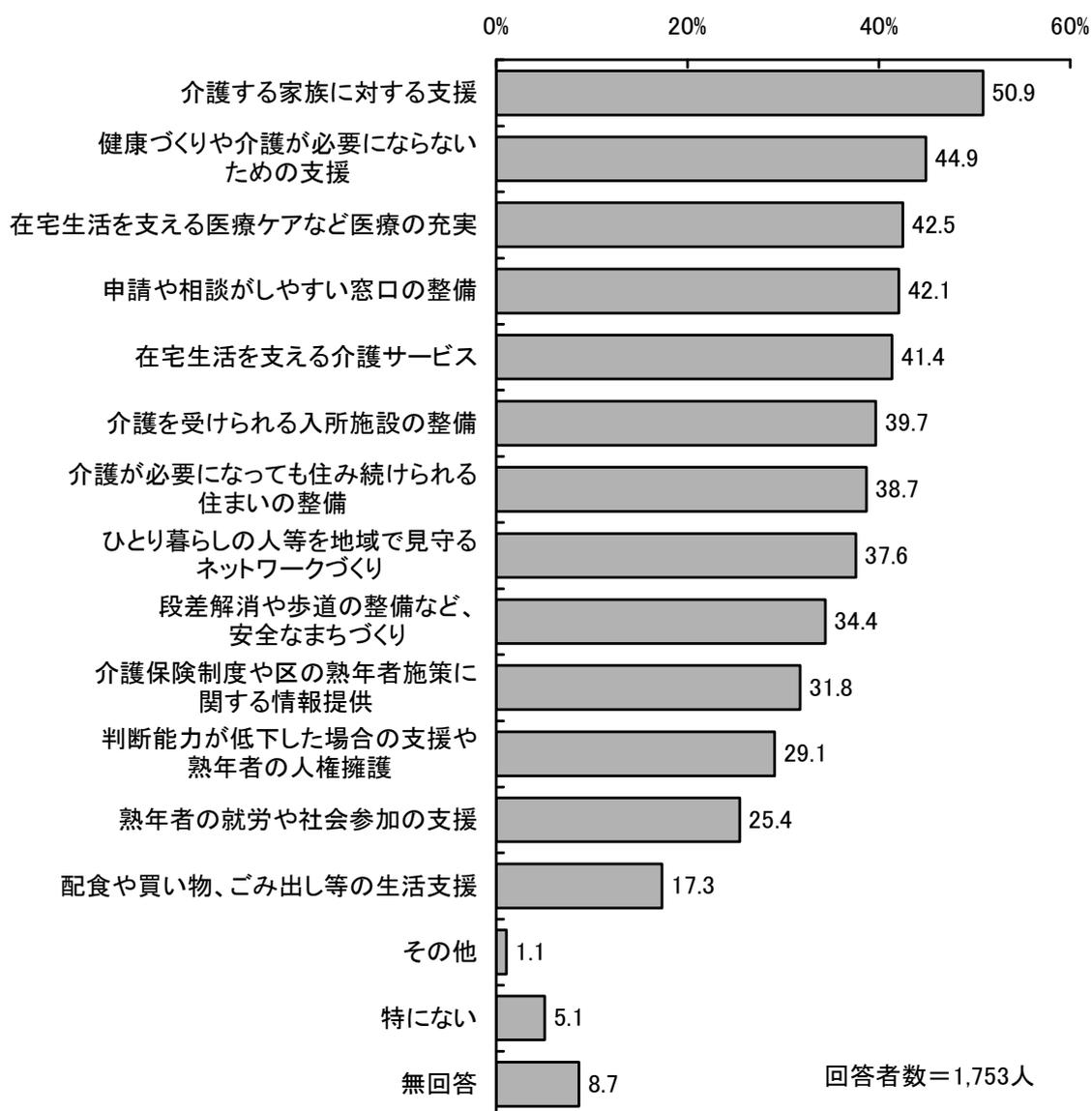
- ・江戸川区に限らず、超高齢社会である日本の高齢者施策には、まだまだ改善・充実・見直しなどの余地がおおいにあると思っている。
- ・施設が少ない。
- ・年金生活では、介護保険、健康保険、税金が高すぎて生活に困る。
- ・介護保険料が高く、支出が多くなり不安に思っている。
- ・我々高齢者に広報されていないから。
- ・必要に応じて電話しても親切とは思えない。
- ・システムや利用方法がよくわからない。
- ・施設への入所に時間がかかる。手続きが難しい。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 38 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」50.9%がもっとも高い。次いで、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」「申請や相談がしやすい窓口の整備」「在宅生活を支える介護サービス」が4割台で続いている。

図表2-81 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



(3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(437 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(148 件より抜粋)

- ・今は私も妻も元気になっているが、2人で歳を重ね、いずれどちらかがひとりになる時が来る。その時希望する介護がすぐに受けられるかが不安。
- ・現在、自分の生活は全部自分でやっているが、(特に季節の変わり目など) 布団干しとか、電球の切れた時は、男性(力のある人)の力を借りたい場合が時々ある。
- ・介護の内容など、知らない事が多い。介護施設の内容や、ヘルパーさんをお願いした時にどのようなことをやってもらえるのか等、もう少し詳しく知らせてもらいたい。
- ・助けてほしい時に要望を受け入れてくれる相談の窓口の整備を希望する。現在は2人で生活しているが、ひとりになった時の不安がある。
- ・年金生活の者にとっては介護保険料や税金が高すぎると思う。
- ・介護保険料は今以上に所得格差を付けてもよいと思う。
- ・年金が少ないのに、介護保険が増えて、年金から差し引かれるのがとても大きい。もっと別の所から税金として考えてほしい。
- ・介護サービスを受けている人はもう少し負担すべきだと思う。
- ・介護サービスを全く受けていない人には割引制度があってもよいのではないか。
- ・介護保険料を払っていても、自分が介護を受けるような身体になった時、その保険が本当に使えるのか心配。
- ・介護サービスの審査が厳しすぎるのではないか？
- ・地域包括支援センターや熟年施設などについて、資料でのお知らせなど頂けるとうれしい。お金はどの位かかるのか知っておきたい。
- ・子どももいないひとり暮らしなので、やがては有料老人ホームに入りたいが、なかなかよい所が見つからないようだ。もう少し待たずに入所できる安全で安心な所を増やしてほしい。
- ・体が不自由になったりして、老人ホームに入りたいけれども費用が高くて入れないと聞いている。低所得の人でも入れるような所をたくさん作ってほしい。
- ・介護施設を探すことが大変だった。役所の窓口でわかりやすく、情報提供してもらいたい。
- ・老人保健施設の3か月での退所は、次の受け入れ先を見つけるのが困難だった。必要に応じて対処してほしい。
- ・介護施設に医療機関を併設してほしい。
- ・高齢社会になり、我が家のように老老介護が増えていくと思う。10年後、私たちが施設に入りたいと望む時、入る施設があるのか不安。
- ・介護保険施設の増設を早期に行ってほしい。又介護職の方々の報酬の引き上げを希望する(公的施設の設立で公的援助)。
- ・特別養護老人ホームをもっと増やしてほしい。
- ・せめてショートステイは気軽に希望通りに受け入れられる様、対策を検討して頂きたい。
- ・先日、テレビで世田谷区の24時間対応できる介護サービス(ひとり暮らしで寝たきりの人)を放映しているのを観て、とても理想的だと思った。
- ・老老介護や障害者の家族がいる人たちの支援をお願いしたい。特に災害による避難の時等に手助けしてほしいと思う(家族に障害者がいるので)。
- ・施設を利用せず在宅介護になった場合、本人だけでなくお世話する家族への生活支援があると

よいと思う。介護する人も70歳～80歳になるので。

- ・サービスを充実させるためには、介護士の給料が安いのではないかと？給料を引き上げるべきだ。
- ・区の予算で民間介護施設への補助金を充実して、職員が安心して働けるように、長期生活保障してもらいたい。

【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(118件より抜粋)

- ・他の区と比べて熟年者の住みよい区だと思う。
- ・江戸川区は福祉が充実していると聞くと、質をおとさないように今後ともますます福祉の充実を願う。
- ・子ども(いじめ・暴力)、高齢者に優しいまちづくりをお願いしたい。
- ・熟年者が安心して生活ができる社会であってほしい。情けないが全てに関してゆとりが感じられない。散歩していてすれ違っても挨拶ができない。家に居ても外出しても淋しいものである。
- ・高齢者は歳とともに甘えもでてくるので、あまり至れり尽くせりのサービスもいかなものか。多少のことはあっても、自分のことは自分でできるような施策がほしい。
- ・日本全国に当てはまると思うが、今の国、行政の施策は老人に集中しすぎている。もっと若い人の生活、生きがいに目を向けるべきである。
- ・税収が減少する中で、これまで以上のサービスの提供は避けることが望ましい。
- ・役所の手続き、介護の手続きがややこしすぎる。もう少しお年寄りでも簡単に。
- ・高齢者に関する一切の事を(例えば、病気・スポーツ・介護等々のこと)一冊の本にまとめ、誰にでも一目でわかるお助けのような物があればいい。
- ・ひとり暮らしに関する情報を定期便・レポートとして送ってほしい。
- ・今まで熟年者施策について全く関心がなく、知識もなかったので、このアンケートをきっかけに勉強しようと思った。ホームページなどを更に充実してほしい。
- ・総合的な医療を受けられる病院が少ない。
- ・かかりつけ医の充実を図ってほしい。夜間、容態が悪化したときに、かかりつけ医に何度電話してもつながらず、役に立たないと思う事例を多く見聞きしている。
- ・江戸川区には大学病院が少ないと思う。もっと安心していける便利なところに大学病院がほしい。
- ・病状が進み通院できなくなった時、往診してくれる医師・看護師がいると大変ありがたい。
- ・少ない年金生活者にとって、医療費は重くのしかかる。負担金をできる限り少なくしてほしい。夏場の江戸川区共通商品券は大変助かった。ありがとうございました。
- ・災害時(水害・地震等)の地域別の避難場所を明記し、各々の家庭に配布してほしい。特にひとり暮らしの人は、区より町会を通じて、まず近場に集合する所を指定されていると安心できる。
- ・村社会的な人情が多くて昔はうっとうしく思えたが、最近の世情からかえってこのような地方社会的な部分を活かしたまちづくりが必要だと思う。祭りを、盆踊りではなく若者が参加できるものにして盛り上がればよい。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(42件より抜粋)

- ・本一色には無料で利用できるコミュニティセンターがない。農協の跡とか、みんなの家の中にも、是非気軽に利用できるような施設ができたならうれしい。
- ・熟年者というくくりではなくて、老若男女が参加できる催しや軽いスポーツをする機会を増やしてほしい。
- ・近くにコミュニティセンターがあるが、「えどがわ区報」をみても催し物がほとんどなく、センターを活用した行事・催しを考えてほしい。

- ・今年水彩画をはじめて文化祭に出品したが、年一度だけではなく年に数回開催してほしい。総合文化センターだけでなく、さくらホールや区民館等で区の人たちが自由に出品できると励みになる。
- ・北篠崎の地区にカルチャーセンターの施設を作してほしい。
- ・同じマンションの中も高齢化が進んでいるので、老いても楽しめるような地域づくりができればと思っている。例えば、下手でよい、下手がよい、小さな絵を描くサークルなど。
- ・自治会行事等、皆が活発に参加できるような地域づくりが大切だと思う。朝のウォーキングやラジオ体操の集合場所づくり等を希望する。
- ・熟年者はパソコンを覚えたい人が多数いると思う。土、日、祝日等を利用しての講習会、研修会を増やしてほしい。又、費用はなるべく安く区で多少負担してほしい。
- ・くすのきカルチャーを今後利用したいと思うような講座がない。もっと音楽的な楽しみができる講座を増やしてほしい。カラオケサークルやコーラス音楽、演奏等。
- ・くすのきカルチャーの制度は他の自治体がない、江戸川区が誇れる素晴らしい制度だと思う。ただ自分の楽しみだけで終わることなく、自分が社会に必要とされているという実感を得られる場所があれば、なお質の高いシステムになるかと思う。
- ・多くの催しが総合文化センターやタワーホールで開催されているが、江戸川区は広いので各地区の区民館やコミュニティ会館等で開催すれば、近くの人々の参加も得られると思う。
- ・講座、教育の費用が安くなるとうい。
- ・テーマをもうけ、司会者と意見者が、自由に話し合う場所と機会があるとうい。政治経済から、医療、家族、趣味と気軽に聞けるとよいと思う。
- ・できれば健康で働く意欲のある高齢者の職場をもっと拡大してほしい。結果的に老人医療費の削減にもつながる訳だから。国に先駆けてスタートしてシルバーセンター（高齢者事業団）の充実と雇用の拡大に努力してほしい。
- ・熟年者にもっと働き口を。自分の周りにもたくさん身をもてあましている人たちが居る。
- ・江戸川区で就労できる所を紹介してほしい。
- ・少しでも働いて生活したいのだが、高齢で病気がちなので困っている。

【4】健康づくり・介護予防について(14件より抜粋)

- ・早朝（午前7時頃）ラジオ体操等があるとよい（できれば近くの小・中学校の校庭など）。
- ・各自、介護をできるだけ必要としない健康づくりを意識するPRをしてほしい。介護費用は自分だけではなく他人にも負担がかかることであり、健康づくりを心がける指導をお願いしたい。
- ・閉じこもりを防ぐには、身近に集まれる場所があれば（町会に1か所位）、足の弱くなった人も外出する機会が増えるのでは。例として、商店街のシャッターをおろした家を公共の場として利用し、町会がくすのき会員で維持する。理想でもあり、願いでもある。
- ・体操やウォーキング等健康づくりができる体育館が近くにあればよい。
- ・ふれあいセンターを利用して、とてもよい1日を送らせてもらっている。このセンターのことを知らない人もたくさんいるので、もっと普及するように、ひとり暮らしの人などに説明をした方がいいと思う。
- ・地域で健康人口を増やす対策をしないといけない。高齢者を健康に導く食生活、運動、考え方など指導することが大切だと思う。

【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(43件より抜粋)

- ・歩道を自転車スピードを出して走るので年寄りには安心して歩けない。小学校などで教育をしてほしい。
- ・駐車場の取り締まりを徹底してほしい。ウォーキングしている時など不安。
- ・店の品物が歩道にならべてあり、通る車をよけて歩かなくてはならない道路が多く（車にひか

れそうではらハラして)、110番したいと思う場所がいっぱいある。

- ・歩道橋を無くして、信号機をつけてほしい。
- ・歩道の段差が整備されていない。特にひどい場所があり、目の不自由な人が転倒しているのを何回もみた。
- ・自転車専用道路を増やしてほしい。
- ・江戸川区内の歩道整備について、地域によって差がありすぎる。
- ・江戸川区にも区営住宅をつくってほしい。
- ・ひとり暮らしの生活になっても安心して暮らせる住居がほしい。
- ・介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備を特にお願いしたい。
- ・主人と二人年金暮らしで、都営・区営住宅に申し込んでいるが、なかなか当たらない。家賃の援助がもう少しほしいと思う。

【6】その他(72件より抜粋)

- ・皆いろいろな事でビクビクして、笑顔・明るさがなく暗い。もっと笑顔で頑張って明るくしよう。
- ・江戸川区は公園が多く、樹木も多く、病院の待ち時間もほとんどなく、非常に助かる。介護の問題も他区より進んでいるように感じる。
- ・ひとり暮らしのため、今後人生の終わりになったら後始末(分譲マンション、その他)色々、どのようにしたらよいか心配している。
- ・自分自身できる事はなるべく自分で努力する。あまり若い人に負担をかけたくない。
- ・現在、マンションで生活しているが、近所とのつきあいがほとんどないので、非常の時どのように行動すればよいか不安。
- ・歳とともに、生活や健康に不安がある。特に病気をしてからは、これから先の事を考えると、子どもたちにも負担をかけないようにしたい。
- ・アンケートを1週間後に読み返してみて、これからの自分はどのように残りの人生を過ごしたいか?健康なうちに考えておこうと思った。
- ・この調査票には無駄な項目が多すぎる。もっと要点をつかんだ項目で簡素化すべきと思う。
- ・この調査票が届いたことにより、改めて熟年者として自覚し、色々考える機会となった。

第 3 章

介護予防に関する調査

< 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	65歳以上の二次予防事業の候補者・決定者となっている区民(平成22年11月1日現在)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)
調査期間	平成22年11月22日～12月15日
対象者数 及び 回収率	対象者数 : 1,000 有効回収数 : 803 有効回収率 : 80.3%

1. 基本的属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

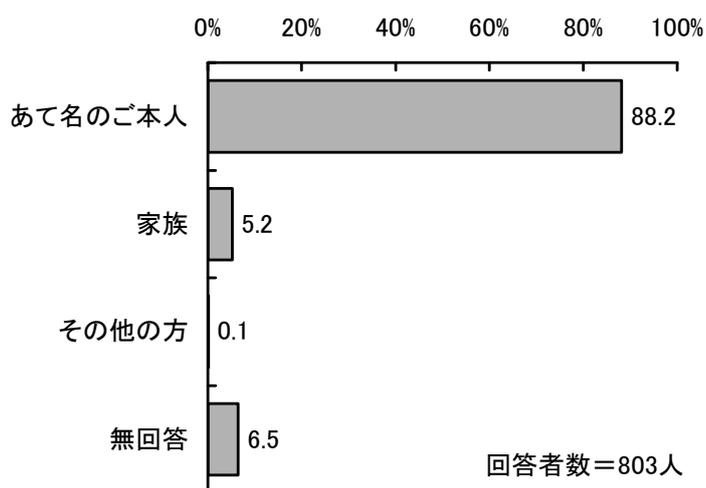
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」88.2%、「家族」5.2%などとなっている。

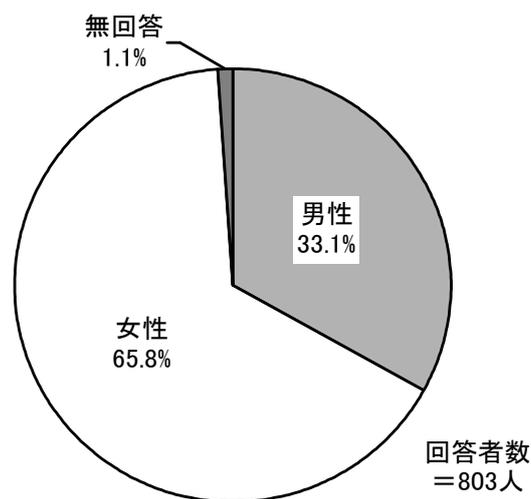
性別は「男性」33.1%に対して、「女性」65.8%と、「女性」が「男性」の約2倍となっている。

年齢は、「75～79歳」が31.0%ともっとも高く、「70～74歳」22.9%、「80～84歳」17.9%と続いており、平均年齢は76.8歳であった。

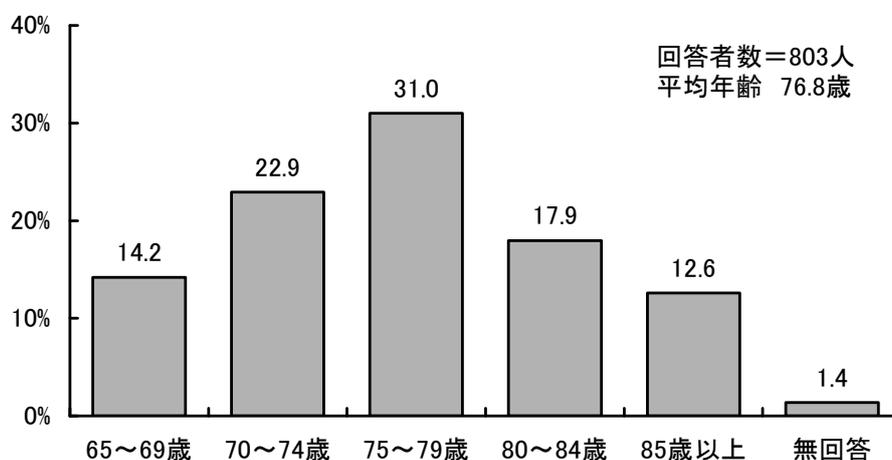
図表3-1 調査回答者(単数回答)



図表3-2 性別(単数回答)



図表3-3 年齢(単数回答)

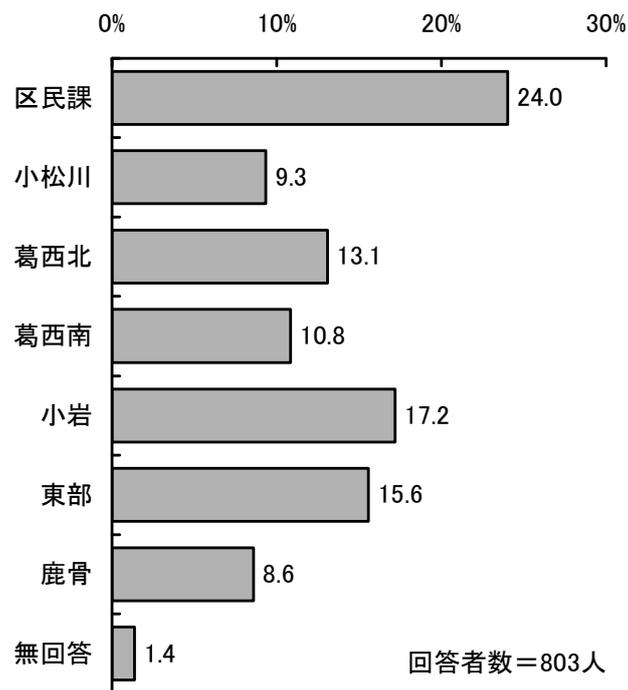


(2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」24.0%、「小岩」17.2%、「東部」15.6%などとなっている。

図表3-4 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

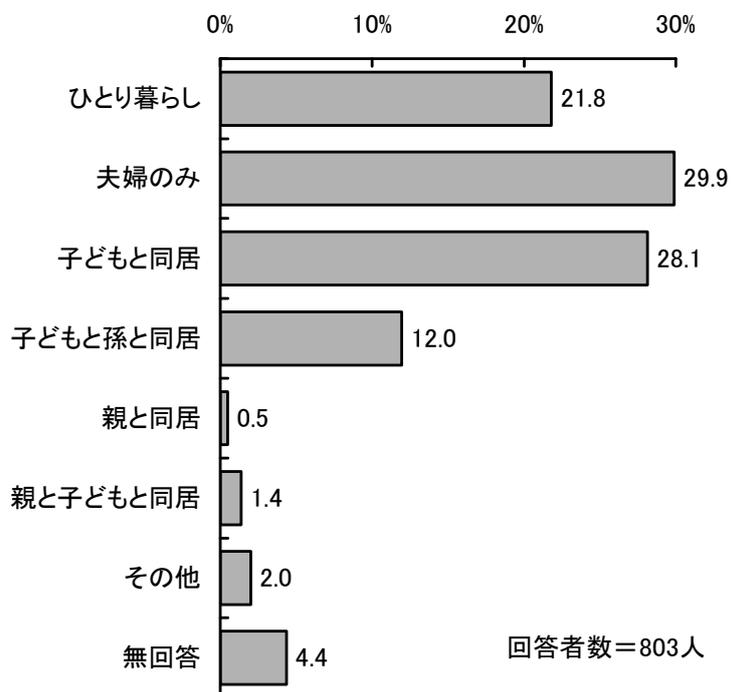


(3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)
【比較調査 240 参照】

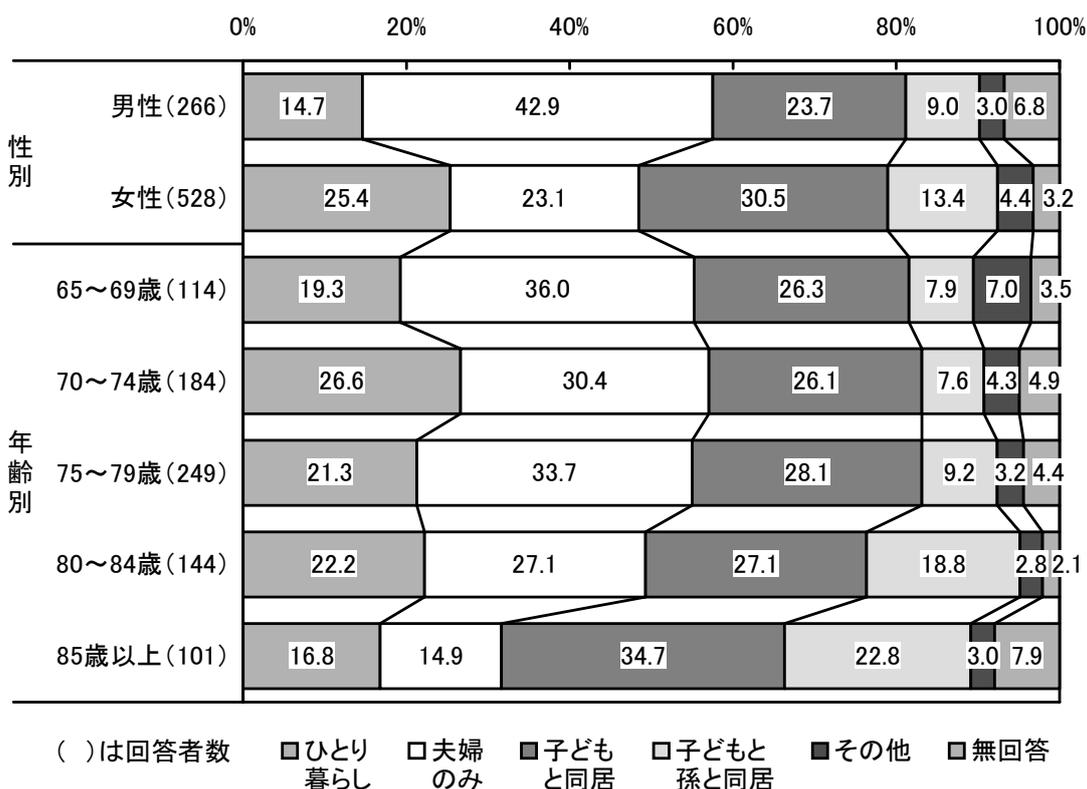
世帯構成は、「夫婦のみ」29.9%、「子どもと同居」28.1%に次いで、「ひとり暮らし」21.8%と続いている。

図表3-5 世帯構成(単数回答)



性別にみると、「ひとり暮らし」は男性で14.7%、女性では25.4%となっている。
 年齢別にみると、79歳までの年齢層では「夫婦のみ」がもっとも高い。85歳以上では「子どもと同居」34.7%、「子どもと孫と同居」22.8%の順となっている。

図表3-6 世帯構成



※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 日中独居の状況

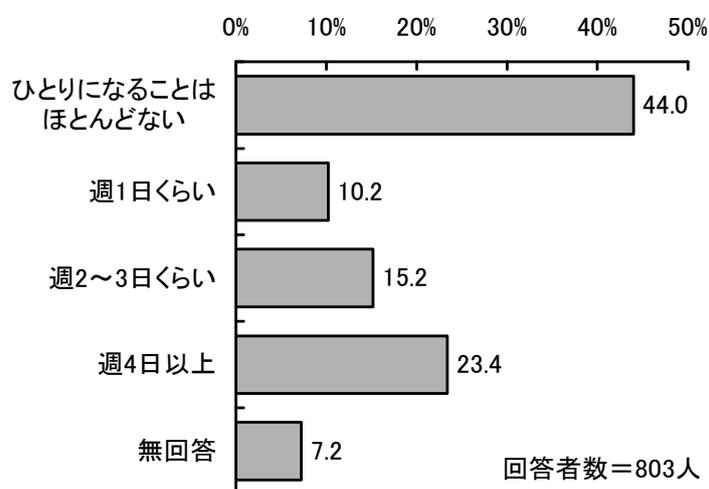
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

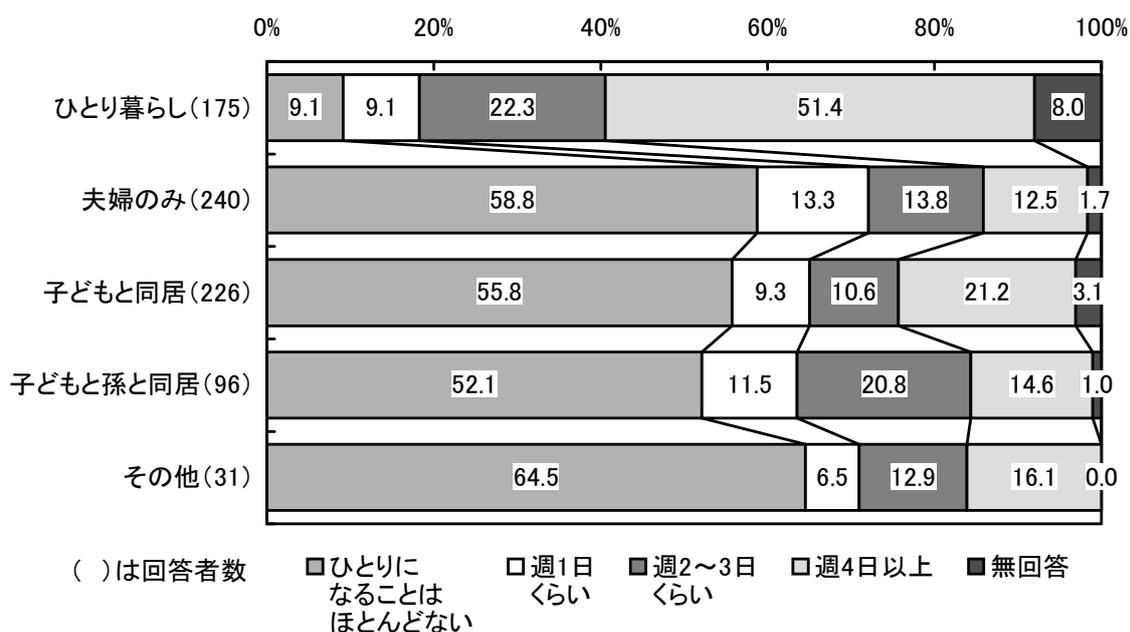
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」は44.0%であり、23.4%が「週4日以上」ひとりでいると回答している。

世帯構成別にみると、夫婦のみや子どもや孫との同居世帯の人では「ひとりになることはほとんどない」が5割を超える。「週4日以上」の割合は、ひとり暮らしの人が51.4%、子どもと同居の人で21.2%となっている。

図表3-7 日中独居の状況(単数回答)



図表3-8 日中独居の状況



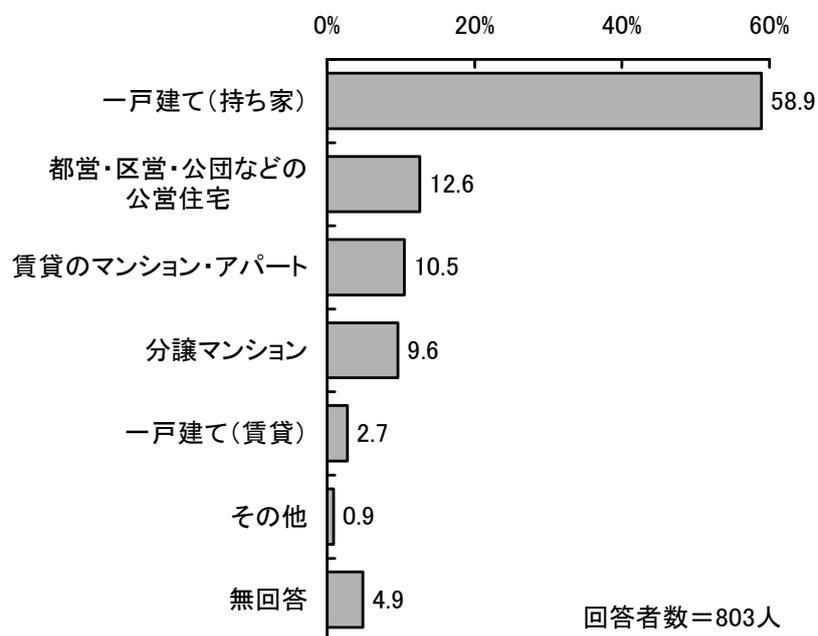
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(5)住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」58.9%に次いで、「都営・区営・公団などの公営住宅」12.6%、「賃貸のマンション・アパート」10.5%、「分譲マンション」9.6%などとなっている。

図表3-9 住居の形態(単数回答)



(6) 居住階数、エレベーターの有無

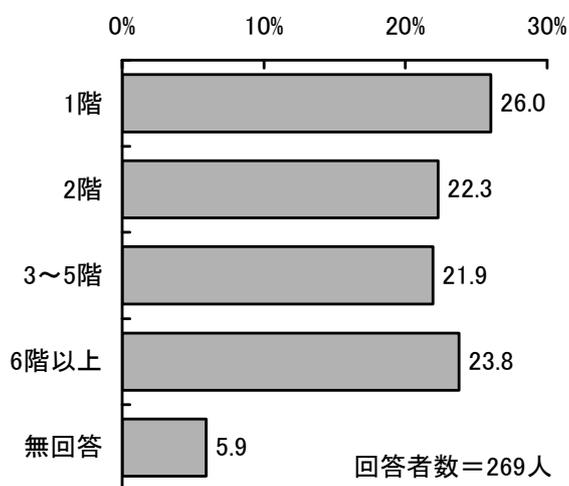
マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3~6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

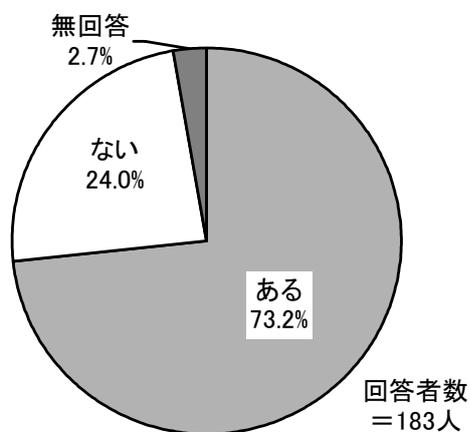
マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「1階」26.0%、「6階以上」23.8%、「2階」22.3%であり、1~2階居住者が48.3%と半数近い。

2階以上に居住している場合のエレベーターの有無は、「ある」が73.2%を占める。

図表3-10 居住階数(単数回答)



図表3-11 エレベーターの有無(単数回答)



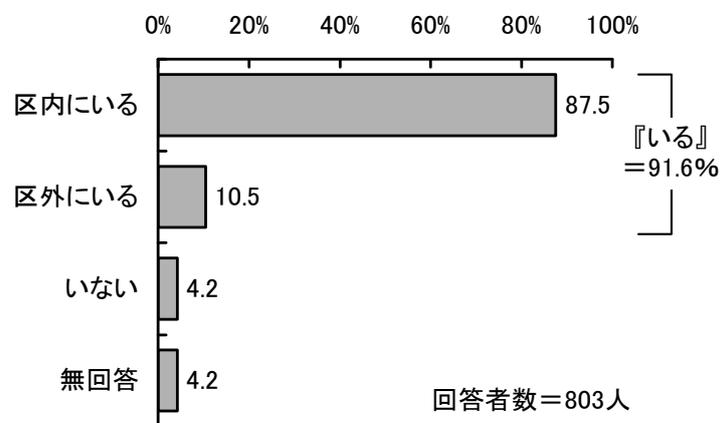
2. 健康について

(1) かかりつけ医の有無

問7 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 242 参照】

かかりつけ医の有無をみると、「区内にいる」87.5%、「区外にいる」10.5%であり、91.6%が『いる』と回答している。

図表3-12 かかりつけ医の有無(複数回答)



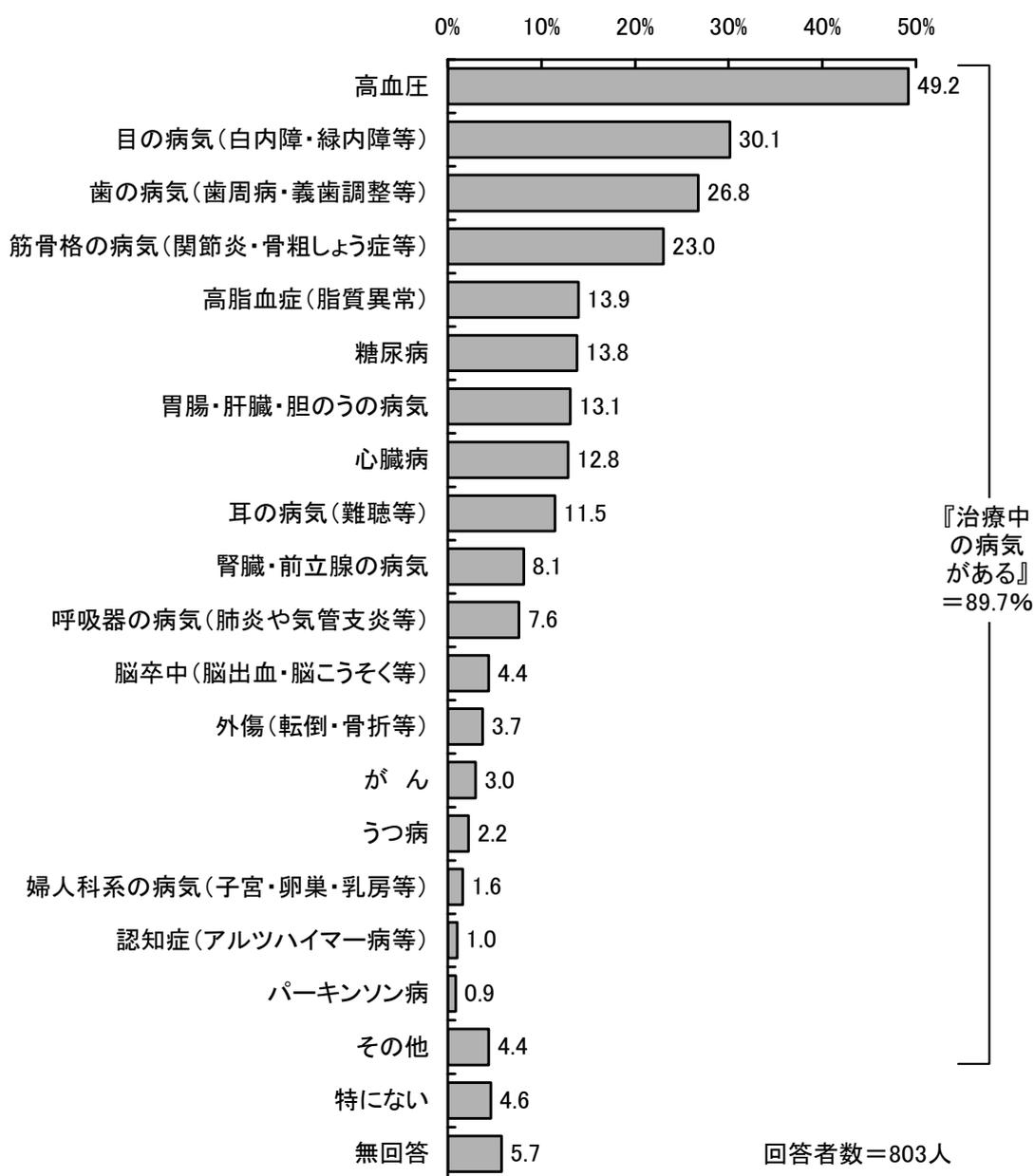
※『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

(2) 現在治療中の病気

問 8 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気は、「高血圧」49.2%がもっとも高く、次いで「目の病気（白内障・緑内障等）」30.1%、「歯の病気（歯周病・義歯調整等）」26.8%、「筋骨格の病気（関節炎・骨粗しょう症等）」23.0%の順となっている。

図表3-13 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

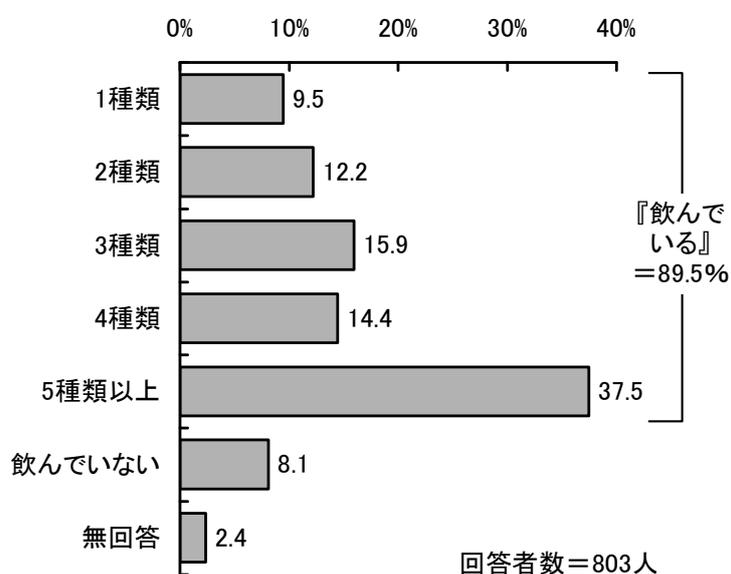
(3) 飲んでいる薬の種類

問9 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類は、「5種類以上」37.5%がもっとも高く、次いで「3種類」15.9%、「4種類」14.4%と続く。「飲んでいない」は8.1%であり、約9割が薬を『飲んでいる』と回答している。

図表3-14 飲んでいる薬の種類(単数回答)



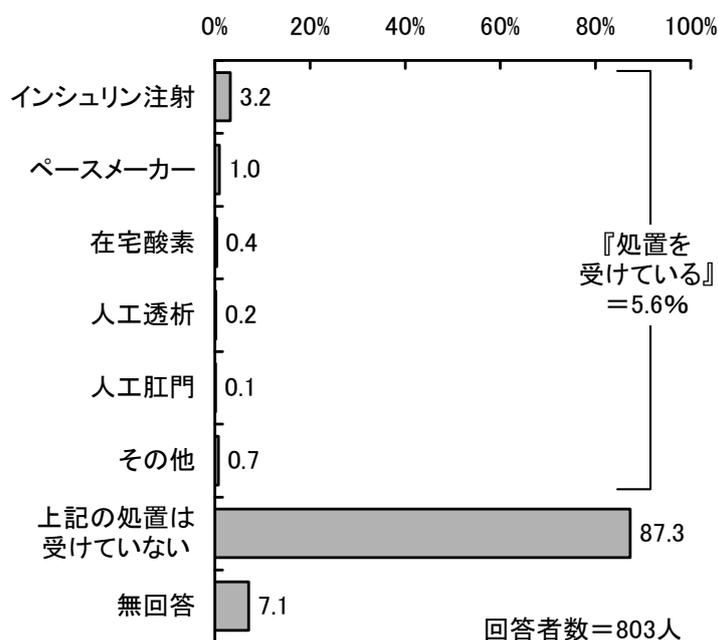
※『飲んでいる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」 + 「5種類以上」

(4) 医療処置の状況

問 10 あなた(あて名のご本人)は、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

医療処置の状況を見ると、『処置を受けている』人の割合は 5.6%となっている。具体的には、「インシュリン注射」が 3.2%、「ペースメーカー」が 1.0%などとなっている。

図表3-15 医療処置の状況(複数回答)



※『処置を受けている』 = 100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

3. 介護予防について

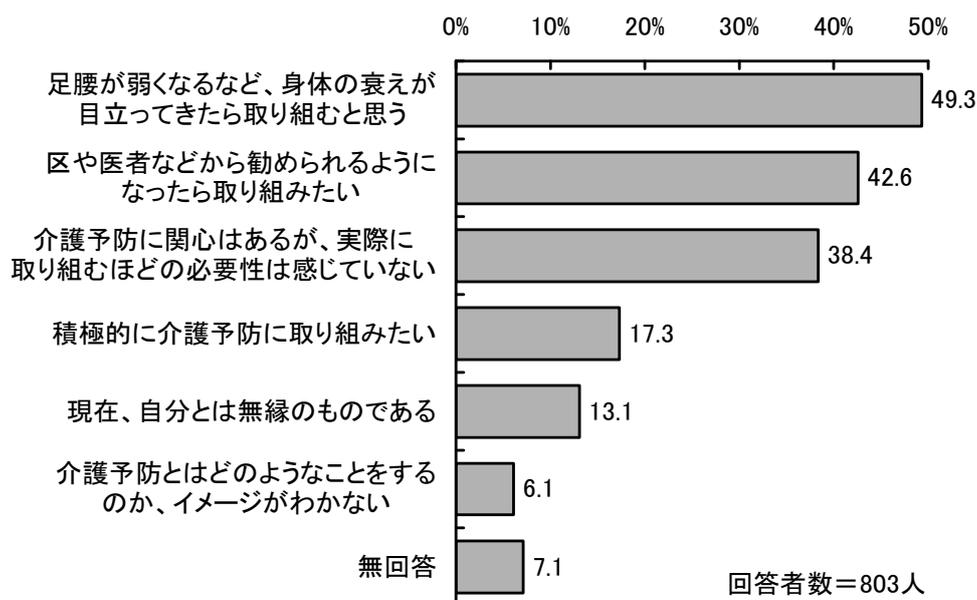
(1) 介護予防の印象

問 18 あなた(あて名のご本人)は、介護予防に対し、どのような印象をお持ちですか。

(あてはまるものすべてに○)

介護予防の印象としては、「足腰が弱くなるなど、身体の衰えが目立ってきたら取り組むと思う」49.3%、「区や医者などから勧められるようになったら取り組みたい」42.6%がそれぞれ4割を超えている。次いで、「介護予防に関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」38.4%、「積極的に介護予防に取り組みたい」17.3%、「現在、自分とは無縁のものである」13.1%と続く。「介護予防とはどのようなことをするのか、イメージがわからない」は6.1%であった。

図表3-16 介護予防の印象(複数回答)



(2) 介護予防相談の状況、相談に行かなかった理由

問 19 あなた(あて名のご本人)は、健康診査等の結果、地域包括支援センターで介護予防相談をするように勧められたと思いますが、介護予防相談に行きましたか。

(1つに○)

介護予防相談に行っていない方(問 19 で 2 に○)におうかがいします。

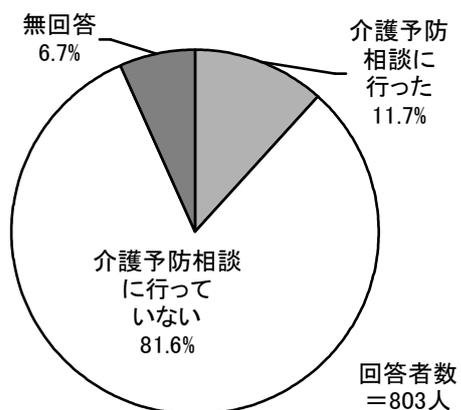
問 19-1 あなた(あて名のご本人)が、介護予防相談に行かなかったのは、なぜですか。

(1つに○)

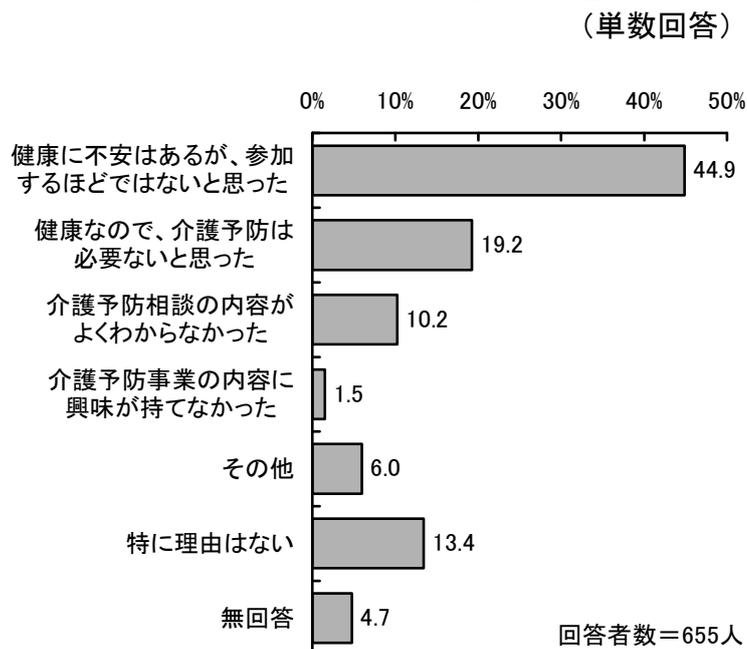
介護予防相談の状況をみると、「介護予防相談に行った」11.7%、「介護予防相談に行っていない」81.6%となっている。

相談に行かなかった理由は、「健康に不安はあるが、参加するほどではないと思った」44.9%がもっとも高く、次いで「健康なので、介護予防は必要ないと思った」19.2%、「介護予防相談の内容がよくわからなかった」10.2%となっている。

図表3-17 介護予防相談の状況(単数回答)

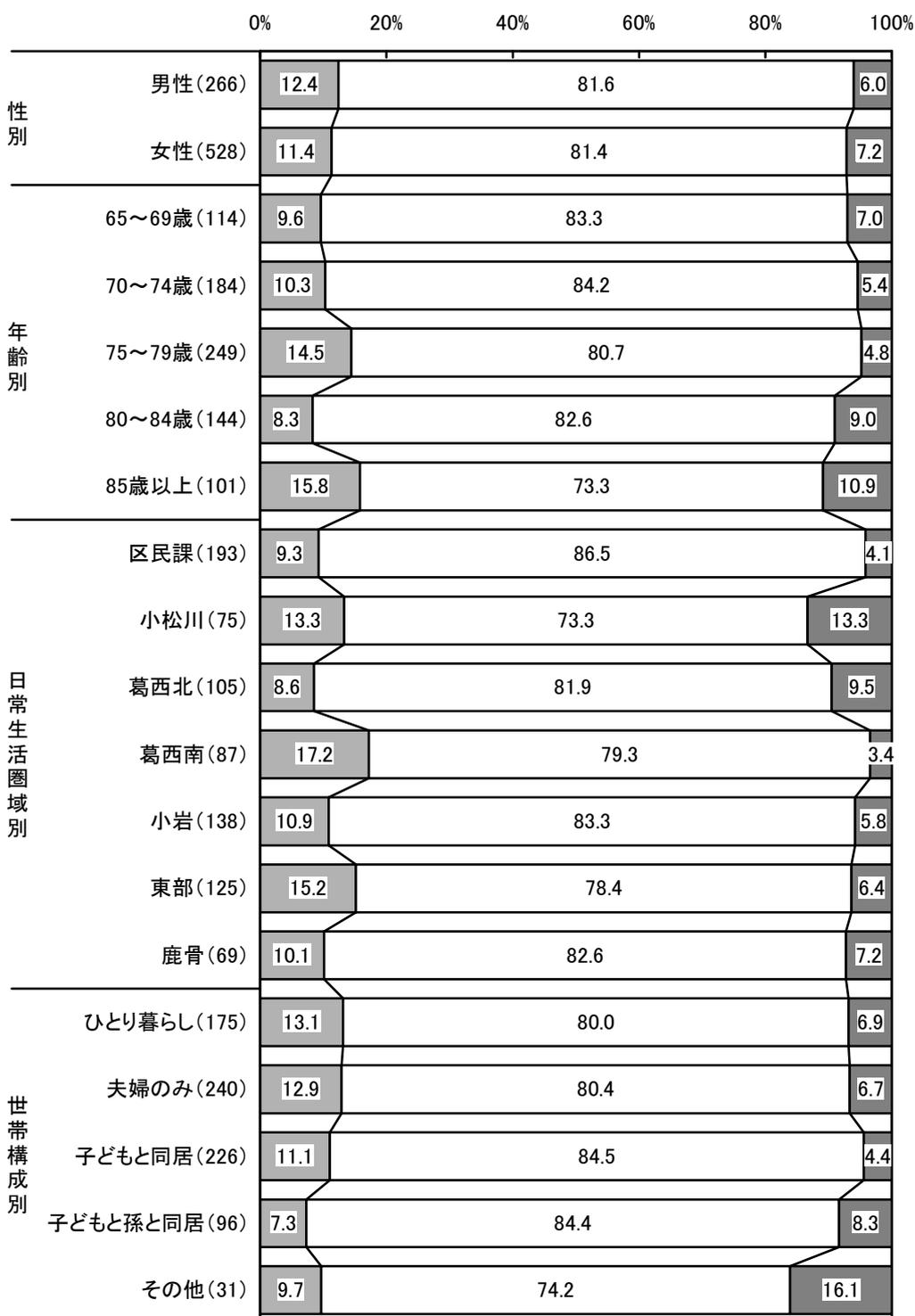


図表3-18 相談に行かなかった理由(単数回答)



「介護予防相談に行った」割合に着目すると、年齢別では75～79歳、85歳以上、日常生活圏域別では小松川、葛西南、東部、世帯構成別ではひとり暮らし、夫婦のみの人において、それぞれ他に比べて高くなっている。

図表3-19 介護予防相談の状況



()は回答者数

■ 介護予防相談に行った

□ 介護予防相談に行っていない

■ 無回答

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

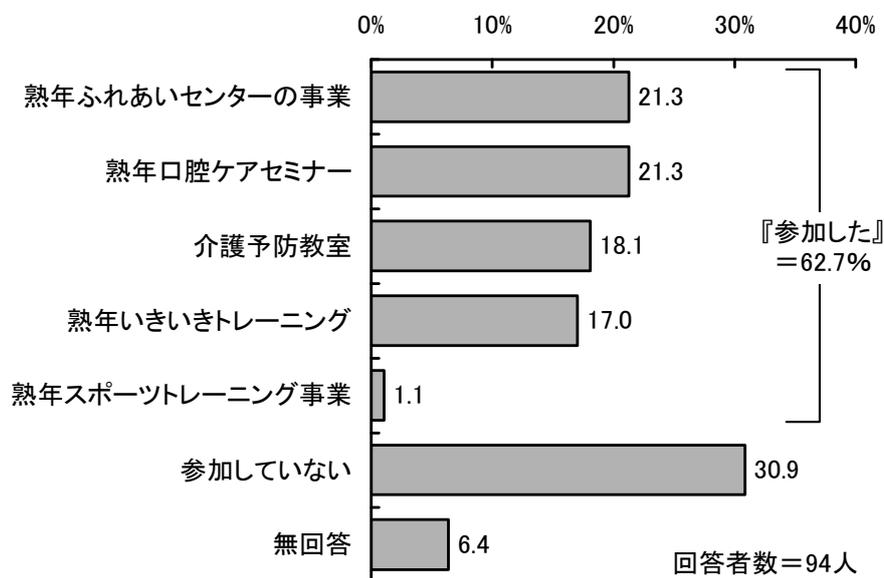
(3) 介護予防事業の参加状況

介護予防相談に行った方(問 19 で 1 に○)におうかがいします。

問 20 江戸川区では、介護予防のために以下の事業を行っています。どの事業に参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防相談に行った人の介護予防事業の参加状況をみると、『参加した』人の割合は 62.7%となっている。具体的には、「熟年ふれあいセンターの事業」「熟年口腔ケアセミナー」が各 21.3%、「介護予防教室」18.1%、「熟年いきいきトレーニング」17.0%、「熟年スポーツトレーニング事業」1.1%となっている。

図表3-20 介護予防事業の参加状況(複数回答)



※『参加した』 = 100% - 「参加していない」 - 「無回答」

(4) 介護予防事業に参加してよかったこと

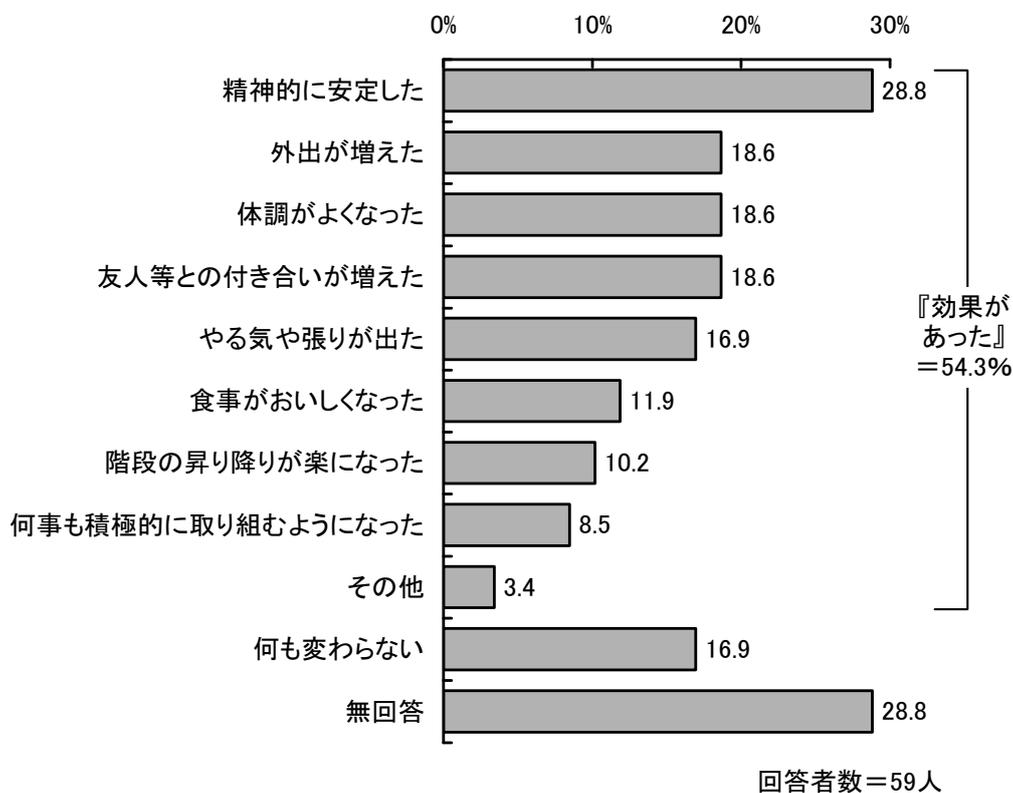
介護予防事業に参加した方(問 20 で 1~5 に○)におうかがいします。

問 20-1 参加した結果、心身の状態でよかったと感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

介護予防事業に参加した人に、参加してよかったことをたずねたところ、54.3%と過半数が『効果があった』と回答している。具体的には、「精神的に安定した」28.8%がもっとも高く、次いで「外出が増えた」「体調がよくなった」「友人等との付き合いが増えた」が各 18.6%で続いている。

図表3-21 介護予防事業に参加してよかったこと(複数回答)



※『効果があった』=100% - 「何も変わらない」 - 「無回答」

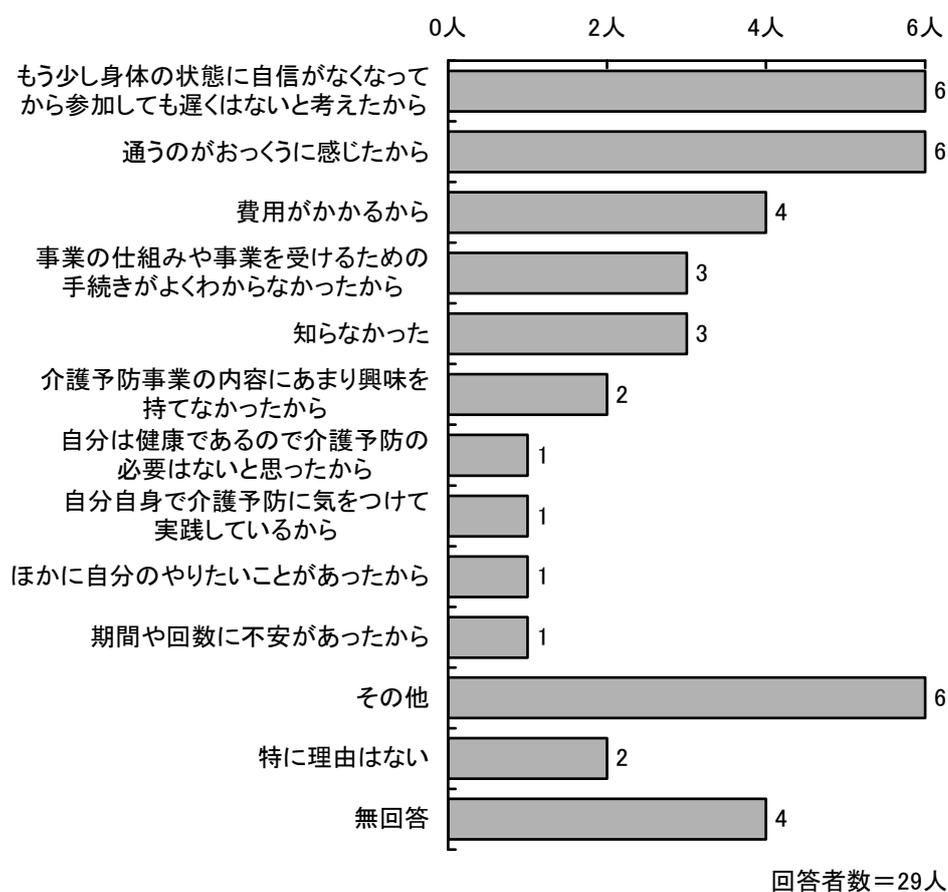
(5) 介護予防事業に参加しなかった理由

介護予防事業に参加していない方(問 20 で 6 に○)におうかがいします。

問 20-2 介護予防事業に参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防相談に行ったが、介護予防事業に参加していない人の参加しなかった理由としては、「もう少し身体の状態に自信がなくなってから参加しても遅くはないと考えたから」「通うのがおっくうに感じたから」が各 6 人、「費用がかかるから」が 4 人であった。

図表3-22 介護予防事業に参加しなかった理由(複数回答)

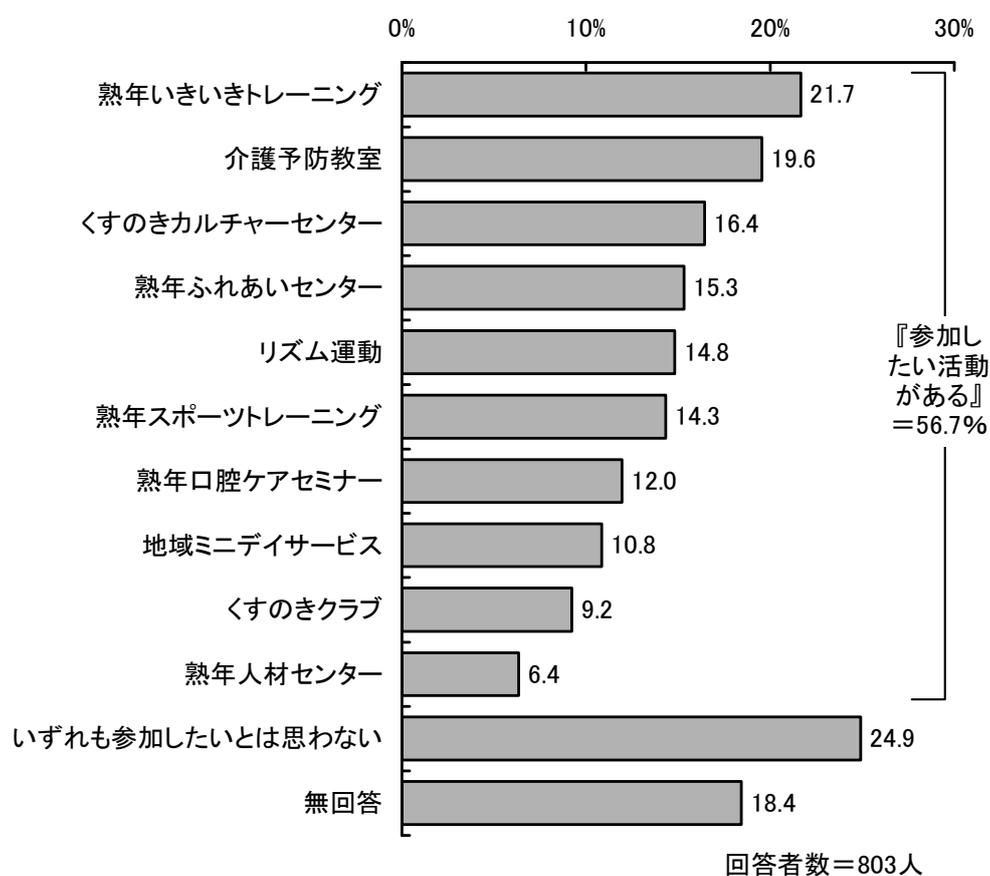


(6) 今後取り組みたい活動

問 21 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後取り組みたい活動をみると、56.7%が『参加したい活動がある』と回答している。参加したい具体的な活動としては、「熟年いきいきトレーニング」21.7%、「介護予防教室」19.6%、「くすのきカルチャーセンター」16.4%の順となっている。

図表3-23 今後取り組みたい活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

性別にみると、『参加したい活動がある』は男性 54.5%、女性 57.9%となっている。

年齢別にみると、『参加したい活動がある』は、65～69歳では6割台であるが、85歳以上では3割台になり、年齢層が高くなるほど低くなっている。

図表3-24 今後取り組みたい活動

		回答者数(人)	熟年いきいきトレーニング	介護予防教室	くすのきカルチャーセンター	熟年ふれあいセンター	リズム運動	熟年スポーツトレーニング	熟年口腔ケアセミナー	地域ミニデイサービス	くすのきクラブ	熟年人材センター	いずれも参加したいとは思わない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		803	21.7	19.6	16.4	15.3	14.8	14.3	12.0	10.8	9.2	6.4	24.9	18.4	56.7
性別	男性	266	22.9	21.1	13.5	13.9	10.5	15.8	12.8	10.5	9.0	9.8	28.6	16.9	54.5
	女性	528	21.2	18.8	18.2	16.1	17.0	13.8	11.6	11.2	9.5	4.5	23.3	18.8	57.9
年齢別	65～69歳	114	29.8	18.4	18.4	14.0	19.3	21.1	11.4	14.0	12.3	14.0	22.8	10.5	66.7
	70～74歳	184	26.6	22.3	21.2	16.3	18.5	19.0	13.6	13.6	12.0	8.7	25.5	14.7	59.8
	75～79歳	249	22.5	22.1	17.7	16.1	13.7	12.9	14.1	8.8	6.8	5.2	20.9	19.3	59.8
	80～84歳	144	16.0	16.7	13.9	14.6	10.4	13.2	11.1	9.0	9.7	1.4	26.4	18.8	54.8
	85歳以上	101	10.9	14.9	7.9	15.8	11.9	5.0	5.9	10.9	5.9	3.0	32.7	29.7	37.6

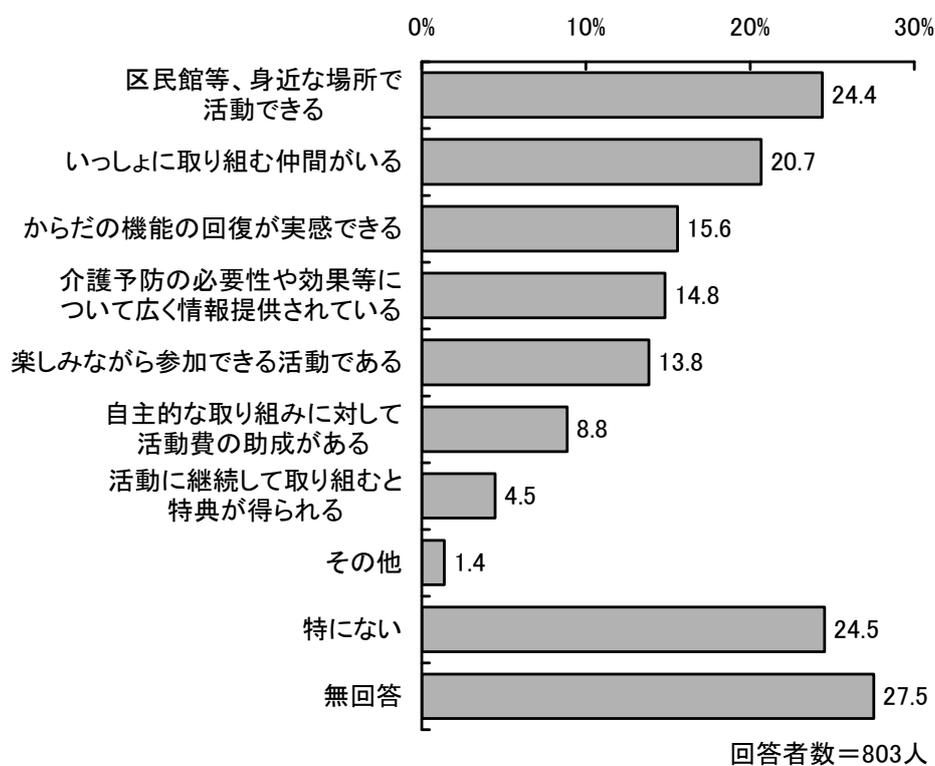
※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

(7) 介護予防に取り組みやすくするための条件

問 22 介護予防に取り組みやすくするには、どのような環境・条件が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【比較調査 243 参照】

介護予防に取り組みやすくするための条件は、「区民館等、身近な場所で活動できる」24.4%、「いっしょに取り組む仲間がいる」20.7%に次いで、「からだの機能の回復が実感できる」15.6%、「介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている」14.8%、「楽しみながら参加できる活動である」13.8%などとなっている。

図表3-25 介護予防に取り組みやすくするための条件(複数回答)



4. 日常生活の状況について

(1) 手段的日常生活動作 (IADL)・日常生活動作 (ADL) の自立度

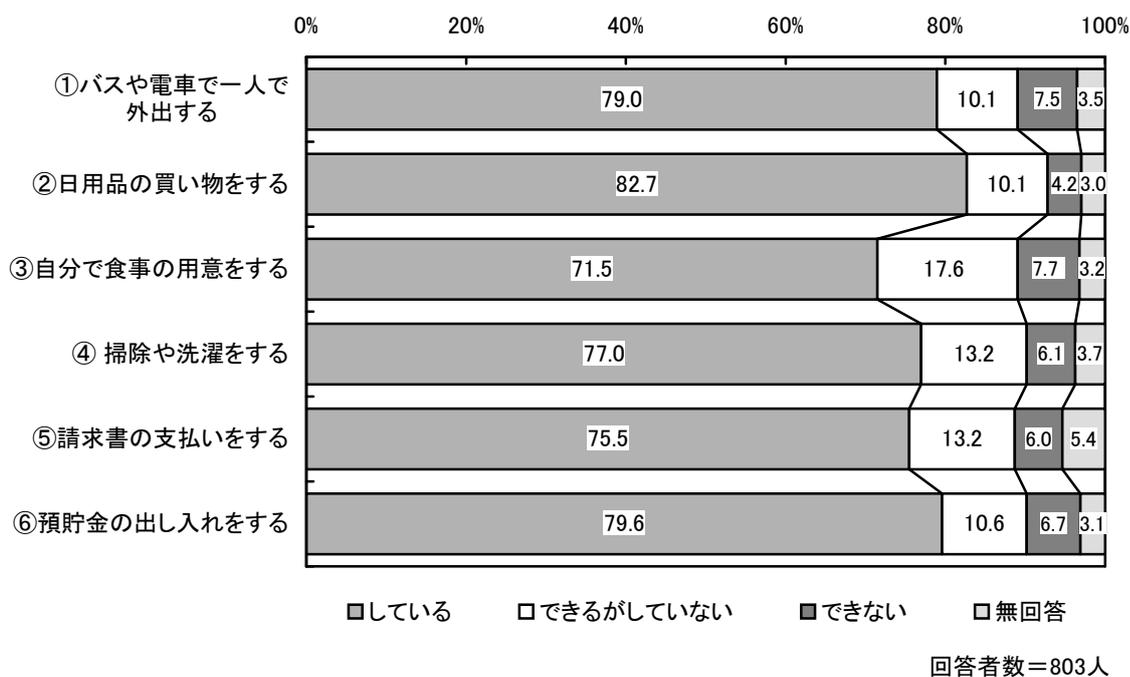
問 11 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。①～⑦について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。【比較調査 244 参照】

①手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

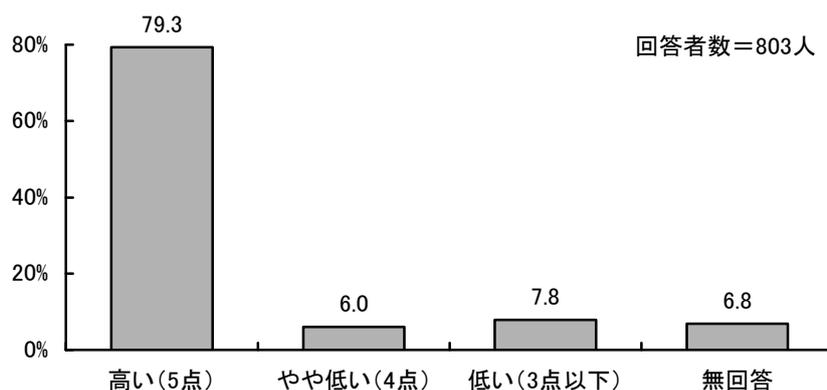
手段的日常生活動作 (IADL) の自立度をみると、「している」割合は、“②日用品の買い物をする”は8割台、その他の項目はいずれも7割台となっている。

手段的日常生活動作 (IADL) に関する①～③・⑤・⑥の項目を5点満点となるよう点数化し、集計した結果(点数化の基準については6ページ参照)をみると、自立度が「高い(5点)」が79.3%と約8割を占めており、「やや低い(4点)」6.0%、「低い(3点以下)」7.8%となっている。

図表3-26 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度 (各単数回答)



図表3-27 手段的日常生活動作 (IADL) 得点

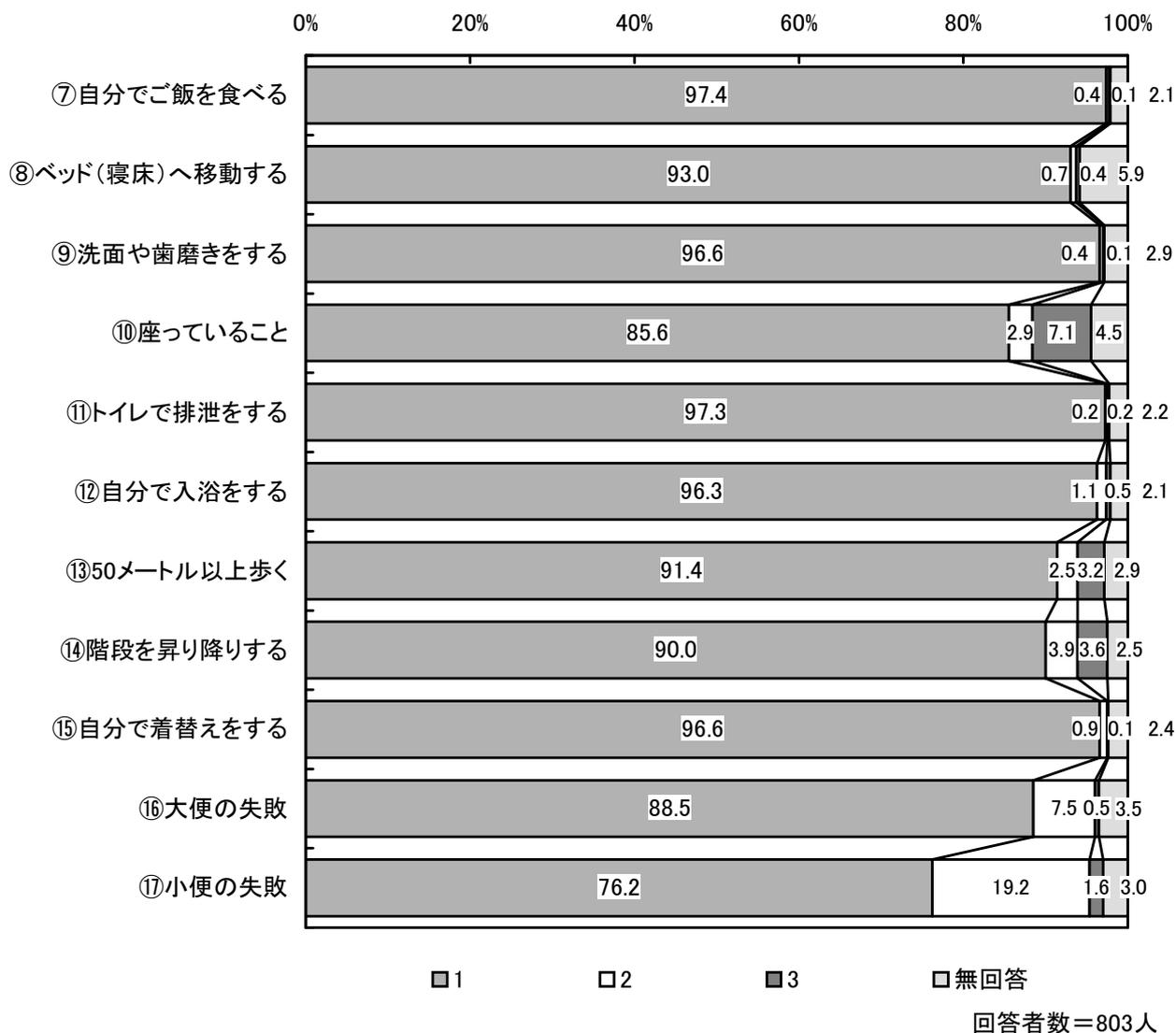


※手段的日常生活動作 (IADL) については、6ページ参照

②日常生活動作(ADL)の自立度

日常生活動作(ADL)の自立度をみると、⑦～⑮の各項目について「できる」割合は、“⑩座っていること”が8割台、その他の項目はいずれも9割台となっている。また、⑯・⑰について「ない」割合は、“⑯大便の失敗”が8割台、“⑰小便の失敗”が7割台となっている。

図表3-28 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



※⑦～⑨、⑪～⑮の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

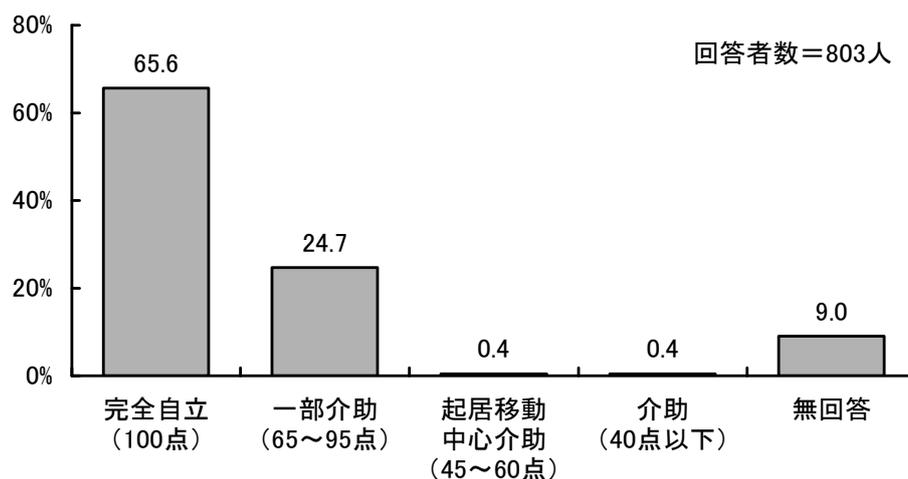
⑩の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑯・⑰の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

※日常生活動作(ADL)については、6ページ参照

日常生活動作（ADL）の自立度に関する⑦～⑰の項目を100点満点となるよう点数化し、集計した結果（点数化の基準については6ページ参照）をみると、「完全自立（100点）」が65.6%を占め、「一部介助（65～95点）」は24.7%となっている。

図表3-29 日常生活動作(ADL)得点



(2)生活機能の状況

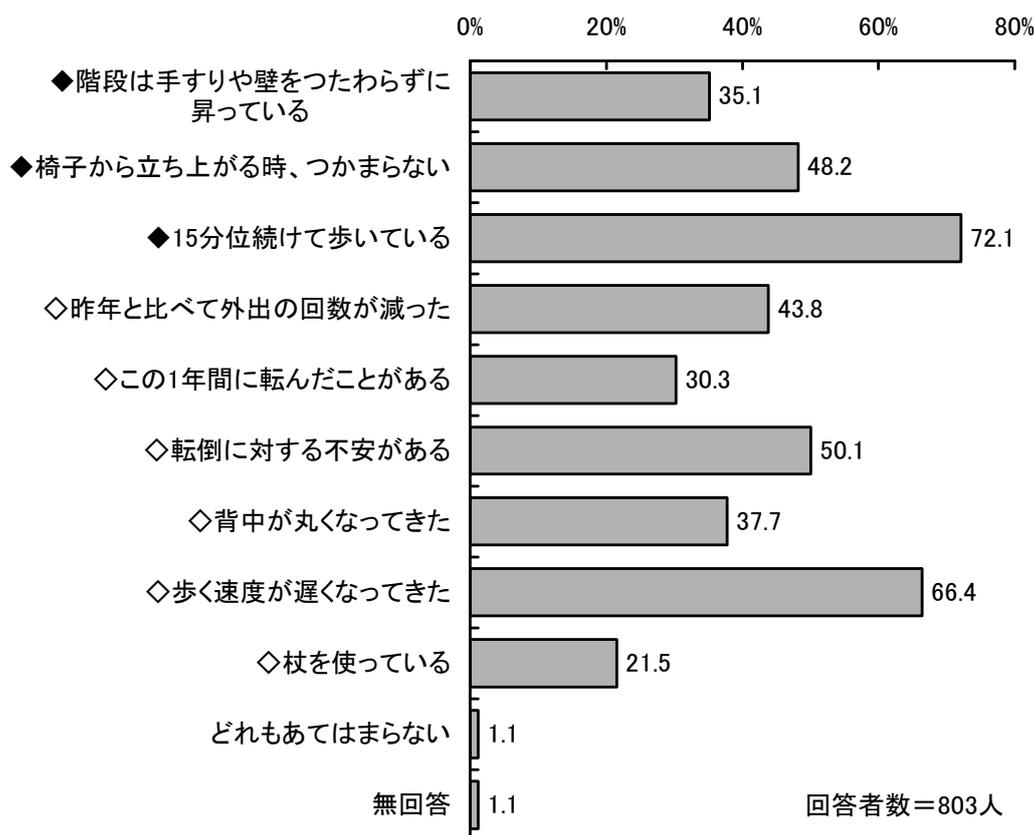
問 12 以下の①～④のすべてについて、あなた(あて名のご本人)に「あてはまる」ことに○をしてください。【比較調査 245～248 参照】

①運動や転倒の状況

運動や転倒の状況をみると、肯定的な内容である前半3項目のうち、「15分位続けて歩いている」は7割台である一方、「階段は手すりや壁をつたわずに登っている」は3割台と低くなっている。

一方で、否定的な内容である後半6項目のうち、「歩く速度が遅くなってきた」は6割台、「転倒に対する不安がある」は約5割、「昨年と比べて外出の回数が減った」は4割台となっている。

図表3-30 運動や転倒の状況(複数回答)



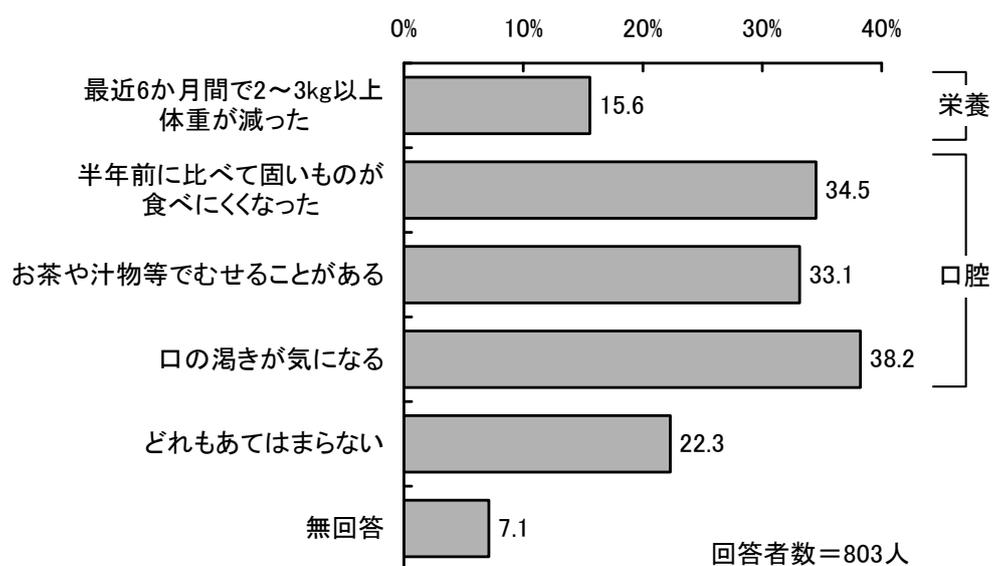
※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

②栄養や口腔機能の状況

栄養や口腔機能の状況を見ると、栄養に関する「最近6か月間で2~3kg以上体重が減った」は15.6%となっている。

また、口腔機能に関する「口の渇きが気になる」「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」「お茶や汁物等でむせることがある」はいずれも3割台となっている。

図表3-31 栄養や口腔機能の状況(複数回答)

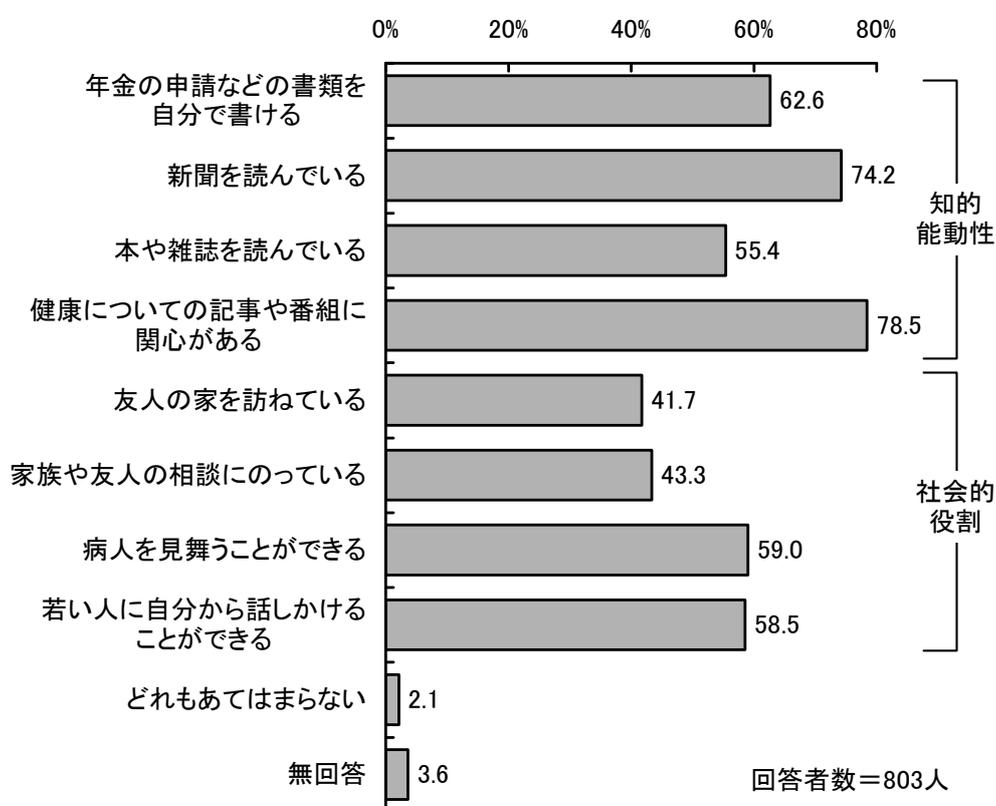


③社会活動の状況

前半 4 項目の知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）の状況をみると、「健康についての記事や番組に関心がある」「新聞を読んでいる」は 7 割台である一方、「年金などの書類を自分で書ける」は 6 割台、「本や雑誌を読んでいる」は 5 割台となっている。

後半 4 項目の社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）の状況をみると、「病人を見舞うことができる」「若い人に自分から話しかけることができる」は 5 割台、「家族や友人の相談にのっている」「友人の家を訪ねている」は 4 割台となっている。

図表3-32 社会活動の状況(複数回答)

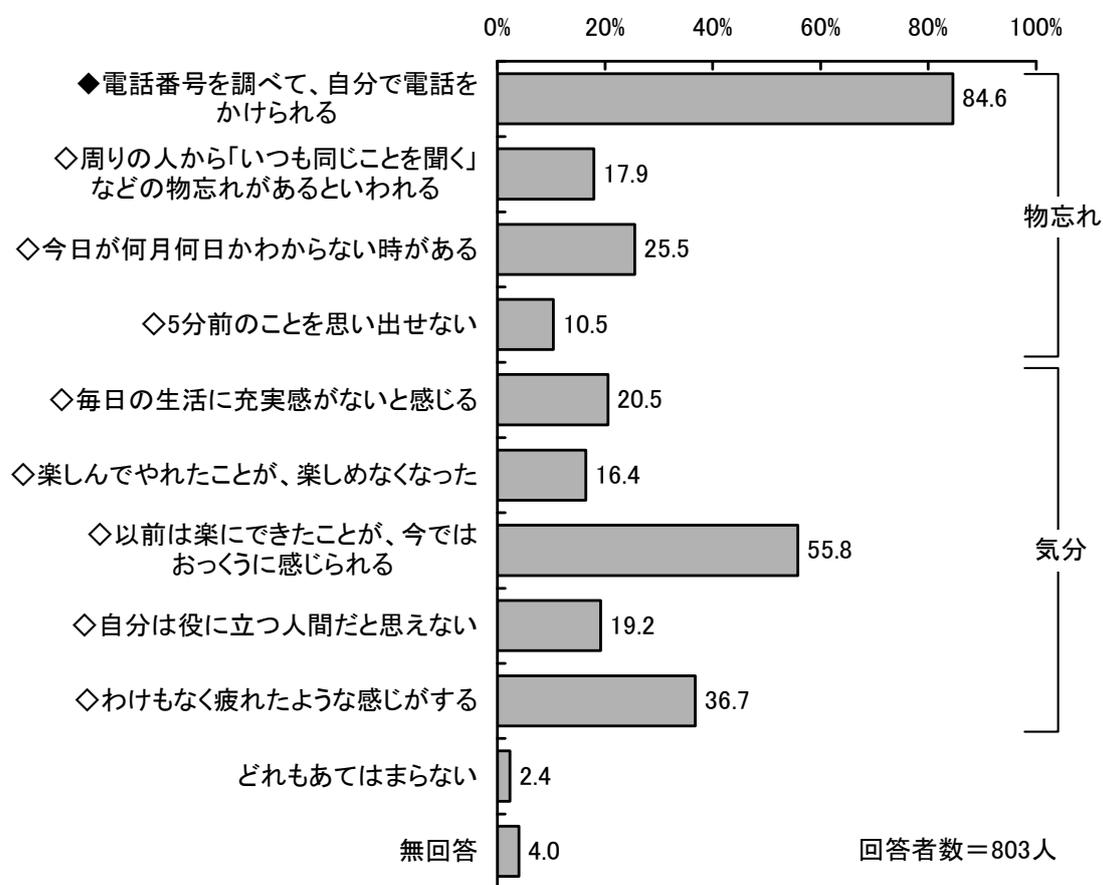


④物忘れや気分の状況

前半4項目の物忘れの状況をみると、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」が8割台である一方、「今日が何月何日かわからない時がある」と約4人に1人が回答している。

後半5項目の気分の状況に関しては、「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」が55.8%と半数を超え、次いで、「わけもなく疲れたような感じがする」36.7%が続いている。

図表3-33 物忘れや気分の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

⑤その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

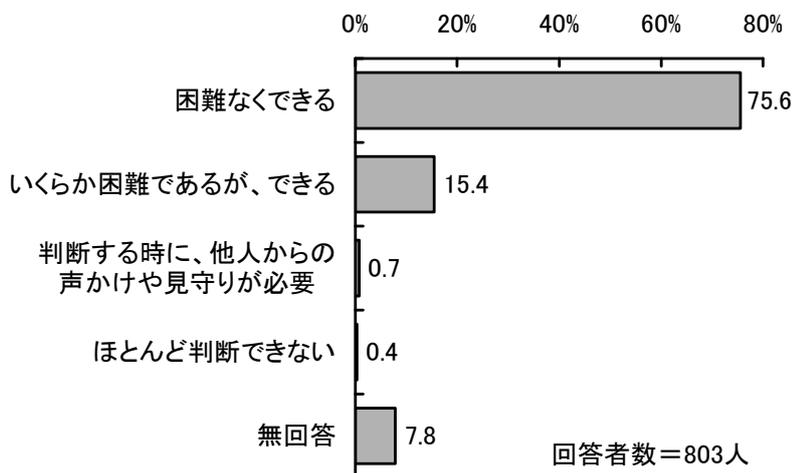
問 13 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問 14 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

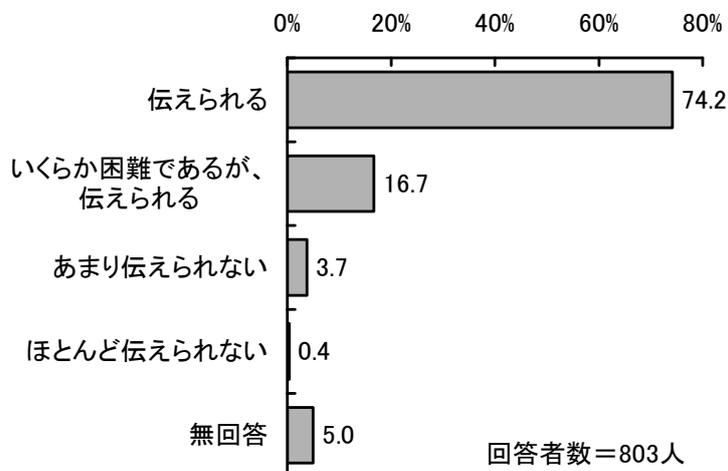
その日の活動の判断については、「困難なくできる」が 75.6%を占める。「いくらか困難であるが、できる」15.4%をあわせると、9割以上ができる状況にある。

意思の伝達については、「伝えられる」は 74.2%であり、「いくらか困難であるが、伝えられる」16.7%をあわせると、その日の活動の判断と同様に、9割以上ができる状況にある。

図表3-34 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表3-35 意思の伝達の可否(単数回答)

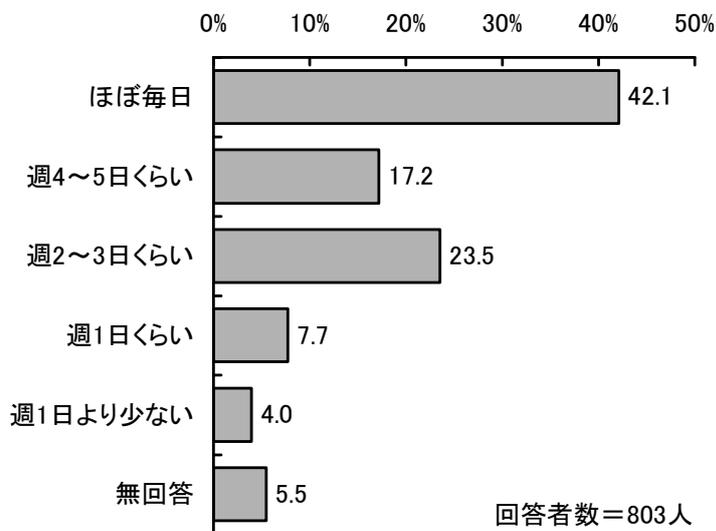


(3)外出頻度

問 15 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」42.1%、「週4～5日くらい」17.2%となっており、これらをあわせた59.3%、約6割は週4日以上外出していると回答している。閉じこもりリスクの高い「週1日より少ない」は4.0%となっている。

図表3-36 外出頻度(単数回答)

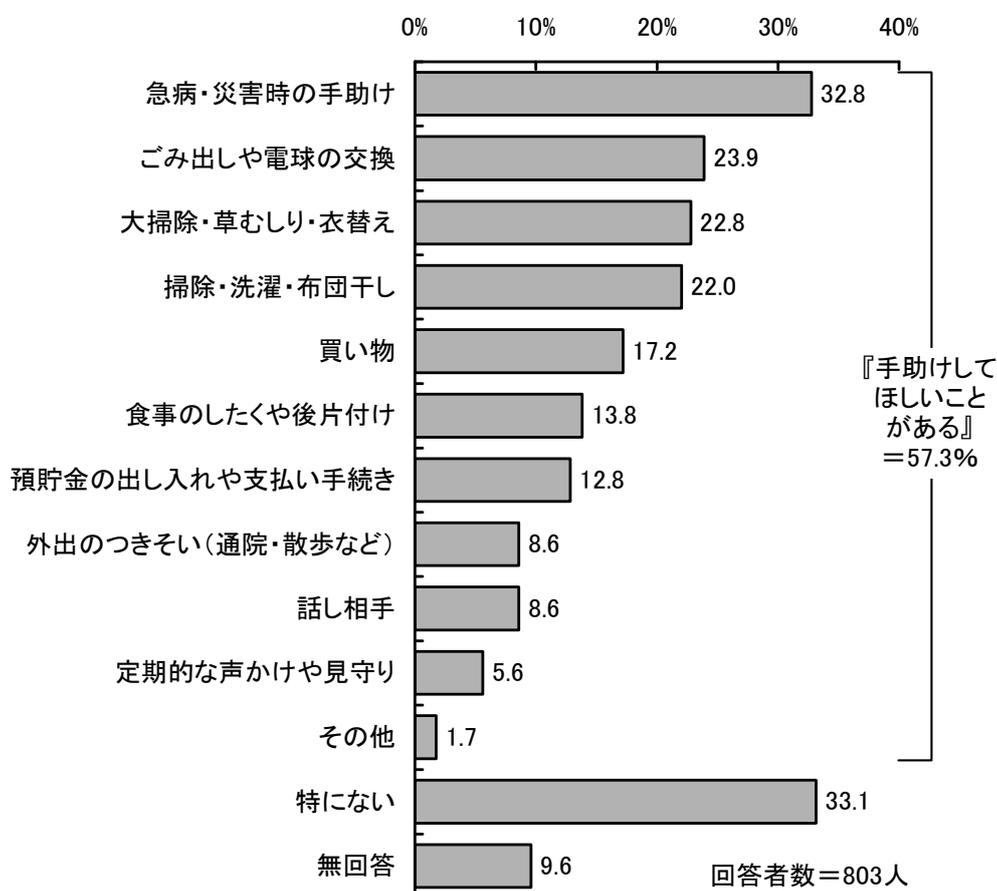


(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問 16 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 249 参照】

日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、57.3%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」32.8%に次いで、「ごみ出しや電球の交換」「大掃除・草むしり・衣替え」「掃除・洗濯・布団干し」が2割台で続いている。

図表3-37 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

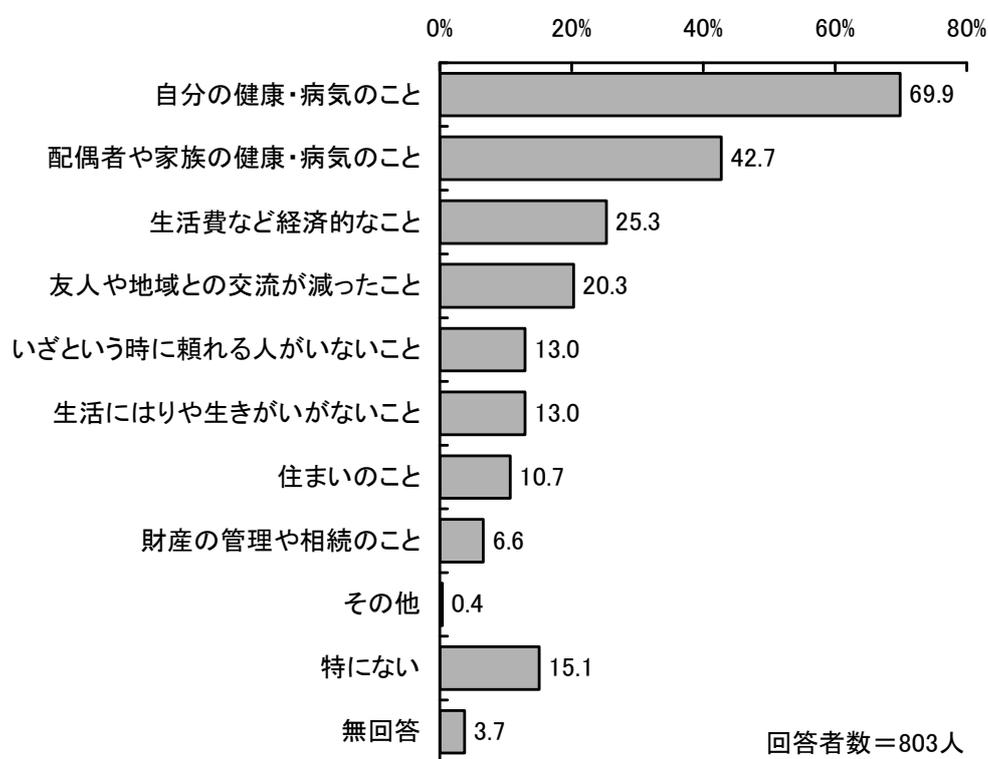
(5)現在の生活で不安に感じること

問 17 あなた(あて名のご本人)は、現在の生活で不安に感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で不安に感じることとしては、約7割が「自分の健康・病気のこと」をあげている。次いで、「配偶者や家族の健康・病気のこと」が4割台、「生活費など経済的なこと」「友人や地域との交流が減ったこと」が2割台で続いている。

図表3-38 現在の生活で不安に感じること(複数回答)



5. 地域とのかかわりについて

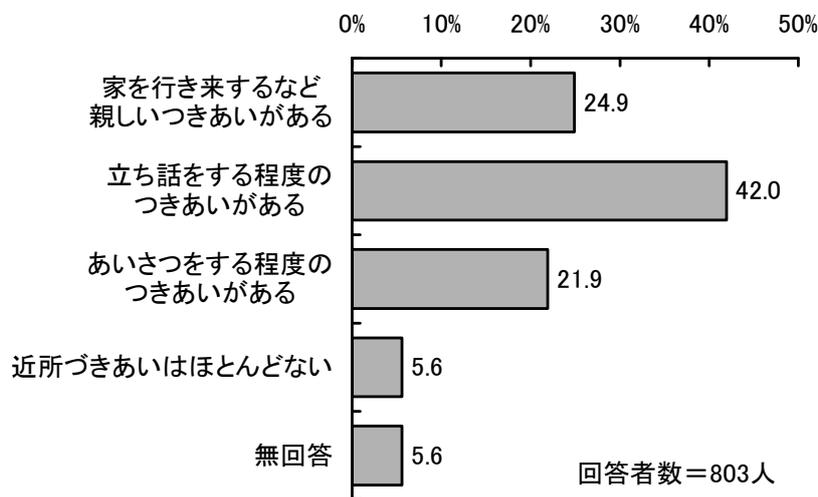
(1) 近所の人とのつきあいの程度

問 23 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)【比較調査 253 参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「立ち話をする程度のつきあいがある」が42.0%ともっとも高く、次いで「家を行き来するなど親しいつきあいがある」24.9%、「あいさつをする程度のつきあいがある」21.9%となっている。

世帯構成別にみると、「近所づきあいはほとんどない」割合は、他に比べてひとり暮らしや夫婦のみの人において高くなっている。

図表3-39 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



図表3-40 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		803	24.9	42.0	21.9	5.6	5.6
世帯構成別	ひとり暮らし	175	25.1	43.4	18.3	8.0	5.1
	夫婦のみ	240	22.1	42.5	23.8	6.3	5.4
	子どもと同居	226	27.0	39.8	23.0	4.9	5.3
	子どもと孫と同居	96	26.0	41.7	24.0	2.1	6.3
	その他	31	19.4	51.6	19.4	3.2	6.5

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

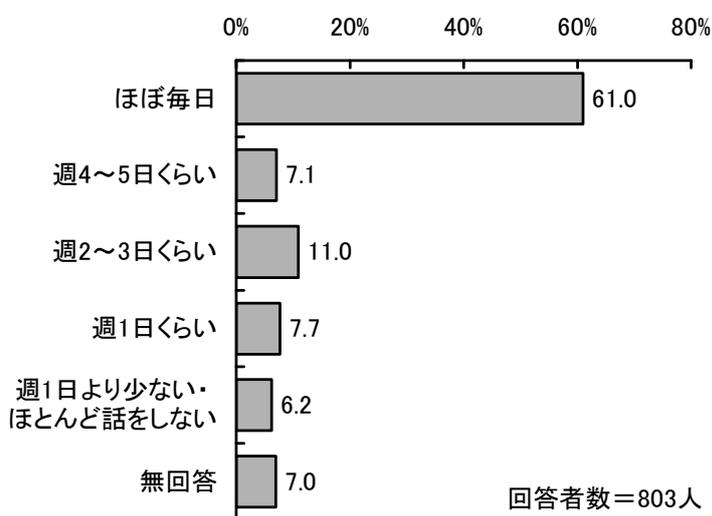
(2) 家族等との会話の頻度

問 24 あなた(あて名のご本人)は、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

家族等との会話の頻度は、「ほぼ毎日」が61.0%となっている。一方、「週1日くらい」は7.7%、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」は6.2%であり、これらをあわせた13.9%は会話の頻度が週に1回以下という状況である。

世帯構成別にみると、夫婦のみの人では6割台、子どもや孫との同居世帯の人では7割台が「ほぼ毎日」と回答しているのに対し、ひとり暮らしの人では32.0%にとどまっておき、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」が12.6%と、他に比べて高い割合となっている。

図表3-41 家族等との会話の頻度(単数回答)



図表3-42 家族等との会話の頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4~5日くらい	週2~3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない・ほとんど話をしない	無回答
全体		803	61.0	7.1	11.0	7.7	6.2	7.0
世帯構成別	ひとり暮らし	175	32.0	8.6	24.0	13.7	12.6	9.1
	夫婦のみ	240	65.8	7.5	7.1	9.2	5.8	4.6
	子どもと同居	226	71.2	6.6	8.4	4.0	3.5	6.2
	子どもと孫と同居	96	75.0	5.2	4.2	4.2	2.1	9.4
	その他	31	74.2	6.5	3.2	3.2	6.5	6.5

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

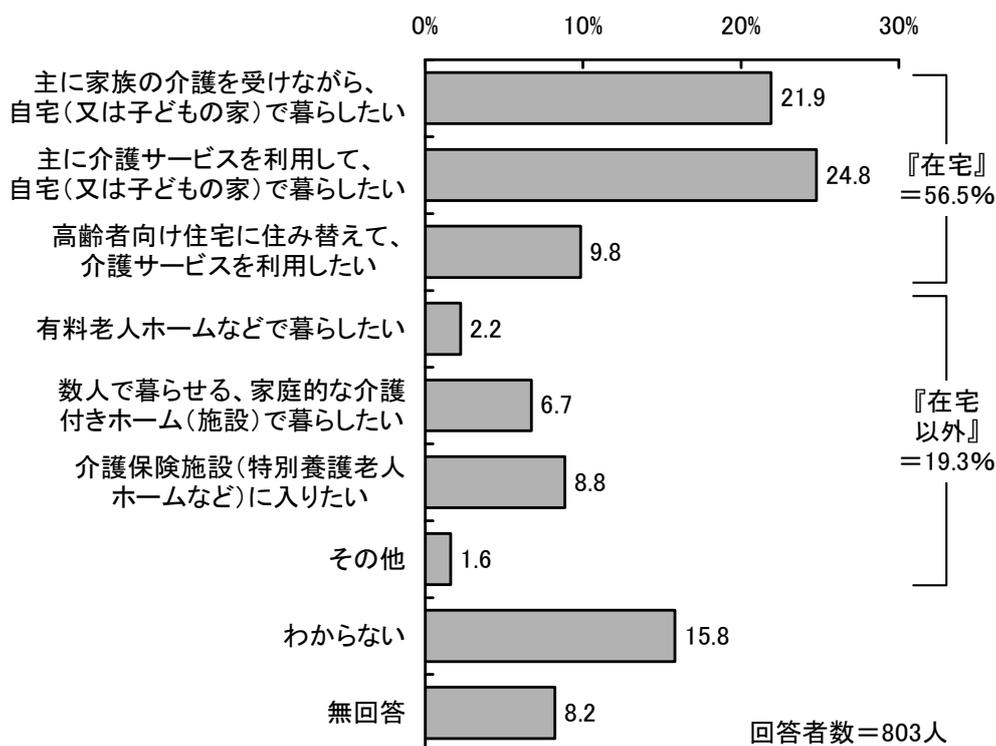
6. 今後の暮らしや介護について

(1) 今後介護を受けたい場所

問 25 あなた(あて名のご本人)は、今後、介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○)【比較調査 254 頁参照】

今後介護を受けたい場所をみると、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」24.8%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」21.9%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」9.8%の順であり、これらをあわせた56.5%が『在宅』での暮らしを希望している。一方、『在宅以外』を希望する割合は19.3%となっている。

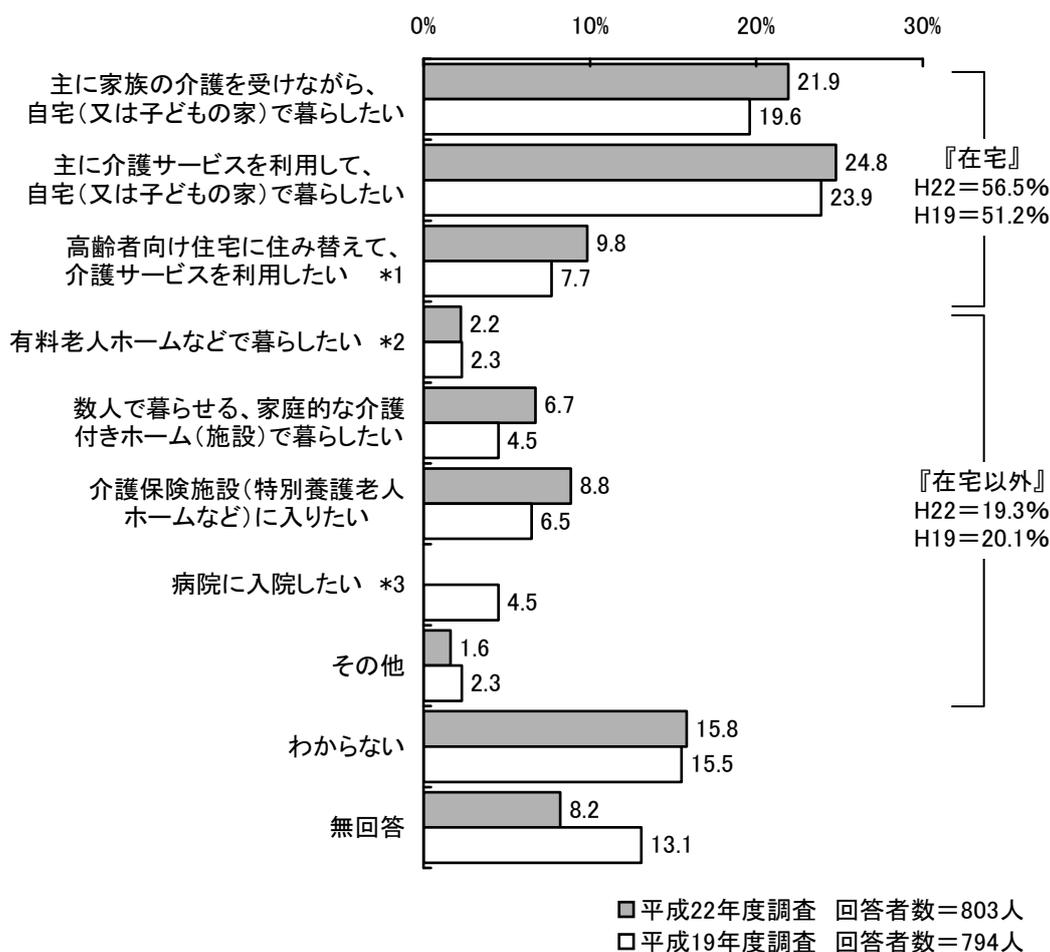
図表3-43 今後介護を受けたい場所(単数回答)



- ※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」
- ※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
+ 「その他」

今後介護を受けたい場所について、平成19年度調査と比較してみると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、『在宅』を希望している人が5.3ポイント増加している。その内訳をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が2.3ポイント、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」が2.1ポイント増加している。

図表3-44 今後介護を受けたい場所<平成19年度調査との比較>



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 + 「病院に入院したい」
 + 「その他」

※*1の選択肢は平成19年度調査では「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」

※*2の選択肢は平成19年度調査では「有料老人ホームに入りたい」

※*3「病院に入院したい」の選択肢は平成19年度調査のみ

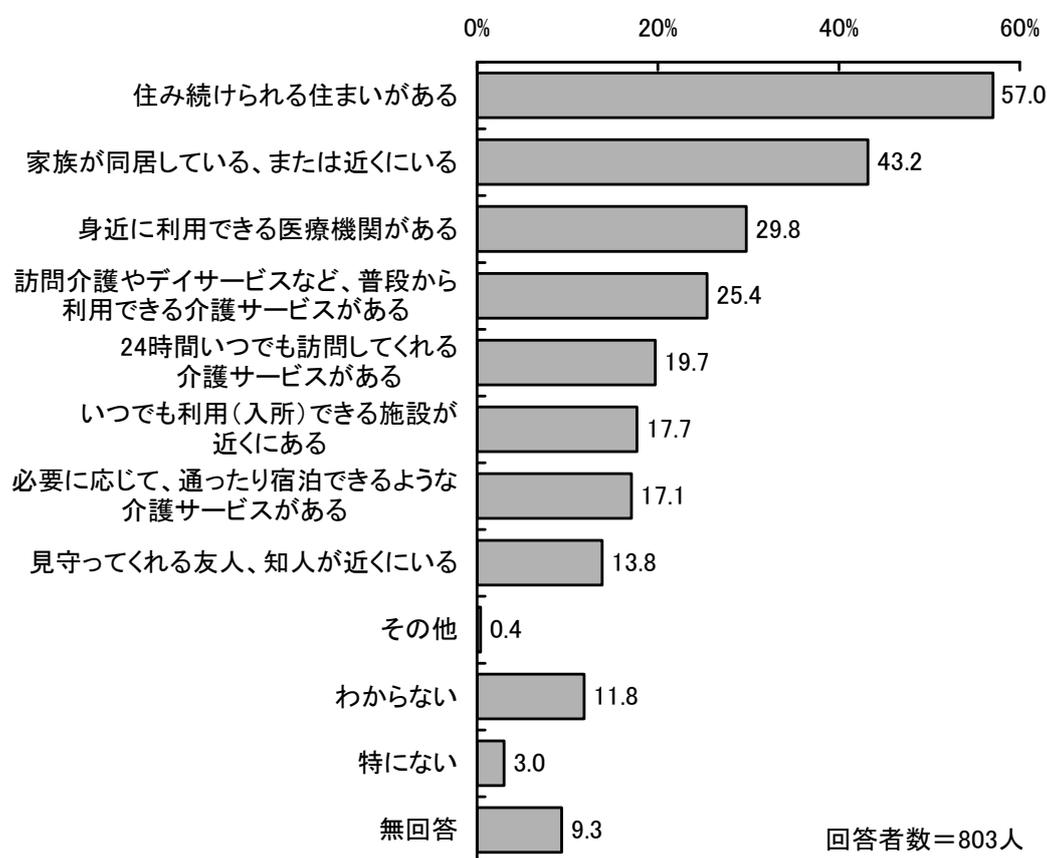
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

問 26 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うこととしては、「住み続けられる住まいがある」57.0%がもっとも高い。次いで、「家族が同居している、または近くにいる」43.2%、「身近に利用できる医療機関がある」29.8%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」25.4%の順となっている。

図表3-45 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)



(3)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問 28 あなた(あて名のご本人)は、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

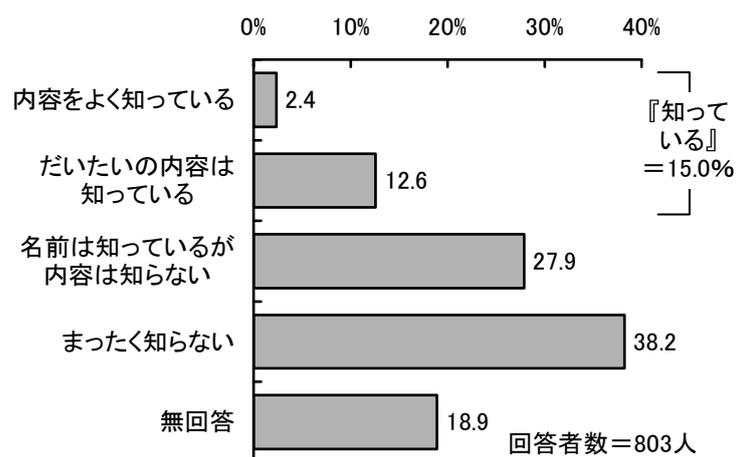
内容や名前を知っている方(問 28 で 1～3 に○)におうかがいします。

問 28-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」2.4%、「だいたいの内容は知っている」12.6%をあわせた『知っている』は15.0%であり、「名前は知っているが内容は知らない」は27.9%、「まったく知らない」は38.2%となっている。

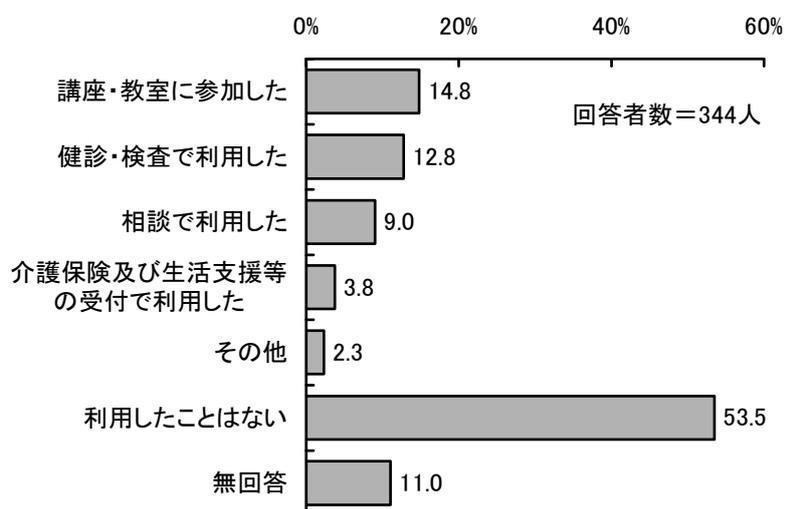
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が53.5%であり、利用した場合としては、「講座・教室に参加した」14.8%、「健診・検査で利用した」12.8%、「相談で利用した」9.0%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」3.8%となっている。

図表3-46 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表3-47 健康サポートセンター利用経験(複数回答)

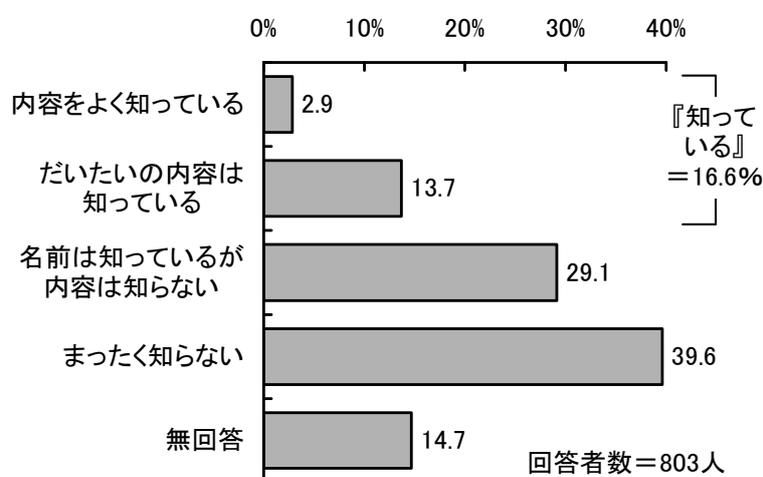


(4) 地域包括支援センターの認知度

問 27 あなた(あて名のご本人)は、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターについては、「内容をよく知っている」2.9%、「だいたいの内容は知っている」13.7%をあわせた16.6%が『知っている』と回答している。「まったく知らない」は39.6%、「名前は知っているが内容は知らない」は29.1%となっている。

図表3-48 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

(5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 27 で 1～3 に○)におうかがいします。

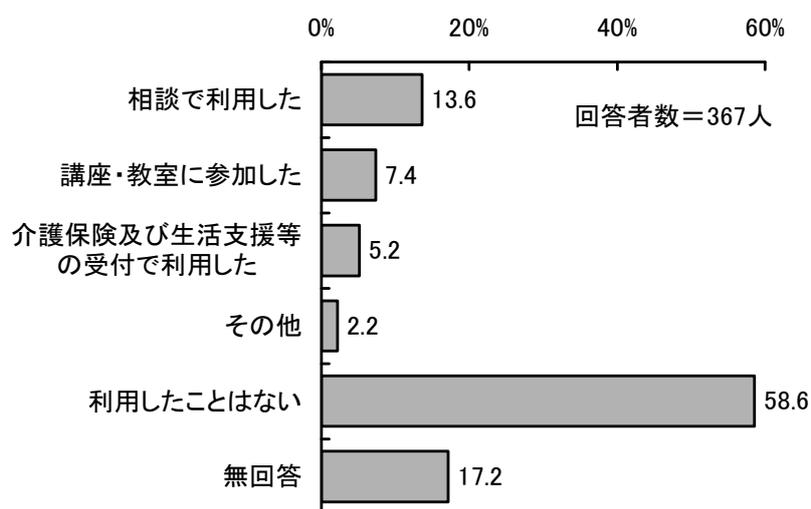
問 27-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 27-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

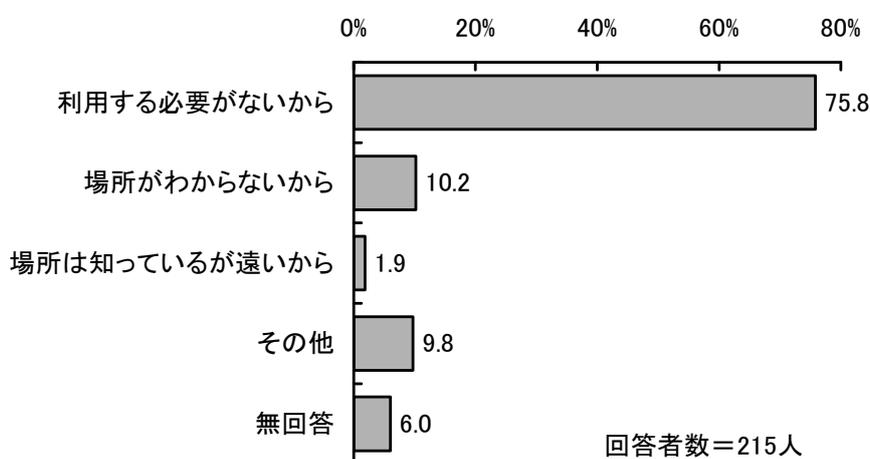
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことはない」が 58.6%を占める。利用した場合としては、「相談で利用した」13.6%、「講座・教室に参加した」7.4%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」5.2%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が 75.8%、次いで「場所がわからないから」10.2%となっている。

図表3-49 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表3-50 利用したことがない理由(複数回答)



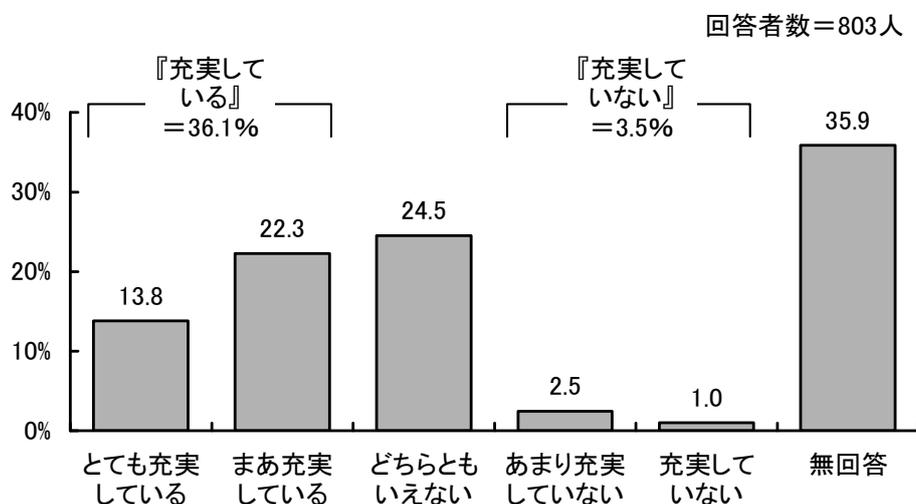
7. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

問 29 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。
(1つに○)【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」13.8%、「まあ充実している」22.3%をあわせた 36.1%が『充実している』と回答している。「あまり充実していない」2.5%、「充実していない」1.0%をあわせた『充実していない』は 3.5%であった。

図表3-51 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」
※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：20件より抜粋して記載)

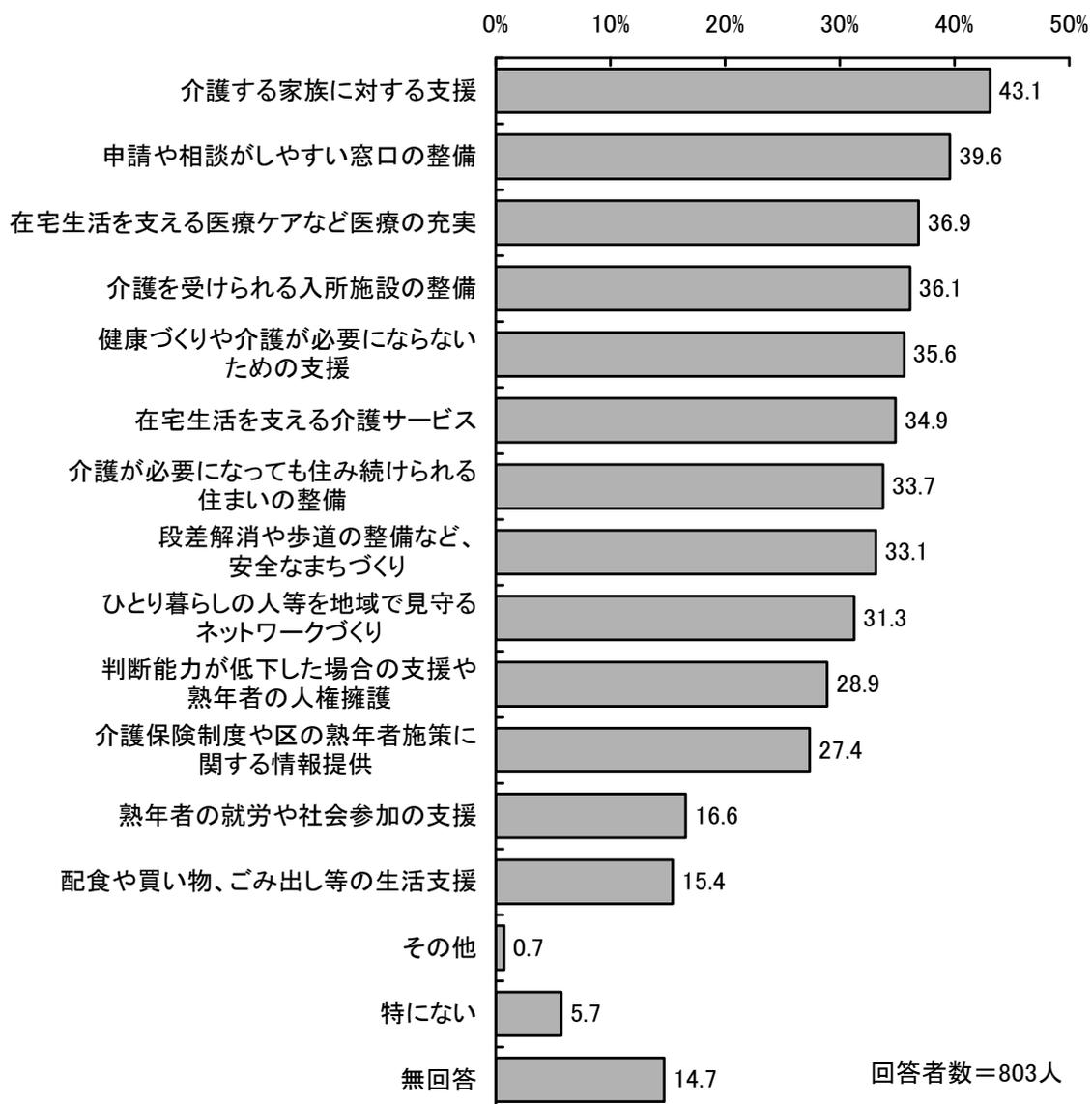
- ・相談に行ったが、次の順番であるにもかかわらず1時間半くらい誰も対応してくれなかった。
- ・どのように申し込んだらよいのかわからない。
- ・新聞も取っていない(やめた)ので区報が届かず、何もわからなくなった。
- ・熟年者の確認がないこと。特にひとりで生活している人の確認。
- ・身近には全く感じられない。
- ・ひとり暮らしの人の孤独感に対する理解や施策がない。
- ・自分が利用している実感がないので、介護保険料を払わされているという思いしかない。
- ・障害がある人への特別な配慮がない。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 30 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」43.1%がもっとも高い。次いで、「申請や相談がしやすい窓口の整備」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」「介護を受けられる入所施設の整備」「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が続いている。

図表3-52 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



(3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(265 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(90 件より抜粋)

- ・ 介護保険制度の将来が不安だ。制度の財政上から、十分に必要とするケアが受けられないのではないかと心配している。
- ・ 各種支援、サービス等の説明会を年 2 回程度高齢者のために実施してほしい。
- ・ 近い将来、介護制度を利用すると思うので、制度について身近にふれられるよう回覧板などを使ってほしい。いざ区役所に出向くとなると大変。
- ・ 普段から役所（広報）などからの PR が届いていないと思う。たとえば、どんな相談をどこへ行けばいいのか思いつかない。
- ・ 地域包括支援センターのことは先日テレビで知った。内容と場所をもっと宣伝するべき。それに高齢者には行くこともできない。
- ・ 介護保険料の支払い金額が多いと思う。もう少し金額を下げしてほしい。
- ・ 老人福祉施設の入所者は順番待ちと聞いている。必要になった時にすぐ入所できる施設をもっと作ってほしい。保育園が新設されたらその隣に老人福祉施設を。
- ・ 身内のいない歳をとった方だけの施設があればと思う。
- ・ 低い年金で生活している。できれば生活に苦しい人でも入れるような施設を提供してほしい。
- ・ 安い費用で入所できる老人ホームをつくってほしい。
- ・ ひとり暮らしなので倒れたりした時に緊急連絡する手段がほしい。緊急察知手段も。
- ・ 買い物もスーパーから家まで、お金を払ってもいいから届けてくれると助かる。
- ・ 夫婦とも倒れた時、一時的に区や民間施設で介護や世話をしてくれる人を派遣する制度を考えてほしい。
- ・ ひとり暮らしの場合（アパート）、近所同士の付き合いが少ないため、室内で急に具合が悪くなった時、緊急な時、電話もできない状態の時が心配。
- ・ 現在、介護に関する整備がどのくらいできているか知りたい。
- ・ ひとり暮らしでも緊急時に簡単に通報できる器具等を無料で配布できればよい。

【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(78 件より抜粋)

- ・ 民生委員の方々は、ひとり暮らしの家庭などを訪問し、もっと話し相手等をしてほしい。
- ・ 年金が少しいので新聞をやめた。新聞に入っていた区民だよりを送ってほしい。
- ・ 医療、インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンなどの情報を流してほしい。
- ・ 大きな病院を増やしてほしい。他の地区より江戸川区は福祉がとても充実しているようにいわれるが、個人の医院は夜間は先生がいないので、とても不安に思っている。
- ・ 風水害にあった時に、救出誘導等に即対応するための当該地区のマップづくりをしてほしい。
- ・ 災害時の避難場所について、わかりやすく説明がほしい。
- ・ 難聴なのではっきりと聞き取れない時等、ちょっとメモしてくれるとうれしい。
- ・ ひとり暮らしの方、金銭的に大変な方が安心して暮らせるようにしてあげてほしい。
- ・ 熟年者の立場、自立を前提の上での支援をお願いしたい。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(12件より抜粋)

- ・今のマンションではほとんど言葉を交わす人々もない。もっと積極的に仲間を得られたら、今後の生活に役立つと思う。
- ・ひとり暮らしの人の食事会を区内数か所で1か月に1回、半年に1回、年に1回でもいいから開催してほしい。費用は参加者負担でいい。
- ・区民館で、1か月に1回2時間くらいのトークサロンを開いてほしい。集まった人数により1人3分から5分位話したいことを話し、時間が余れば自由討議にすればよい。
- ・グリーンパレスにカルチャーセンターのような教室がほしい。時間帯として昼間の2、3時間(遅い時間は足元が悪い)。
- ・くすのきカルチャーセンターはとてもいいと思う。60歳で定年退職後に参加してから地域の友達と友だちになり、誰かに声をかけたり、かけられたりする。
- ・ひとり暮らしには何かネットワークがほしいがどうしたらいいかわからない。
- ・週に4日各地のコミュニティセンターで麻雀をやっている。会話もあり、楽しい。高齢者の生きがいのためもっと場所をつくってほしい。

【4】健康づくり・介護予防について(15件より抜粋)

- ・できる限り介護を受けないで現状維持で生活したいので、簡単な筋トレが無理なくできるような場所をつくってほしい。
- ・熟年ふれあいセンターに週1回通っているが、もう少し回数が多いともっと充実できると思う。
- ・熟年者が気楽に集える場所が近くにあるとよいと思う。そのようなところで学べるものや何かを見つけ出せれば、歳をとっても楽しく生活でき、介護をあまり必要とせずにいられるのではないか。
- ・今後、高齢者が増えるので、健康サポートセンター等にて年3~4回をめぐりに健康に関する講習会(予防・認知症等)を行うとよいと思う。
- ・腰痛や膝の痛みなどがあって、リズム運動に参加できない人達が数多くいるので、月に2度、自由な語らいとか、ケアマネジャーさんの話などが聞けたら楽しいと思う。老いると皆さんと顔を合わせることや若い人達から声がかかるのがとても力になる。
- ・介護予防の説明やパンフレットは立派すぎる。

【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(31件より抜粋)

- ・毎日買い物をするが、道幅(歩道)が狭く段差もあり、商品を歩道に並べた店もあり、とても危険。
- ・熟年者が大変多い町内で、散歩の場所、歩道、ベンチなど安心して歩ける場所がほとんどない。
- ・歩道の端を歩けといわれても、道の端の方は坂になっているので、身体をまっすぐにして歩けず歩きにくい。
- ・歩いていると、自転車に乗っている人が後ろからきてぶつかりそうになることが(ベルを鳴らさない人が多い)度々ある。歩道は人が歩くところで、自転車は別にしてほしい。
- ・小型バスがぐるぐるまわっている都心もいっぱいある。そうしたら、年寄りも危険な自転車で買い物しなくて、便利になると思う。
- ・狭い歩道にあるゴミ収集所のゴミ袋がじゃまになり、車いすが通りにくい箇所があるので整備してほしい(前日から出しているため)。
- ・高齢者が安心して住める、低家賃の区営住宅(1人でも入所できる)をつくってほしい。1階に病院と介護サービスがあるとよい。
- ・昔の平屋長屋のような低家賃で住める、ひとり暮らしの入居者のための住宅をもっともっと増やしてほしい。

【6】その他(39件より抜粋)

- ・ 生老病死についての話し合いが全くない。人生に必要なことであるのに、このことについて話し合いのないことを憂いている。
- ・ この調査は質問の意味がわからない部分が少なく、字が大きくはっきりしているのでよいと思う。
- ・ 色々取り組んでおられる様子がわかり、うれしく思う。
- ・ まだ元気なつもりなのでなかなか理解できない。
- ・ 今回の質問内容で、友達の家をよく訪ねるかというのがあるが、今は家には呼ばず、外でお茶や会食をするので適当ではないと思う。

第 4 章

介護保険サービス利用に 関する調査

< 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	65 歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、 認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム を利用していない区民 (平成 22 年 11 月 1 日現在)
抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)
調査期間	平成 22 年 11 月 22 日～12 月 15 日
対象者数 及び 回収率	対象者数 : 2,500 有効回収数 : 1,607 有効回収率 : 64.3%

1. 基本的属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

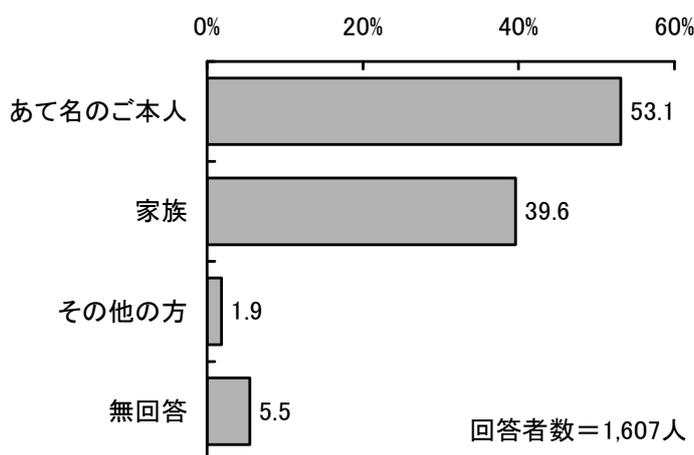
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」は53.1%と半数強であり、39.6%と約4割は「家族」となっている。

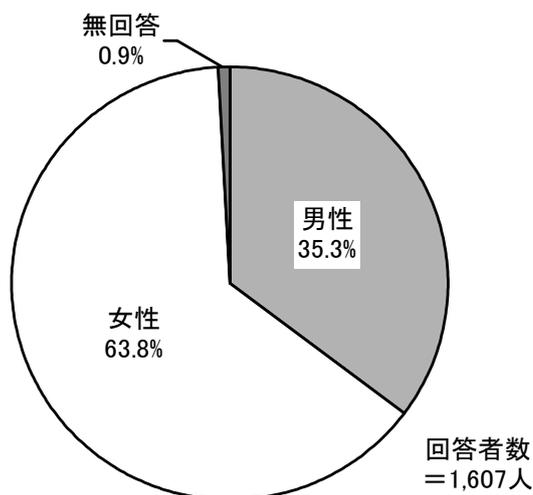
性別は、「男性」35.3%に対して「女性」が63.8%を占める。

年齢は、年齢層が高いほど割合が高く、「85歳以上」が34.2%を占める。平均年齢は81.1歳となっている。

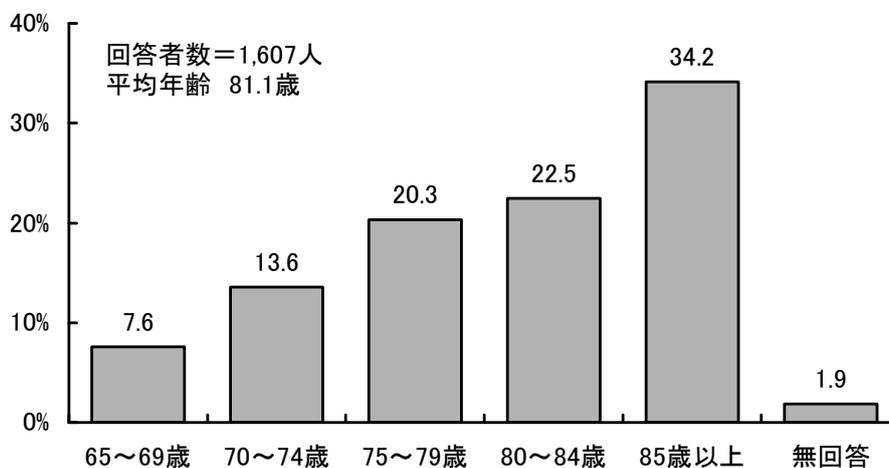
図表4-1 調査回答者(単数回答)



図表4-2 性別(単数回答)



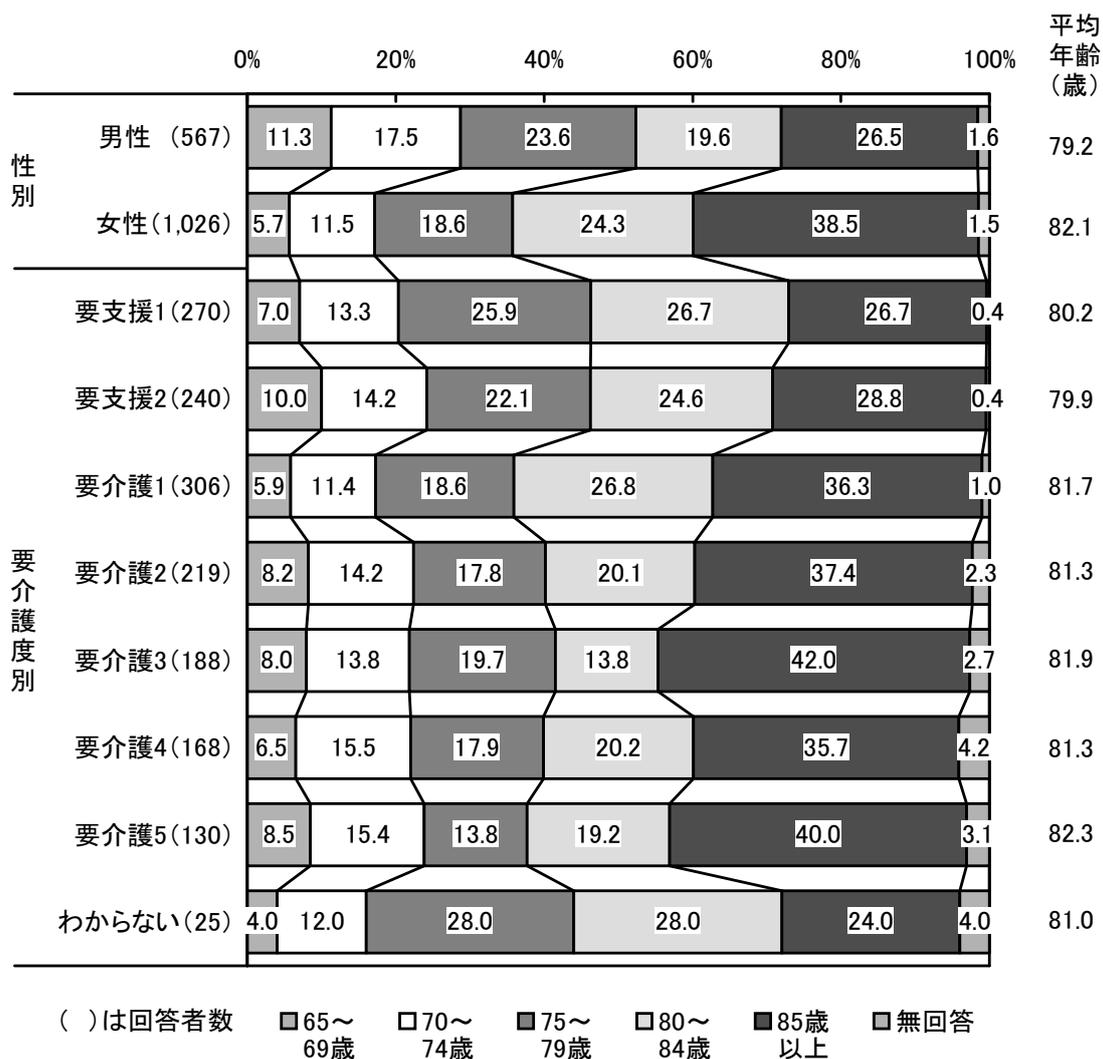
図表4-3 年齢(単数回答)



性別にみると、「85歳以上」の年齢層は男性 26.5%に対して、女性では 38.5%を占めており、平均年齢は男性が 79.2 歳、女性が 82.1 歳となっている。

要介護度別にみると、要支援 1・2 の人では「85歳以上」は 2 割台であるが、要介護 1 以上の人では 3~4 割台が「85歳以上」となっている。

図表4-4 年齢

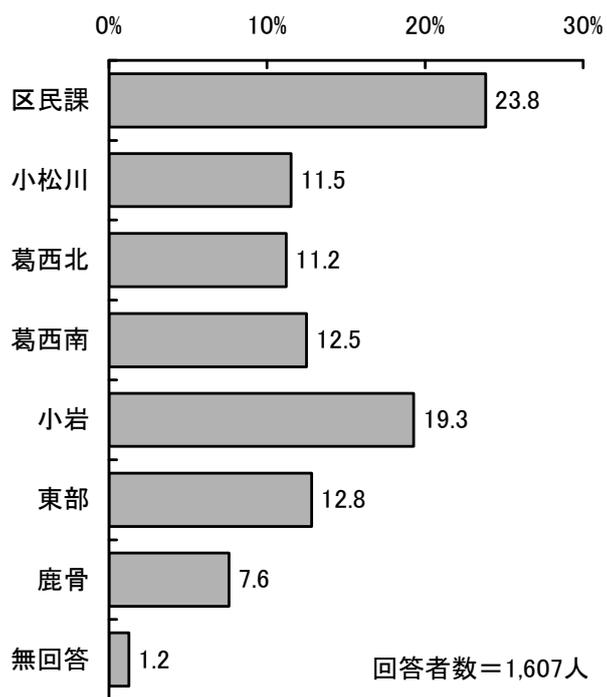


(2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」23.8%、「小岩」19.3%、「東部」12.8%、「葛西南」12.5%、「小松川」11.5%、「葛西北」11.2%、「鹿骨」7.6%の順となっている。

図表4-5 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

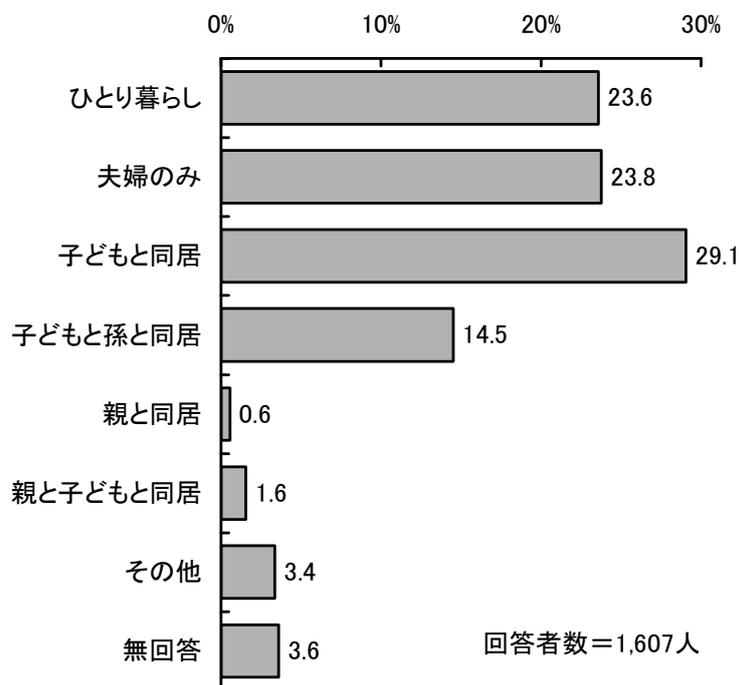


(3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)
【比較調査 240 参照】

世帯構成は、「子どもと同居」29.1%に次いで、「夫婦のみ」23.8%、「ひとり暮らし」23.6%がほぼ同じ割合が続いている。

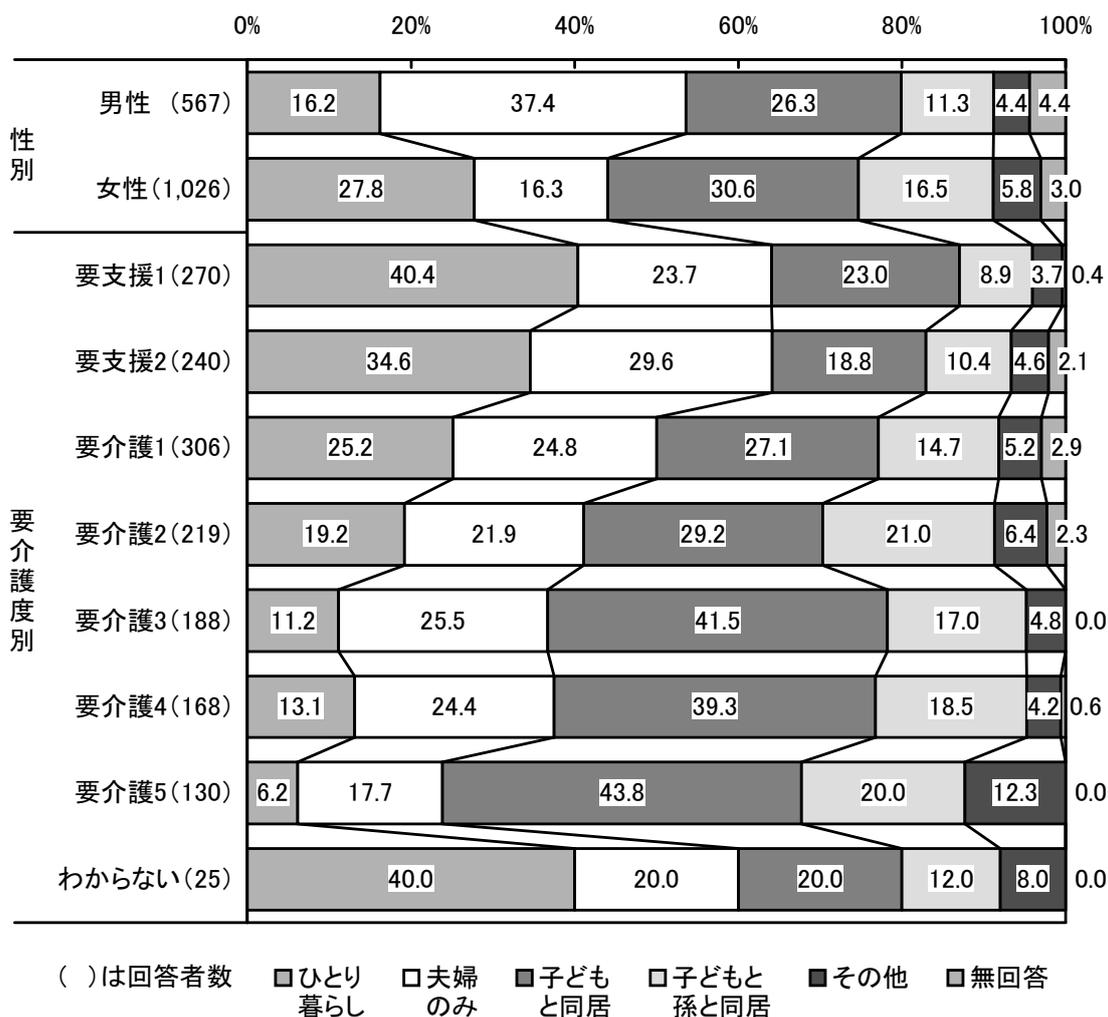
図表4-6 世帯構成(単数回答)



性別にみると、男性は「夫婦のみ」37.4%がもっとも高く、「ひとり暮らし」は16.2%である。女性は「子どもと同居」30.6%に次いで、「ひとり暮らし」が27.8%と3割近い。

要介護度別にみると、要支援の人では「ひとり暮らし」がもっとも高く、特に要支援1の人では約4割を占める。介護度が高くなるほど「ひとり暮らし」は低くなり、要介護3～5の人では4割前後が「子どもと同居」となっている。

図表4-7 世帯構成



※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 日中独居の状況

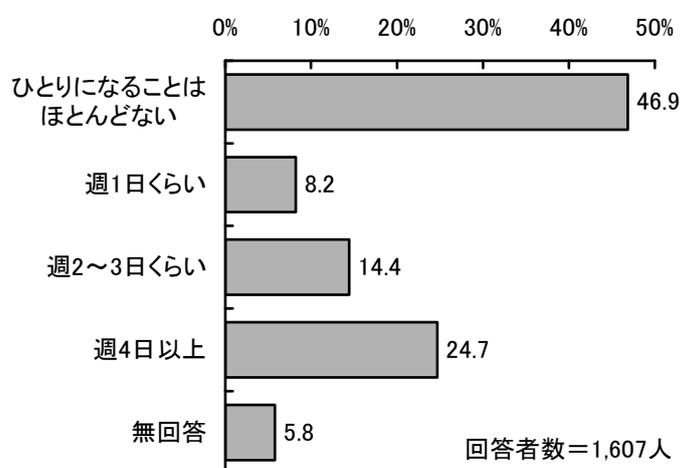
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

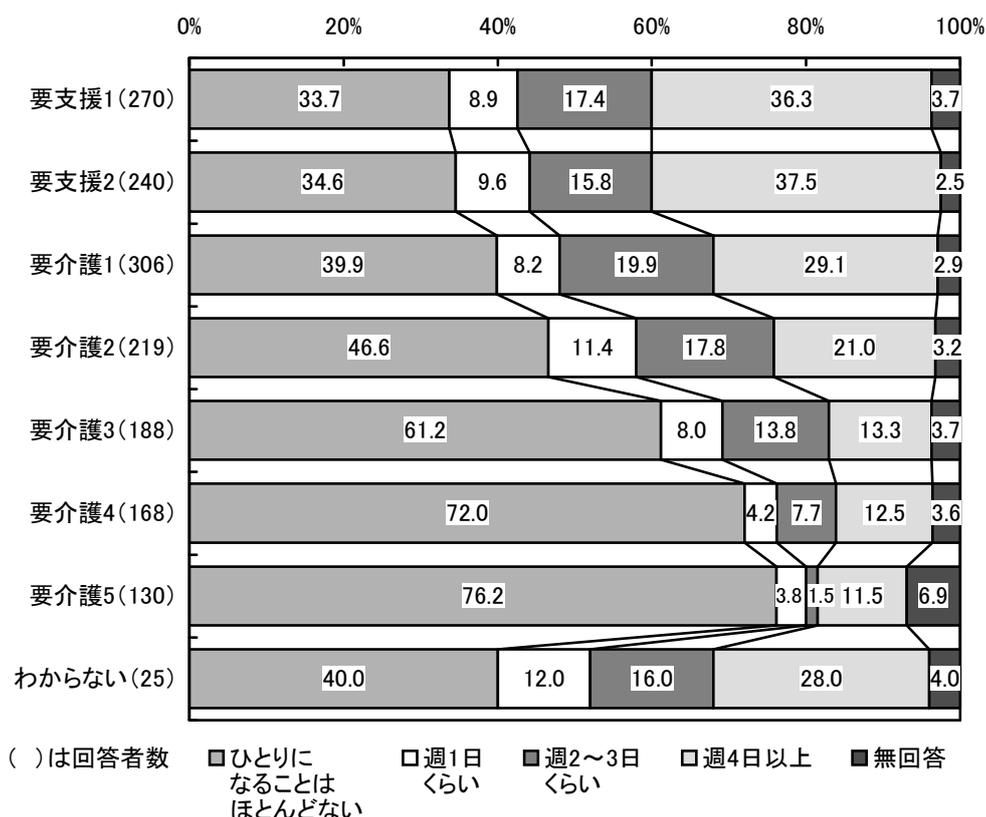
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」は46.9%と5割を下回っており、約4人に1人が「週4日以上」ひとりでいると回答している。

要介護度別にみると、「週4日以上」ひとりでいる割合は、要支援1・2の人では3割を超えるが、介護度が高くなるほど割合は低くなる。一方、「ひとりでいることはほとんどない」は要介護4・5の人では7割を超えている。

図表4-8 日中独居の状況(単数回答)



図表4-9 日中独居の状況

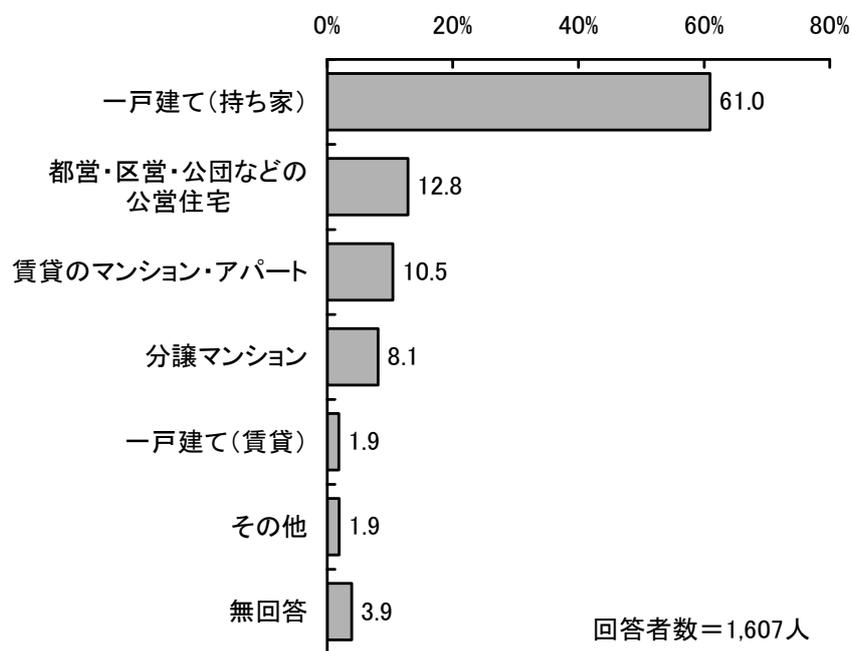


(5)住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」が61.0%を占める。次いで、「都営・区営・公団などの公営住宅」12.8%、「賃貸のマンション・アパート」10.5%、「分譲マンション」8.1%の順となっている。

図表4-10 住居の形態(単数回答)



(6) 居住階数、エレベーターの有無

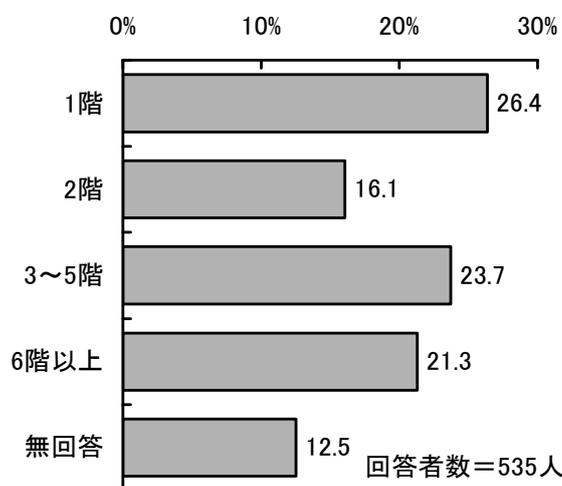
マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3~6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

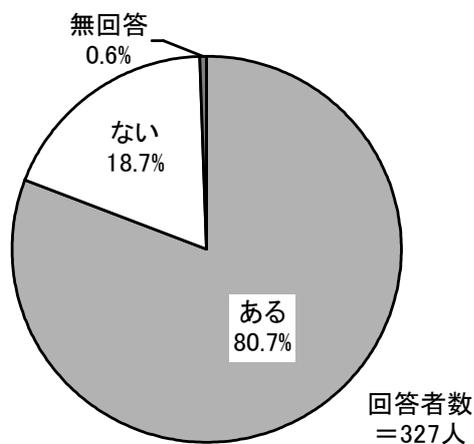
マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「1階」26.4%がもっとも高く、「3~5階」23.7%、「6階以上」21.3%と続いている。

2階以上に居住している場合のエレベーターの有無は、「ある」が80.7%を占める。

図表4-11 居住階数(単数回答)



図表4-12 エレベーターの有無(単数回答)



(7) 本人と配偶者の収入源、年収

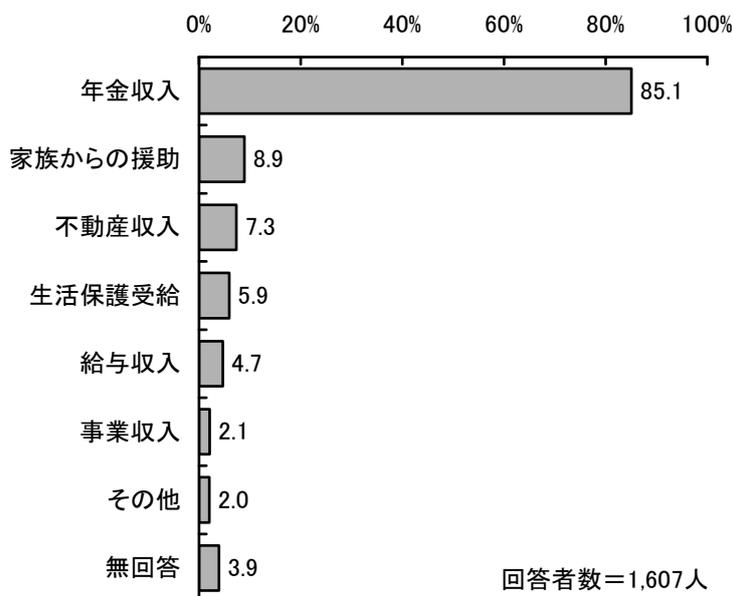
問7 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

問8 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。(1つに○)

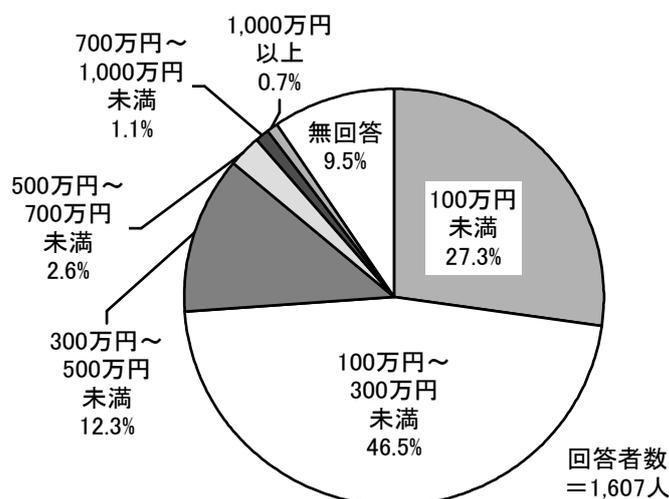
本人と配偶者の収入源は、「年金収入」が85.1%であり、他はいずれも1割を下回っている。

本人と配偶者の税込みの年収の合計は、「100万円～300万円未満」46.5%がもっとも高く、「100万円未満」27.3%、「300万円～500万円未満」12.3%と続く。300万円未満が全体の73.8%を占める。

図表4-13 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表4-14 本人と配偶者の年収(単数回答)



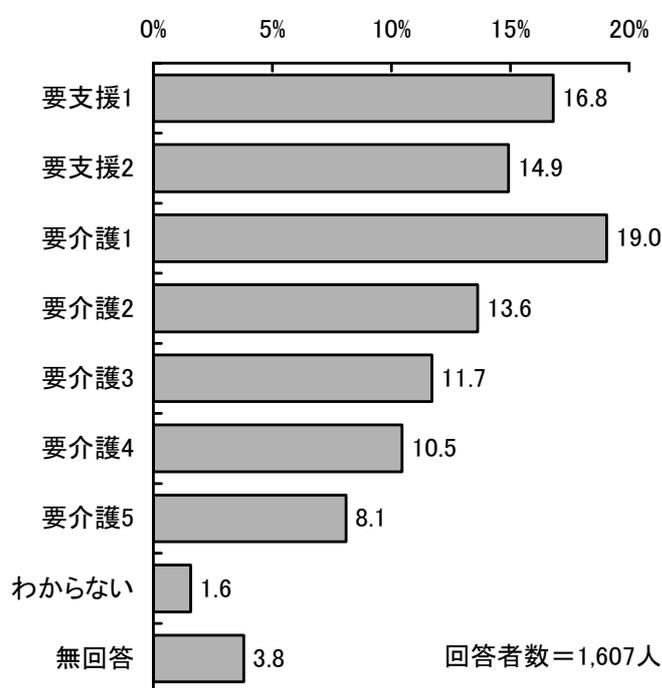
2. 要介護度及び健康について

(1) 要介護度

問9 あなた(あて名のご本人)の現在の介護度は、次のどれですか。(1つに○)

要介護度は、「要介護1」19.0%、「要支援1」16.8%、「要支援2」14.9%の順となっている。「要支援1」と「要支援2」をあわせた要支援は31.7%、「要介護1」から「要介護2」は32.6%、「要介護3」から「要介護5」は30.3%を占めている。

図表4-15 要介護度(単数回答)

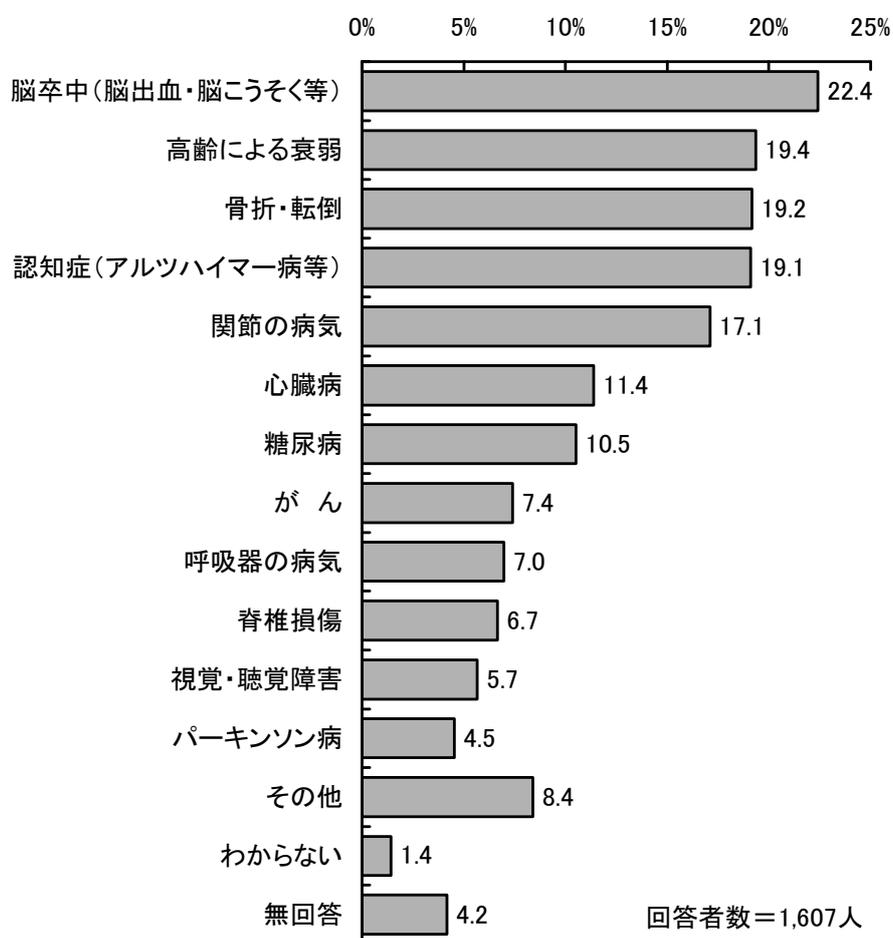


(2) 支援や介護が必要となった原因

問 10 あなた(あて名のご本人)に、支援や介護が必要となったのは、どのようなことが原因でしたか。(あてはまるものすべてに○)

支援や介護が必要となった原因は、「脳卒中（脳出血・脳こうそく等）」22.4%、「高齢による衰弱」19.4%、「骨折・転倒」19.2%、「認知症（アルツハイマー病等）」19.1%の順となっている。

図表4-16 支援や介護が必要となった原因(複数回答)



要介護度別にみると、要支援1・2の人では「関節の病気」「高齢による衰弱」「骨折・転倒」が、原因の上位3項目となっている。要介護1の人では「認知症（アルツハイマー病等）」、要介護2～5の人では「脳卒中（脳出血・脳こうそく等）」が第1位である。

図表4-17 支援や介護が必要となった原因

	回答者数(人)	脳卒中(脳出血・脳こうそく等)	高齢による衰弱	骨折・転倒	認知症(アルツハイマー病等)	関節の病気	心臓病	糖尿病	がん	呼吸器の病気	脊椎損傷	視覚・聴覚障害	パーキンソン病	その他	
全体	1,607	22.4	19.4	19.2	19.1	17.1	11.4	10.5	7.4	7.0	6.7	5.7	4.5	8.4	
要介護度別	要支援1	270	13.3	20.4	18.5	6.7	28.9	14.4	11.9	9.3	9.3	6.3	5.9	3.0	7.4
	要支援2	240	18.3	18.3	18.3	5.0	23.8	13.3	13.8	7.9	6.7	10.8	5.8	3.3	12.1
	要介護1	306	18.0	18.3	19.0	24.8	15.0	8.5	7.8	7.5	4.9	4.9	6.9	3.3	10.5
	要介護2	219	23.7	21.0	16.9	19.6	11.4	9.1	8.7	4.6	7.8	7.8	6.4	4.1	7.8
	要介護3	188	30.9	20.2	21.8	29.3	11.7	11.7	10.1	6.9	5.3	6.9	5.9	7.4	7.4
	要介護4	168	31.0	17.9	22.6	29.8	11.9	10.1	11.9	10.7	7.1	6.0	6.0	5.4	7.1
	要介護5	130	39.2	21.5	19.2	34.6	11.5	10.8	10.8	3.8	10.0	3.8	3.8	9.2	3.8
	わからない	25	0.0	24.0	20.0	8.0	8.0	20.0	16.0	8.0	4.0	8.0	0.0	4.0	8.0

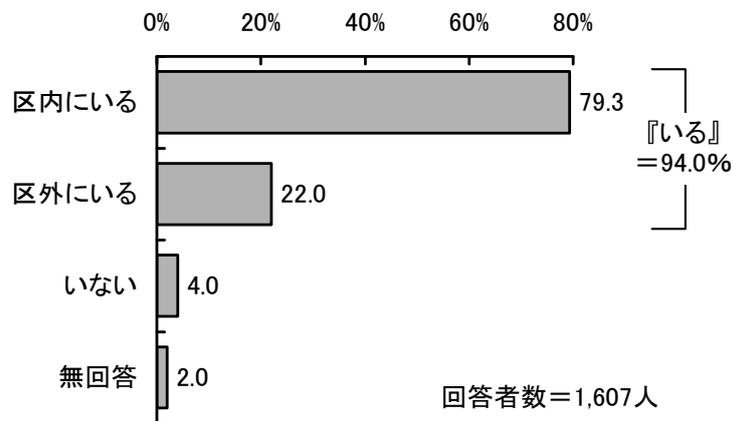
※「わからない」と「無回答」は掲載を省略している

(3) かかりつけ医の有無

問 11 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 242 頁参照】

かかりつけ医の有無は、「区内にいる」79.3%、「区外にいる」22.0%であり、『いる』が94.0%を占める。

図表4-18 かかりつけ医の有無(複数回答)



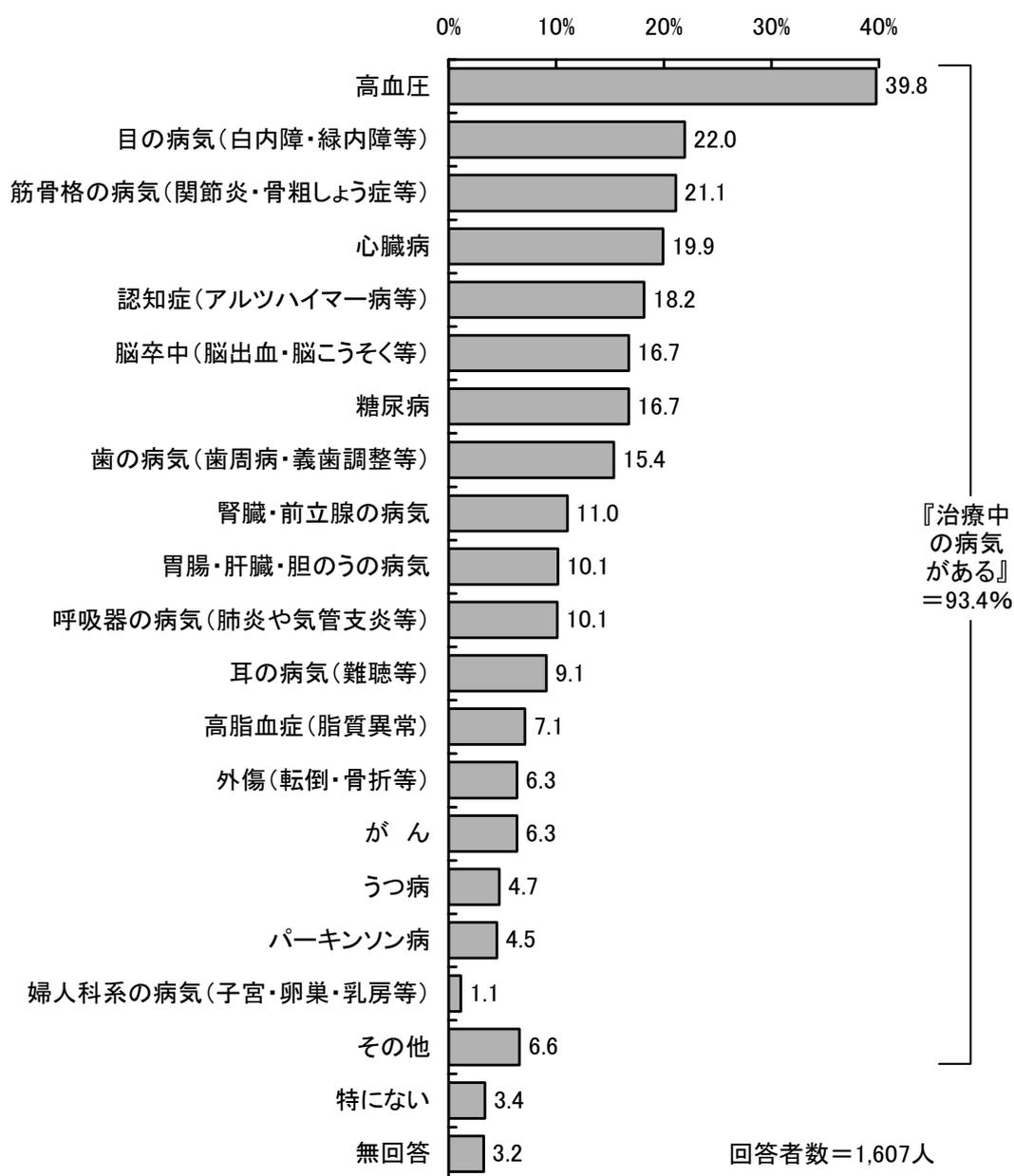
※『いる』=100% - 「いない」 - 「無回答」

(4) 現在治療中の病気

問 12 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気は、「高血圧」が 39.8%ともっとも高く、次いで、「目の病気（白内障・緑内障等）」22.0%、「筋骨格の病気（関節炎・骨粗しょう症等）」21.1%、「心臓病」19.9%、「認知症（アルツハイマー病等）」18.2%が続いている。

図表4-19 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

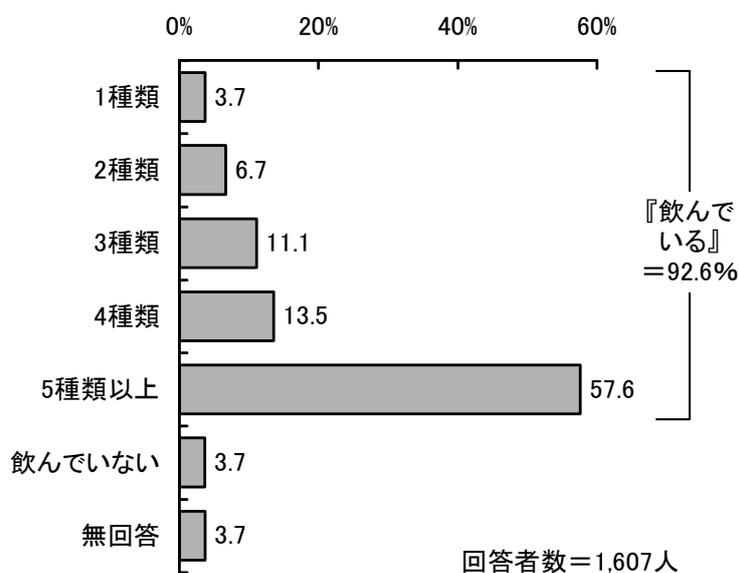
(5) 飲んでいる薬の種類

問 13 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類は、「5種類以上」が57.6%と6割近くを占めている。「飲んでいない」は3.7%であった。

図表4-20 飲んでいる薬の種類(単数回答)



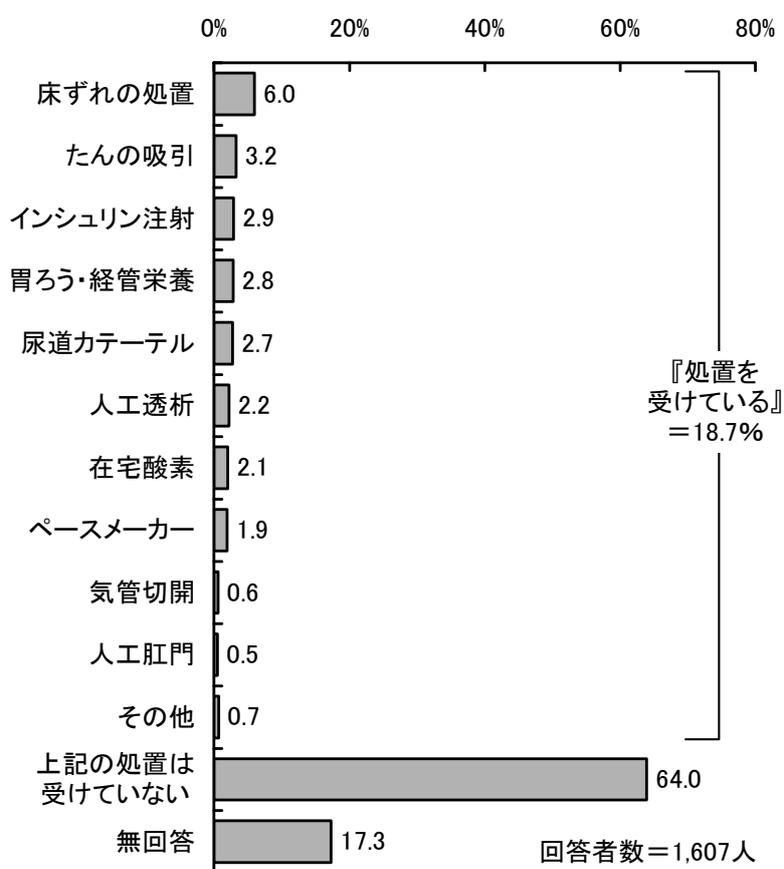
※『飲んで
いる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」
+ 「5種類以上」

(6) 医療処置の状況

問 14 あなた(あて名のご本人)は、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

医療処置の状況については、18.7%が『処置を受けている』と回答している。具体的には、「床ずれの処置」6.0%、「たんの吸引」3.2%、「インシュリン注射」2.9%、「胃ろう・経管栄養」2.8%、「尿道カテーテル」2.7%などとなっている。

図表4-21 医療処置の状況(複数回答)



※『処置を受けている』 = 100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

要介護度別にみると、介護度が高くなるに従って、『処置を受けている』割合も概ね高くなっており、要介護4の人は3割台、要介護5の人では5割台を占めている。

要介護5の人では、「床ずれの処置」を31.5%、「胃ろう・経管栄養」を25.4%、「たんの吸引」を21.5%が受けていると回答している。

図表4-22 医療処置の状況

	回答者数(人)	床ずれの処置	たんの吸引	インシュリン注射	胃ろう・経管栄養	尿道カテーテル	人工透析	在宅酸素	ペースメーカー	気管切開	人工肛門	その他	上記の処置は受けていない	『処置を受けている』	
全体	1,607	6.0	3.2	2.9	2.8	2.7	2.2	2.1	1.9	0.6	0.5	0.7	64.0	18.7	
要介護度別	要支援1	270	0.7	0.7	1.9	0.4	0.4	1.1	1.5	2.2	0.0	0.4	0.7	75.6	10.0
	要支援2	240	0.8	0.8	3.8	0.0	2.9	0.8	3.3	2.9	0.4	0.0	0.4	72.9	14.2
	要介護1	306	2.3	1.3	1.3	1.0	1.0	2.0	1.6	2.0	0.3	0.7	0.7	71.6	10.4
	要介護2	219	1.4	0.5	2.3	0.5	0.9	2.3	2.7	0.5	0.0	1.8	0.5	68.0	12.4
	要介護3	188	5.9	3.2	3.7	1.6	2.7	3.7	1.6	1.6	1.6	0.0	1.6	59.6	20.7
	要介護4	168	16.7	4.8	4.2	1.8	6.0	3.0	2.4	1.8	0.6	0.6	0.6	53.6	32.7
	要介護5	130	31.5	21.5	3.1	25.4	10.8	3.1	2.3	3.1	2.3	0.0	0.8	34.6	56.9
	わからない	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	12.0

※「無回答」は掲載を省略している

※『処置を受けている』=100%－「上記の処置は受けていない」－「無回答」

3. 日常生活の状況について

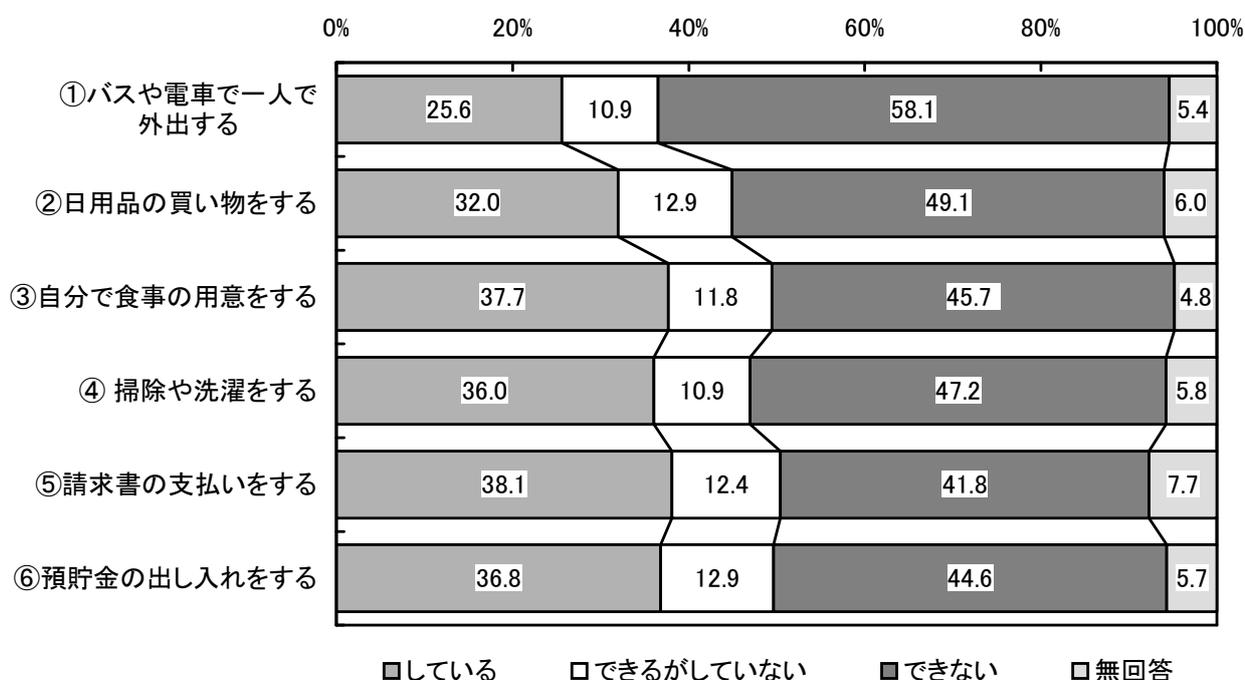
(1) 手段的日常生活動作 (IADL)・日常生活動作 (ADL) の自立度

問 15 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。①～⑰について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。【比較調査 244 参照】

①手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

要支援 1 から要介護 2 の人の手段的日常生活動作 (I A D L) の自立度をみると、「している」割合は、“①バスや電車で一人で外出する”が 2 割台、その他の項目はいずれも 3 割台であり、いずれの項目も「できない」がもっとも高い割合を占めている。

図表4-23 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度 (各単数回答)

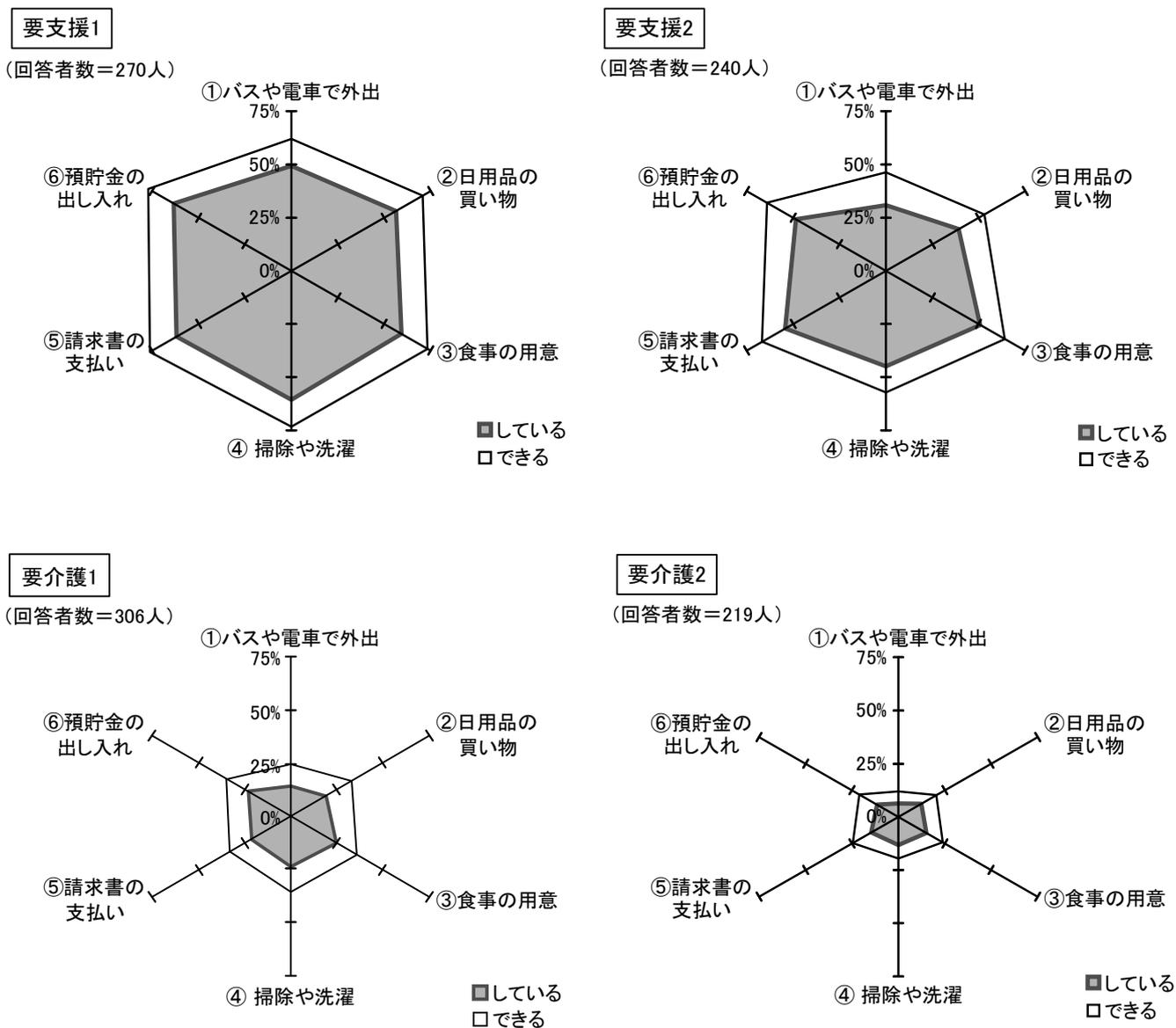


回答者数=1,035人

※手段的日常生活動作 (I A D L) については、6 ページ参照

要介護度別にみると、「している」割合（下図のグレーの網掛け部分）、『できる』割合（下図の外側の枠）とも、介護度が高くなるほど低下することがわかる。特に、要支援2と要介護1との差が顕著となっている。

図表4-24 要介護度別手段的日常生活動作(IADL)の自立度



※各項目の「している」、「できる」（「している」+「できるがしていない」）割合を掲載している

図表4-25 手段的日常生活動作(IADL)の自立度

		回答者数(人)	①バスや電車で外出			②日用品の買い物			③食事の用意			
			している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	
全体		1,035	25.6	10.9	58.1	32.0	12.9	49.1	37.7	11.8	45.7	
要介護度別	要支援	要支援	510	40.6	13.9	41.2	48.2	14.1	33.5	55.3	13.7	27.5
		要支援 1	270	49.3	12.6	33.7	56.3	14.4	25.6	59.3	14.1	23.3
		要支援 2	240	30.8	15.4	49.6	39.2	13.8	42.5	50.8	13.3	32.1
	要介護	要介護 1・2	525	11.0	8.0	74.5	16.2	11.8	64.2	20.6	9.9	63.4
		要介護 1	306	14.4	9.8	69.0	19.0	14.4	57.8	24.5	10.8	57.8
		要介護 2	219	6.4	5.5	82.2	12.3	8.2	73.1	15.1	8.7	71.2

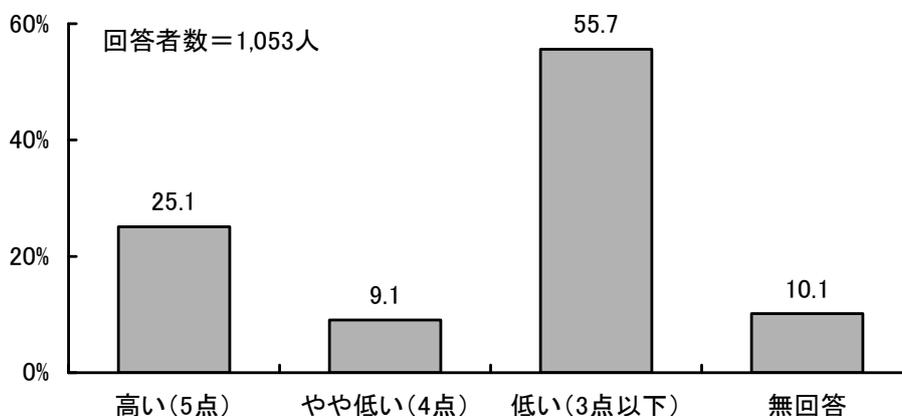
		回答者数(人)	④掃除や洗濯			⑤請求書の支払い			⑥預貯金の出し入れ			
			している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	
全体		1,035	36.0	10.9	47.2	38.1	12.4	41.8	36.8	12.9	44.6	
要介護度別	要支援	要支援	510	53.3	12.4	29.8	58.2	13.5	21.4	56.3	14.7	24.9
		要支援 1	270	60.7	12.6	21.9	61.9	14.4	16.3	63.3	13.7	18.9
		要支援 2	240	45.0	12.1	38.8	54.2	12.5	27.1	48.3	15.8	31.7
	要介護	要介護 1・2	525	19.2	9.5	64.2	18.5	11.2	61.7	17.9	11.0	63.8
		要介護 1	306	23.5	11.8	56.5	21.2	12.1	56.9	22.5	12.1	58.2
		要介護 2	219	13.2	6.4	74.9	14.6	10.0	68.5	11.4	9.6	71.7

※「無回答」は掲載を省略している

手段的日常生活動作（IADL）に関する①～③・⑤・⑥の項目を5点満点となるよう点数化し、集計した結果（点数化の基準については6ページ参照）をみると、「高い（5点）」は25.1%であり、「低い（3点以下）」が55.7%と5割台を占めている。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど自立度が低下しているが、要支援と要介護で大きな差があることがわかる。要支援の人では「高い（5点）」が4割台を占め、「低い（3点以下）」は3割台であるが、要介護1・2の人では「高い（5点）」は9.7%と約1割にとどまっており、「低い（3点以下）」が73.9%を占める。

図表4-26 手段的日常生活動作(IADL)得点



図表4-27 手段的日常生活動作(IADL)得点

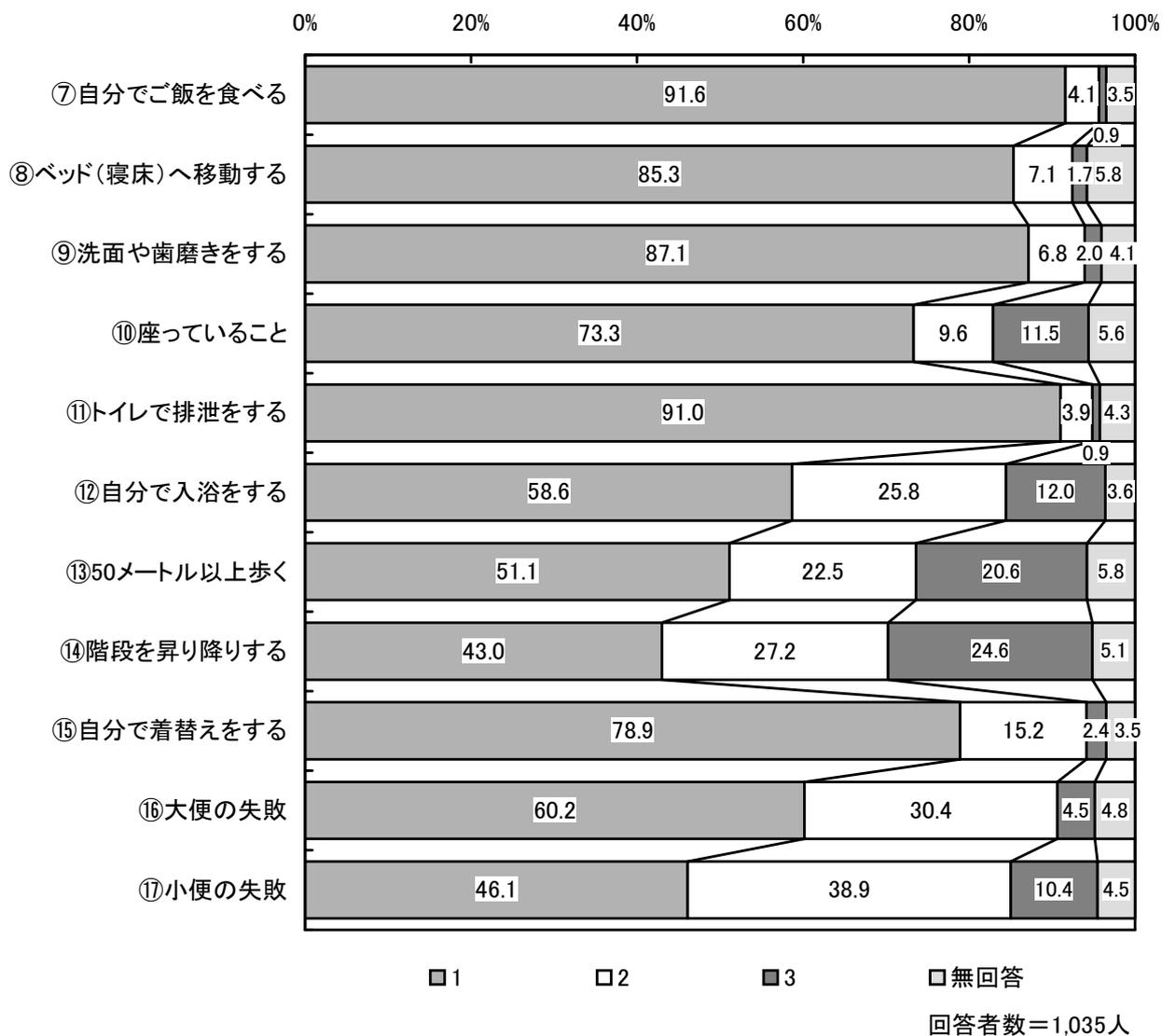
		回答者数(人)	高い(5点)	やや低い(4点)	低い(3点以下)	無回答	平均得点(点)	
全体		1,035	25.1	9.1	55.7	10.1	2.41	
要介護度別	要支援	要支援	510	41.0	13.1	36.9	9.0	3.42
		要支援1	270	47.4	13.3	29.3	10.0	3.76
		要支援2	240	33.8	12.9	45.4	7.9	3.04
	要介護	要介護1・2	525	9.7	5.1	73.9	11.2	1.40
		要介護1	306	11.4	6.5	69.3	12.7	1.67
		要介護2	219	7.3	3.2	80.4	9.1	1.04

②日常生活動作(ADL)の自立度

要支援1から要介護2の人の日常生活動作(ADL)の自立度をみると、⑦～⑮の各項目について「できる」割合は、“⑦自分でご飯を食べる”“⑪トイレで排泄をする”が9割台と高く、一方、“⑫自分で入浴をする”“⑬50メートル以上歩く”は5割台、もっとも割合が低い“⑭階段を昇り降りする”は4割台となっている。

また、“⑯大便の失敗”が「ない」は約6割、“⑰小便の失敗”が「ない」は4割台であった。

図表4-28 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



※⑦～⑨、⑪～⑮の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

⑩の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑯・⑰の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

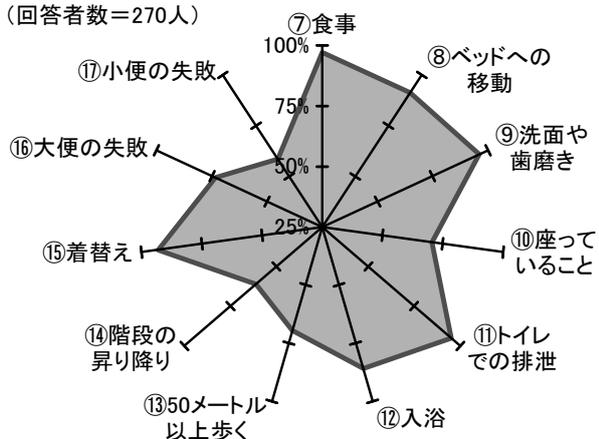
※日常生活動作(ADL)については、6ページ参照

要介護度別にみると、“⑫入浴”“⑬50メートル以上歩く”“⑭階段の昇り降り”“⑮着替え”“⑯大便の失敗”“⑰小便の失敗”は、介護度が高くなるほど「できる」(⑯・⑰は「ない」)割合が大きく低下している。なかでも“⑫入浴”は、要支援1の人の85.9%が「できる」一方、要介護2の人では28.3%と自立度の低下が顕著である。

図表4-29 要介護度別日常生活動作(ADL)の自立度

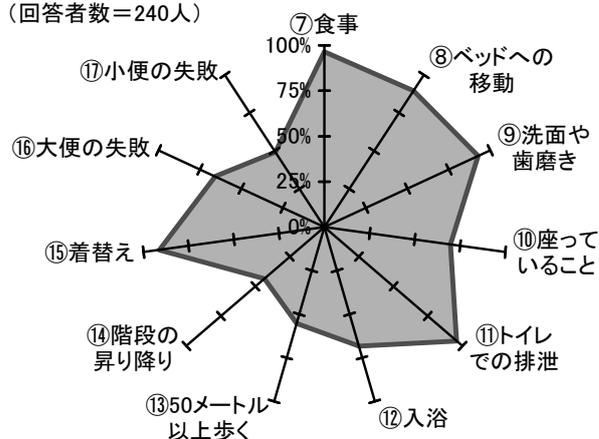
要支援1

(回答者数=270人)



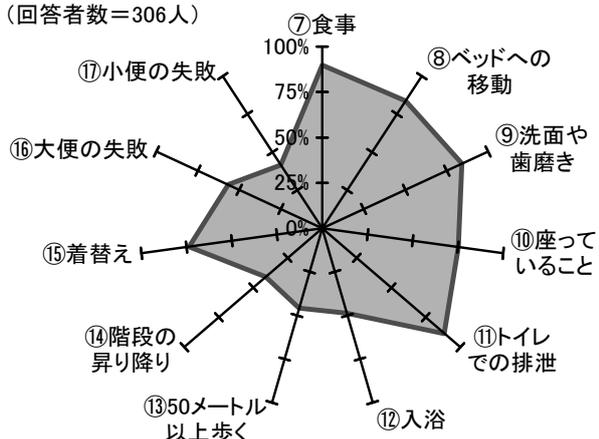
要支援2

(回答者数=240人)



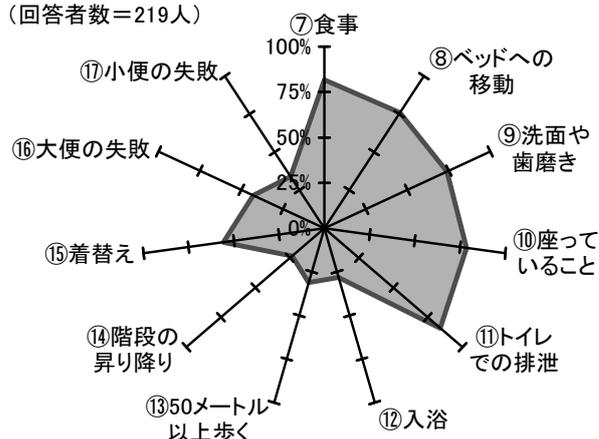
要介護1

(回答者数=306人)



要介護2

(回答者数=219人)



※⑦～⑮は「できる」、⑯・⑰は「ない」割合を掲載している

図表4-30 日常生活動作(ADL)の自立度

		回答者数(人)	⑦食事			⑧ベッドへの移動			⑨洗面や歯磨き			⑩座っていること			
			できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	支 え が 必 要	できない	
全体		1,035	91.6	4.1	0.9	85.3	7.1	1.7	87.1	6.8	2.0	73.3	9.6	11.5	
要介護度別	要支援	要支援	510	96.9	0.6	0.4	90.4	4.1	0.8	94.5	1.6	1.0	70.0	9.0	15.5
		要支援1	270	97.0	0.7	0.0	91.1	4.1	0.7	95.9	0.7	0.0	70.4	6.7	17.0
		要支援2	240	96.7	0.4	0.8	89.6	4.2	0.8	92.9	2.5	2.1	69.6	11.7	13.8
	要介護	要介護1・2	525	86.5	7.4	1.3	80.4	10.1	2.7	80.0	11.8	3.0	76.6	10.1	7.6
		要介護1	306	89.9	3.6	1.3	83.7	5.9	2.6	84.3	7.5	2.3	75.2	9.8	8.2
		要介護2	219	81.7	12.8	1.4	75.8	16.0	2.7	74.0	17.8	4.1	78.5	10.5	6.8

		回答者数(人)	⑪トイレでの排泄			⑫入浴			⑬50メートル以上歩く			⑭階段の昇り降り			
			できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	
全体		1,035	91.0	3.9	0.9	58.6	25.8	12.0	51.1	22.5	20.6	43.0	27.2	24.6	
要介護度別	要支援	要支援	510	95.5	1.8	0.2	77.6	14.5	5.3	62.9	19.0	13.9	52.7	23.7	19.6
		要支援1	270	95.2	1.9	0.4	85.9	10.0	1.9	69.6	14.8	11.5	61.1	20.0	15.2
		要支援2	240	95.8	1.7	0.0	68.3	19.6	9.2	55.4	23.8	16.7	43.3	27.9	24.6
	要介護	要介護1・2	525	86.7	5.9	1.5	40.2	36.8	18.5	39.6	25.9	27.0	33.5	30.7	29.5
		要介護1	306	88.6	2.9	1.6	48.7	31.0	14.7	45.8	24.5	21.6	40.8	26.5	25.8
		要介護2	219	84.0	10.0	1.4	28.3	44.7	23.7	31.1	27.9	34.7	23.3	36.5	34.7

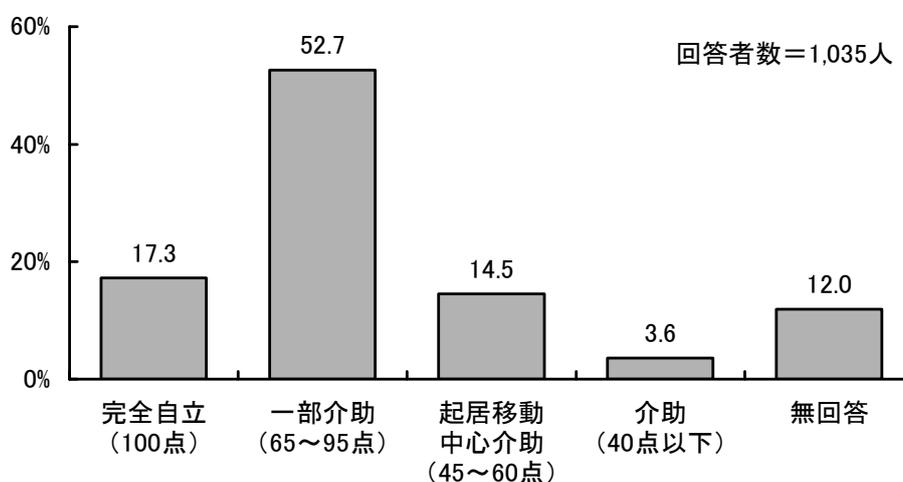
		回答者数(人)	⑮着替え			⑯大便の失敗			⑰小便の失敗			
			できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	ない	ある とき ど き	よくある	ない	ある とき ど き	よくある	
全体		1,035	78.9	15.2	2.4	60.2	30.4	4.5	46.1	38.9	10.4	
要介護度別	要支援	要支援	510	92.2	5.5	0.4	69.8	24.3	2.5	54.1	34.9	7.3
		要支援1	270	93.0	4.8	0.0	73.3	20.7	2.2	58.5	30.4	6.7
		要支援2	240	91.3	6.3	0.8	65.8	28.3	2.9	49.2	40.0	7.9
	要介護	要介護1・2	525	66.1	24.6	4.4	50.9	36.4	6.5	38.3	42.9	13.5
		要介護1	306	73.5	16.0	4.2	56.5	30.4	5.6	41.5	37.9	13.7
		要介護2	219	55.7	36.5	4.6	42.9	44.7	7.8	33.8	49.8	13.2

※「無回答」は掲載を省略している

日常生活動作（ADL）の自立度に関する⑦～⑰の項目を100点満点となるよう点数化し、集計した結果（点数化の基準については6ページ参照）をみると、「完全自立（100点）」は17.3%であり、「一部介助（65～95点）」が52.7%ともっとも高い。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど徐々に平均得点が下がり、自立度が低下していることがわかる。要支援の人では「一部介助（65～95点）」54.1%に次いで、「完全自立（100点）」24.7%となるが、要介護1・2の人では「一部介助（65～95点）」51.2%に次いで、「起居移動中心介助（45～60点）」が20.2%となっている。

図表4-31 日常生活動作(ADL)得点



図表4-32 日常生活動作(ADL)得点

		回答者数(人)	完全自立(100点)	一部介助(65~95点)	起居移動中心介助(45~60点)	介助(40点以下)	無回答	平均得点(点)	
全体		1,035	17.3	52.7	14.5	3.6	12.0	78.68	
要介護度別	要支援	要支援	510	24.7	54.1	8.6	1.0	11.6	84.51
		要支援1	270	33.0	47.8	6.3	0.7	12.2	87.45
		要支援2	240	15.4	61.3	11.3	1.3	10.8	81.26
	要介護	要介護1・2	525	10.1	51.2	20.2	6.1	12.4	72.97
		要介護1	306	13.4	52.3	17.3	3.3	13.7	77.08
		要介護2	219	5.5	49.8	24.2	10.0	10.5	67.42

(2)生活機能の状況

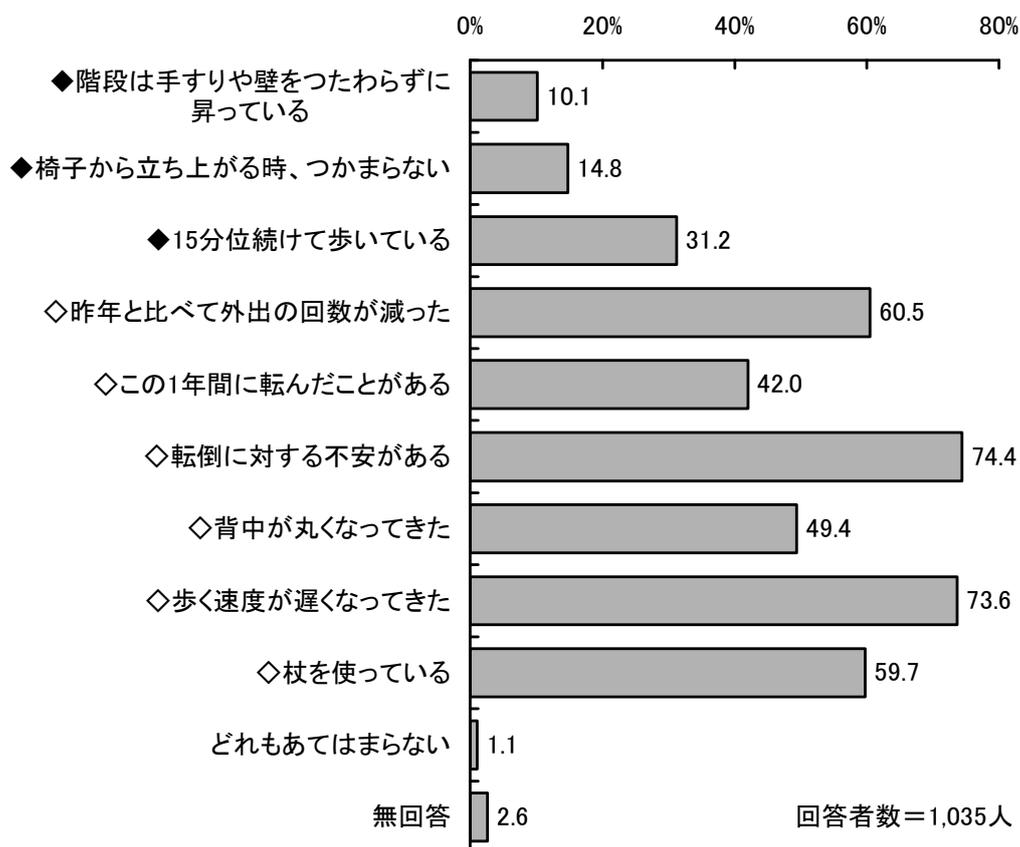
問 16 以下の①～④のすべてについて、あなた(あて名のご本人)に「あてはまる」ことに○をしてください。【比較調査 245～248 参照】

①運動や転倒の状況

要支援 1 から要介護 2 の人の運動や転倒の状況をみると、前半 3 項目の肯定的な内容のうち、「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」は 1 割台、「15 分位続けて歩いている」は 3 割台の回答にとどまっている。

一方、後半 6 項目の否定的な内容をみると、「転倒に対する不安がある」「歩く速度が遅くなってきた」が 7 割を超え、次いで「昨年と比べて外出の回数が減った」「杖を使っている」と約 6 割が回答している。

図表4-33 運動や転倒の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

要介護度別にみると、肯定的な内容である「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」「15分続けて歩いている」は、要支援の人の方が割合が高い。

否定的な内容のうち、要支援の人は「昨年と比べて外出の回数が減った」「歩く速度が遅くなってきた」「杖を使っている」の割合が、要介護1・2の人は「この1年間に転んだことがある」「転倒に対する不安がある」「背中が丸くなってきた」の割合が、比較的高くなっている。

図表4-34 運動や転倒の状況

		回答者数(人)	階段は手すりや壁をつたわずに昇っている	椅子から立ち上がる時、つかまらない	15分位続けて歩いている	昨年と比べて外出の回数が減った	この1年間に転んだことがある	転倒に対する不安がある	背中が丸くなってきた	歩く速度が遅くなってきた	杖を使っている	どれもあてはまらない	無回答
全体		1,035	10.1	14.8	31.2	60.5	42.0	74.4	49.4	73.6	59.7	1.1	2.6
要介護度別	要支援	510	13.3	18.0	40.4	64.5	41.0	74.1	48.8	78.8	62.5	0.4	1.8
	要支援1	270	14.8	21.5	44.1	64.1	41.1	71.5	47.4	81.9	57.0	0.4	2.2
	要支援2	240	11.7	14.2	36.3	65.0	40.8	77.1	50.4	75.4	68.8	0.4	1.3
	要介護1・2	525	7.0	11.6	22.3	56.6	43.0	74.7	49.9	68.6	57.0	1.7	3.4
	要介護1	306	9.2	13.7	28.8	57.8	40.8	74.5	47.4	71.2	56.9	1.3	3.6
	要介護2	219	4.1	8.7	13.2	54.8	46.1	74.9	53.4	64.8	57.1	2.3	3.2

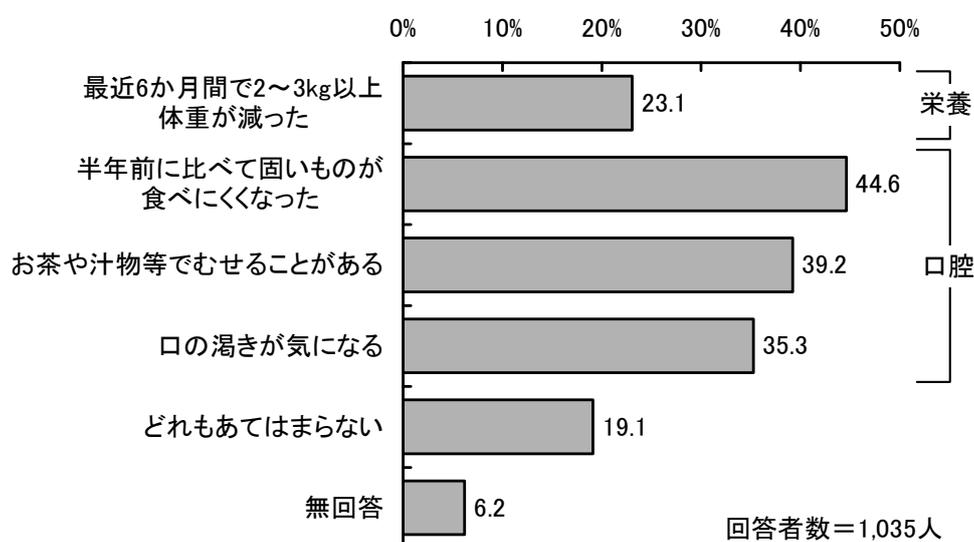
②栄養や口腔機能の状況

要支援1から要介護2の人の栄養や口腔機能の状況をみると、栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は23.1%となっている。

また、口腔機能に関しては、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」が4割台、「お茶や汁物等でむせることがある」「口の渇きが気になる」が3割台となっている。

要介護度別にみると、口腔機能に関する3項目のうち、「お茶や汁物等でむせることがある」「口の渇きが気になる」は、要支援の人の方が特に割合が高くなっている。

図表4-35 栄養や口腔機能の状況(複数回答)



図表4-36 栄養や口腔機能の状況

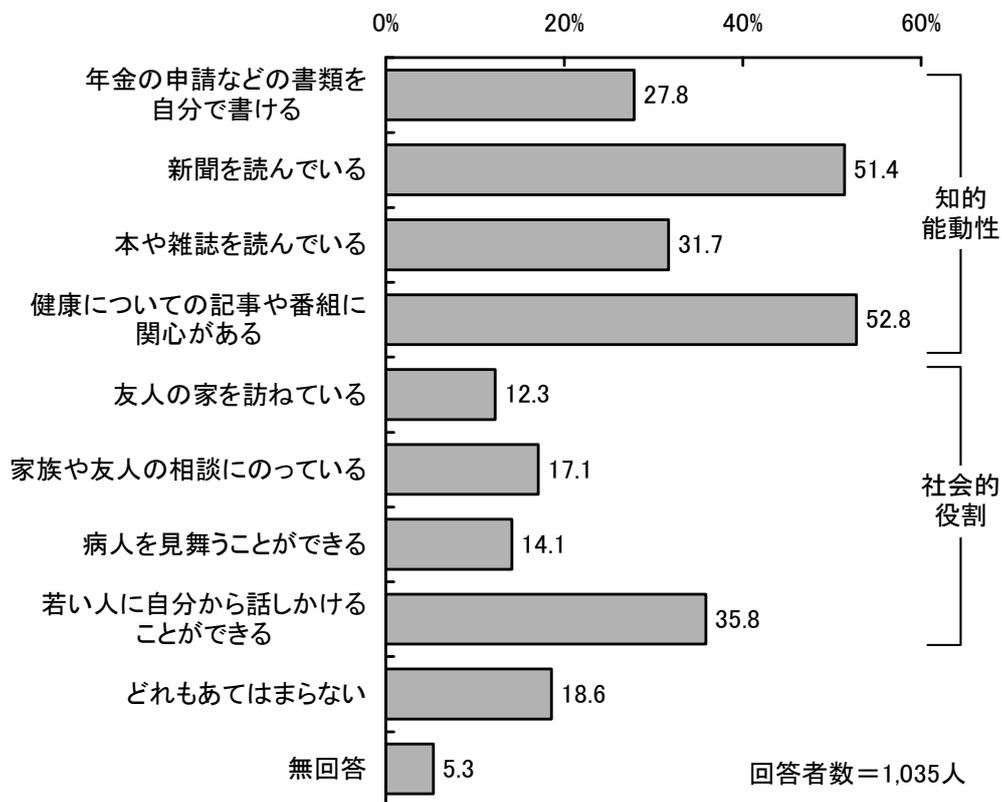
		回答者数(人)	最近6か月間で2～3kg以上体重が減った	半年前に比べて固いものが食べにくくなった	お茶や汁物等でむせることがある	口の渇きが気になる	どれもあてはまらない	無回答	
全体		1,035	23.1	44.6	39.2	35.3	19.1	6.2	
要介護度別	要支援	要支援	510	22.4	45.3	42.5	38.8	18.6	4.5
		要支援1	270	24.4	47.4	41.5	39.3	17.8	3.7
		要支援2	240	20.0	42.9	43.8	38.3	19.6	5.4
	要介護	要介護1・2	525	23.8	44.0	36.0	31.8	19.6	7.8
		要介護1	306	26.5	42.8	32.4	30.1	19.3	8.8
		要介護2	219	20.1	45.7	41.1	34.2	20.1	6.4

③社会活動の状況

要支援1から要介護2の人の社会活動の状況をみると、前半4項目の知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）に関しては、「健康についての記事や番組に関心がある」「新聞を読んでいる」は5割台であるものの、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「本や雑誌を読んでいる」は3割前後となっている。

後半4項目の社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）に関しては、もっとも割合の高い「若い人に話しかけることができる」で3割台であり、他の「家族や友人の相談にのっている」「病人を見舞うことができる」「友人の家を訪ねている」はそれぞれ1割台にとどまっている。

図表4-37 社会活動の状況(複数回答)



要介護度別にみると、知的能動性に関する4項目、社会的役割に関する4項目ともに、介護度が高くなるほど割合が低くなっている。特に、知的能動性に関する「年金の申請などの書類を自分で書ける」「健康についての記事や番組に関心がある」は、要支援と要介護では大きな差がある。

図表4-38 社会活動の状況

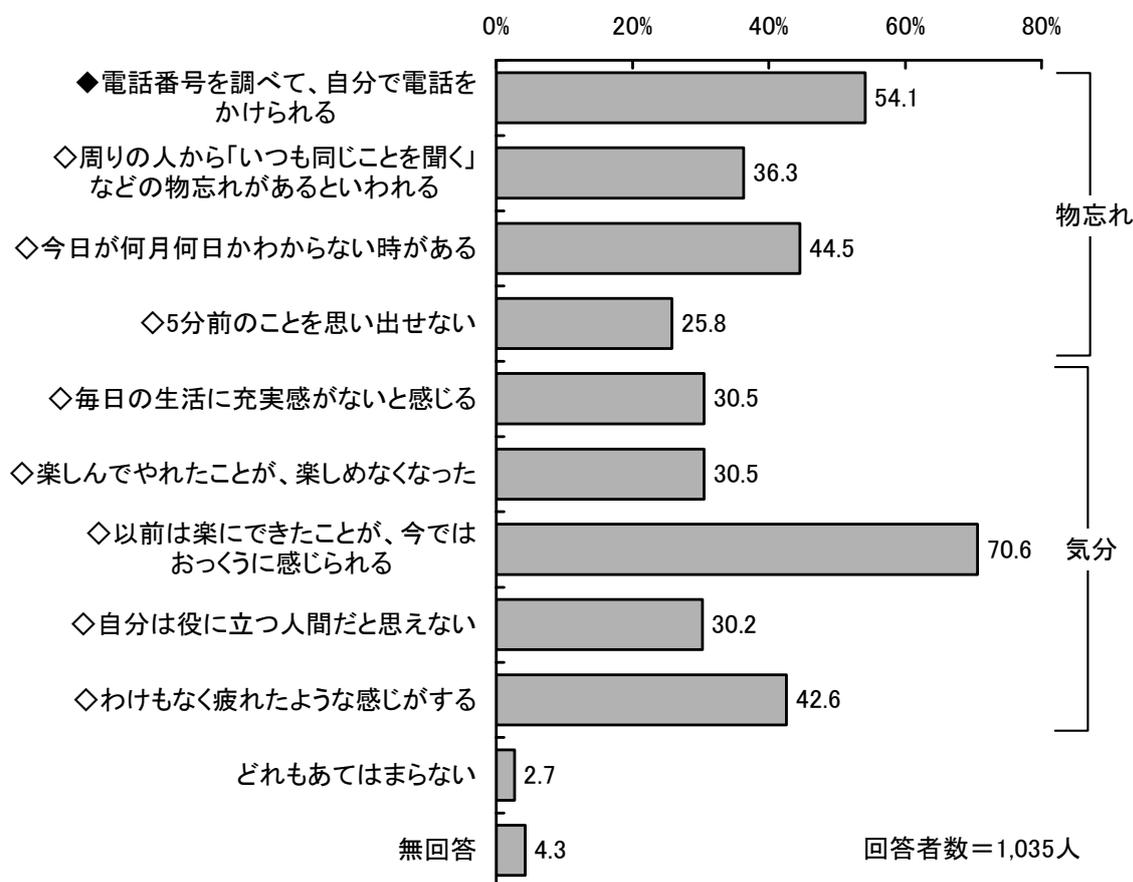
		回答者数(人)	知的能動性				社会的役割				どれもあてはまらない	無回答	
			年金の申請などの書類を自分で書ける	新聞を読んでいる	本や雑誌を読んでいる	健康についての記事や番組に関心がある	友人の家を訪ねている	家族や友人の相談にのっている	病人を見舞うことができる	若い人に自分から話しかけることができる			
全体		1,035	27.8	51.4	31.7	52.8	12.3	17.1	14.1	35.8	18.6	5.3	
要介護度別	要支援	要支援	510	41.2	61.8	39.0	70.0	18.0	23.9	20.6	40.4	8.8	3.9
		要支援1	270	45.9	66.7	40.7	71.9	21.9	25.9	25.6	40.4	7.8	4.1
		要支援2	240	35.8	56.3	37.1	67.9	13.8	21.7	15.0	40.4	10.0	3.8
	要介護	要介護1・2	525	14.9	41.3	24.6	36.0	6.7	10.5	7.8	31.4	28.0	6.7
		要介護1	306	14.4	44.8	26.5	38.2	9.2	11.4	9.5	32.7	24.2	7.2
		要介護2	219	15.5	36.5	21.9	32.9	3.2	9.1	5.5	29.7	33.3	5.9

④物忘れや気分の状況

要支援1から要介護2の人の物忘れや気分の状況をみると、前半4項目の物忘れの状況のうち、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は5割台であり、否定的な内容である「今日が何月何日かわからない時がある」が4割台、「周りの人から“いつも同じことを聞く”などの物忘れがあるといわれる」が3割台となっている。

後半5項目の気分の状況に関しては、約7割が「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」と回答し、次いで「わけもなく疲れたような感じがする」が4割台となっている。

図表4-39 物忘れや気分の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

要介護度別にみると、物忘れに関する4項目については、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は要支援、否定的な内容である「周りの人から“いつも同じことを聞く”などの物忘れがあるといわれる」「今日が何月何日かわからない時がある」「5分前のことを思い出せない」は要介護1・2の人の方が高くなっている。

一方で、気分に関する5項目については、いずれも要介護1・2の人よりも要支援の人の方が割合が高くなっている。

図表4-40 物忘れや気分の状況

		回答者数(人)	物忘れ				気分					どれもあてはまらない	無回答	
			電話番号を調べて、自分で電話をかけられる	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる	今日が何月何日かわからない時がある	5分前のことを思い出せない	毎日の生活に充実感がないと感じる	楽しんでやれたことが、楽しめなくなっ た	以前は楽にできたことが、今ではおっく うに感じられる	自分は役に立つ人間だと思えない	わけもなく疲れたような感じがする			
全 体		1,035	54.1	36.3	44.5	25.8	30.5	30.5	70.6	30.2	42.6	2.7	4.3	
要介護度別	要支援	要支援	510	70.0	27.1	36.5	18.0	31.2	31.2	75.1	32.5	48.0	2.0	3.1
		要支援 1	270	73.0	27.0	36.3	15.9	27.4	26.7	73.3	25.6	50.4	2.2	2.6
		要支援 2	240	66.7	27.1	36.7	20.4	35.4	36.3	77.1	40.4	45.4	1.7	3.8
	要介護	要介護 1・2	525	38.7	45.3	52.4	33.3	29.9	29.9	66.3	28.0	37.3	3.4	5.3
		要介護 1	306	42.5	47.1	52.9	35.9	32.0	31.0	69.0	30.1	41.2	1.6	5.2
		要介護 2	219	33.3	42.9	51.6	29.7	26.9	28.3	62.6	25.1	32.0	5.9	5.5

⑤その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

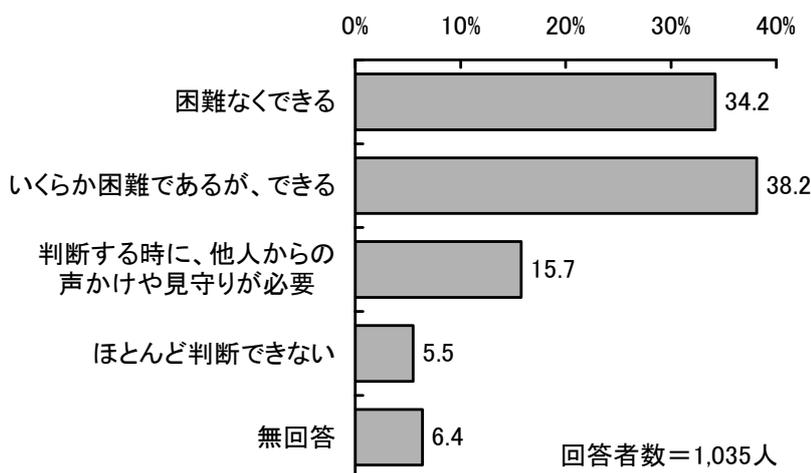
問 17 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問 18 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

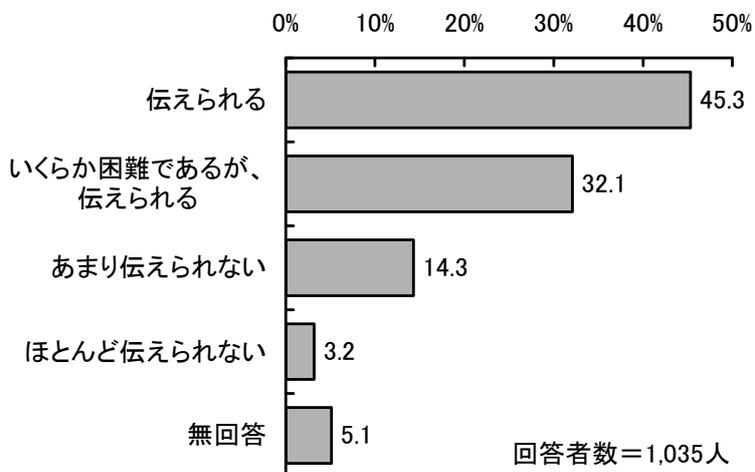
要支援1から要介護2の人のその日の活動の判断については、「いくらか困難であるが、できる」38.2%がもっとも高く、「困難なくできる」は34.2%となっている。「ほとんど判断できない」は5.5%であった。

意思の伝達については、「伝えられる」は45.3%であり、「いくらか困難であるが、伝えられる」32.1%とあわせると、8割弱が伝えられる状況にある。

図表4-41 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表4-42 意思の伝達の可否(単数回答)



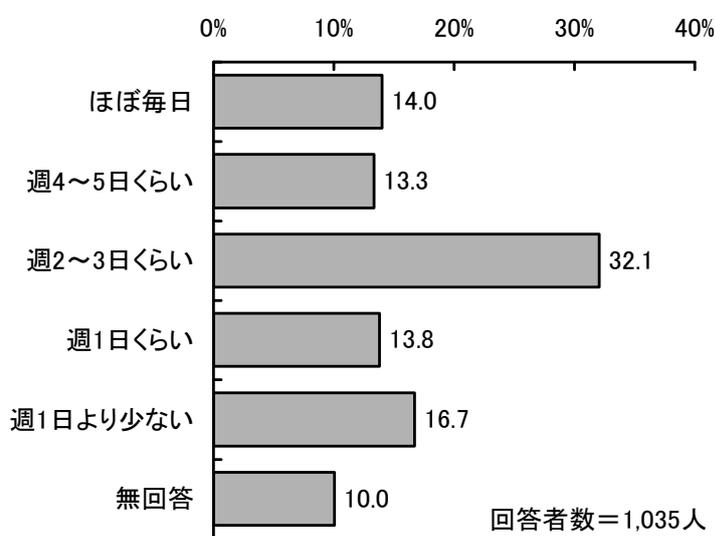
(3)外出頻度

問 19 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

要支援1から要介護2の人の外出頻度は、「週2～3日くらい」32.1%がもっとも高く、次いで、閉じこもりリスクの高い「週1日より少ない」が16.7%で続いている。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど外出頻度は少なくなっており、「週1日より少ない」割合は、要支援の人では12.9%、要介護1・2の人で20.4%となっている。

図表4-43 外出頻度(単数回答)



図表4-44 外出頻度

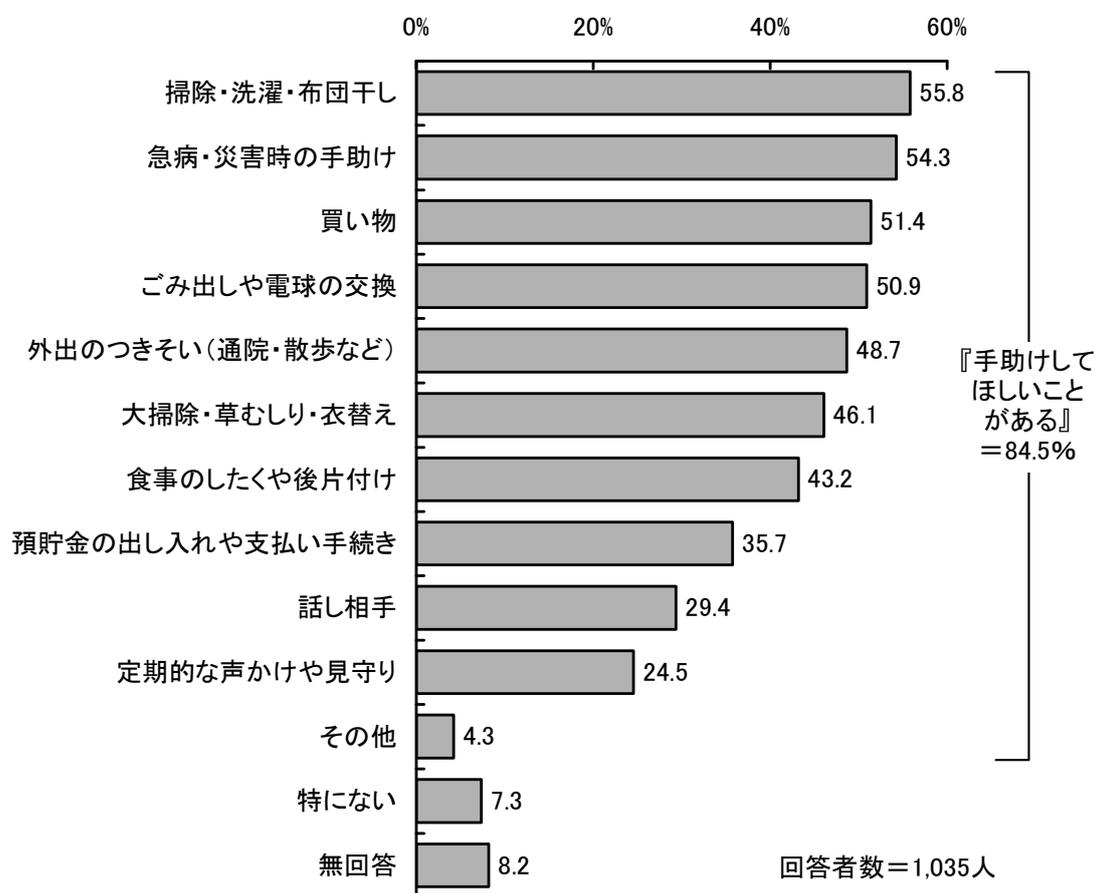
		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない	無回答	
全体		1,035	14.0	13.3	32.1	13.8	16.7	10.0	
要介護度別	要支援	要支援	510	17.5	16.1	31.6	13.9	12.9	8.0
		要支援1	270	21.1	17.8	31.1	13.3	10.4	6.3
		要支援2	240	13.3	14.2	32.1	14.6	15.8	10.0
	要介護	要介護1・2	525	10.7	10.7	32.6	13.7	20.4	12.0
		要介護1	306	12.4	11.1	33.0	14.4	18.3	10.8
		要介護2	219	8.2	10.0	32.0	12.8	23.3	13.7

(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問 20 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 249 参照】

要支援 1 から要介護 2 の人の日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、84.5%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「掃除・洗濯・布団干し」「急病・災害時の手助け」「買い物」「ごみ出しや電球の交換」が 5 割を超え、「外出のつきそい(通院・散歩など)」「大掃除・草むしり・衣替え」「食事のしたくや後片付け」が 4 割台となっている。

図表4-45 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

世帯構成別にみると、特にひとり暮らしの人において『手助けしてほしいことがある』割合が高い。具体的には、「急病・災害時の手助け」や「掃除・洗濯・布団干し」「ごみ出しや電球の交換」「買い物」「大掃除・草むしり・衣替え」といった生活支援、「話し相手」「定期的な声かけや見守り」が他に比べて高い。

要介護度別にみると、要支援1・2の人では「掃除・洗濯・布団干し」「急病・災害時の手助け」「ごみ出しや電球の交換」を半数以上の人があげ、要介護1・2の人では「外出のつきそい（通院・散歩など）」「食事のしたくや後片付け」「預貯金の出し入れや支払い手続き」「話し相手」「定期的な声かけや見守り」の割合が、要支援1・2の人に比べて高くなっている。

図表4-46 日常生活の中で手助けしてほしいこと

	回答者数(人)	掃除・洗濯・布団干し	急病・災害時の手助け	買い物	ごみ出しや電球の交換	歩など 外出のつきそい(通院・散歩など)	大掃除・草むしり・衣替え	食事のしたくや後片付け	預貯金の出し入れや支払い手続き	話し相手	定期的な声かけや見守り	その他	特にない	『手助けしてほしいことがある』
全体	1,035	55.8	54.3	51.4	50.9	48.7	46.1	43.2	35.7	29.4	24.5	4.3	7.3	84.5
世帯構成別	ひとり暮らし	311	65.3	65.6	59.2	60.5	45.7	54.0	38.3	30.2	34.4	30.5	3.5	93.0
	夫婦のみ	259	55.6	48.3	45.6	47.1	43.6	41.3	47.1	33.2	22.0	20.1	2.7	80.7
	子どもと同居	254	50.8	52.0	48.4	47.6	53.1	41.7	45.3	40.2	29.1	20.9	4.7	80.8
	子どもと孫と同居	140	46.4	47.1	50.7	47.1	56.4	45.0	42.9	45.0	35.7	26.4	5.0	77.8
	その他	51	56.9	49.0	54.9	41.2	49.0	47.1	47.1	39.2	23.5	23.5	11.8	90.2
要介護度別	要支援1	270	54.1	54.8	48.5	50.0	35.2	44.8	35.2	27.0	23.3	17.4	1.9	86.3
	要支援2	240	65.4	60.8	54.6	55.8	45.8	51.3	43.3	34.6	25.0	21.7	1.7	88.3
	要介護1	306	52.3	51.3	53.6	49.7	55.6	45.1	47.1	41.2	34.0	29.4	7.2	83.0
	要介護2	219	52.5	50.7	48.4	48.4	58.9	43.4	47.5	40.2	35.2	29.7	5.9	79.9

※「無回答」は掲載を省略している

※『手助けしてほしいことがある』=100%－「特にない」－「無回答」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

4. 介護保険サービスの利用状況について

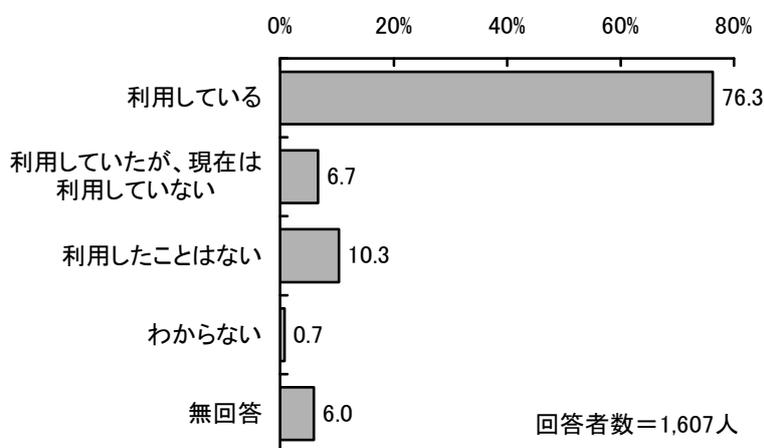
(1) 介護保険サービスの利用状況

問 21 あなた(あて名のご本人)は、現在、介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

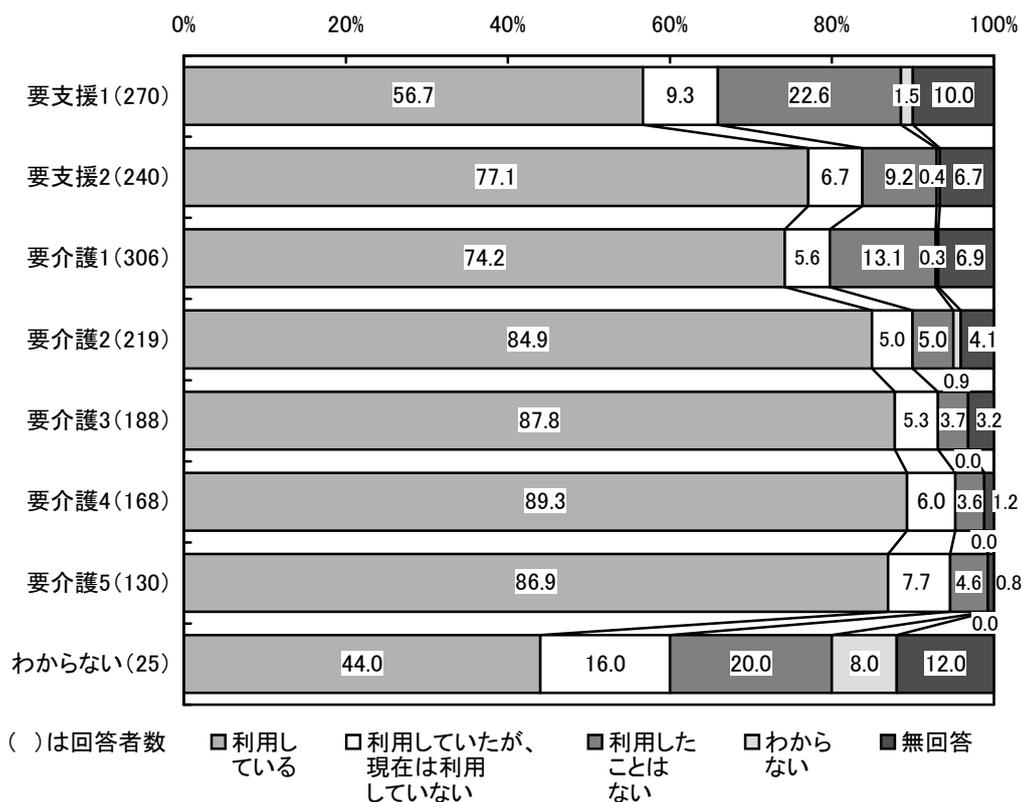
介護保険サービスの利用状況を見ると、「利用している」は76.3%であり、「利用したことはない」10.3%、「利用していたが、現在は利用していない」6.7%となっている。

要介護度別にみると、要支援1の人では「利用している」は5割台であり、「利用したことはない」が2割を超えている。一方、要支援2・要介護1の人は7割台、要介護2～5の人では8割台が「利用している」と回答している。

図表4-47 介護保険サービスの利用状況(単数回答)



図表4-48 介護保険サービスの利用状況



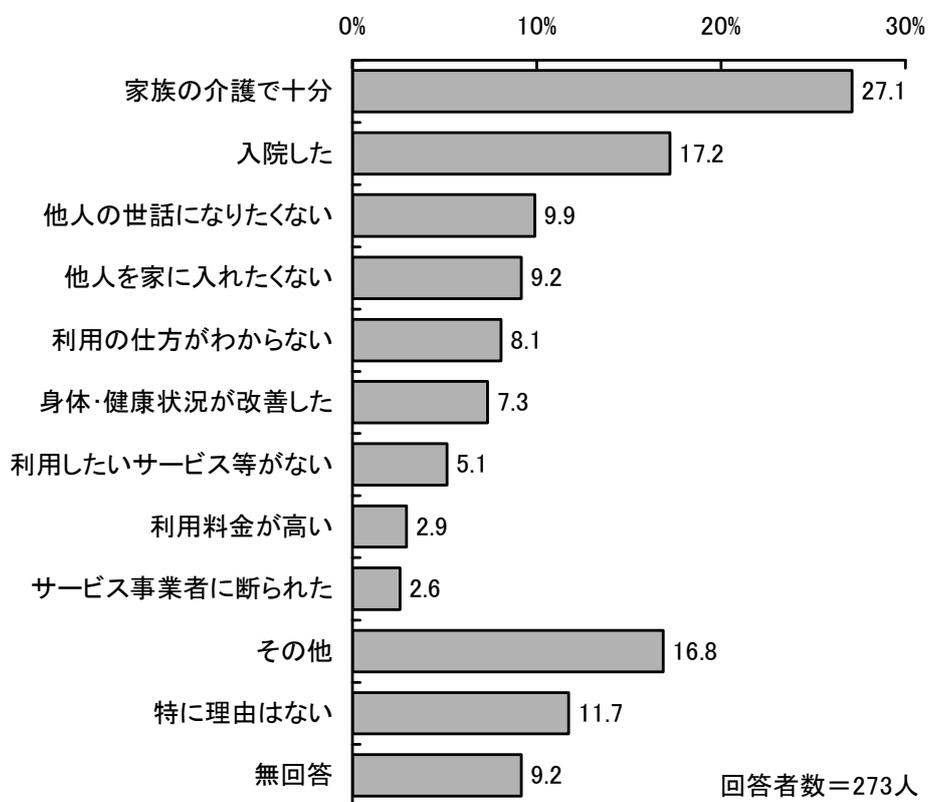
(2) サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない方(問 21 で 2・3 に○)におうかがいします。

問 21-1 あなた(あて名のご本人)が、介護保険サービスを利用していないのはなぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを利用していない人に利用していない理由をたずねたところ、「家族の介護で十分」27.1%がもっとも高く、次いで「入院した」17.2%、「他人の世話になりたくない」9.9%、「他人を家に入れたくない」9.2%などとなっている。

図表4-49 サービスを利用していない理由(複数回答)



要介護度別にみると、要支援1から要介護3の人では「家族の介護で十分」の割合がもっとも高い。要介護4・5の人では「入院した」がもっとも高く、要介護4では6割台、要介護5では9割台の人があげている。

図表4-50 サービスを利用していない理由

	回答者数(人)	家族の介護で十分	入院した	他人の世話になりたくない	他人を家に入れたくない	利用の仕方がわからない	身体・健康状況が改善した	利用したいサービス等がない	利用料金が高い	サービス業者に断られた	その他	特に理由はない	無回答	
全体	273	27.1	17.2	9.9	9.2	8.1	7.3	5.1	2.9	2.6	16.8	11.7	9.2	
要介護度別	要支援1	86	27.9	4.7	10.5	8.1	9.3	4.7	10.5	1.2	3.5	18.6	12.8	12.8
	要支援2	38	23.7	2.6	7.9	10.5	5.3	10.5	7.9	7.9	0.0	15.8	15.8	15.8
	要介護1	57	31.6	8.8	15.8	15.8	14.0	3.5	1.8	3.5	0.0	19.3	12.3	12.3
	要介護2	22	27.3	4.5	4.5	4.5	0.0	18.2	0.0	0.0	4.5	40.9	18.2	4.5
	要介護3	17	47.1	41.2	17.6	5.9	0.0	11.8	5.9	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0
	要介護4	16	12.5	62.5	0.0	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0
	要介護5	16	0.0	93.8	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
	わからない	9	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3	0.0

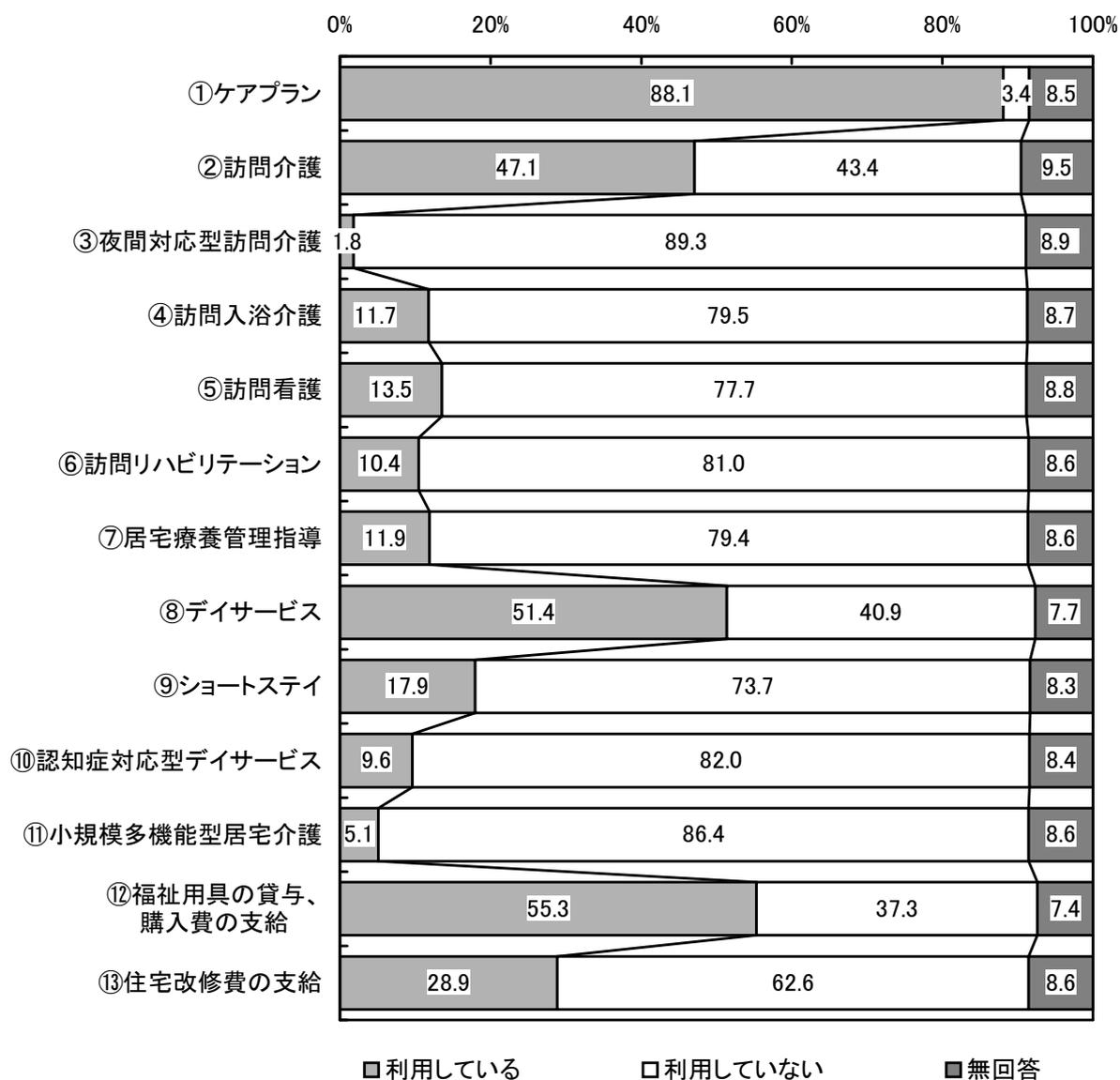
(3) 在宅の介護保険サービスの利用状況、満足度

問 22 在宅の介護保険サービスの満足度についておたずねします。以下の①～⑬すべてについて、それぞれもっとも近い意見1つに○をしてください。
現在利用していないサービスは、「6. 利用していない」に○をしてください。

①在宅の介護保険サービスの利用状況

在宅の介護保険サービスの利用状況をみると、利用率が高いサービスは“⑫福祉用具の貸与、購入費の支給”“⑧デイサービス”が5割台、“②訪問介護”が4割台、“⑬住宅改修費の支給”が2割台と続いている。

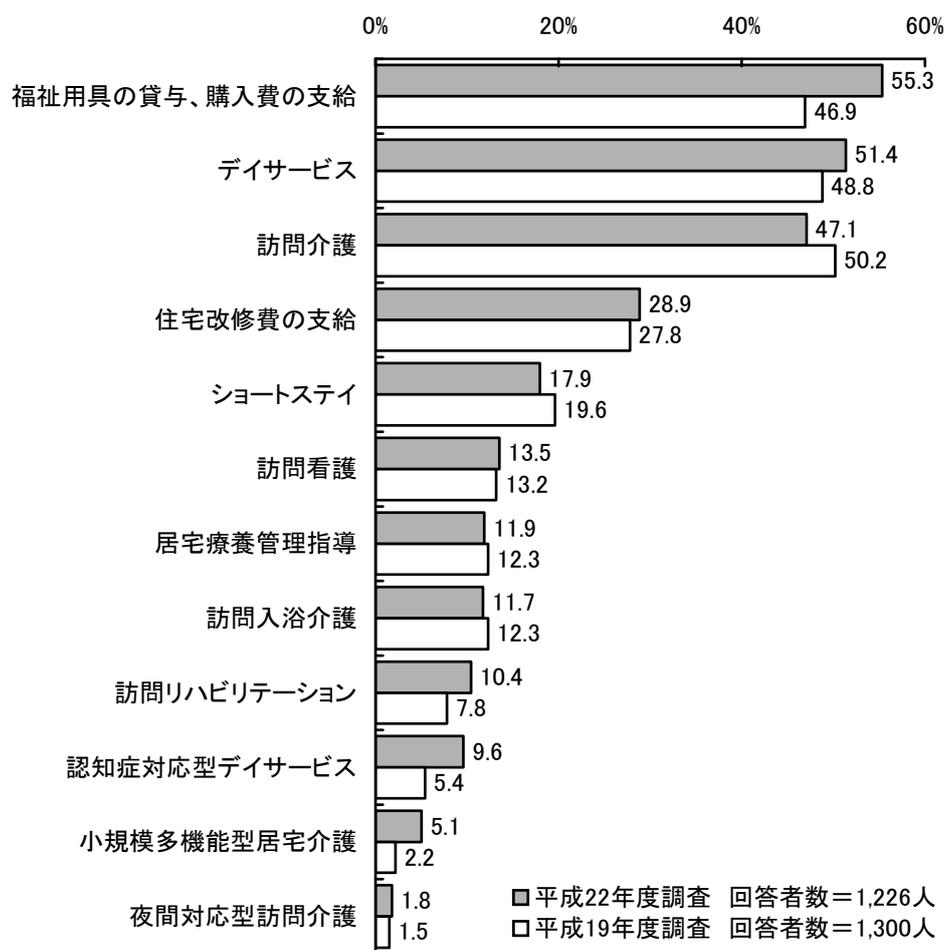
図表4-51 在宅の介護保険サービスの利用状況(各単数回答)



在宅の介護保険サービスの利用状況を平成19年度調査結果と比較すると、「福祉用具の貸与、購入費の支給」が8.4ポイント、「認知症対応型デイサービス」が4.2ポイント、「小規模多機能型居宅介護」が2.9ポイント、「デイサービス」「訪問リハビリテーション」が2.6ポイント増加している。

反対に、「訪問介護」は3.1ポイント、「ショートステイ」は1.7ポイント減少している。

図表4-52 在宅の介護保険サービスの利用状況(平成19年度調査との比較)



※「利用している」割合を比較している

要介護度別に「利用している」割合をみると、“③夜間対応型訪問介護”“④訪問入浴介護”“⑤訪問看護”“⑥訪問リハビリテーション”“⑦居宅療養管理指導”“⑨ショートステイ”は、概ね介護度が高くなるに従って利用率も高くなっている。一方、“②訪問介護”は、要支援1と要介護4・5の利用率が5割を超え、他の介護度よりも高くなっている。また、“⑧デイサービス”は要介護3の利用率が6割台でもっとも高い。

図表4-53 在宅の介護保険サービスの利用状況

		回答者数(人)	①ケアプラン	②訪問介護	③夜間対応型訪問介護	④訪問入浴介護	⑤訪問看護	⑥訪問リハビリテーション	⑦居宅療養管理指導	⑧デイサービス	⑨ショートステイ	⑩認知症対応型デイサービス	⑪小規模多機能型居宅介護	⑫福祉用具の貸与、購入費の支給	⑬住宅改修費の支給
全体		1,226	88.1	47.1	1.8	11.7	13.5	10.4	11.9	51.4	17.9	9.6	5.1	55.3	28.9
要介護度別	要支援1	153	83.7	52.3	0.0	1.3	4.6	5.2	2.6	41.8	2.0	3.3	2.0	27.5	16.3
	要支援2	185	82.2	47.0	0.0	2.7	3.8	2.7	3.8	37.8	3.8	2.2	4.3	35.7	21.6
	要介護1	227	88.1	43.2	2.6	5.7	7.9	4.4	7.0	58.6	11.0	11.0	4.4	45.4	28.6
	要介護2	186	87.6	42.5	1.1	6.5	7.0	7.5	8.6	60.8	18.8	9.1	2.7	54.3	37.6
	要介護3	165	89.7	43.6	1.2	13.3	11.5	14.5	10.3	64.8	27.9	18.8	4.8	72.1	32.7
	要介護4	150	96.7	50.0	4.0	20.7	27.3	22.0	22.7	53.3	34.0	11.3	10.0	86.0	42.0
	要介護5	113	94.7	56.6	5.3	47.8	48.7	26.5	39.8	38.1	41.6	14.2	9.7	82.3	24.8
	わからない	11	72.7	63.6	0.0	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	36.4	0.0	0.0	0.0	45.5

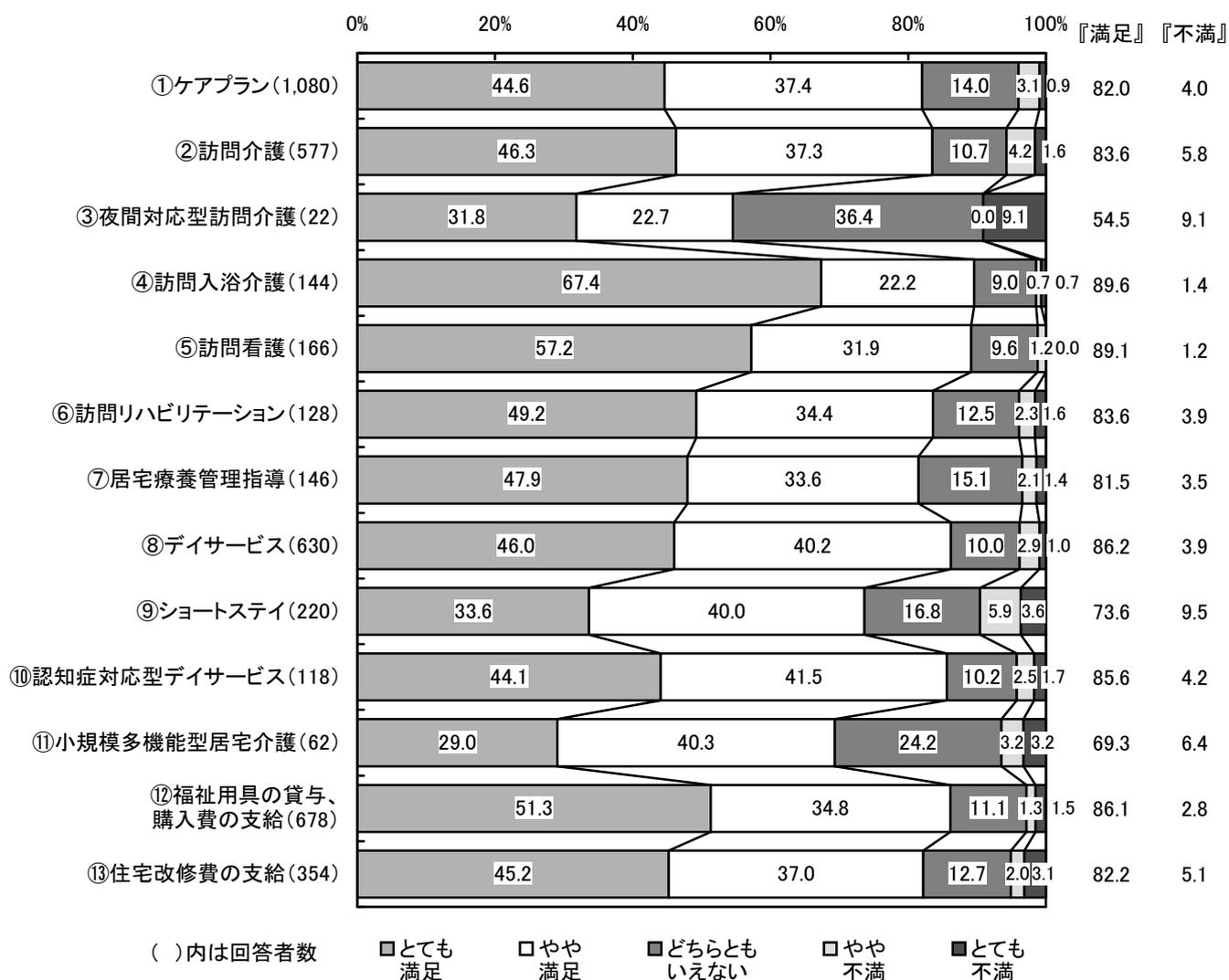
※①～⑬のサービスについて、「利用している」割合を掲載している

②在宅の介護保険サービスの満足度

在宅の介護保険サービスの満足度をみると、「とても満足」と「やや満足」をあわせた『満足』の割合は、“④訪問入浴介護”89.6%がもっとも高く、以下、“⑤訪問看護”89.1%、“⑧デイサービス”86.2%、“⑫福祉用具の貸与、購入費の支給”86.1%、“⑩認知症対応型デイサービス”85.6%と続く。

一方、“⑨ショートステイ”と“③夜間対応型訪問介護”は「やや不満」と「とても不満」をあわせた『不満』が1割近くになっている。

図表4-54 在宅の介護保険サービスの満足度(各単数回答)



※『満足』 = 「とても満足」 + 「やや満足」

※『不満』 = 「やや不満」 + 「とても不満」

【『不満』の理由】

(123 件について要約して掲載)

■ケアプラン(29 件より抜粋)

- ・めったにケアマネジャーが来ない。
- ・形式的な書面（介護内容等）の作成でピンと来ない。
- ・雑で気に入っていない。
- ・介護者の大変な部分の理解不足。
- ・即妙な対応に欠ける。
- ・説明が不十分。
- ・障害が重くなったのにリハビリ重視の所を紹介してくれなかった。
- ・規則でできない事が多い。
- ・普段の対応が不足している。提出すればそれで終わり。
- ・何の相談もなく、一方的に会社の変更などがあり戸惑うことがあるが、お世話になっているので何も言えない。
- ・仕事しか考えていない。
- ・あと 30 分増やして頂けると、ヘルパーさん達も充分して下さると思う。

■訪問介護(24 件より抜粋)

- ・人材を増加して、夜・朝にも対応してほしい。
- ・オムツの交換のみ 10 分で終了。できたら身体や顔など拭いてほしい。
- ・時間が短くなって、やってほしいことが終わらない。
- ・ヘルパーさんと合わない。
- ・同居を理由にサービスが受けられず、仕事をしていた子どもが結果退職せざるをえなかった。
- ・希望に合う事が少なく、理解不足が多い（無理は言っていない）。
- ・買い物などに連れて行ってもらえない。
- ・決められた時間に来てくれない。
- ・短すぎる。話し相手はできない。時間帯が制限される。
- ・調理技術が未熟。

■夜間対応型訪問介護(2 件より抜粋)

- ・電話だけで、家に来て状態を確認しないで救急車を呼んでくれと言われた。

■訪問入浴介護(2 件より抜粋)

- ・きちんと消毒していない（洗った時にしないし、水を入れる時もしない）。

■訪問看護(2 件)

- ・訪問時間がまちまちで、ヘルパーとぶつかってしまう恐れがある。
- ・リハビリのために来てもらったが、あまり進まない。

■訪問リハビリテーション(2件より抜粋)

- ・満足していない。

■居宅療養管理指導(2件)

- ・利用者側の都合がないがしろ気味。
- ・総義歯なので、上下の噛み合わせが合わない。

■デイサービス(17件より抜粋)

- ・もう1回程度サービスを増やしてほしい。
- ・体が不自由なのに皆と同じ事をさせる。
- ・もっとリハビリ重視にしてもらいたかった。
- ・外出などもっと楽しみがほしい。
- ・本人に合った生きがい活動・リハビリがなされていない。
- ・施設へ行っても、ただボーッとしている状態が多く、ヒマつぶしだけ。
- ・つまらない、話し相手がいない。
- ・食事がまずい。

■ショートステイ(14件より抜粋)

- ・予約が2か月も前なので予定が立てられない。急なときは使えない。予約が取れない(キャンセル待ちが多い)。
- ・4泊5日位で利用しているが、実質3日で5日分の支払いになる。
- ・金銭面の負担が大きい。施設によってかなり金額が違う。
- ・日中食堂に集められたり、一日中車いすでの行動に対して自由が無く不満。
- ・家では床ずれができないのに、ショートステイに行くことができる。あざがよくあった。
- ・入浴時の対応。部屋が共同。朝早く起こされる。

■認知症対応型デイサービス(3件)

- ・連絡したことがスタッフに伝わっていない事があり、いい加減なところがある。
- ・利用すると体調がすぐれない。
- ・リハビリとお風呂だけにしてほしい。家族と一緒に過ごしたい。

■小規模多機能型居宅介護(1件)

- ・働いている人がだまってリュックをあけた。

■福祉用具の貸与、購入費の支給(14件より抜粋)

- ・押車が重くて、押すのにつらい様だ。
- ・ベッドを借りた時に不自由な足からしか降りられない方向にセットされてしまった。
- ・病状によっては、指定された用具以外のものが使用したい場合に認められないので、自分で購入する。保険料を支払っていても利用できないケースが多い。
- ・自分にあつた車いすがない。長時間座っても楽な車いすが必要。
- ・メンテナンスに来ない。
- ・レンタル料が高い。じっくりくるものがなかなかない。

- ・費用が高すぎる。

■住宅改修費の支給(11件より抜粋)

- ・料金がかかりすぎる。
- ・指定業者のため、材料・技術が悪くても費用が高く、一般業者の方が材料・技術もよい。
- ・手すりの位置が移動に合っていない。一割負担は苦しい。
- ・改修費の支給をお願いしたが、許可されなかった。
- ・料金の還付まで3か月でなく、せめて1か月にしてほしい。

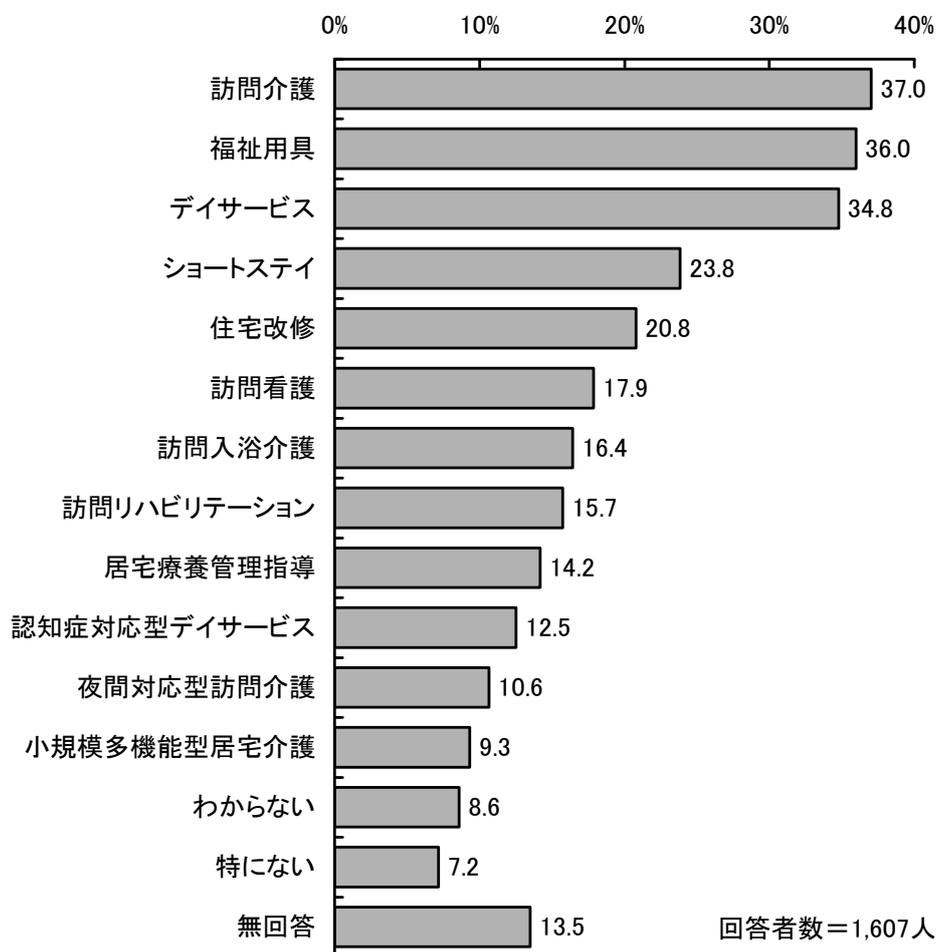
5. 今後の暮らしや介護について

(1) 今後利用したい介護保険サービス

問 23 あなた(あて名のご本人)は、今後、ご自宅で生活するうえで、どのような介護保険サービスを利用したい(し続けたい)と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

今後利用したい介護保険サービスは、「訪問介護」「福祉用具」「デイサービス」が3割を超えている。次いで、「ショートステイ」「住宅改修」が2割台で続いている。

図表4-55 今後利用したい介護保険サービス(複数回答)



世帯構成別にみると、「訪問介護」や「夜間対応型訪問介護」は他に比べてひとり暮らしの人の利用意向が高い。一方、「福祉用具」「デイサービス」や「ショートステイ」は、子どもや孫との同居世帯の人の利用意向が高くなっている。

要介護度別にみると、「訪問介護」「デイサービス」「ショートステイ」は要介護4の人の利用意向がもっとも高く、それぞれ4割を超えている。「福祉用具」は要介護5の人の利用意向がもっとも高く、6割台が希望している。また、「訪問看護」「訪問入浴介護」も要介護5の人の利用意向がもっとも高く、5割近くとなっている。

図表4-56 今後利用したい介護保険サービス

		回答者数(人)	訪問介護	福祉用具	デイサービス	ショートステイ	住宅改修	訪問看護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	認知症対応型デイサービス	夜間対応型訪問介護	小規模多機能型居宅介護	わからない
全体		1,607	37.0	36.0	34.8	23.8	20.8	17.9	16.4	15.7	14.2	12.5	10.6	9.3	8.6
世帯構成別	ひとり暮らし	379	52.5	29.6	33.8	15.8	19.3	15.6	11.1	13.5	12.9	9.5	14.8	7.7	9.0
	夫婦のみ	382	34.6	33.2	30.6	19.6	20.2	16.2	14.9	16.0	12.3	12.8	8.4	9.4	10.2
	子どもと同居	467	33.4	42.2	36.2	28.9	21.0	20.1	20.6	16.5	15.4	15.8	10.1	10.1	7.5
	子どもと孫と同居	233	30.0	42.1	45.9	34.8	24.5	20.6	20.6	18.0	16.3	13.7	10.3	12.4	8.6
	その他	88	30.7	30.7	23.9	26.1	22.7	17.0	18.2	15.9	18.2	9.1	8.0	6.8	6.8
要介護度別	要支援1	270	33.0	22.6	23.7	11.1	16.7	12.2	8.1	11.1	8.1	4.1	6.7	4.4	9.6
	要支援2	240	40.0	28.8	27.5	10.8	19.6	11.7	7.9	12.1	12.1	5.4	5.4	7.1	11.7
	要介護1	306	35.0	30.1	37.6	21.9	20.3	14.1	11.8	10.1	12.7	15.7	11.1	8.2	10.1
	要介護2	219	35.2	31.5	38.8	26.5	20.1	10.5	11.0	9.6	8.2	16.4	9.1	7.8	10.0
	要介護3	188	34.6	51.1	45.7	32.4	23.9	18.6	19.1	21.8	15.4	20.2	10.6	14.4	4.8
	要介護4	168	48.8	52.4	47.0	45.2	30.4	32.1	32.7	29.8	25.0	20.2	18.5	18.5	4.2
	要介護5	130	48.5	63.8	36.9	41.5	22.3	47.7	47.7	32.3	31.5	15.4	20.0	13.1	2.3
	わからない	25	16.0	16.0	8.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0	8.0	0.0	20.0

※「特になし」「無回答」は掲載を省略している

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(2) 今後利用したい介護保険外サービス

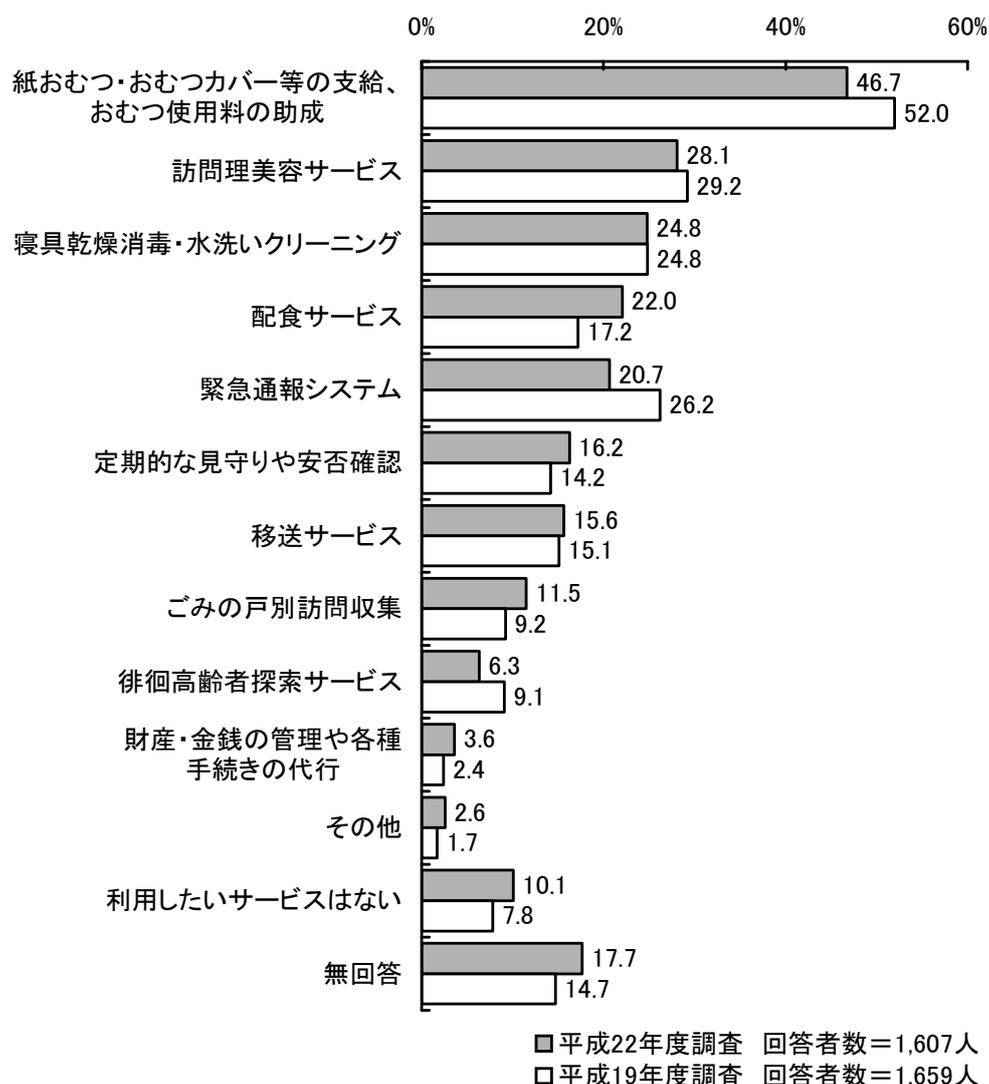
問 24 あなた(あて名のご本人)は、今後、ご自宅で生活するうえで、江戸川区が実施する介護保険以外のサービスについて、利用したいサービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

今後利用したい介護保険外サービスは、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」46.7%がもっとも高い。次いで、「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」「配食サービス」「緊急通報システム」が2割台で続いている。

平成19年度調査結果と比較すると、「配食サービス」(4.8ポイント)、「ごみの戸別訪問収集」(2.3ポイント)、「定期的な見守りや安否確認」(2.0ポイント)などの生活支援サービスを希望する人の割合が増加している。

図表4-57 今後利用したい介護保険外サービス<平成19年度調査との比較>(複数回答)



世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人では「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」に次いで、「緊急通報システム」「配食サービス」が上位3項目であり、それぞれ3割を超える人が希望している。夫婦のみや子どもや孫との同居世帯の人では、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」が5割前後でもっとも高く、「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」と続いている。

要介護度別にみると、要支援1・2の人では、要介護者に比べて「配食サービス」「緊急通報システム」「定期的な見守りや安否確認」「ごみの戸別訪問収集」などの生活支援サービスの意向が高い。要介護3～5の人では、他に比べて「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」「移送サービス」などの介護支援サービスの利用意向が高くなっている。

図表4-58 今後利用したい介護保険外サービス

		回答者数(人)	紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成	訪問理美容サービス	寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング	配食サービス	緊急通報システム	定期的な見守りや安否確認	移送サービス	ごみの戸別訪問収集	徘徊高齢者探索サービス	財産・金銭の管理や各種手続きの代行	その他	利用したいサービスはない	無回答
全体		1,607	46.7	28.1	24.8	22.0	20.7	16.2	15.6	11.5	6.3	3.6	2.6	10.1	17.7
世帯構成別	ひとり暮らし	379	36.4	23.5	26.6	30.6	31.4	24.8	12.1	21.4	5.3	3.2	1.8	10.0	19.0
	夫婦のみ	382	45.3	25.1	24.3	22.3	23.3	15.7	20.2	14.9	5.5	5.5	3.7	7.3	21.2
	子どもと同居	467	52.9	31.0	23.8	18.0	14.1	11.3	15.8	6.4	7.1	3.0	2.8	13.1	14.6
	子どもと孫と同居	233	54.9	36.1	24.5	17.6	13.3	13.3	15.9	2.1	7.3	2.1	1.7	10.7	12.4
	その他	88	46.6	28.4	23.9	19.3	15.9	13.6	11.4	6.8	5.7	2.3	3.4	8.0	22.7
要介護度別	要支援1	270	30.4	18.5	22.6	23.0	24.1	21.1	14.4	14.1	5.6	4.4	1.5	14.8	22.2
	要支援2	240	32.5	20.8	24.6	23.8	25.0	17.1	12.1	17.5	5.8	2.1	1.3	12.1	23.3
	要介護1	306	42.2	25.8	23.2	20.6	18.6	18.3	10.5	16.3	7.5	3.3	5.6	11.8	16.3
	要介護2	219	48.9	27.4	20.5	22.4	17.4	12.8	14.6	7.8	6.4	4.6	3.2	10.0	13.2
	要介護3	188	60.1	30.3	26.1	18.6	20.7	13.3	17.6	5.3	6.9	2.1	2.7	10.6	12.2
	要介護4	168	66.7	50.6	30.4	29.2	20.8	20.2	26.2	10.7	7.7	6.0	1.8	3.0	11.9
	要介護5	130	78.5	43.1	36.2	16.2	20.0	8.5	27.7	4.6	5.4	3.1	1.5	1.5	12.3
	わからない	25	16.0	4.0	8.0	24.0	4.0	8.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	16.0	44.0

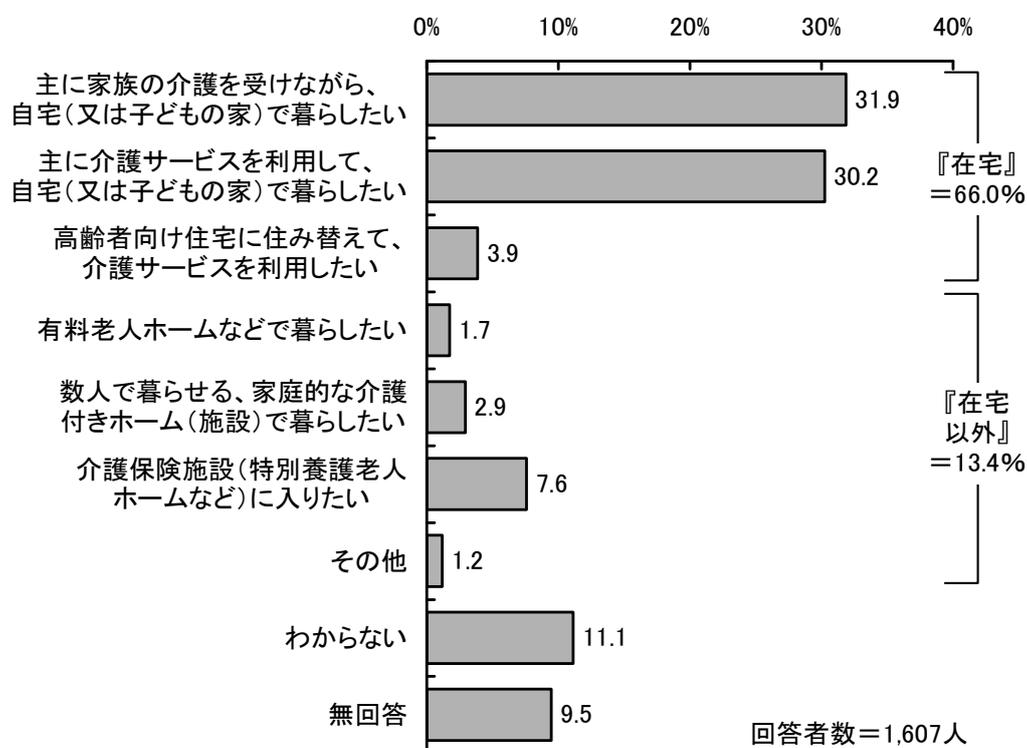
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(3) 今後介護を受けたい場所

問 25 あなた(あて名のご本人)は、今後、介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○)【比較調査 254 参照】

今後介護を受けたい場所をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」31.9%、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」30.2%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」3.9%の順であり、これらをあわせた66.0%が『在宅』での暮らしを希望している。一方、『在宅以外』を希望する割合は13.4%となっている。

図表4-59 今後介護を受けたい場所(単数回答)



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
+ 「その他」

世帯構成別にみると、子どもや孫との同居世帯の人では7割以上が『在宅』を希望しており、なかでも「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が4割を超えている。一方、ひとり暮らしの人では『在宅』希望は5割であり、他に比べて「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」割合が高くなっている。

要介護度別にみると、『在宅』を希望している人の割合は、要介護1～5の人では7割前後を占めている。また、要介護4・5の人では1割強が「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」と希望しており、他の介護度に比べて高い割合となっている。

図表4-60 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,607	31.9	30.2	3.9	1.7	2.9	7.6	1.2	11.1	9.5	66.0	13.4
世帯構成別	ひとり暮らし	379	14.2	30.9	6.6	1.8	5.5	12.1	1.6	16.9	10.3	51.7	21.0
	夫婦のみ	382	32.2	29.3	5.5	2.6	1.8	7.1	0.5	9.7	11.3	67.0	12.0
	子どもと同居	467	41.5	30.6	1.7	1.3	1.9	4.7	1.5	9.2	7.5	73.8	9.4
	子どもと孫と同居	233	42.9	31.8	1.3	0.9	2.1	6.4	0.4	7.7	6.4	76.0	9.8
	その他	88	23.9	25.0	4.5	1.1	3.4	12.5	3.4	12.5	13.6	53.4	20.4
要介護度別	要支援1	270	27.0	26.7	5.9	1.1	5.2	6.7	0.7	16.7	10.0	59.6	13.7
	要支援2	240	17.9	35.0	5.0	3.8	5.8	5.0	0.4	15.0	12.1	57.9	15.0
	要介護1	306	36.6	27.1	5.6	2.0	2.0	7.2	2.6	8.8	8.2	69.3	13.8
	要介護2	219	35.6	33.3	1.8	1.8	1.4	8.7	1.4	7.3	8.7	70.7	13.3
	要介護3	188	38.3	33.0	2.7	1.1	2.1	6.9	0.0	9.0	6.9	74.0	10.1
	要介護4	168	37.5	31.0	2.4	0.6	1.8	11.9	1.2	5.4	8.3	70.9	15.5
	要介護5	130	36.2	34.6	1.5	0.8	0.8	11.5	1.5	6.2	6.9	72.3	14.6
	わからない	25	16.0	16.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	40.0	20.0	32.0	8.0

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

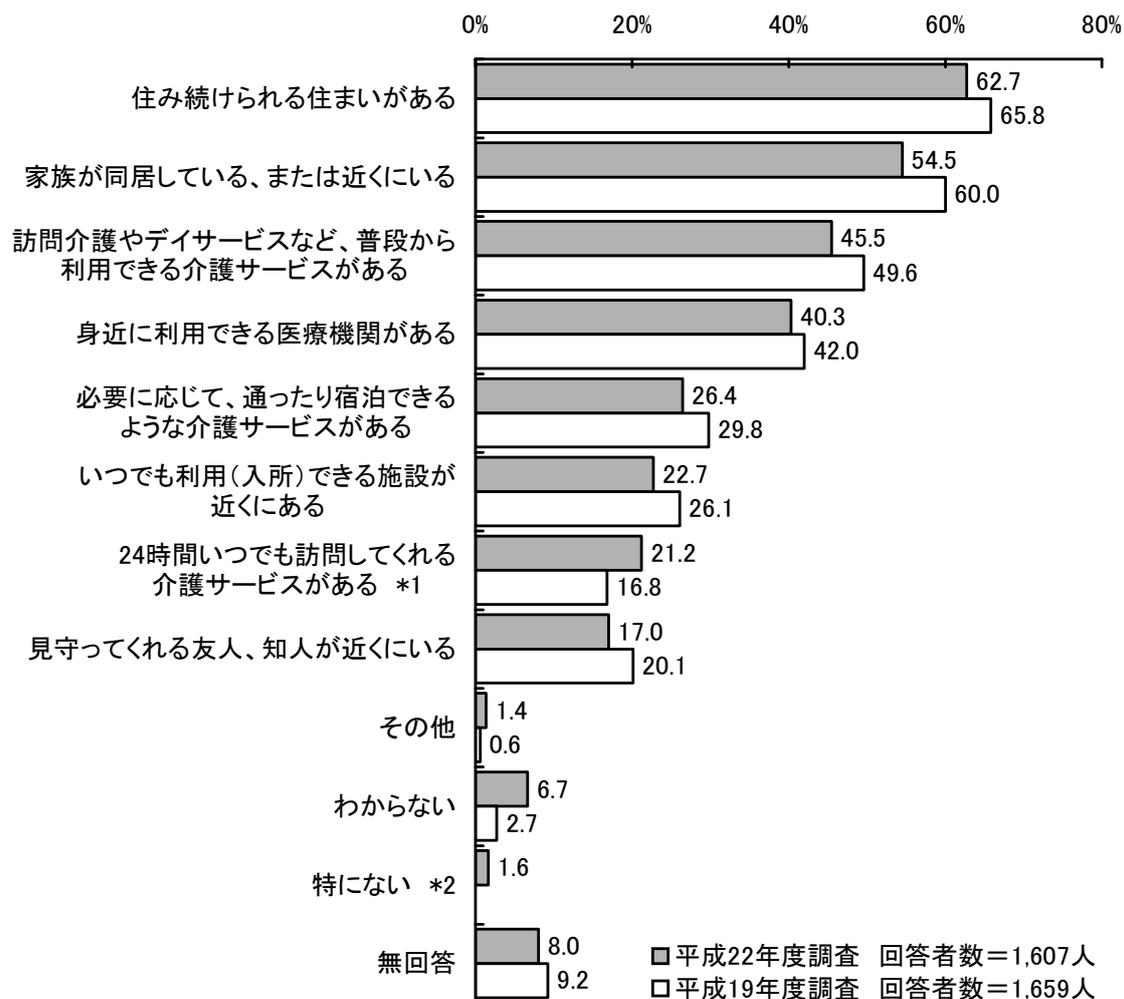
問 26 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うこととしては、「住み続けられる住まいがある」62.7%がもっとも高い。次いで、「家族が同居している、または近くにいる」が5割台、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」「身近に利用できる医療機関がある」が4割台と続いている。

平成19年度調査結果と比較すると、「24時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある」(平成19年度調査では「夜間でも訪問してくれる介護サービスがある」)を除いて、割合は減少している。

図表4-61 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと<平成19年度調査との比較>(複数回答)



※*1 の選択肢は平成19年度調査では「夜間でも訪問してくれる介護サービスがある」

※*2 「特にない」の選択肢は平成22年度調査のみ

(5) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

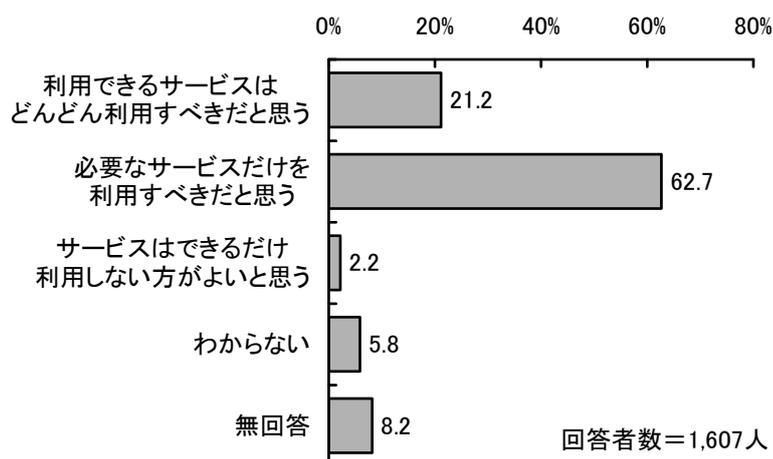
問 27 あなたは、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

問 28 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)【比較調査 256 参照】

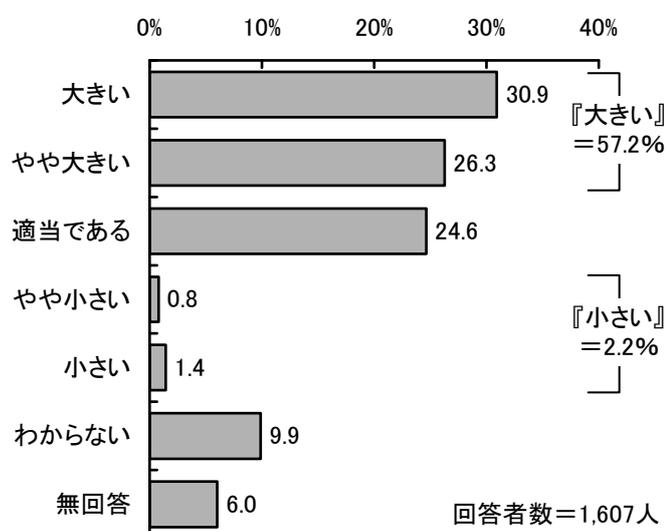
介護保険サービスの利用に対する考えをみると、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が 62.7%を占める。「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」は 21.2%、「サービスはできるだけ利用しない方がよいと思う」は 2.2%となっている。

介護保険料の家計への影響は、「大きい」30.9%、「やや大きい」26.3%をあわせた 57.2%が『大きい』と回答している。「適当である」と回答したのは、24.6%で約 4 人に 1 人となっている。

図表4-62 介護保険サービスの利用に対する考え(単数回答)



図表4-63 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』=「大きい」+「やや大きい」

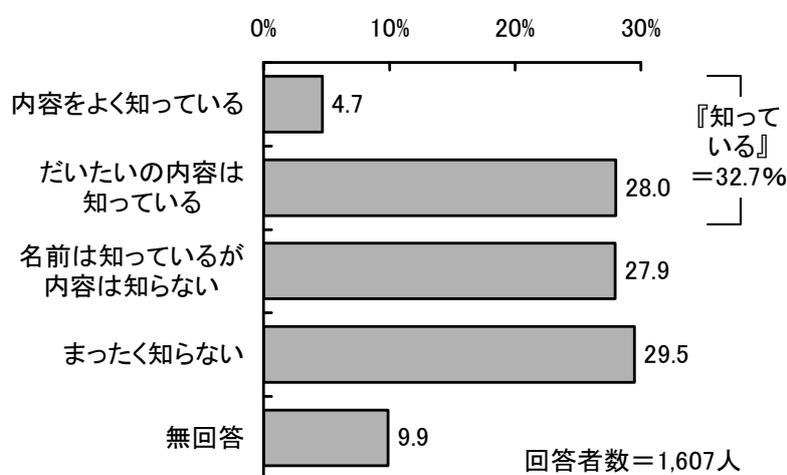
※『小さい』=「やや小さい」+「小さい」

(6) 地域包括支援センターの認知度

問 29 あなた(あて名のご本人)は、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターの認知度をみると、「内容をよく知っている」4.7%、「だいたいの内容は知っている」28.0%をあわせた32.7%が『知っている』と回答している。「名前は知っているが内容は知らない」は27.9%、「まったく知らない」は29.5%となっている。

図表4-64 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

(7) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 29 で 1~3 に○)におうかがいします。

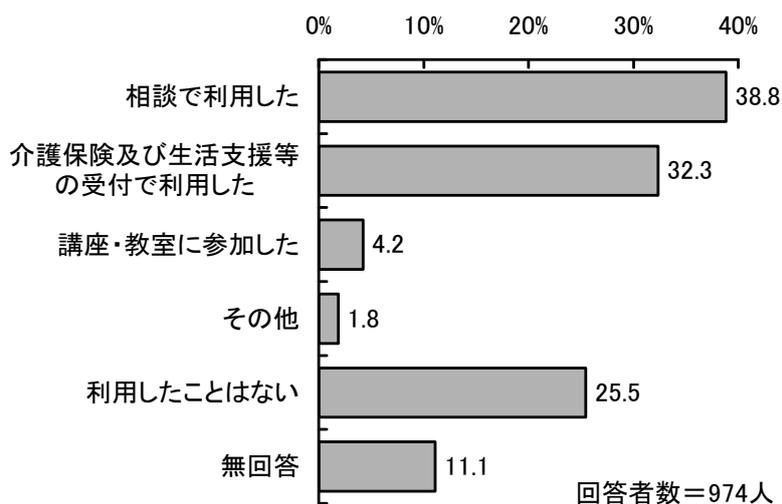
問 29-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 29-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

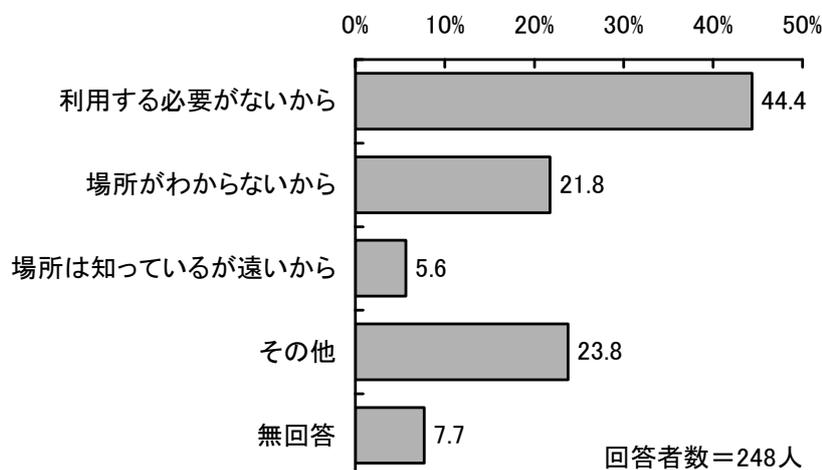
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「相談で利用した」38.8%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」32.3%であり、「利用したことはない」は25.5%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が44.4%、「場所がわからないから」21.8%、「場所は知っているが遠いから」5.6%となっている。

図表4-65 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表4-66 利用したことがない理由(複数回答)



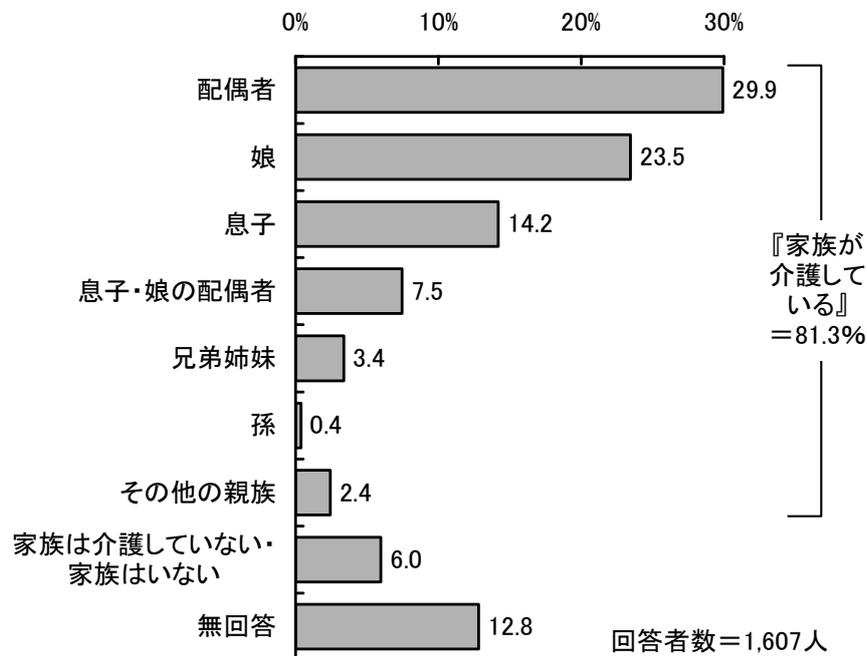
6. 介護者の状況について

(1) 家族介護の状況

問 32 現在、あて名のご本人を主に介護しているご家族(同居・別居問わず)は、あて名のご本人からみてどなたにあたりますか。(主な介護者ひとりに○)

家族介護の状況を見ると、『家族が介護している』が81.3%を占める。具体的な介護者は、「配偶者」29.9%に次いで、「娘」23.5%、「息子」14.2%、「息子・娘の配偶者」7.5%の順となっている。

図表4-67 家族介護の状況(単数回答)



※『家族が介護している』 = 「配偶者」 + 「娘」 + 「息子」 + 「息子・娘の配偶者」
+ 「兄弟姉妹」 + 「孫」 + 「その他の親族」

世帯構成別にみると、夫婦のみの人の介護者は「配偶者」が7割を超えている。子どもや孫との同居世帯の人では「配偶者」は2割台になり、「娘」「息子」「息子・娘の配偶者」の割合が高くなっている。ひとり暮らしの人では『家族が介護している』は約6割と他より低く、介護者は「娘」がもっとも高い。

図表4-68 家族介護の状況

		回答者数(人)	配偶者	娘	息子	息子・娘の配偶者	兄弟姉妹	孫	その他の親族	家族は介護していない・家族はいない	無回答	『家族が介護している』
全体		1,607	29.9	23.5	14.2	7.5	3.4	0.4	2.4	6.0	12.8	81.3
世帯構成別	ひとり暮らし	379	0.0	27.2	15.6	5.3	7.1	0.3	5.3	16.4	23.0	60.8
	夫婦のみ	382	72.3	10.2	1.6	0.5	0.3	0.0	0.5	3.7	11.0	85.4
	子どもと同居	467	24.0	28.7	24.2	8.8	1.3	0.2	1.1	2.1	9.6	88.3
	子どもと孫と同居	233	25.3	32.6	12.9	21.0	0.4	1.3	1.3	0.4	4.7	94.8
	その他	88	15.9	11.4	13.6	6.8	20.5	1.1	10.2	6.8	13.6	79.5

※『家族が介護している』＝「配偶者」＋「娘」＋「息子」＋「息子・娘の配偶者」＋「兄弟姉妹」＋「孫」＋「その他の親族」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(2) 主な介護者の年齢

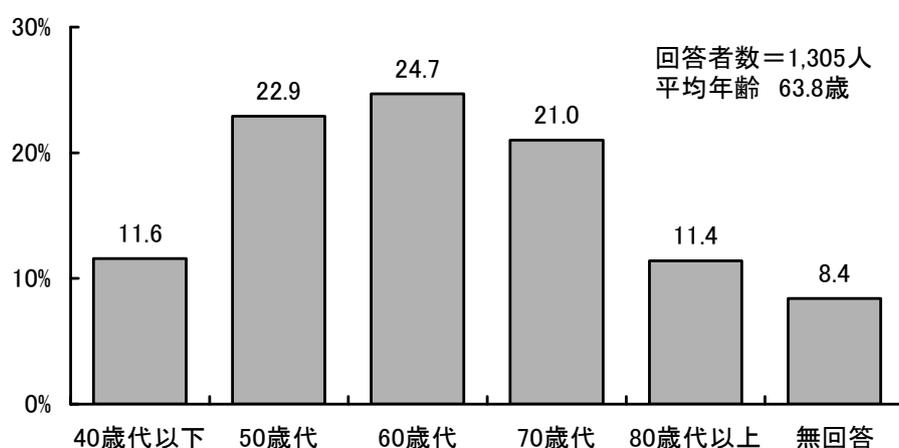
介護をしている方(問 32 で 1～7 に○)におうかがいします。

問 32-1 あて名のご本人を主に介護している方の年齢をお教えてください。

主な介護者の年齢は、「60 歳代」が 24.7%を占め、平均年齢は 63.8 歳となっている。

主な介護者別にみると、主な介護者が配偶者の場合の平均年齢は 75.7 歳であり、息子、娘、息子・娘の配偶者の場合には 50 歳代となっている。

図表4-69 主な介護者の年齢(単数回答)



図表4-70 主な介護者の年齢

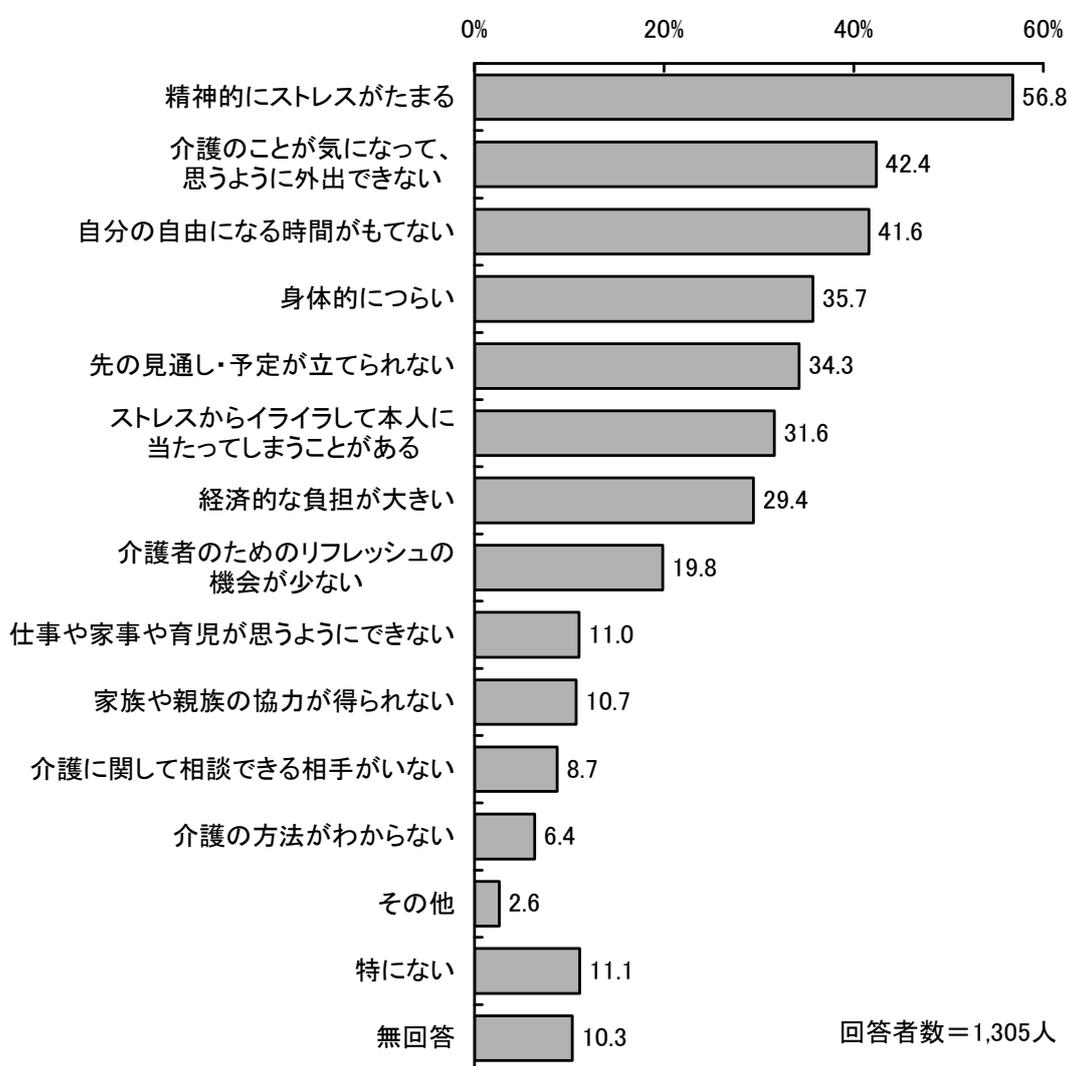
		回答者数(人)	40歳代以下	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	無回答	平均年齢(歳)
全体		1,305	11.6	22.9	24.7	21.0	11.4	8.4	63.8
主な介護者別	配偶者	481	0.0	0.4	17.7	45.7	28.3	7.9	75.7
	息子	228	20.2	38.2	31.1	3.5	0.4	6.6	56.1
	娘	377	20.7	38.2	27.1	4.0	0.5	9.5	55.0
	息子・娘の配偶者	120	15.8	36.7	35.8	3.3	2.5	5.8	58.0
	孫	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.8
	兄弟姉妹	54	1.9	7.4	27.8	37.0	7.4	18.5	68.3
	その他の親族	39	2.6	46.2	15.4	17.9	7.7	10.3	62.9

(3) 介護をするうえで困ること

問 32-2 介護をしていくうえで、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護をするうえで困ることとしては、「精神的にストレスがたまる」56.8%がもっとも高く、次いで「介護のことが気になって、思うように外出できない」「自分の自由になる時間がもてない」が4割台、「身体的につらい」「先の見通し・予定が立てられない」「ストレスからイライラして本人に当たってしまうことがある」が3割台で続いている。

図表4-71 介護をするうえで困ること(複数回答)

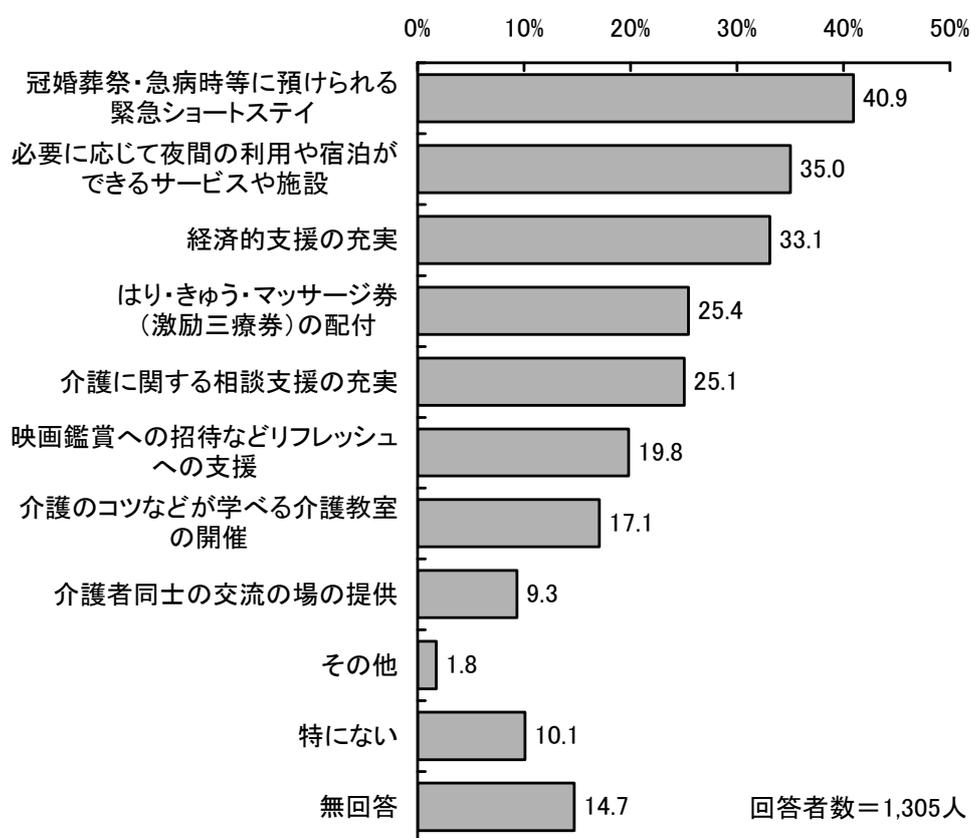


(4) 介護者にとって必要な支援

問 32-3 介護をしているご家族に対して、どのような支援やサービスがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護者にとって必要な支援は、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」40.9%がもっとも高く、次いで「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」35.0%、「経済的支援の充実」33.1%が3割を超え続いている。

図表4-72 介護者にとって必要な支援(複数回答)



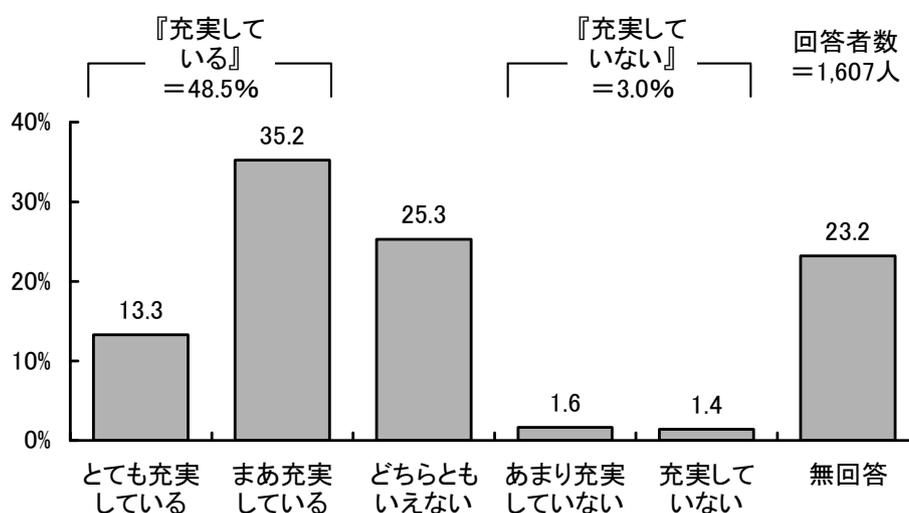
7. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

問 30 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。
(1つに○)【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」13.3%、「まあ充実している」35.2%をあわせた『充実している』が48.5%と半数近くを占める。「あまり充実していない」1.6%、「充実していない」1.4%をあわせた『充実していない』は3.0%であった。

図表4-73 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：29件より抜粋して記載)

- ・ 普段利用していない者が、1日1~2回の胃ろうをお願いしても、手が足りず断られたことが何度もあり、残念に思った。
- ・ 年金で2人で生活をしなければならぬ。週5日デイサービスに行くと持ち出しが大きく不安。
- ・ 家族が相談したくても、どこに相談してよいかわかりづらい。
- ・ 介護保険に加入していても、胃ろうや点液をしている利用者はサービスさえも断られる。
- ・ 特別養護老人ホームが少ない。
- ・ 公的施設にはほとんど入所できない。

要介護度別にみると、概ね介護度が高くなるに従って、『充実している』と回答した人の割合も高くなっており、要介護5の人では6割台を占めている。

図表4-74 区の熟年者施策の充実度

		回答者数(人)	とても充実している	まあ充実している	どちらともいえない	あまり充実していない	充実していない	無回答	『充実している』	『充実していない』
全 体		1,607	13.3	35.2	25.3	1.6	1.4	23.2	48.5	3.0
要介護度別	要支援1	270	12.2	31.9	24.4	1.9	2.6	27.0	44.1	4.5
	要支援2	240	10.8	33.8	25.0	1.3	1.7	27.5	44.6	3.0
	要介護1	306	10.5	36.6	29.1	1.3	1.0	21.6	47.1	2.3
	要介護2	219	13.7	38.8	24.2	1.8	0.5	21.0	52.5	2.3
	要介護3	188	14.9	35.1	28.2	1.6	1.1	19.1	50.0	2.7
	要介護4	168	14.3	38.7	27.4	1.2	1.2	17.3	53.0	2.4
	要介護5	130	20.0	41.5	17.7	2.3	1.5	16.9	61.5	3.8
	わからない	25	20.0	12.0	20.0	4.0	4.0	40.0	32.0	8.0

※『充実している』＝「とても充実している」＋「まあ充実している」

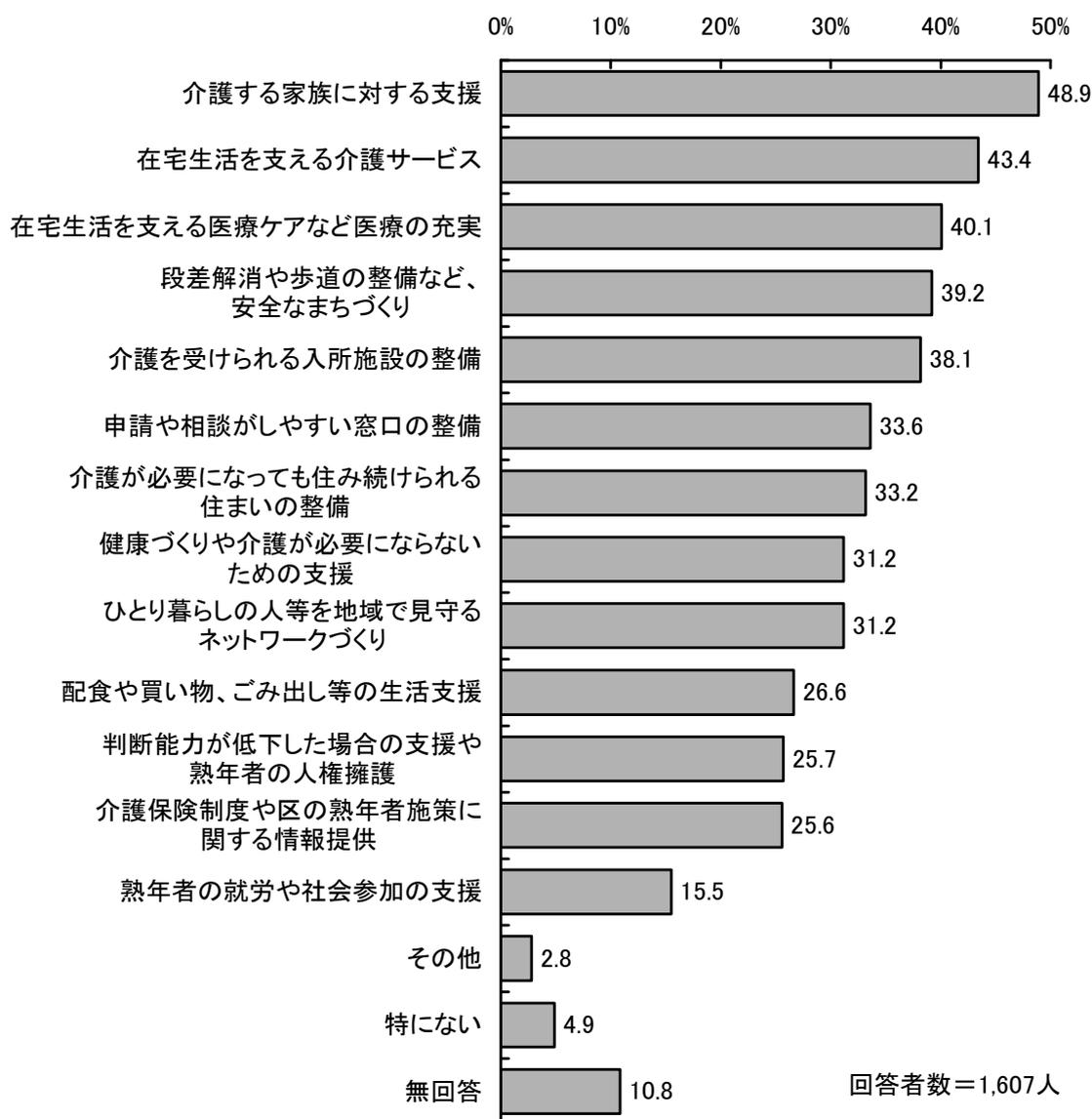
※『充実していない』＝「あまり充実していない」＋「充実していない」

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 31 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」「在宅生活を支える介護サービス」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」が上位3項目であり、それぞれ4割以上の人からあげられている。次いで、「段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり」「介護を受けられる入所施設の整備」が続いている。

図表4-75 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



(3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(486 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援に対する意見・要望(230 件より抜粋)

- ・介護保険を利用し始めてから 1 か月程だが、もっと利用しやすいシステムにしてほしい。最初のうちはシステムがわかりづらく、なかなか利用するふんざりがつかなかった。
- ・この先寝たきり、車いす等になった場合、24 時間とまでいかななくても安心して預けたり、家に誰か手伝いに来てもらえるのか、生活費、医療費のことなど不安はとても大きい。
- ・全般的に介護支援制度は充実していると思うが、利用者の増加に伴い、必ず利用料の増加や制限の増大があるのではと思っている。
- ・介護認定や役所の申し込みの回答が遅すぎる。これが遅れたため症状が悪化した。
- ・介護度の認定の基準がおかしいと思う。当初認知症の症状が出ていて、幻覚・幻聴があったりしたのに、日常的な事はほぼできるというので、わかってもらうのに苦労した。認定の方法をもっと広い目で見えて、変えてほしい。
- ・どのような形で本人がいくら利用しているか説明をうけてもわからない。ポイントと言われても、それが何のことだかわからない。年齢的にわかりやすい説明を考えてほしい。
- ・書類、契約書等はできるだけ減らしてほしい。介護で忙しく、いろいろな書類が多くわずらわしいことがあるので。
- ・介護サービスをもっとわかりやすくしてほしい。
- ・何かあった時にすぐ相談できる窓口があったらと思う。
- ・緊急時に相談にのってもらえたり、往診もより利用しやすくする仕組みがあるとよい。
- ・介護や認知症に関する情報など、広報に載せてほしい。
- ・身近にサービスが必要なのに、情報を全然得られないでいる人がいるので、ある程度は区などから高齢者に働きかけることが必要だと思う。
- ・ヘルパーさんの買い物の時に、お花を買ってきてもらえない。
- ・一見すると元気そうに見えるが、掃除機等が使えず、自分自身もどかしく感じる。1 回 1 時間、お手伝いくださるのはありがたいが、時間が少ないと思う。
- ・住宅改修費や介護用具の支給が遅い。間に合わないのので立て替えて支払っておくが、その間の生活が苦しいのが現状。もっとスピーディーに対処してほしい。
- ・短い時間、ちょっと声をかけ様子をみてくれるようなサービスを気軽に使えるとよい。
- ・夜間の見守り等がほしい。
- ・デイサービスの食事の負担が大きいので、食事負担の補助がほしい。
- ・現在デイサービスへリハビリに通っているが、時間が決められてしまっているので、ある程度融通のきく施設があればいいと思う。
- ・緊急時にはすぐに預けられる施設があるとよいのだが。
- ・ショートステイが希望通り取れない事が多くなってきて、急な用事ができても使えない。介護度の高い家庭のショートステイ、夜間の対応サービスを優先してほしい。
- ・母は胃ろうのため、ショートステイ利用が制限されている。日曜日等も利用できるようにしてほしい。
- ・ショートステイを利用時、6 か月先の日程に合わせなくてはならないので、不自由に感じる。
- ・これから家庭での生活ができなくなった場合、年金収入の少ない我々にも安い費用で老人ホームに入所できるようにしてほしい。

- ・現在1人で暮らしているが、先行きを考えると心細いので、自由に動けなくなったらすぐ入所できる特別養護老人ホームなどがあると心強い。
- ・低所得者に充実した施設がもっとほしい。特別養護老人ホームを希望するが、何年も入れず、家族がいない者にはもう少し早めに入所できる様、お願いしたい。
- ・近くに費用の安い老人ホームができればよいと思う。
- ・胃ろう等病気があると入れる施設が余りにも少なく、金銭的にも絶対無理なところばかりだった。医療型の老人ホームを充実させてほしい。
- ・認知症になった人を受け入れてくれる施設がもっとたくさんほしい。
- ・紙おむつの支給、大変助かっている。これからも利用させてほしい。
- ・ケアマネジャーやホームヘルパーの質が悪い。ほとんど働かないホームヘルパーが多い。もっと介護される側の事を見てあげてほしい。
- ・いずれ後見人制度のお世話になるのかと思うが、時に不祥事もあるようで心配。安心して利用できるようにしてほしい。
- ・福祉事業の従業員に対するあらゆる面での待遇をよくすること。区の政策に取り入れ改善することを切に希望する。
- ・マニュアルにこだわらず、人として対処してほしい。苦情をよけるために一律な対応は不便を感じるし、不快な面もある。
- ・介護サービスのスタッフの介護者への心遣いも教育してほしい。

【2】生活支援、外出・通院支援、地域の見守り等に対する意見・要望(21件より抜粋)

- ・昼食や夕食のサービス(有料)が充実するとありがたい。
- ・低価格で、塩分やカロリーが計算されたお弁当の提供をしてもらいたい。
- ・ヘルパーさんにガラスふきその他家事の雑用、電球取り替え等してもらえない。介護する私も体調が悪いので困っている。
- ・通院等のタクシーサービス(補助)があると助かる。
- ・外出の時、車いすを押してくださるボランティアの方がいれば、安心して外出ができる。
- ・日中、家に独りでいる人に話し相手が訪問してくれるといいと思う。
- ・これから介護保険を使う人がどんどん増えるので、家事援助は地域で助け合う仕組みをつくってほしい。

【3】介護、介護者への支援に対する意見・要望(72件より抜粋)

- ・介護をしている家族に少しでも経済支援をお願いしたい。
- ・映画鑑賞や、はり・きゅう等は重度の介護をしている者にはなかなか出られない。商品券みたいなものがよい。
- ・激励三療券のほかに理容券もつくってほしい。
- ・冠婚葬祭など、急な外出時に対応できる緊急ショートステイがあるとありがたい。
- ・介護者が泊りがけの外出ができない。1泊が簡単に泊まれる宿泊施設(要介護者用)を。
- ・介護者の入院等において、預ける場所がない。老老介護が増えるにつれて、このような対策を考えてほしい。
- ・現在デイサービスを受けているが、時間が9:30~4:30までなので、夕食まで食べて7:00頃帰って来る時間の長いデイサービスをつくってほしい。
- ・先の見えない介護には大変不安がある。訪問医、看護師等が来てくれたときに介護をする側も健康診断してもらえたら助かる。
- ・介護する人と介護される人、介護スタッフが同時に(一緒に)楽しめるレクリエーションの場(鑑賞、親睦会他)を設けてほしい。

- ・介護と仕事をしているので、介護者同士の茶話会や交流の場は、ほとんど平日で行けない。せめて、土曜日に行ってもらいたい。
- ・施設の入居手続きや本人を搬送する際、介護者は会社を休まざるを得なかった。土・日曜日でも対応できるようにしてほしい。
- ・認知症の家族を支えている者にとって、時間をかけて話を聞いてくれる場所があるとよい。区の無料法律相談も、電話予約できるとうれしい。

【4】保健医療福祉施策に対する意見・要望(76件より抜粋)

- ・緊急時の医療体制を充実してほしい。
- ・夜間でも診察してくださる個人的な医療機関が多くできることを望む。
- ・高齢者の親が病気になった時に通院するのが困難である。江戸川区は往診してくれる医療機関がほとんどない。医師会にどんどん協力依頼をすべきである。
- ・大学病院を誘致することも必要。病院が少なすぎる。
- ・江戸川区はすべてにおいて、高齢者、子どもに対して手厚くやってくれていると思う。
- ・認知症の診断と治療のできる診療所を増やしてほしい。
- ・ネット環境が整っていない家庭や、若年層がいない家の人は、利用方法がわからなかったり、サービス等を知らないことがあると思うので、不利のない情報提供をしてほしい。
- ・窓口手続きや相談に行った時など、親切にしていただけるととてもうれしい。
- ・提出書類が様々で、縦割り行政で困っている。
- ・休日にも行政窓口を開いてほしい。
- ・本人が突然病気になり、年金以外の収入が途絶えた場合、前年度の収入に対する税金など納税に対する軽減の手立てを用意してほしい。

【5】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(3件より抜粋)

- ・高齢者も何か生産・販売し、少しの収入でも得られるようにする。このような政策があれば、喜びになり元気になっていくのではないかな？
- ・同年代の人との交流がなく、ひとり暮らしの方とお話できる場所があればと思う。また、未亡人になった人の集いがあると聞いたが、どこにあるのか教えてほしい。

【6】健康づくり・介護予防について(2件)

- ・介護において食事はとても重要なので、手早く簡単においしくつくれる「糖尿病予防の料理講座」があればと思う。
- ・自分の認知症への不安が高まっている。予防方法や、健診（脳ドック等）の充実を期待する。

【7】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(31件より抜粋)

- ・散歩するため、公園、河川敷等の整備・充実を。
- ・健康のため散歩するが（杖使用）、疲れた時に休める場所、イス等がほしいと思う。近所に全然ない。
- ・車いす用のトイレに、大人のおむつ交換ができるベッドを増やしてほしい。
- ・公共の身体障害者用の場所だけでなく、トイレの便器を高くしてほしい。老人は膝に負担がかかるので。
- ・スーパー等の店舗は幅が狭い所が多いので、シルバーカーを使ってゆっくり歩ける位の広さの店が増えるといい。
- ・道路がデコボコだったりして危ないので、バリアフリーをもっと取り入れてほしい。

- ・ 区内を走るコミュニティバスがあれば通院等に便利になると思う。
- ・ 駅のエスカレーターは下りがないので、手すりにつかまって一段ずつ降りることが不自由で困っている。
- ・ 駅前通りにとめてある自転車が、ひどい時には2列になっていて車いすが通れない。駅前に立派な駐輪場があるのだから、もう少し有効利用を考えてほしい。

【8】その他(51件より抜粋)

- ・ この先、病気がもっと進んだ時のことを考えるととても心配。
- ・ 一人ひとりが身体に気をつけて自分ができることをする。前向きな生活をしていくつもりなので、皆様の手助けを望む。
- ・ アンケートの量が多すぎる。もう少し簡単にしてほしい。高齢者自身が記入する場合は大変な作業だった。

第 5 章

区民向け4調査間の 比較結果

※区民を対象とした4調査間の比較結果では、各調査名を下記のとおり省略して表記する。

「健康と生きがいに関する調査」	⇒【 団 塊 調 査 】
「熟年者の健康と生きがいに関する調査」	⇒【 一般高齢者調査 】
「介護予防に関する調査」	⇒【 介護予防調査 】
「介護保険サービス利用に関する調査」	⇒【 利用者調査 】

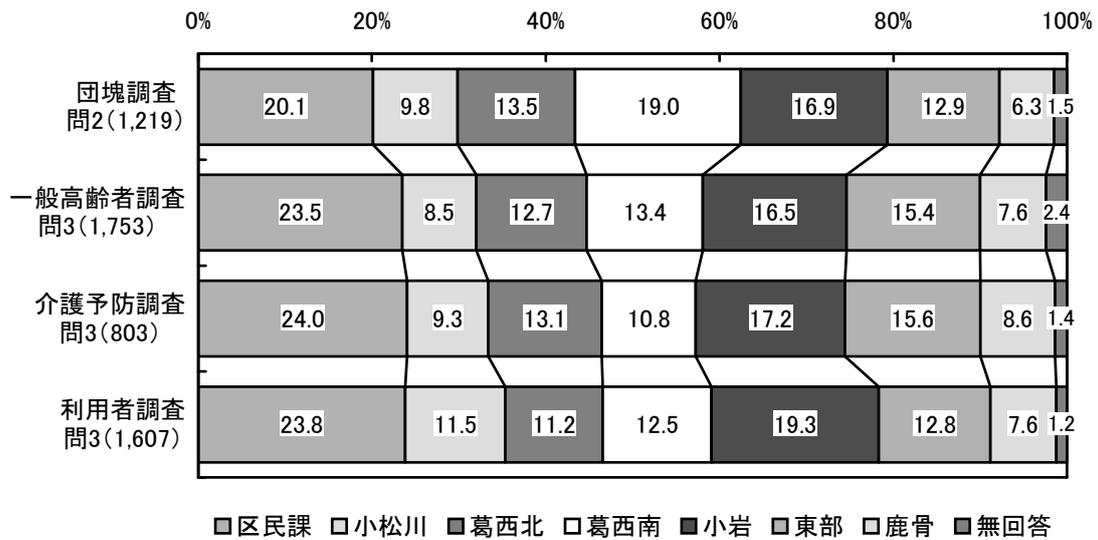
1. 基本的属性

(1)居住地(日常生活圏域)

【団塊調査】は、【一般高齢者調査】に比べて「葛西南」居住者の割合が高い。

【介護予防調査】【利用者調査】は、【一般高齢者調査】に比べて「小松川」「小岩」居住者の割合が高くなっている。

図表5-1 居住地(日常生活圏域)



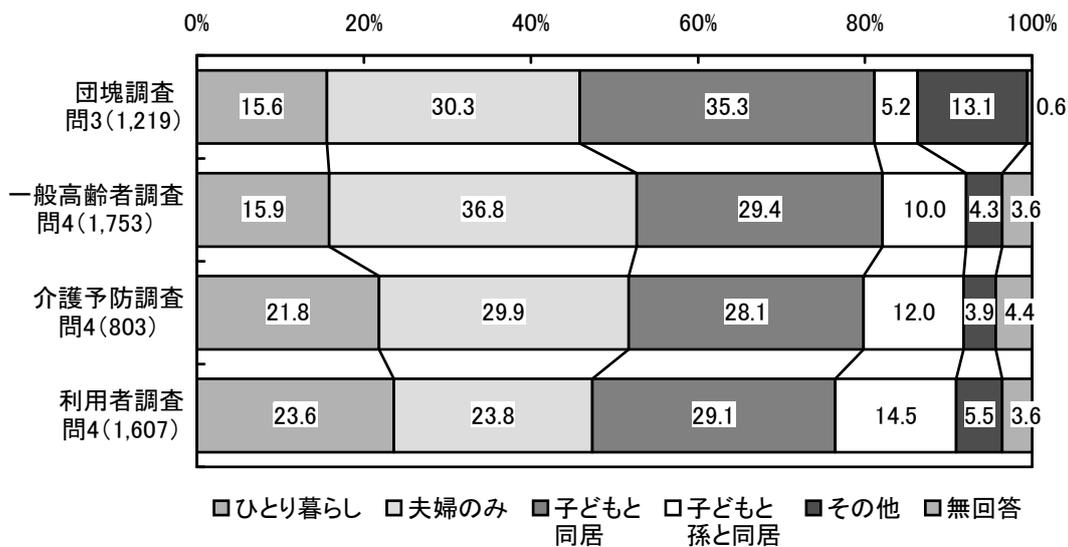
※ () は回答者数

(2) 世帯構成

【団塊調査】と【利用者調査】は「子どもと同居」、【一般高齢者調査】と【介護予防調査】は「夫婦のみ」の割合がそれぞれもっとも高い。

また、「ひとり暮らし」の割合は、【団塊調査】と【一般高齢者調査】では1割台であるのに対し、【介護予防調査】と【利用者調査】では2割を超える。

図表5-2 世帯構成



※ () は回答者数

※ 「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

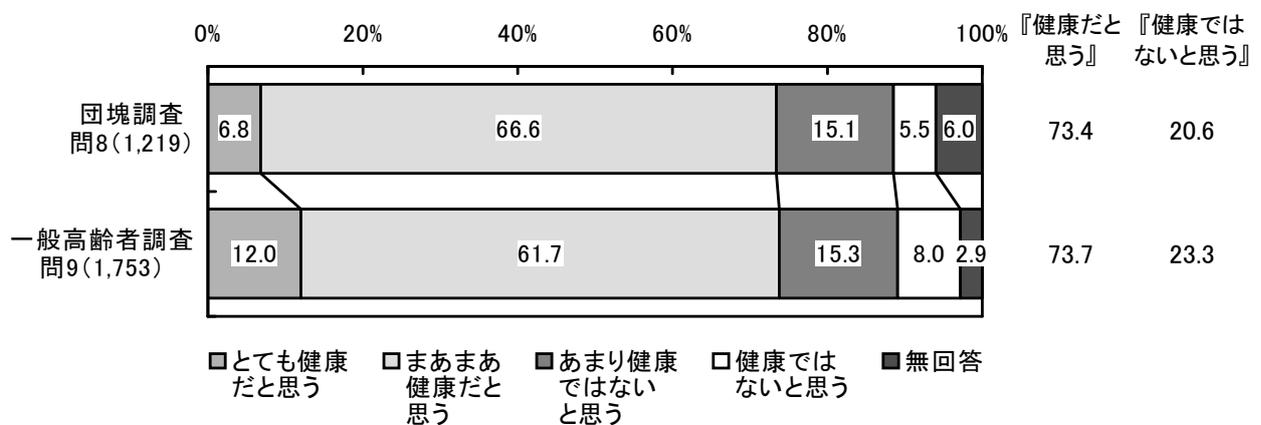
2. 健康・介護予防について

(1)健康状態

『健康だと思う』割合は、【団塊調査】73.4%、【一般高齢者調査】73.7%と、結果にほとんど差はないが、【一般高齢者調査】は【団塊調査】に比べて「とても健康だと思う」と回答した人の割合が高い。

一方、『健康ではないと思う』と回答した人の割合は、【団塊調査】20.6%、【一般高齢者調査】23.3%であり、【一般高齢者調査】の方が2.7ポイント高くなっている。

図表5-3 健康状態



※ () は回答者数

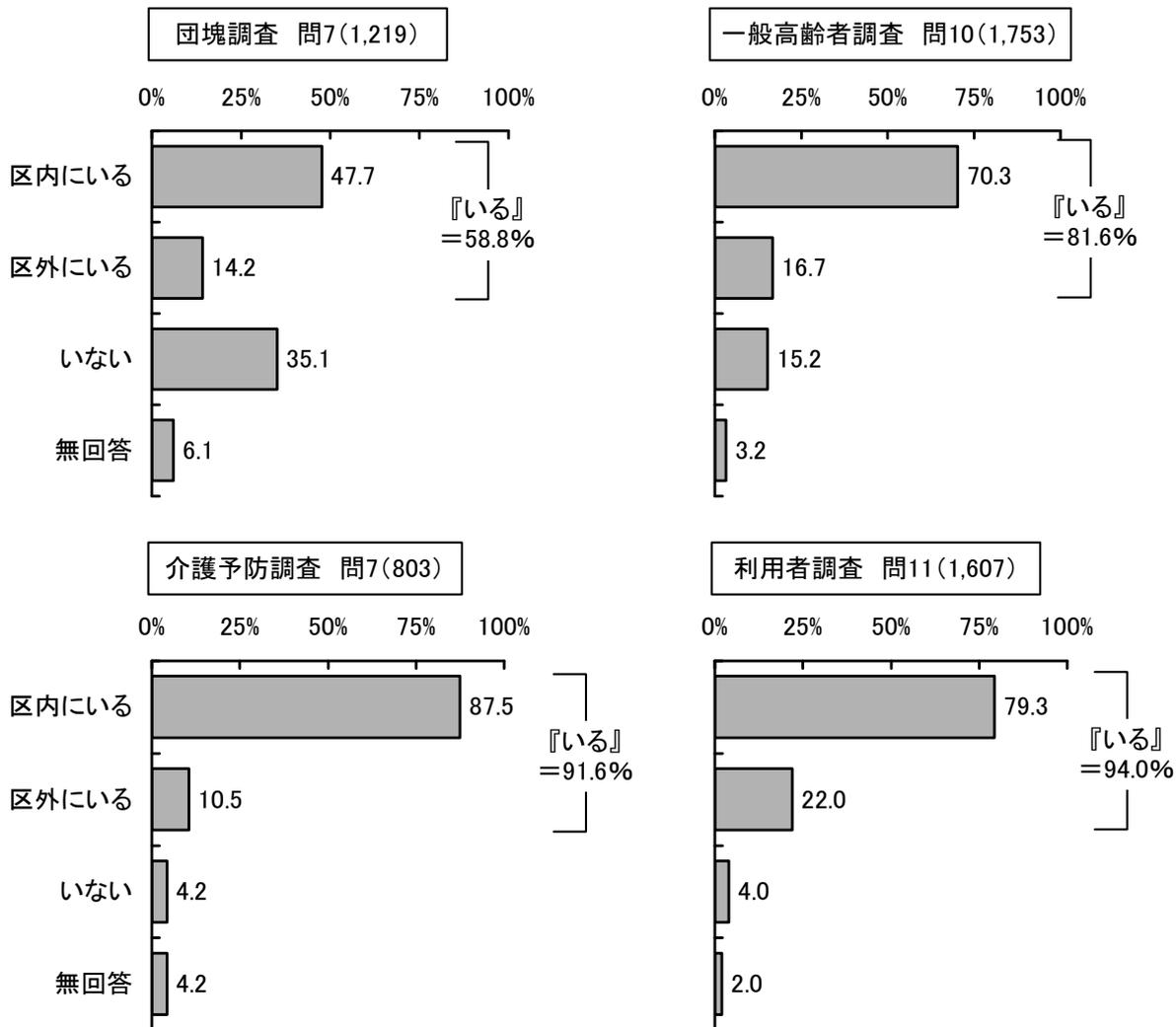
※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

(2) かかりつけ医の有無

かかりつけ医が「いる」割合は、【団塊調査】は5割台、【一般高齢者調査】は8割台、【介護予防調査】と【利用者調査】は9割台となっている。

図表5-4 かかりつけ医の有無



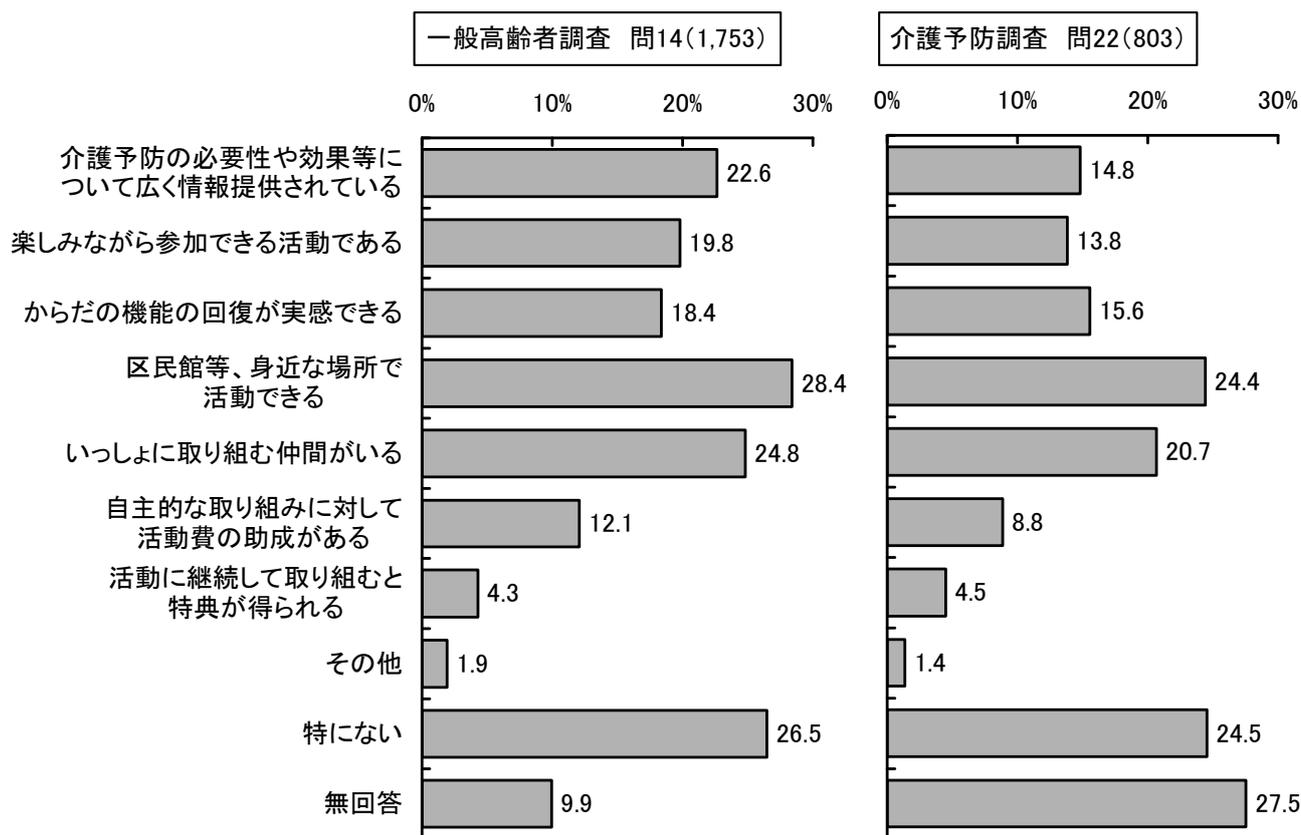
※ () は回答者数

※ 『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

(3) 介護予防に取り組みやすくするための条件

【一般高齢者調査】【介護予防調査】とも、「区民館等、身近な場所で活動できる」「いっしょに取り組む仲間がいる」が上位2項目である。次いで、【一般高齢者調査】では「介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている」が、【介護予防調査】では「からだの機能の回復が実感できる」がそれぞれ第3位となっている。

図表5-5 介護予防に取り組みやすくするための条件



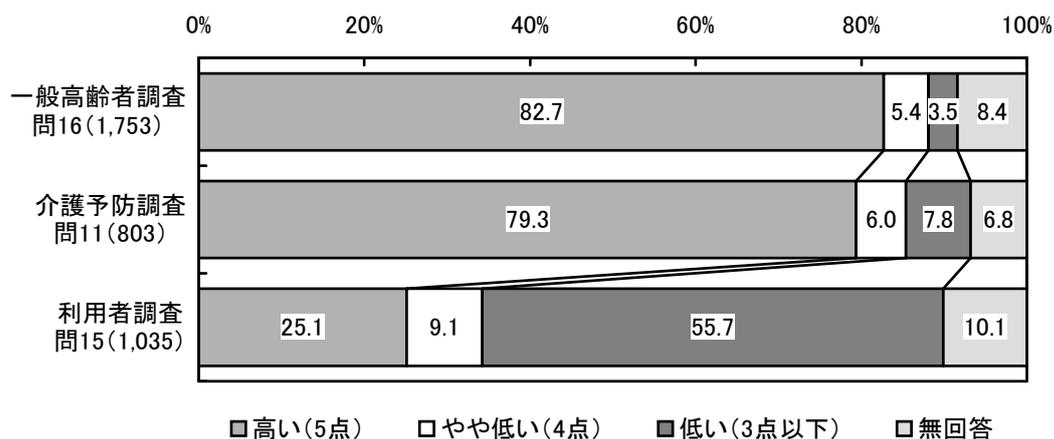
※ () は回答者数

3. 日常生活の状況について

(1) 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

手段的日常生活動作 (IADL) については、【一般高齢者調査】と【介護予防調査】では「高い (5点)」が8割前後を占めるが、【利用者調査】では2割台であり、「低い (3点以下)」が55.7%と過半数を占める。

図表5-6 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度



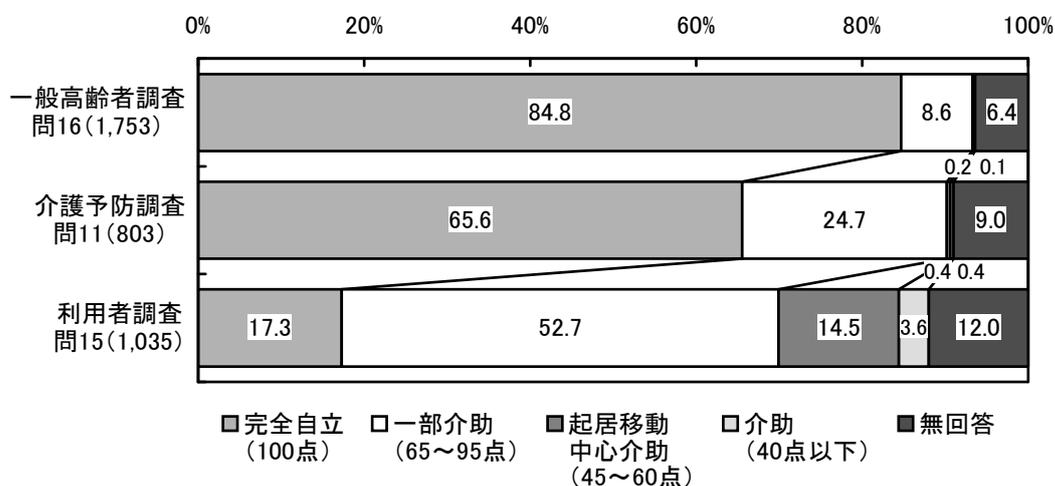
※ () は回答者数

(2) 日常生活動作 (ADL) の自立度

日常生活動作 (ADL) については、【一般高齢者調査】では8割台、【介護予防調査】では6割台が「完全自立 (100点)」となっている。

一方、【利用者調査】では「完全自立 (100点)」は1割台であり、「一部介助 (65~95点)」が52.7%、「起居移動中心介助 (45~60点)」が14.5%となっている。

図表5-7 日常生活動作 (ADL) の自立度



※ () は回答者数

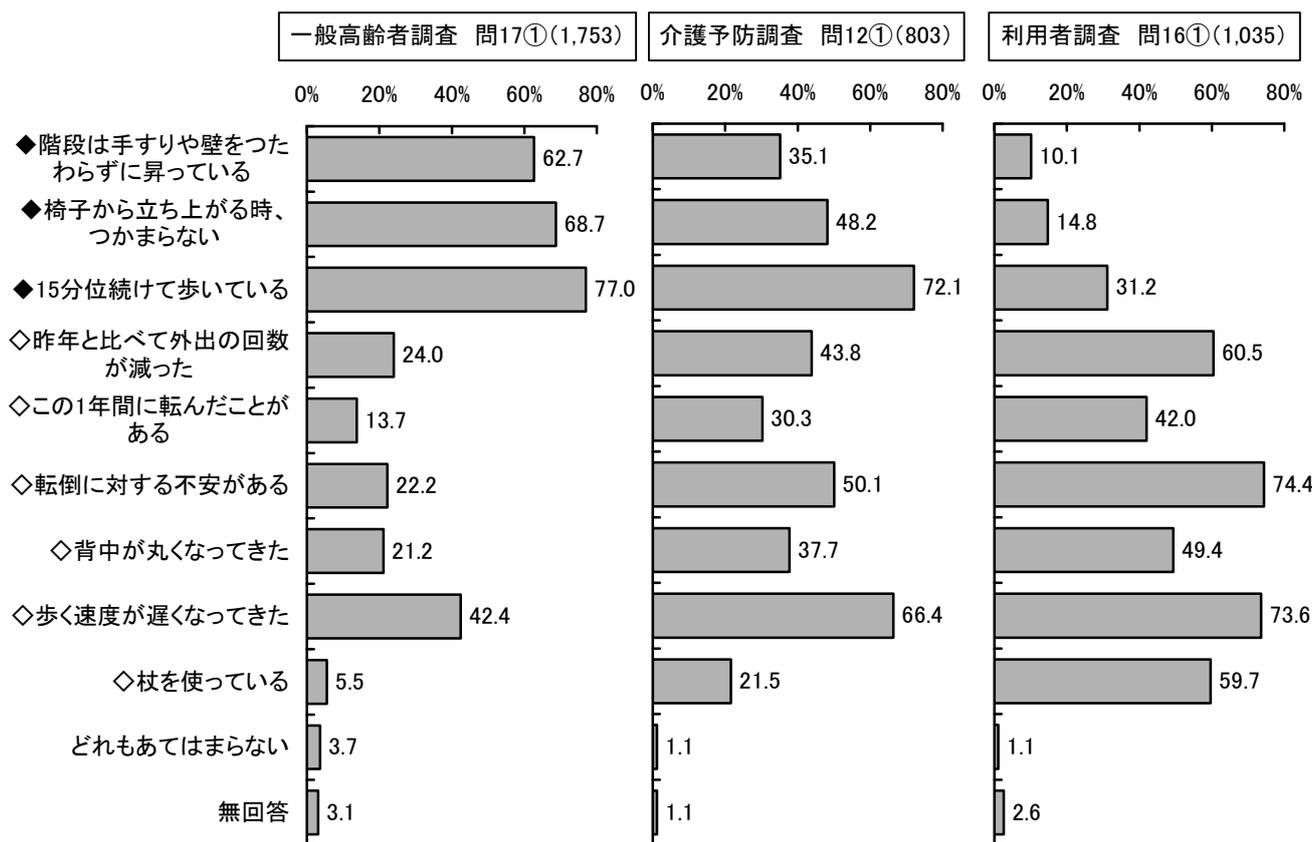
(3)生活機能の状況

①運動や転倒の状況

肯定的な内容である前半3項目、「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」「15分位続けて歩いている」については、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど割合が低くなっている。特に「15分位続けて歩いている」は、【利用者調査】における割合の低下が顕著である。

反対に、否定的な内容である「昨年と比べて外出の回数が減った」「この1年間に転んだことがある」「転倒に対する不安がある」「背中が丸くなってきた」「歩く速度が遅くなってきた」「杖を使っている」については、介護の必要性が高くなるほど割合が高くなっている。

図表5-8 運動や転倒の状況



※ () は回答者数

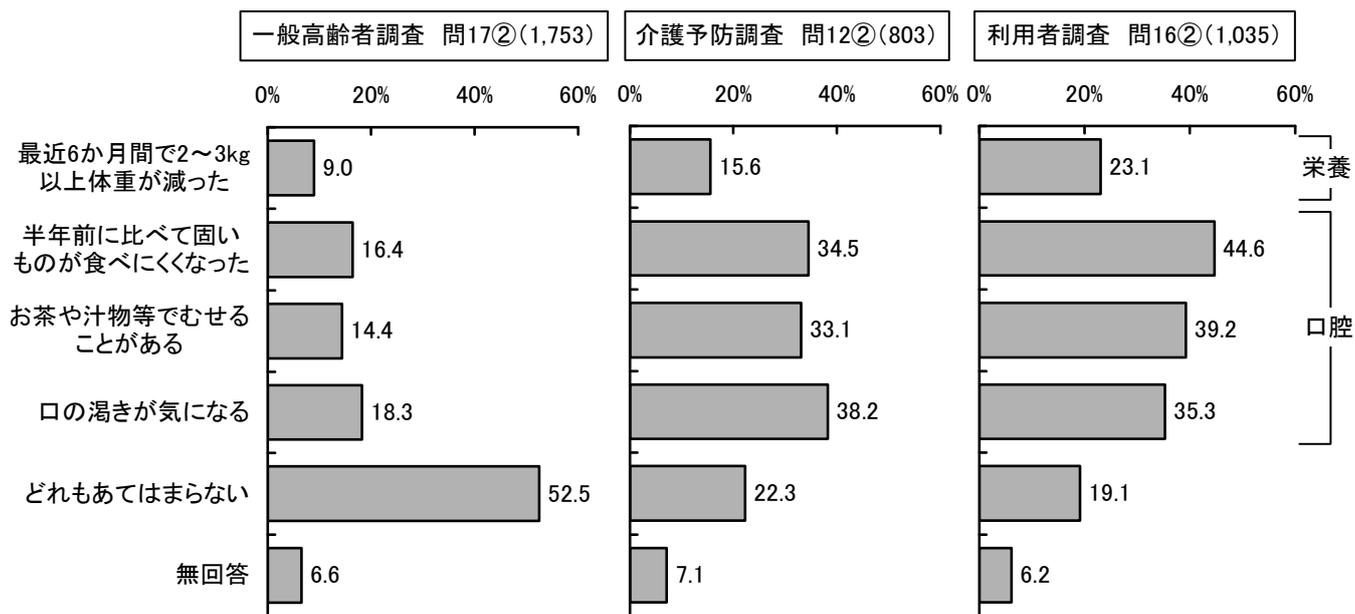
※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

②栄養や口腔機能の状況

栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど割合が高くなっている。

口腔機能に関する3項目も概ね同様の結果であるが、【一般高齢者調査】1割台に対し、【介護予防調査】と【利用者調査】では3～4割台と割合の変化が顕著になっている。

図表5-9 栄養や口腔機能の状況

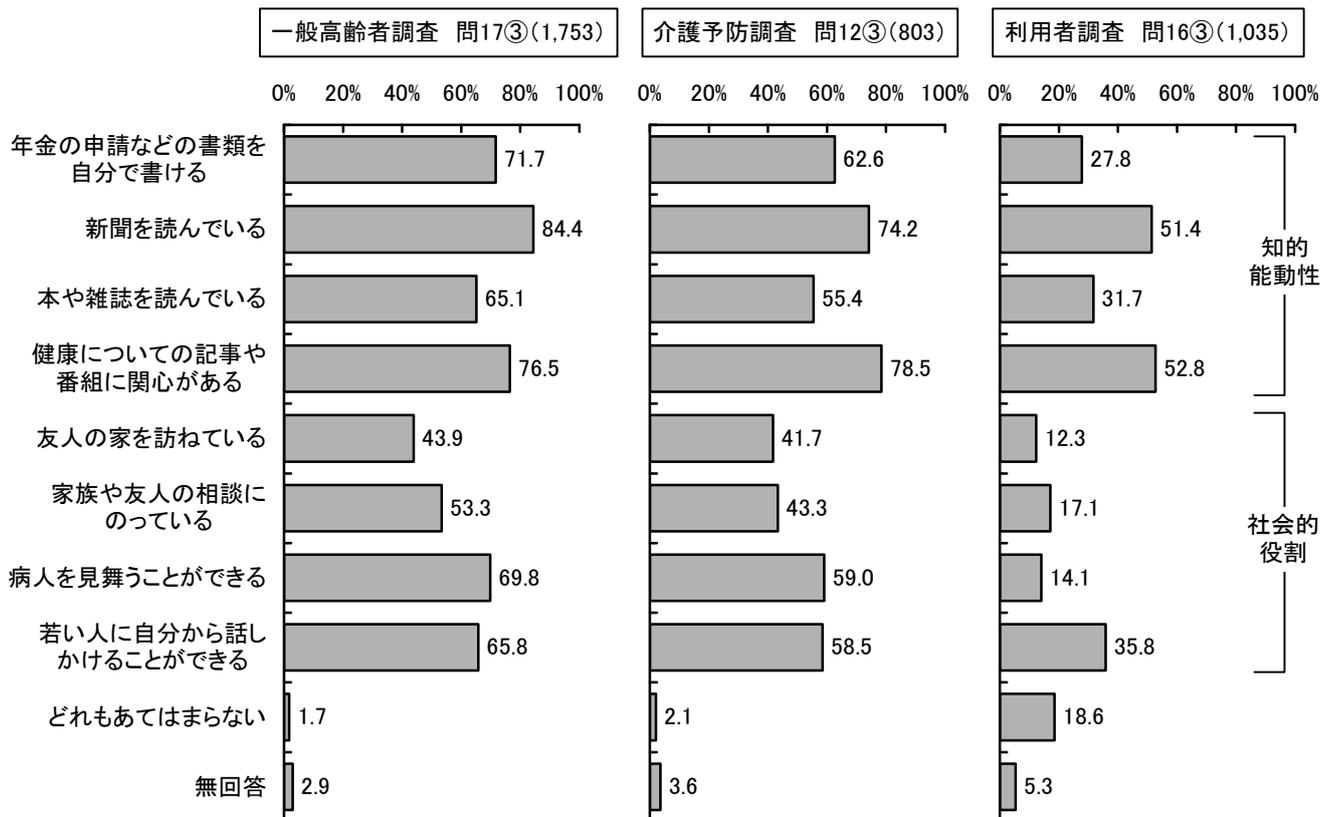


※ () は回答者数

③社会活動の状況

知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）に関する4項目、社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）に関する4項目ともに、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど割合が概ね低くなっている。特に、社会的役割に関する4項目に関しては、【利用者調査】において大きく割合が低下していることがわかる。

図表5-10 社会活動の状況



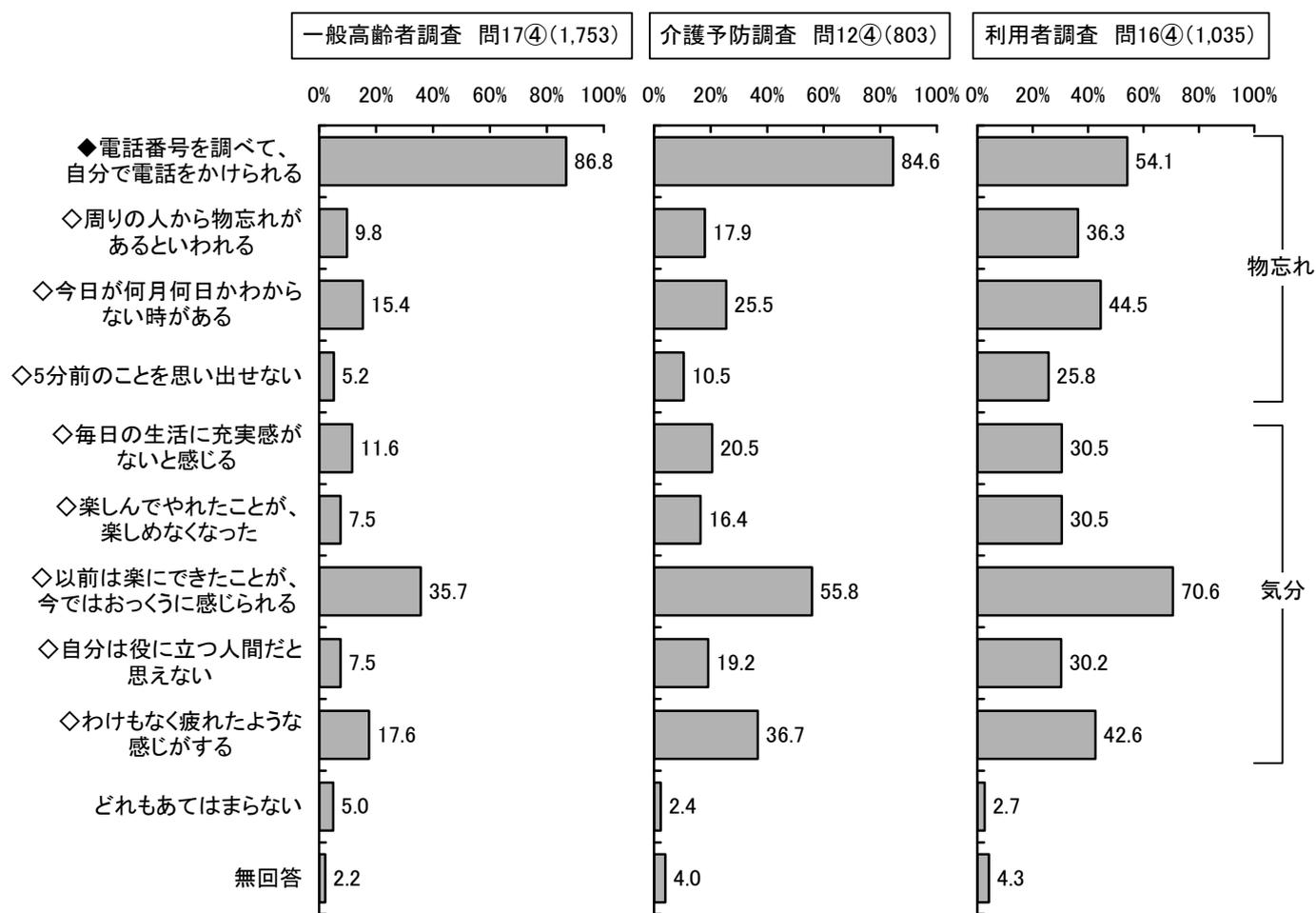
※（ ）は回答者数

④物忘れや気分の状況

物忘れに関する4項目のうち、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は【利用者調査】において、大きく割合が低下している。否定的な内容であるその他の3項目は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と介護度の必要性が高くなるほど割合が高くなっている。

気分に関する5項目については、いずれも介護度の必要性が高くなるほど割合が高くなっており、【利用者調査】では約7割が「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」と回答している。

図表5-11 物忘れや気分の状況



※ () は回答者数

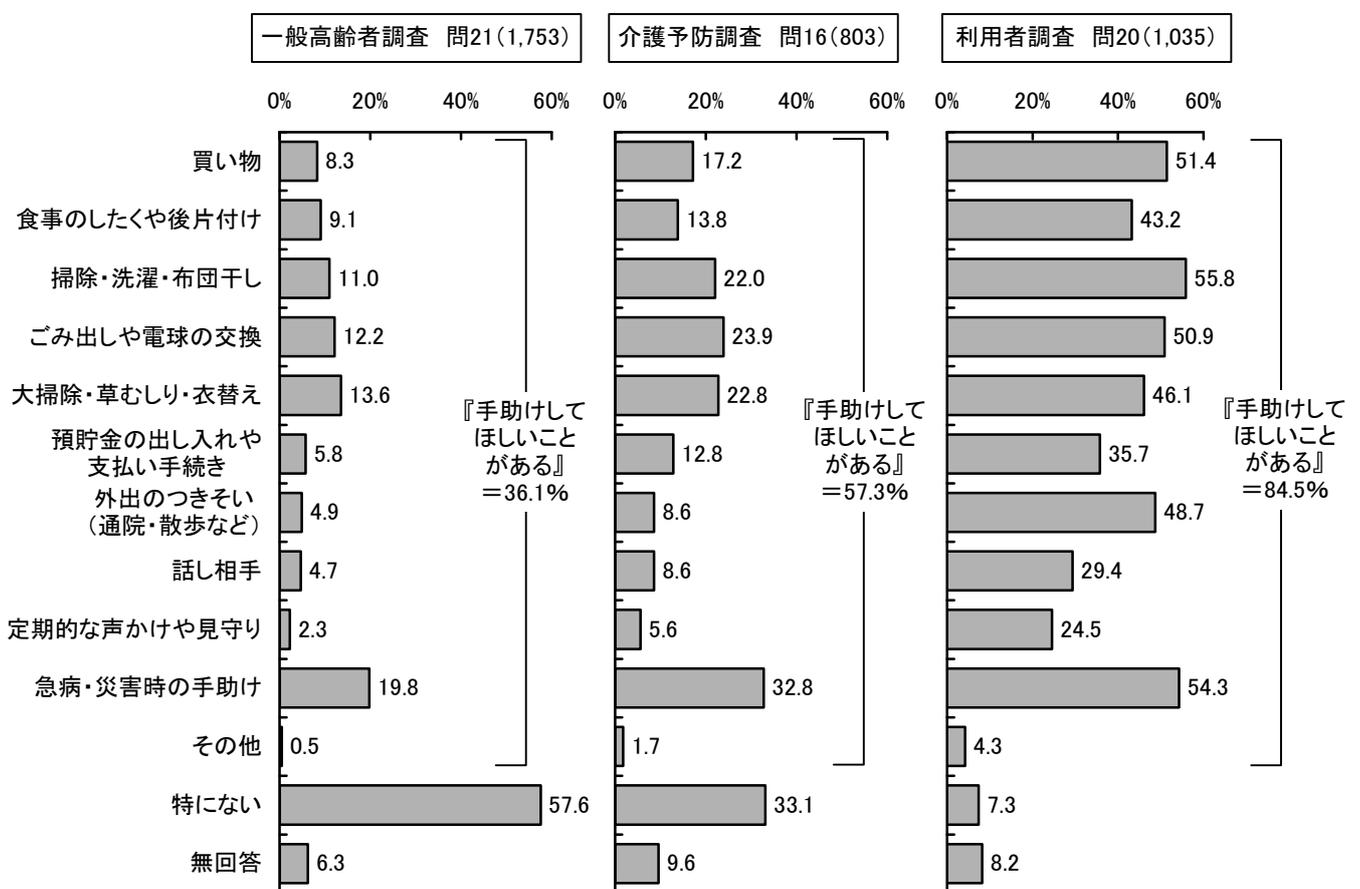
※ ◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

『手助けしてほしいことがある』と回答した人の割合は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど高くなっている。

手助けしてほしい内容をみると、【一般高齢者調査】【介護予防調査】では「急病・災害時の手助け」がもっとも高い。一方、【利用者調査】では「掃除・洗濯・布団干し」55.8%がもっとも高く、また、「急病・災害時の手助け」「買い物」「ごみ出しや電球の交換」についても半数以上が手助けしてほしいと回答している。

図表5-12 日常生活の中で手助けしてほしいこと



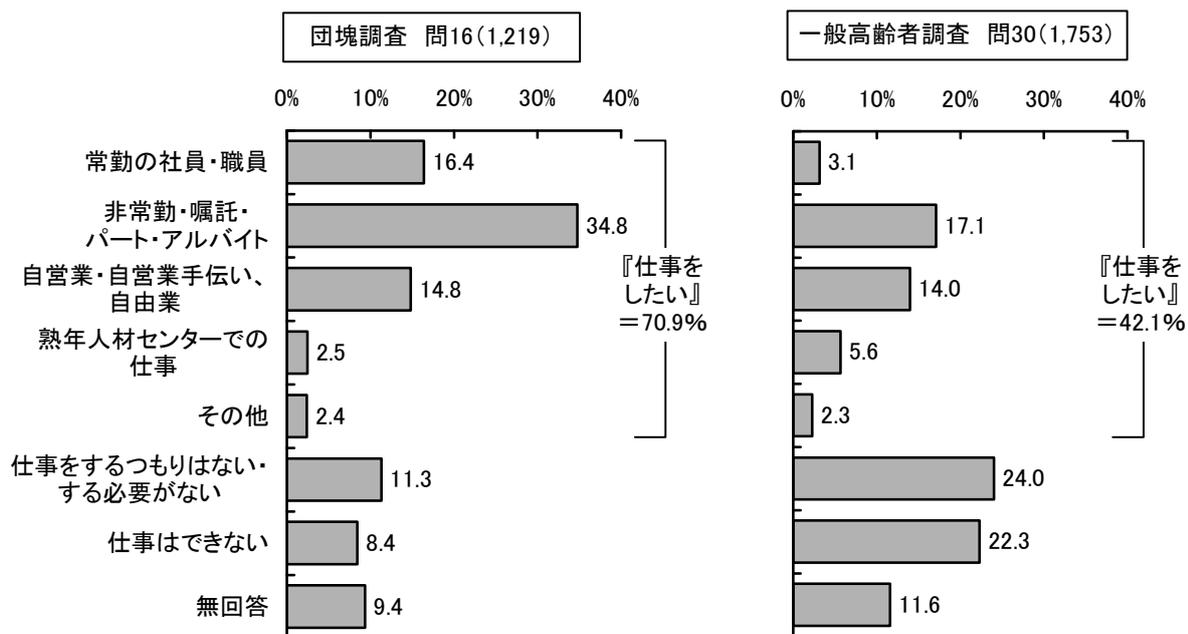
※ () は回答者数

4. 就労状況、参加活動、生きがいづくりについて

(1) 今後の就労意向と就労を継続したい年齢

【団塊調査】では70.9%、【一般高齢者調査】では42.1%が、今後『仕事をしたい』との意向を示している。就労を継続したい年齢は、【団塊調査】は「70歳くらいまで」、【一般高齢者調査】は「元気であればいつまでも働きたい」がそれぞれもっとも高い。

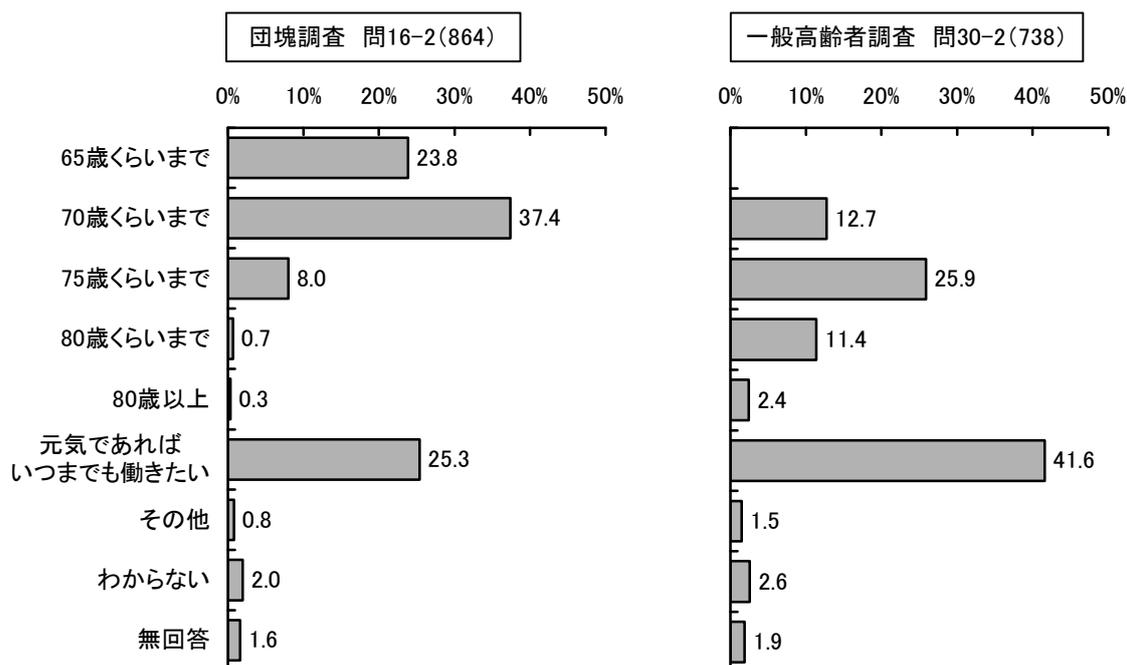
図表5-13 今後の就労意向



※ () は回答者数

※『仕事をしたい』=100% - 「仕事をするつもりはない・する必要がない」 - 「仕事はできない」 - 「無回答」

図表5-14 就労を継続したい年齢



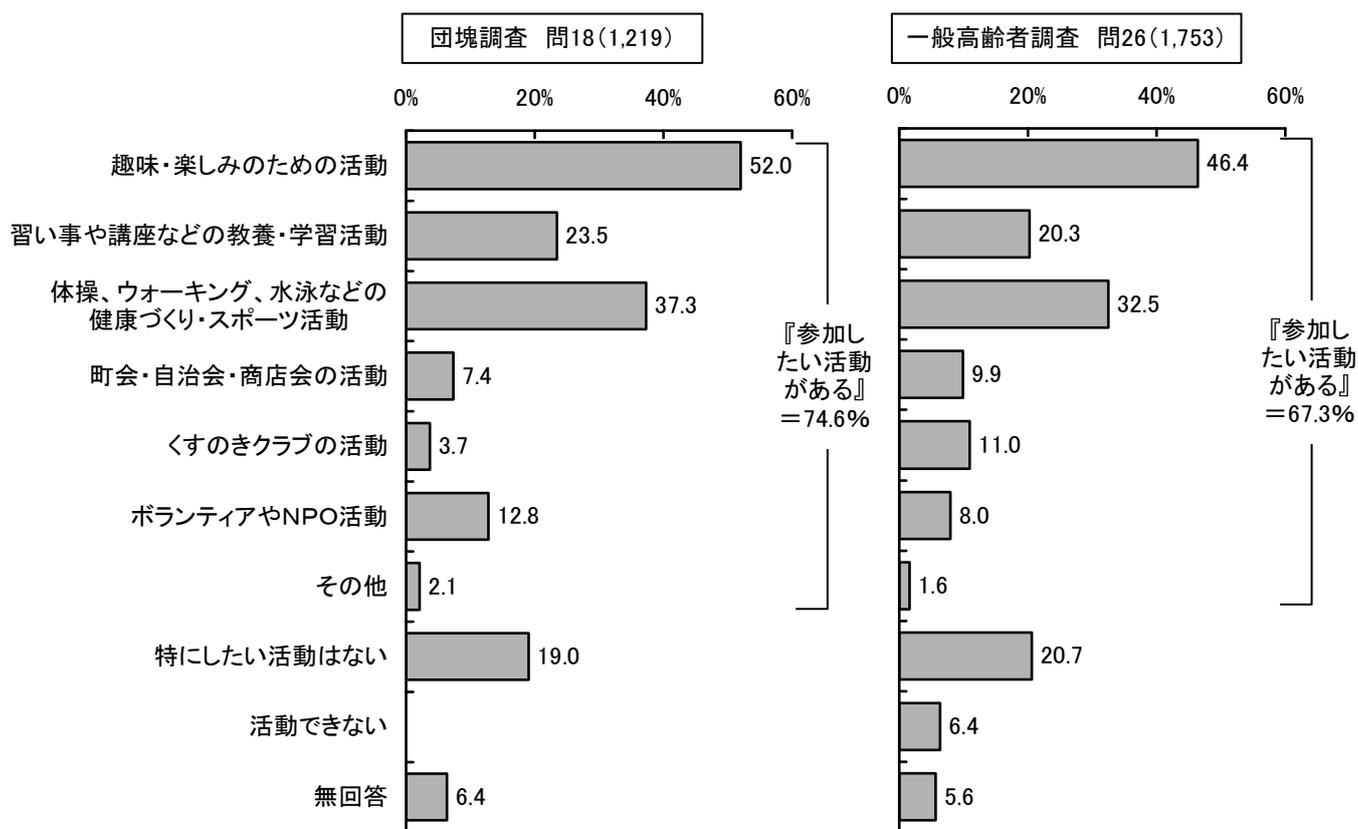
※ () は回答者数

(2) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

余暇活動・社会参加活動について、【団塊調査】の74.6%、【一般高齢者調査】の67.3%が『参加したい活動がある』と回答している。

【団塊調査】【一般高齢者調査】とも、「趣味・楽しみのための活動」「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」「習い事や講座などの教養・学習活動」が、参加したい活動の上位3項目となっている。

図表5-15 今後参加したい余暇活動・社会参加活動



※ () は回答者数

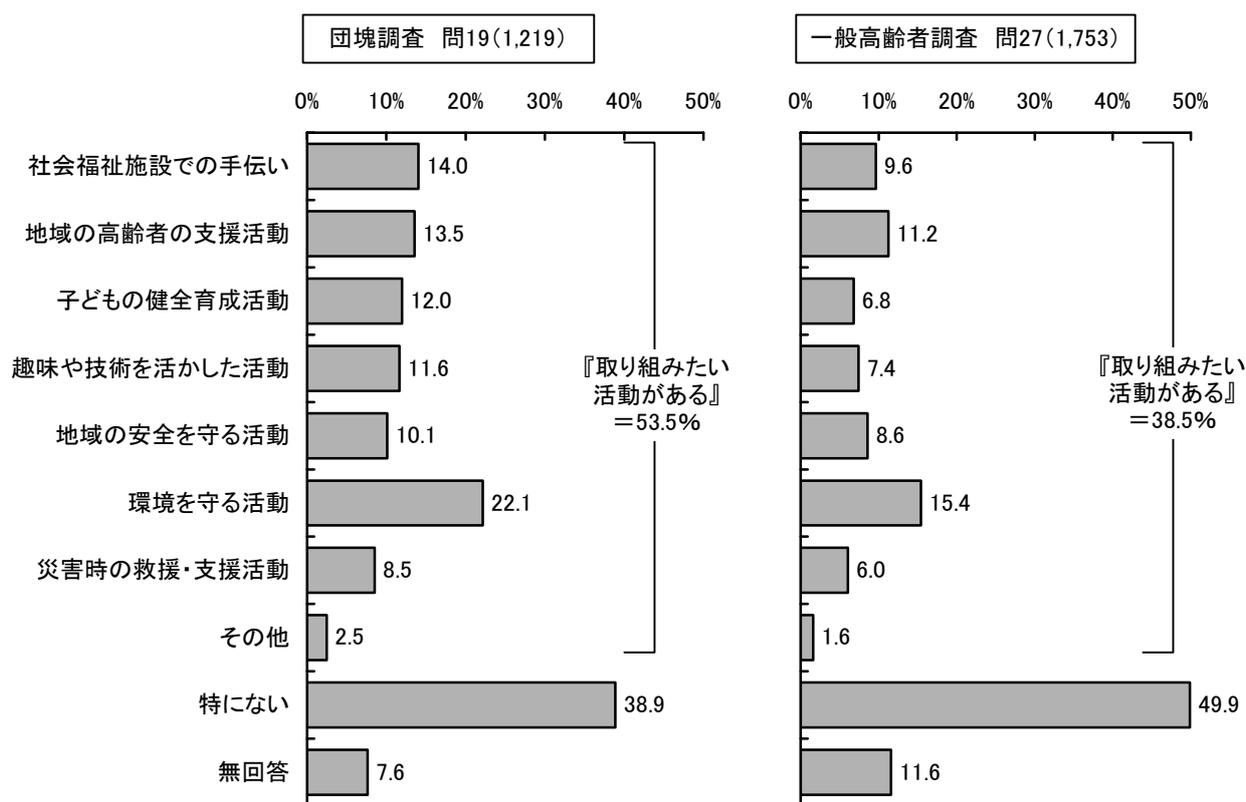
※ 『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「活動できない」 - 「無回答」

(3) 取り組んでみたいボランティア活動

ボランティア活動については、【団塊調査】の53.5%、【一般高齢者調査】の38.5%が『取り組みたい活動がある』と回答している。

【団塊調査】では「環境を守る活動」に次いで「社会福祉施設での手伝い」、【一般高齢者調査】では「環境を守る活動」に次いで「地域の高齢者の支援活動」への意向が高くなっている。

図表5-16 取り組んでみたいボランティア活動



※ () は回答者数

※ 『取り組みたい活動がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

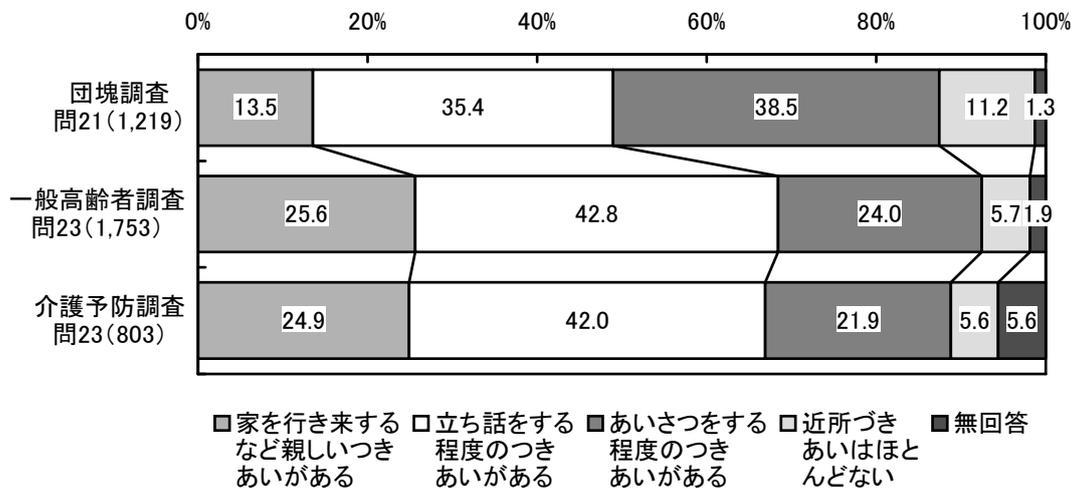
5. 地域とのかかわりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

【団塊調査】では「あいさつをする程度のつきあいがある」が4割近くを占めてもっとも高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいがある」が続く。また、約1割が「近所づきあいはほとんどない」と回答している。

【一般高齢者調査】と【介護予防調査】では、「立ち話をする程度のつきあいがある」が約4割を占めてもっとも高く、次いで「家を行き来するなど親しいつきあいがある」となっている。

図表5-17 近所の人とのつきあいの程度



※ () は回答者数

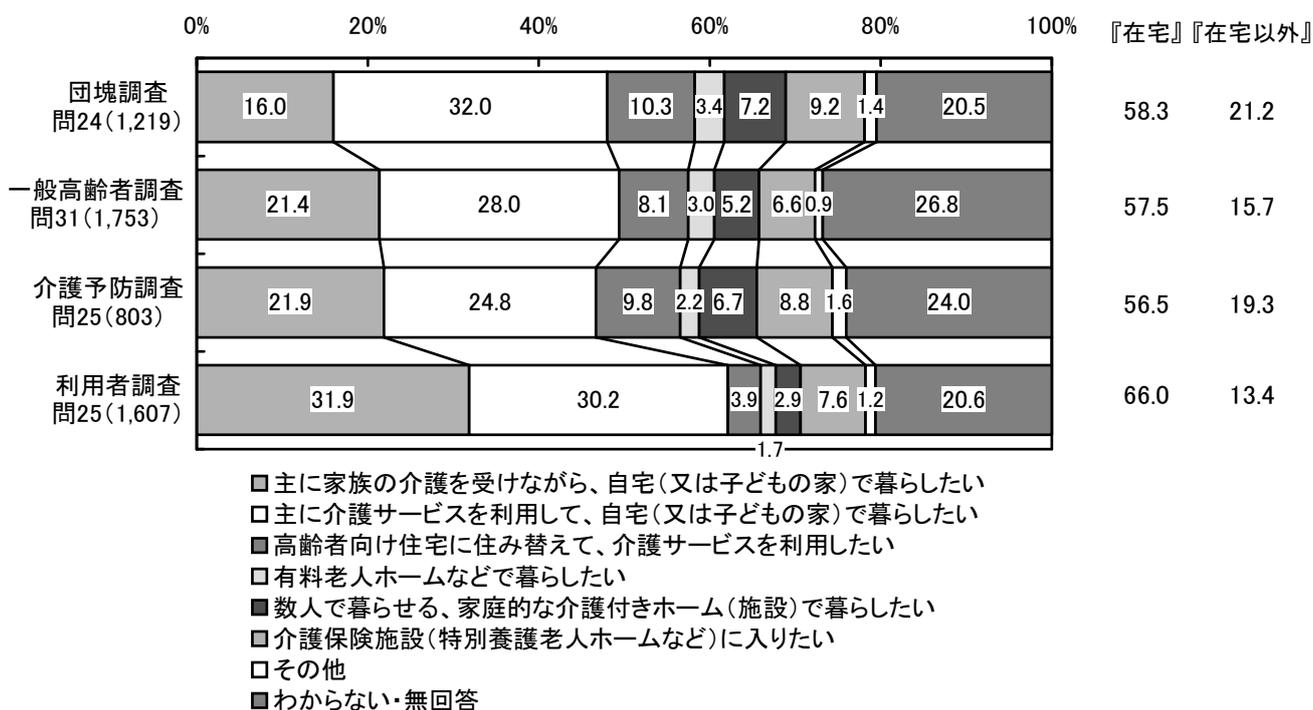
6. 今後の暮らしや介護について

(1) 今後介護を受けたい場所

『在宅』を希望する割合は、すべての調査で5割を超えている。

「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」との意向が各調査とも高いが、【利用者調査】においては、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」の割合がもっとも高くなっている。

図表5-18 今後介護を受けたい場所



※ () は回答者数

※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 + 「その他」

(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

いずれの調査においても、「住み続けられる住まいがある」「家族が同居している、または近くにいる」が、上位2項目となっている。次いで、【団塊調査】【一般高齢者調査】【利用者調査】では「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が、【介護予防調査】では「身近に利用できる医療機関がある」が第3位にあげられている。

図表5-19 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

	団塊 調査 問 25	一般高齢 者調査 問 32	介護予防 調査 問 26	利用者 調査 問 26
回答者数	1,219 人	1,753 人	803 人	1,607 人
住み続けられる住まいがある	66.1%	60.7%	57.0%	62.7%
家族が同居している、または近くにいる	53.5%	49.1%	43.2%	54.5%
見守ってくれる友人、知人が近くにいる	18.0%	14.4%	13.8%	17.0%
訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある	46.9%	31.7%	25.4%	45.5%
必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サービスがある	29.9%	20.3%	17.1%	26.4%
24 時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある	33.8%	22.0%	19.7%	21.2%
身近に利用できる医療機関がある	39.2%	31.1%	29.8%	40.3%
いつでも利用(入所)できる施設が近くにある	31.2%	20.5%	17.7%	22.7%
その他	0.9%	0.9%	0.4%	1.4%
わからない	9.6%	10.6%	11.8%	6.7%
特になし	2.1%	2.9%	3.0%	1.6%
無回答	2.6%	6.7%	9.3%	8.0%

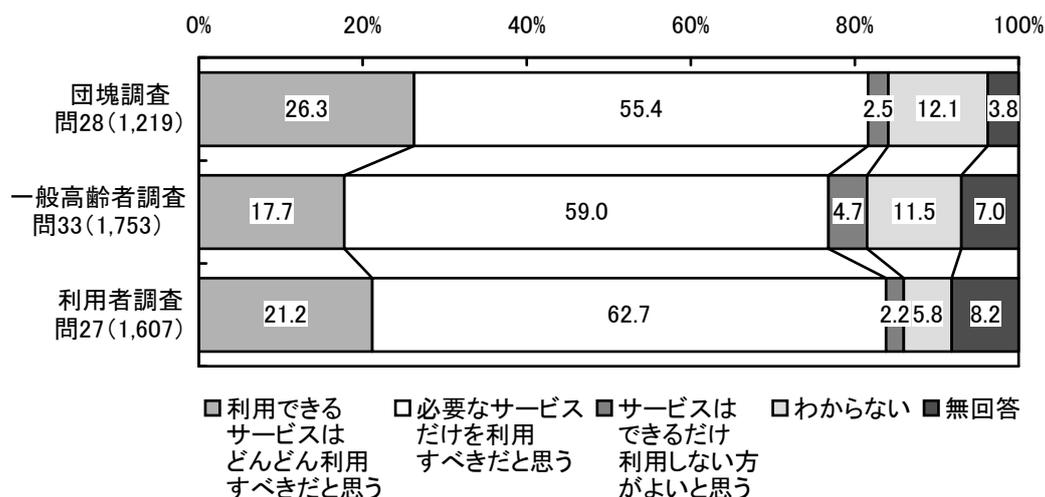
※網掛けは各調査の上位3項目

(3) 介護保険サービスの利用に対する考え

いずれの調査においても「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」がもっとも高く、【団塊調査】と【一般高齢者調査】では5割台、【利用者調査】では6割台を占める。

「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」をあげた人の割合は、【団塊調査】26.3%がもっとも高く、【利用者調査】が21.2%、【一般高齢者調査】が17.7%となっている。

図表5-20 介護保険サービスの利用に対する考え

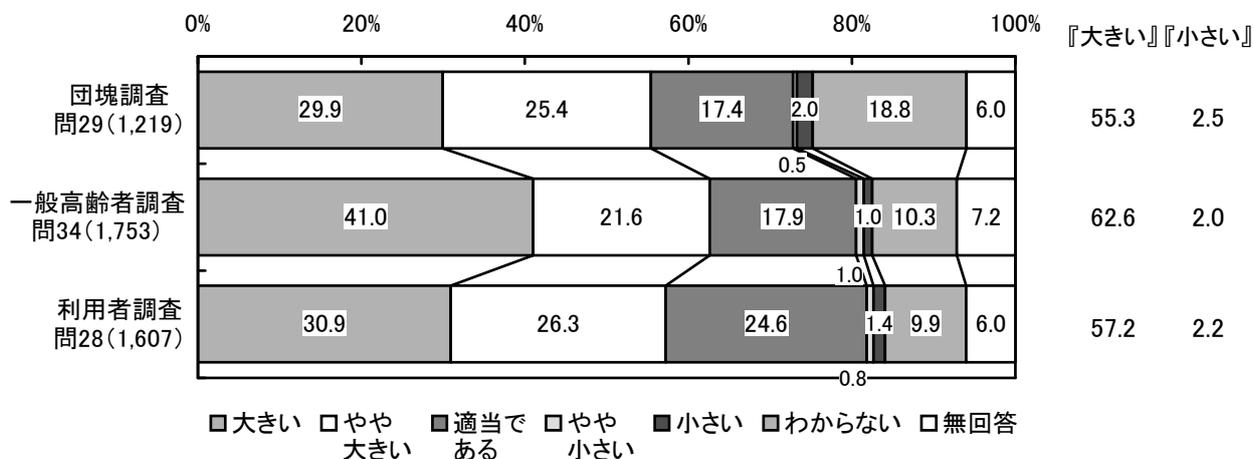


※ () は回答者数

(4) 介護保険料の家計への影響

いずれの調査においても5割以上が家計への影響は『大きい』と回答しており、特に【一般高齢者調査】では6割を超えている。【利用者調査】では24.6%が「適当である」と回答しており、【団塊調査】や【一般高齢者調査】に比べて高い割合となっている。

図表5-21 介護保険料の家計への影響



※ () は回答者数

※ 『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

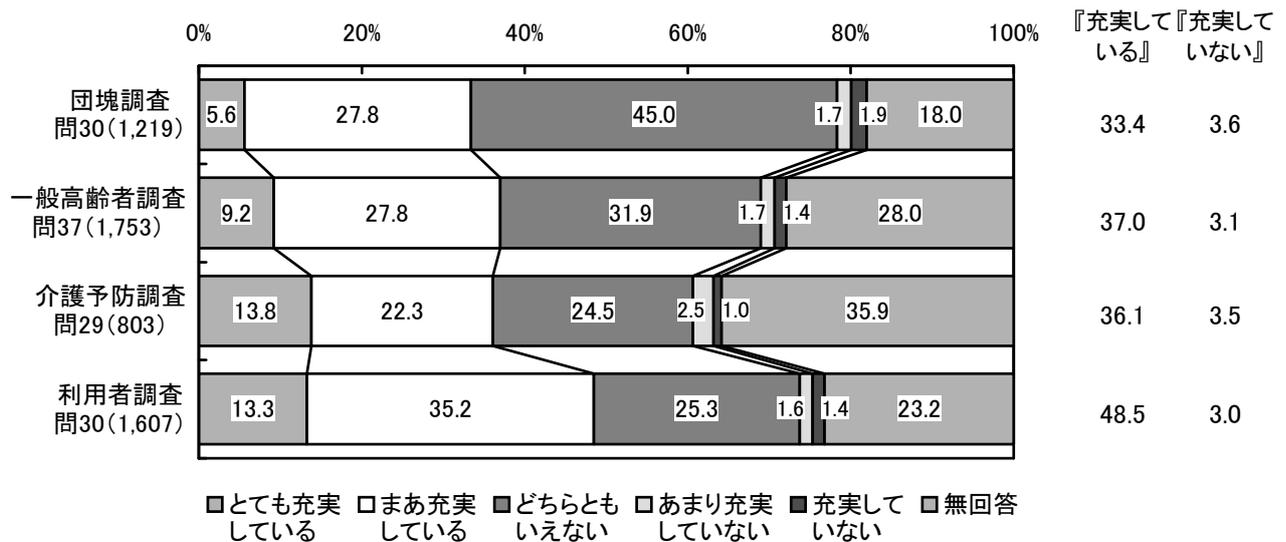
※ 『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

7. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

区の熟年者施策について『充実している』と回答した人の割合は、【団塊調査】【一般高齢者調査】【介護予防調査】の3割台に対し、【利用者調査】は48.5%と、他の調査に比べて高い割合となっている。

図表5-22 区の熟年者施策の充実度



※ () は回答者数

※ 『充実している』 = 「とも充実している」 + 「まあ充実している」

※ 『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

いずれの調査においても「介護する家族に対する支援」が第1位であり、特に【一般高齢者調査】では50.9%と約半数の人からあげられている。

また、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」は、【団塊調査】を除く3つの調査で上位3項目に入っている。

図表5-23 区の熟年者施策で充実してほしいこと

	団塊 調査 問 31	一般高齢 者調査 問 38	介護予防 調査 問 30	利用者 調査 問 31
回答者数	1,219 人	1,753 人	803 人	1,607 人
健康づくりや介護が必要にならないための支援	38.1%	44.9%	35.6%	31.2%
熟年者の就労や社会参加の支援	38.3%	25.4%	16.6%	15.5%
配食や買い物、ごみ出し等の生活支援	21.3%	17.3%	15.4%	26.6%
在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実	42.3%	42.5%	36.9%	40.1%
在宅生活を支える介護サービス	44.0%	41.4%	34.9%	43.4%
介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備	37.3%	38.7%	33.7%	33.2%
介護を受けられる入所施設の整備	43.8%	39.7%	36.1%	38.1%
ひとり暮らしの人等を地域で見守るネットワークづくり	36.8%	37.6%	31.3%	31.2%
介護する家族に対する支援	46.8%	50.9%	43.1%	48.9%
介護保険制度や区の熟年者施策に関する情報提供	28.6%	31.8%	27.4%	25.6%
申請や相談がしやすい窓口の整備	42.9%	42.1%	39.6%	33.6%
判断能力が低下した場合の支援や熟年者の人権擁護	28.2%	29.1%	28.9%	25.7%
段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり	29.1%	34.4%	33.1%	39.2%
その他	1.6%	1.1%	0.7%	2.8%
特になし	3.8%	5.1%	5.7%	4.9%
無回答	6.6%	8.7%	14.7%	10.8%

※網掛けは各調査の上位3項目

第 6 章

介護保険サービス事業者調査

< 調 査 概 要 >

調 査 方 法	郵送配付、郵送回収
調 査 対 象 者	区内すべての介護保険サービス事業者 (平成 23 年 1 月 1 日現在)
抽 出 元	介護保険事業者名簿
調 査 期 間	平成 23 年 1 月 11 日～1 月 31 日
対 象 者 数 及 び 回 収 率	対 象 者 数 : 336 有 効 回 収 数 : 220 有 効 回 収 率 : 65.5%

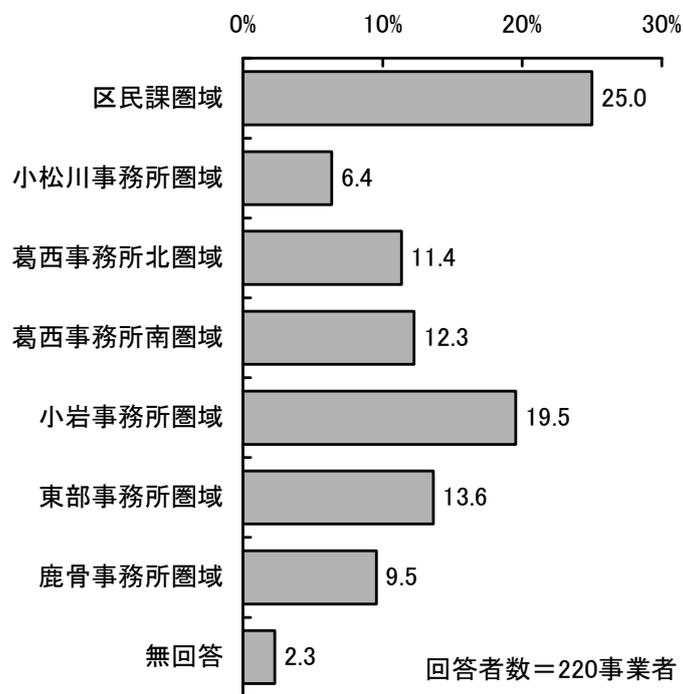
1. 基本事項について

(1) 事業所の所在地

問1 貴事業所の所在地はどちらですか。(1つに○)

事業所の所在地をみると、「区民課圏域」がもっとも高い25.0%、次いで「小岩事務所圏域」19.5%、「東部事務所圏域」13.6%、「葛西事務所南圏域」12.3%、「葛西事務所北圏域」11.4%、「鹿骨事務所圏域」9.5%、「小松川事務所圏域」6.4%となっている。

図表6-1 事業所の所在地(単数回答)

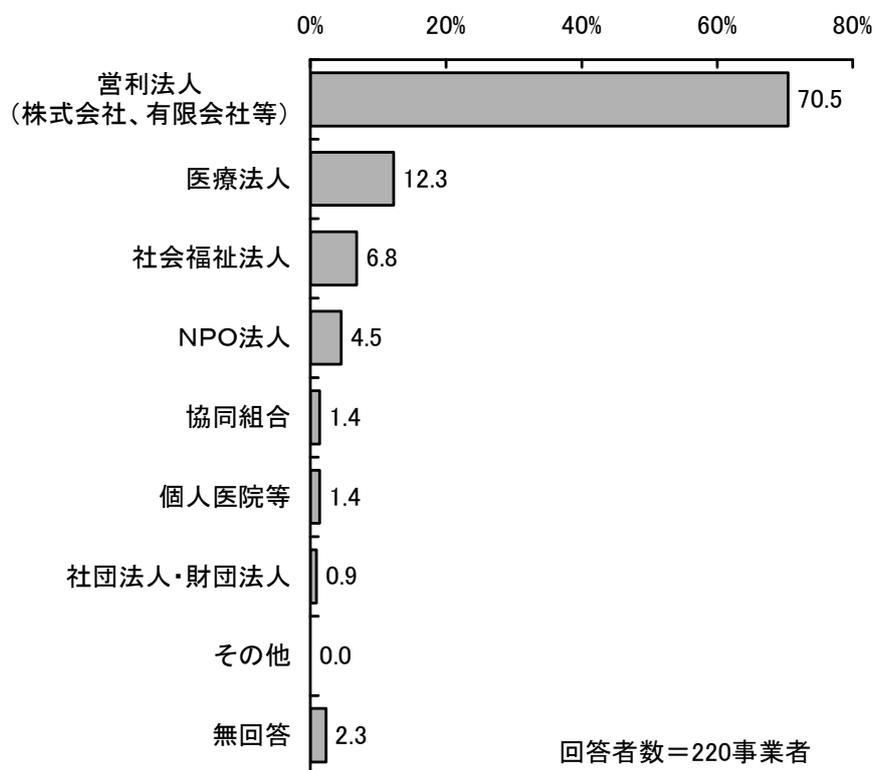


(2) 事業所の法人組織

問 2 貴事業所の法人組織は、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

事業所の法人組織は、「営利法人（株式会社、有限会社等）」が 70.5%と約 7 割を占める。次いで「医療法人」が 12.3%、「社会福祉法人」が 6.8%、「NPO法人」が 4.5%などとなっている。

図表6-2 事業所の法人組織(単数回答)

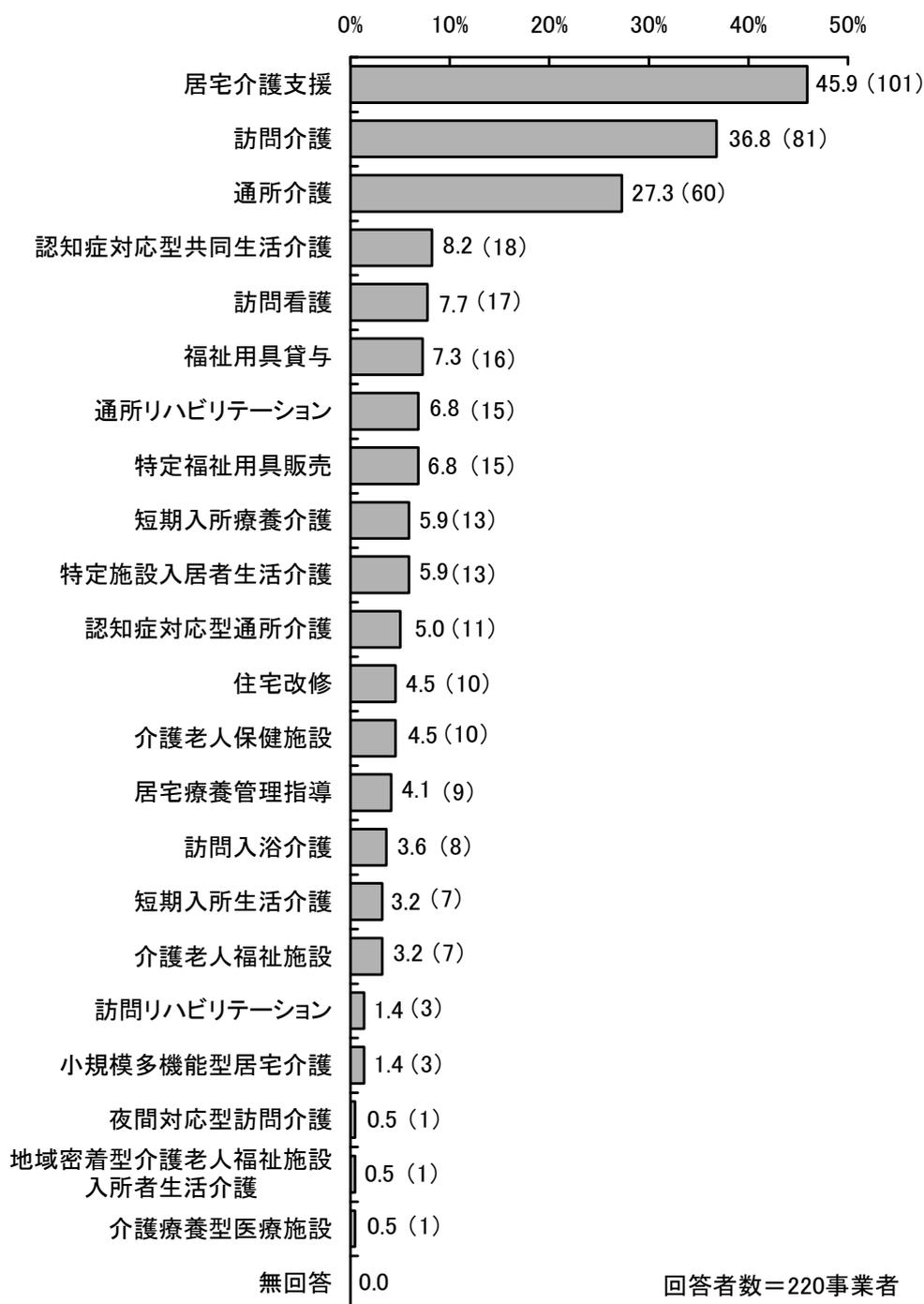


(3)実施している介護サービス事業

問3 ①貴事業所(同一所在地にある事業所)が実施しているサービスすべてに○をしてください。

実施している介護サービス事業は、「居宅介護支援」が45.9%ともっとも高く、次いで「訪問介護」36.8%、「通所介護」27.3%、「認知症対応型共同生活介護」8.2%、「訪問看護」7.7%などとなっている。

図表6-3 実施している介護サービス事業(複数回答)



※ () 内は事業所数

(4)提供実績、従業者数

問3 ②平成22年12月の提供実績(実利用者数)をご記入ください。

問3 ③従業者数をご記入ください。

実施しているサービス事業別にみると、平成22年12月における1事業所あたりの平均利用者数(実人数)及び従業者数は以下のとおりである。

図表6-4 提供実績、従業者数(平均人数)

	事業所数	提供実績(実利用者数)		従業者数(管理者含む)	
		全体	うち江戸川区民	常勤	非常勤
居宅介護支援	101	54.9人	52.1人	2.1人	0.5人
訪問介護	81	52.8人	50.4人	4.3人	16.5人
訪問入浴介護	8	90.8人	77.4人	11.1人	7.7人
訪問看護	17	55.2人	52.9人	4.0人	3.5人
訪問リハビリテーション	3	23.2人	23.2人	3.0人	0.0人
居宅療養管理指導	9	29.3人	22.9人	3.1人	2.7人
通所介護	60	69.8人	65.5人	4.9人	6.1人
通所リハビリテーション	15	48.9人	46.3人	8.0人	2.3人
短期入所生活介護	7	67.8人	63.8人	17.2人	4.5人
短期入所療養介護	13	17.2人	16.0人	21.7人	8.1人
特定施設入居者生活介護	13	44.8人	26.3人	23.3人	11.2人
福祉用具貸与	16	197.8人	129.3人	3.0人	1.5人
特定福祉用具販売	15	7.8人	5.5人	2.8人	1.5人
住宅改修	10	21.0人	17.0人	3.1人	1.2人
認知症対応型通所介護	11	31.2人	21.8人	5.2人	5.9人
小規模多機能型居宅介護	3	14.3人	14.3人	6.0人	8.5人
認知症対応型共同生活介護	18	17.3人	14.4人	10.0人	7.8人
地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	1	20.0人	20.0人	12.0人	5.0人
介護老人福祉施設	7	72.2人	70.4人	28.7人	15.8人
介護老人保健施設	10	95.1人	74.3人	52.3人	8.6人
介護療養型医療施設	1	36.0人	27.0人	70.0人	15.0人

2. 事業の経営について

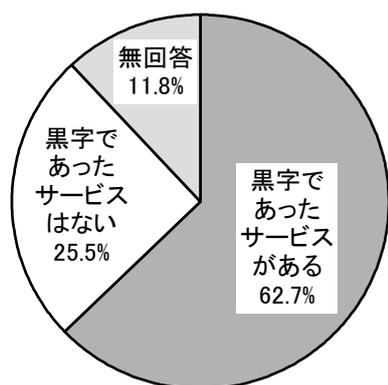
(1) 昨年度の収支が黒字であったサービス

問4 問3①で○をした実施サービスのうち、昨年度(最新の決算)の収支が黒字であったサービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

昨年度の収支が黒字であったサービスをみると、62.7%が「黒字であったサービスがある」と回答している。

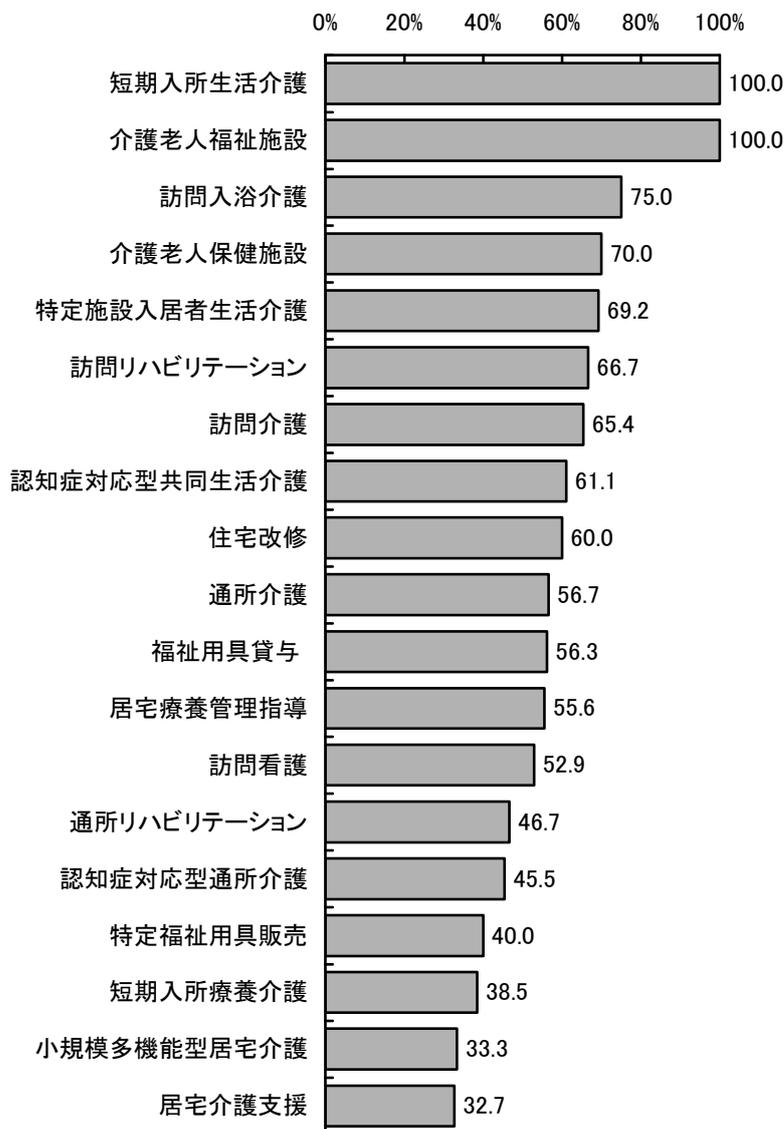
実施サービスに対する黒字であったサービスの割合をみると、「短期入所生活介護」「介護老人福祉施設」は100%であり、次いで「訪問入浴介護」75.0%、「介護老人保健施設」70.0%となっている。

図表6-5 収支が黒字であったサービスの有無(単数回答)



回答者数=220事業者

図表6-6 実施サービスに占める黒字であったサービスの割合



※図表6-6は、各実施サービス(問3①)ごとに黒字であったと回答しているサービスの割合

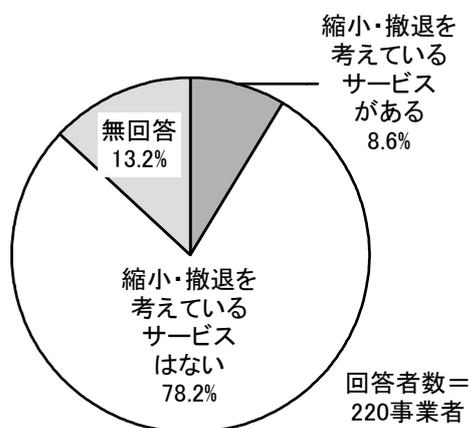
(2) 縮小・撤退を考えているサービス

問5 問3①で○をした実施サービスのうち、3年以内に、縮小・撤退を考えているサービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

縮小・撤退を考えているサービスをみると、「縮小・撤退を考えているサービスはない」が78.2%と8割近く、「縮小・撤退を考えているサービスがある」は8.6%となっている。

実施サービスに占める縮小・撤退を考えているサービスの事業所数をみると、居宅介護支援5事業所、訪問介護4事業所、通所介護4事業所などとなっている。

図表6-7 縮小・撤退を考えているサービスの有無(単数回答)



図表6-8 縮小・撤退を考えている事業所数

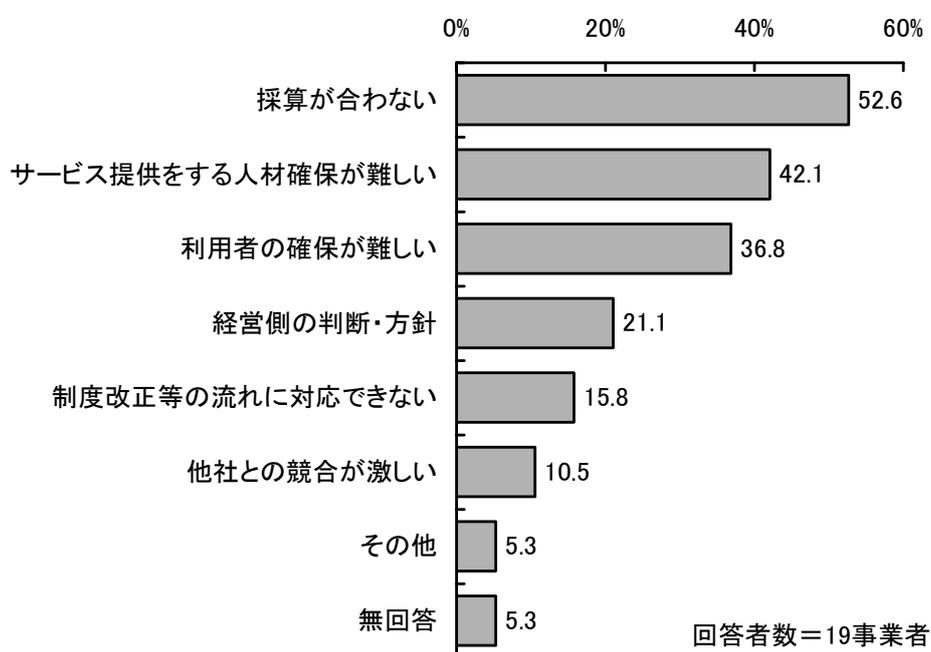
サービス種別	事業所数
居宅介護支援	5
訪問介護	4
通所介護	4
特定福祉用具販売	2
訪問入浴介護	1
訪問看護	1
居宅療養管理指導	1
通所リハビリテーション	1
福祉用具貸与	1
夜間対応型訪問介護	1
認知症対応型通所介護	1
介護老人保健施設	1

(3) 縮小・撤退を考えている理由

問 5-1 「縮小・撤退を考えているサービスがある」(1～22 に○)事業所におたずねします。その理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

縮小・撤退を考えている理由としては、「採算が合わない」52.6%がもっとも高く、次いで「サービス提供をする人材確保が難しい」42.1%、「利用者の確保が難しい」36.8%、「経営側の判断・方針」21.1%となっている。

図表6-9 縮小・撤退を考えている理由(複数回答)

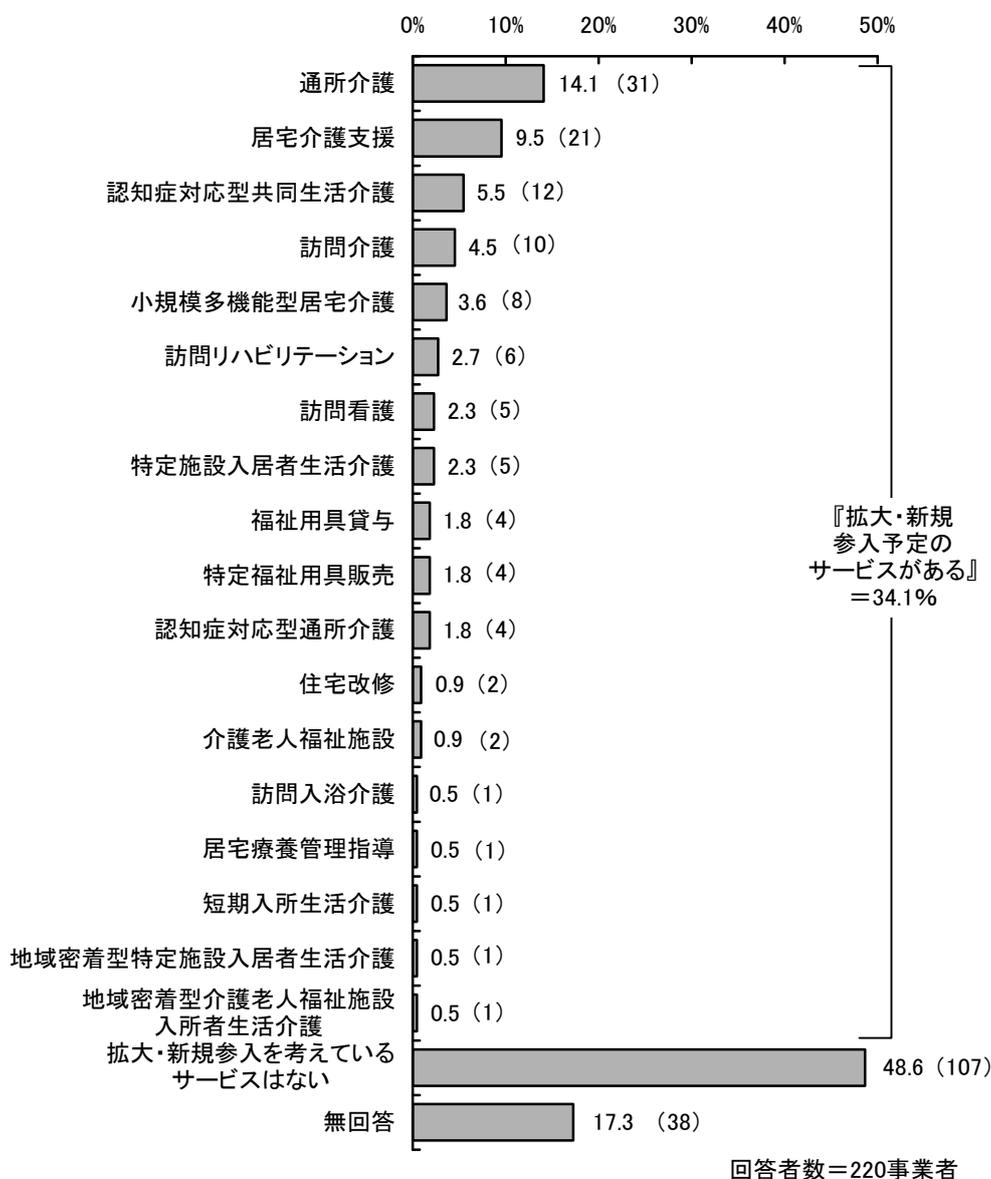


(4) 事業の拡大・新規参入を考えているサービス

問6 貴事業所において、3年以内に、江戸川区において事業の拡大・新規参入を考えているサービスに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

事業者が事業の拡大・新規参入を考えているサービスは、「通所介護」14.1% (31事業所)、「居宅介護支援」9.5% (21事業所)、「認知症対応型共同生活介護」5.5% (12事業所)、「訪問介護」4.5% (10事業所) などとなっている。

図表6-10 事業の拡大・新規参入を考えているサービス(複数回答)



※ () 内は事業所数

※ 『拡大・新規参入予定のサービスがある』 = 100% - 「拡大・新規参入を考えているサービスはない」 - 「無回答」

※ 参入意向のないサービスは掲載を省略している

(5) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの参入意向

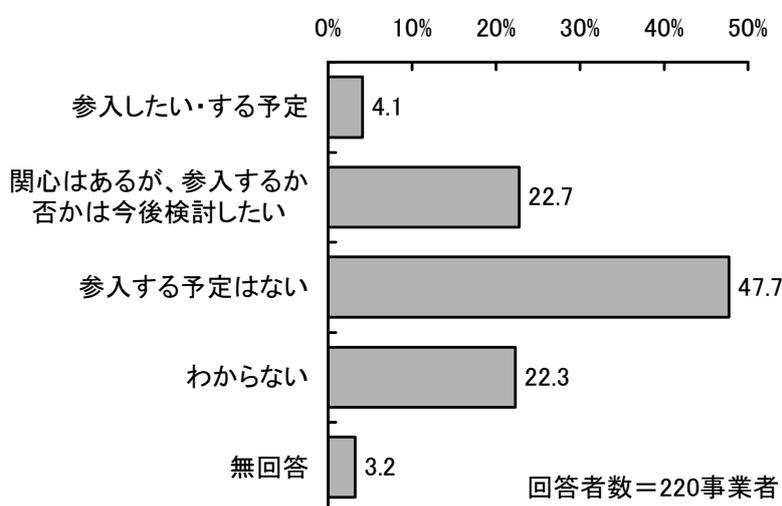
問7 「24時間対応の定期巡回・随時対応サービス」が介護保険サービスとして制度化(法内化)された場合、貴事業所では事業への参入について、どのように考えていますか。

(1つに○)

問8 「24時間対応の定期巡回・随時対応サービス」について、参入条件や課題、事業展開にあたっての意見、知りたい情報等があればご記入ください。

24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの参入意向をみると、「参入したい・する予定」は4.1%、「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」は22.7%となっている。

図表6-11 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの参入意向(単数回答)



(24時間対応の定期巡回・随時対応サービスに関する意見：34件より抜粋して記載)

- ・ 訪問介護員が不足しているため、事業の拡大、新規事業への参入も現状では考えようがない。
- ・ 介護職員不足が言われるのに、夜間の人材が確保できるか疑問。
- ・ 人材確保、採算等が一番の検討課題で、需要がどれだけあるのか心配だが、随時対応サービスは必要性を感じる。
- ・ 現在ある夜間対応型訪問介護も利用が少ないと聞く。採算がとれるのか。
- ・ 24時間対応する人材確保ができるような介護報酬が設定されるのか。
- ・ 人件費、採用条件等から効率的な運営が民間でも可能か否か。
- ・ 人員基準の中で、看護師が必要となるか？
- ・ 制度化の内容を知りたい。

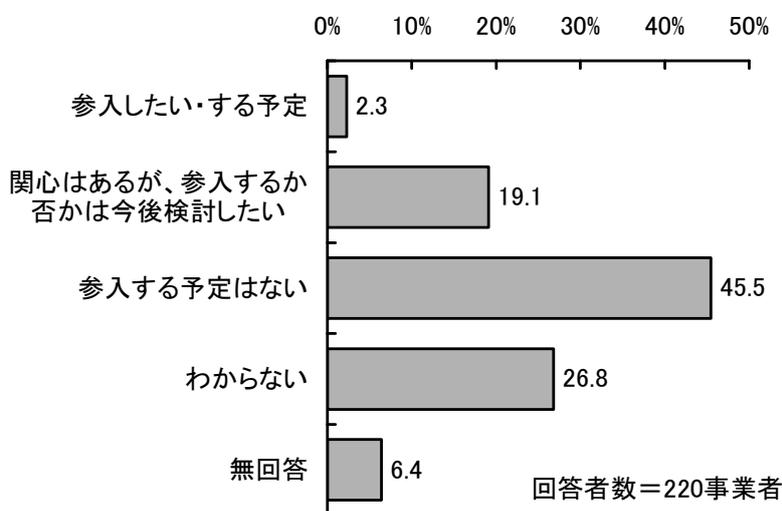
(6) 複合型サービスの参入意向

問9 小規模多機能型居宅介護と訪問看護を組み合わせるなど、複数のサービスを一体的に提供する「複合型サービス」が介護保険サービスとして制度化(法内化)された場合、貴事業所では事業への参入について、どのように考えていますか。(1つに○)

問10 「複合型サービス」について、参入条件や課題、事業展開にあたっての意見、知りたい情報等があればご記入ください。

複合型サービスの参入意向をみると、「参入したい・する予定」は2.3%、「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」は19.1%となっている。

図表6-12 複合型サービスの参入意向(単数回答)



(複合型サービスに関する意見：18件より抜粋して記載)

- ・ 往診を含めた在宅医療のマンパワーが不足しているため、事業として成立するには課題が多すぎる。
- ・ 一人ひとりの職員が業務を複数兼ねなければならない状況になると思われ、その際の人員配置基準に適応できるかわからない。
- ・ 適切な運営ができるのかが課題であり、人材の確保等不安が大きい。
- ・ 個々のサービスが小規模である分、介護報酬の上乗せがないと採算ベースには乗り難い。
- ・ 利用者のかかえこみ、不必要なサービスまで提供されるのではないか。
- ・ 終末期医療に対する理解が進まないと、現場は混乱するのみ。まずは、江戸川区では「在宅で看取りができるまち」等、方針を打ち出す事が先決。

3. サービスの質の確保について

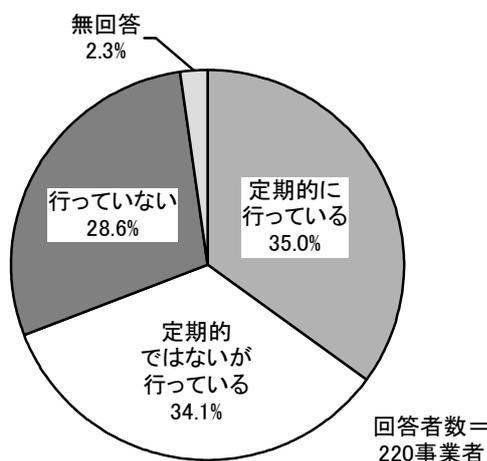
(1) 自己評価の実施状況、自己評価を行っていない理由

問 11 貴事業所では、サービスの質の自己評価を行っていますか。
行っていない場合は、その理由をお聞かせください。

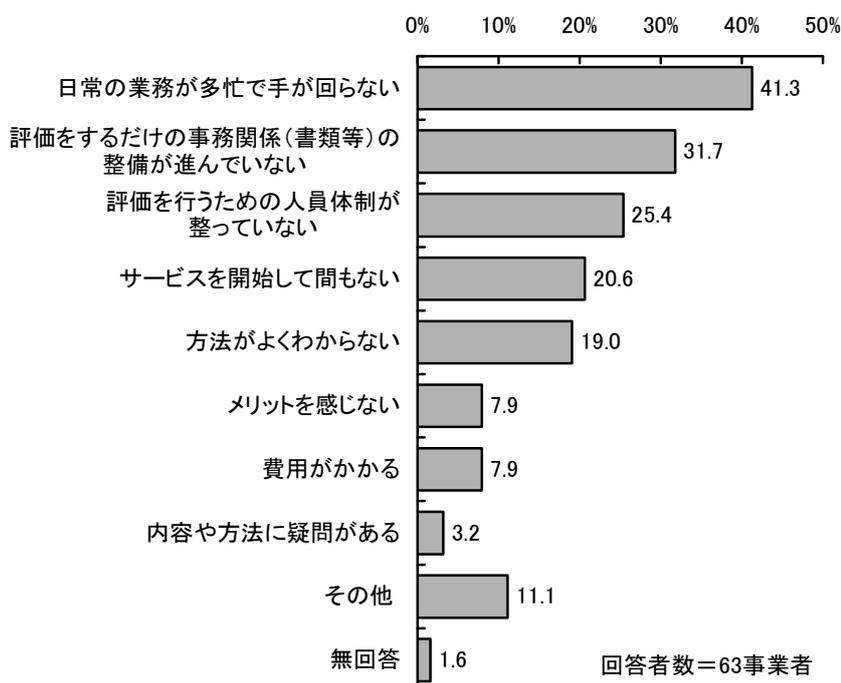
自己評価の実施状況を見ると、「定期的に行っている」35.0%、「定期的ではないが行っている」34.1%をあわせた69.1%が行っている状況である。

自己評価を行っていない理由としては、「日常の業務が多忙で手が回らない」41.3%がもっとも高く、次いで「評価をするだけの事務関係(書類等)の整備が進んでいない」31.7%、「評価を行うための人員体制が整っていない」25.4%、「サービスを開始して間もない」20.6%、「方法がよくわからない」19.0%の順となっている。

図表6-13 自己評価の実施状況(単数回答)



図表6-14 行っていない理由(複数回答)



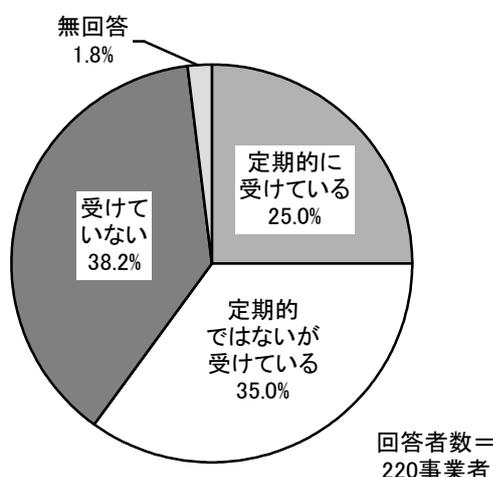
(2) 利用者評価の実施状況、利用者評価を受けていない理由

問 12 貴事業所では、利用者からサービスの質に関する評価を受けていますか。
 受けていない場合は、その理由をお聞かせください。

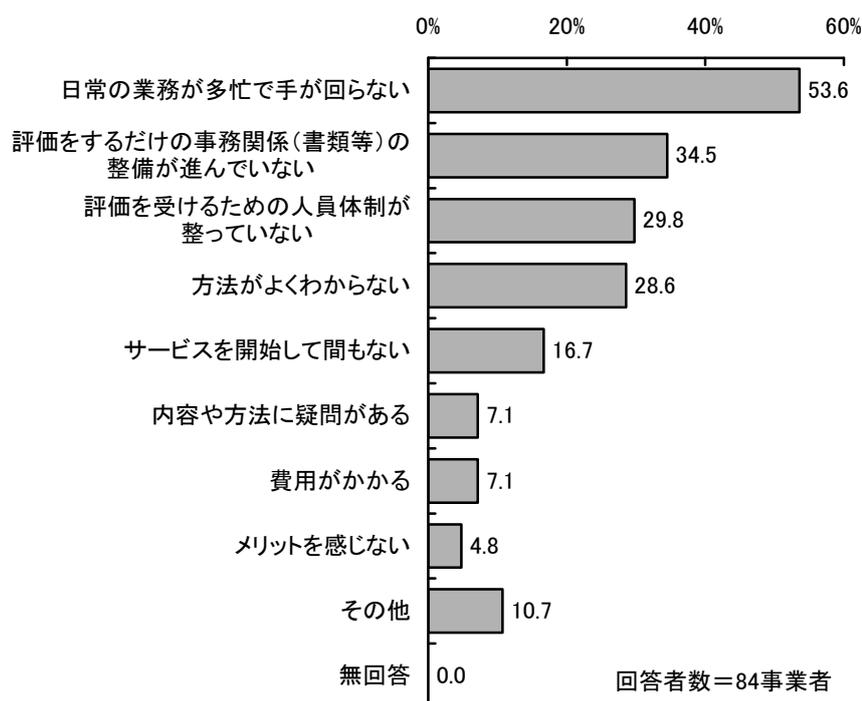
利用者評価の実施状況をみると、「定期的ではないが受けている」35.0%、「定期的に受けている」25.0%をあわせた60.0%が受けている状況である。

利用者評価を受けていない理由としては、「日常の業務が多忙で手が回らない」53.6%、「評価をするだけの事務関係（書類等）の整備が進んでいない」34.5%、「評価を受けるための人員体制が整っていない」29.8%、「方法がよくわからない」28.6%の順となっている。

図表6-15 利用者評価の実施状況(単数回答)



図表6-16 受けていない理由(複数回答)



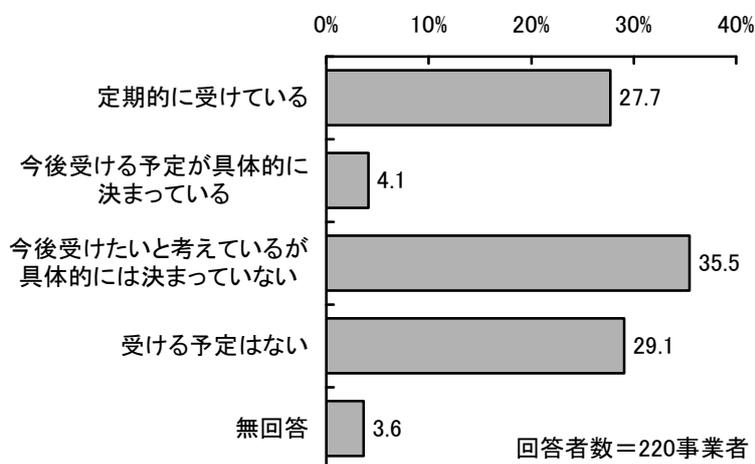
(3) 第三者評価の実施状況、第三者評価を受けていない理由

問 13 貴事業所では、第三者機関によるサービスの質に関する評価を受けていますか。
 受けていない場合は、その理由をお聞かせください。

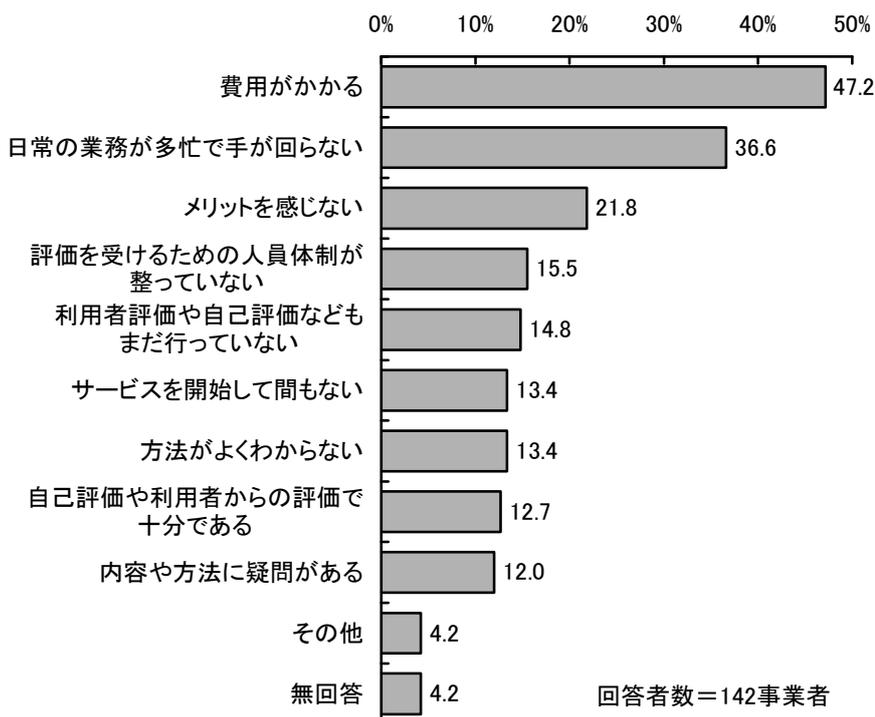
第三者評価の実施状況を見ると、「定期的に受けている」は 27.7%であり、「今後受けていたいと考えているが具体的には決まっていない」35.5%がもっとも高い割合を占める。また、「受ける予定はない」が 29.1%と約 3 割を占める。

第三者評価を受けていない理由としては、「費用がかかる」47.2%がもっとも高く、次いで「日常の業務が多忙で手が回らない」36.6%、「メリットを感じない」21.8%が上位 3 項目にあげられている。

図表6-17 第三者評価の実施状況(単数回答)



図表6-18 受けていない理由(複数回答)

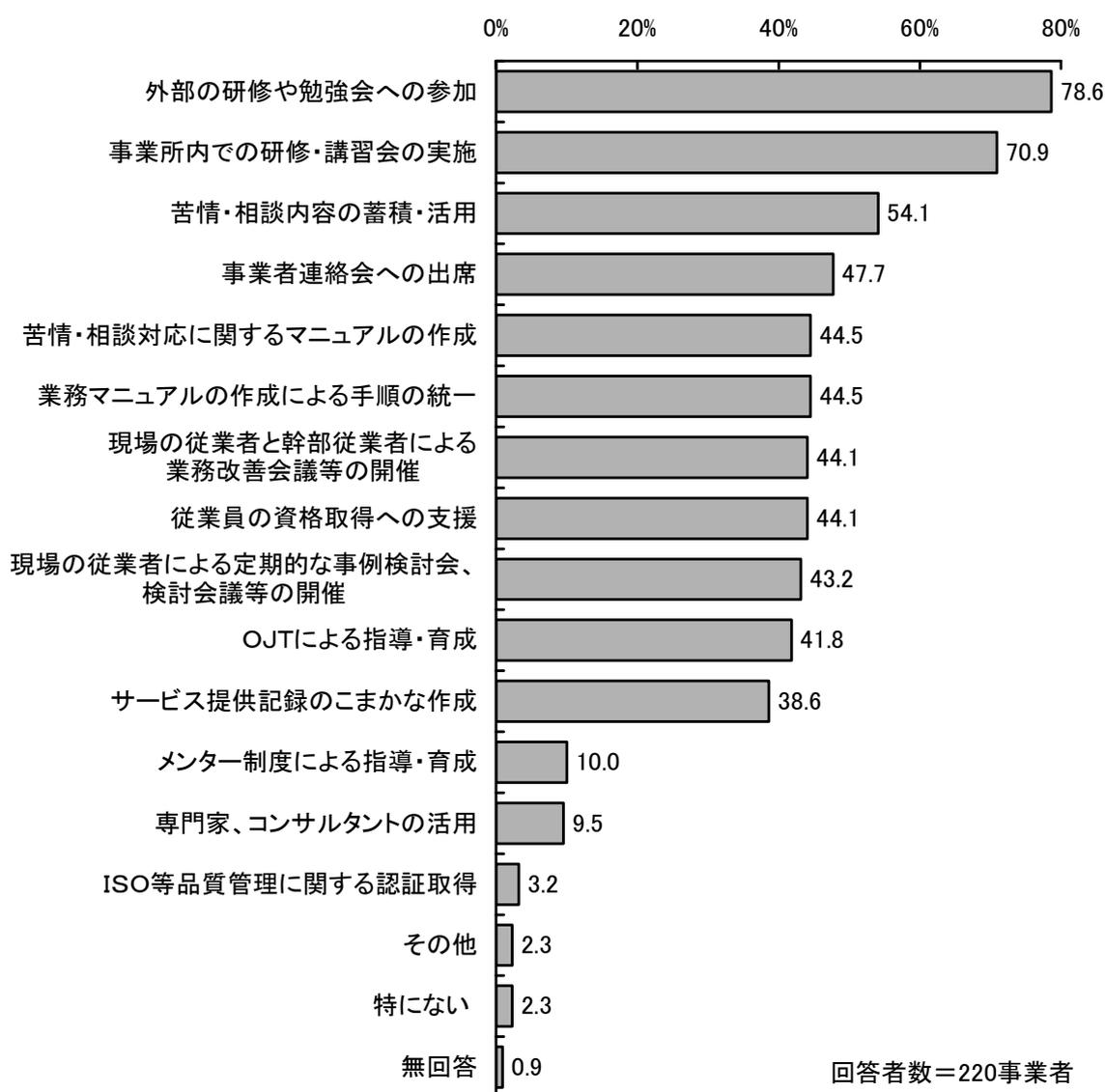


(4) 評価以外の質の向上のための取り組み状況

問 14 貴事業所では、前記以外に、どのような質の向上のための取り組みに力を入れていますか。(あてはまるものすべてに○)

評価以外の質の向上のための取り組み状況をみると、「外部の研修や勉強会への参加」78.6%、「事業所内での研修・講習会の実施」70.9%と、事業所内外での研修等は7割台の実施状況となっている。次いで、「苦情・相談内容の蓄積・活用」が54.1%で続いている。

図表6-19 評価以外の質の向上のための取り組み状況(複数回答)



※OJT：職場において、上司や先輩から具体的な仕事を通じて、職務上のトレーニング教育を受けること
 ※メンター制度：職場において、上司とは別に指導・相談役となる先輩社員が新入社員をサポートする制度

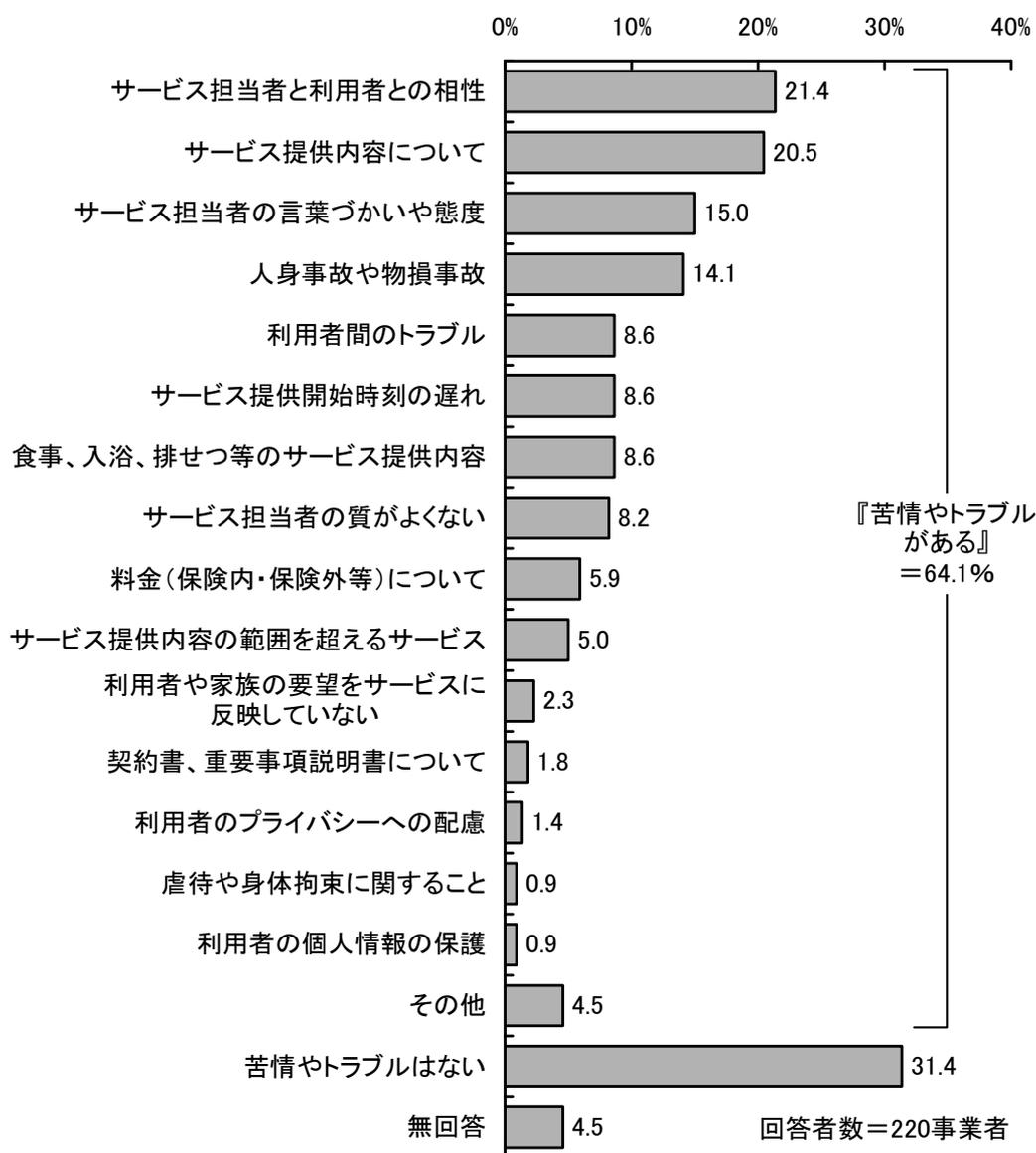
(5) 苦情やトラブルの内容、苦情やトラブルへの対応

問 15 貴事業所では、過去1年間に、利用者からの苦情やトラブルはありましたか。
苦情やトラブルの内容とその対応をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

苦情やトラブルについてみると、「苦情やトラブルはない」が 31.4%を占め、『苦情やトラブルがある』は 64.1%となっている。

苦情やトラブルの内容としては、「サービス担当者との相性」21.4%がもっとも高く、次いで「サービス提供内容について」20.5%、「サービス担当者の言葉づかいや態度」15.0%、「人身事故や物損事故」14.1%などとなっている。

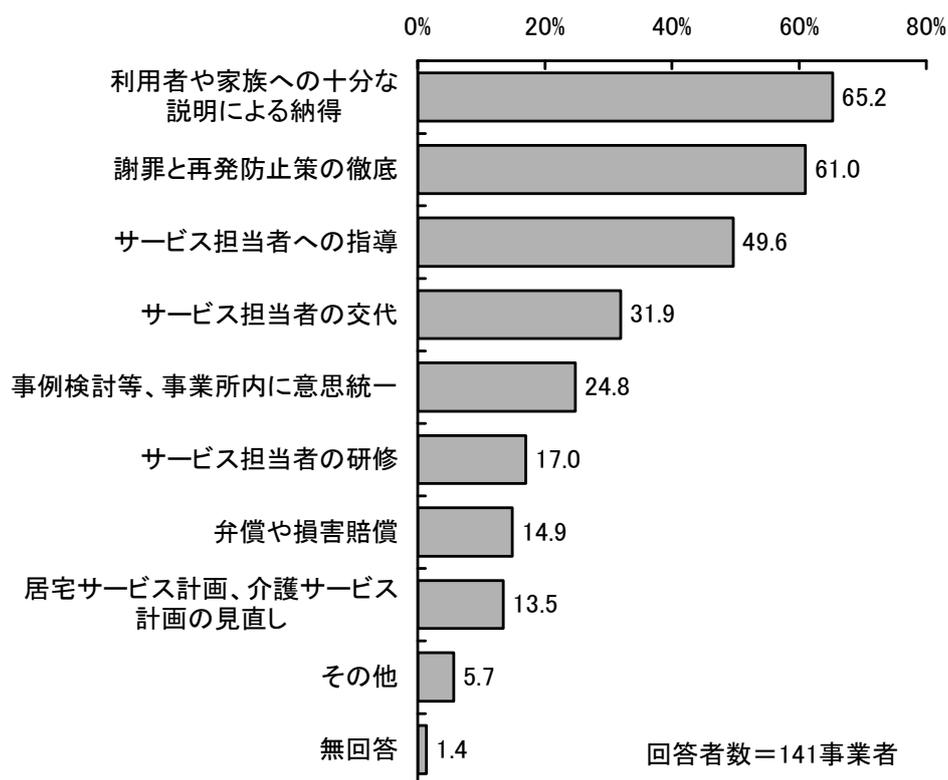
図表6-20 苦情やトラブルの内容(複数回答)



※『苦情やトラブルがある』 = 100% - 「苦情やトラブルはない」 - 「無回答」

苦情やトラブルへの対応としては、「利用者や家族への十分な説明による納得」65.2%、「謝罪と再発防止策の徹底」61.0%が6割を超えている。次いで、「サービス担当者への指導」49.6%、「サービス担当者の交代」31.9%、「事例検討等、事業所内に意思統一」24.8%などとなっている。

図表6-21 苦情やトラブルへの対応(複数回答)



(6) 医療との連携に関する課題

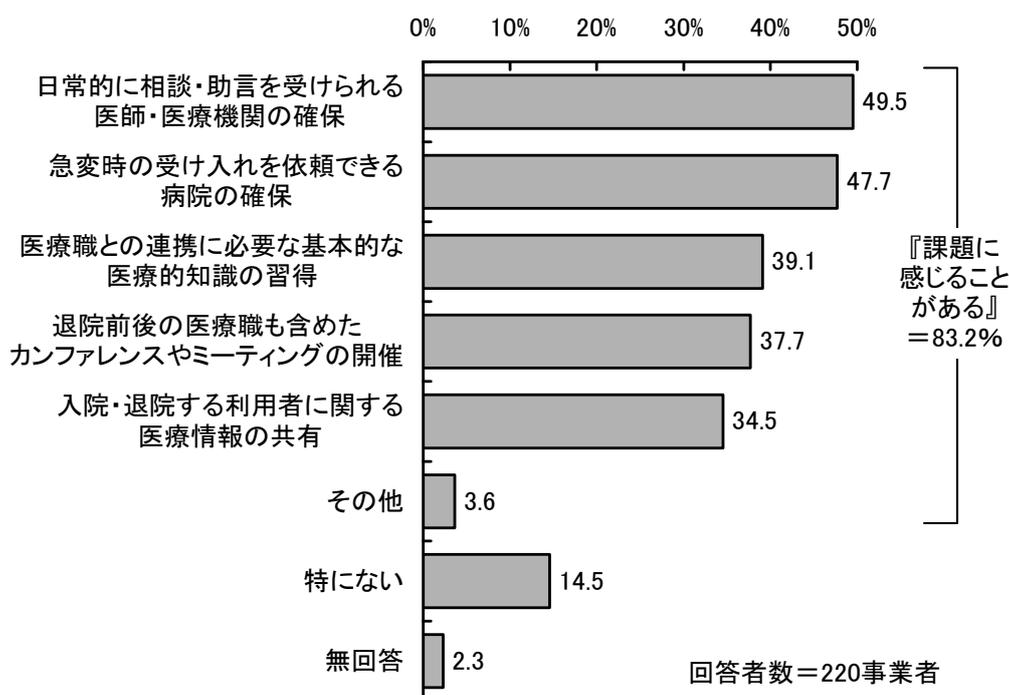
問 16 医療との連携について、課題に感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

医療との連携に関する課題をみると、83.2%が『課題に感じることもある』と回答している。

具体的には、「日常的に相談・助言を受けられる医師・医療機関の確保」49.5%、「急変時の受け入れを依頼できる病院の確保」47.7%が高く、「医療職との連携に必要な基本的な医療的知識の習得」39.1%、「退院前後の医療職も含めたカンファレンスやミーティングの開催」37.7%、「入院・退院する利用者に関する医療情報の共有」34.5%と続いている。

図表6-22 医療との連携に関する課題(複数回答)



※『課題に感じることもある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

4. 人材の確保や雇用管理について

(1) 人材確保や雇用管理に関する課題

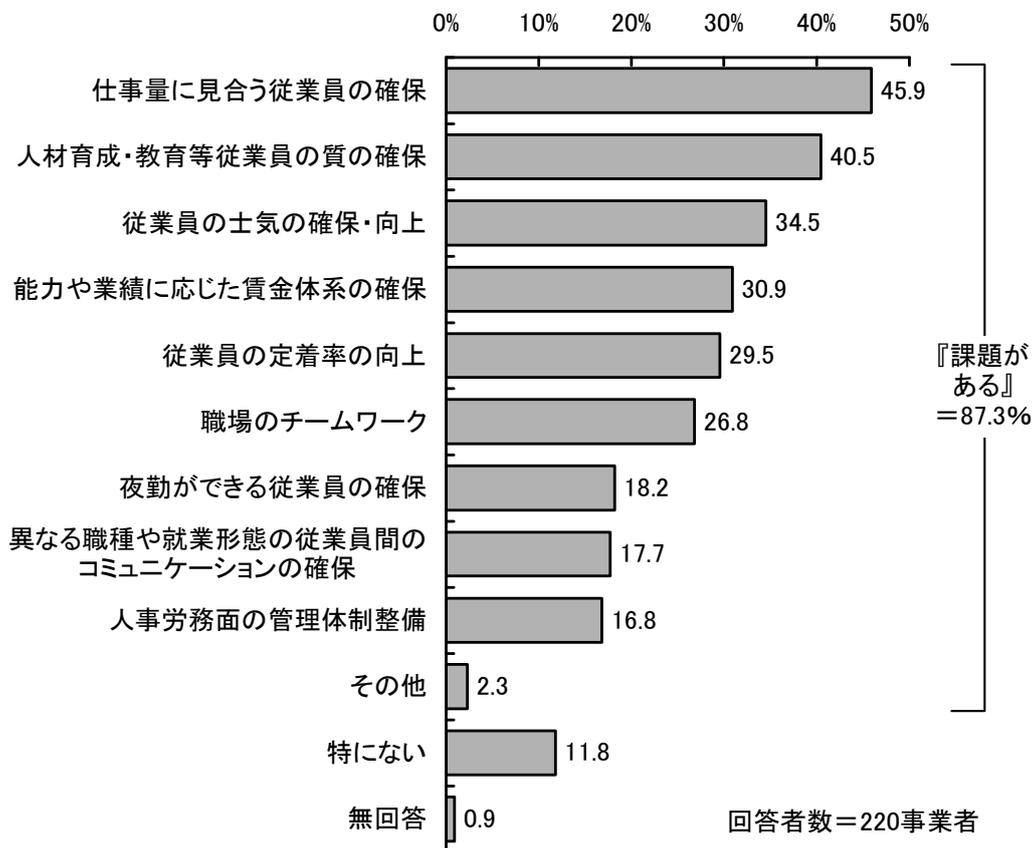
問 17 人材の確保や雇用管理について、課題となっていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

人材確保や雇用管理に関して、『課題がある』は 87.3%となっている。

具体的には、「仕事量に見合う従業員の確保」45.9%がもっとも高く、次いで「人材育成・教育等従業員の質の確保」40.5%、「従業員の士気の確保・向上」34.5%、「能力や業績に応じた賃金体系の確保」30.9%、「従業員の定着率の向上」29.5%の順となっている。

図表6-23 人材確保や雇用管理に関する課題(複数回答)



※『課題がある』=100%－「特にない」－「無回答」

(2) キャリアパスの設定状況、今後設ける予定の有無

問 18 貴事業所では、キャリアパスを設けていますか。(1つに○)

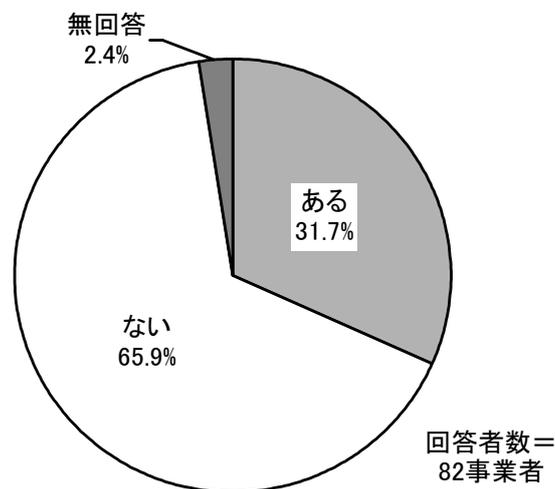
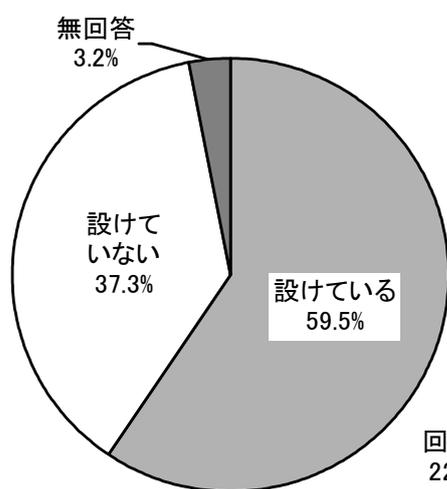
付問 「2. 設けていない」事業所におたずねします。今後設ける予定はありますか。

(1つに○)

キャリアパスを「設けている」は 59.5%、約 6 割であり、37.3%が「設けていない」と回答している。

「設けていない」と回答した事業者のうち、今後設ける予定が「ある」は 31.7%であり、「ない」が 65.9%を占める。

図表6-24 キャリアパスの設定状況(単数回答) 図表6-25 設ける予定の有無(単数回答)



(キャリアパスを設定していない理由：20件より抜粋して記載)

- ・ 職員が少なく、必要性がないように思う。
- ・ 従業員がいない、1人の事業所のため。
- ・ 開設間もないため。
- ・ 経営者の理解が得られない。
- ・ 手続きが大変。
- ・ 現在検討中。

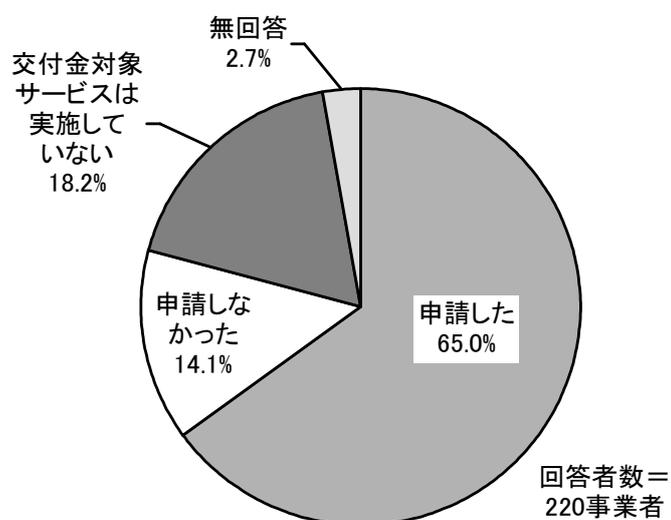
(3) 介護職員処遇改善交付金申請状況

問 19 貴事業所では、平成 22 年度の介護職員処遇改善交付金申請をしましたか。

(1つに○)

介護職員処遇改善交付金申請状況をみると、「申請した」は 65.0%であり、「申請しなかった」は 14.1%となっている。

図表6-26 介護職員処遇改善交付金申請状況(単数回答)



(交付金を申請しなかった理由：14件より抜粋して記載)

- ・ 職員が少ないため。
- ・ 気付いたのが遅かった。
- ・ 必要性を感じないため。
- ・ 申請のための事務負担が、交付金の額より大きいため。
- ・ 申請手続きが理解不可のため。
- ・ 開設したばかり（1年未満）。
- ・ 経営者の判断による。

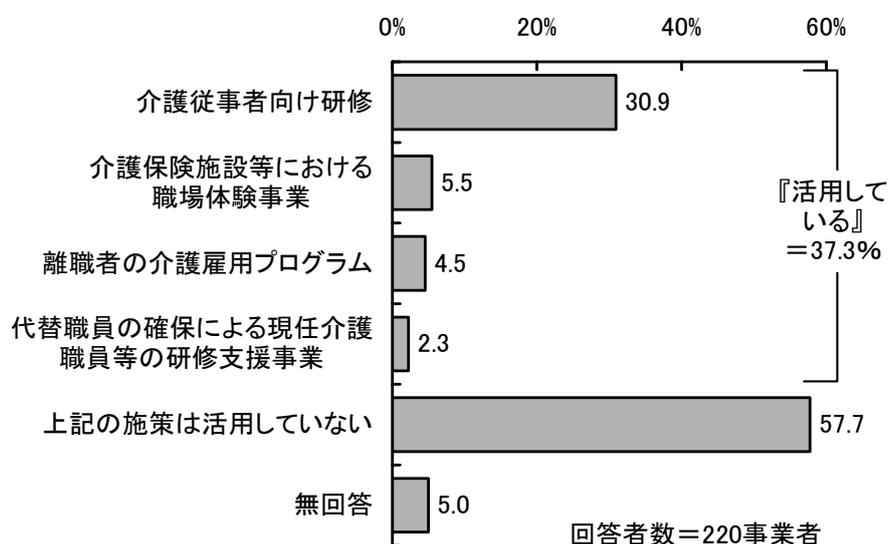
(4) 人材確保のための東京都等の施策の活用状況

問 20 貴事業所では、人材確保のために、介護職員処遇改善交付金以外に、次の東京都等の施策を活用していますか。(あてはまるものすべてに○)

人材確保のための東京都等の施策を『活用している』は37.3%となっている。

具体的には、「介護従事者向け研修」が30.9%、「介護保険施設等における職場体験事業」5.5%、「離職者の介護雇用プログラム」4.5%、「代替職員の確保による現任介護職員等の研修支援事業」2.3%となっている。

図表6-27 人材確保のための東京都等の施策の活用状況(複数回答)



※『活用している』=100%－「上記の施策は活用していない」－「無回答」

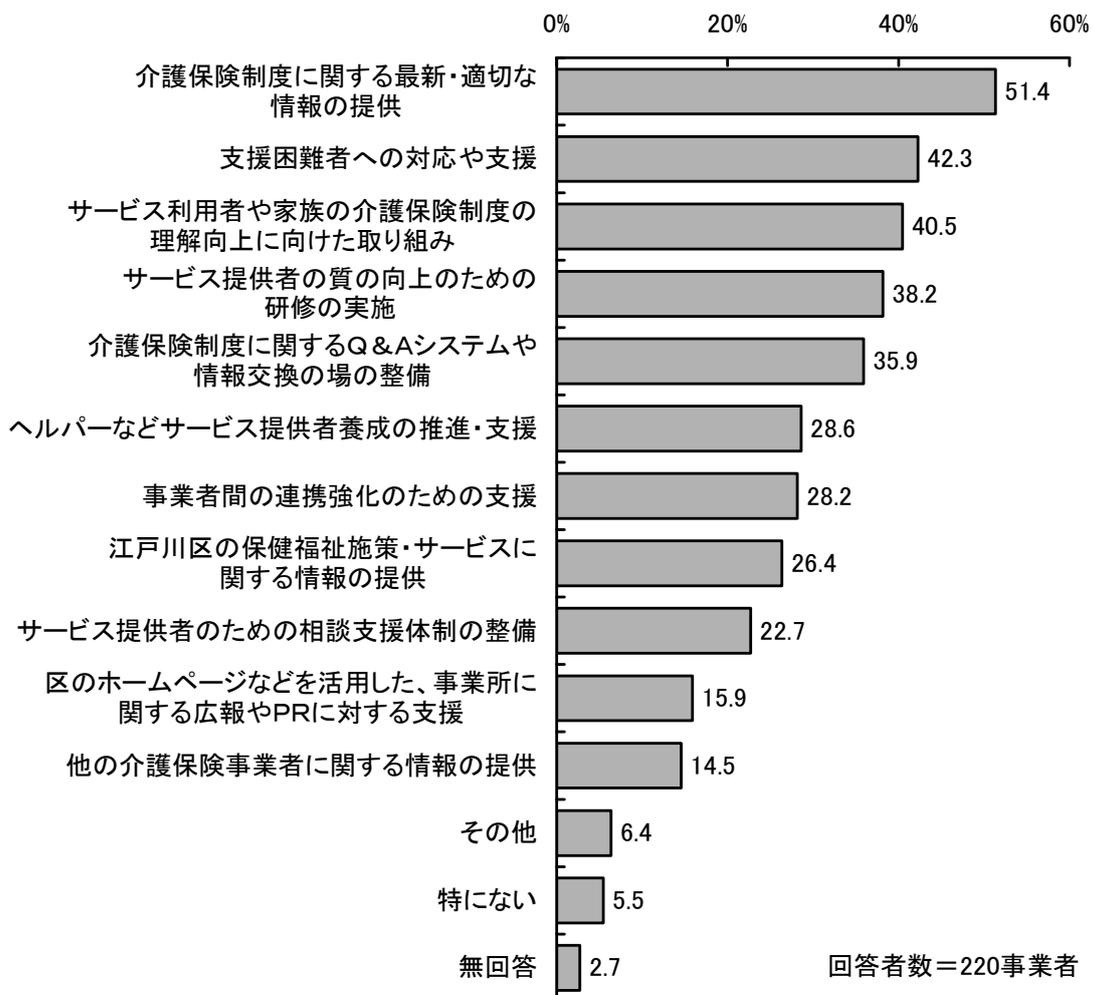
5. 区に対する要望について

(1) 区に充実・支援してほしいこと

問 21 介護サービス事業を展開する上で、江戸川区にさらに充実・支援してほしいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

区に充実・支援してほしいことは、「介護保険制度に関する最新・適切な情報の提供」51.4%がもっとも高い。続いて、「支援困難者への対応や支援」42.3%、「サービス利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み」40.5%、「サービス提供者の質の向上のための研修の実施」38.2%、「介護保険制度に関するQ&Aシステムや情報交換の場の整備」35.9%となっており、これらが上位5項目にあげられている。

図表6-28 区に充実・支援してほしいこと(複数回答)

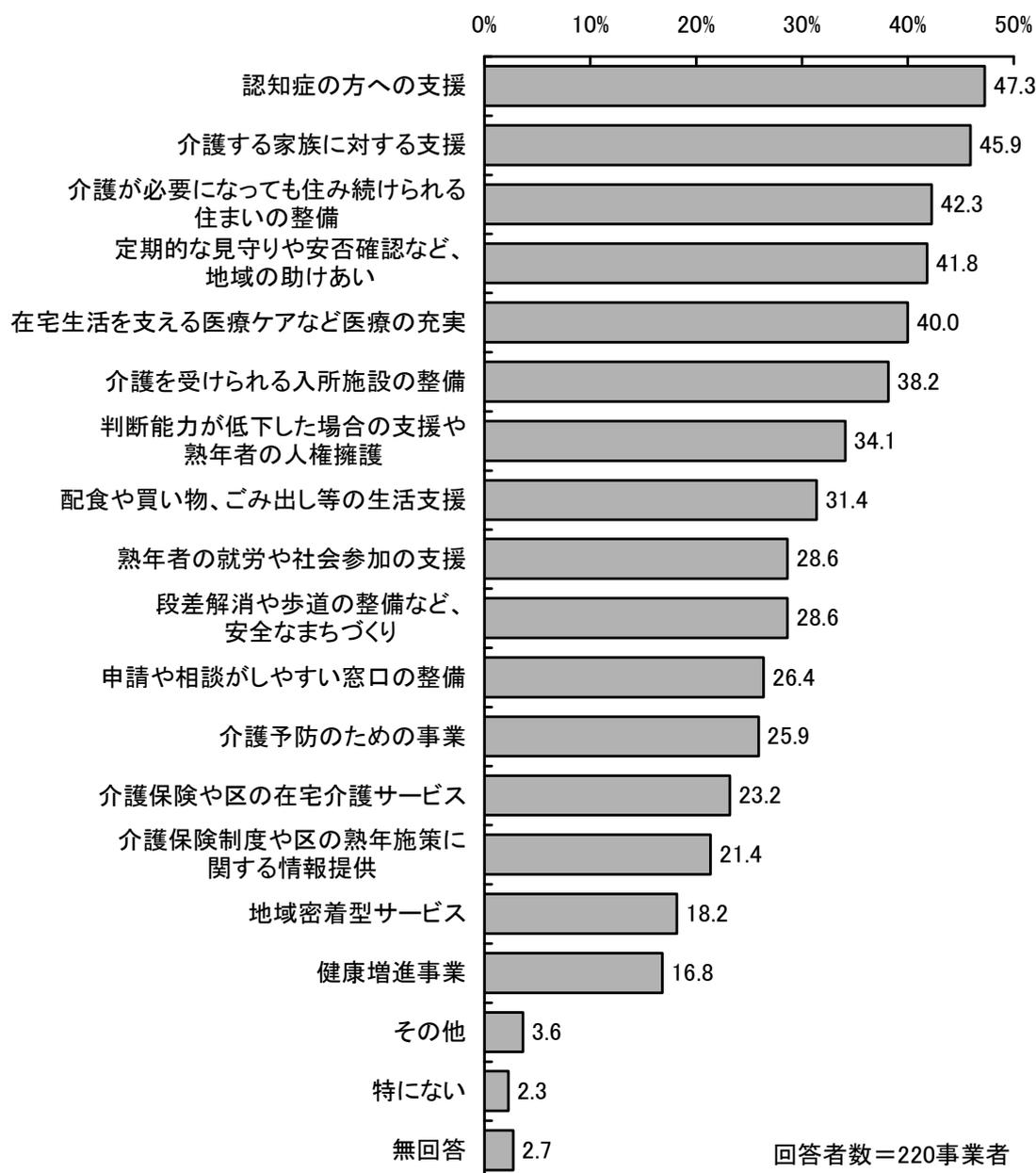


(2) 今後力を入れるべき江戸川区の熟年者施策

問 22 事業者の視点からみて、江戸川区の熟年者施策で、今後力を入れていくべきと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

今後力を入れるべき江戸川区の熟年者施策は、「認知症の方への支援」47.3%がもっとも高く、「介護する家族に対する支援」45.9%、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」42.3%、「定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい」41.8%、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」40.0%が、いずれも4割台で続いている。

図表6-29 今後力を入れるべき江戸川区の熟年者施策(複数回答)



(3) 区への意見・要望

最後に、江戸川区が熟年者の保健福祉施策や介護保険事業を推進していくにあたり、ご意見等がありましたら、自由にご記入ください。

(28 件より抜粋して記載)

- ・ 孤独死、行方不明高齢者が問題となり、地域コミュニケーションが失われている昨今、独居高齢者、老々介護の実態を把握し、地域で問題解決できるよう地域のきずなを強化したい。そのためには、地域力のプロジェクトを小さな芽活動的に実施する必要がある。区にはもっとその先頭に立ち、本来の福祉行政政策を行い、思いやりのある温かい社会をつくって頂きたい。
- ・ 認定結果を早く出せるように、また、結果の問い合わせに対して具体的な返答を家族に対してもケアマネジャーに対しても行って頂きたい。
- ・ 介護をしている人の精神的な支えだけで、今の介護保険事業は成り立っている。今必要なのはハード（建物）ではなく、ソフト（人）である。
- ・ 医療福祉の連携の場を多くつくってほしい。また、医療に対して、福祉の実情などもっと知ってほしい。医師があまり福祉のことを知らないことが多い。
- ・ 通所介護の事業者連絡会が必要。情報交換や勉強会を全事業所が行うことが、サービスの質の向上に必ずつながるし、江戸川区の利益にもなるはず。
- ・ 利用者は、ヘルパーのことをお手伝い感覚に思う人がまだ多い。区として、介護保険の利用に関する説明や、わかりやすく細かい部分も説明されている資料を作成してほしい。
- ・ 事業者、従業者の教育、指導をもっと行ってほしい。
- ・ 地域の方にどんなサービスがあって、どんな事をしているのかを知ってもらえる機会を設けてほしい。
- ・ 各区で対応が違う部分があるので、江戸川区としての考え、方針など示したものがあるとよい（訪問介護、居宅介護支援サービス）。
- ・ 予防事業に力を入れるとともに、コストがかかる施設からの脱却をはかるためにも、区民一人ひとりの意識を変えるような働きかけをして頂きたい。
- ・ 困難事例の支援について、安心して援助できるように各機関が協力して取り組んでほしい。

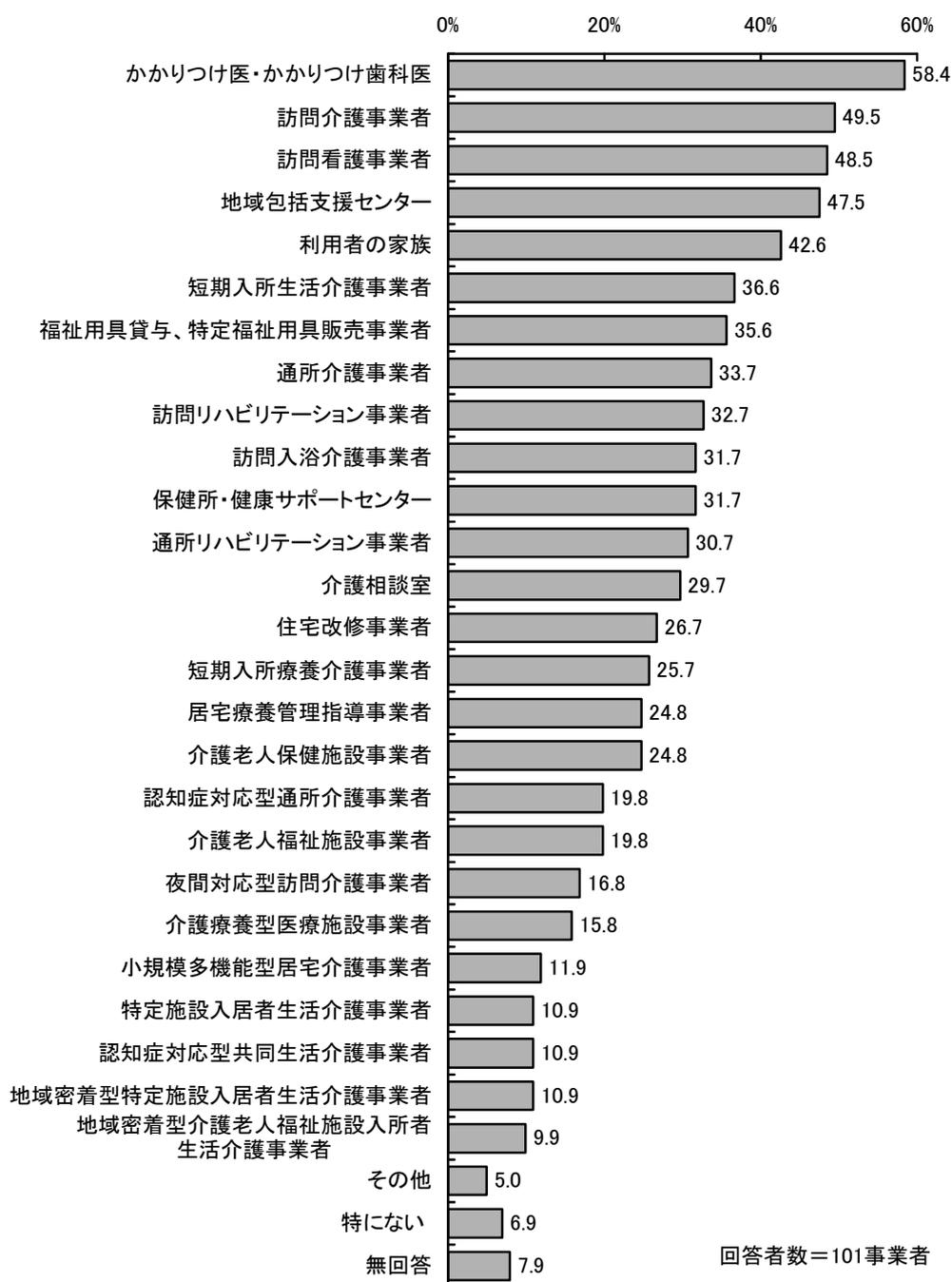
6. 居宅介護支援事業について（居宅介護支援事業者向け設問）

(1) 連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者

問 23 江戸川区で連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者や関連機関等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

居宅介護支援事業者が、連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者は、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医」58.4%がもっとも高く6割近くがあげている。次いで、「訪問介護事業者」49.5%、「訪問看護事業者」48.5%、「地域包括支援センター」47.5%、「利用者の家族」42.6%が4割台で続いている。

図表6-30 連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者(複数回答)

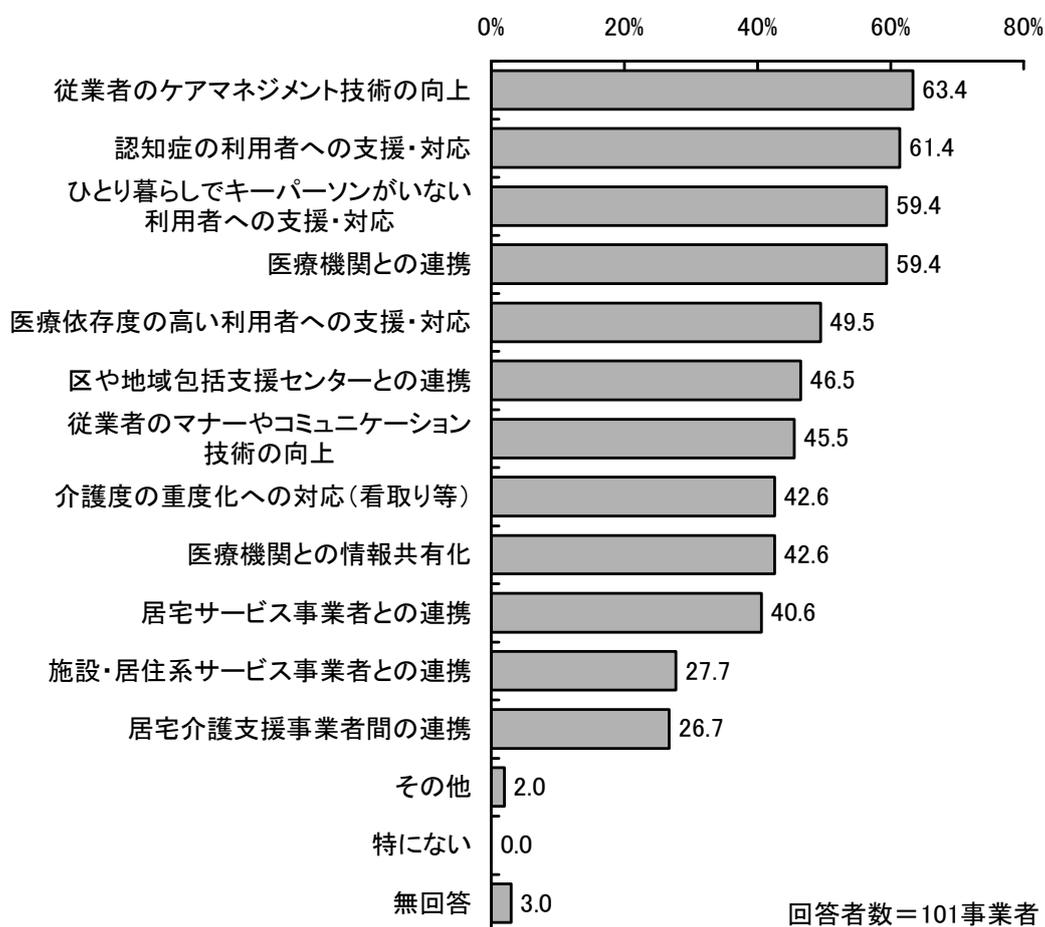


(2) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み

問 24 貴事業所では、より質の高いサービス提供を行うために、今後、どのような取り組みに力を入れる必要があると考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

居宅介護支援事業者が質の高いサービスを提供するために必要と考える取り組みは、「従業員のケアマネジメント技術の向上」63.4%、「認知症の利用者への支援・対応」61.4%、「ひとり暮らしでキーパーソンがいない利用者への支援・対応」「医療機関との連携」各59.4%、「医療依存度の高い利用者への支援・対応」49.5%、「区や地域包括支援センターとの連携」46.5%の順となっている。

図表6-31 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み(複数回答)



7. 居宅サービス事業について

(居宅サービス・地域密着型サービス事業者向け設問)

(1) 居宅介護支援事業者について問題と感ずること

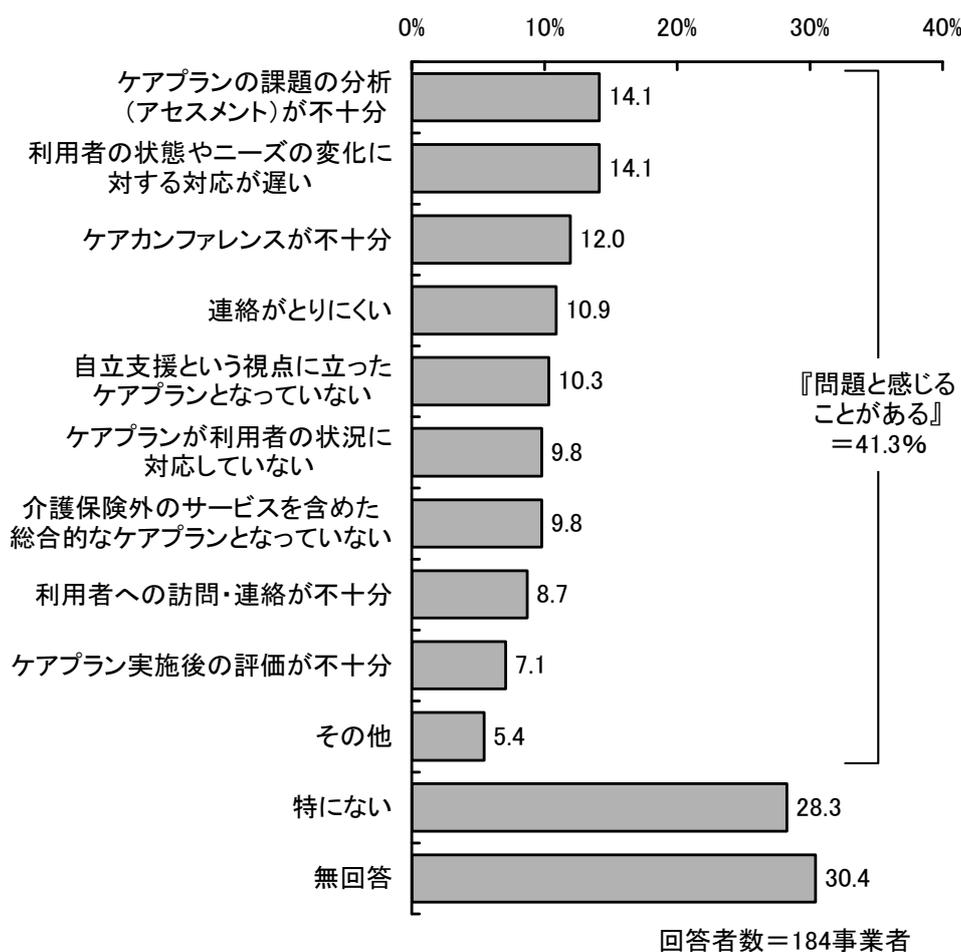
問 25 居宅介護支援事業者のケアマネジメントの対応で、問題と感ずることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

居宅サービス・地域密着型サービス事業者の 41.3%が、居宅介護支援事業者のケアマネジメントの対応で『問題と感ずることがある』と回答している。

具体的には、「ケアプランの課題の分析（アセスメント）が不十分」「利用者の状態やニーズの変化に対する対応が遅い」が各 14.1%、「ケアカンファレンスが不十分」が 12.0%、「連絡がとりにくい」が 10.9%、「自立支援という視点に立ったケアプランとなっていない」が 10.3%となっている。

図表6-32 居宅介護支援事業者について問題と感ずること(複数回答)



※『問題と感ずることがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

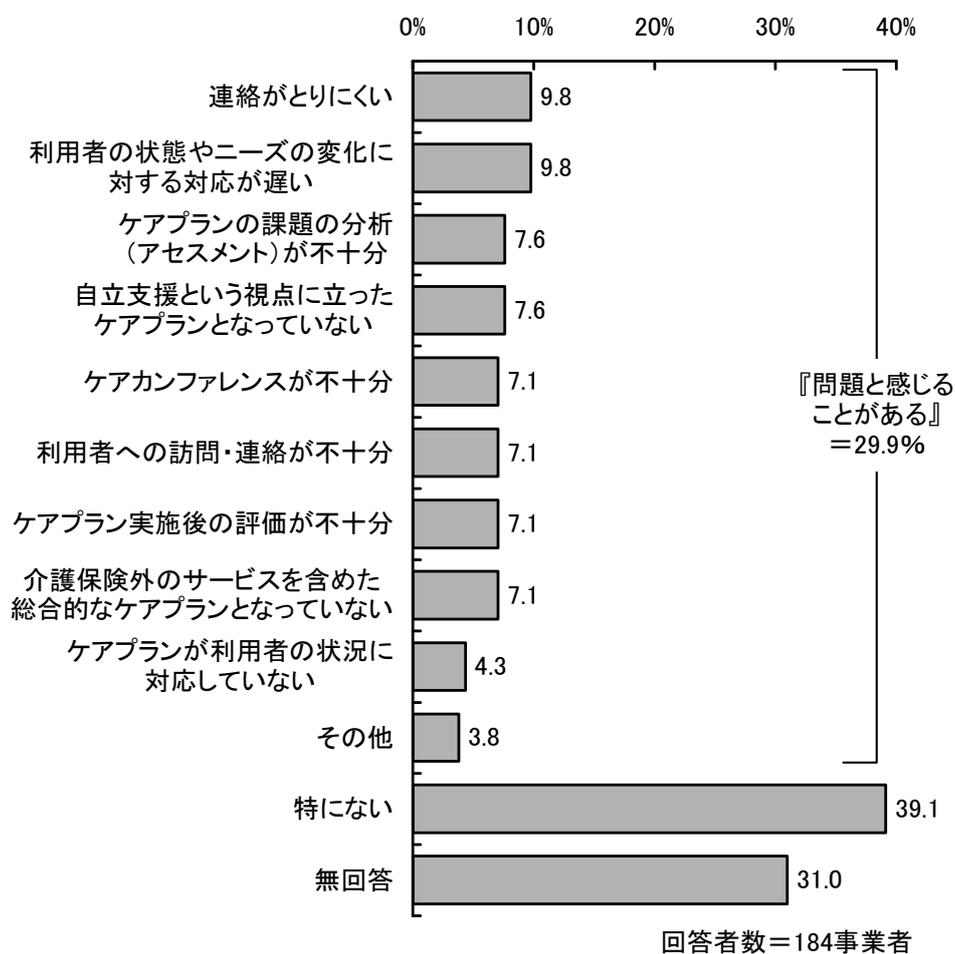
(2) 地域包括支援センターについて問題と感ずること

問 26 地域包括支援センターのケアマネジメントの対応で、問題と感ずることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

居宅サービス・地域密着型サービス事業者の 29.9%が、地域包括支援センターのケアマネジメントの対応で『問題と感ずることがある』と回答している。

具体的には、「連絡がとりにくい」「利用者の状態やニーズの変化に対する対応が遅い」が各 9.8%、「ケアプランの課題の分析（アセスメント）が不十分」「自立支援という視点に立ったケアプランとなっていない」各 7.6%などとなっている。

図表6-33 地域包括支援センターについて問題と感ずること(複数回答)



※『問題と感ずることがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(3) 地域包括支援センターに対する意見・要望

問 27 地域包括支援センターに対するご意見・ご要望等がありましたら、自由にご記入ください。

(17 件より抜粋して記載)

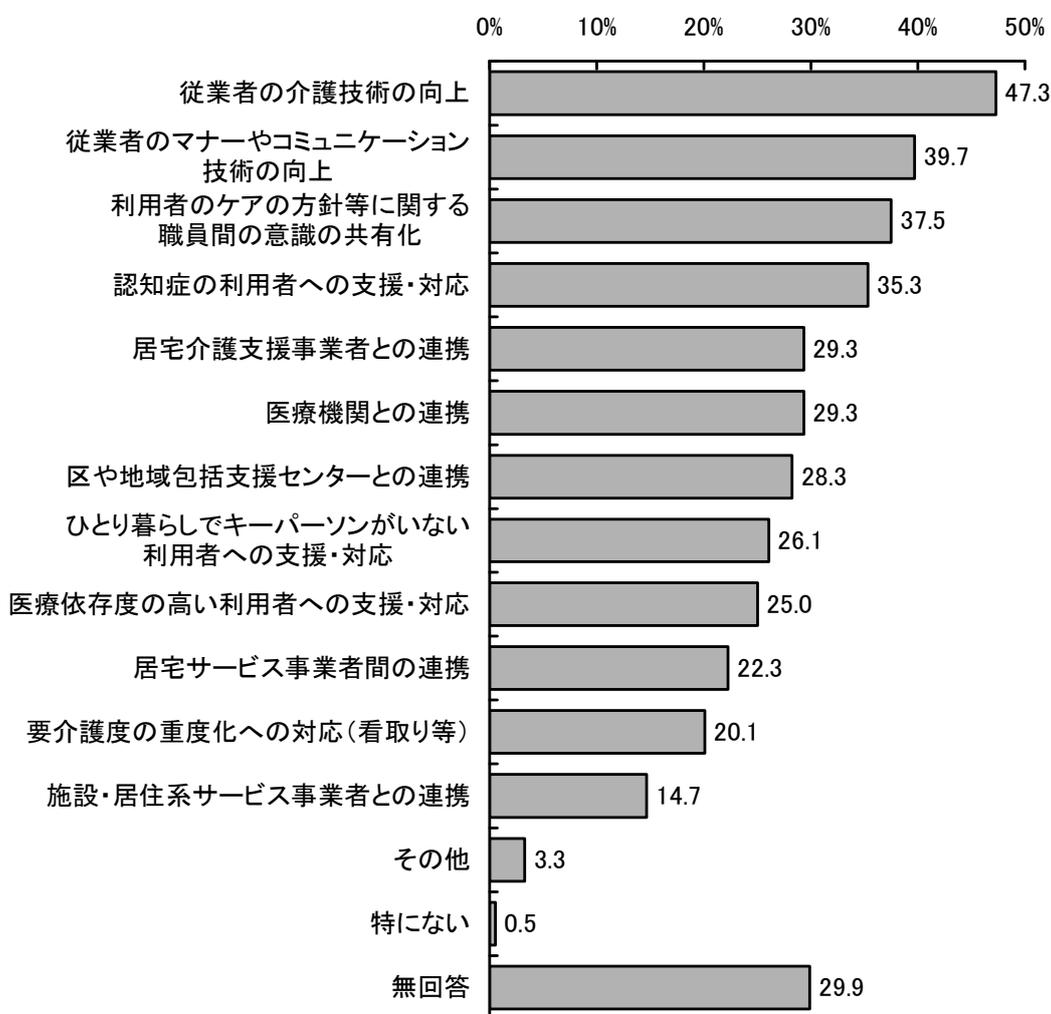
- ・ 予防プランにおいて、目標の視点が現在の生活とかけ離れている。週に 1 回訪問する訪問介護に、その目標に向かってどのような支援を盛り込めば良いのか戸惑いを感じる。
- ・ 地域の実情を熟知している職員が少なすぎる。単なるデータの取りまとめ役になっている。業務を整理して、本来の地域支援ができる人員を業務にあててほしい。
- ・ もっと現場で、ともに生活主体の相談にのってもらいたい。同じ目線で共に解決する姿勢が不足がちで、上からの目線で指導的立場に立っている方々が多すぎる。
- ・ 気軽に相談できる、そして専門分野の回答が得られる専門家を常駐してほしい。特に医療系（PT、OT）、住環境、福祉用具。
- ・ 公正、中立な立場で、各事業所と公平な関係を保持すること。
- ・ センターにより温度差がありすぎる。
- ・ 相談をしやすい窓口にしてほしい。
- ・ センターや職員を増やし、委託をなるべくしないようにしてほしい。
- ・ 事務的で介護現場の状況をつかんでいない。
- ・ 予防プランに忙殺されているように見受けられる。地域の相談機能の場となってほしい（住民及び事業者の）。

(4) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み

問 28 貴事業所では、より質の高いサービス提供を行うために、今後、どのような取り組みに力を入れる必要があると考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

居宅サービス・地域密着型サービス事業者が質の高いサービスを提供するために必要と考える取り組みとしては、「従業員の介護技術の向上」47.3%がもっとも高く、「従業員のマナーやコミュニケーション技術の向上」39.7%、「利用者のケアの方針等に関する職員間の意識の共有化」37.5%、「認知症の利用者への支援・対応」35.3%、「居宅介護支援事業者との連携」「医療機関との連携」各29.3%と続いている。

図表6-34 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み(複数回答)



回答者数=184事業者

8. 施設・居住系サービス事業について

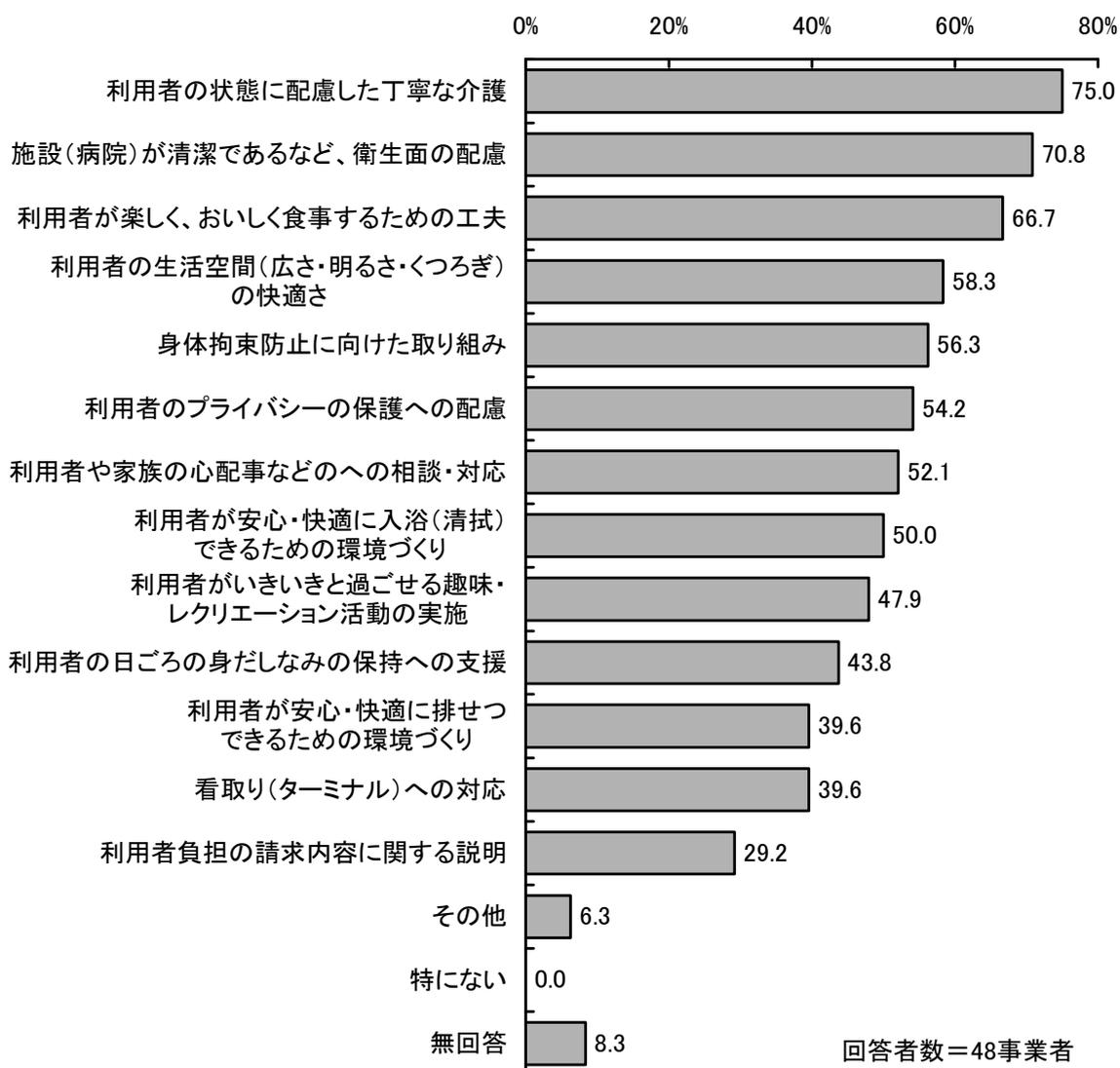
(施設・居住系サービス事業者向け設問)

(1) 力を入れている取り組み

問 29 利用者の生活への支援や対応において、貴事業所が力を入れていることは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

施設・居住系サービス事業者が力を入れている取り組みをみると、「利用者の状態に配慮した丁寧な介護」「施設（病院）が清潔であるなど、衛生面の配慮」「利用者が楽しく、おいしく食事するための工夫」が6割を超え、「利用者の生活空間（広さ・明るさ・くつろぎ）の快適さ」「身体拘束防止に向けた取り組み」「利用者のプライバシーの保護への配慮」「利用者や家族の心配事などのへの相談・対応」「利用者が安心・快適に入浴（清拭）できるための環境づくり」が5割台となっている。

図表6-35 力を入れている取り組み(複数回答)



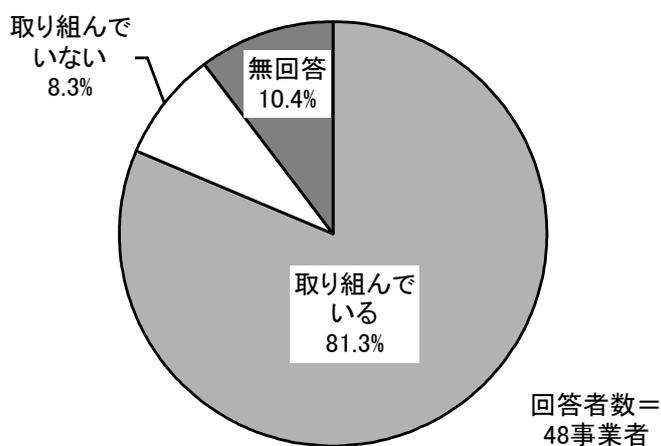
(2) 虐待を防止するための取り組み状況

問 30 貴事業所では、利用者への虐待を防止するための取り組みをしていますか。

(1つに○)

施設・居住系サービス事業者の虐待を防止するための取り組み状況は、「取り組んでいる」が81.3%を占める。「取り組んでいない」は8.3%となっている。

図表6-36 虐待を防止するための取り組み状況(単数回答)



(虐待を防止するための取り組み内容：41件より抜粋して記載)

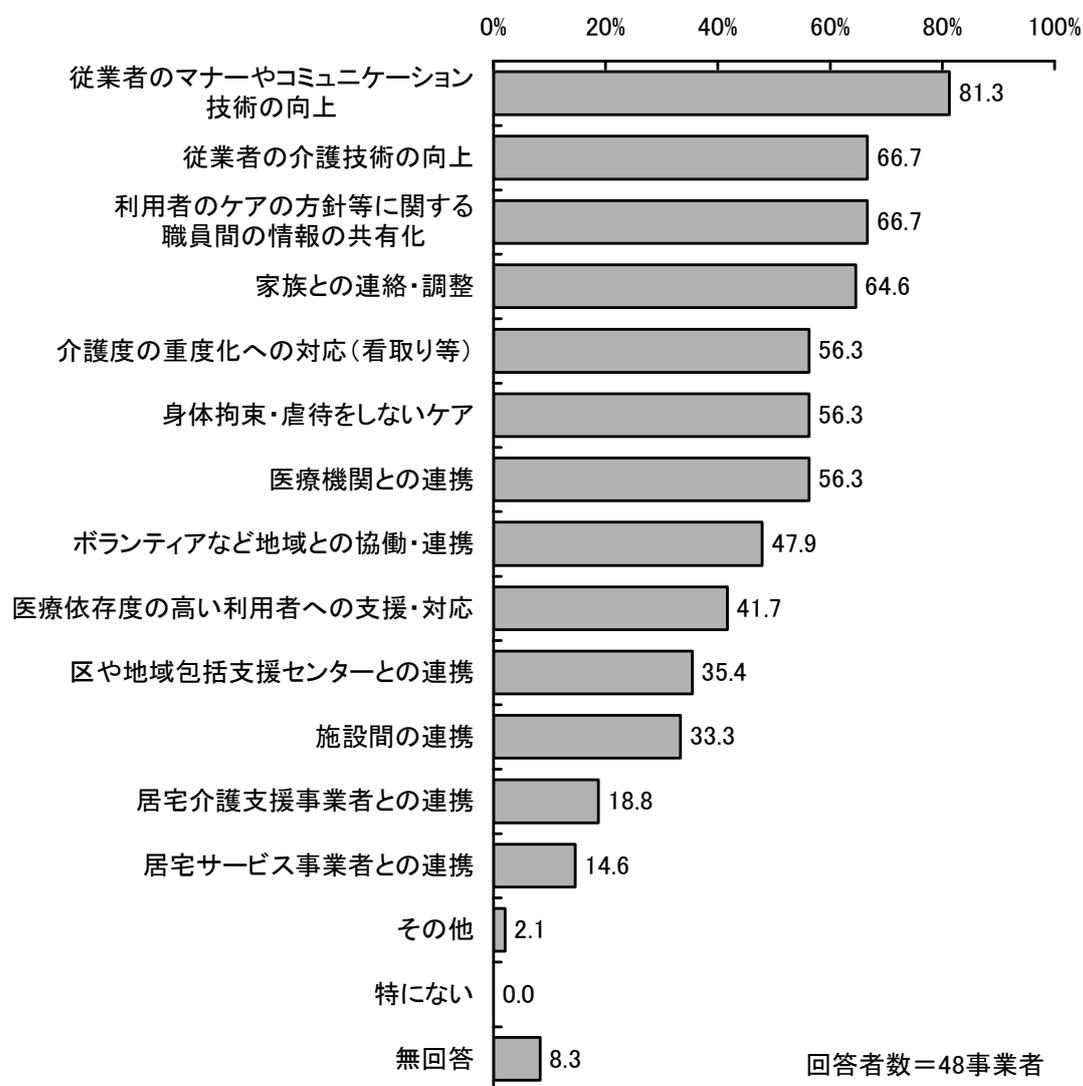
- ・ 定期的なカンファレンス、研修等による職員教育。
- ・ 事業所内で勉強会を行っている。
- ・ 毎月1回、処遇会議及び安全委員会を設け、検討、改善を実施している。
- ・ マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。
- ・ 虐待事例の共有化・検討を実施。
- ・ 環境面について、拘束に繋がらないように配慮。
- ・ 定期的な利用者への聞き取り調査。
- ・ 入浴時には、身体に損傷があるか否かを常に確認することを義務化している。
- ・ 研修、入社時におけるオリエンテーションの実施。社員相談窓口の設置。
- ・ 外部の相談機関と契約し、職員が悩み事を相談できる体制を整えた（ストレスの低下）。
- ・ 関連事業所との情報共有の強化。

(3) 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み

問 31 貴事業所では、より質の高いサービス提供を行うために、今後、どのような取り組みに力を入れる必要があると考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

施設・居住系サービス事業者が質の高いサービスを提供するために必要と考える取り組みは、「従業員のマナーやコミュニケーション技術の向上」がもっとも高く 8 割台である。次いで、「従業員の介護技術の向上」「利用者のケアの方針等に関する職員間の情報の共有化」「家族との連絡・調整」が 6 割台、「介護度の重度化への対応（看取り等）」「身体拘束・虐待をしないケア」「医療機関との連携」が 5 割台で続いている。

図表6-37 質の高いサービスを提供するために必要な取り組み(複数回答)



第 7 章

介護支援専門員調査

< 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会に加入し、介護支援専門員として従事している会員
抽出元	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会会員名簿
調査期間	平成23年1月11日～1月31日
対象者数 及び 回収率	対象者数：381 有効回収数：244 有効回収率：64.0%

1. 勤務先の概要

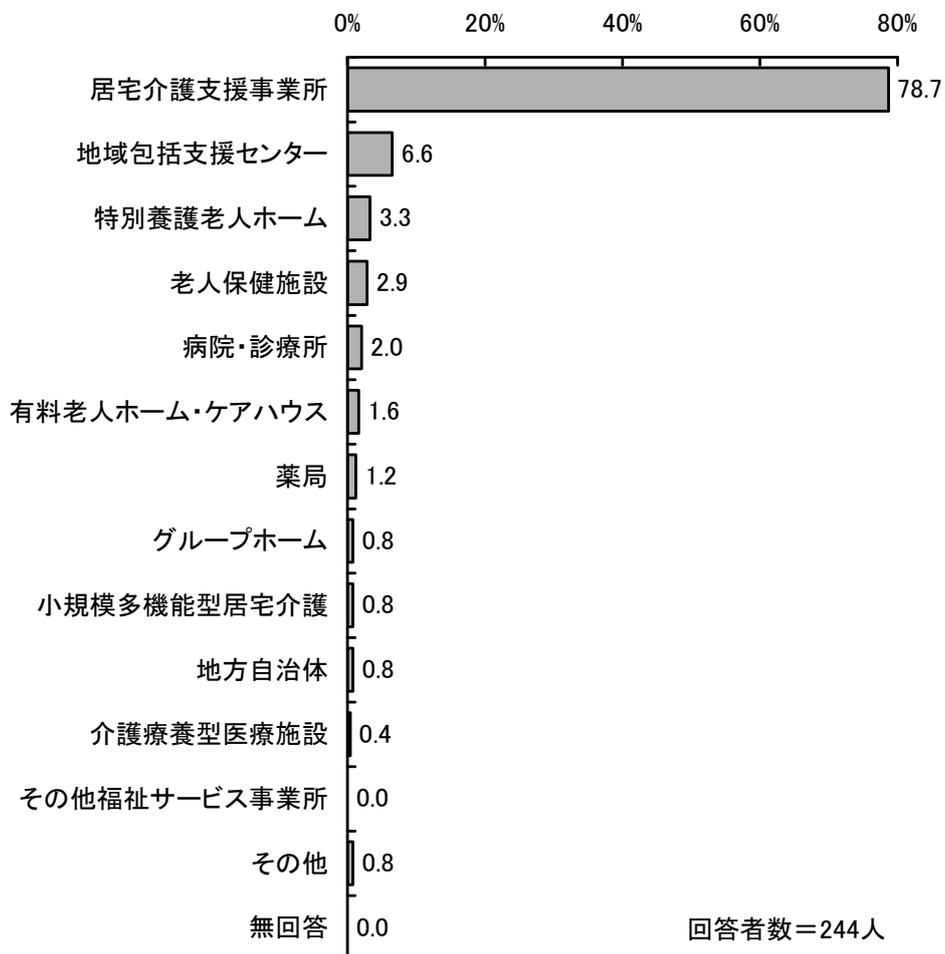
(1) 勤務先

問2 あなたのお勤め先等について、おうかがいします。

(1) 介護支援専門員としてのお勤め先等は、どちらですか。(1つに○)

勤務先は、「居宅介護支援事業所」が78.7%と8割近くを占める。次いで、「地域包括支援センター」6.6%、「特別養護老人ホーム」3.3%、「老人保健施設」2.9%の順となっている。

図表7-1 勤務先(単数回答)



(2)勤務地及び法人形態

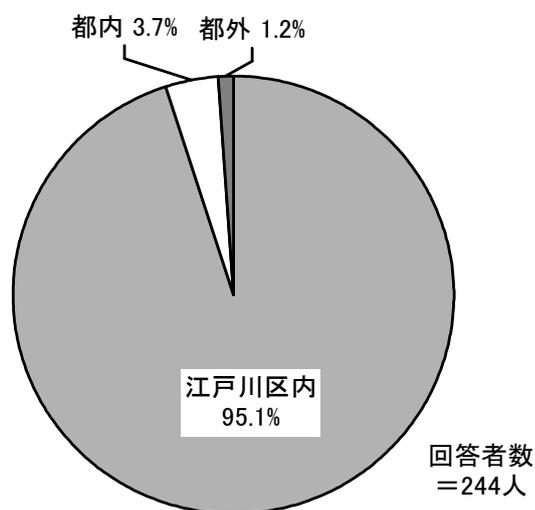
問 2(2)勤務地はどちらですか。(1つに○)

問 2(3)お勤め先の法人形態は、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

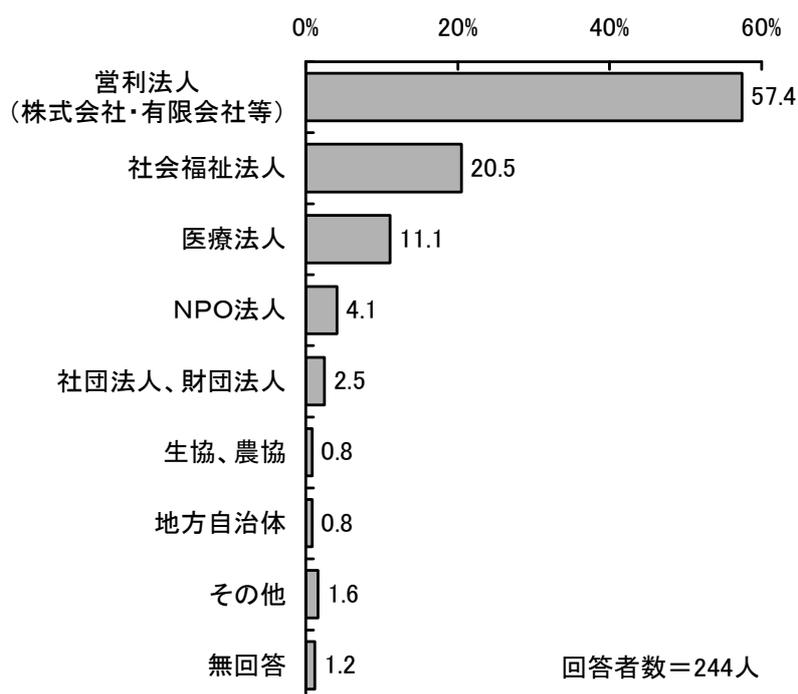
勤務地は、「江戸川区内」が95.1%を占める。

勤務先の法人形態は、「営利法人（株式会社・有限会社等）」57.4%がもっとも高く、次いで「社会福祉法人」20.5%、「医療法人」11.1%、「NPO法人」4.1%の順となっている。

図表7-2 勤務地(単数回答)



図表7-3 勤務先の法人形態(単数回答)



(3) 勤務先の併設事業の有無

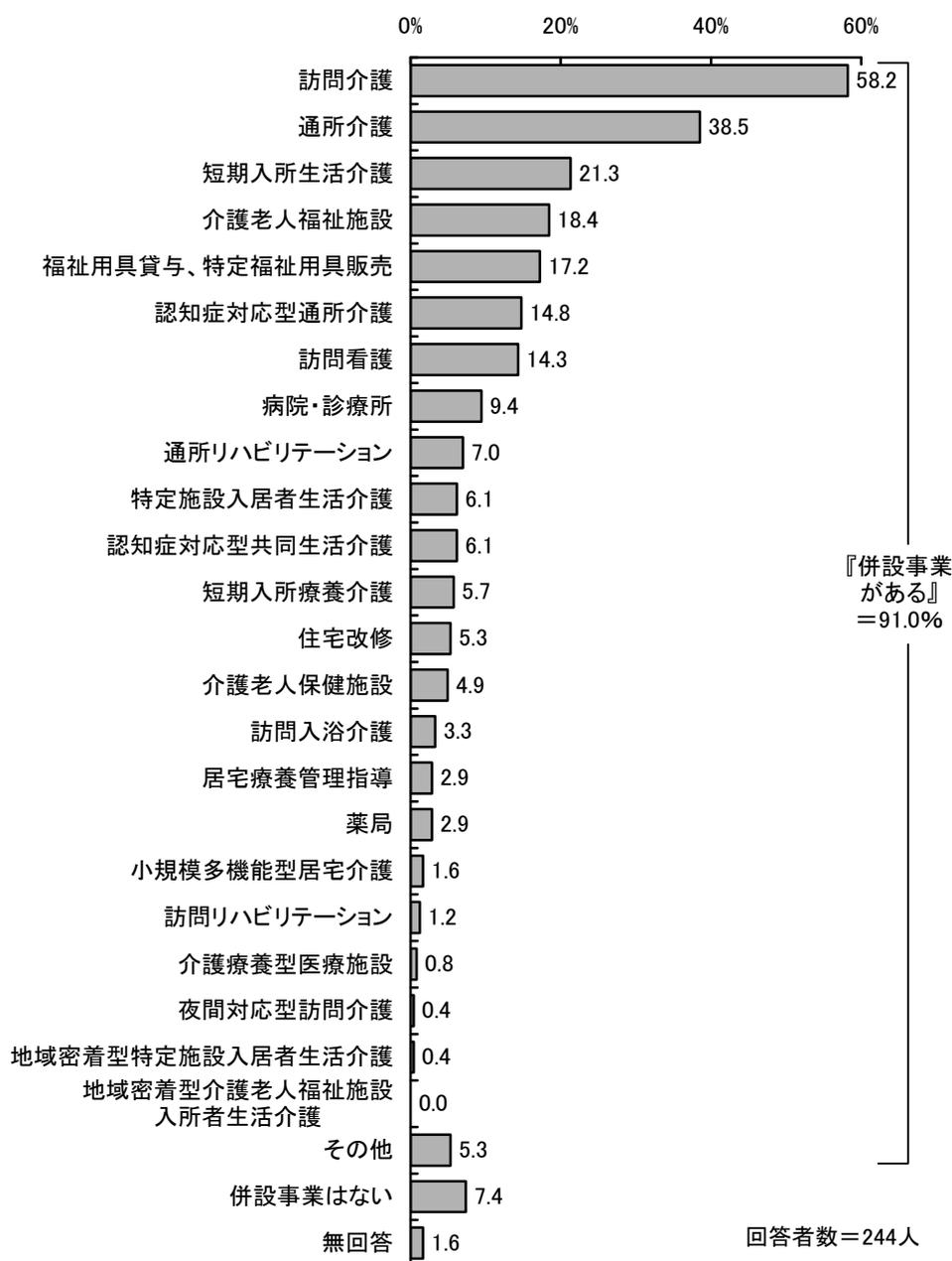
問3 あなたのお勤め先の事業所は、どのような介護サービス等を併設していますか。

(あてはまるものすべてに○)

勤務先の併設事業の有無をみると、「併設事業はない」は7.4%であり、91.0%が『併設事業がある』事業所に勤務していると回答している。

併設事業としては、「訪問介護」58.2%がもっとも高く、次いで「通所介護」38.5%、「短期入所生活介護」21.3%、「介護老人福祉施設」18.4%、「福祉用具貸与、特定福祉用具販売」17.2%、「認知症対応型通所介護」14.8%、「訪問看護」14.3%などとなっている。

図表7-4 勤務先の併設事業の有無(複数回答)



※『併設事業がある』 = 100% - 「併設事業はない」 - 「無回答」

2. 基本的属性

(1) 本人の性別、現在の満年齢

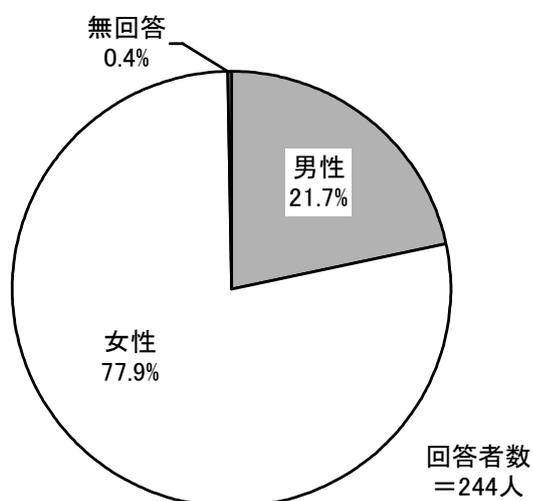
問1 あなたの性別と平成23年1月1日現在の満年齢をお答えください。

(それぞれ1つに○)

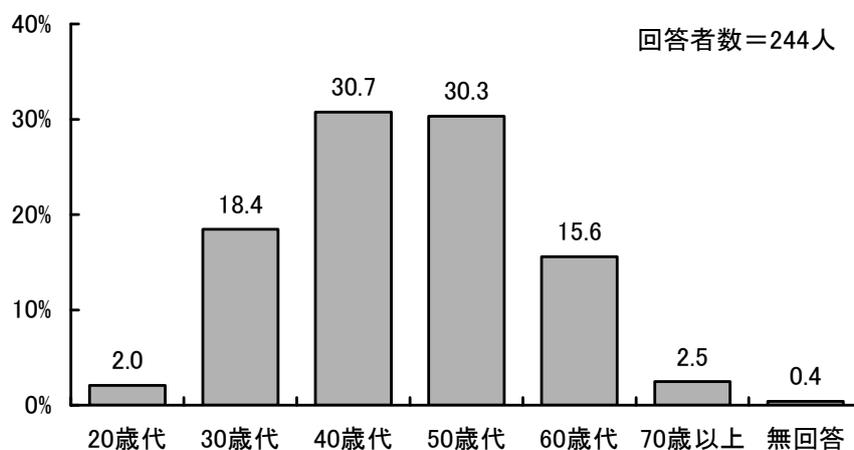
性別は、「男性」が21.7%であり、「女性」が77.9%を占める。

年齢は、「40歳代」30.7%、「50歳代」30.3%であり、40～50歳代が約6割を占める。次いで、「30歳代」18.4%、「60歳代」15.6%となっている。

図表7-5 性別(単数回答)



図表7-6 年齢(単数回答)



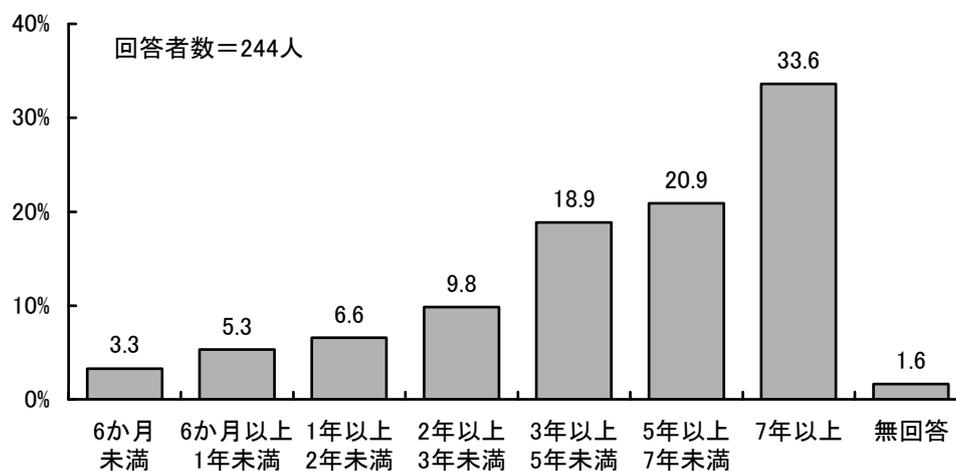
(2) 介護支援専門員としての実務年数

問4 あなたは、平成23年1月1日現在、介護支援専門員としての業務に従事してどのくらいの経験がありますか。転職などを行っている場合、前職なども含めた合計期間でお答えください。(1つに○)

介護支援専門員としての実務年数は、「7年以上」が33.6%ともっとも高い割合を占める。次いで、「5年以上7年未満」20.9%、「3年以上5年未満」18.9%であり、半数以上が実務経験5年以上となっている。

性別にみると、実務年数が3年未満の人の割合は、男性32.0%、女性23.1%と男性の方が高い。5年以上の人の割合は、男性が56.6%、女性が53.7%となっている。

図表7-7 介護支援専門員としての実務年数(単数回答)



図表7-8 介護支援専門員としての実務年数

		回答者数(人)	6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上	無回答
全体		244	3.3	5.3	6.6	9.8	18.9	20.9	33.6	1.6
性別	男性	53	5.7	11.3	7.5	7.5	9.4	18.9	37.7	1.9
	女性	190	2.6	3.7	6.3	10.5	21.6	21.6	32.1	1.6
年齢別	20歳代	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	45	2.2	8.9	6.7	17.8	13.3	28.9	22.2	0.0
	40歳代	75	2.7	5.3	5.3	8.0	30.7	17.3	29.3	1.3
	50歳代	74	2.7	2.7	8.1	10.8	14.9	23.0	37.8	0.0
	60歳代	38	5.3	5.3	5.3	2.6	7.9	18.4	50.0	5.3
	70歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0	16.7

(3)主任介護支援専門員の割合、経験年数

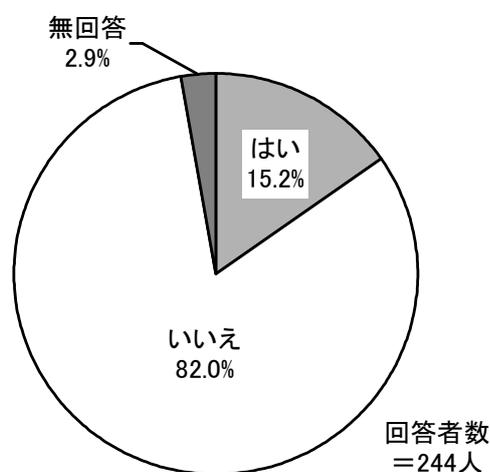
問5 あなたは、主任介護支援専門員ですか。(1つに○)

「1. はい」と回答した方は、主任介護支援専門員としての経験年数をご記入ください。

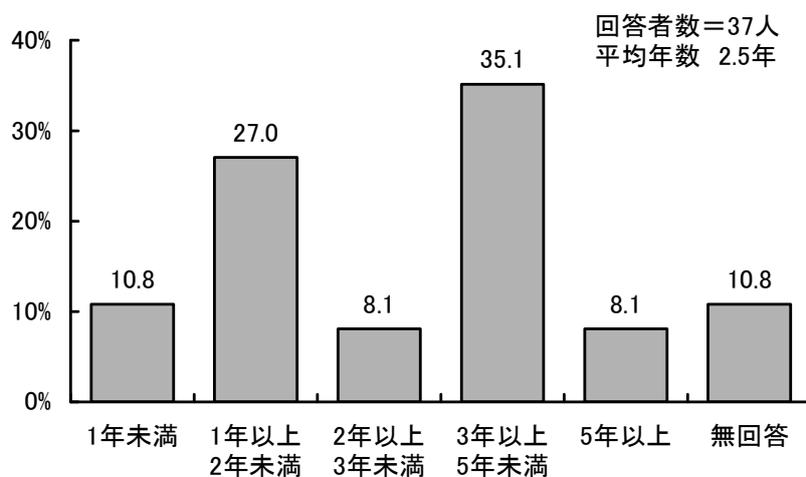
主任介護支援専門員の割合は15.2%となっている。

主任介護支援専門員としての経験年数は、「3年以上5年未満」35.1%がもっとも高く、次いで「1年以上2年未満」27.0%であり、平均2.5年となっている。

図表7-9 主任介護支援専門員資格の有無(単数回答)



図表7-10 主任介護支援専門員としての経験年数(単数回答)

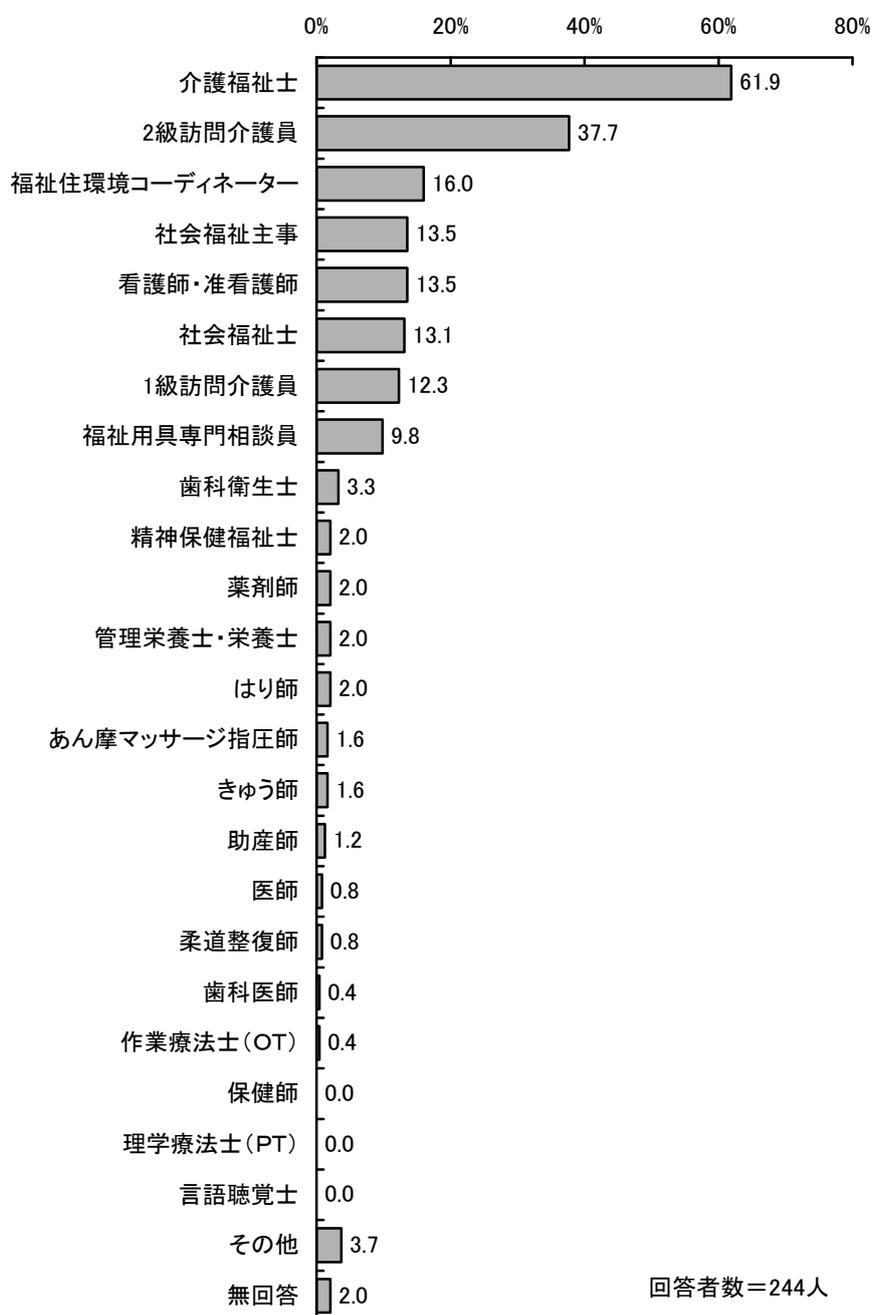


(4) 介護支援専門員以外の保有資格

問6 あなたは、介護支援専門員以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)

介護支援専門員以外の保有資格をみると、「介護福祉士」61.9%がもっとも高く、次いで「2級訪問介護員」37.7%、「福祉住環境コーディネーター」16.0%、「社会福祉主事」「看護師・准看護師」各13.5%、「社会福祉士」13.1%、「1級訪問介護員」12.3%の順となっている。

図表7-11 介護支援専門員以外の保有資格(複数回答)



(5)現在の勤務形態、兼務している業務

問7 あなたの現在の勤務形態は、次のうちどれですか。(1つに○)

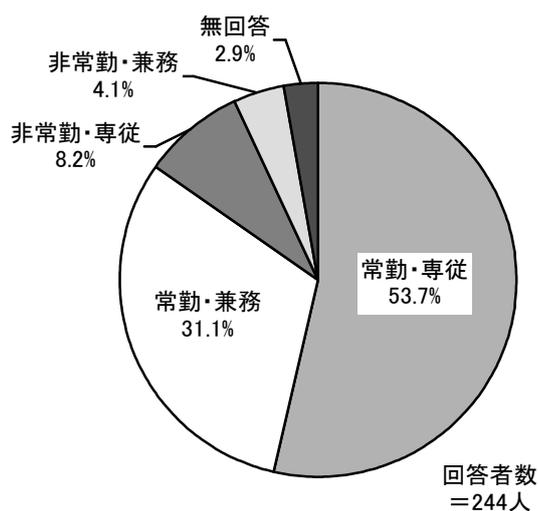
「2. 常勤・兼務」「4. 非常勤・兼務」と回答した方におうかがいします。

問7-1 どのような業務を兼務していますか。(あてはまるものすべてに○)

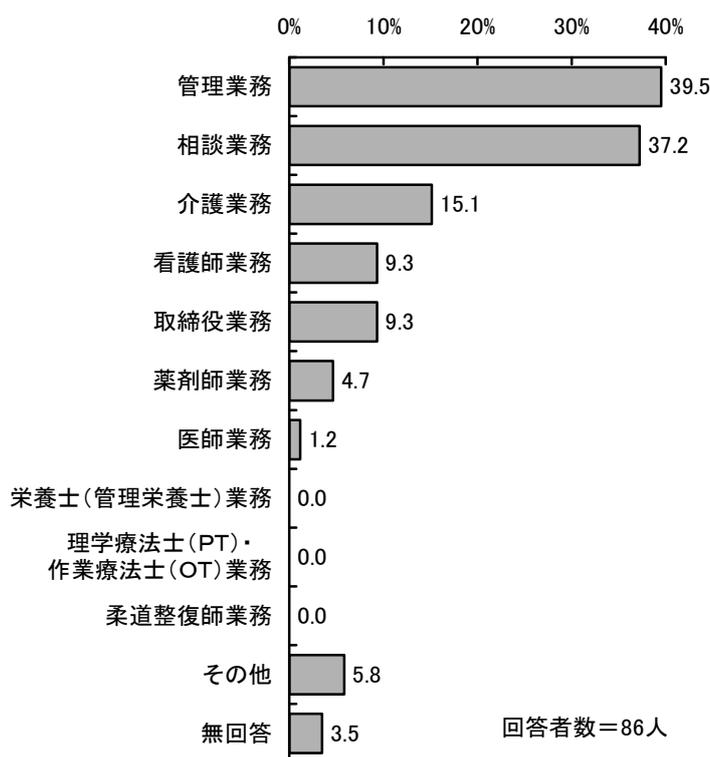
現在の勤務形態は、「常勤・専従」が53.7%と半数強を占めている。次いで、「常勤・兼務」31.1%と、これらをあわせた84.8%が常勤勤務となっている。「非常勤・専従」は8.2%、「非常勤・兼務」は4.1%である。

勤務形態が兼務の人が兼務している業務は、「管理業務」39.5%、「相談業務」37.2%、「介護業務」15.1%、「看護師業務」9.3%、「取締役業務」各9.3%などとなっている。

図表7-12 現在の勤務形態(単数回答)



図表7-13 兼務している業務(複数回答)



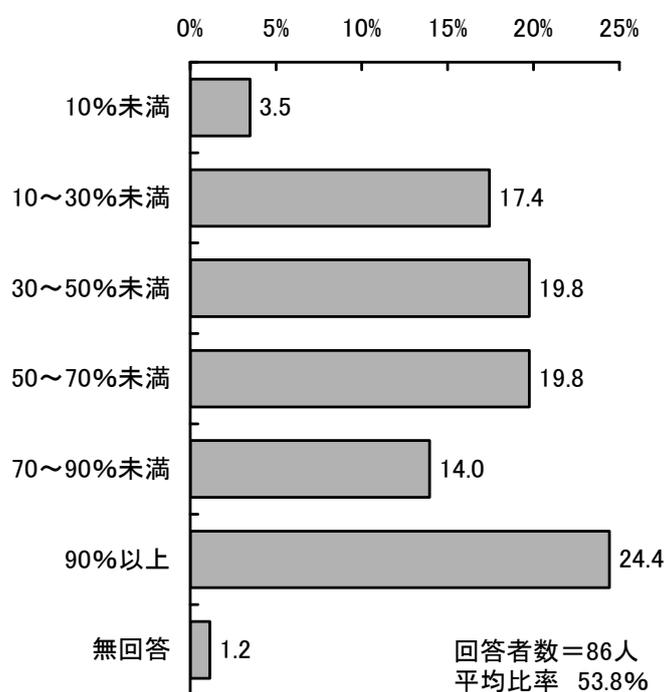
(6) 介護支援専門員業務の比率

問7で「2. 常勤・兼務」「4. 非常勤・兼務」と回答した方におうかがいします。

問7-2 介護支援専門員としての業務の比率は、何%くらいですか。

勤務形態が兼務の人の介護支援専門員業務の比率は、「90%以上」が24.4%を占めるのに次いで、「30～50%未満」「50～70%未満」が各19.8%となっており、平均53.8%となっている。

図表7-14 介護支援専門員業務の比率(単数回答)



3. ケアマネジメント業務の状況

(1) 担当している利用者数

問8 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターにお勤めの介護支援専門員の方(問2(1)で1か2に○)にのみ、おうかがいします。

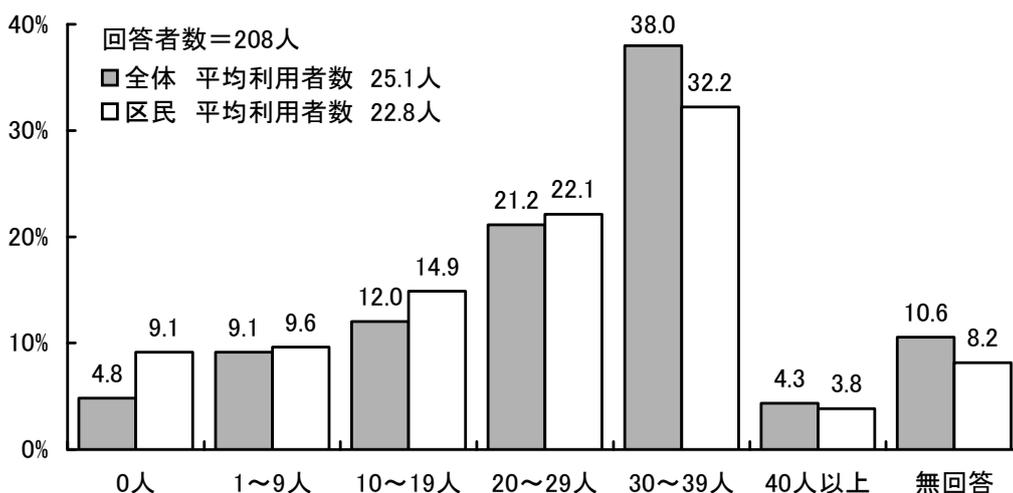
(1)あなたが担当している利用者数は何人ですか。いない場合は、「0」を記入してください。

(それぞれ、全体と江戸川区について数値を記入)

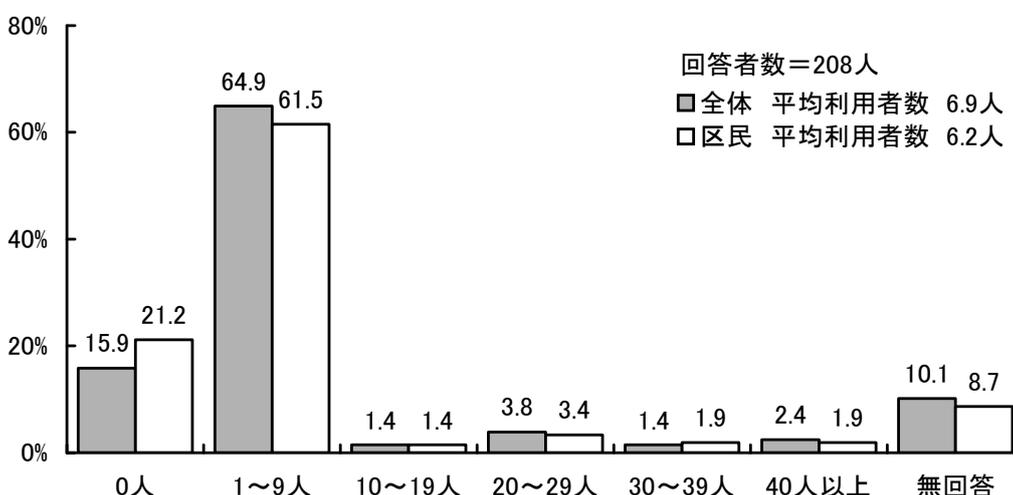
担当している利用者数をみると、要介護者では、「30～39人」がもっとも高く、次いで「20～29人」となっている。全体の平均は25.1人で、そのうち区民の平均利用者数は22.8人となっている。

要支援者では、「1～9人」が6割台を占めており、全体の平均は6.9人、そのうち区民の平均利用者数は6.2人となっている。

図表7-15 担当している利用者数<要介護者>(単数回答)



図表7-16 担当している利用者数<要支援者>(単数回答)

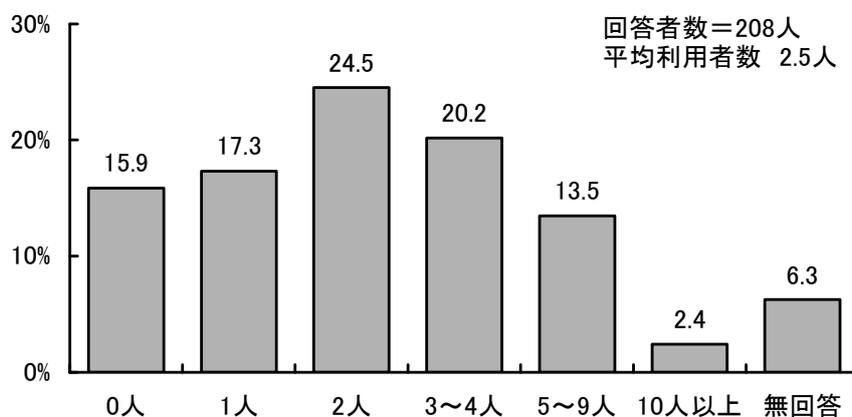


(2) 支援や対応に困難を感じている利用者数

問 8(2) あなたが担当している利用者の中に、支援や対応に困難を感じている利用者は何人くらいいますか。いない場合は、「0」を記入してください。

支援や対応に困難を感じている利用者数は、「2人」24.5%、「3～4人」20.2%の順であり、平均2.5人となっている。

図表7-17 支援や対応に困難を感じている利用者数(単数回答)

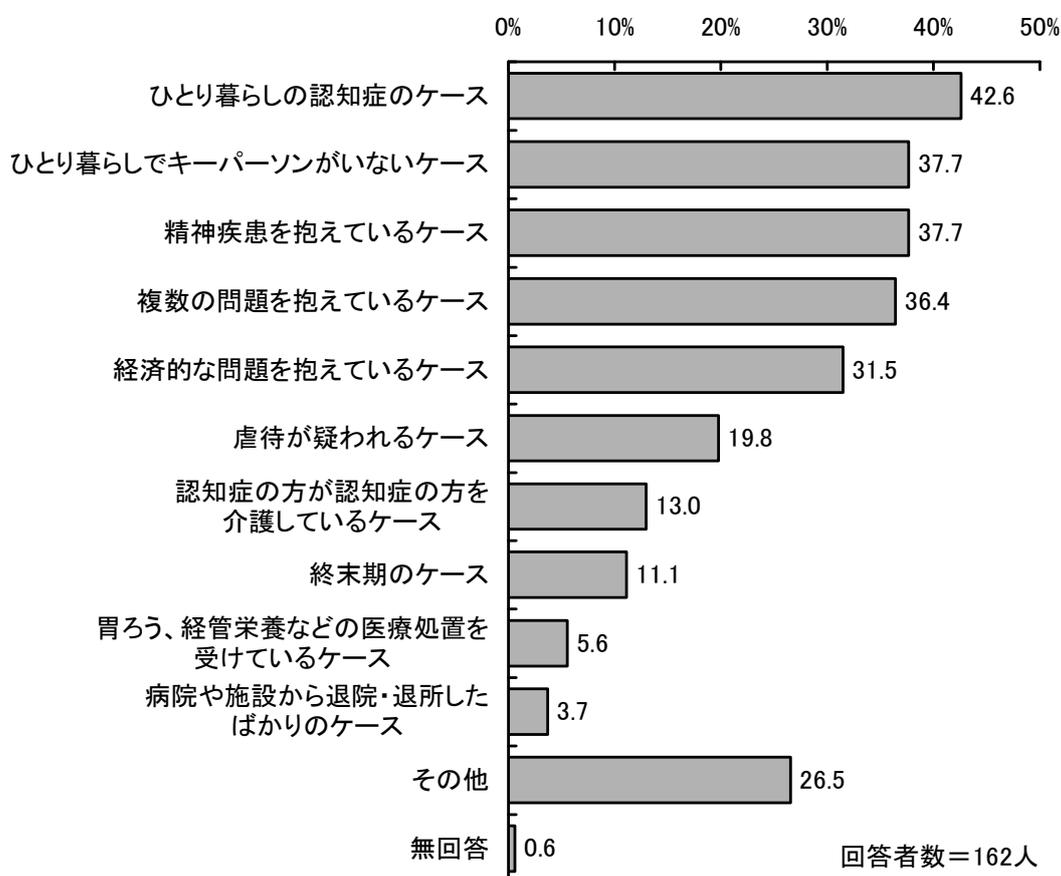


(3) 支援や対応に困難を感じているケースの状況

問 8(3) 支援や対応に困難を感じている利用者がある方におうかがいします。
それはどのようなケースですか。(あてはまるものすべてに○)

支援や対応に困難を感じているケースの状況は、「ひとり暮らしの認知症のケース」42.6%がもっとも高く、次いで「ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース」「精神疾患を抱えているケース」が各 37.7%、「複数の問題を抱えているケース」36.4%、「経済的な問題を抱えているケース」31.5%の順となっている。

図表7-18 支援や対応に困難を感じているケースの状況(複数回答)

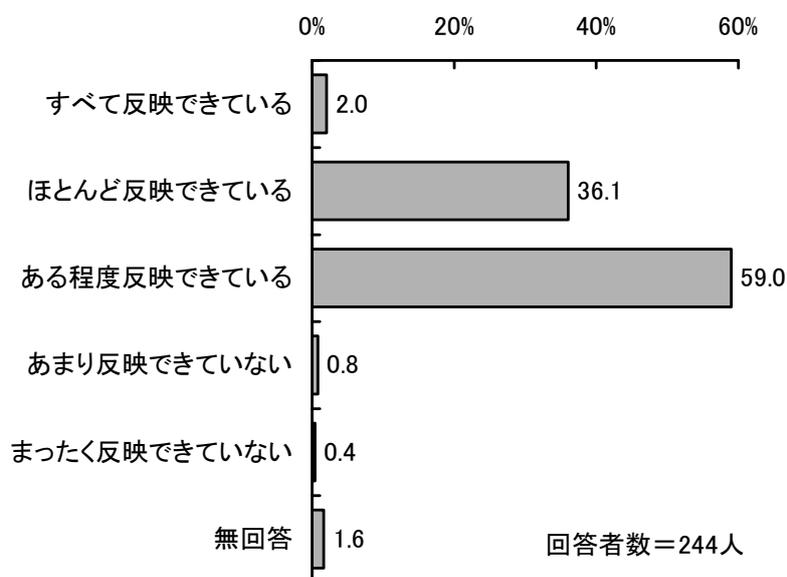


(4)ケアプランへの利用者等の要望・意向の反映状況

問9 あなたは、ケアプラン(施設等のサービス計画を含む)に、利用者や家族の要望・意向をどの程度反映できていると思いますか。(1つに○)

ケアプランへの利用者等の要望・意向の反映状況は、「ある程度反映できている」が59.0%ともっとも高い。次いで「ほとんど反映できている」36.1%となっている。

図表7-19 ケアプランへの利用者等の要望・意向の反映状況(単数回答)

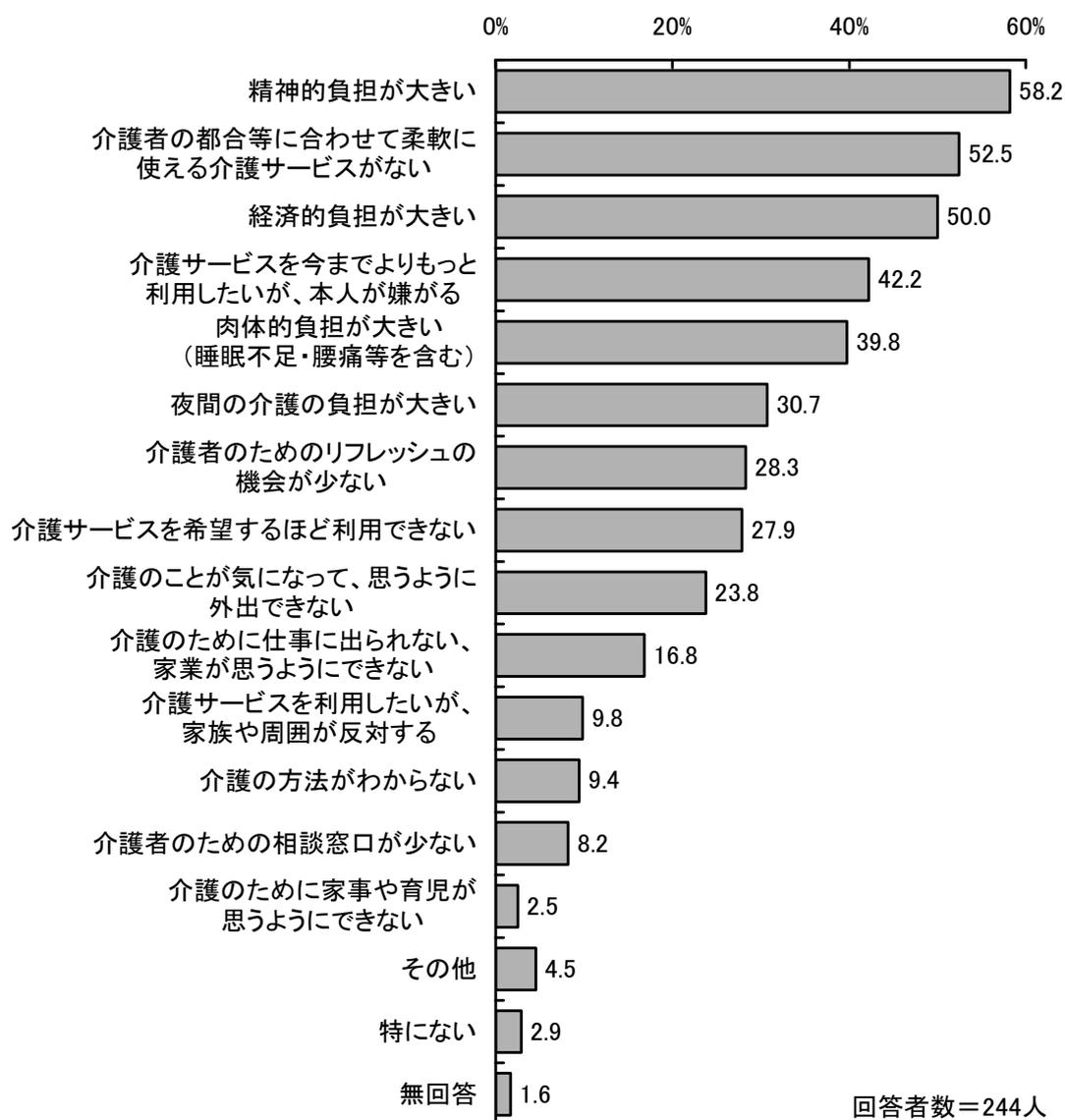


(5) 家族の不安や悩み等について感じる事

問 10 あなたが利用者の家族と接する中で、家族が感じている日常生活での不安、悩み、心配ごとには、どのようなことがありますか。(主なもの5つまでに○)

家族の不安や悩み等について感じることをみると、「精神的負担が大きい」58.2%、「介護者の都合等に合わせて柔軟に使える介護サービスがない」52.5%、「経済的負担が大きい」50.0%が、半数以上からあげられた内容である。次いで、「介護サービスを今までよりもっと利用したいが、本人が嫌がる」42.2%、「肉体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）」39.8%、「夜間の介護の負担が大きい」30.7%が続いている。

図表7-20 家族の不安や悩み等について感じる事(複数回答)

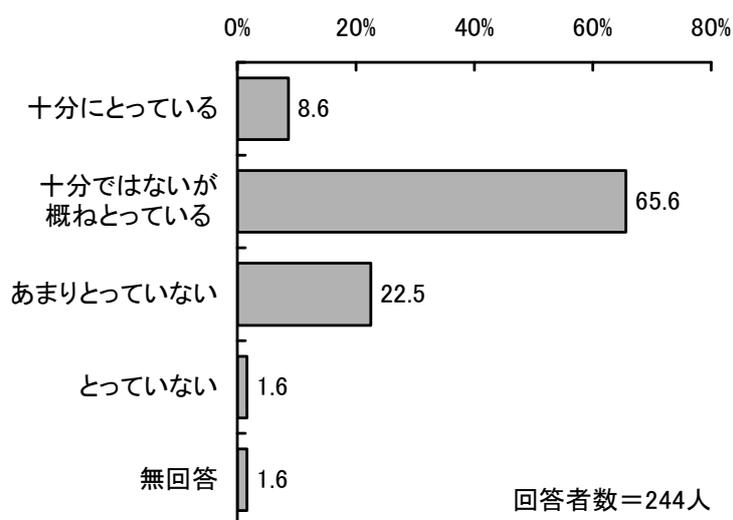


(6) 主治医等の医療機関との連携状況

問 11 あなたは、主治医等の医療機関との連携は、十分にとっていますか。(1つに○)

主治医等の医療機関との連携状況をみると、「十分ではないが概ねとっている」が65.6%を占める。次いで、「あまりとっていない」22.5%となっており、「とっていない」1.6%をあわせた24.1%が連携をとっていない状況となっている。

図表7-21 主治医等の医療機関との連携状況(単数回答)



(連携をとっていない理由：44件より抜粋して記載)

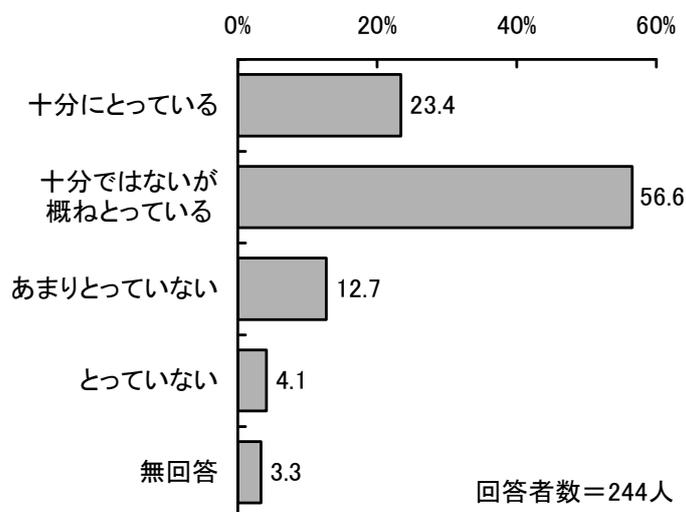
- ・ 医師は忙しく、連絡がとりづらい。
- ・ とりやすい医師ととりにくい医師（病院）があり、どのように連携をとっていいのかわからない。
- ・ 大学病院等の大きな病院は、先生の時間がとれなかったり、相談員としか話をさせてくれない。
- ・ サービス上必要があると判断した場合にとっている。
- ・ 訪問看護を利用しているケースは、医療機関・医師への連絡は訪問看護に頼ることが多い。
- ・ 医療ニーズの高いケースが少ない。
- ・ 主治医意見書を利用している。どうしても必要な時は照会を送っている。
- ・ 担当が全て要支援の方であり、ある程度自立している方が多く、ご本人からの聞き取りが多い。
- ・ 時間の調整が難しい。通院に同行するなどの時間がない。
- ・ 本人や家族の受診時に情報を得ている。
- ・ 連携を取りたいが窓口で断られることがしばしばある。
- ・ 自分に医療の知識が乏しく、気後れする。
- ・ 敷居が高く感じ、苦手意識が強い。
- ・ 情報をもらおうとしても思うように時間をとってもらえない事が多い。

(7) 地域包括支援センターとの連携状況

問 12 あなたは、地域包括支援センターとの連携は、十分にとっていますか。(1つに○)

地域包括支援センターとの連携状況を見ると、「十分ではないが概ねとっている」56.6%、「十分にとっている」23.4%の順となっている。「あまりとっていない」12.7%と「とっていない」4.1%をあわせた16.8%が連携をとっていない状況となっている。

図表7-22 地域包括支援センターとの連携状況(単数回答)



(連携をとっていない理由：29件より抜粋して記載)

- ・あまり相談に乗ってもらえない。
- ・必要とする部分が少ない。
- ・施設サービスとの連携は限定的。
- ・関係機関との担当者会議を行う事で、解決しているから。
- ・要介護者のケースなので、相談してもとってしまう。
- ・区役所との連携で解決するため。
- ・相談しても解決につながらないケースが多い。
- ・特定施設のため、あまり必要性を感じていないが、時折連絡を頂くとうれしい。

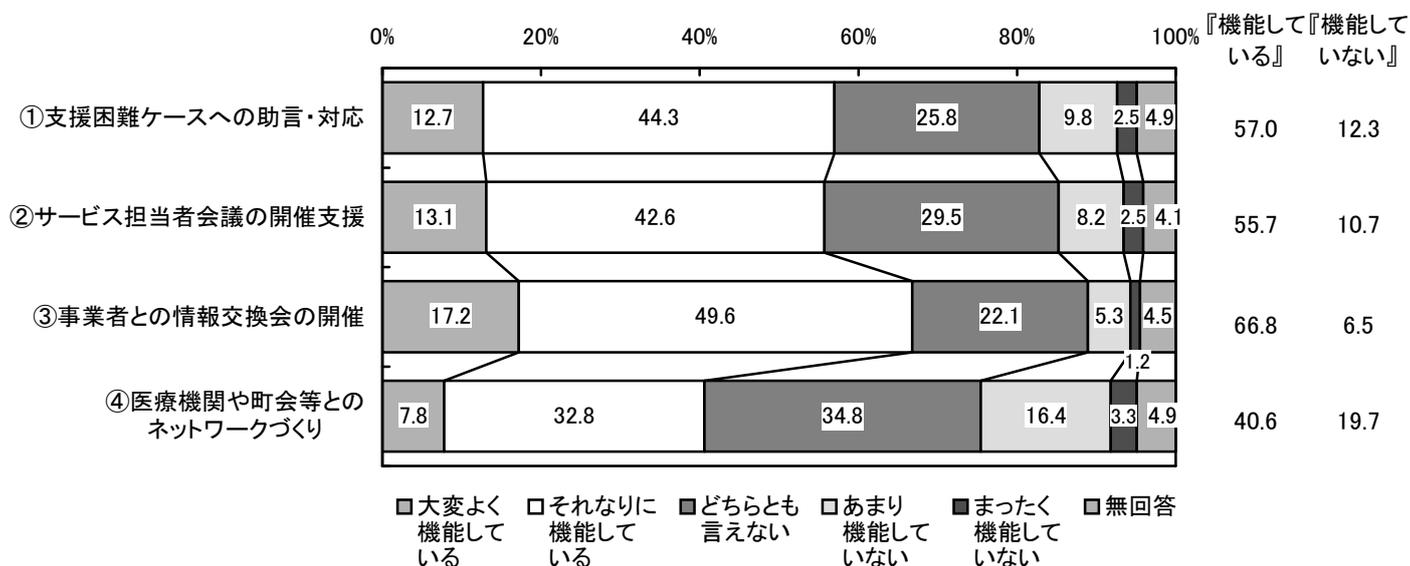
(8) 地域包括支援センター機能に対する評価

問 13 あなたは地域包括支援センターの①～④の機能について、現状ではどの程度機能していると感じていますか。(それぞれ1つに○)

地域包括支援センター機能に対する評価について、「大変よく機能している」「それなりに機能している」をあわせた『機能している』割合をみると、“③事業者との情報交換会の開催”が66.8%でもっとも高い。

一方、「あまり機能していない」「まったく機能していない」をあわせた『機能していない』は、“④医療機関や町会等とのネットワークづくり”19.7%がもっとも高くなっている。

図表7-23 地域包括支援センター機能に対する評価(各単数回答)



回答者数=244人

※『機能している』=「大変よく機能している」+「それなりに機能している」

※『機能していない』=「あまり機能していない」+「まったく機能していない」

(9) 地域包括支援センターに対する意見・要望等

問 14 地域包括支援センターとの連携における課題、地域包括支援センターに対するご意見・ご要望等がありましたら、自由にご記入ください。

(71 件より抜粋して記載)

- ・話を聞いてくれるだけなのであれば、あまり存在価値を見出せない。場合によって包括支援センター同士の横の連携や社協、行政とも調整して、具体的な対応をしてほしい。
- ・担当者会議に出席してほしい。虐待ケースへの助言を的確にしてほしい。
- ・ほとんどの業務が介護保険や介護予防の事務に忙殺され、「地域資源を育成する」センターとはなっていない。
- ・支援困難など、相談機関として相談しているので大変助かっている。
- ・ケアマネジャーの支援をもっとしてほしい。
- ・地域包括支援センターの役割が多過ぎて大変。基幹型のセンターを設置すべき。また要支援者のプランについては、プランセンター等の設置も検討してほしい。
- ・包括支援センターの業務が多岐にわたりすぎて、精神的にも肉体的にも限界に達しているように感じて、相談するのも気がひける。
- ・担当依頼の際に、最低限のアセスメントは行ってから依頼してほしい。
- ・各センターにより、対応の早さや情報量・アドバイス内容に差があるように思う。それがそのまま、その地域包括支援センターへの信頼感につながると思う。
- ・フットワークよく動いてもらって助かっているが、権限もなく、いつも同じような限界を感じて本人・ご家族の意向に添えきれない事が多い。
- ・各地域包括支援センターによって対応が違うため、どうしても頼るところは同じセンターになってしまう。
- ・他区では、地域包括支援センターごとに毎月 1 回勉強会があり、その後半は困っている事（ケース）の話し合いの場とし、活用していたので、江戸川区ももう少しその機会があればよいと思う。
- ・地域での存在感がまだまだ薄い。
- ・一緒に訪問し、実態を見てほしい。
- ・現場は常に動いているので、対応を迅速にしてほしい。人数を揃えるだけでなく、経験豊かでケアマネジャーの相談にもきめ細かく対応できる人材を登用願いたい。
- ・一般の人に地域包括支援センターの存在を知ってもらうために、今の堅苦しい名称を変えた方が覚えやすく、広まりやすいと思う。

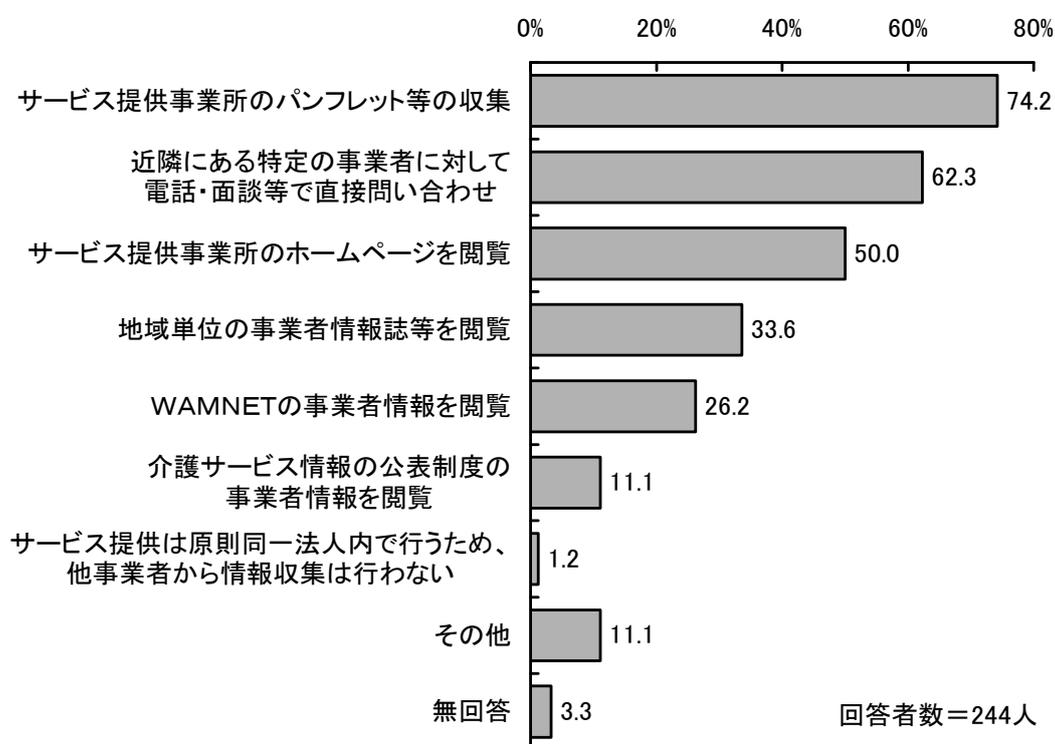
(10) サービス提供事業所に関する情報収集方法

問 19 あなたは、サービス提供事業所に関する情報収集は、どのように行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

サービス提供事業所に関する情報収集方法は、「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」74.2%、「近隣にある特定の事業者に対して電話・面談等で直接問い合わせ」62.3%、「サービス提供事業所のホームページを閲覧」50.0%の順となっている。

図表7-24 サービス提供事業所に関する情報収集方法(複数回答)



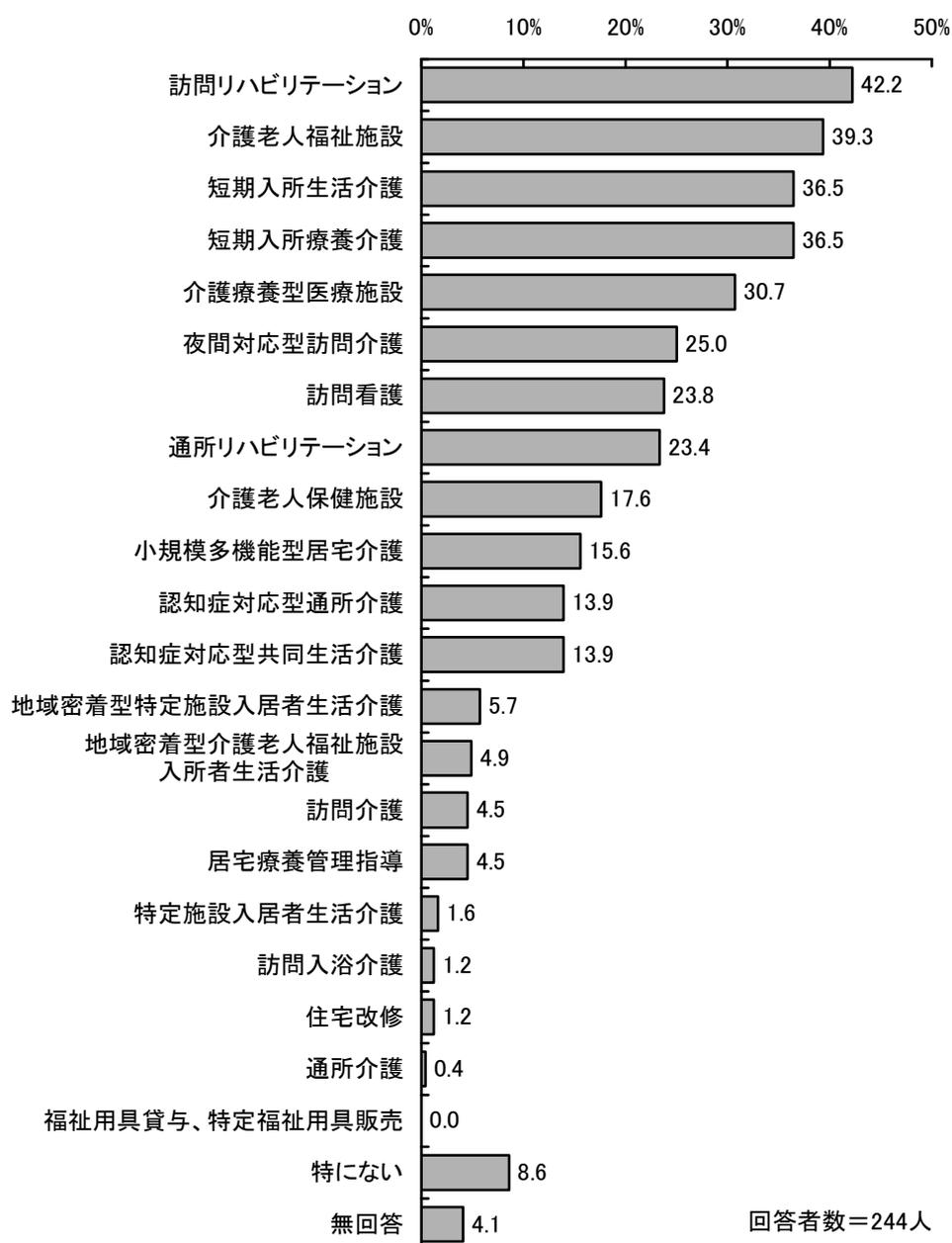
4. 業務に関する課題等について

(1) 不足していると感じる介護保険サービス

問 15 ケアマネジメント業務を行ううえで、江戸川区で不足していると感じる介護保険サービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

江戸川区で不足していると感じる介護保険サービスは、「訪問リハビリテーション」42.2%がもっとも高い。次いで、「介護老人福祉施設」39.3%、「短期入所生活介護」「短期入所療養介護」各36.5%、「介護療養型医療施設」30.7%が3割台で続き、「夜間対応型訪問介護」25.0%、「訪問看護」23.8%、「通所リハビリテーション」23.4%が2割台となっている。

図表7-25 不足していると感じる介護保険サービス(複数回答)

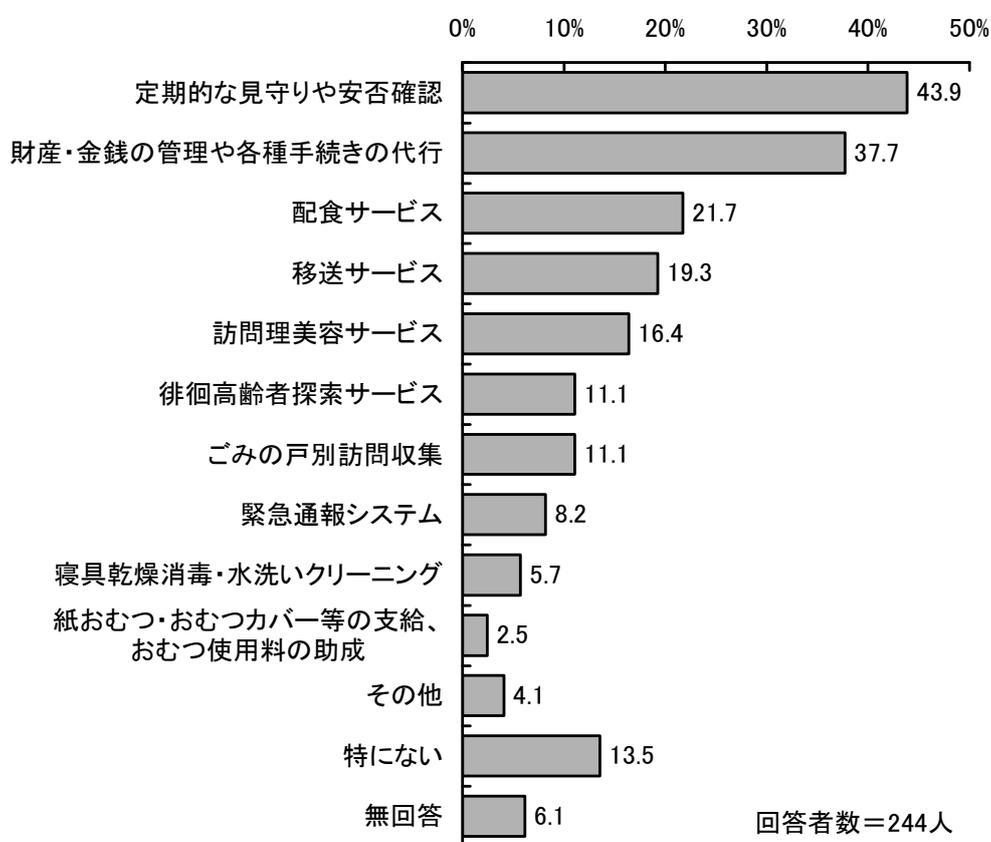


(2) 充実すべき区の保健福祉サービス

問 16 介護保険サービス以外の江戸川区の保健福祉サービスについて、もっと充実すべきと思うサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

充実すべき区の保健福祉サービスとしては、「定期的な見守りや安否確認」43.9%がもっとも高い。次いで、「財産・金銭の管理や各種手続きの代行」37.7%、「配食サービス」21.7%、「移送サービス」19.3%、「訪問理美容サービス」16.4%の順となっている。

図表7-26 充実すべき区の保健福祉サービス(複数回答)

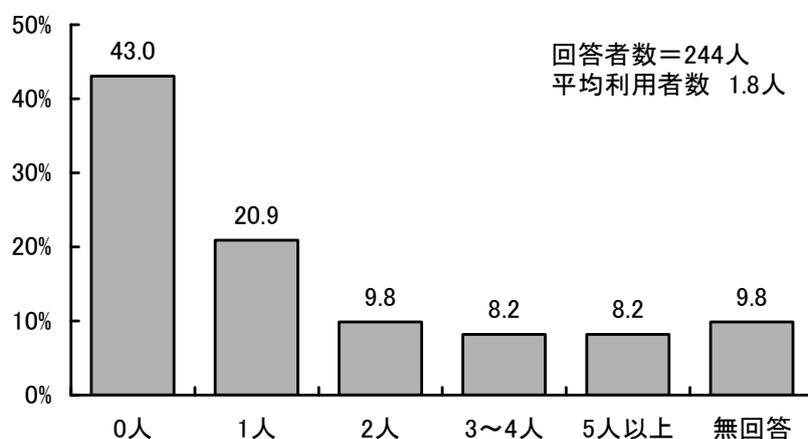


(3) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要と思われる利用者数

問 17 あなたが担当している利用者の中で、「24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス」の提供がふさわしいと思われる利用者数をご記入ください。いない場合は、「0」を記入してください。

回答者が担当している利用者の中で、24 時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要と思われる利用者数は、「0 人」が 43.0%を占めている。次いで、「1 人」20.9%であり、平均 1.8 人となっている。

図表7-27 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要と思われる利用者数(単数回答)



(4) 24時間対応の定期巡回・随時対応サービスが必要な利用者のイメージ

問 18 「24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス」の利用がふさわしい利用者のイメージがありましたら、自由にご記入ください。

(148 件について分類・要約して記載)

【1】ひとり暮らしの方(42 件より抜粋)

- ・ 単身で転倒や急変等の恐れのある方。
- ・ 日頃元気であるが、時々状態が悪くなり、転倒や意識消失してしまう独居高齢者。
- ・ ひとり暮らしで夜間ポータブルトイレを使用しているが、転倒により起き上がれない場合。
- ・ 独居の方のオムツ交換や水分補給。
- ・ 具合が悪くなり、朝まで待てないひとり暮らしの方。
- ・ 独居で夜間に不安のある方。
- ・ 独居で精神的に不穏で混乱してしまうことが多い利用者。
- ・ 独居で夜間のトイレ誘導やオムツ交換が必要な利用者。
- ・ 普段はADL自立をしている独居利用者が、体調不良になり通院したい時。

【2】家族による介護が困難な方(29 件より抜粋)

- ・ 高齢者世帯にて、常時介護が必要な方。
- ・ 高齢者世帯で夜間の介護（排尿介助・体位交換・状態の確認など）の対応が困難な方。
- ・ 家族介護が困難で、病気や歩行困難等で何らかの介護を要する方。突発的な対応の必要度が高い方。
- ・ 介護者が高齢などの理由で、急な体調悪化時に起こせない、起き上がれない等。
- ・ 家族が介護に協力的でなく、夜間・早朝の排泄介助等が受けられない方等。
- ・ 夜間不穏だが、家人が対応困難な時。

【3】医療ニーズの高い方(22 件より抜粋)

- ・ 随時吸引が必要な方。
- ・ 胃ろうや鼻腔からの経管栄養で嘔吐し易い方。
- ・ 経管栄養や点滴施行で、カテーテルなどを自己抜去してしまう方。
- ・ 独居で医療管理が必要な人。
- ・ 褥瘡のリスクの高い方。

【4】認知症の方(15 件より抜粋)

- ・ 認知症の周辺症状があり、家族だけでの対応が困難な場合。
- ・ 認知症でベッドからの転倒事例が多い利用者（ひとり暮らし等）。
- ・ ひとり暮らしの認知症で夜中の安否確認が必要なケース。
- ・ 認知症で独居の方で、徘徊の心配がある方。

【5】夜間の介護が必要な方(18件より抜粋)

- ・夜間の排泄介助、トイレへの移乗、オムツ交換（老老介護で）が必要な方。
- ・夜間の不安を強く訴えるケース（呼吸器疾患の呼吸音のある利用者等）。
- ・夜間帯に介護・医療依存度が高い人。
- ・疾患により服薬時間が決められていて、夜中等に必要な場合（独居等）。
- ・夜中に徘徊してしまう方。

【6】末期ガンの方(4件より抜粋)

- ・末期ガンで自分で動けないが、介護者が高齢で身体看護の困難なケース。
- ・末期ガンなどで、巡回し安否確認の必要な方。

【7】その他(22件より抜粋)

- ・施設入所を希望しない方で、目の離せない方。
- ・本人、家族ともに夜間外部の者が来訪する事に抵抗を感じない方。
- ・うつ病のある方から体調不良の訴えで頻繁に呼び出されることもあると思う。その場合の対応。
- ・急なADL（日常生活動作）の低下で、ご本人様も混乱されている時。
- ・体調の変動が多い人。
- ・不安感の強い人。

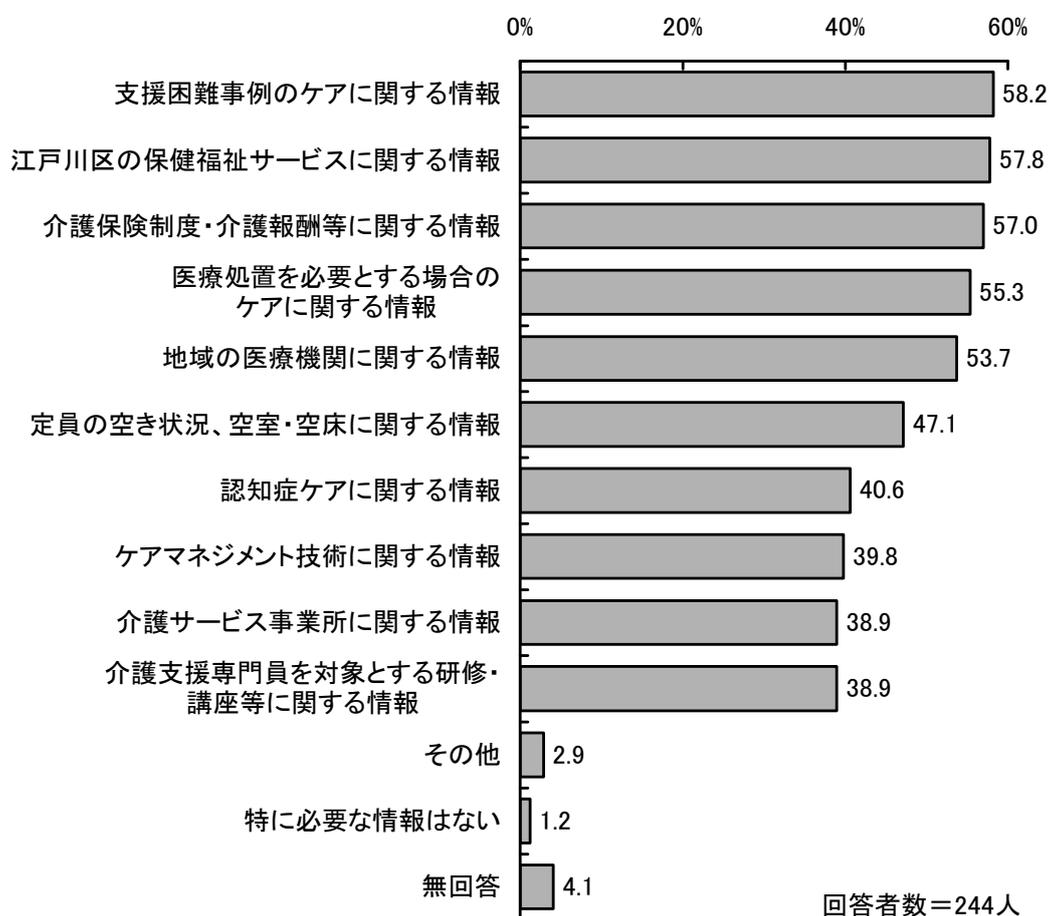
(5) ケアマネジメント業務を行ううえで必要な情報

問 20 ケアマネジメント業務を行ううえで、どのような情報が必要ですか。

(あてはまるものすべてに○)

ケアマネジメント業務を行ううえで必要な情報としては、「支援困難事例のケアに関する情報」58.2%がもっとも高い。次いで、「江戸川区の保健福祉サービスに関する情報」57.8%、「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」57.0%、「医療処置を必要とする場合のケアに関する情報」55.3%、「地域の医療機関に関する情報」53.7%の順であり、これらはいずれも半数以上が必要な情報としてあげている。

図表7-28 ケアマネジメント業務を行ううえで必要な情報(複数回答)



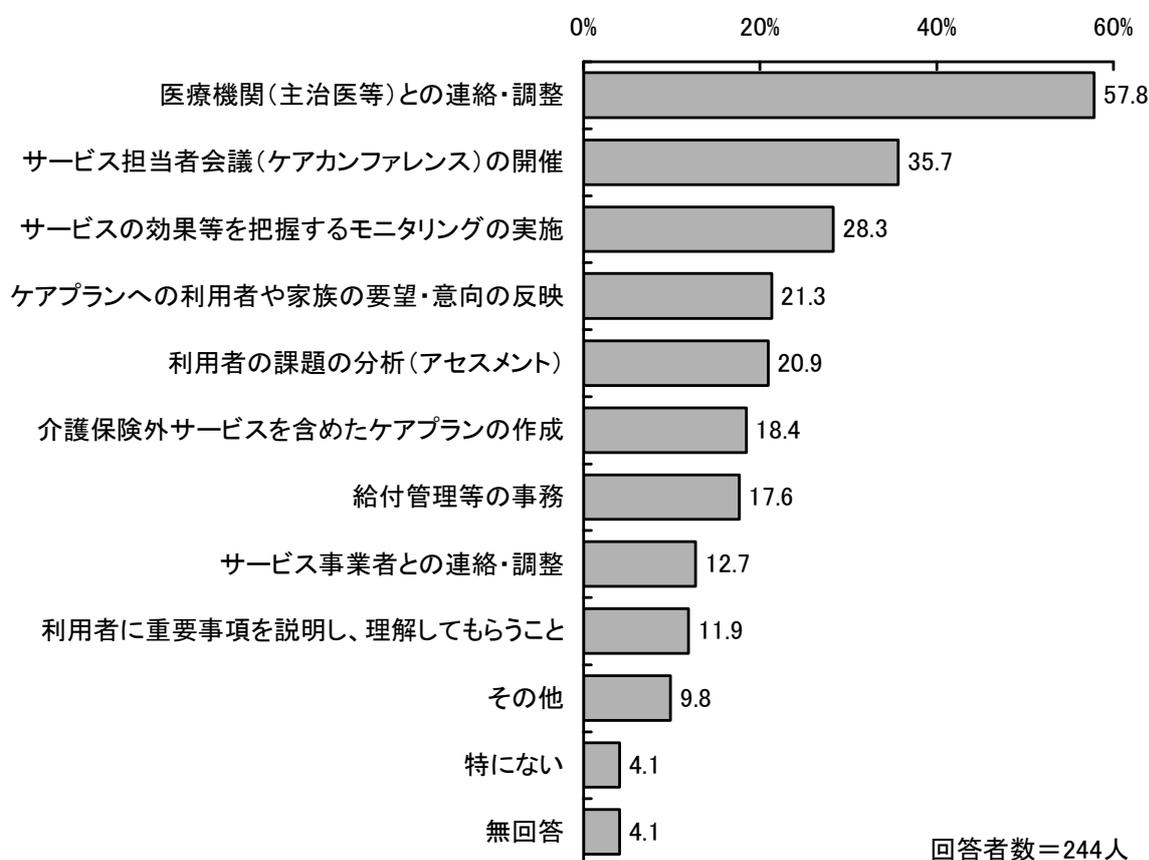
(6) 負担に感じるケアマネジメント業務

問 21 ケアマネジメント業務の中で、あなたが負担に感じていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

負担に感じるケアマネジメント業務は、「医療機関（主治医等）との連絡・調整」57.8%がもっとも高く、半数以上からあげられている。次いで、「サービス担当者会議（ケアカンファレンス）の開催」35.7%、「サービスの効果等を把握するモニタリングの実施」28.3%、「ケアプランへの利用者や家族の要望・意向の反映」21.3%の順となっている。

図表7-29 負担に感じるケアマネジメント業務(複数回答)



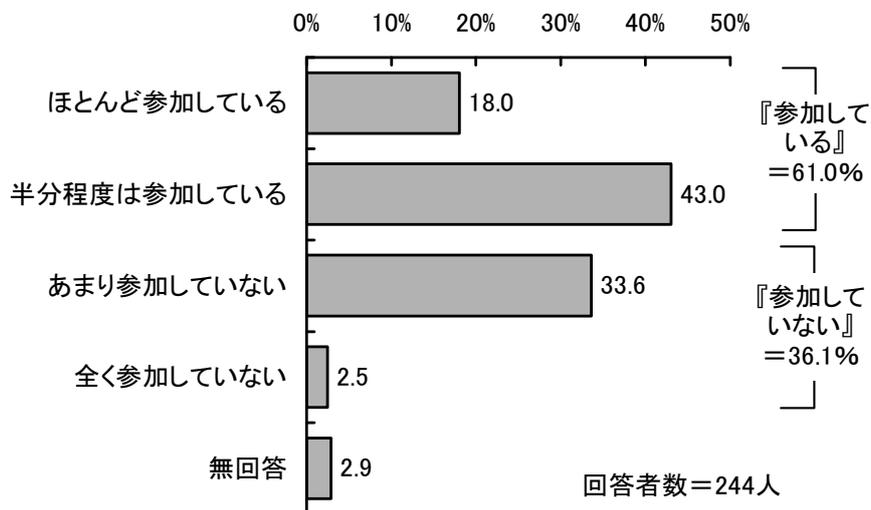
5. 質の確保等について

(1) 研修の参加状況

問 22 あなたは、この1年間に、東京都や区市町村、ケアマネジャー協会等が実施する介護支援専門員向け研修会に、どの程度参加しましたか。(1つに○)

研修の参加状況は、「半分程度は参加している」43.0%がもっとも高く、これに「ほとんど参加している」18.0%をあわせた61.0%が『参加している』と回答している。一方、「あまり参加していない」は33.6%であり、「全く参加していない」2.5%をあわせた『参加していない』は36.1%となっている。

図表7-30 研修の参加状況(単数回答)



※『参加している』 = 「ほとんど参加している」 + 「半分程度は参加している」

※『参加していない』 = 「あまり参加していない」 + 「全く参加していない」

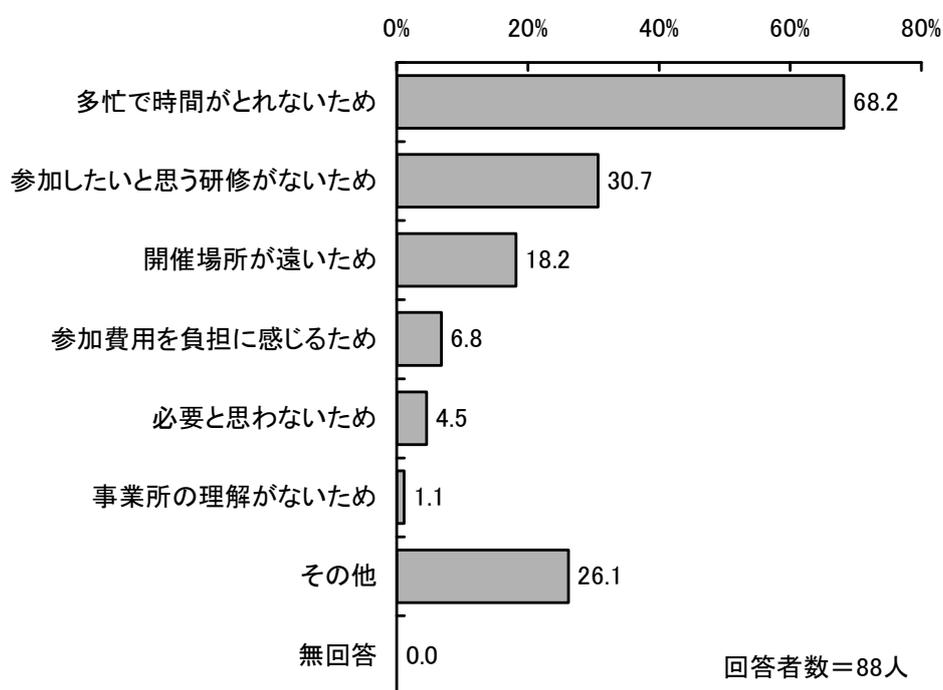
(2) 研修に参加していない理由

問 22-1 介護支援専門員向け研修会に参加していないのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

研修に参加していない理由としては、「多忙で時間がとれないため」68.2%がもっとも高く、次いで、「参加したいと思う研修がないため」30.7%、「開催場所が遠いため」18.2%の順となっている。

図表7-31 研修に参加していない理由(複数回答)



(3) 希望する研修の内容

問 23 今後、どのような内容の研修を希望しますか。具体的にご記入ください。

(109 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険制度、介護保険外の区の支援に関する研修(18 件より抜粋)

- ・ 制度改正に向けた研修等。
- ・ 今後の介護保険の動向。
- ・ 介護保険以外の資源や、情報に関する研修。

【2】医療情報、医療との連携に関する研修(18 件より抜粋)

- ・ 医療全般の知識、情報。
- ・ 専門的な医療知識、ドクターとの交流、薬の副作用等の研修。
- ・ 精神疾患（うつ、統合失調症など）の病気についての知識。
- ・ 医療が必要な方、ターミナルなどの家族に対するケア。
- ・ 医療連携に関する研修は内容をもっと分散し、細かい所までやってほしい（会場、内容量が多くわかりづらい）。

【3】ケアマネジメント技術に関する研修(16 件より抜粋)

- ・ アセスメントから、課題分析をどのようにするか、短期・長期目標の設定の仕方。
- ・ サービス担当者会議の進め方、記録のとり方、モニタリングや支援経過の記録の仕方等、実際の現場での、困り事に対する研修を取り入れてほしい。
- ・ 施設のケアマネジャー向けの研修について、できる限り参加したいので機会を増やしてほしい。

【4】支援困難事例への対応に関する研修(8 件より抜粋)

- ・ 実際の現場における困難事例の対応方法。社会資源の内容。
- ・ 虐待・困難（精神障害）ケースの事例研修。

【5】権利擁護、経済的困窮者への対応に関する研修(5 件より抜粋)

- ・ 成年後見人制度について。
- ・ 経済的困窮者への対応。世帯分離、生保申請など。

【6】メンタルヘルス・ストレスマネジメント研修(6 件より抜粋)

- ・ 仕事を前向きに考えられるような研修。
- ・ ストレスをどう解消していけばよいか（自分自身のメンテナンス）。

【7】研修方法等に対する意見(16 件より抜粋)

- ・ 講師の話聞く形式ではなく、少人数でのグループワークや、実際の社会資源を探策するフィールドワークを望む。
- ・ グループで話し合ったり、実際に、その場で考える事ができる内容。
- ・ 事例を通しての研修等。

- ・他の機関が開催する内容や日程と重ならないように、できれば月 2 回程度のペースで研修が受けられるよう調整をお願いしたい。

【8】その他(11 件より抜粋)

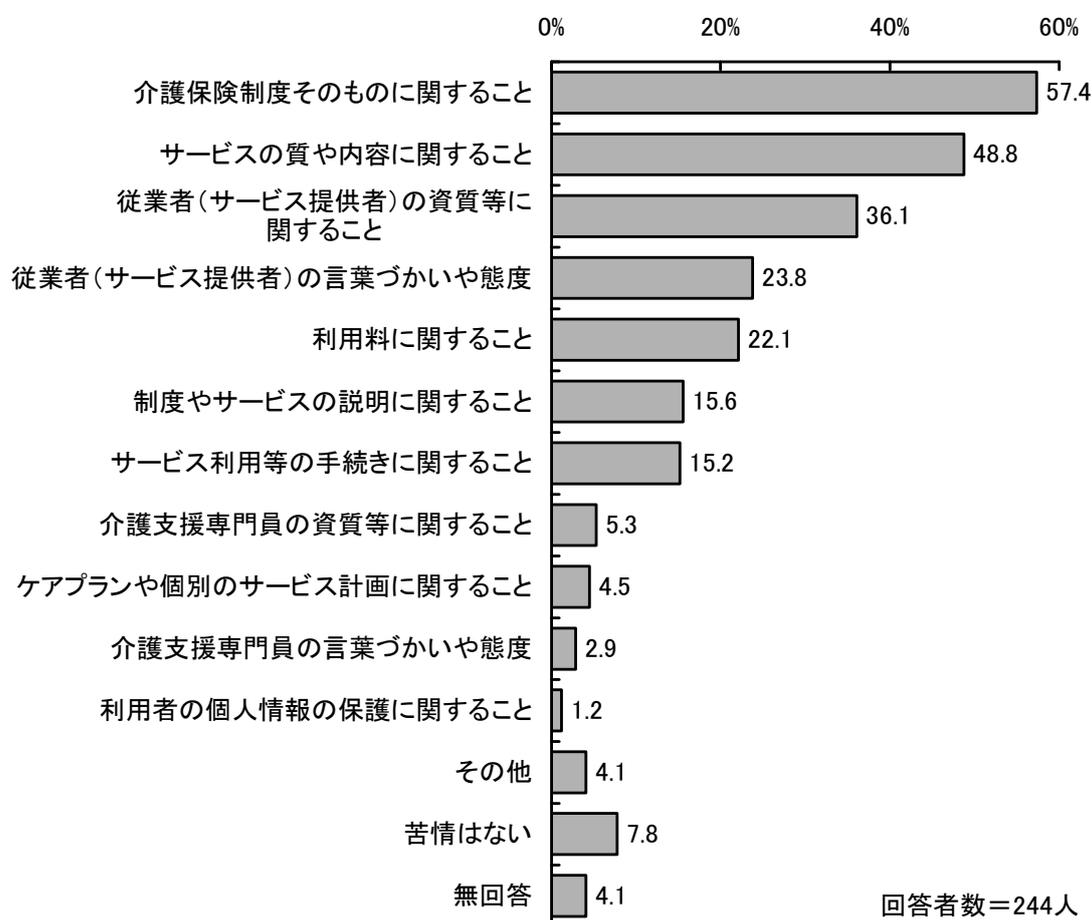
- ・認知症ケアについての研修。
- ・スーパービジョンなど、事務所の質の向上により利用者や福祉に貢献できるような内容の研修。
- ・介護状態から社会復帰したなど、改善した事例（プロセス）などを聞いてみたい。
- ・住環境マネジメント。
- ・精神疾患の対応及びケアマネジメントに関する研修。
- ・特定施設を対象とした研修。
- ・東京都の見解に沿った書類作成の方法を学びたい。

(4) 利用者や家族からの苦情の内容

問 24 利用者や家族からあげられる苦情の内容としては、どういったものが多くありますか。
(主なもの5つまでに○)

利用者や家族からの苦情の内容としては、「介護保険制度そのものに関すること」57.4%がもっとも高い。次いで、「サービスの質や内容に関すること」48.8%、「従業者（サービス提供者）の資質等に関すること」36.1%、「従業者（サービス提供者）の言葉づかいや態度」23.8%が続いている。

図表7-32 利用者や家族からの苦情の内容(複数回答)



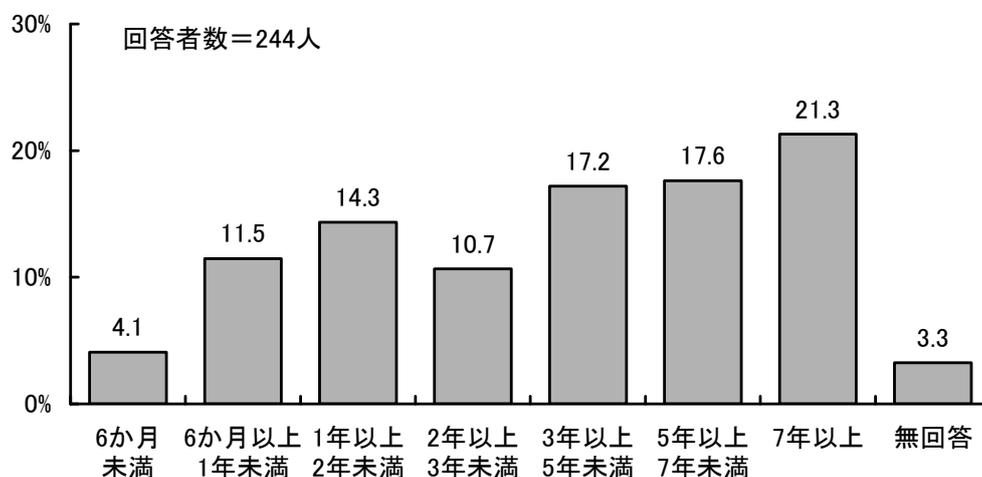
6. 業務の満足度と今後の意向について

(1) 現在の勤務先での在職年数

問 25 平成 23 年 1 月 1 日現在、現在の事業所(法人)で介護支援専門員として在籍している期間はどのくらいですか。(1つに○)

現在の勤務先での在職年数は、「7年以上」21.3%がもっとも高く、次いで「5年以上7年未満」17.6%、「3年以上5年未満」17.2%の順である。38.9%が5年以上、56.1%が3年以上の在職年数となっている。

図表7-33 現在の勤務先での在職年数(単数回答)



(2) 業務及び勤務先に対する満足度

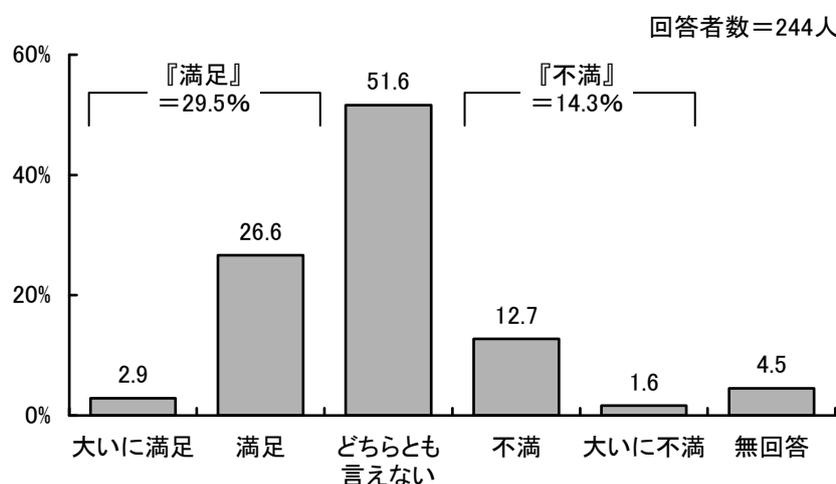
問 26 現在の自分の業務内容(介護支援専門員業務及び兼任業務を含む)に対する満足度はいかがですか。(1つに○)

問 27 現在所属している事業所に対する満足度はいかがですか。(1つに○)

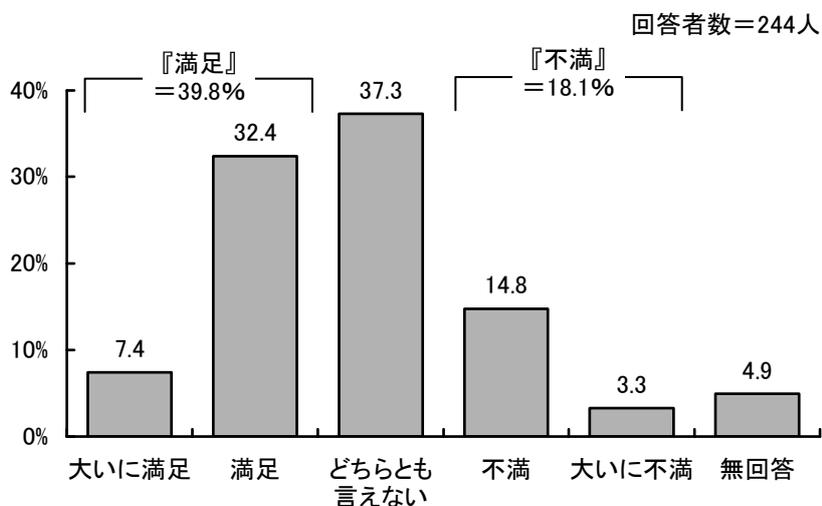
業務に対する満足度をみると、「どちらとも言えない」51.6%がもっとも高い。「大いに満足」2.9%、「満足」26.6%をあわせた『満足』は29.5%、「不満」12.7%、「大いに不満」1.6%をあわせた『不満』は14.3%となっている。

勤務先に対する満足度をみると、『満足』が39.8%、『不満』が18.1%となっている。

図表7-34 業務に対する満足度(単数回答)



図表7-35 勤務先に対する満足度(単数回答)



※『満足』 = 「大いに満足」 + 「満足」 『不満』 = 「不満」 + 「大いに不満」

業務に対する満足度について、『不満』の割合に着目すると、性別では男性、年齢別では60歳代、実務年数では1年未満の人において、それぞれ他に比べて『不満』と回答した人の割合がもっとも高くなっている。

図表7-36 業務に対する満足度

		回答者数(人)	大いに満足	満足	どちらとも言えない	不満	大いに不満	無回答	『満足』	『不満』
全 体		244	2.9	26.6	51.6	12.7	1.6	4.5	29.5	14.3
性別	男性	53	5.7	24.5	49.1	18.9	1.9	0.0	30.2	20.8
	女性	190	2.1	26.8	52.6	11.1	1.6	5.8	28.9	12.7
年齢別	20歳代	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	30歳代	45	8.9	24.4	53.3	11.1	2.2	0.0	33.3	13.3
	40歳代	75	1.3	20.0	61.3	13.3	1.3	2.7	21.3	14.6
	50歳代	74	0.0	27.0	51.4	12.2	1.4	8.1	27.0	13.6
	60歳代	38	2.6	34.2	36.8	15.8	2.6	7.9	36.8	18.4
	70歳以上	6	16.7	66.7	0.0	16.7	0.0	0.0	83.4	16.7
実務年数別	1年未満	21	4.8	23.8	47.6	14.3	4.8	4.8	28.6	19.1
	1年以上3年未満	40	5.0	30.0	50.0	12.5	2.5	0.0	35.0	15.0
	3年以上5年未満	46	2.2	28.3	50.0	13.0	0.0	6.5	30.5	13.0
	5年以上7年未満	51	3.9	29.4	51.0	9.8	2.0	3.9	33.3	11.8
	7年以上	82	1.2	22.0	56.1	14.6	1.2	4.9	23.2	15.8

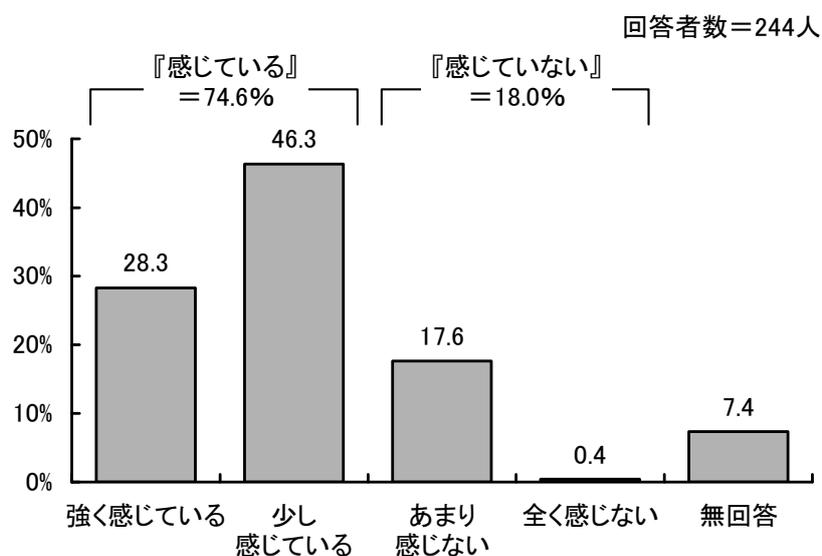
※『満足』＝「大いに満足」＋「満足」 『不満』＝「不満」＋「大いに不満」

(3) ケアマネジメント業務に関するストレスの有無

問 28 ケアマネジメント業務を行う中で、あなたはストレスを感じていますか。(1つに○)

ケアマネジメント業務に関するストレスの有無をみると、「少し感じている」46.3%がもっとも高く、「強く感じている」28.3%をあわせた74.6%、約4人に3人が『感じている』と回答している。「あまり感じない」は17.6%、「全く感じない」0.4%であった。

図表7-37 ケアマネジメント業務に関するストレスの有無(単数回答)



※『感じている』 = 「強く感じている」 + 「少し感じている」

※『感じていない』 = 「あまり感じない」 + 「全く感じない」

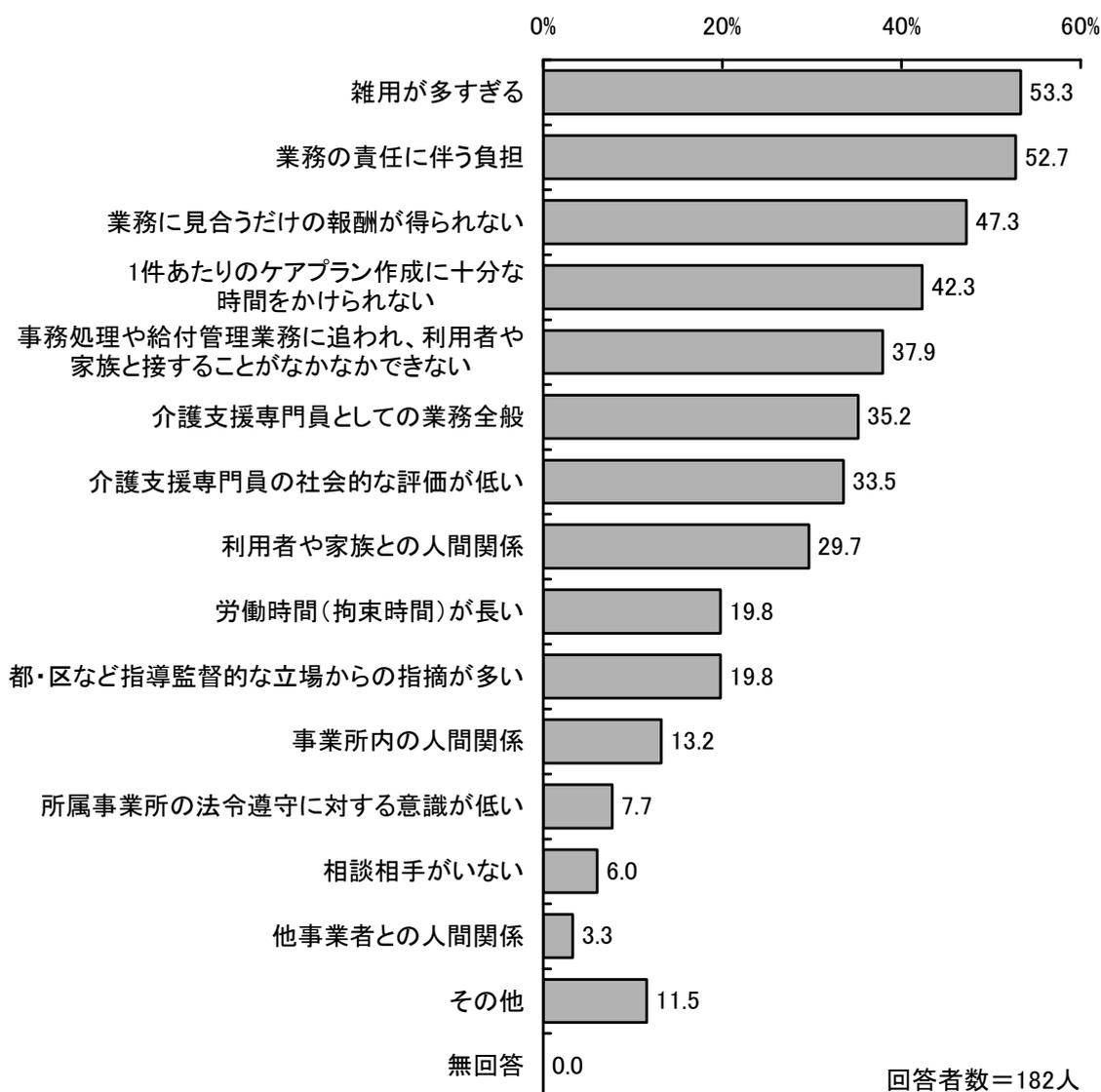
(4) ケアマネジメント業務に関するストレスの内容

問 28 で「1. 強く感じている」「2. 少し感じている」方におうかがいします。

問 28-1 どのようなことにストレスを感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

ストレスの内容としては、「雑用が多すぎる」「業務の責任に伴う負担」が5割を超えている。次いで、「業務に見合うだけの報酬が得られない」「1件あたりのケアプラン作成に十分な時間をかけられない」が4割台、「事務処理や給付管理業務に追われ、利用者や家族と接することがなかなかできない」「介護支援専門員としての業務全般」「介護支援専門員の社会的な評価が低い」が3割台となっている。

図表7-38 ストレスの内容(複数回答)



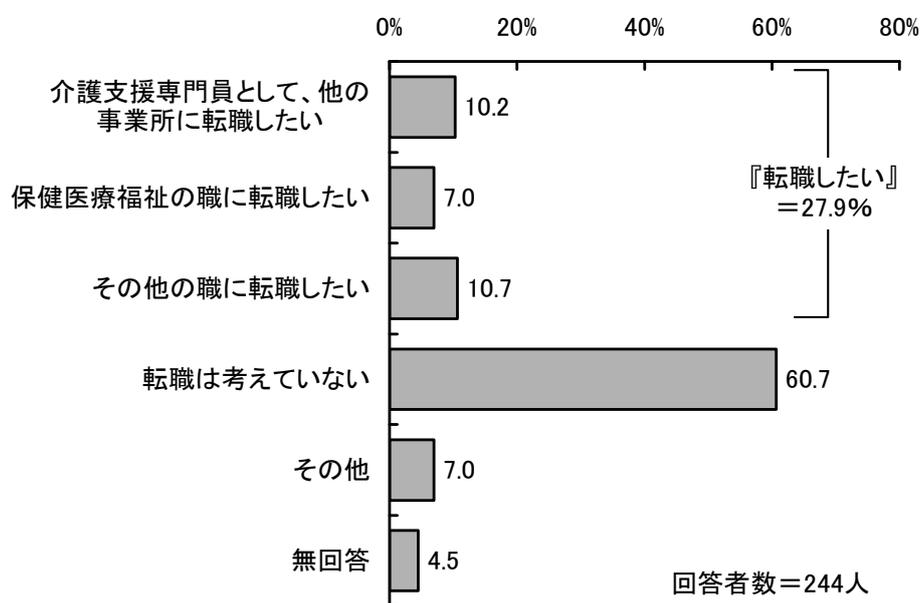
(5) 転職意向

問 29 あなたは現在、転職を考えていますか。(1つに○)

転職意向をみると、「転職は考えていない」は60.7%であり、27.9%が『転職したい』と回答している。

具体的には、「その他の職に転職したい」10.7%、「介護支援専門員として、他の事業所に転職したい」10.2%、「保健医療福祉の職に転職したい」7.0%となっている。

図表7-39 転職意向(単数回答)



※『転職したい』 = 「介護支援専門員として、他の事業所に転職したい」
+ 「保健医療福祉の職に転職したい」 + 「その他の職に転職したい」

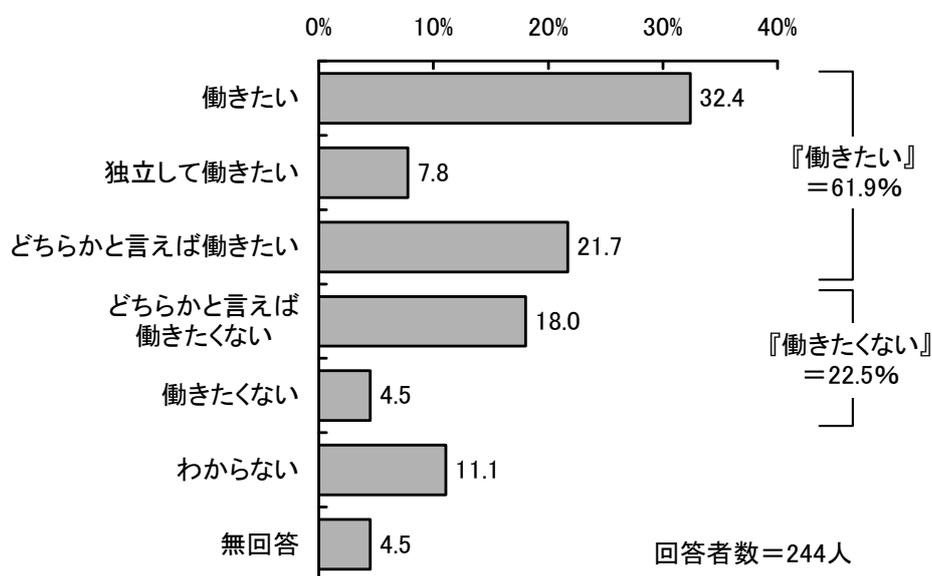
(6) 介護支援専門員としての就労意向

問 30 あなたは今後も介護支援専門員として働いていきたいと思いませんか。(1つに○)

介護支援専門員としての就労意向をみると、「働きたい」32.4%、「どちらかと言えば働きたい」21.7%の順であり、これに「独立して働きたい」7.8%をあわせた61.9%が『働きたい』と回答している。一方、「どちらかと言えば働きたくない」18.0%、「働きたくない」4.5%をあわせた『働きたくない』は22.5%となっている。

実務年数別にみると、実務年数が短い層の就労意向が高く、1年未満の人では76.2%が『働きたい』と意向を示している。

図表7-40 介護支援専門員としての就労意向(単数回答)



図表7-41 介護支援専門員としての就労意向

	回答者数(人)	働きたい	独立して働きたい	どちらかと言えば働きたい	どちらかと言えば働きたくない	働きたくない	わからない	無回答	『働きたい』	『働きたくない』	
全体	244	32.4	7.8	21.7	18.0	4.5	11.1	4.5	61.9	22.5	
実務年数別	1年未満	21	38.1	14.3	23.8	9.5	0.0	14.3	0.0	76.2	9.5
	1年以上3年未満	40	32.5	12.5	17.5	20.0	7.5	7.5	2.5	62.5	27.5
	3年以上5年未満	46	28.3	6.5	28.3	13.0	6.5	10.9	6.5	63.1	19.5
	5年以上7年未満	51	41.2	7.8	11.8	21.6	3.9	11.8	2.0	60.8	25.5
	7年以上	82	26.8	4.9	26.8	19.5	3.7	12.2	6.1	58.5	23.2

※『働きたい』 = 「働きたい」 + 「独立して働きたい」 + 「どちらかと言えば働きたい」

※『働きたくない』 = 「どちらかと言えば働きたくない」 + 「働きたくない」

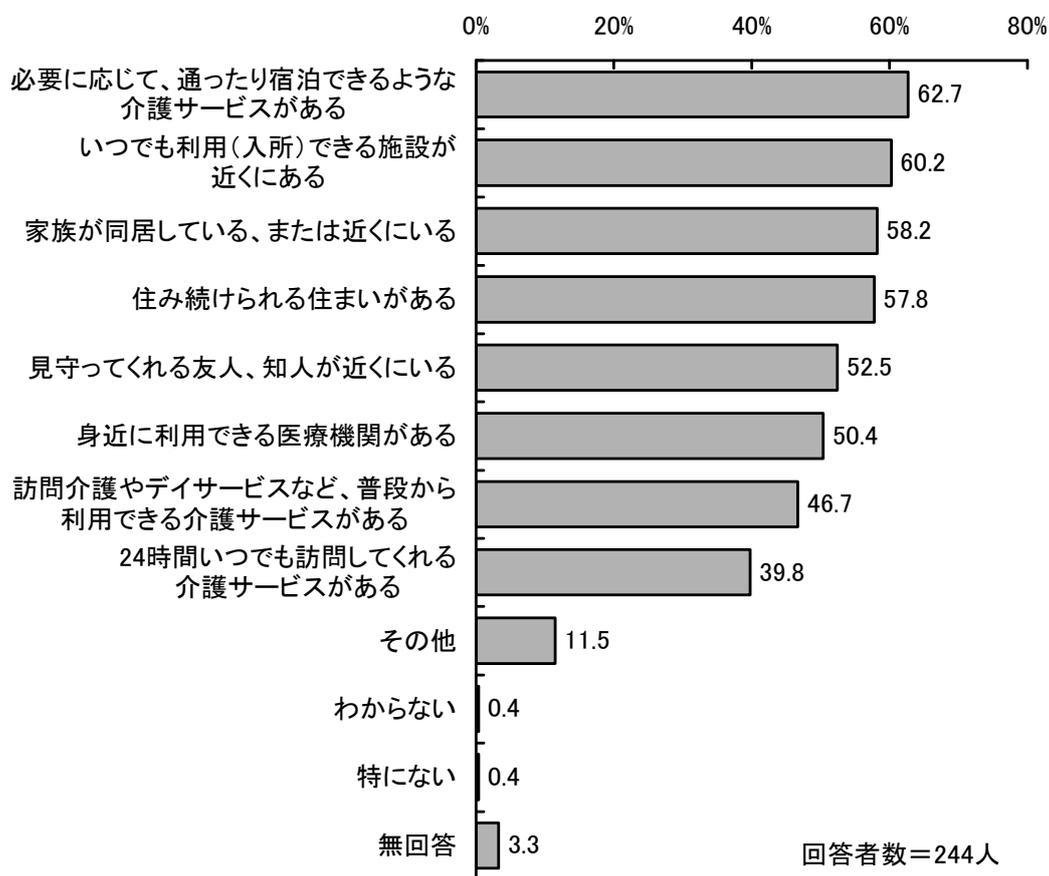
7. 今後の区の施策等について

(1) 在宅生活の継続に必要な条件

問 31 介護支援専門員として、利用者が在宅生活を続けていくために必要だと考えていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

在宅生活の継続に必要な条件をみると、「必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サービスがある」62.7%、「いつでも利用(入所)できる施設が近くにある」60.2%、「家族が同居している、または近くにいる」58.2%、「住み続けられる住まいがある」57.8%、「見守ってくれる友人、知人が近くにいる」52.5%が、上位5項目にあげられている。

図表7-42 在宅生活の継続に必要な条件(複数回答)



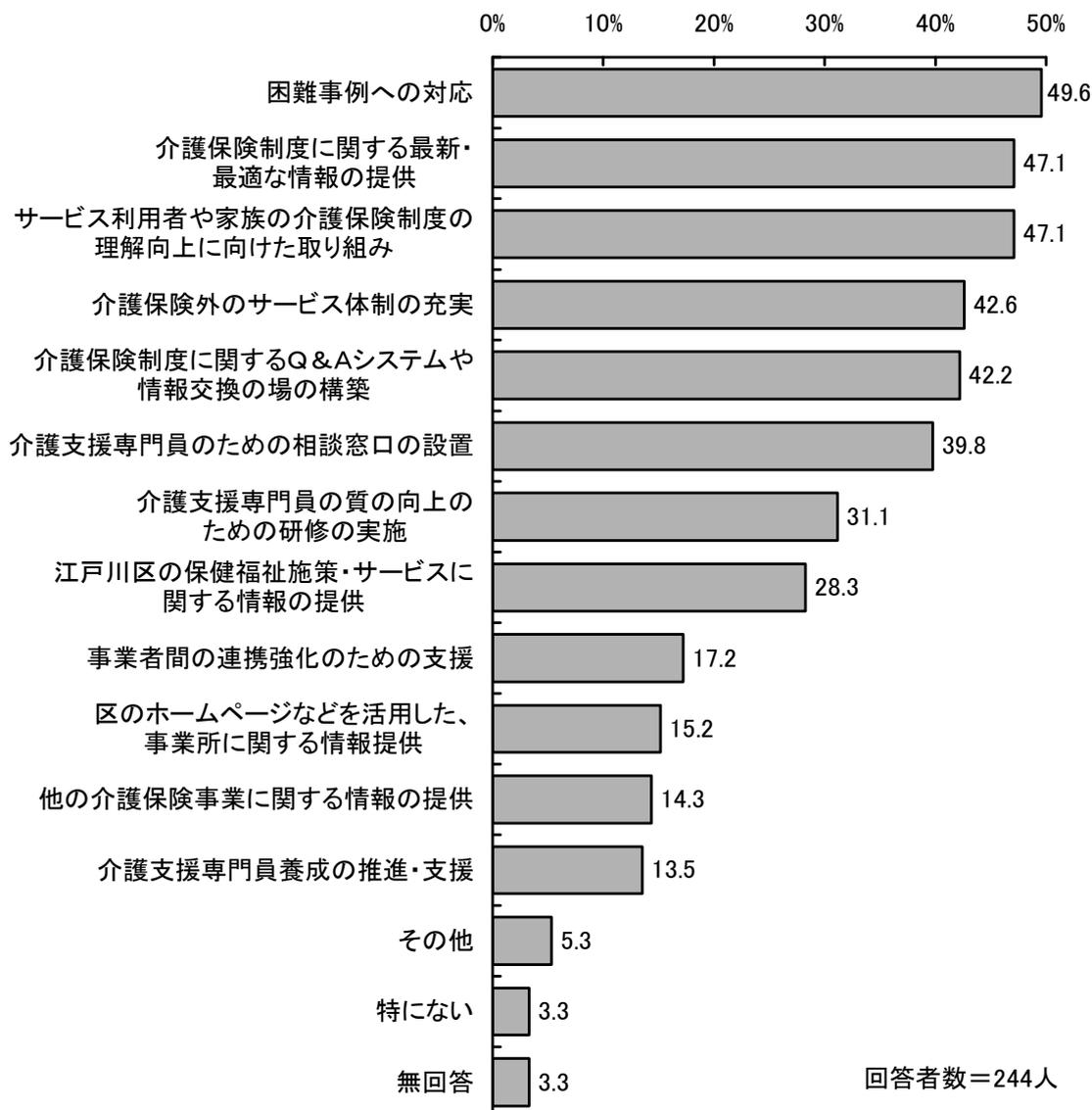
(2) 区に支援・充実してほしいと思うこと

問 32 介護支援専門員として、江戸川区に支援・充実してほしいと思うことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

区に支援・充実してほしいと思うこととしては、「困難事例への対応」49.6%、「介護保険制度に関する最新・最適な情報の提供」「サービス利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み」各 47.1%、「介護保険外のサービス体制の充実」42.6%、「介護保険制度に関するQ&Aシステムや情報交換の場の構築」42.2%が上位5項目であり、それぞれ4割を超えている。次いで、「介護支援専門員のための相談窓口の設置」39.8%、「介護支援専門員の質の向上のための研修の実施」31.1%が続いている。

図表7-43 区に支援・充実してほしいと思うこと(複数回答)



(3) 区への要望・意見

最後に、江戸川区が熟年者の保健福祉施策や介護保険事業を推進していくにあたり、ご意見等がありましたら、自由にご記入ください。

(100 件について分類・要約して記載)

【1】区民向けの施策に対する意見・要望(44 件より抜粋)

- ・在宅介護には限界があるので、お金のない方でも入れる入所施設を増やしてほしい。
- ・平井地区の配食サービスはひとつしかないので、他の事業所も選択できるといいと思う。
- ・特養の増設。待機待ちのないようにしてほしい。
- ・軽度者への福祉用具の貸与について、実態に応じて柔軟に対応してほしい（今までのように）。
- ・介護保険で利用できる事とできない事を印刷物だけでなく、高齢者に周知してほしい。
- ・区の熟年福祉サービスの見直し。例えば、激励手当は低所得者のみでよいのではないか？
- ・介護予防の充実。熟年健診で該当した方へのアプローチ含め、利用できるサービスの見直し（半日コースの設定など）を。
- ・独居の高齢者でも、安心して在宅生活できるような施策が必要。
- ・ヘルパーさんを家政婦と勘違いしている利用者が多い。区からも情報を常に流してほしい。トラブルもそういう認識の違いから生じている。
- ・緊急時に利用できるショートステイの充実とともに、医療処置があっても利用できるショートステイ、入所先を増やしてほしい。
- ・第2号被保険者で、高次脳機能障害を持つ方が増えてきているので、それらの方を対象にした福祉施設を充実してほしい。
- ・紙おむつ支給に関し、押し入れ一杯に積まれたおむつや、不要になった際の処分を相談されることも多く、ムダを生じさせないためにも何か良い方法はないのかと思う。
- ・独居の方や生活保護の方の緊急対処時、土・日曜日に行政の相談窓口がないのは対処に困ることもある。土・日しか休めない家族もいるので、対応して頂けると良い。
- ・介護予防として、スポーツセンター、健康サポートセンター等、常時（随時）利用できるよう充実してほしい。

【2】事業者への支援に関する意見・要望(47 件より抜粋)

- ・地域包括支援センターとして居宅介護支援事業所に予防プランを委託するが、きちんとプランも作れない人が多い。ケアマネジャーのレベルを向上させる必要がある。
- ・医療との連携を取りやすくしてほしい。特に介護保険の事があまりわからない主治医がおり、連携が深まらないことがある。
- ・虐待の対応をもっとして頂きたい。
- ・ケアマネジャー自身も努力が必要だが、区もケアマネジャーへの指導を丁寧に良くしてほしい。
- ・主任ケアマネ研修を受けられる範囲が狭いと思う。地域包括支援センターも良いが、一般の施設や事業所を利用するのも良いかもしれない。
- ・地域包括ケア実現のためにどうしていくのか、地域包括支援センターの機能を強化するためにどうするのか、地域でどう展開していくのかのモデルをきちんと区から示すべきではないか。
- ・区内の高齢者用住宅の情報をホームページで見られると助かる（高専賃、高優賃、シルバーピアの空き、受け入れ条件等）。
- ・介護老人保健施設や特別養護老人ホームに勤務するケアマネジャーの業務内容、施設プランの作成等、施設のケアマネジメントの情報をたくさんほしい。

- ・質の向上ができるよう、スタッフ等（ケアマネジャー、介護スタッフ）の指導について力を入れてほしい。
- ・介護保険以外の事業、サービス内容等を事業従事者向けに説明する会を行ってほしい。
- ・厚労省から出された最新情報を、区としてはどのような見解で判断しているのか等、年に数回程度ケアマネジャーを集めて説明会を開催してほしい。
- ・認定結果が翌月になってしまう時は、連絡してほしい。
- ・居宅サービス計画作成のための認定情報や意見書の開示に、1週間もかかるのはどうしてか。良いプランを作成するため、情報を早くケアマネジャーに出せるように検討してほしい。

【3】その他の意見・要望(9件より抜粋)

- ・福祉に限らず、民間企業やNPOの活用が進んでいるが、偏りがあるように思う。利用者サイドにとって本当に使いやすいサービスなのか？環境は良いか？もっとかゆい所に手の届く細やかなサービスの工夫を求めたい。
- ・地域福祉の理念に則り、地域住民の意識を呼び起こして、より具体的な支援を行う政策を期待する。
- ・江戸川区内の地域包括支援センターは少ないと感じる。中学校区とまではいかないが、もう少しあっても良いのではないか？
- ・今回のこのアンケートの集計結果と、分析した結果を教えてください。

【3】 参考資料

調査票

江戸川区 健康と生きがいに関する調査

—ご記入にあたってのお願い—

◇回答は、封筒のあて名の方ご本人について記入してください。
 ◇ご記入いただいた調査票は三つ折にして、同封した返信用封筒に入れ、
12月15日(水)までにポストに投かんしてください。切手は不要です。
 ◇返信用封筒の裏に、差出人のご住所、お名前等を書く必要はありません。

◆あなたご自身についておうかがいします

問1 あなたの性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

1. 男性	2. 女性	満()歳 ※年齢を記入してください
-------	-------	-------------------------------

問2 あなたのお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

町 名 ()	() 丁目
記入例 (中 央)	(1) 丁目

問3 あなたの現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

1. ひとり暮らし
2. 夫婦のみ
3. 子どもと同居
4. 子どもと孫と同居
5. 親と同居
6. 親と子どもと同居
7. その他 ()

問4 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 一戸建て (持ち家) 2. 一戸建て (賃貸) | <ol style="list-style-type: none"> 3. 分譲マンション 4. 賃貸のマンション・アパート 5. 都営・区営・公団などの公営住宅 6. その他 () |
|---|---|

★マンションやアパート等にお住まいの方(問4で3~6に○)におうかがいします。

問4-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 1階 2. 2階 3. 3~5階 4. 6階以上 	<p style="text-align: center;">→ エレベーターの有無</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない
--	---

問5 あなたと配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 年金収入 2. 給与収入 3. 事業収入 4. 不動産収入 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 生活保護受給 6. 家族からの援助 7. その他 () |
|---|--|

問6 あなたと配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 100万円未満
2. 100万円~300万円未満
3. 300万円~500万円未満
4. 500万円~700万円未満
5. 700万円~1,000万円未満
6. 1,000万円以上

問 13 区では健康づくりや介護予防のためのセミナーや講座、イベントなどを実施していますが、あなたは参加したことがありますか。(1つに○)

- | | | | |
|--------------|--------------|---|--------|
| 1. 参加したことはない | 2. 参加したことがある | } | 問 14 へ |
| | 3. わからない | | |

★参加したことがない方(問 13 で1に○)におうかがいします。

→ 問 13-1 参加したことがない理由は、次のどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりや介護予防は個人で取り組みたい
2. 介護予防教室等の開催を知らない
3. 時間がない
4. 興味のある講座がない
5. 仲間や知り合いがいない
6. 日程や回数の点で利用しにくい
7. 開催場所が遠い、または交通の便が悪い
8. 現在、特に必要性を感じない
9. 体をきたえる必要性を感じない
10. その他 ()
11. 特に理由はない

問 14 あなたは、今後、自分らしく介護を必要としない健康な生活を送るための「介護予防」の取り組みを、していきたいと考えていますか。

(もっとも近い考え1つに○)

1. 積極的に取り組みたい
2. 取り組みたい
3. どちらともいえない
4. あまり取り組みたくない
5. 取り組まない

◆就労、社会参加、生きがいづくりについておうかがいします

問 15 あなたは、現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

1. 常勤の社員・職員
2. 非常勤・嘱託・パート・アルバイト
3. 自営業・自営業手伝い、自由業
4. 熟年人材センターでの仕事
5. その他 ()
6. 仕事はしていない

問 16 あなたは、今後、収入のある仕事をしたい・続けたいと考えていますか。
(1つに○)

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 常勤の社員・職員 2. 非常勤・嘱託・パート・アルバイト 3. 自営業・自営業手伝い、自由業 4. 熟年人材センターでの仕事 5. その他 () | <ol style="list-style-type: none"> 6. 仕事をするつもりはない・する必要がない 7. 仕事はできない |
| ↓ | |
| 問 17 へ | |

★今後仕事をしたいと考えている方(問 16 で1～5に○)におうかがいします。

→ 問 16-1 それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 経済的に働く必要があるため | 5. 持っている技術や資格を活かすため |
| 2. 生活にゆとりがほしいため | 6. 健康のため |
| 3. 将来の蓄え(預貯金)のため | 7. 時間に余裕があるため |
| 4. 生きがいを得るため | 8. その他 () |

→ 問 16-2 何歳くらいまで働きたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 65歳くらいまで | 5. 80歳以上 |
| 2. 70歳くらいまで | 6. 元気であればいつまでも働きたい |
| 3. 75歳くらいまで | 7. その他 () |
| 4. 80歳くらいまで | 8. わからない |

問 17 あなたは、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 趣味・楽しみのための活動
2. 習い事や講座などの教養・学習活動
3. 体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動
4. 町会・自治会・商店会の活動
5. くすのきクラブの活動
6. ボランティアやNPO活動
7. その他 ()
8. 特にしていない

問 18 あなたは、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 趣味・楽しみのための活動
2. 習い事や講座などの教養・学習活動
3. 体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動
4. 町会・自治会・商店会の活動
5. くすのきクラブの活動
6. ボランティアやNPO活動
7. その他 ()
8. 特にしたい活動はない

問 19 次のようなボランティア活動について、あなたが取り組んでみたいと思う活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 社会福祉施設での手伝い
2. 地域の高齢者の支援活動(見守りや話し相手、日常生活の支援など)
3. 子どもの健全育成活動(放課後の遊び相手や話し相手など)
4. 趣味や技術を活かした活動(演奏やレクリエーション指導など)
5. 地域の安全を守る活動(防犯パトロールなど)
6. 環境を守る活動(清掃やリサイクル、自然保護など)
7. 災害時の救援・支援活動
8. その他 ()
9. 特にない

問 20 あなたは、趣味や生活に必要な情報を得るために、パソコンなどのインターネットを利用することがありますか。(1つに○)

1. よく利用する
2. ときどき利用する
3. 利用したことはない

問 21 あなたは、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

1. 家を行き来するなど親しいつきあいがある
2. 立ち話をする程度のつきあいがある
3. あいさつをする程度のつきあいがある
4. 近所づきあいはほとんどない

問 22 あなたは、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

1. ほぼ毎日
2. 週4～5日くらい
3. 週2～3日くらい
4. 週1日くらい
5. 週1日より少ない・ほとんど話をしない

◆地域の高齢者やその家族のさまざまな相談に対応する機関として、区内 14 か所に「地域包括支援センター」が設置されています。

問 27 あなたは、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

- 1. 内容をよく知っている
- 2. だいたいの内容は知っている
- 3. 名前は知っているが内容は知らない
- 4. まったく知らない →問 28 へ

★内容や名前を知っている方(問 27 で 1～3 に○)におうかがいします。

→問 27-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 相談で利用した
- 2. 介護保険及び生活支援等の受付で利用した
- 3. 講座・教室に参加した
- 4. その他 ()

問 28 へ

- 5. 利用したことはない

→問 27-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 利用する必要がないから
- 2. 場所がわからないから
- 3. 場所は知っているが遠いから
- 4. その他 ()

問 28 あなたは、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

- 1. 利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う
- 2. 必要なサービスだけを利用すべきだと思う
- 3. サービスはできるだけ利用しない方がよいと思う
- 4. わからない

問 29 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)

- 1. 大きい
- 2. やや大きい
- 3. 適当である
- 4. やや小さい
- 5. 小さい
- 6. わからない

問 30 江戸川区の熟年者施策について、あなたはどのように感じますか。(1つに○)

- 1. とても充実している
 - 2. まあ充実している
 - 3. どちらともいえない
 - 4. あまり充実していない
 - 5. 充実していない
- そのように感じている理由は何ですか

問 31 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 健康づくりや介護が必要にならないための支援
- 2. 熟年者の就労や社会参加の支援
- 3. 配食や買い物、ごみ出し等の生活支援
- 4. 在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実
- 5. 在宅生活を支える介護サービス
- 6. 介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備
- 7. 介護を受けられる入所施設の整備
- 8. ひとり暮らしの人等を地域で見守るネットワークづくり
- 9. 介護する家族に対する支援
- 10. 介護保険制度や区の熟年者施策に関する情報提供
- 11. 申請や相談がしやすい窓口の整備
- 12. 判断能力が低下した場合の支援や熟年者の人権擁護
- 13. 段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり
- 14. その他 ()
- 15. 特にない

江戸川区 熟年者の健康と生きがいに関する調査

—ご記入にあたってのお願い—

- ◇回答は、封筒のあて名の方ご本人について記入してください。
できるだけあて名のご本人がご回答ください。
- ◇あて名のご本人がご病気等でお答えになれない場合、ご家族の方などが、ご本人に代わり、ご回答ください。
- ◇あて名のご本人が入院・入所している場合は、入院・入所前の状況をご回答ください。
- ◇ご記入いただいた調査票は三つ折にして、同封した返信用封筒に入れ、**12月15日(水)**までにポストに投かんしてください。切手は不要です。
- ◇返信用封筒の裏に、差出人のご住所、お名前等を書く必要はありません。

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

1. あて名のご本人 (代筆・代読を含む)	
2. 家族	
3. その他の方 ()	

◆あなたご自身についておうかがいします

問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

1. 男性	2. 女性	満 () 歳 ※年齢を記入してください
-------	-------	----------------------

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

町名 ()	() 丁目
記入例 (中 央)	(1) 丁目

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

1. ひとり暮らし	5. 親と同居
2. 夫婦のみ	6. 親と子どもと同居
3. 子どもと同居	7. その他 ()
4. 子どもと孫と同居	

問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。(1つに○)

1. ひとりになることはほとんどない	
2. 週1日くらい	
3. 週2～3日くらい	
4. 週4日以上	

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 一戸建て(持ち家)	3. 分譲マンション
2. 一戸建て(賃貸)	4. 賃貸のマンション・アパート
	5. 都営・区営・公団などの公営住宅
	6. その他 ()

★マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3～6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

1. 1階	
2. 2階	→ エレベーターの有無 1. ある 2. ない
3. 3～5階	
4. 6階以上	

問7 あなた（あて名のご本人）と配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1. 年金収入 | 5. 生活保護受給 |
| 2. 給与収入 | 6. 家族からの援助 |
| 3. 事業収入 | 7. その他（ ） |
| 4. 不動産収入 | |

問8 あなた（あて名のご本人）と配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の税込みの年収（年金を含む）の合計は、次のうちどれですか。（1つに○）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 100万円未満 | 4. 500万円～700万円未満 |
| 2. 100万円～300万円未満 | 5. 700万円～1,000万円未満 |
| 3. 300万円～500万円未満 | 6. 1,000万円以上 |

◆健康や介護予防についておうかがいします

問9 あなた（あて名のご本人）は、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。（1つに○）

1. とても健康だと思う
2. まあまあ健康だと思う
3. あまり健康ではないと思う
4. 健康ではないと思う

問10 あなた（あて名のご本人）には、かかりつけの医師（※）がいますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 区内にいる
2. 区外にいる
3. いない

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師

問11 あなた（あて名のご本人）は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 1. 高血圧 | 11. 外傷（転倒・骨折等） |
| 2. 脳卒中（脳出血・脳こうそく等） | 12. がん（新生物） |
| 3. 心臓病 | 13. うつ病 |
| 4. 糖尿病 | 14. 認知症（アルツハイマー病等） |
| 5. 高脂血症（脂質異常） | 15. パーキンソン病 |
| 6. 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等） | 16. 目の病気（白内障・緑内障等） |
| 7. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | 17. 耳の病気（難聴等） |
| 8. 腎臓・前立腺の病気 | 18. 歯の病気（歯周病・義歯調整等） |
| 9. 婦人科系の病気（子宮・卵巣・乳房等） | 19. その他（ ） |
| 10. 筋骨格の病気（関節炎・骨粗しょう症等） | 20. 特にない |

問12 あなた（あて名のご本人）は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。（1つに○）

- | | |
|--------|-----------|
| 1. 1種類 | 4. 4種類 |
| 2. 2種類 | 5. 5種類以上 |
| 3. 3種類 | 6. 飲んでいない |

いつまでもいきいきと自分らしく生きること、それを実現するための手立が介護予防です。病気の予防だけでなく、生活機能の低下をいち早く発見し、元気なうちから介護予防に取り組むことが重要です。

問13 あなた（あて名のご本人）は、現在、介護予防のための取り組みをしていますか。（1つに○）

1. 積極的に取り組んでいる
2. たまに取り組んでいる
3. 取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている
4. 関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない
5. あまり関心はない

問 14 介護予防に取り組みやすくするには、どのような環境・条件が必要だと
 思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている
2. 楽しみながら参加できる活動である(例えば:)
3. からだの機能の回復が実感できる
4. 区民館等、身近な場所で活動できる
5. いっしょに取り組む仲間がいる
6. 自主的な取り組みに対して活動費の助成がある
7. 活動に継続して取り組むと特典が得られる
8. その他()
9. 特にない

問 15 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思
 う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. リズム運動(熟年者がコミュニティ会館などで行う社交ダンスを取り入れた軽運動)
2. くすのきカルチャーセンター(熟年者を対象とした趣味や教養の教室)
3. 熟年ふれあいセンター(ふれあいの機会・生きがいづくりの場を提供し、閉じこも
 りや介護が必要な状態になることを予防する活動を行う)
4. 熟年スポーツトレーニング(スタジオやプールで無理なく、楽しく運動する)
5. 地域ミニデイサービス(身近な町会会館を利用して、会食や趣味活動、健康づくり
 などを行う)
6. いずれも参加したいとは思わない

◆あなたの日常生活についておうかがいします

問 16 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。
 ①～⑰について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。

- | | | | | |
|----------------|---|---------|--------------|---------|
| ①バスや電車で一人で外出する | → | 1. している | 2. できるがしていない | 3. できない |
| ②日用品の買い物をする | → | 1. している | 2. できるがしていない | 3. できない |
| ③自分で食事の用意をする | → | 1. している | 2. できるがしていない | 3. できない |
| ④掃除や洗濯をする | → | 1. している | 2. できるがしていない | 3. できない |
| ⑤請求書の支払いをする | → | 1. している | 2. できるがしていない | 3. できない |
| ⑥預貯金の出し入れをする | → | 1. している | 2. できるがしていない | 3. できない |
| ⑦自分でご飯を食べる | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑧ベッド(寝床)へ移動する | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑨洗面や歯磨きをする | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑩座っていること | → | 1. できる | 2. 支えが必要 | 3. できない |
| ⑪トイレで排泄をする | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑫自分で入浴をする | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑬50メートル以上歩く | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑭階段を昇り降りする | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑮自分で着替えをする | → | 1. できる | 2. 介助があればできる | 3. できない |
| ⑯大便の失敗 | → | 1. ない | 2. ときどきある | 3. よくある |
| ⑰小便の失敗 | → | 1. ない | 2. ときどきある | 3. よくある |

問 17 以下の①～④のすべてについて、あなた（あて名のご本人）に「あてはまる」ことに○をしてください。

①運動や転倒

1. 階段は手すりや壁をつたわずに昇っている
2. 椅子から立ち上がる時、つかまらない
3. 15分位続けて歩いている
4. 昨年と比べて外出の回数が減った
5. この1年間に転んだことがある
6. 転倒に対する不安がある
7. 背中が丸くなってきた
8. 歩く速度が遅くなってきた
9. 杖を使っている
10. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

②栄養や口の健康

1. 最近6か月間で2～3kg以上体重が減った
2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなった
3. お茶や汁物等でむせることがある
4. 口の渴（かわ）きが気になる
5. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

③社会活動

1. 年金の申請などの書類を自分で書ける
2. 新聞を読んでいる
3. 本や雑誌を読んでいる
4. 健康についての記事や番組に関心がある
5. 友人の家を訪ねている
6. 家族や友人の相談にのっている
7. 病人を見舞うことができる
8. 若い人に自分から話しかけることができる
9. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

④物忘れや気分

1. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる
2. 電話番号を調べて、自分で電話をかけられる
3. 今日が何月何日かわからない時がある
4. 5分前のことを思い出せない
5. 毎日の生活に充実感がないと感じる
6. 楽しんでやれたことが、楽しめなくなった
7. 以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる
8. 自分は役に立つ人間だと思えない
9. わけもなく疲れたような感じがする
10. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

問 18 あなた（あて名のご本人）は、その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。（1つに○）

1. 困難なくできる
2. いくらか困難であるが、できる
3. 判断する時に、他人からの声かけや見守りが必要
4. ほとんど判断できない

問 19 あなた（あて名のご本人）は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。（1つに○）

1. 伝えられる
2. いくらか困難であるが、伝えられる
3. あまり伝えられない
4. ほとんど伝えられない

問 20 あなた（あて名のご本人）は、どのくらい外出をしていますか。（1つに○）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 4. 週1日くらい |
| 2. 週4～5日くらい | 5. 週1日より少ない |
| 3. 週2～3日くらい | |

問 21 あなた（あて名のご本人）は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 買い物 | 7. 外出のつきそい（通院・散歩など） |
| 2. 食事のしたくや後片付け | 8. 話し相手 |
| 3. 掃除・洗濯・布団干し | 9. 定期的な声かけや見守り |
| 4. ごみ出しや電球の交換 | 10. 急病・災害時の手助け |
| 5. 大掃除・草むしり・衣替え | 11. その他（ ） |
| 6. 預貯金の出し入れや支払い手続き | 12. 特にない |

問 22 あなた（あて名のご本人）は、現在の生活で不安に感じることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自分の健康・病気のこと
2. 配偶者や家族の健康・病気のこと
3. いざという時に頼れる人がいないこと
4. 生活費など経済的なこと
5. 住まいのこと
6. 財産の管理や相続のこと
7. 生活にはりや生きがいがいないこと
8. 友人や地域との交流が減ったこと
9. その他（ ）
10. 特にない

◆社会参加、生きがいつくり、就労についておうかがいします

問 23 あなた（あて名のご本人）は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。（1つに○）

1. 家を行き来するなど親しいつきあいがある
2. 立ち話をする程度のつきあいがある
3. あいさつをする程度のつきあいがある
4. 近所づきあいはほとんどない

問 24 あなた（あて名のご本人）は、ふだん、どのくらいご家族（同居を含む）・ご親族や知人等と話をしていますか（電話やメールを含む）。（1つに○）

1. ほぼ毎日
2. 週4～5日くらい
3. 週2～3日くらい
4. 週1日くらい
5. 週1日より少ない・ほとんど話をしない

問 25 あなた（あて名のご本人）は、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 趣味・楽しみのための活動
2. 習い事や講座などの教養・学習活動
3. 体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動
4. 町会・自治会・商店会の活動
5. くすのきクラブの活動
6. ボランティアやNPO活動
7. その他（ ）
8. 特にしていない

問 26 あなた（あて名のご本人）は、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いませんか。（あてはまるものすべてに○）

1. 趣味・楽しみのための活動
2. 習い事や講座などの教養・学習活動
3. 体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動
4. 町会・自治会・商店会の活動
5. くすのきクラブの活動
6. ボランティアやNPO活動
7. その他（ ）
8. 特にしたい活動はない
9. 活動できない

江戸川区 介護予防に関する調査

—ご記入にあたってのお願い—

- ◇回答は、封筒のあて名の方ご本人について記入してください。
できるだけあて名のご本人がご回答ください。
- ◇あて名のご本人がご病気等でお答えになれない場合、ご家族の方などが、ご本人に代わり、ご回答ください。
- ◇あて名のご本人が入院・入所している場合は、入院・入所前の状況をご回答ください。
- ◇ご記入いただいた調査票は三つ折にして、同封した返信用封筒に入れ、**12月15日(水)**までにポストに投かんしてください。切手は不要です。
- ◇返信用封筒の裏に、差出人のご住所、お名前等を書く必要はありません。

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

1. あて名のご本人 (代筆・代読を含む)
2. 家 族
3. その他の方 ()

◆あなたご自身についておうかがいします

問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

- | | | | |
|-------|-------|---------|--------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 満 () 歳 | ※年齢を記入してください |
|-------|-------|---------|--------------|

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

町 名 ()	() 丁目
記入例 (中 央)	(1) 丁目

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ひとり暮らし | 5. 親と同居 |
| 2. 夫婦のみ | 6. 親と子どもと同居 |
| 3. 子どもと同居 | 7. その他 () |
| 4. 子どもと孫と同居 | |

問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。(1つに○)

1. ひとりになることはほとんどない
2. 週1日くらい
3. 週2～3日くらい
4. 週4日以上

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 一戸建て(持ち家) | 3. 分譲マンション |
| 2. 一戸建て(賃貸) | 4. 賃貸のマンション・アパート |
| | 5. 都営・区営・公団などの公営住宅 |
| | 6. その他 () |

★マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3～6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 1階 2. 2階 3. 3～5階 4. 6階以上 | <p>→ エレベーターの有無</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない |
|--|---|

⑨洗面や歯磨きをする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑩座っていること → 1. できる 2. 支えが必要 3. できない

⑪トイレで排泄をする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑫自分で入浴をする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑬50メートル以上歩く → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑭階段を昇り降りする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑮自分で着替えをする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑯大便の失敗 → 1. ない 2. ときどきある 3. よくある

⑰小便の失敗 → 1. ない 2. ときどきある 3. よくある

問 12 以下の①～④のすべてについて、あなた（あて名のご本人）に「あてはまる」ことに○をしてください。

①運動や転倒

1. 階段は手すりや壁をつたわずに昇っている
2. 椅子から立ち上がる時、つかまらない
3. 15分位続けて歩いている
4. 昨年と比べて外出の回数が減った
5. この1年間に転んだことがある
6. 転倒に対する不安がある
7. 背中が丸くなってきた
8. 歩く速度が遅くなってきた
9. 杖を使っている
10. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

②栄養や口の健康

1. 最近6か月間で2～3kg以上体重が減った
2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなった
3. お茶や汁物等でむせることがある
4. 口の渇（かわ）きが気になる
5. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

③社会活動

1. 年金の申請などの書類を自分で書ける
2. 新聞を読んでいる
3. 本や雑誌を読んでいる
4. 健康についての記事や番組に関心がある
5. 友人の家を訪ねている
6. 家族や友人の相談にのっている
7. 病人を見舞うことができる
8. 若い人に自分から話しかけることができる
9. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

④物忘れや気分

1. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる
2. 電話番号を調べて、自分で電話をかけられる
3. 今日が何月何日かわからない時がある
4. 5分前のことを思い出せない
5. 毎日の生活に充実感がないと感じる
6. 楽しんでやれたことが、楽しめなくなった
7. 以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる
8. 自分は役に立つ人間だと思えない
9. わけもなく疲れたような感じがする
10. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

問 19 あなた（あて名のご本人）は、健康診査等の結果、地域包括支援センターで介護予防相談をするように勧められたと思いますが、介護予防相談に行きましたか。（1つに○）

1. 介護予防相談に行った →問 20 へ
 2. 介護予防相談に行っていない

★介護予防相談に行っていない方（問 19 で 2 に ○）におうかがいします。

→ 問 19-1 あなた（あて名のご本人）が、介護予防相談に行かなかったのは、なぜですか。（1つに○）

1. 健康なので、介護予防は必要ないと思った
 2. 健康に不安はあるが、介護予防に参加するほどではないと思った
 3. 介護予防事業の内容に興味を持てなかった
 4. 介護予防相談の内容がよくわからなかった
 5. その他（ ）
 6. 特に理由はない

↓
 11 ページの問 21 へ

★問 20 は介護予防相談に行った方（問 19 で 1 に ○）におうかがいします。

問 20 江戸川区では、介護予防のために以下の事業を行っています。どの事業に参加しましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 介護予防教室
 2. 熟年ふれあいセンターの事業
 3. 熟年口腔ケアセミナー → 次ページの問 20-1 へ
 4. 熟年いきいきトレーニング
 5. 熟年スポーツトレーニング事業
 6. 参加していない → 次ページの問 20-2 へ

★介護予防事業に参加した方（問 20 で 1～5 に ○）におうかがいします。

問 20-1 参加した結果、心身の状態でよくなったと感じることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 外出が増えた
 2. 階段の昇り降りが楽になった
 3. 体調がよくなった
 4. 食事がおいしくなった
 5. 精神的に安定した
 6. 友人等との付き合いが増えた
 7. やる気や張りが出た
 8. 何事も積極的に取り組むようになった
 9. その他（ ）
 10. 何も変わらない

↓
 11 ページの問 21 へ

★介護予防事業に参加していない方（問 20 で 6 に ○）におうかがいします。

問 20-2 介護予防事業に参加しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自分は健康であるので介護予防の必要はないと思ったから
 2. 自分自身で介護予防に気をつけて実践しているから
 3. もう少し身体の状態に自信がなくなってから参加しても遅くはないと考えたから
 4. ほかに自分のやりたいことがあったから
 5. 介護予防事業の内容にあまり興味を持てなかったから
 6. 期間や回数に不安があったから
 7. 通うのがおっくうに感じたから
 8. 事業の仕組みや事業を受けるための手続きがよくわからなかったから
 9. 費用がかかるから
 10. 知らなかった
 11. その他（ ）
 12. 特に理由はない

★ここからは全員におうかがいします。

問 21 あなた（あて名のご本人）が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 介護予防教室（転倒などによる骨折予防や健康体操、体力測定、趣味を活かした活動を行う）
2. 熟年ふれあいセンター（ふれあいの機会・生きがいづくりの場を提供し、閉じこもりや介護が必要な状態になることを予防する活動を行う）
3. 熟年口腔ケアセミナー（歯科医師や歯科衛生士が、口の健康法を紹介する）
4. 熟年いきいきトレーニング（足腰の筋力・機能の維持や向上のトレーニング）
5. 熟年スポーツトレーニング（スタジオやプールで無理なく、楽しく運動する）
6. 地域ミニデイサービス（身近な町会会館を利用して、会食や趣味活動、健康づくりなどを行う）
7. リズム運動（熟年者がコミュニティ会館などで行う社交ダンスを取り入れた軽運動）
8. くすのきクラブ（趣味やレクリエーション、ボランティア等を行う熟年者の会員組織）
9. くすのきカルチャーセンター（熟年者を対象とした趣味や教養の教室）
10. 熟年人材センター（熟年者の就労の場を提供するセンター）
11. いずれも参加したいとは思わない

問 22 介護予防に取り組みやすくするには、どのような環境・条件が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている
2. 楽しみながら参加できる活動である（例えば：_____）
3. からだの機能の回復が実感できる
4. 区民館等、身近な場所で活動できる
5. いっしょに取り組む仲間がいる
6. 自主的な取り組みに対して活動費の助成がある
7. 活動に継続して取り組むと特典が得られる
8. その他（_____）
9. 特にない

◆地域とのかかわりについておうかがいします

問 23 あなた（あて名のご本人）は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。（1つに○）

1. 家を行き来するなど親しいつきあいがある
2. 立ち話をする程度のつきあいがある
3. あいさつをする程度のつきあいがある
4. 近所づきあいはほとんどない

問 24 あなた（あて名のご本人）は、ふだん、どのくらいご家族（同居を含む）・ご親族や知人等と話をしていますか（電話やメールを含む）。（1つに○）

1. ほぼ毎日
2. 週4～5日くらい
3. 週2～3日くらい
4. 週1日くらい
5. 週1日より少ない・ほとんど話をしない

江戸川区 介護保険サービス利用に関する調査

—ご記入にあたってのお願い—

- ◇回答は、封筒のあて名の方ご本人について記入してください。
できるだけあて名のご本人がご回答ください。
- ◇あて名のご本人がご病気等でお答えになれない場合、ご家族の方などが、ご本人に代わり、ご回答ください。
- ◇あて名のご本人が入院・入所している場合は、入院・入所前の状況をご回答ください。
- ◇ご記入いただいた調査票は三つ折にして、同封した返信用封筒に入れ、
12月15日(水)までにポストに投かんしてください。切手は不要です。
- ◇返信用封筒の裏に、差出人のご住所、お名前等を書く必要はありません。

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

1. あて名のご本人 (代筆・代読を含む)	
2. 家 族	
3. その他の方 ()	

◆あなたご自身についておうかがいします

問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

1. 男性	2. 女性	満 () 歳	※年齢を記入してください
-------	-------	---------	--------------

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

町 名 ()	() 丁目
記入例 (中 央)	(1) 丁目

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

1. ひとり暮らし	5. 親と同居
2. 夫婦のみ	6. 親と子どもと同居
3. 子どもと同居	7. その他 ()
4. 子どもと孫と同居	

問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりであることがどのくらいありますか。(1つに○)

1. ひとりになることはほとんどない	
2. 週1日くらい	
3. 週2～3日くらい	
4. 週4日以上	

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

1. 一戸建て(持ち家)	3. 分譲マンション
2. 一戸建て(賃貸)	4. 賃貸のマンション・アパート
	5. 都営・区営・公団などの公営住宅
	6. その他 ()

★マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3～6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

1. 1階		
2. 2階	→ エレベーターの有無	
3. 3～5階		1. ある
4. 6階以上		2. ない

⑨洗面や歯磨きをする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑩座っていること → 1. できる 2. 支えが必要 3. できない

⑪トイレで排泄をする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑫自分で入浴をする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑬50メートル以上歩く → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑭階段を昇り降りする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑮自分で着替えをする → 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

⑯大便の失敗 → 1. ない 2. ときどきある 3. よくある

⑰小便の失敗 → 1. ない 2. ときどきある 3. よくある

問 16 以下の①～④のすべてについて、あなた（あて名のご本人）に「あてはまる」ことに○をしてください。

①運動や転倒

1. 階段は手すりや壁をつたわずに昇っている
2. 椅子から立ち上がる時、つかまらない
3. 15分位続けて歩いている
4. 昨年と比べて外出の回数が減った
5. この1年間に転んだことがある
6. 転倒に対する不安がある
7. 背中が丸くなってきた
8. 歩く速度が遅くなってきた
9. 杖を使っている
10. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

②栄養や口の健康

1. 最近6か月間で2～3kg以上体重が減った
2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなった
3. お茶や汁物等でむせることがある
4. 口の渇（かわ）きが気になる
5. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

③社会活動

1. 年金の申請などの書類を自分で書ける
2. 新聞を読んでいる
3. 本や雑誌を読んでいる
4. 健康についての記事や番組に関心がある
5. 友人の家を訪ねている
6. 家族や友人の相談にのっている
7. 病人を見舞うことができる
8. 若い人に自分から話しかけることができる
9. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

④物忘れや気分

1. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる
2. 電話番号を調べて、自分で電話をかけられる
3. 今日が何月何日かわからない時がある
4. 5分前のことを思い出せない
5. 毎日の生活に充実感がないと感じる
6. 楽しんでやれたことが、楽しめなくなった
7. 以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる
8. 自分は役に立つ人間だと思えない
9. わけもなく疲れたような感じがする
10. どれもあてはまらない

あてはまるもの
すべてに○

問 17 あなた（あて名のご本人）は、その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。（1つに○）

1. 困難なくできる
2. いくらか困難であるが、できる
3. 判断する時に、他人からの声かけや見守りが必要
4. ほとんど判断できない

問 18 あなた（あて名のご本人）は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。（1つに○）

1. 伝えられる
2. いくらか困難であるが、伝えられる
3. あまり伝えられない
4. ほとんど伝えられない

問 19 あなた（あて名のご本人）は、どのくらい外出をしていますか。（1つに○）

1. ほぼ毎日
2. 週 4～5 日くらい
3. 週 2～3 日くらい
4. 週 1 日くらい
5. 週 1 日より少ない

問 20 あなた（あて名のご本人）は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. 買い物 | 11. その他 |
| 2. 食事のしたくや後片付け | () |
| 3. 掃除・洗濯・布団干し | 12. 特にない |
| 4. ごみ出しや電球の交換 | |
| 5. 大掃除・草むしり・衣替え | |
| 6. 預貯金の出し入れや支払い手続き | |
| 7. 外出のつきそい（通院・散歩など） | |
| 8. 話し相手 | |
| 9. 定期的な声かけや見守り | |
| 10. 急病・災害時の手助け | |

★ここからは全員におうかがいします。

◆介護保険サービス等の利用についておうかがいします

問 21 あなた（あて名のご本人）は、現在、介護保険サービスを利用していますか。（1つに○）

1. 利用している →問 22 へ
2. 利用していたが、現在は利用していない
3. 利用したことはない
4. わからない →13 ページの間 23 へ

★介護保険サービスを利用していない方（問 21 で 2・3 に○）におうかがいします。

→問 21-1 あなた（あて名のご本人）が、介護保険サービスを利用していないのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 他人の世話になりたくない
2. 他人を家に入れたくない
3. 家族の介護で十分
4. 利用の仕方がわからない
5. 利用料金が高い
6. 利用したいサービス等がない
7. サービス事業者に断られた
8. 入院した
9. 身体・健康状況が改善した
10. その他 ()
11. 特に理由はない

↓
13 ページの間 23 へ

問 22 在宅の介護保険サービスの満足度についておたずねします。以下の①～⑩すべてについて、それぞれもっとも近い意見1つに○をしてください。

現在利用していないサービスは、「6. 利用していない」に○をしてください。

サービス名	サービスの満足度
①ケアプラン ※ケアマネジャーが作成するサービス計画	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
②訪問介護 (ホームヘルプサービス) ※ホームヘルパーが自宅を訪問し、身体介護や家事等の支援を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
③夜間対応型訪問介護 ※自宅への定時訪問や通報システムによる緊急訪問等の夜間専用の介護を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
④訪問入浴介護 ※自宅に組み立て式の浴槽を持ち込み、入浴の介護を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
⑤訪問看護 ※看護師等が自宅を訪問し、療養上の世話や診療補助を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>

サービス名	サービスの満足度
⑥訪問リハビリテーション ※理学療法士等が自宅を訪問し、リハビリを行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
⑦居宅療養管理指導 ※医師・歯科医師等が自宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
⑧デイサービス(通所介護・通所リハビリテーション) ※施設等で趣味、生きがい活動等を目帰りで行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
⑨ショートステイ(短期入所生活介護・短期入所療養介護) ※施設等に短期入所し、日常生活上の支援やリハビリ等を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
⑩認知症対応型デイサービス ※認知症の高齢者が施設等に通り、食事、入浴等の支援やリハビリ等を行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>
⑪小規模多機能型居宅介護 ※施設への通所を中心として、ホームヘルパーの訪問やショートステイを組み合わせたサービスを行う	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 <input type="checkbox"/> → <input type="checkbox"/> 6. 利用していない 不満の理由は何ですか <input type="checkbox"/>

サービス名	サービスの満足度
⑫福祉用具の貸与、購入費の支給 <small>※日常生活の自立に必要な福祉用具を貸与・購入費の一部を支給する</small>	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 6. 利用していない <small>不満の理由は何ですか</small> <input type="checkbox"/> → ()
⑬住宅改修費の支給 <small>※住宅改修をした際の費用の一部を支給する</small>	1. とても満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. とても不満 6. 利用していない <small>不満の理由は何ですか</small> <input type="checkbox"/> → ()

問 23 あなた（あて名のご本人）は、今後、ご自宅で生活するうえで、どのような介護保険サービスを利用したい（し続けたい）と思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 訪問介護（ホームヘルパーが自宅を訪問し、身体介護や家事等の支援を行う）
2. 夜間対応型訪問介護（自宅への定時訪問や通報システムによる緊急訪問等の夜間専用の介護を行う）
3. 訪問入浴介護（自宅に組み立て式の浴槽を持ち込み、入浴の介護を行う）
4. 訪問看護（看護師等が自宅を訪問し、療養上の世話や診療補助を行う）
5. 訪問リハビリテーション（理学療法士等が自宅を訪問し、リハビリを行う）
6. 居宅療養管理指導（医師・歯科医師等が自宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う）
7. デイサービス（施設等で趣味、生きがい活動等を日帰りで行う）
8. ショートステイ（施設等に短期入所し、日常生活上の支援やリハビリ等を行う）
9. 認知症対応型デイサービス（認知症の高齢者が施設等に通い、食事、入浴等の支援やリハビリ等を行う）
10. 小規模多機能型居宅介護（施設への通所を中心として、ホームヘルパーの訪問やショートステイを組み合わせたサービスを行う）
11. 福祉用具（日常生活の自立に必要な福祉用具を貸与・購入費の一部を支給する）
12. 住宅改修（住宅改修をした際の費用の一部を支給する）
13. わからない
14. 特になし

問 24 あなた（あて名のご本人）は、今後、ご自宅で生活するうえで、江戸川区が実施する介護保険以外のサービスについて、利用したいサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 紙おむつ・おむつかバー等の支給、おむつ使用料の助成
2. 寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング
3. 訪問理美容サービス
4. 徘徊高齢者探索サービス
5. 緊急通報システム
6. 配食サービス
7. 移送サービス
8. ごみの戸別訪問収集
9. 財産・金銭の管理や各種手続きの代行
10. 定期的な見守りや安否確認
11. その他 ()
12. 利用したいサービスはない

◆今後の生活等についておうかがいします

問 25 あなた（あて名のご本人）は、今後どのように暮らしたいですか。（もっとも近い考え1つに○）

1. 主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい
2. 主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい
3. 高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい
4. 有料老人ホームなどで暮らしたい
5. 数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい
6. 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい
7. その他 ()
8. わからない

江戸川区介護保険サービス事業者調査

—ご記入にあたってのお願い—

- ◇この調査票は、**同一所在地にある事業所に1通、送らせていただいています。**あて名に書かれているサービスを参考に、同一所在地にある各事業所の状況をまとめてご回答ください。
- ◇事業の運営状況など、事業所単独では回答が難しい質問項目については、恐れ入りますが、運営主体の法人と調整のうえ、ご回答ください。
- ◇この調査票は、サービスの管理者またはそれに準ずる方がご記入ください。
- ◇ご記入いただいた調査票は三つ折にして、同封した返信用封筒に入れ、**1月31日(月)**までにポストに投かんしてください。切手は不要です。
- ◇事業所の名称や所在地、担当者のお名前等を調査票や封筒に書く必要はありません。

◆**貴事業所の概要について**

問1 貴事業所の所在地はどちらですか。(1つに○)
 ※別紙裏面の「江戸川区日常生活圏域早見表」をご参照のうえご回答ください。

1. 区民課圏域	5. 小岩事務所圏域
2. 小松川事務所圏域	6. 東部事務所圏域
3. 葛西事務所北圏域	7. 鹿骨事務所圏域
4. 葛西事務所南圏域	

問2 貴事業所の法人組織は、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

1. 社会福祉法人	5. NPO法人
2. 医療法人	6. 協同組合
3. 社団法人・財団法人	7. 個人医院等
4. 営利法人(株式会社、有限会社等)	8. その他 ()

問3 ①貴事業所(同一所在地にある事業所)が実施しているサービスすべてに○をし、○をしたサービスについて、②平成22年12月の提供実績(実利用者数)、及び③従業者数をご記入ください。

※予防給付も含めてご回答ください。

サービスの種類	① 実施している サービスに○	②平成22年12月の 提供実績(実利用者数)		③従業者数 (管理者含む)	
		全 体	うち江戸川区民	常 勤	非 常 勤
1. 居宅介護支援		人	人	人	人
2. 訪問介護		人	人	人	人
3. 訪問入浴介護		人	人	人	人
4. 訪問看護		人	人	人	人
5. 訪問リハビリテーション		人	人	人	人
6. 居宅療養管理指導		人	人	人	人
7. 通所介護		人	人	人	人
8. 通所リハビリテーション		人	人	人	人
9. 短期入所生活介護		人	人	人	人
10. 短期入所療養介護		人	人	人	人
11. 特定施設入居者生活介護		人	人	人	人
12. 福祉用具貸与		人	人	人	人
13. 特定福祉用具販売		人	人	人	人
14. 住宅改修		人	人	人	人
15. 夜間対応型訪問介護		人	人	人	人
16. 認知症対応型通所介護		人	人	人	人
17. 小規模多機能型居宅介護		人	人	人	人
18. 認知症対応型共同生活介護		人	人	人	人
19. 地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護		人	人	人	人
20. 介護老人福祉施設		人	人	人	人
21. 介護老人保健施設		人	人	人	人
22. 介護療養型医療施設		人	人	人	人

問4 問3①で○をした実施サービスのうち、昨年度（最新の決算）の収支が黒字であったサービスに○をしてください。（あてはまるものすべてに○） ※予防給付を含めてご回答ください。

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 居宅介護支援 | 13. 特定福祉用具販売 |
| 2. 訪問介護 | 14. 住宅改修 |
| 3. 訪問入浴介護 | 15. 夜間対応型訪問介護 |
| 4. 訪問看護 | 16. 認知症対応型通所介護 |
| 5. 訪問リハビリテーション | 17. 小規模多機能型居宅介護 |
| 6. 居宅療養管理指導 | 18. 認知症対応型共同生活介護 |
| 7. 通所介護 | 19. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |
| 8. 通所リハビリテーション | 20. 介護老人福祉施設 |
| 9. 短期入所生活介護 | 21. 介護老人保健施設 |
| 10. 短期入所療養介護 | 22. 介護療養型医療施設 |
| 11. 特定施設入居者生活介護 | 23. 黒字であったサービスはない |
| 12. 福祉用具貸与 | |

問5 問3①で○をした実施サービスのうち、3年以内に、縮小・撤退を考えているサービスに○をしてください。（あてはまるものすべてに○） ※予防給付を含めてご回答ください。

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 居宅介護支援 | 13. 特定福祉用具販売 |
| 2. 訪問介護 | 14. 住宅改修 |
| 3. 訪問入浴介護 | 15. 夜間対応型訪問介護 |
| 4. 訪問看護 | 16. 認知症対応型通所介護 |
| 5. 訪問リハビリテーション | 17. 小規模多機能型居宅介護 |
| 6. 居宅療養管理指導 | 18. 認知症対応型共同生活介護 |
| 7. 通所介護 | 19. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |
| 8. 通所リハビリテーション | 20. 介護老人福祉施設 |
| 9. 短期入所生活介護 | 21. 介護老人保健施設 |
| 10. 短期入所療養介護 | 22. 介護療養型医療施設 |
| 11. 特定施設入居者生活介護 | 23. 縮小・撤退を考えているサービスはない |
| 12. 福祉用具貸与 | |

問5-1 「縮小・撤退を考えているサービスがある」（1～22に○）事業所におたずねします。その理由をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 採算が合わない | 5. 制度改正等の流れに対応できない |
| 2. サービス提供をする人材確保が難しい | 6. 経営側の判断・方針 |
| 3. 利用者の確保が難しい | 7. その他 |
| 4. 他社との競合が激しい | () |

問6 貴事業所において、3年以内に、江戸川区において事業の拡大・新規参入を考えているサービスに○をしてください。（あてはまるものすべてに○） ※予防給付を含めてご回答ください。

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 居宅介護支援 | 14. 住宅改修 |
| 2. 訪問介護 | 15. 夜間対応型訪問介護 |
| 3. 訪問入浴介護 | 16. 認知症対応型通所介護 |
| 4. 訪問看護 | 17. 小規模多機能型居宅介護 |
| 5. 訪問リハビリテーション | 18. 認知症対応型共同生活介護 |
| 6. 居宅療養管理指導 | 19. 地域密着型特定施設入居者生活介護 |
| 7. 通所介護 | 20. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 |
| 8. 通所リハビリテーション | 21. 介護老人福祉施設 |
| 9. 短期入所生活介護 | 22. 介護老人保健施設 |
| 10. 短期入所療養介護 | 23. 介護療養型医療施設 |
| 11. 特定施設入居者生活介護 | 24. 拡大・新規参入を考えているサービスはない |
| 12. 福祉用具貸与 | |
| 13. 特定福祉用具販売 | |

問7 「24時間対応の定期巡回・随時対応サービス」が介護保険サービスとして制度化（法内化）された場合、貴事業所では事業への参入について、どのように考えていますか。（1つに○）

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 参入したい・する予定 | 3. 参入する予定はない |
| 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい | 4. わからない |

問8 「24時間対応の定期巡回・随時対応サービス」について、参入条件や課題、事業展開にあたっての意見、知りたい情報等があればご記入ください。

問9 小規模多機能型居宅介護と訪問看護を組み合わせるなど、複数のサービスを一体的に提供する「複合型サービス」が介護保険サービスとして制度化（法内化）された場合、貴事業所では事業への参入について、どのように考えていますか。（1つに○）

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 参入したい・する予定 | 3. 参入する予定はない |
| 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい | 4. わからない |

問15 貴事業所では、過去1年間に、利用者からの苦情やトラブルはありましたか。
苦情やトラブルの内容とその対応をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

(1) 苦情やトラブルの内容	(2) 苦情やトラブルへの対応
1. 契約書、重要事項説明書について	1. 謝罪と再発防止策の徹底
2. サービス提供内容について	2. 利用者や家族への十分な説明による納得
3. 料金(保険内・保険外等)について	3. 居宅サービス計画、介護サービス計画の見直し
4. サービス担当者の質がよい	4. サービス担当者への指導
5. サービス担当者との相性	5. サービス担当者の交代
6. 利用者間のトラブル	6. 事例検討等、事業所内に意思統一
7. サービス提供開始時刻の遅れ	7. サービス担当者の研修
8. 食事、入浴、排せつ等のサービス提供内容	8. 弁償や損害賠償
9. サービス提供内容の範囲を超えるサービス	9. その他()
10. 人身事故や物損事故	
11. 利用者や家族の要望をサービスに反映していない	
12. 利用者のプライバシーへの配慮	
13. 虐待や身体拘束に関すること	
14. 利用者の個人情報の保護	
15. サービス担当者の言葉づかいや態度	
16. その他()	
17. 苦情やトラブルはない	

問16 医療との連携について、課題に感じることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日常的に相談・助言を受けられる医師・医療機関の確保
2. 急変時の受け入れを依頼できる病院の確保
3. 入院・退院する利用者に関する医療情報の共有
4. 退院前後の医療職も含めたカンファレンスやミーティングの開催
5. 医療職との連携に必要な基本的な医療的知識の習得
6. その他()
7. 特にない

◆人材の確保や雇用管理について

問17 人材の確保や雇用管理について、課題となっていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事量に見合う従業員の確保
2. 夜勤ができる従業員の確保
3. 従業員の定着率の向上
4. 人材育成・教育等従業員の質の確保
5. 異なる職種や就業形態の従業員間のコミュニケーションの確保
6. 従業員の士気の確保・向上
7. 職場のチームワーク
8. 能力や業績に応じた賃金体系の確保
9. 人事労務面の管理体制整備
10. その他()
11. 特にない

問18 貴事業所では、キャリアパス(※)を設けていますか。(1つに○)

1. 設けている
2. 設けていない (理由:)

※キャリアパス：職種や役職のキャリアアップの道筋や、それに応じた賃金体系を定めること

付問 「2. 設けていない」事業所におたずねします。
今後設ける予定はありますか。(1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

問19 貴事業所では、平成22年度の介護職員処遇改善交付金申請をされましたか。(1つに○)

1. 申請した
2. 申請しなかった (理由:)
3. 交付金対象サービスは実施していない

問20 貴事業所では、人材確保のために、介護職員処遇改善交付金以外に、次の東京都等の施策を活用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 代替職員の確保による現任介護職員等の研修支援事業
2. 介護従事者向け研修
3. 介護保険施設等における職場体験事業
4. 離職者の介護雇用プログラム
5. 上記の施策は活用していない

◆区に対する要望について

問21 介護サービス事業を展開する上で、江戸川区にさらに充実・支援してほしいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 介護保険制度に関する最新・適切な情報の提供
2. 介護保険制度に関するQ&Aシステムや情報交換の場の整備
3. 江戸川区の保健福祉施策・サービスに関する情報の提供
4. 他の介護保険事業者に関する情報の提供
5. 区のホームページなどを活用した、事業所に関する広報やPRに対する支援
6. 事業者間の連携強化のための支援
7. サービス提供者の質の向上のための研修の実施
8. ヘルパーなどサービス提供者養成の推進・支援
9. サービス提供者のための相談支援体制の整備
10. 支援困難者への対応や支援
11. サービス利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み
12. その他 ()
13. 特にない

問22 事業者の視点からみて、江戸川区の熟年者施策で、今後力を入れていくべきと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康増進事業
2. 介護予防のための事業
3. 熟年者の就労や社会参加の支援
4. 配食や買い物、ごみ出し等の生活支援
5. 在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実
6. 介護保険や区の在宅介護サービス
7. 地域密着型サービス
8. 介護を受けられる入所施設の整備
9. 認知症の方への支援
10. 定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい
11. 介護する家族に対する支援
12. 介護保険制度や区の熟年施策に関する情報提供
13. 申請や相談がしやすい窓口の整備
14. 判断能力が低下した場合の支援や熟年者の人権擁護
15. 介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備
16. 段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり
17. その他 ()
18. 特にない

●居宅介護支援事業を提供している事業所(問3①で1に○)の方

→問23～問24(11～12ページ)へ

●居宅サービス・地域密着型サービスを提供している事業所(問3①で2～10・12～17に○)の方

→問25～問28(13～14ページ)へ

●施設サービス・特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護を提供している事業所

(問3①で11・18～22に○)の方

→問29～問31(15～16ページ)へ



居宅介護支援事業を提供している事業所の方にかがいます

問23 江戸川区で連絡調整や連携が上手くいくと業務が円滑に進むと感じる事業者や関連機関等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

《サービス事業者》

1. 訪問介護事業者
2. 訪問入浴介護事業者
3. 訪問看護事業者
4. 訪問リハビリテーション事業者
5. 居宅療養管理指導事業者
6. 通所介護事業者
7. 通所リハビリテーション事業者
8. 短期入所生活介護事業者
9. 短期入所療養介護事業者
10. 特定施設入居者生活介護事業者
11. 福祉用具貸与、特定福祉用具販売事業者
12. 住宅改修事業者
13. 夜間対応型訪問介護事業者
14. 認知症対応型通所介護事業者
15. 小規模多機能型居宅介護事業者
16. 認知症対応型共同生活介護事業者
17. 地域密着型特定施設入居者生活介護事業者
18. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業者
19. 介護老人福祉施設事業者
20. 介護老人保健施設事業者
21. 介護療養型医療施設事業者

《サービス事業者以外》

22. 保健所・健康サポートセンター
23. 介護相談室
24. 地域包括支援センター
25. かかりつけ医・かかりつけ歯科医
26. 利用者の家族
27. その他
()
28. 特にない

問24 貴事業所では、より質の高いサービス提供を行うために、今後、どのような取り組みに力を入れる必要があると考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 従業員のケアマネジメント技術の向上
2. 従業員のマナーやコミュニケーション技術の向上
3. ひとり暮らしでキーパーソンがいない利用者への支援・対応
4. 認知症の利用者への支援・対応
5. 医療依存度の高い利用者への支援・対応
6. 介護度の重度化への対応(看取り等)
7. 居宅介護支援事業者間の連携
8. 居宅サービス事業者との連携
9. 施設・居住系サービス事業者との連携
10. 医療機関との連携
11. 区や地域包括支援センターとの連携
12. 医療機関との情報共有化
13. その他 ()
14. 特にない

次の質問におすすみください

- 居宅サービス・地域密着型サービスを提供している事業所(問3①で2～10・12～17に○)の方
→問25～問28(13～14ページ)へ
- 施設サービス・特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護を提供している事業所
(問3①で11・18～22に○)の方
→問29～問31(15～16ページ)へ

上記のいずれも実施していない場合は、16ページの自由回答におすすみください

**居宅サービス・地域密着型サービスを提供している事業所の方にうかがいます
(特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護を除く)**

問25 居宅介護支援事業者のケアマネジメントの対応で、問題と感ずることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 連絡がとりにくい
2. ケアカンファレンスが不十分
3. ケアプランの課題の分析(アセスメント)が不十分
4. 利用者への訪問・連絡が不十分
5. ケアプラン実施後の評価が不十分
6. ケアプランが利用者の状況に対応していない
7. 利用者の状態やニーズの変化に対する対応が遅い
8. 自立支援という視点に立ったケアプランとなっていない
9. 介護保険外のサービスを含めた総合的なケアプランとなっていない
10. その他 ()
11. 特になし

問26 地域包括支援センターのケアマネジメントの対応で、問題と感ずることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 連絡がとりにくい
2. ケアカンファレンスが不十分
3. ケアプランの課題の分析(アセスメント)が不十分
4. 利用者への訪問・連絡が不十分
5. ケアプラン実施後の評価が不十分
6. ケアプランが利用者の状況に対応していない
7. 利用者の状態やニーズの変化に対する対応が遅い
8. 自立支援という視点に立ったケアプランとなっていない
9. 介護保険外のサービスを含めた総合的なケアプランとなっていない
10. その他 ()
11. 特になし

問27 地域包括支援センターに対するご意見・ご要望等がありましたら、自由にご記入ください。

問28 貴事業所では、より質の高いサービス提供を行うために、今後、どのような取り組みに力を入れる必要があると考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 従業者の介護技術の向上
2. 従業者のマナーやコミュニケーション技術の向上
3. 利用者のケアの方針等に関する職員間の意識の共有化
4. ひとり暮らしでキーパーソンがいない利用者への支援・対応
5. 認知症の利用者への支援・対応
6. 医療依存度の高い利用者への支援・対応
7. 要介護度の重度化への対応(看取り等)
8. 居宅介護支援事業者との連携
9. 居宅サービス事業者間の連携
10. 施設・居住系サービス事業者との連携
11. 医療機関との連携
12. 区や地域包括支援センターとの連携
13. その他 ()
14. 特になし

●施設サービス・特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護を提供している事業所
(問3①で11・18～22に○)の方は次ページに、実施していない場合は16ページの自由回答に
おすすめください

江戸川区介護支援専門員調査

—ご記入にあたってのお願い—

◇この調査票は、NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会に調査票を送付し、協会にて宛名ラベルを貼付したうえで発送しています。

◇回答は、事業所ではなく、「介護支援専門員個人」としてご回答ください。

◇ご記入いただいた調査票は三つ折にして、同封した返信用封筒に入れ、**1月31日(月)**までにポストに投かんしてください。切手は不要です。

◇返信用封筒の裏に、差出人のご住所、お名前等を書く必要はありません。

◆基本事項について

問1 あなたの性別と平成23年1月1日現在の満年齢をお答えください。

(それぞれ1つに○)

(1) 性別	1. 男性	2. 女性		
(2) 年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代
			5. 60歳代	6. 70歳以上

問2 あなたのお勤め先等について、おうかがいします。

(1) 介護支援専門員としてのお勤め先等は、どちらですか。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 居宅介護支援事業所 | 8. 小規模多機能型居宅介護 |
| 2. 地域包括支援センター | 9. 病院・診療所 |
| 3. 特別養護老人ホーム | 10. 薬局 |
| 4. 老人保健施設 | 11. その他福祉サービス事業所 |
| 5. 介護療養型医療施設 | 12. 地方自治体 |
| 6. 有料老人ホーム・ケアハウス | 13. その他 () |
| 7. グループホーム | |

(2) 勤務地はどちらですか。(1つに○)

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 1. 江戸川区内 | 2. 都内 | 3. 都外 |
|----------|-------|-------|

(3) お勤め先の法人形態は、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 医療法人 | 5. 社団法人、財団法人 |
| 2. 社会福祉法人 | 6. 生協・農協 |
| 3. 営利法人(株式会社・有限会社等) | 7. 地方自治体 |
| 4. NPO法人 | 8. その他 () |

問3 あなたのお勤め先の事業所は、どのような介護サービス等を併設していますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 訪問介護(ホームヘルプサービス) | 14. 認知症対応型通所介護 |
| 2. 訪問入浴介護 | 15. 小規模多機能型居宅介護 |
| 3. 訪問看護 | 16. 認知症対応型共同生活介護
(グループホーム) |
| 4. 訪問リハビリテーション | 17. 地域密着型特定施設入居者生活介護 |
| 5. 居宅療養管理指導 | 18. 地域密着型介護老人福祉施設入所者
生活介護 |
| 6. 通所介護(デイサービス) | 19. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) |
| 7. 通所リハビリテーション(デイケア) | 20. 介護老人保健施設 |
| 8. 短期入所生活介護(福祉ショートステイ) | 21. 介護療養型医療施設 |
| 9. 短期入所療養介護(医療ショートステイ) | 22. 病院・診療所 |
| 10. 特定施設入居者生活介護
(有料老人ホーム・ケアハウス) | 23. 薬局 |
| 11. 福祉用具貸与、特定福祉用具販売 | 24. その他 () |
| 12. 住宅改修 | 25. 併設事業はない |
| 13. 夜間対応型訪問介護 | |

※予防を含みます。(例)訪問介護には介護予防訪問介護を含みます。

問4 あなたは、平成23年1月1日現在、介護支援専門員としての業務に従事してどのくらいの経験がありますか。転職などをしている場合、前職なども含めた合計期間でお答えください。(1つに○)

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1. 6か月未満 | 4. 2年以上3年未満 | 6. 5年以上7年未満 |
| 2. 6か月以上1年未満 | 5. 3年以上5年未満 | 7. 7年以上 |
| 3. 1年以上2年未満 | | |

問5 あなたは、主任介護支援専門員ですか。(1つに○)

「1. はい」と回答した方は、主任介護支援専門員としての経験年数をご記入ください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. はい → 主任介護支援専門員としての経験年数は () 年 |
| 2. いいえ |

問6 あなたは、介護支援専門員以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 社会福祉士 | 13. 助産師 |
| 2. 社会福祉主事 | 14. 看護師・准看護師 |
| 3. 介護福祉士 | 15. 管理栄養士・栄養士 |
| 4. 1級訪問介護員 | 16. 歯科衛生士 |
| 5. 2級訪問介護員 | 17. 理学療法士 (PT) |
| 6. 精神保健福祉士 | 18. 作業療法士 (OT) |
| 7. 福祉住環境コーディネーター | 19. 言語聴覚士 |
| 8. 福祉用具専門相談員 | 20. あん摩マッサージ指圧師 |
| 9. 医師 | 21. はり師 |
| 10. 歯科医師 | 22. きゅう師 |
| 11. 薬剤師 | 23. 柔道整復師 |
| 12. 保健師 | 24. その他 () |

問7 あなたの現在の勤務形態は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 常勤・専従 | 3. 非常勤・専従 |
| 2. 常勤・兼務 | 4. 非常勤・兼務 |

★「2. 常勤・兼務」「4. 非常勤・兼務」と回答した方におうかがいします。

→問7-1 どのような業務を兼務していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1. 相談業務 | 7. 理学療法士 (PT)・作業療法士 (OT) 業務 |
| 2. 介護業務 | 8. 柔道整復師業務 |
| 3. 医師業務 | 9. 管理業務 |
| 4. 看護師業務 | 10. 取締役業務 |
| 5. 薬剤師業務 | 11. その他 () |
| 6. 栄養士 (管理栄養士) 業務 | |

→問7-2 介護支援専門員としての業務の比率は、何%くらいですか。

介護支援専門員としての業務は、おおよそ () %くらい

◆介護支援専門員業務の状況について

問8 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターにお勤めの介護支援専門員の方(問2(1)で1か2に○)にのみ、おうかがいします。

(1) あなたが担当している利用者数は何人ですか。いない場合は、「0」を記入してください。
(それぞれ、全体と江戸川区について数値を記入)

要介護者	要支援者
全体で () 人	全体で () 人
うち、江戸川区で () 人	うち、江戸川区で () 人

(2) あなたが担当している利用者の中に、支援や対応に困難を感じている利用者は何人くらいいますか。いない場合は、「0」を記入してください。

支援や対応に困難を感じている利用者は () 人

(3) 支援や対応に困難を感じている利用者がある方におうかがいします。
それはどのようなケースですか。(あてはまるものすべてに○)

- ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース
- ひとり暮らしの認知症のケース
- 認知症の方が認知症の方を介護しているケース
- 胃ろう、経管栄養などの医療処置を受けているケース
- 精神疾患を抱えているケース
- 終末期のケース
- 虐待が疑われるケース
- 病院や施設から退院・退所したばかりのケース
- 経済的な問題を抱えているケース
- 複数の問題を抱えているケース
- その他 ()

問 16 介護保険サービス以外の江戸川区の保健福祉サービスについて、もっと充実すべきと思うサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. 紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成 | 7. 移送サービス |
| 2. 寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング | 8. ごみの戸別訪問収集 |
| 3. 訪問理美容サービス | 9. 財産・金銭の管理や各種手続きの代行 |
| 4. 徘徊高齢者探索サービス | 10. 定期的な見守りや安否確認 |
| 5. 緊急通報システム | 11. その他 () |
| 6. 配食サービス | 12. 特にない |

◆「24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス」が介護サービスとして制度化（法制化）された場合、「随時の対応」が必要なケースとして、以下のような例が想定されます。

- 例) ○ストーマのパウチが外れてしまう
○バルーンカテーテルの流れが悪い
○排泄移乗時に転倒または失禁してしまう

問 17 あなたが担当している利用者の中で、このサービスの提供がふさわしいと思われる利用者数をご記入ください。いない場合は、「0」を記入してください。

「24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス」の提供がふさわしい利用者は () 人

問 18 「24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス」の利用がふさわしい利用者のイメージがありましたら、自由にご記入ください。

問 19 あなたは、サービス提供事業所に関する情報収集は、どのように行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- サービス提供事業所のパンフレット等の収集
- サービス提供事業所のホームページを閲覧
- 地域単位の事業者情報誌等を閲覧
- WAMNET の事業者情報を閲覧
- 介護サービス情報の公表制度の事業者情報を閲覧
- 近隣にある特定の事業者に対して電話・面談等で直接問い合わせ
- サービス提供は原則同一法人内で行うため、他事業者から情報収集は行わない
- その他 ()

問 20 ケアマネジメント業務を行ううえで、どのような情報が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 介護保険制度・介護報酬等に関する情報
- 江戸川区の保健福祉サービスに関する情報
- ケアマネジメント技術に関する情報
- 認知症ケアに関する情報
- 医療処置を必要とする場合のケアに関する情報
- 支援困難事例のケアに関する情報
- 介護サービス事業所に関する情報
- 地域の医療機関に関する情報
- 定員の空き状況、空室・空床に関する情報
- 介護支援専門員を対象とする研修・講座等に関する情報
- その他 ()
- 特に必要な情報はない

問 21 ケアマネジメント業務の中で、あなたが負担に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 利用者に重要事項を説明し、理解してもらうこと
- ケアプランへの利用者や家族の要望・意向の反映
- 利用者の課題の分析（アセスメント）
- サービス担当者会議（ケアカンファレンス）の開催
- サービスの効果等を把握するモニタリングの実施
- 介護保険外サービスを含めたケアプランの作成
- 医療機関（主治医等）との連絡・調整
- サービス事業者との連絡・調整
- 給付管理等の事務
- その他 ()
- 特にない

◆質の確保等について

問 22 あなたは、この1年間に、東京都や区市町村、ケアマネジャー協会等が実施する介護支援専門員向け研修会に、どの程度参加しましたか。(1つに○)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------------|
| 1. ほとんど参加している | 3. あまり参加していない | → 次ページの
問 22-1 へ |
| 2. 半分程度は参加している | 4. 全く参加していない | |

問 22-1 介護支援専門員向け研修会に参加していないのはなぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 多忙で時間がとれないため | 5. 事業所の理解がないため |
| 2. 参加したいと思う研修がないため | 6. 参加費用を負担に感じるため |
| 3. 必要と思わないため | 7. その他 () |
| 4. 開催場所が遠いため | |

問 23 今後、どのような内容の研修を希望しますか。具体的にご記入ください。

問 24 利用者や家族からあげられる苦情の内容としては、こういったものが多くありますか。
(主なもの5つまでに○)

1. サービス利用等の手続きに関すること
2. 制度やサービスの説明に関すること
3. 利用料に関すること
4. ケアプランや個別のサービス計画に関すること
5. サービスの質や内容に関すること
6. 介護支援専門員の資質等に関すること
7. 従業者（サービス提供者）の資質等に関すること
8. 利用者の個人情報の保護に関すること
9. 介護支援専門員の言葉づかいや態度
10. 従業者（サービス提供者）の言葉づかいや態度
11. 介護保険制度そのものに関すること
12. その他 ()
13. 苦情はない

◆業務の満足度と今後の意向について

問 25 平成 23年 1月 1日現在、現在の事業所（法人）で介護支援専門員として在籍している期間はどのくらいですか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1. 6か月未満 | 4. 2年以上3年未満 | 6. 5年以上7年未満 |
| 2. 6か月以上1年未満 | 5. 3年以上5年未満 | 7. 7年以上 |
| 3. 1年以上2年未満 | | |

問 26 現在の自分の業務内容（介護支援専門員業務及び兼任業務を含む）に対する満足度はいかがですか。（1つに○）

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 大いに満足 | 3. どちらとも言えない | 4. 不満 |
| 2. 満足 | | 5. 大いに不満 |

問 27 現在所属している事業所に対する満足度はいかがですか。（1つに○）

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 大いに満足 | 3. どちらとも言えない | 4. 不満 |
| 2. 満足 | | 5. 大いに不満 |

問 28 ケアマネジメント業務を行う中で、あなたはストレスを感じていますか。
(1つに○)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 強く感じている | 3. あまり感じない |
| 2. 少し感じている | 4. 全く感じない |

★「1. 強く感じている」「2. 少し感じている」方におうかがいします。

▶ 問 28-1 どのようなことにストレスを感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 介護支援専門員としての業務全般
2. 事務処理や給付管理業務に追われ、利用者や家族と接することがなかなかできない
3. 1件あたりのケアプラン作成に十分な時間をかけられない
4. 雑用が多すぎる
5. 労働時間（拘束時間）が長い
6. 業務に見合うだけの報酬が得られない
7. 所属事業所の法令遵守に対する意識が低い
8. 介護支援専門員の社会的な評価が低い
9. 業務の責任に伴う負担
10. 事業所内の人間関係
11. 利用者や家族との人間関係
12. 他事業者との人間関係
13. 都・区など指導監督的な立場からの指摘が多い
14. 相談相手がいない
15. その他 ()

問 29 あなたは現在、転職を考えていますか。(1つに○)

1. 介護支援専門員として、他の事業所に転職したい
2. 保健医療福祉の職に転職したい
3. その他の職に転職したい
4. 転職は考えていない
5. その他 ()

問 30 あなたは今後も介護支援専門員として働いていきたいと思えますか。(1つに○)

1. 働きたい
2. 独立して働きたい
3. どちらかと言えば働きたい
4. どちらかと言えば働きたくない
5. 働きたくない
6. わからない

◆今後の区の施策等について

問 31 介護支援専門員として、利用者が在宅生活を続けていくために必要だと考えていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住み続けられる住まいがある
2. 家族が同居している、または近くにいる
3. 見守ってくれる友人、知人が近くにいる
4. 訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある
5. 必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サービスがある
6. 24時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある
7. 身近に利用できる医療機関がある
8. いつでも利用(入所)できる施設が近くにある
9. その他 ()
10. わからない
11. 特にない

問 32 介護支援専門員として、江戸川区に支援・充実してほしいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 介護保険制度に関する最新・最適な情報の提供
2. 介護保険制度に関するQ&Aシステムや情報交換の場の構築
3. 江戸川区の保健福祉施策・サービスに関する情報の提供
4. 他の介護保険事業に関する情報の提供
5. 区のホームページなどを活用した、事業所に関する情報提供
6. 事業者間の連携強化のための支援
7. 介護支援専門員の質の向上のための研修の実施
8. 介護支援専門員養成の推進・支援
9. 介護支援専門員のための相談窓口の設置
10. 困難事例への対応
11. サービス利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み
12. 介護保険外のサービス体制の充実
13. その他 ()
14. 特にない

最後に、江戸川区が熟年者の保健福祉施策や介護保険事業を推進していくにあたり、ご意見等がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

返信用封筒に入れて、1月31日(月)までに、ポストに投かんしてください。

江戸川区介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画
改定のための基礎調査報告書

平成23年(2011年)4月

編集・発行 江戸川区福祉部
〒132-8501 東京都江戸川区中央一丁目4番1号
電話 03(3652)1151(代表)

集計・分析 株式会社コモン計画研究所
〒166-0015 東京都杉並区成田東五丁目35番15号
THE PLAZA-F 2階
電話 03(3220)5415
